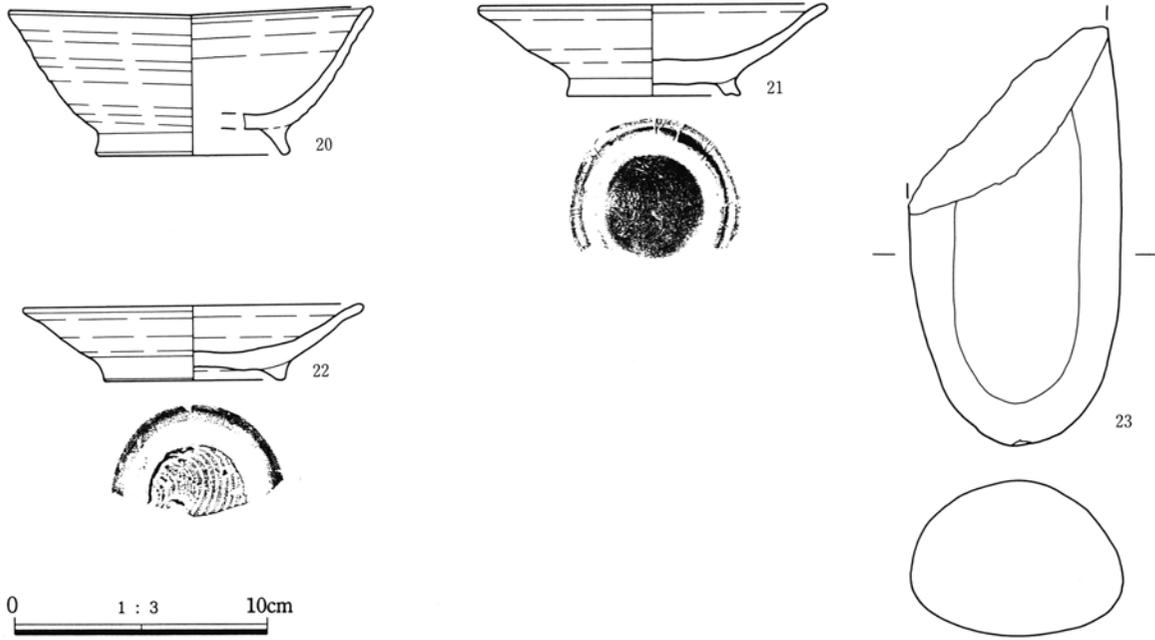
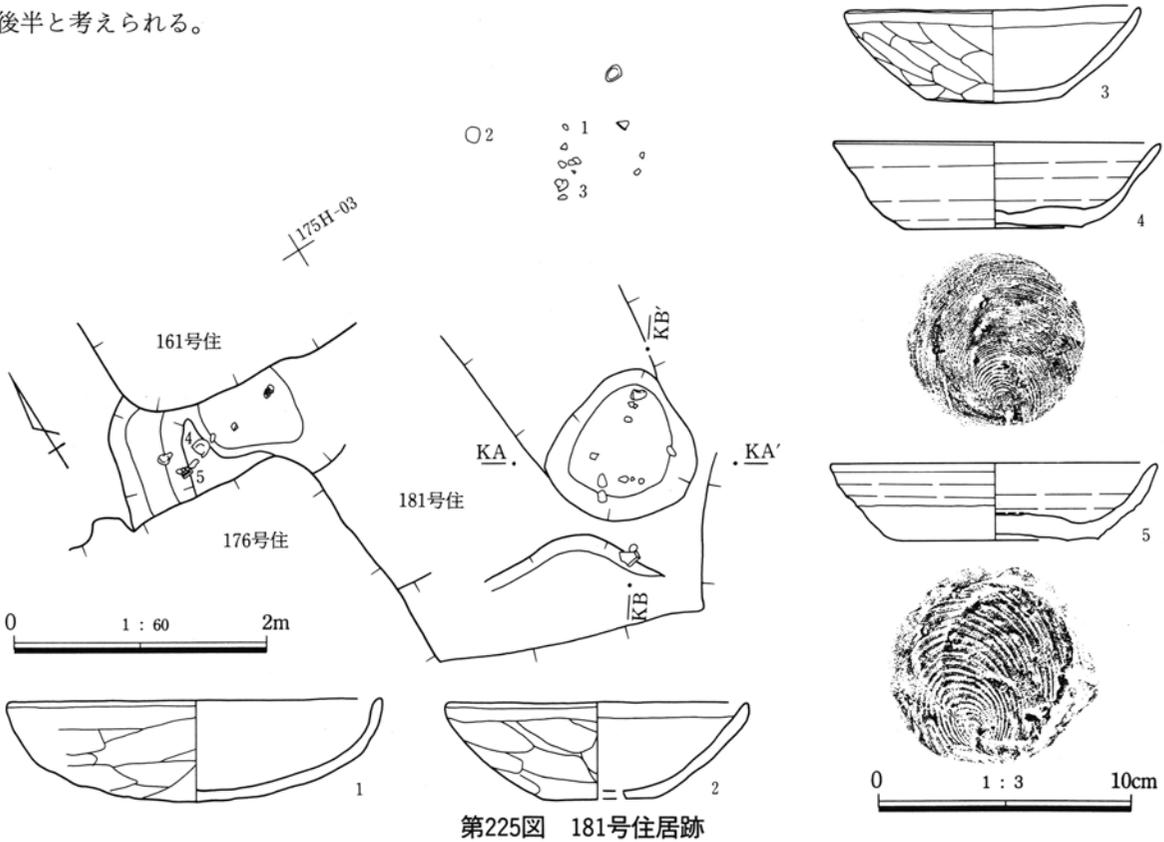


第223図 178号住居跡

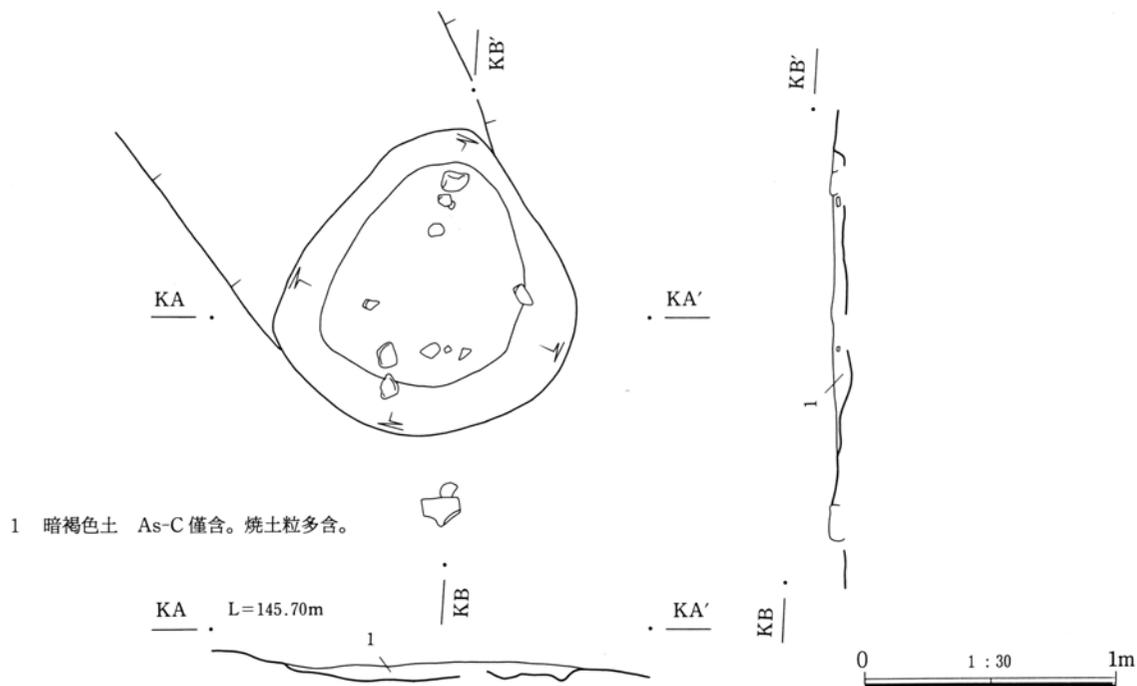


第224図 178号住居跡

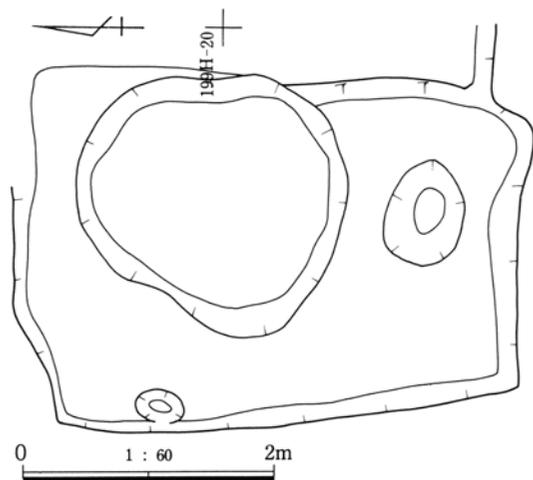
181号竪穴住居跡（第225・226図、写真図版80・81・147） 174H-01グリッドに位置し、重複関係では161号竪穴住居跡、173号竪穴住居跡、176号竪穴住居跡に壊されており、平面形態は不明である。残存する壁高は僅かで、緩やかに立ち上がる。明確な壁溝、貯蔵穴、柱穴は検出されていない。遺物は土師器や須恵器の坏などが出土している。カマドは痕跡が東壁と考えられる部分に位置し、住居の廃棄時期は遺物から8世紀後半と考えられる。



第225図 181号住居跡



第226図 181号住居跡

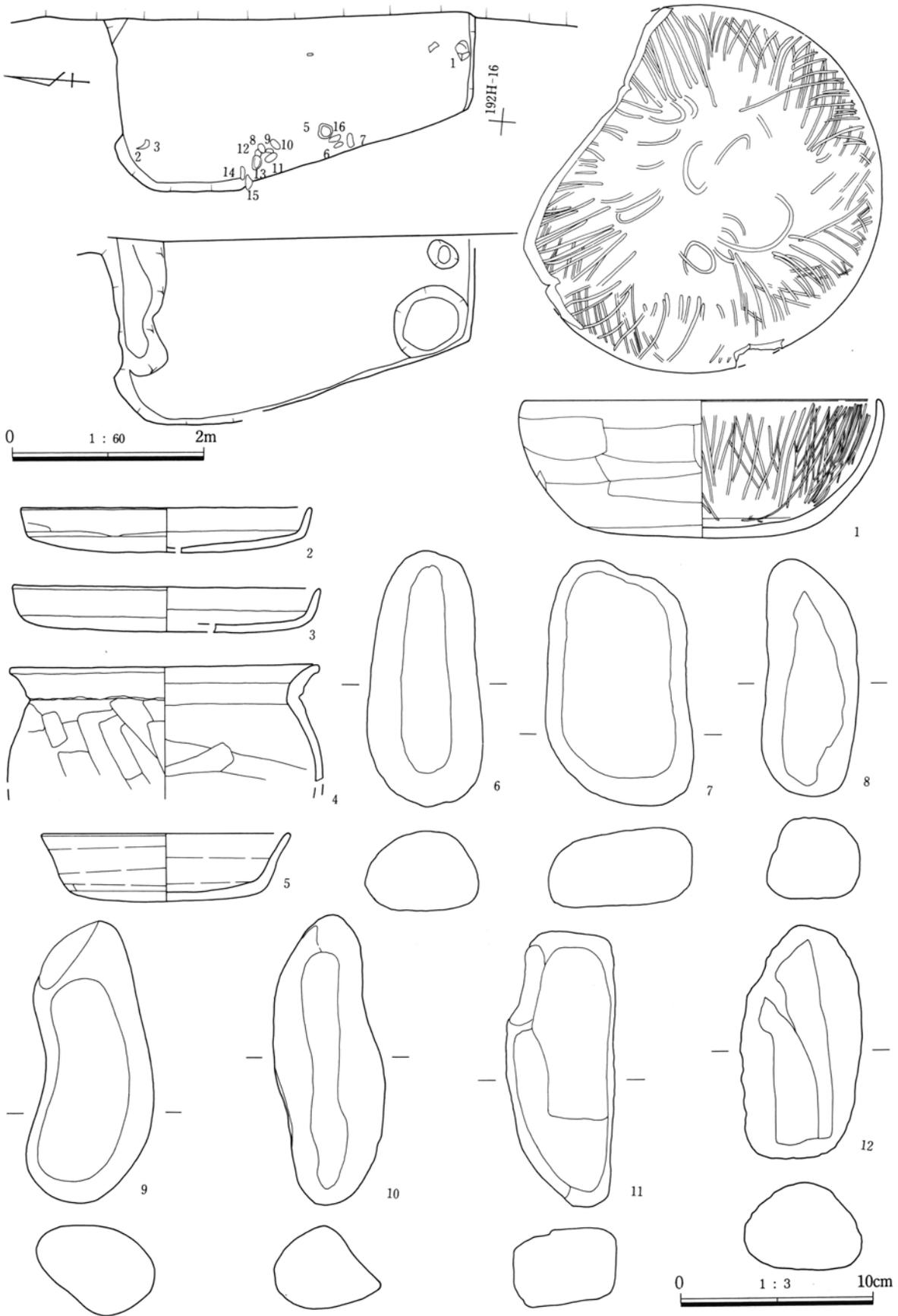


第227図 182号住居跡

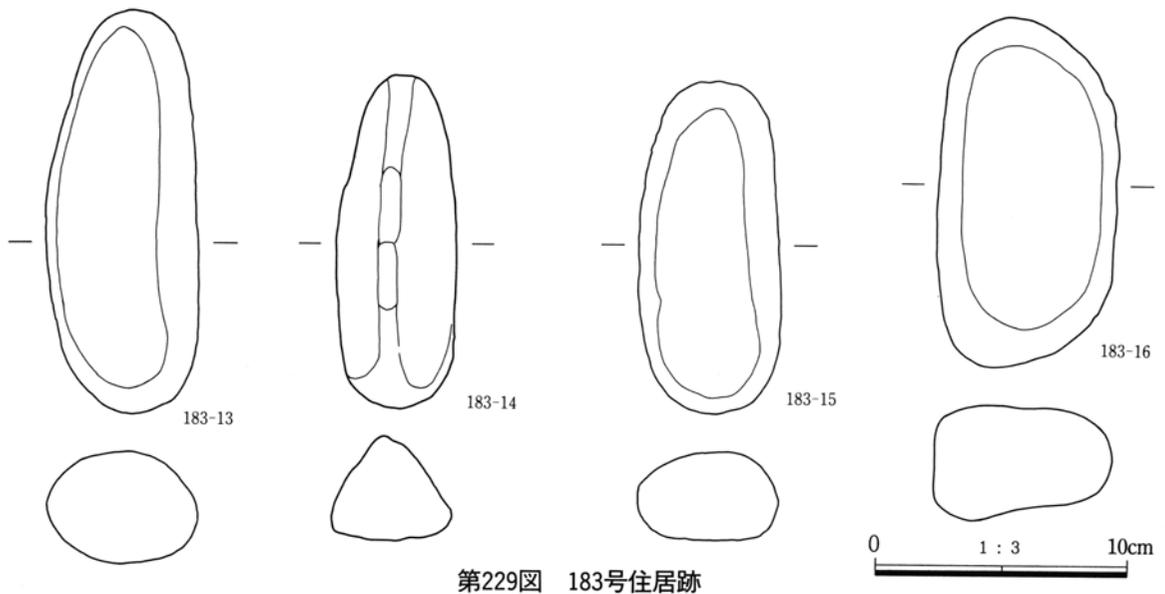
182号竪穴住居跡（第227図、写真図版81） 199H-20
 グリッドに位置し、重複関係は88号竪穴住居跡に壊されて
 いる。平面形態は長方形である。床面は平坦である。
 残存する壁高は約15cmで、緩やかに立ち上がる。床下土
 坑やピットが検出されているが、明確な壁溝、貯蔵穴、
 柱穴は検出されていない。器形や時期の判断できる遺物
 はほとんど無い。カマドは東壁に位置していたために、
 88号竪穴住居跡に壊されたと考えられる。住居の廃棄時
 期は新旧関係から8世紀後半以前と考えられる。

183号竪穴住居跡（第228・229図、写真図版81・147） 192H-17グリッドに位置し、東側半分が19号溝に
 壊されているために、重複関係や平面形態は不明である。確認面が浅く、残存する壁高は僅かで、緩やかに
 立ち上がる。床下土坑やピットが検出されているが、明確な壁溝、貯蔵穴、柱穴は検出されていない。遺物
 は土師器の坏や甕、須恵器の坏、こも編み石などが北西隅から西壁際部分に集中して出土している。特に、
 こも編み石は11点と数が多く、集中して出土している。カマドはおそらくは東壁に位置していたものと考え
 られる。住居の廃棄時期は8世紀前半と考えられる。

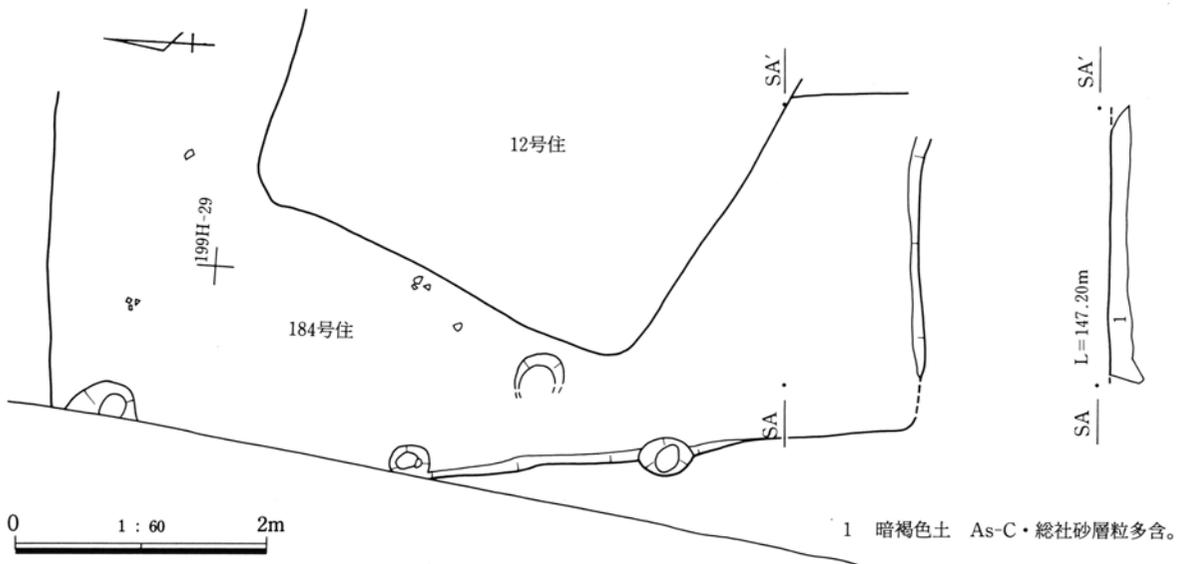
184号竪穴住居跡（第230図、写真図版82） 199H-28グリッドに位置し、重複関係は東壁部分を10号竪穴
 住居跡と12号竪穴住居跡、14号竪穴住居跡に壊されている。平面形態は長方形と考えられる。床面は平坦で
 ある。確認面が浅く、残存する壁高は僅かで、緩やかに立ち上がる。北壁から西壁にかけていくつかのピッ



第228図 183号住居跡



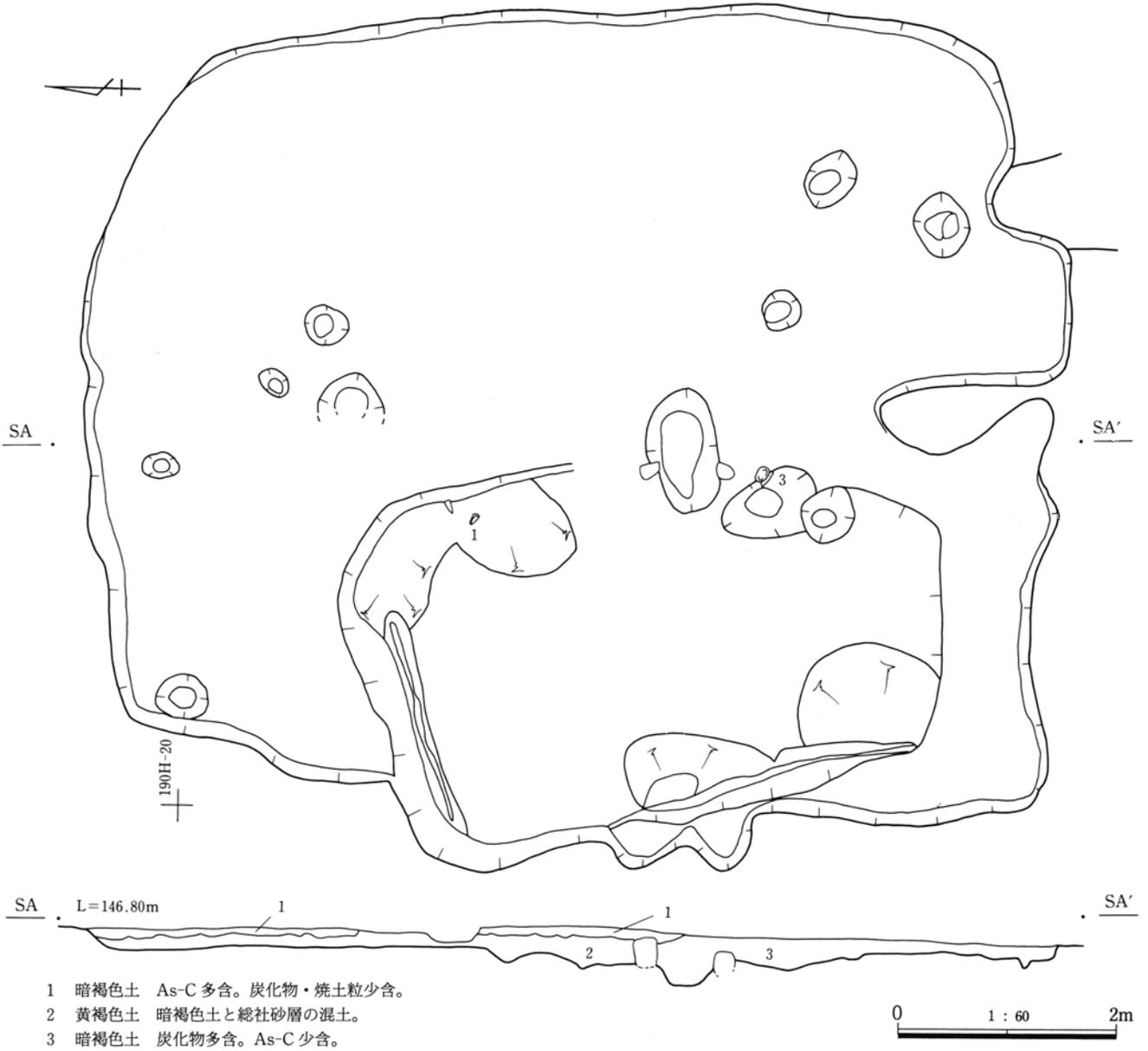
第229図 183号住居跡



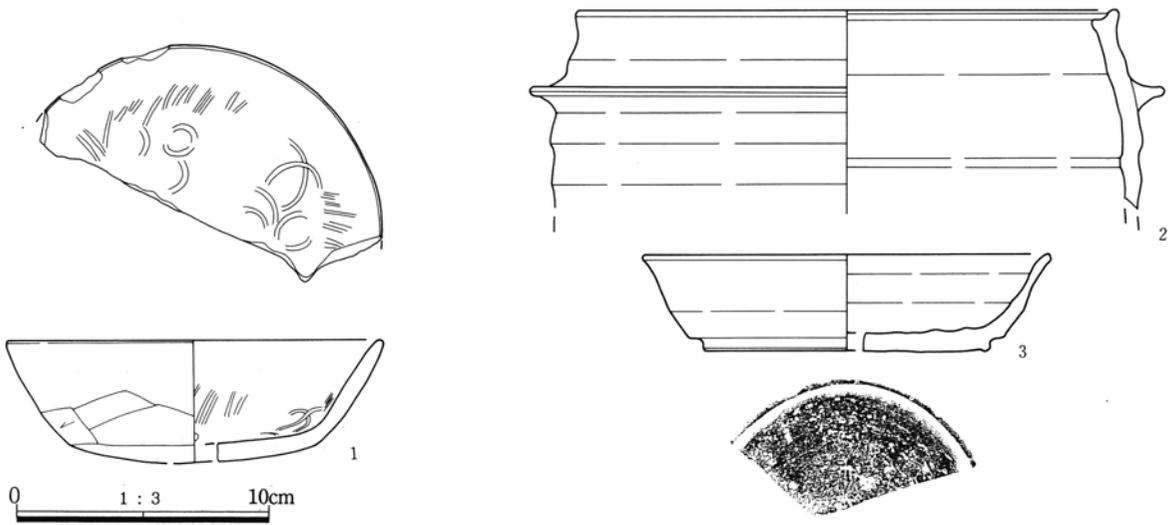
第230図 184号住居跡

トが検出されているが、明確な壁溝、貯蔵穴、柱穴は検出されていない。器形や時期の判断できる遺物はほとんど無い。カマドはおそらくは東壁に位置していたものと考えられる。住居の廃棄時期は新旧関係から10世紀前半以前と考えられる。

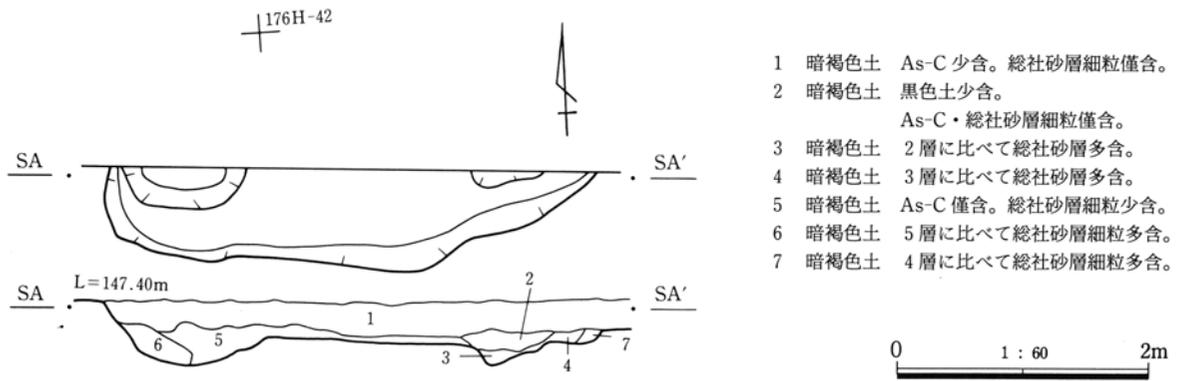
185号竪穴住居跡（第231図、写真図版82・148） 189H-17グリッドに位置し、重複関係では数軒の竪穴住居跡の集合である。平面形態はそれぞれ長方形である。確認面が浅く、床面までの調査が既に終了していたために、掘り方のみが残存し、明確な壁溝、貯蔵穴、柱穴が検出されている。遺物は掘り方から土師器の坏、須恵器の椀、羽釜などが出土している。カマドは東壁に位置し、住居の廃棄時期は遺物から8世紀中葉から10世紀前半にかけての数軒の竪穴住居跡の掘り方と考えられる。



- 1 暗褐色土 As-C多含。炭化物・焼土粒少含。
- 2 黄褐色土 暗褐色土と総社砂層の混土。
- 3 暗褐色土 炭化物多含。As-C少含。

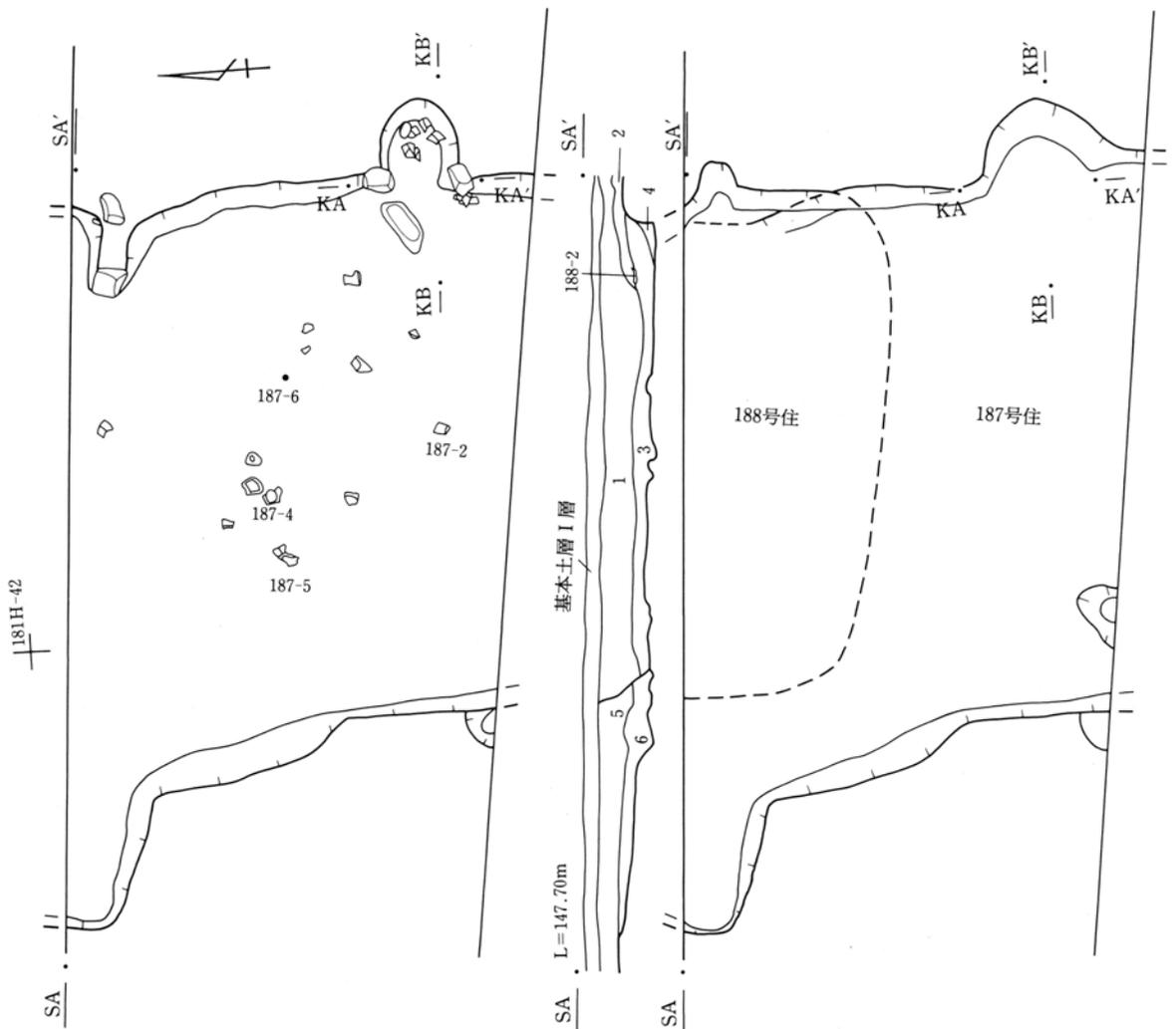


第231図 185号住居跡



- 1 暗褐色土 As-C 少含。総社砂層細粒僅含。
- 2 暗褐色土 黒色土少含。
As-C・総社砂層細粒僅含。
- 3 暗褐色土 2層に比べて総社砂層多含。
- 4 暗褐色土 3層に比べて総社砂層多含。
- 5 暗褐色土 As-C 僅含。総社砂層細粒少含。
- 6 暗褐色土 5層に比べて総社砂層細粒多含。
- 7 暗褐色土 4層に比べて総社砂層細粒多含。

第232図 186号住居跡



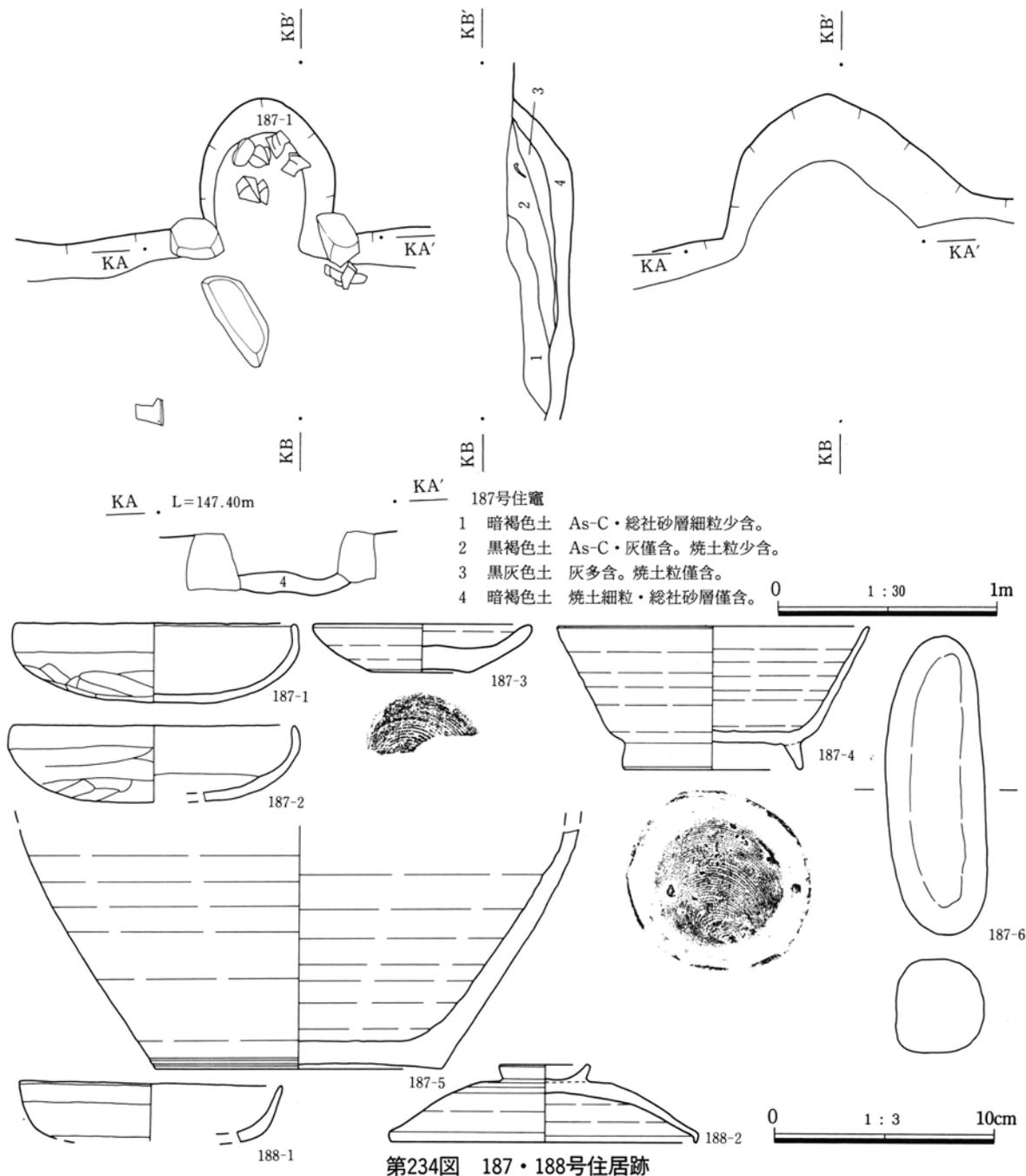
188号住居

- 1 暗褐色土 As-C 少含。総社砂層ブロック僅含。
- 2 黒褐色土 黒色灰少含。総社砂層ブロック僅含。
- 3 黒褐色土 黒色灰多含。総社砂層ブロック少含。
- 4 暗褐色土 黒色灰僅含。総社砂層細粒少含。

187号住居

- 5 暗褐色土 As-C 少含。総社砂層ブロック僅含。
- 6 暗褐色土 As-C 僅含。総社砂層ブロック少含。

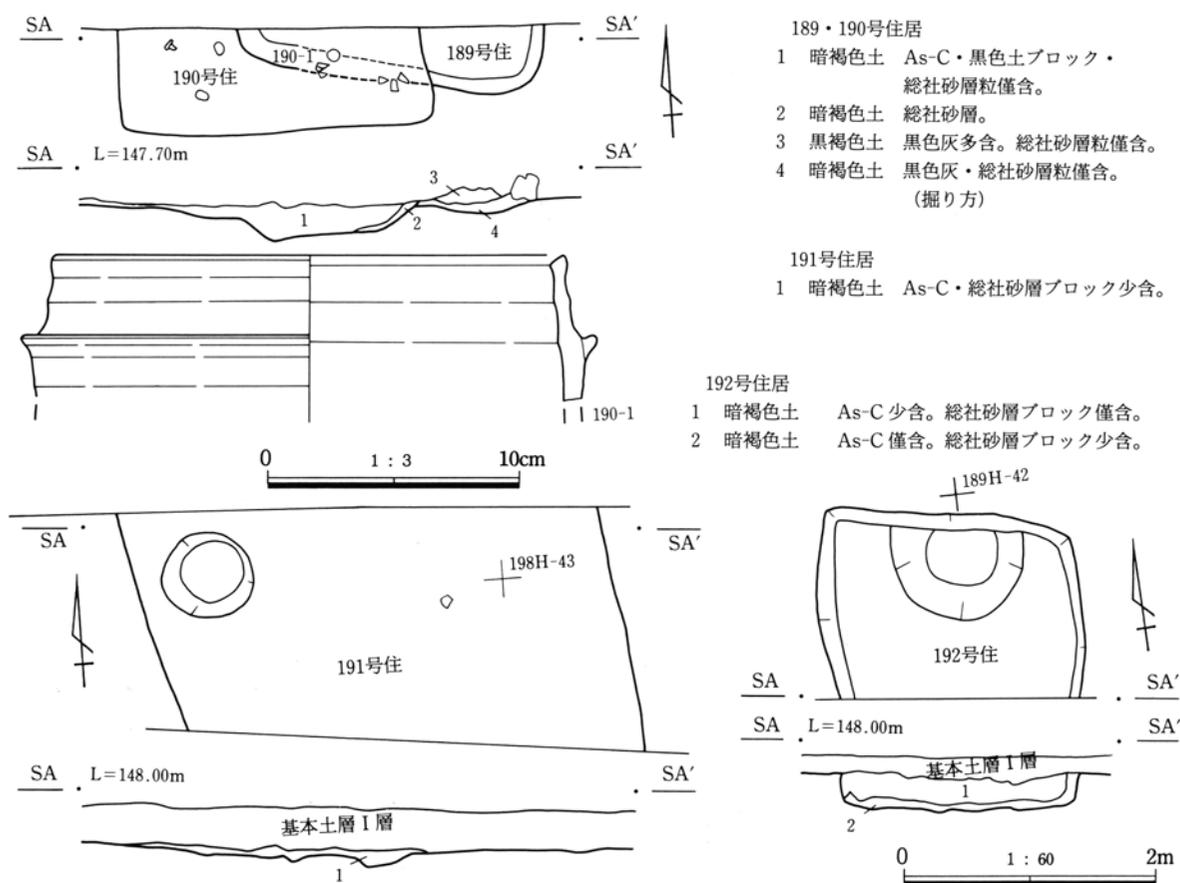
第233図 187・188号住居跡



186号竪穴住居跡（第232図、写真図版82） 176H-41グリッドに位置し、南壁部分が検出されているだけで、大部分は調査区域外に延びるために、重複関係や平面形態は不明である。床面は平坦である。確認面が浅く、残存する壁高は約10cmで、緩やかに立ち上がる。明確な壁溝、貯蔵穴、柱穴は検出されていない。器形や時期の判断できる遺物はほとんど無い。カマドの位置は不明である。住居の廃棄時期は不明である。

187号竪穴住居跡・188号竪穴住居跡（第233・234図、写真図版82・83・148） 180H-41グリッドに位置し、南北両側が調査区域外に延びるものの、重複関係は187号竪穴住居跡の方が古く、188号竪穴住居跡が新しい。平面形態はおそらく共に長方形である。床面は堅く平坦である。残存する壁高は187号竪穴住居跡が約5cmで、緩やかに立ち上がるのに対して、188号竪穴住居跡は約20cmで、垂直気味に立ち上がる。明確な壁溝、貯

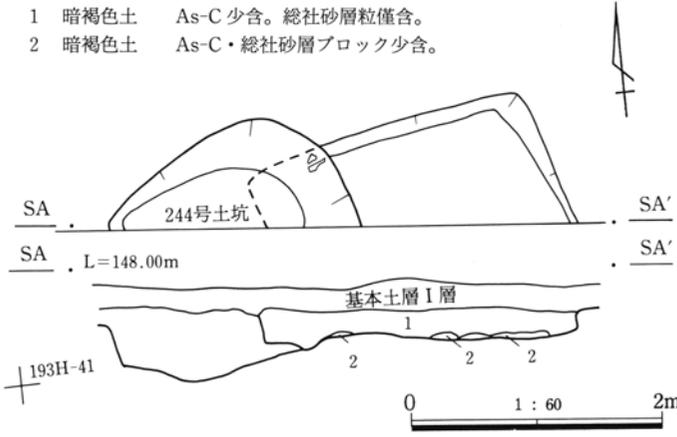
第3章 検出された遺構・遺物



蔵穴、柱穴は検出されていない。遺物は土師器の坏、須恵器の坏や椀、甕、蓋などが出土している。187号竪穴住居跡のカマドは東壁の中央からやや南寄りに位置し、両袖に石を構築材として利用している。188号竪穴住居跡のカマドは東壁の南東隅に位置する。両袖に石を構築材として利用している。住居の廃棄時期は遺物から187号竪穴住居跡が8世紀後半、188号竪穴住居跡が9世紀前半と考えられる。

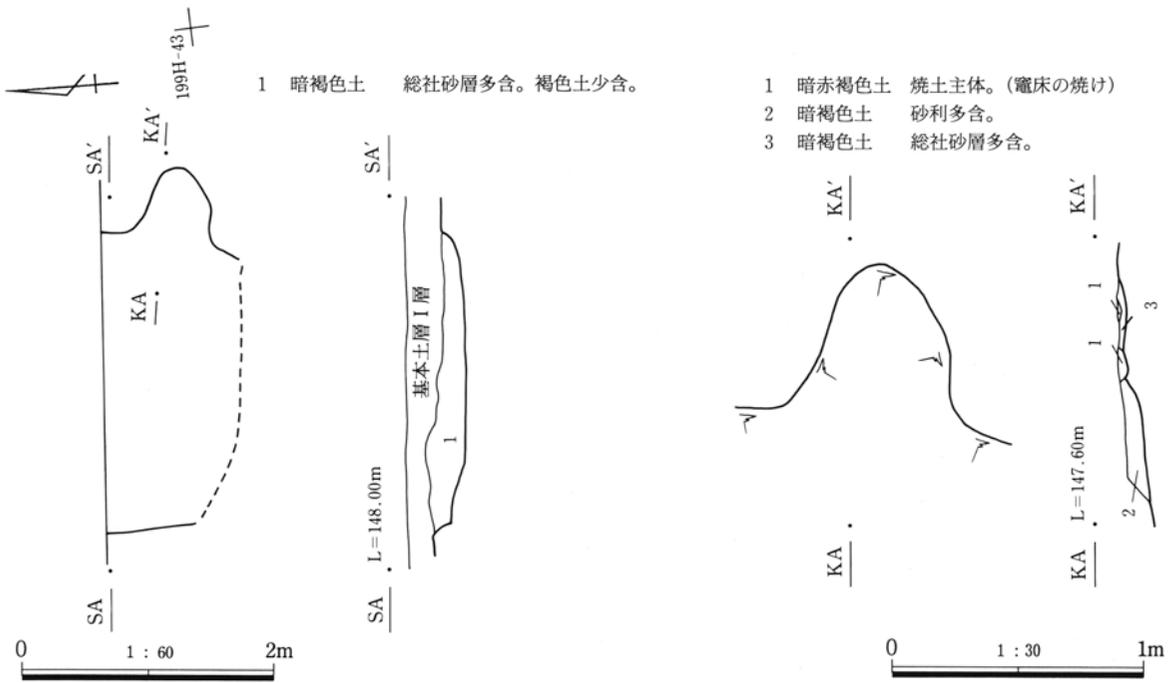
189号竪穴住居跡・190号竪穴住居跡（第235図、写真図版83・148） 185H-42グリッドに位置し、南壁部分だけが検出され、大部分は調査区域外に延びるために、平面形態は不明である。重複関係は189号竪穴住居跡の方が古く、190号竪穴住居跡が新しい。確認面が浅いために、床面はほとんどが削平されている。明確な壁溝、貯蔵穴、柱穴は検出されていない。遺物は須恵器の羽釜などが出土している。両住居共にカマドの位置は不明である。住居の廃棄時期は遺物から190号竪穴住居跡が10世紀前半、189号竪穴住居跡がそれ以前と考えられる。

191号竪穴住居跡（第235図） 198H-42グリッドに位置し、南北両側が調査区域外に延びるために、重複関係や平面形態は不明である。確認面が浅いために、床面のほとんどは削平されている。大型の土坑が検出されているが、明確な壁溝、貯蔵穴、柱穴は検出されていない。器形や時期の判断できる遺物はほとんど無い。カマドの位置は不明である。住居の廃棄時期は不明である。



第236図 193号住居跡

193号竪穴住居跡(第236図、写真図版83) 191H-41グリッドに位置し、重複関係は244号土坑よりも新しい。平面形態は不明である。床面は堅く平坦である。残存する壁高は約25cmで、直立気味に立ち上がる。明確な壁溝、貯蔵穴、柱穴は検出されていない。器形や時期の判断できる遺物もほとんど無い。カマドの位置は不明である。住居の廃棄時期は不明である。



第237図 194号住居跡

192号竪穴住居跡(第235図、写真図版83) 189H-41グリッドに位置し、南側半分が調査区域粗とに延びるために、重複関係や平面形態は不明である。床面はほぼ平坦である。残存する壁高は約☆cmで、緩やかに立ち上がる。明確な壁溝、貯蔵穴、柱穴は検出されていない。器形や時期の判断できる遺物はほとんど無い。カマドの位置は不明である。住居の廃棄時期は不明である。

194号竪穴住居跡(第237図、写真図版84) 200H-43グリッドに位置し、北側半分が調査地域外に延びるため、重複関係や平面形態は不明である。確認面が浅いために、南壁が不明確であるが、地山を掘り込んだだけの床面は平坦である。残存する壁高は約10cmで、緩やかに立ち上がる。明確な壁溝、貯蔵穴、柱穴は検出されていない。器形や時期の判断できる遺物はほとんど無い。カマドは東壁の南東隅に位置し、住居の廃棄時期は住居形態から10世紀ころと考えられる。

第3章 検出された遺構・遺物

1号掘立柱建物跡（第238図、写真84）

2区に位置し、規模は桁行2間（約4.7m）、梁行1間（約3.6m）で、床面積は推定で約17㎡である。柱間寸法は、桁行で約7尺、梁行で約8尺である。柱穴の形態は円形から楕円形で、規模は直径約80～100cm、深さ約20cmである。

本遺跡で確認された掘立柱建物跡は前記したように8棟であるが、その大部分はこの1号掘立柱建物跡のように全体や柱穴などの規模が小さく、柱間寸法も本来の掘立柱建物跡よりもやや大きめであったり不揃いであるために、あるいは掘立柱建物跡でない可能性もあるが、発掘調査時の所見を優先することとした。

また、土坑とした遺構の中には、周辺の様子から掘立柱建物跡の可能性も想定されるものもあるが、これも発掘調査時の所見を優先することとした。

2号掘立柱建物跡（第238239図、写真84・148）

2区に位置し、規模は桁行1間（約4.0m）、梁行1間（約4.0m）で、床面積は推定で約16㎡である。柱間寸法は、桁行で約10尺、梁行で約10尺である。柱穴の形態は円形から楕円形で、規模は直径約80～100cm、深さ約50cmである。

3号掘立柱建物跡（第240図、写真84・85）

2区に位置し、南側部分が調査区域外に延びるために、その規模は桁行、梁行共に不明である。柱穴の形態は円形から楕円形で、規模は直径約90cm、深さ約70cmである。

4号掘立柱建物跡（第241図、写真85・86・148）

2区に位置し、重複関係では86号竪穴住居跡、92号竪穴住居跡、93号竪穴住居跡、94号竪穴住居跡、それに中世の溝である19号溝と21号溝に壊されていることから、最も古い段階である92号竪穴住居跡の9世紀前半よりも以前の時期と考えられる。規模は桁行5間（約13.5m）、梁行2間（約7.0m）で、床面積は推定で約95㎡である。柱間寸法は、桁行で約7～8尺、梁行で約9～10尺である。柱穴の形態は円形から楕円形で、規模は直径約90cm、深さ約70cmである。

本遺跡で本当に掘立柱建物跡と呼べる唯一の遺構であり、存続時期が9世紀前半以前と考えられる年代からも、おそらくは下東西遺跡の奈良時代の遺構と同様に、南側に近接する本遺跡で最も古い8世紀後半の89号竪穴住居跡、あるいは90号竪穴住居跡に関連する遺構の可能性が高いと考えられる。

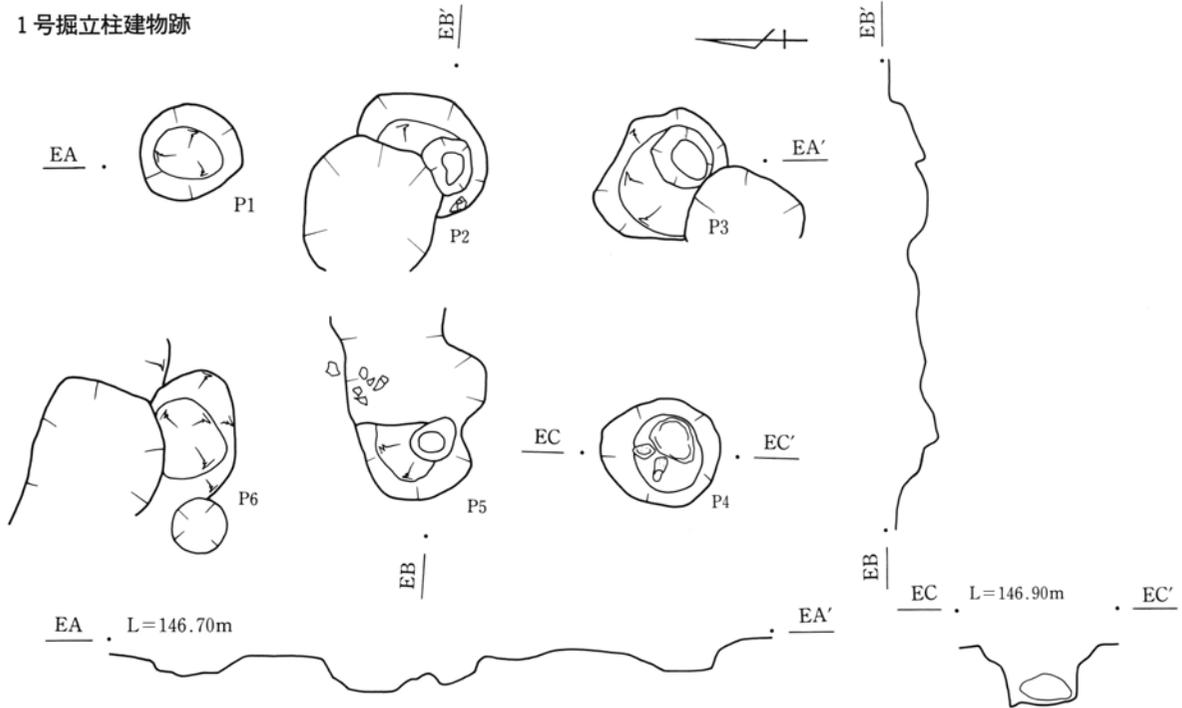
5号掘立柱建物跡（第242図、写真86・87）

2区に位置し、規模は桁行2間（約5.4m）、梁行2間（約5.0m）で、床面積は推定で約27㎡である。柱間寸法は、桁行で約6～7尺、梁行で約6～7尺である。柱穴の形態は円形から楕円形で、規模は直径約100cm、深さ約40cmである。4号掘立柱建物跡ほどではないものの、比較的しっかりとした遺構である。

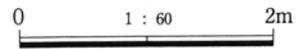
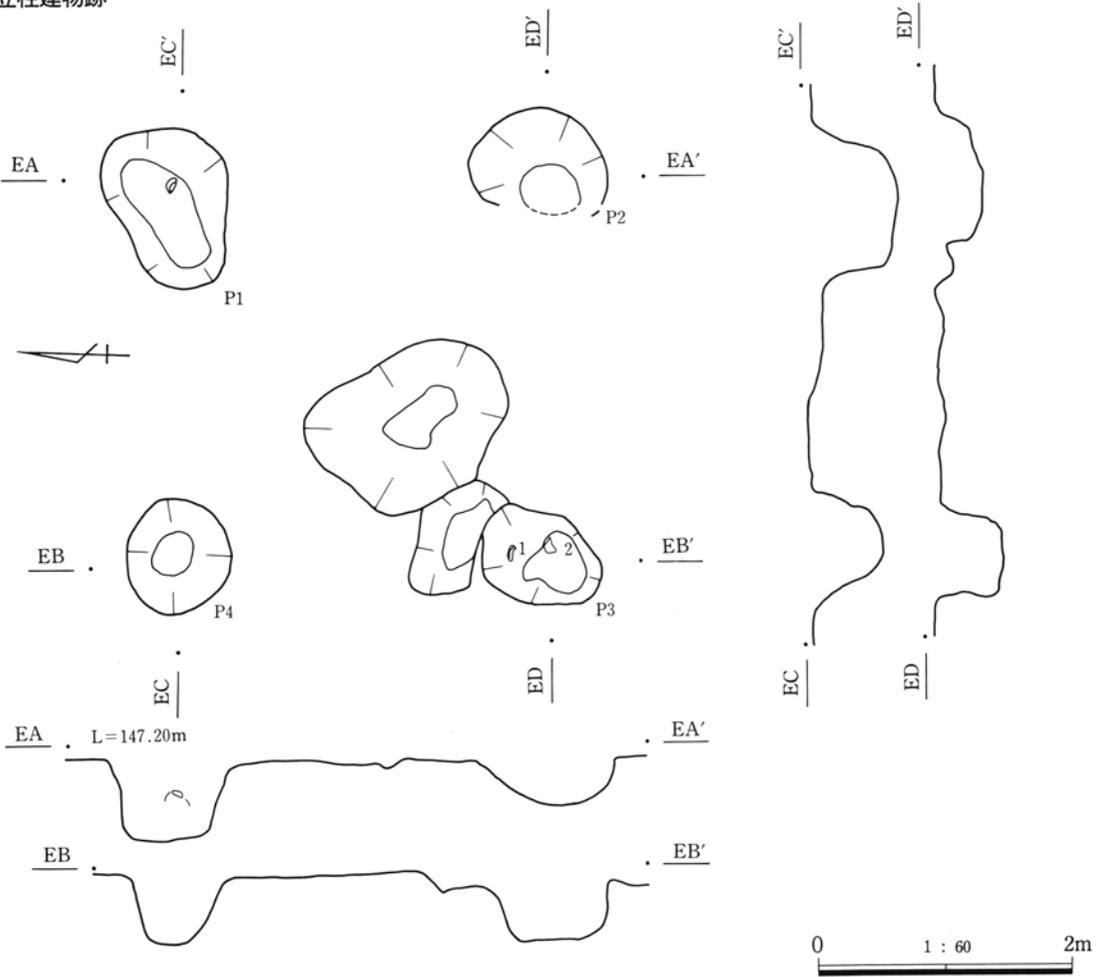
6号掘立柱建物跡（第243図、写真86～88・148）

2区に位置し、規模は桁行3間（約8.9m）、梁行2間（約5.7m）で、床面積は推定で約50㎡である。柱間寸法は、桁行で約8尺、梁行で約7尺である。柱穴の形態は円形から楕円形で、規模は直径100cm、深さ60cmである。4号掘立柱建物跡ほどではないものの、比較的しっかりとした遺構である。

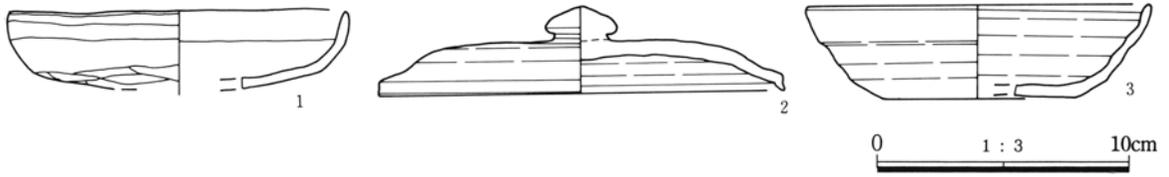
1号掘立柱建物跡



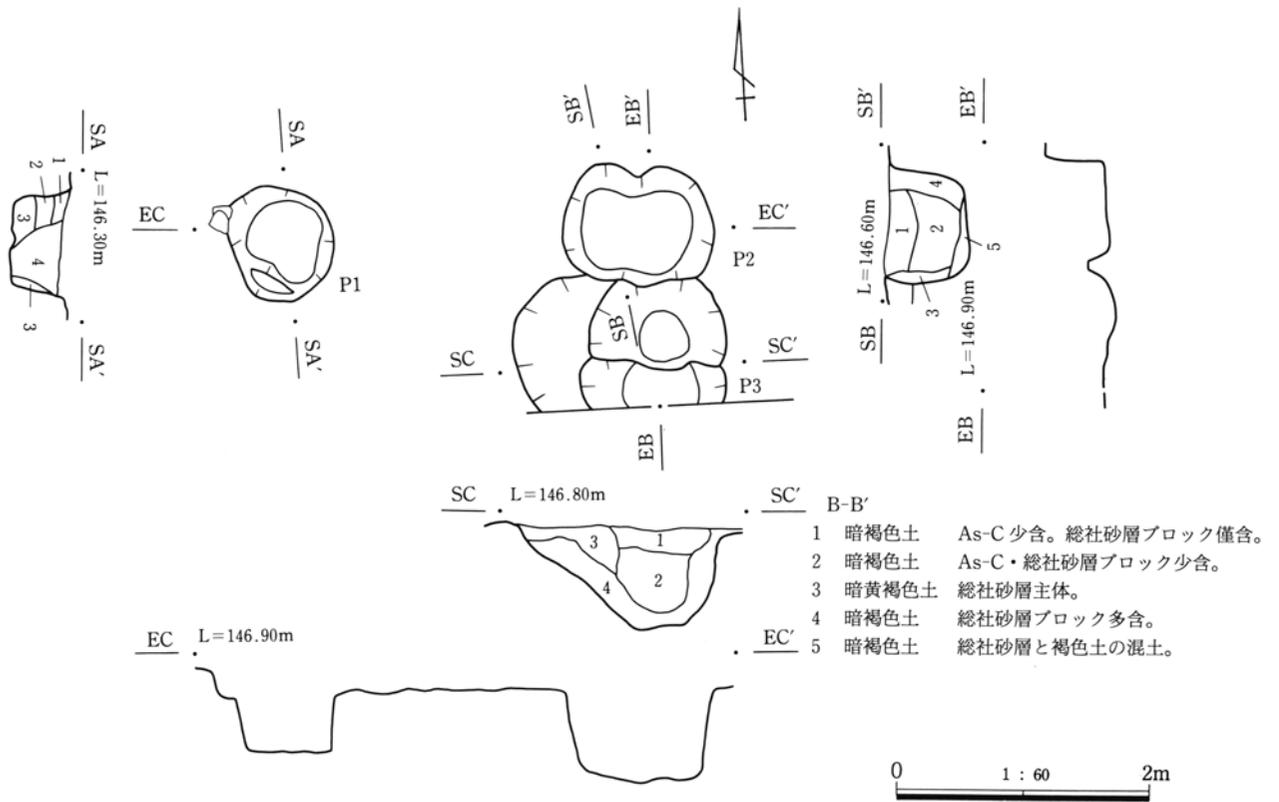
2号掘立柱建物跡



第238図 1、2号掘立柱建物跡



第239図 2号掘立柱建物跡



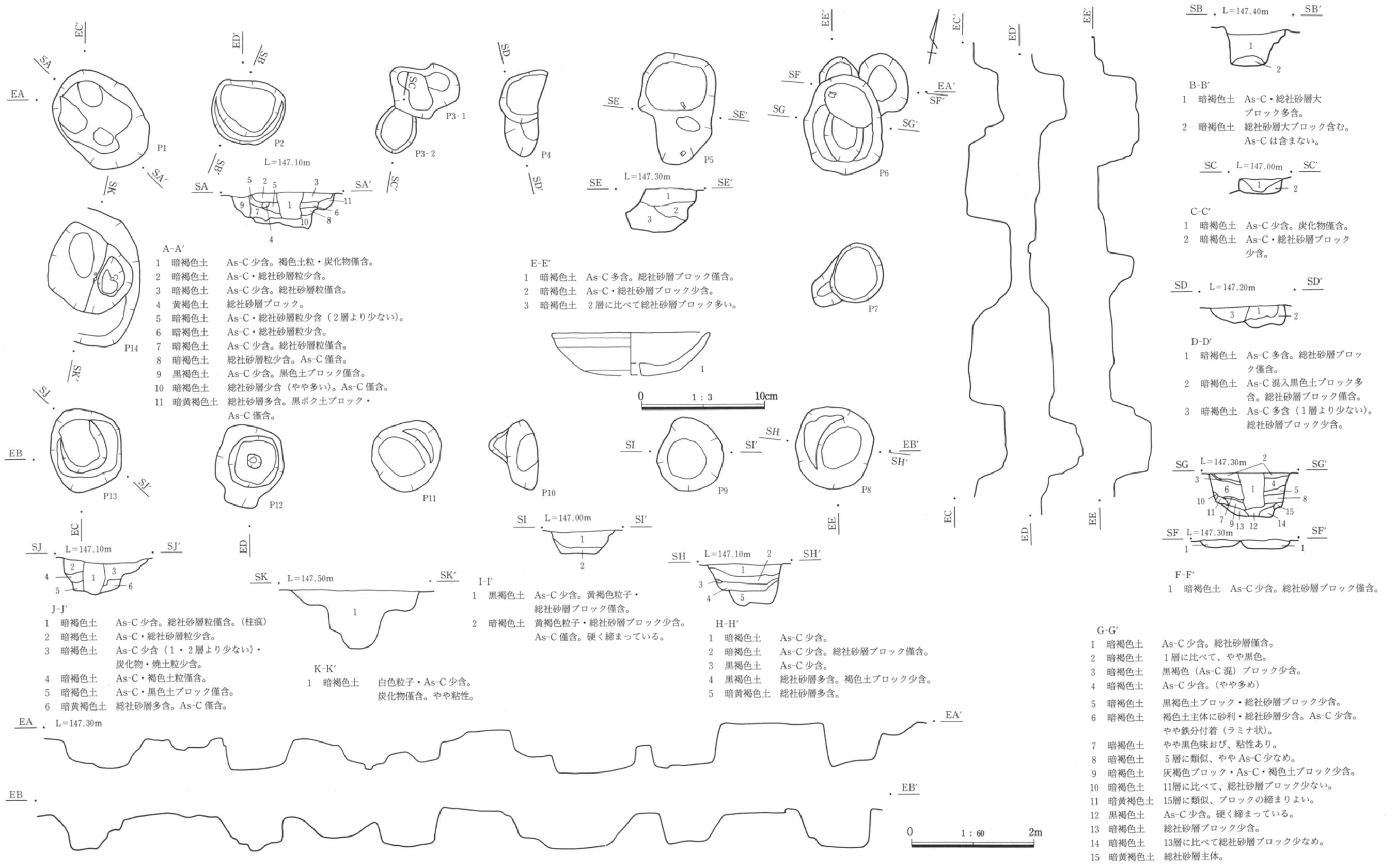
A-A'

- 1 暗褐色土 総社砂層粒・As-C 多含。
- 2 暗褐色土 総社砂層ブロック多含。
- 3 暗褐色土 総社砂層粒・As-C 少含。
- 4 暗褐色土 総社砂層粒・As-C 多含。脆弱な土。

C-C'

- 1 暗褐色土 総社砂層主体。黒色土多含。As-C 少含。
- 2 暗褐色土 総社砂層内の粒子少含。
- 3 暗褐色土 1層に類似、総社砂層ブロック多含。
- 4 暗褐色土 2層に類似、総社砂層ブロック多含。

第240図 3号掘立柱建物跡



- A-A'**
- 1 暗褐色土 As-C 少含。褐色土粒・炭化物僅含。
 - 2 暗褐色土 As-C・総社砂層粒少含。
 - 3 暗褐色土 As-C 少含。総社砂層粒僅含。
 - 4 黄褐色土 総社砂層ブロック。
 - 5 暗褐色土 As-C・総社砂層粒少含（2層より少ない）。
 - 6 暗褐色土 As-C・総社砂層粒少含。
 - 7 暗褐色土 As-C 少含。総社砂層粒僅含。
 - 8 暗褐色土 総社砂層粒少含。As-C 僅含。
 - 9 黒褐色土 As-C 少含。黒色土ブロック僅含。
 - 10 暗褐色土 総社砂層少含（やや多い）。As-C 僅含。
 - 11 暗黄褐色土 総社砂層多含。黒ボク土ブロック・As-C 僅含。

- E-E'**
- 1 暗褐色土 As-C 多含。総社砂層ブロック僅含。
 - 2 暗褐色土 As-C・総社砂層ブロック少含。
 - 3 暗褐色土 2層に比べて総社砂層ブロック多い。

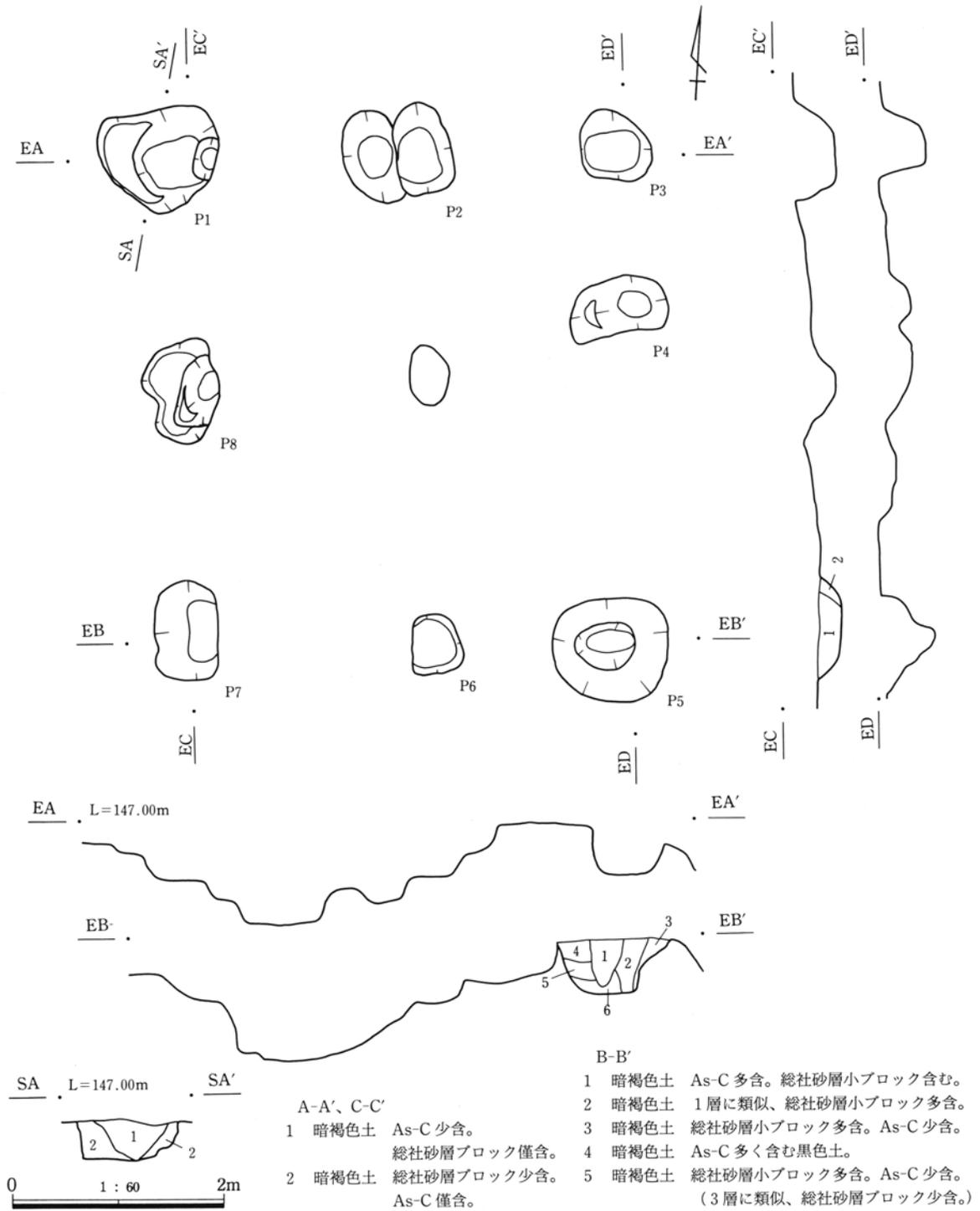
- J-J'**
- 1 暗褐色土 As-C 少含。総社砂層粒僅含。（柱痕）
 - 2 暗褐色土 As-C・総社砂層粒少含。
 - 3 暗褐色土 As-C 少含（1・2層より少ない）・炭化物・焼土粒少含。
 - 4 暗褐色土 As-C・褐色土粒僅含。
 - 5 暗褐色土 As-C・黒色土ブロック僅含。
 - 6 暗黄褐色土 総社砂層多含。As-C 僅含。

- I-I'**
- 1 黒褐色土 As-C 少含。黄褐色粒子・総社砂層ブロック僅含。
 - 2 暗褐色土 黄褐色粒子・総社砂層ブロック少含。As-C 僅含。硬く締まっている。

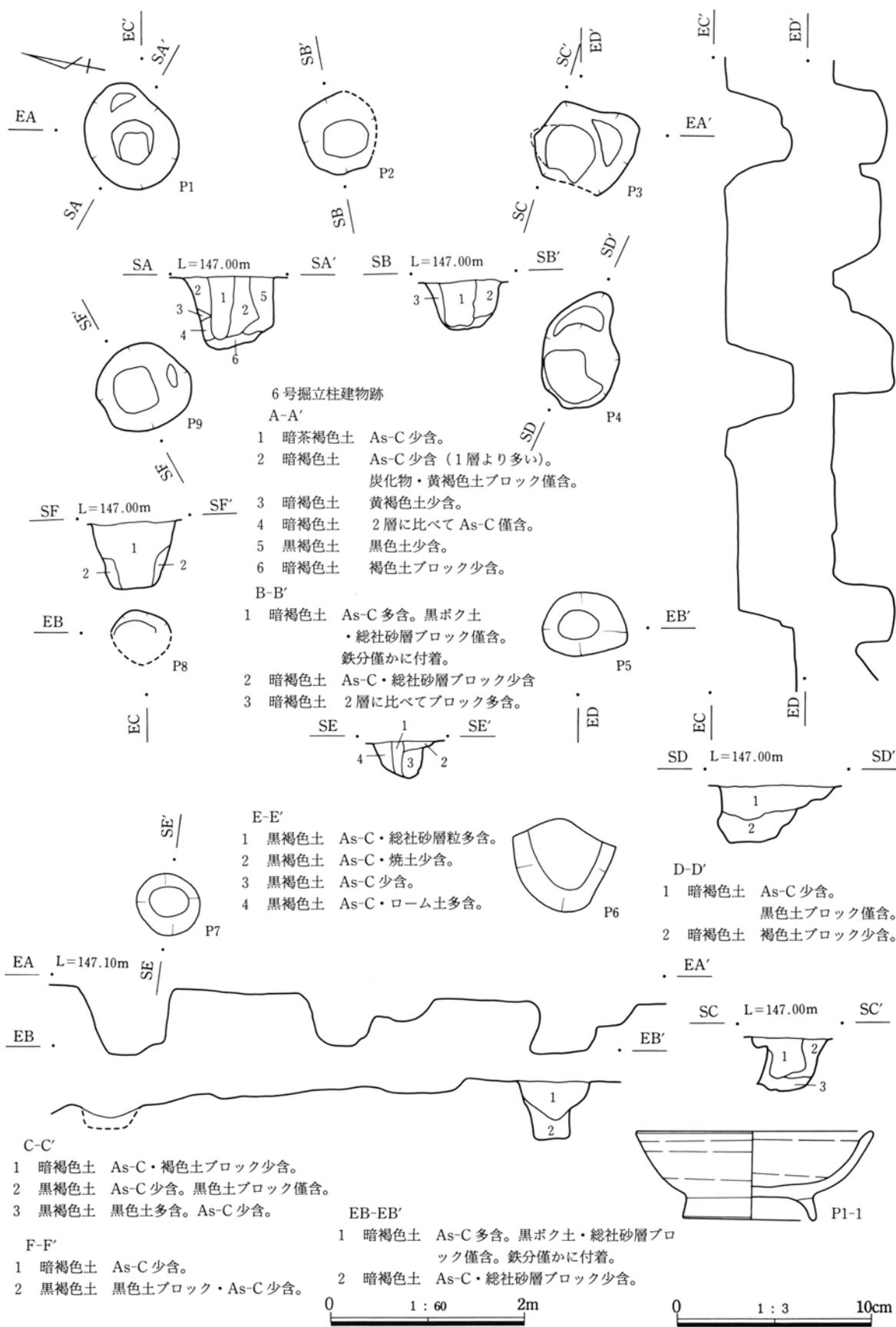
- H-H'**
- 1 暗褐色土 As-C 少含。
 - 2 暗褐色土 As-C 少含。総社砂層ブロック僅含。
 - 3 黒褐色土 As-C 少含。
 - 4 黒褐色土 総社砂層多含。褐色土ブロック少含。
 - 5 暗黄褐色土 総社砂層多含。

- G-G'**
- 1 暗褐色土 As-C 少含。総社砂層僅含。
 - 2 暗褐色土 1層に比べて、やや黒色。
 - 3 暗褐色土 黒褐色（As-C 混）ブロック少含。
 - 4 暗褐色土 As-C 少含。（やや多め）
 - 5 暗褐色土 黒褐色土ブロック・総社砂層ブロック少含。
 - 6 暗褐色土 褐色土主体に砂利・総社砂層少含。As-C 少含。やや鉄分付着（ラミナ状）。
 - 7 暗褐色土 やや黒色味おび、粘性あり。
 - 8 暗褐色土 5層に類似、やや As-C 少なめ。
 - 9 暗褐色土 灰褐色ブロック・As-C・褐色土ブロック少含。
 - 10 暗褐色土 11層に比べて、総社砂層ブロック少ない。
 - 11 暗黄褐色土 15層に類似、ブロックの締まりよい。
 - 12 黒褐色土 As-C 少含。硬く締まっている。
 - 13 暗褐色土 総社砂層ブロック少含。
 - 14 暗褐色土 13層に比べて総社砂層ブロック少なめ。
 - 15 暗黄褐色土 総社砂層主体。

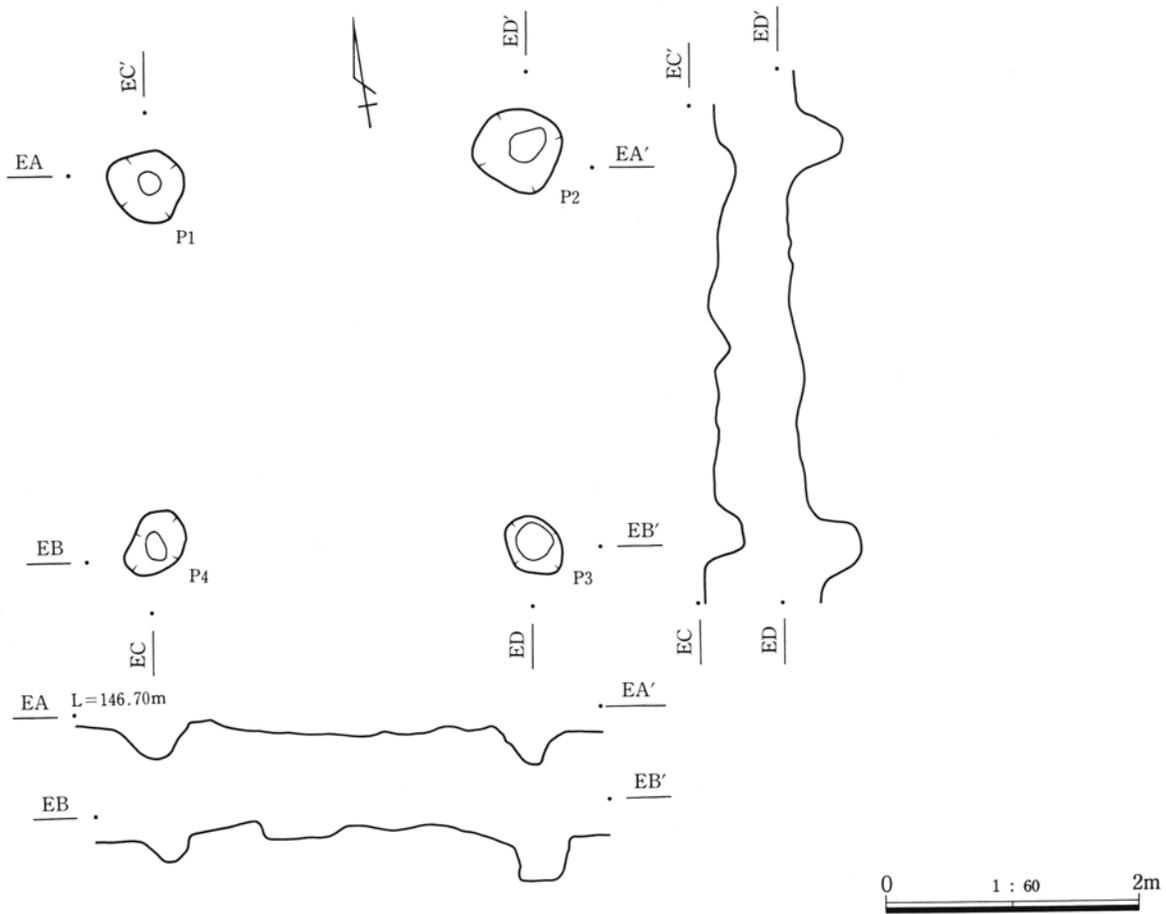
第241図 4号掘立柱建物跡



第242図 5号掘立柱建物跡



第243図 6号掘立柱建物跡



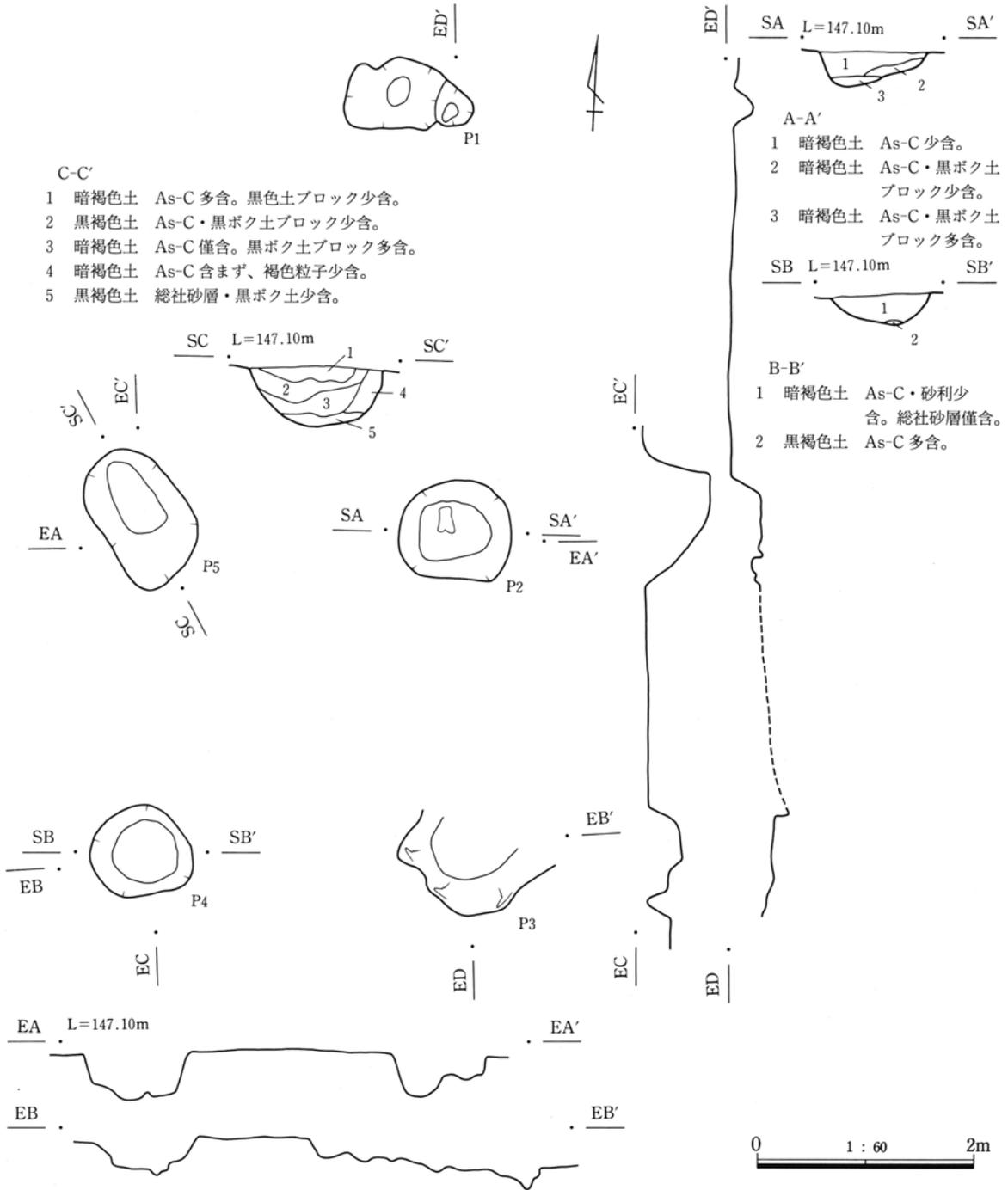
第244図 7号掘立柱建物跡

7号掘立柱建物跡 (第244図)

2区に位置し、規模は桁行1間(約3.6m)、梁行1間(約3.4m)で、床面積は推定で約12m²である。柱間寸法は、桁行で約10尺、梁行で約10尺である。柱穴の形態は円形から楕円形で、規模は直径約50~70cm、深さ約30cmである。

8号掘立柱建物跡 (第245図、写真88・89)

2区に位置し、規模はおそらくは桁行1間(約8.0m)、梁行1間(約4.0m)で、床面積は推定で約16m²である。柱間寸法は、桁行で約10尺、梁行で約10尺である。柱穴の形態は円形から楕円形で、規模は直径約120~80cm、深さ約60cmである。



第245図 8号掘立柱建物跡

第5節 鎌倉時代以降

本遺跡からは、鎌倉時代以降、つまり中世・近世、さらに近代の時期の遺構として、環濠屋敷跡、竪穴状遺構、井戸、地下式土坑、土坑、ピット、畠、石垣などが、数が少ないながらも検出されている。

また、出土した遺物の種類も土器（かわらけ）、陶磁器（椀・大皿・盤・鉢・甕・德利）、瓦（棧瓦）、鉄製品（釘）、銅製品（銭）などである。

次に、本遺跡の特徴を、遺構、遺物別に項目毎に記述することとする。

遺構

1. 環濠と考えられる溝に囲まれた屋敷跡が2ヶ所存在した。
2. 広い範囲を取り囲む溝が1本確認された。(16号溝、19号溝)
3. 中世と考えられる井戸が少なくとも1本確認された。
4. 中世と考えられる地下式土坑が1基確認された。
5. 中世と考えられる墓が少なくとも2基確認された。(19号土坑、20号土坑)
6. 近世と考えられる暗渠が、屋敷の環濠と考えられる溝に接続する形で1本確認された。
7. 土地改良以前の道が何本か確認された。
8. 土地改良以前の畠が2区を中心に部分的に確認された。
9. 土地改良以前の石垣が2区の調査範囲南側で確認された。

遺物

1. 中世の墓の副葬品として、北宋銭を中心とする古銭が出土した。(19号土坑、20号土坑)
2. 墓の棺箱製作に関連したと考えられる鉄釘がまとまって出土した。(172号土坑)
3. 中国・龍泉窯系青磁が3点出土した。
4. 1号井戸からかわらけが出土した。
5. 知多窯の15世紀後半の甕が2点出土した。
6. 出土した瓦は黒色燻瓦が大部分である。

本遺跡は溝の存在から環濠屋敷の一部に相当していたものと考えられるが、中世から近世にかけての遺構や遺物はあまり多くないことから、その実体はしっかり把握できていない。

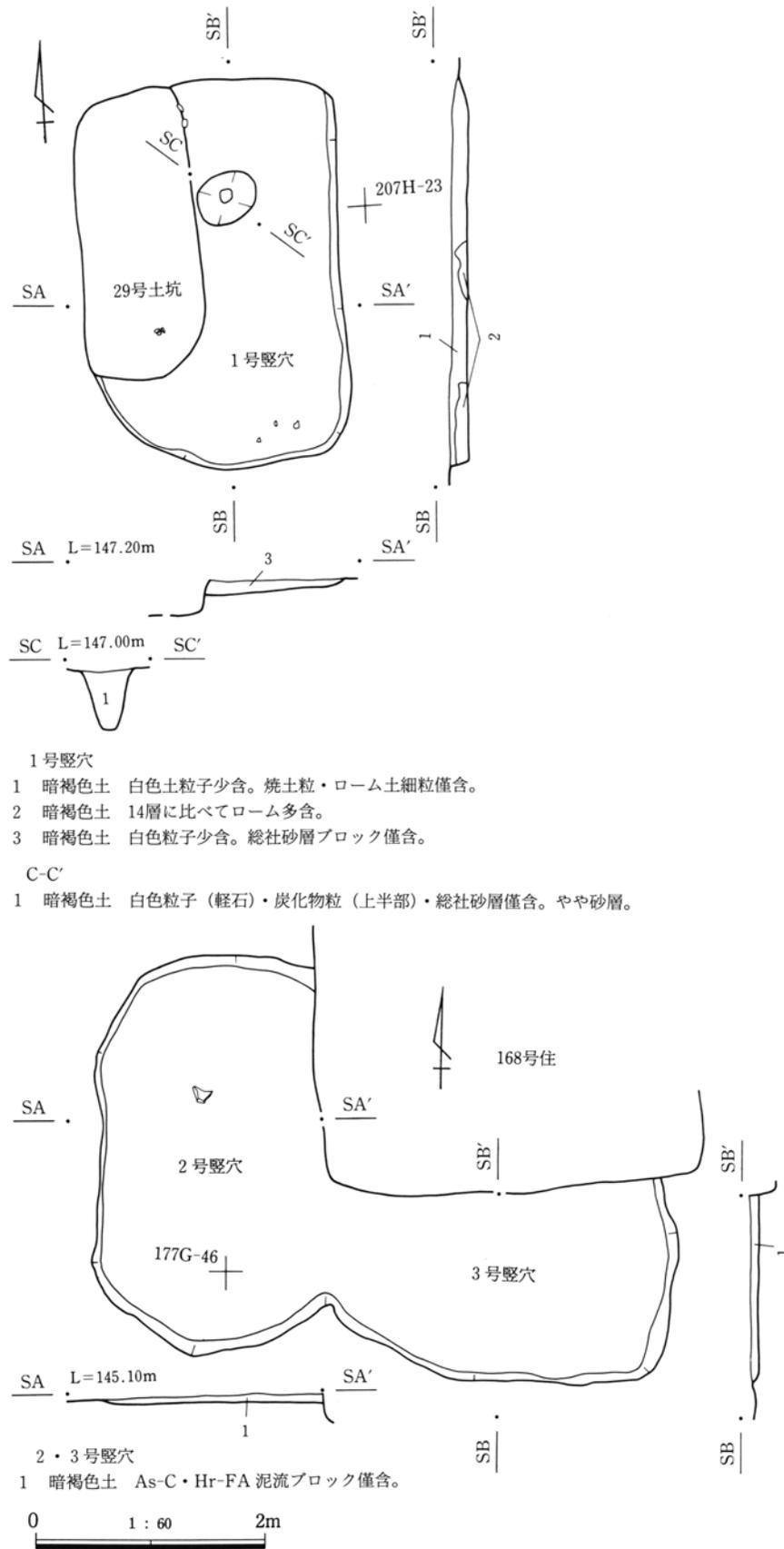
なお、時代が明確でない遺構についても、ここでまとめて収録・記述することとする。

1号竪穴状遺構（第246図、写真89）

2区に位置し、重複関係は29号土坑より古い。規模は長軸約3.5m、短軸約2.2mで、隅丸方形の形状で中心よりやや北側に直径約40cm、深さ約50cmのピットが存在する。

2号竪穴状遺構（第246図、写真89）

2区に位置し、重複関係は土層観察からは168号竪穴状住居跡よりも古いが、3号竪穴状遺構との新旧が不明である。規模は長軸が約3.5mであるが、短軸は3号竪穴状遺構との重複により東壁が不明だが、計測できる



第246図 1、2・3号堅穴状遺構

部分で約2mよりやや広い隅丸方形である。

3号竪穴状遺構（第246図、写真89）

2区に位置し、重複関係は土層観察からは168号竪穴住居跡より古い、2号竪穴状遺構との新旧は不明である。規模は168号竪穴住居跡と2号竪穴状遺構との重複により北壁と西壁が不明なために、長軸と短軸が共に正確に計測できないものの、測れる範囲が3mと1.7mであることから、それよりやや広い程度の隅丸方形と推定される。

溝（第247～255図及び付図、写真89～95・148・149・151）

本遺跡での溝の総数は56本で、その長さや幅、形状や底部の様子などによる様々な形態に分類が可能であり、走行方向もまちまちである。また、時期は古代から近世までの長い時間と考えられるが、個々の時期やその他のデータについては第3表を参照してもらいたい。

特徴的な溝の個々についてみると、幅が広く深さもある東西方向の1区1号溝は南北方向の1区12号溝とほぼ同様の形態であることから同一の環濠と想定されるが、実際には交わる点が存在する部分が高等養護学校の運動場という調査区域外のために確認はできなかった。

暗渠とほぼ同時存在と考えられる11号溝は、交点部分での断面土層観察から中世と考えられる1号溝と12号溝よりは新しいことが分かっているが、近世まで下るかどうかははっきりしない。

1区の13号溝と14号溝、15号溝は走行方向や幅、深さ、それに形状が類似していることから、ほぼ同時期と考えられるが、一方で2区の19号溝や21号溝のように走行方向や幅、深さ、それに形状が類似していても、埋没土層の断面観察では19号溝が21号溝よりも新しい。

前述の19号溝は、2区から3区にほぼ直角に折れる16号溝と接続していることから、あるいは1区の2号溝とつながることにより、南北軸に長い長方形の区画を形成している可能性もある。

また、2区から3区にまたがる23号溝のように、埋没土や竪穴住居跡との新旧関係、それに竪穴住居跡の主軸方向とほぼ一致する走行方向から、時期が古代と考えられる溝も含まれている。3区の53号溝や54号溝、55号溝なども一致する走行方向から、同様に古代と考えられる。

土坑（第256～274図及び付図、写真96～109・111・149～151）

本遺跡では総数で249基もの土坑が検出されており、形状や規模からいくつかに大きく分類が可能であるが、そのうちの代表的な事例をみることとする。

形状から判断する土坑としては、長さ5～6m、幅1m前後の長細い形状から収蔵用の通称「イモ穴」と呼ばれている47号土坑や126号土坑、埋没土層の断面観察から柱の痕跡と考えられる柱穴である234号土坑や235号土坑などがあげられる。

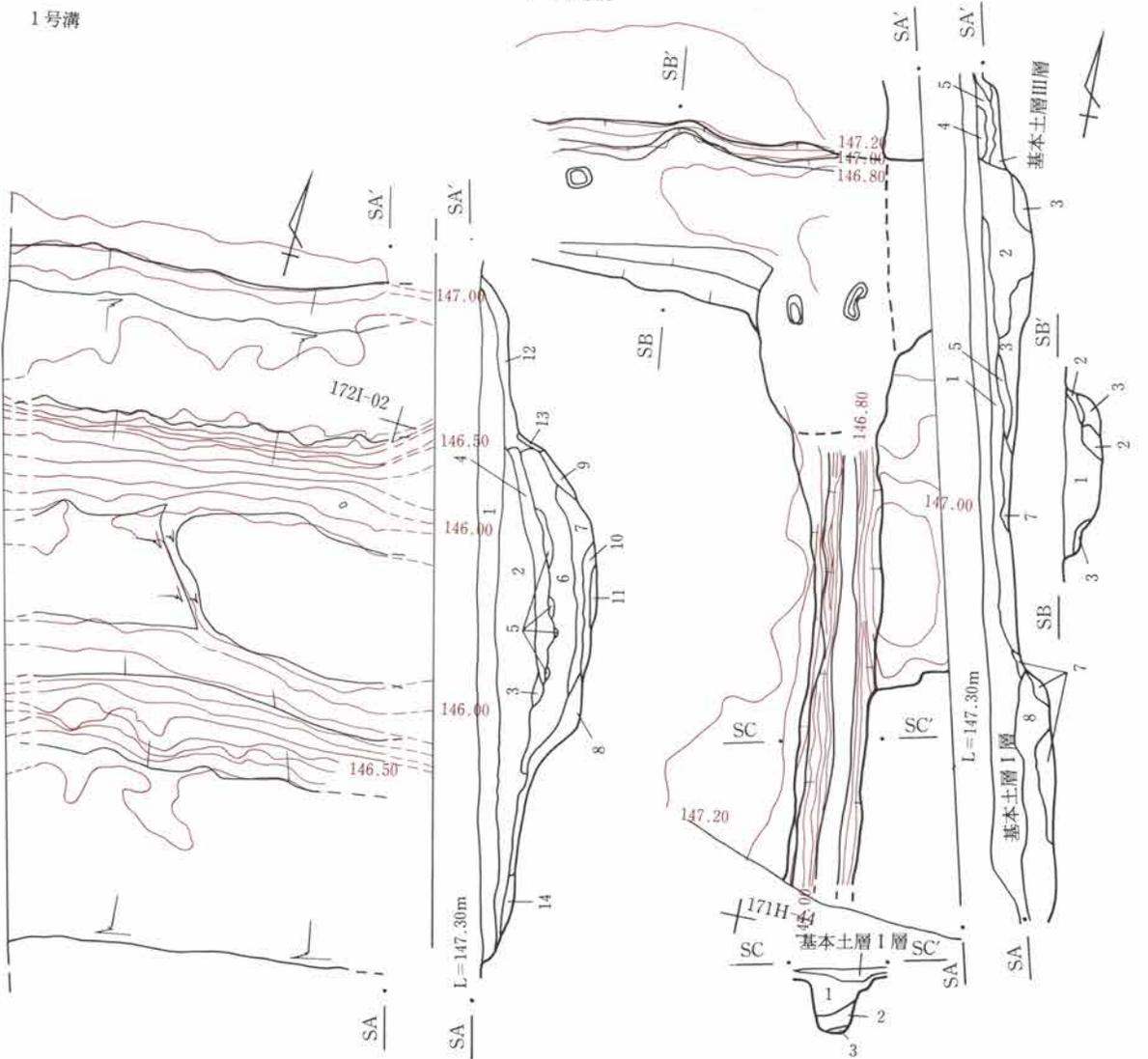
遺物が出土する土坑では、中国・北宋銭を中心とする副葬銭の出土から中世の墓と考えられる19号土坑や20号土坑とその周囲の土坑、それに棺桶用の鉄釘の出土から同様に中世の墓と考えられる172号土坑などが代表的な遺構である。だが、把手付きの畿内産土師が出土した33号土坑は性格が不明である

このように、土坑のすべての性格が判明する訳ではなく、報告段階に至っても用途不明の資料も存在する。

しかしながら一方では、配列や組み合わせなどを通じて発掘調査途中で掘立柱建物跡や竪穴住居跡の床下土坑など、遺構の一部と考えられる事例も存在する。

1号溝

2・3号溝



1号溝 (A-A')

- | | |
|--------------|----------------------------|
| 1 暗褐色土 | As-C 粒少含。(2~5層よりは多い) |
| 2 暗褐色土 | As-C 粒少含。 |
| 3 黒褐色土 | 1、2層比べて黒色土の混入多い。 |
| 4 暗褐色土 | As-C 僅含。(As-B?) 白色粒子少含。 |
| 5 黒褐色土 | As-C 少含(4<6<5層)。黒色土ブロック僅含。 |
| 6 暗褐色土 | As-C 僅含(4<6<1~3層)。 |
| 7 暗褐色土 | ローム土・白色粒子僅含。 |
| 8 暗褐色土 | ローム土少含。白色粒子僅含。 |
| 9 暗茶褐色土 | ローム土僅含。黒色土・砂質土少含。 |
| 10 (暗)黒褐色砂質土 | 黒色土多含。白色粒子少含。褐色粒子僅含。 |
| 11 暗褐色土 | 暗灰褐色砂層。茶褐色砂+灰白色砂(水性堆積) |
| 12 暗褐色土 | ローム土少含。 |
| 13 暗黄褐色土 | ローム土主体。 |
| 14 黒褐色土 | 基本土層V層に近い。 |

2号溝 (B-B')

- | | |
|---------|---------------------|
| 1 暗黒褐色土 | As-C 多含。黒色土ブロック僅含。 |
| 2 暗黒褐色土 | (やや茶色っぽい) As-C 少含。 |
| 3 黒色土 | As-C 僅含。(あるいは基本土層か) |

2・3号溝 (A-A')

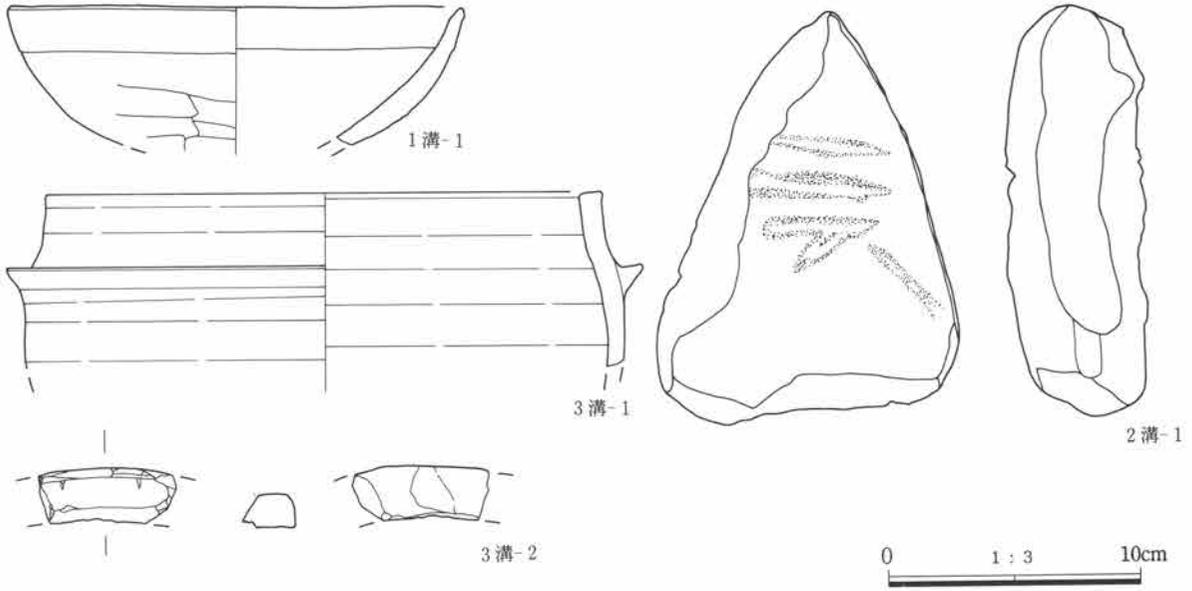
- | | |
|--------|-------------------------|
| 1 暗褐色土 | As-B 多含。1cm大の礫少含。 |
| 2 暗褐色土 | As-B を1層より多含。土器片を含む。 |
| 3 暗褐色土 | As-B 少含。 |
| 4 暗褐色土 | As-B と基本土層V層小ブロックの混土。 |
| 5 黄褐色土 | ローム小ブロックと基本土層III層の混土。 |
| 6 暗褐色土 | As-B 多含。 |
| 7 暗褐色土 | 6層に類似、As-B は含まない。 |
| 8 暗褐色土 | As-B 少含。基本土層III・VI層の混土。 |

3号溝 (C-C')

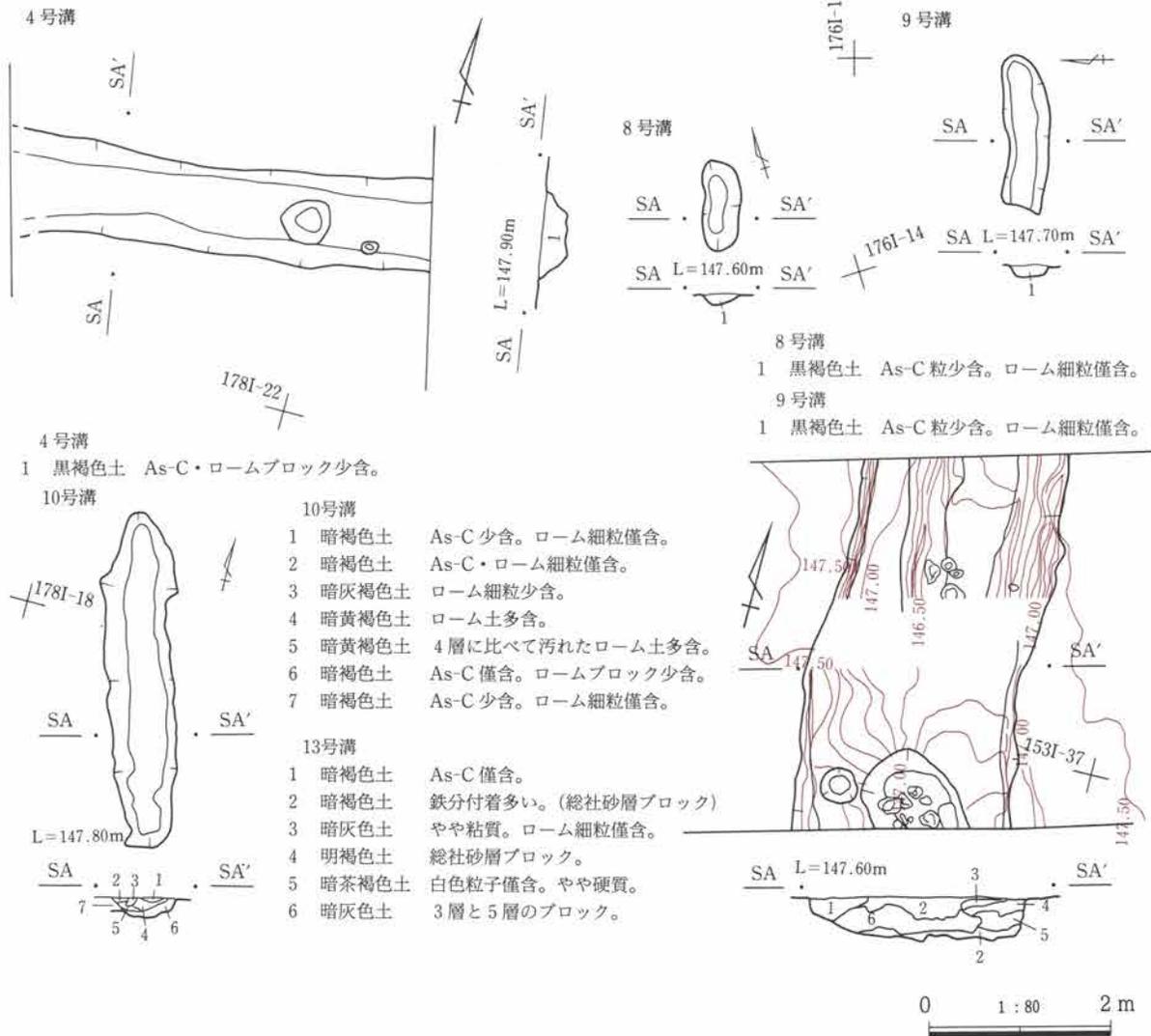
- | | |
|--------|------------------|
| 1 暗褐色土 | やや砂質。As-B 粒? 少含。 |
| 2 暗褐色土 | As-C 僅含。 |
| 3 暗褐色土 | ローム土少含。 |



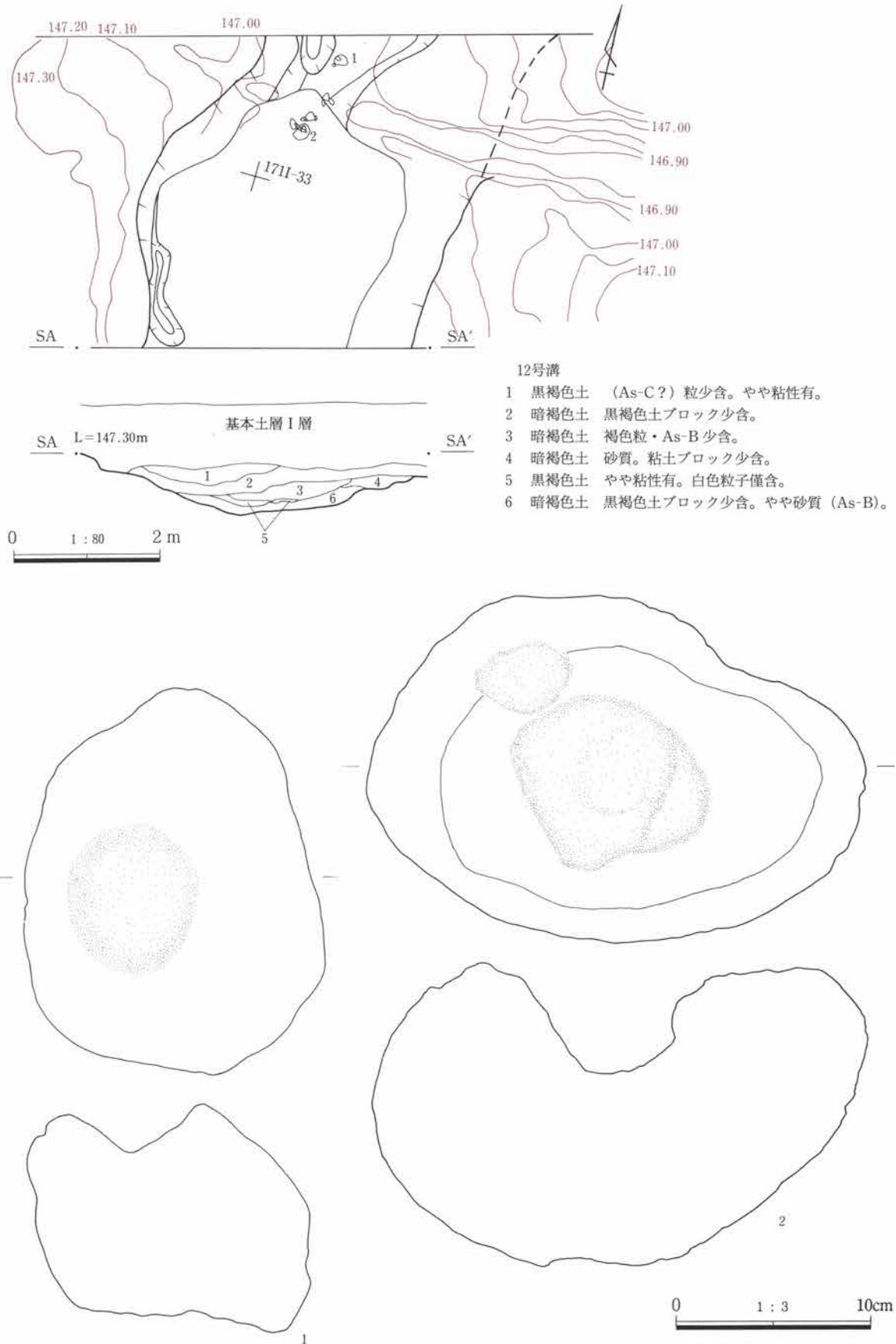
第247図 1、2・3号溝



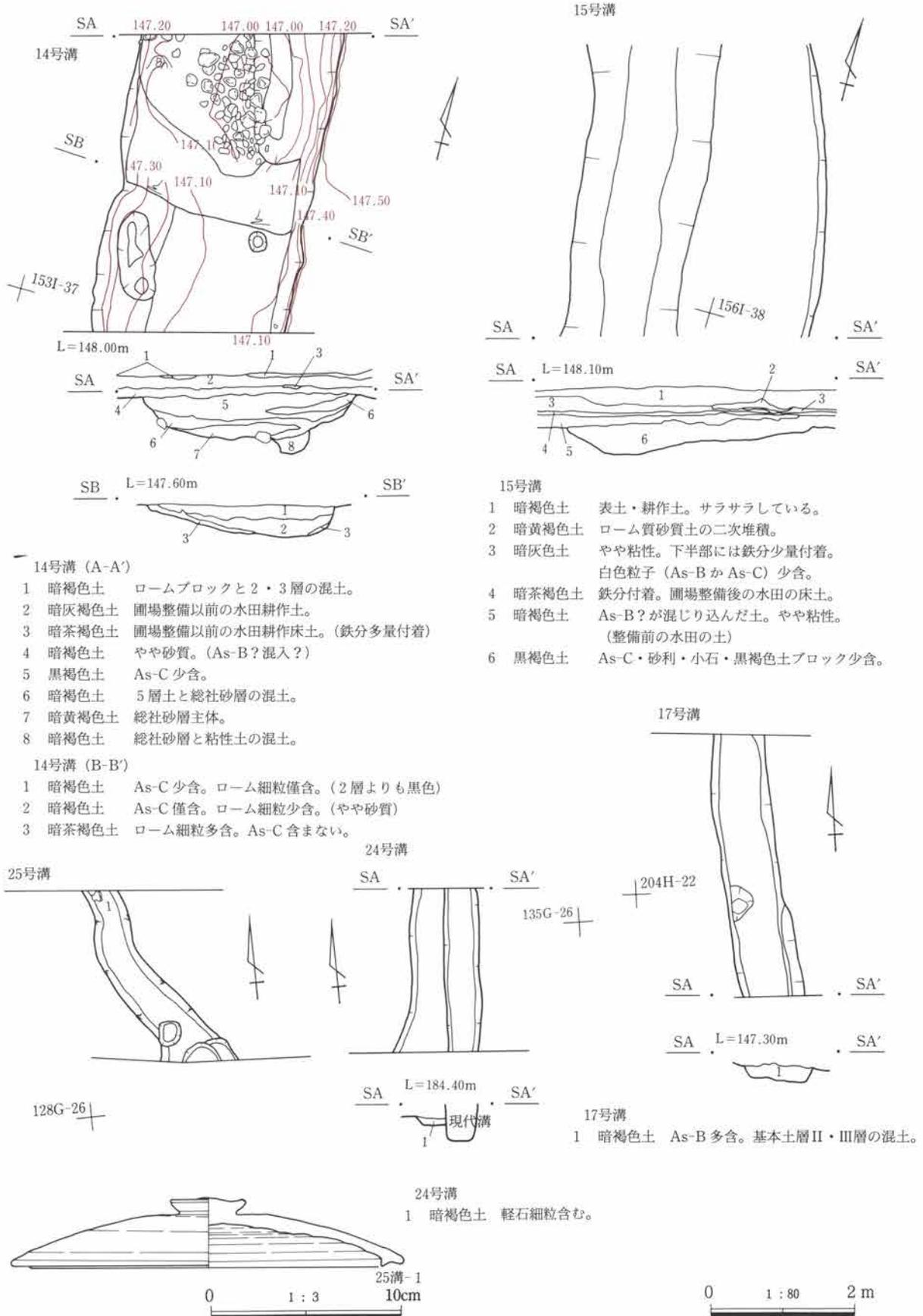
第248図 1、2・3号溝



第249図 4、8、9、10、13号溝

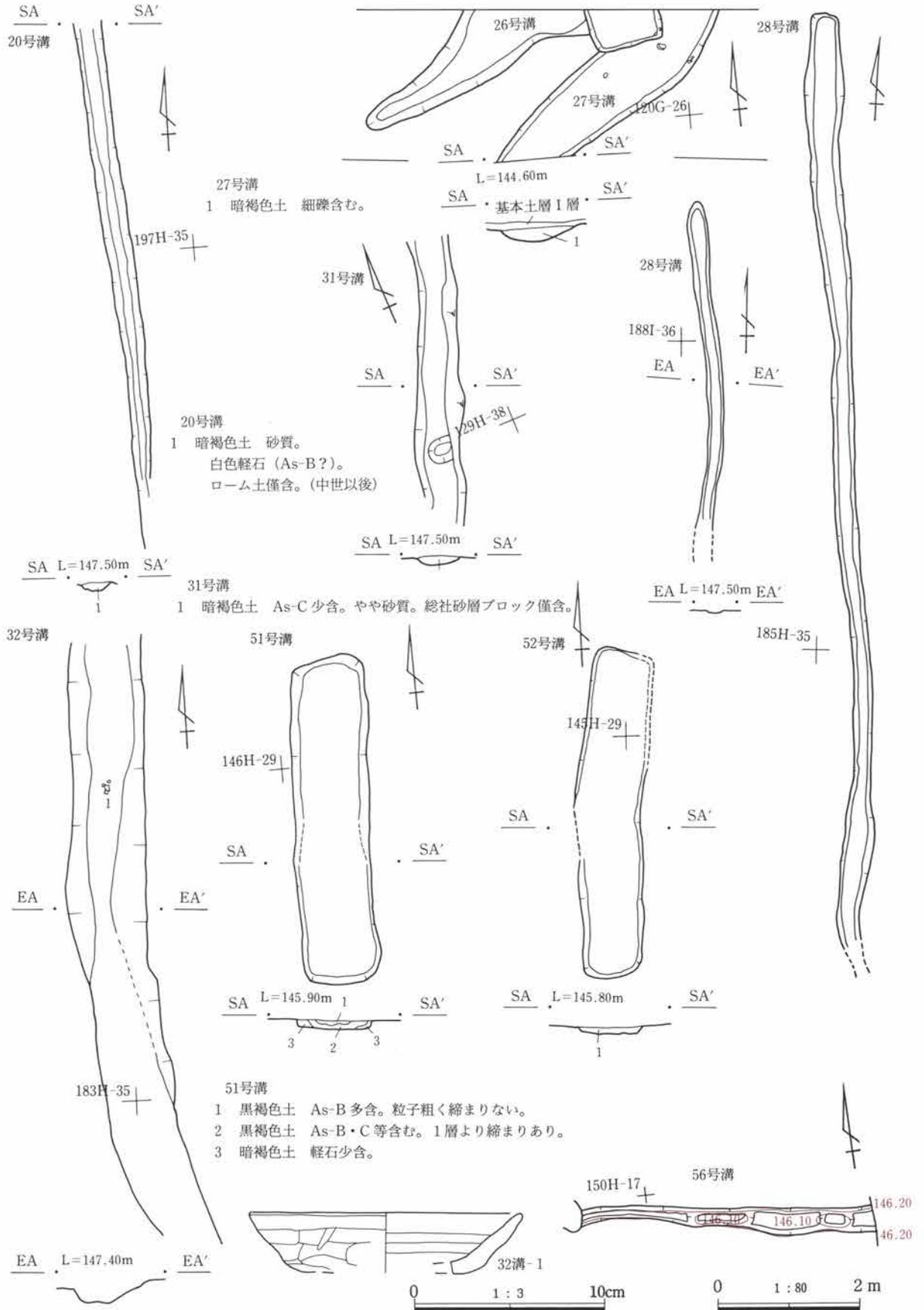


第250図 12号溝

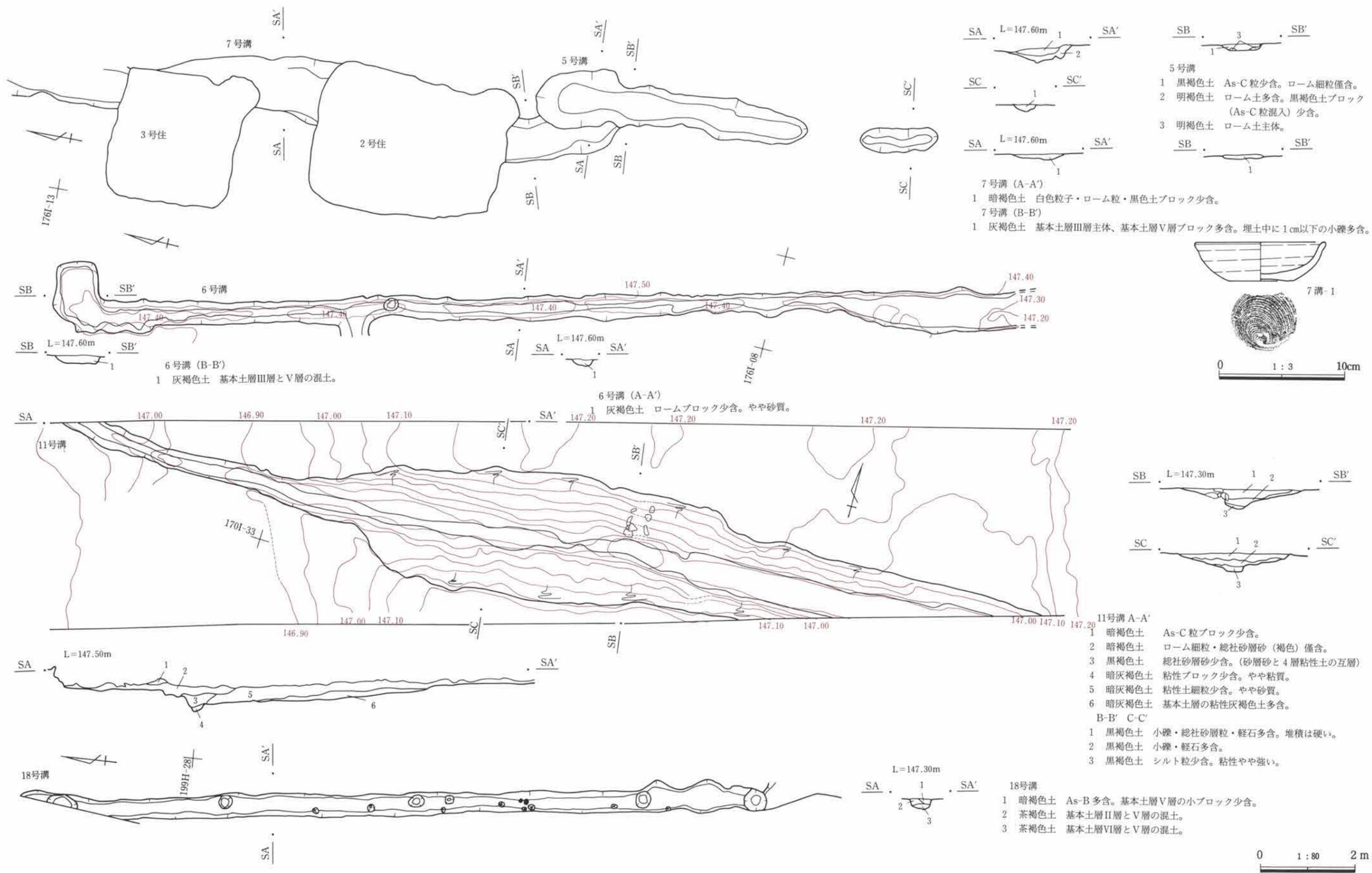


第251図 14、15、17、24、25号溝

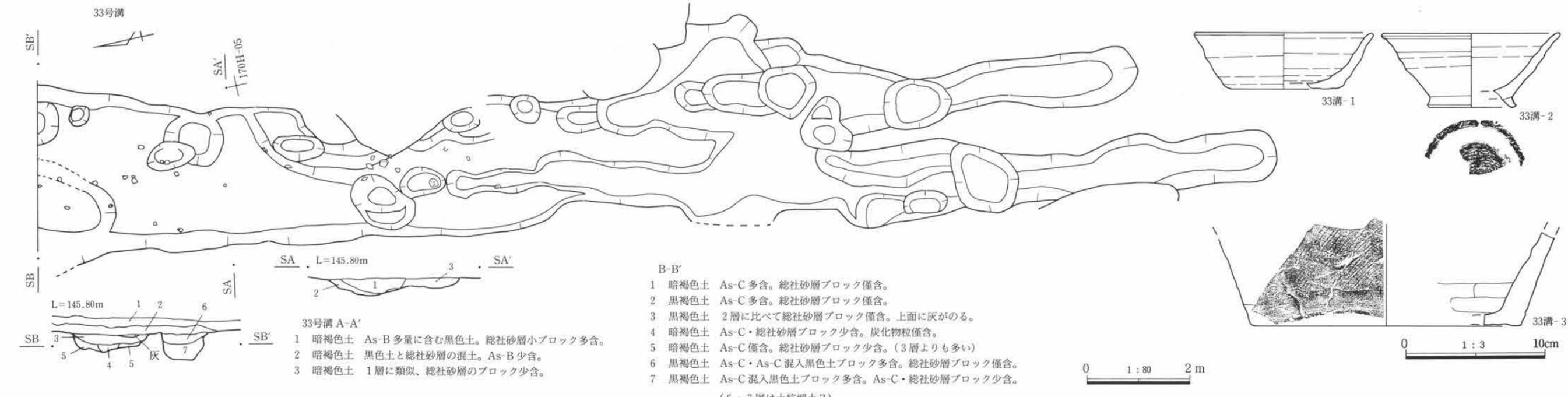
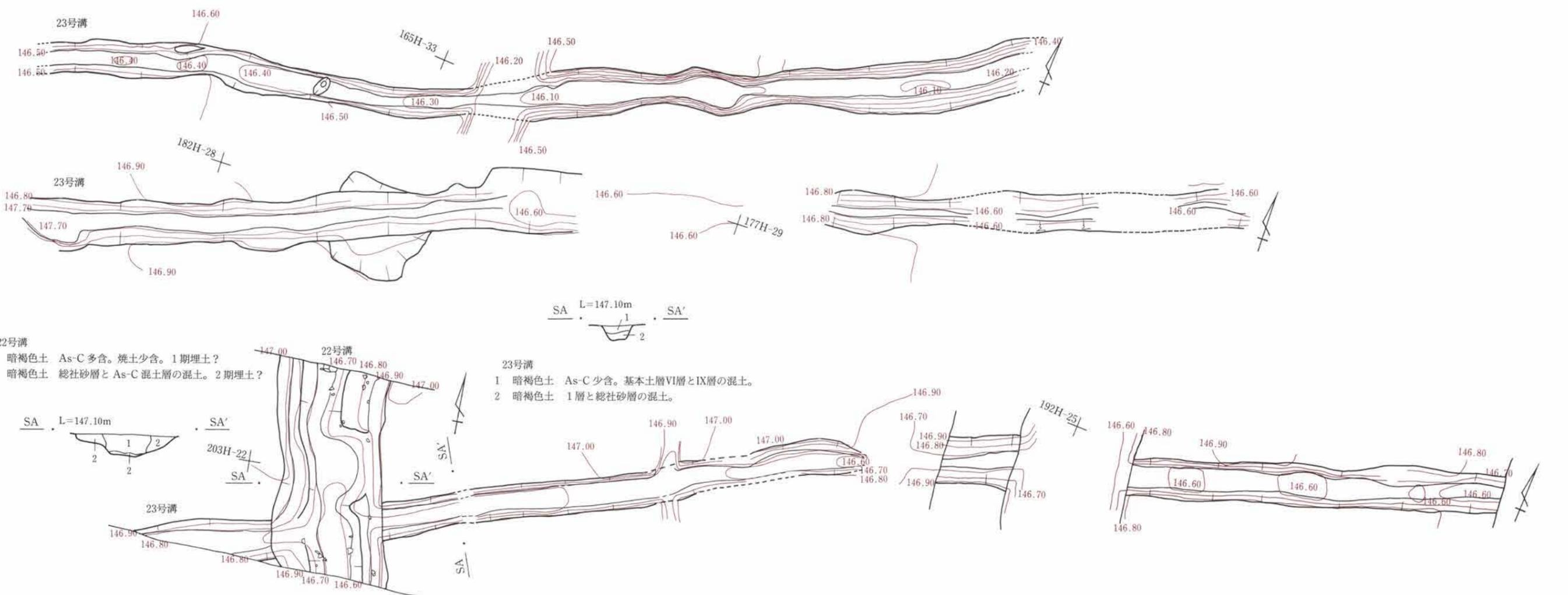
第3章 検出された遺構・遺物



第252図 20、26~29、31、32、51、52、56号溝



第253図 5、6、7、9、11、18号溝



第254図 22・23、33号溝

第3表 溝一覧表

区	No	幅 (cm)	形	方 向	時 期	備 考
1	1	764	播り鉢	北西～南東	中世	12号溝と同一で、屋敷の周溝と思われる。
1	2	188	箱	西～東	中世?	3号溝より新しく、9号土坑より古い。
1	3	92	箱	北西～南	中世	2号溝より古い。
1	4	104	播り鉢	西～東	不明	
1	5	120	播り鉢	北西～南東	古代	7号溝より新しい。
1	6	96	播り鉢	北西～南東	不明	
1	7	136	播り鉢	北西～南東	古代	2号住、3号住、5号溝より古い。
1	8	40	播り鉢	北東～南西	不明	
1	9	52	箱	西～東	不明	
1	10	80	播り鉢	北西～南東	不明	
1	11	264	薬研	西～東	近世	12号溝より新しい。
1	12	456	播り鉢	北～南	中世	11号溝より古い。
1	13	244	箱	北～南東	近代	
1	14	288	箱	北～南	近代	
1	15	356	播り鉢	北西～南東	近代	
2・3	16	312	箱	西～東北～南	中世	23号溝より新しい、19号溝とつながる。
2	17	92	箱	北～南	中世?	
2	18	72	箱	北～南	不明	
2	19	280	播り鉢	北～南	中世	
2	20	40	播り鉢	北～南	中世?	
2	21	304	箱	北～南	中世	
2	22	216	播り鉢	北～南	古代	23号溝より新しい。
2	23	120	箱	南西～北東	古代	竪穴住居群、22号溝、16号溝より古い。
3	24	120	播り鉢	北～南	中世?	
3	25	80	—	北西～南東	不明	
3	26	104	—	北東～南西	不明	
3	27	100	播り鉢	北東～南西	不明	
2	28	56	—	北～南	中世?	
2	29	28	箱	北～南	中世?	
2	31	68	播り鉢	北東～南西	不明	
2	32	116	播り鉢	北～南	不明	
2	33	360	—	北～南	古代?	
3	50	144	薬研	北西～南東	近代	
3	51	108	箱	北～南	近代	あるいはイモ穴状の土坑か。
3	52	96	箱	北～南	近代	あるいはイモ穴状の土坑か。
3	53	168	箱	南西～北東	近代	
3	54	160	播り鉢	南西～北東	不明	
3	55	176	播り鉢	南西～北東	古代	下東西遺跡のSD59に相当か。
3	56	36	—	西～東	不明	

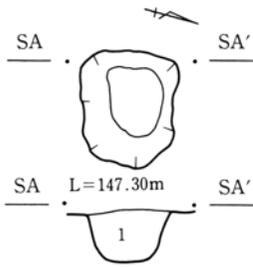
ピット (第275・276図、写真109・110・151)

発掘調査開始当初は多数のピットの存在が確認されたが、調査が進行するにつれて土坑との分類基準のあいまいさから、大部分を土坑として遺構登録するなどの方法をしたために、最終的な総数は少なく、2区の北東部分のように番号を明記しないで記録した遺構も存在する。

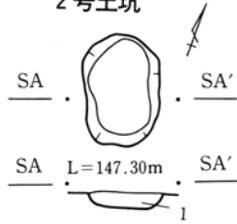
1号井戸 (第277図、写真110・151)

2区に位置し、穴の形態は開口部が楕円形で底部がほぼ円形、規模は開口部の直径約1.4m、深さ約2.6mで、現在の湧水はほぼ底部付近である。掘削後の湧水量は発掘調査時点の農閑期で水田などへの水の供給も少なく、机上的にも乾燥気味の冬季にもかかわらず、多量の湧水が確認された。1点だけである出土遺物のかわらけの存在から、中世と考えられる。

1号土坑



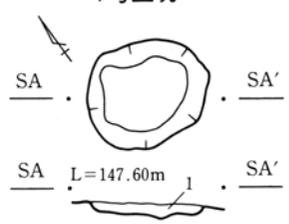
2号土坑



3号土坑



4号土坑



1号土坑

1 灰褐色土 やや軟質。As-C 僅含。(近現代)

2号土坑

1 暗褐色土 白色粒子 (As-B?) 少含。やや砂質。

3号土坑

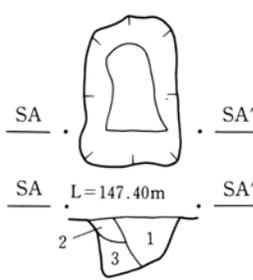
1 暗褐色土 基本土層III層主体。V層土少含。

4号土坑

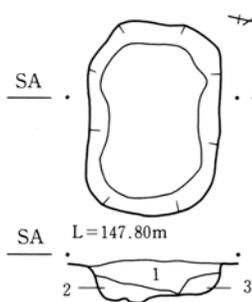
1 暗褐色土 As-B 少含。

2 淡黄褐色土 基本土層V層主体。IV層少含。

5号土坑



6号土坑



3坑-1

5号土坑

- 1 淡黄褐色土 基本土層V層主体。III層土ブロック状に含む。
- 2 淡黄褐色土 基本土層V層主体。As-C? 白色軽石多含。
- 3 淡黄褐色土 2層に類似、白色軽石は含まない。

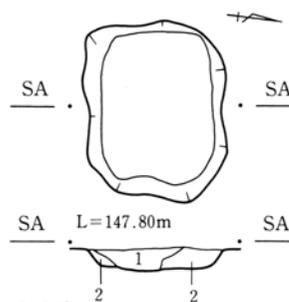
6号土坑

- 1 灰褐色土 基本土層VI層土中に1cm大の礫を多含。
- 2 淡黄褐色土 基本土層VI層とV層の混土。1cm以下の礫少含。
- 3 淡黄褐色土 2層に類似、礫が3cm大と大きい。



6坑-1

7号土坑



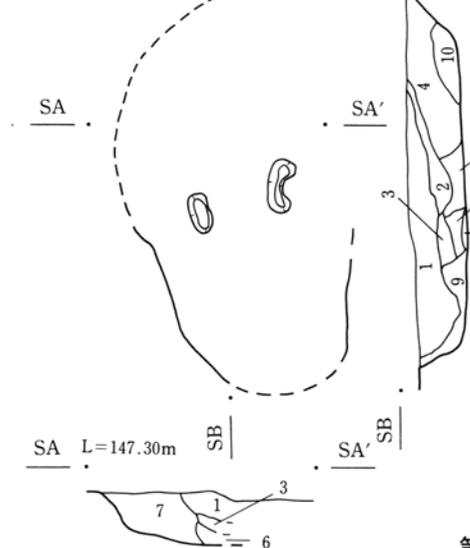
7号土坑

- 1 灰褐色土 基本土層VI層中に1cm大の礫を多含。
- 2 淡黄褐色土 基本土層VI層とV層の混土。1cm以下の礫少含。

8号土坑

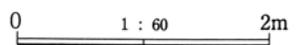
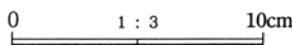
1 暗褐色土 基本土層III層とV層の混土。As-Cと思われる白色軽石多含。

9号土坑



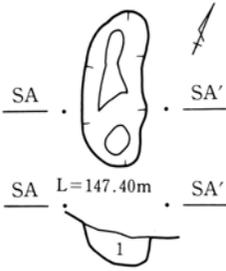
9号土坑

- 1 暗褐色土 As-C 少含。焼土細粒僅含。ややサラサラしている。
- 2 暗褐色土 As-C 少含。褐色土ブロック少含。
- 3 暗褐色土 As-C 僅含。(1層に類似)
- 4 黒褐色土 As-C 少含。褐色土ブロック僅含。
- 5 暗褐色土 As-C 僅含。黒褐色 (As-C 少含) 土ブロック含む。
- 6 黒褐色土 As-C 僅含。褐色土ブロック少含。
- 7 暗褐色土 As-C 多含。焼土細粒僅含。
- 8 暗褐色土 As-C・ローム土・黒褐色土ブロック (As-C 含む) 僅含。
- 9 黒褐色土 As-C 無含。多少の粘性あり。壁の崩れ。
- 10 黒色土 As-C 僅含 (基本土層に近い)。壁の崩れ



第256図 1~9号土坑

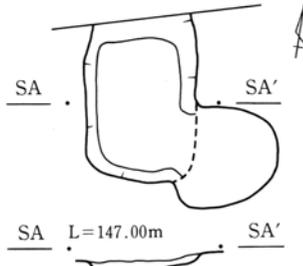
10号土坑



10号土坑

1 暗褐色土 As-C 僅含。白色粒子少含（あるいは As-B~A）。やや砂質。

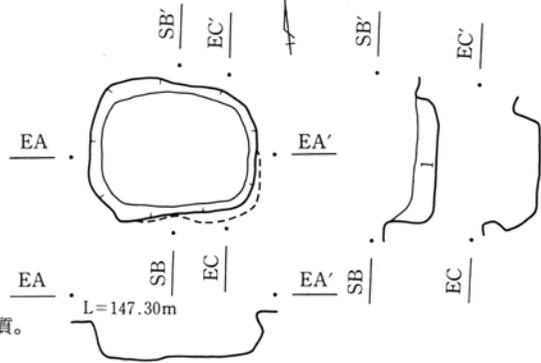
11号土坑



11号土坑

1 暗褐色土 やや粘質。白色粒子少含。

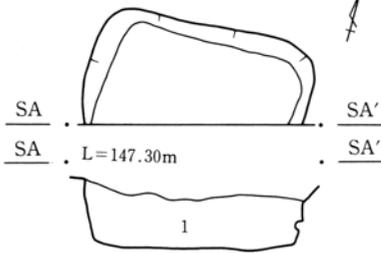
12号土坑



12号土坑

1 暗褐色土 灰色~暗灰色粘土ブロック多含。

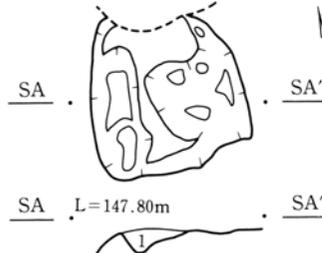
13号土坑



13号土坑

1 暗灰褐色土 総社砂層と粘性土ブロックの混土。

14号土坑

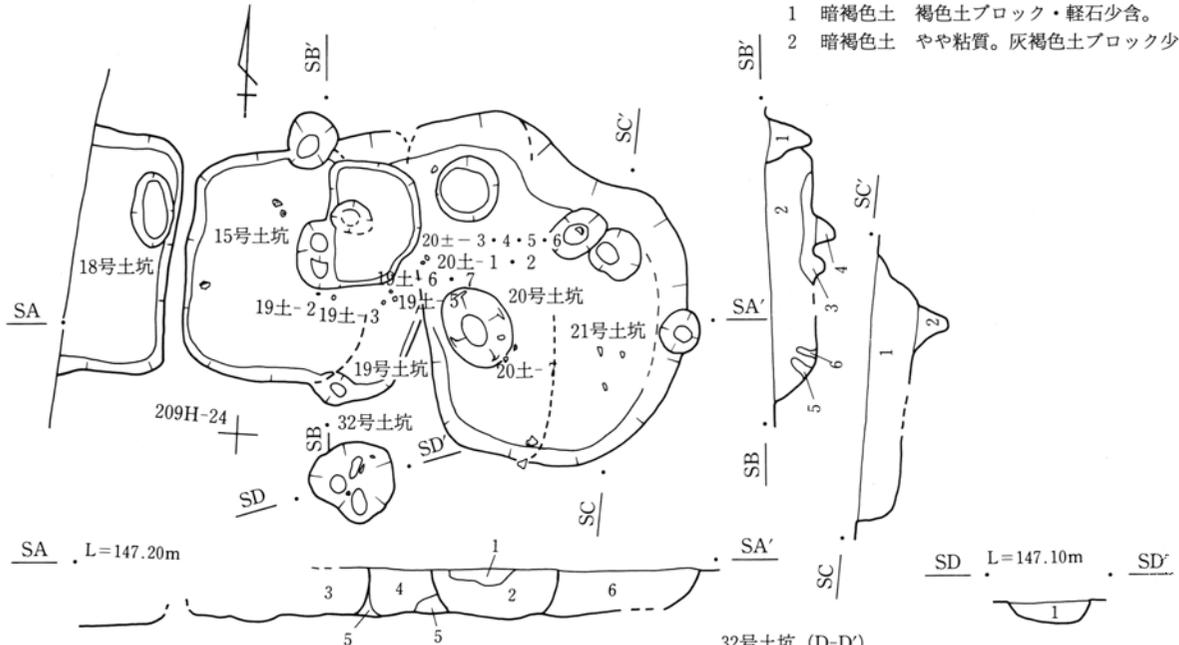


14号土坑

1 暗褐色土 総社砂層粒・As-C 多含。脆弱な堆積。

21号土坑 (C-C')

1 暗褐色土 褐色土ブロック・軽石少含。
2 暗褐色土 やや粘質。灰褐色土ブロック少含。



15号土坑 (B-B')

1 暗褐色土 砂質。ローム粒僅含。
2 暗褐色土 白色軽石 (As-A or B)・明褐色ブロック少含。ローム粒僅含。やや砂質。
3 暗褐色土 2層に比べて、明褐色ブロック大粒で多含。
4 暗褐色土 ローム土少含。やや締まっている。
5 暗灰色土 細かい砂状。(灰ではない)
6 暗褐色土 ローム主体。

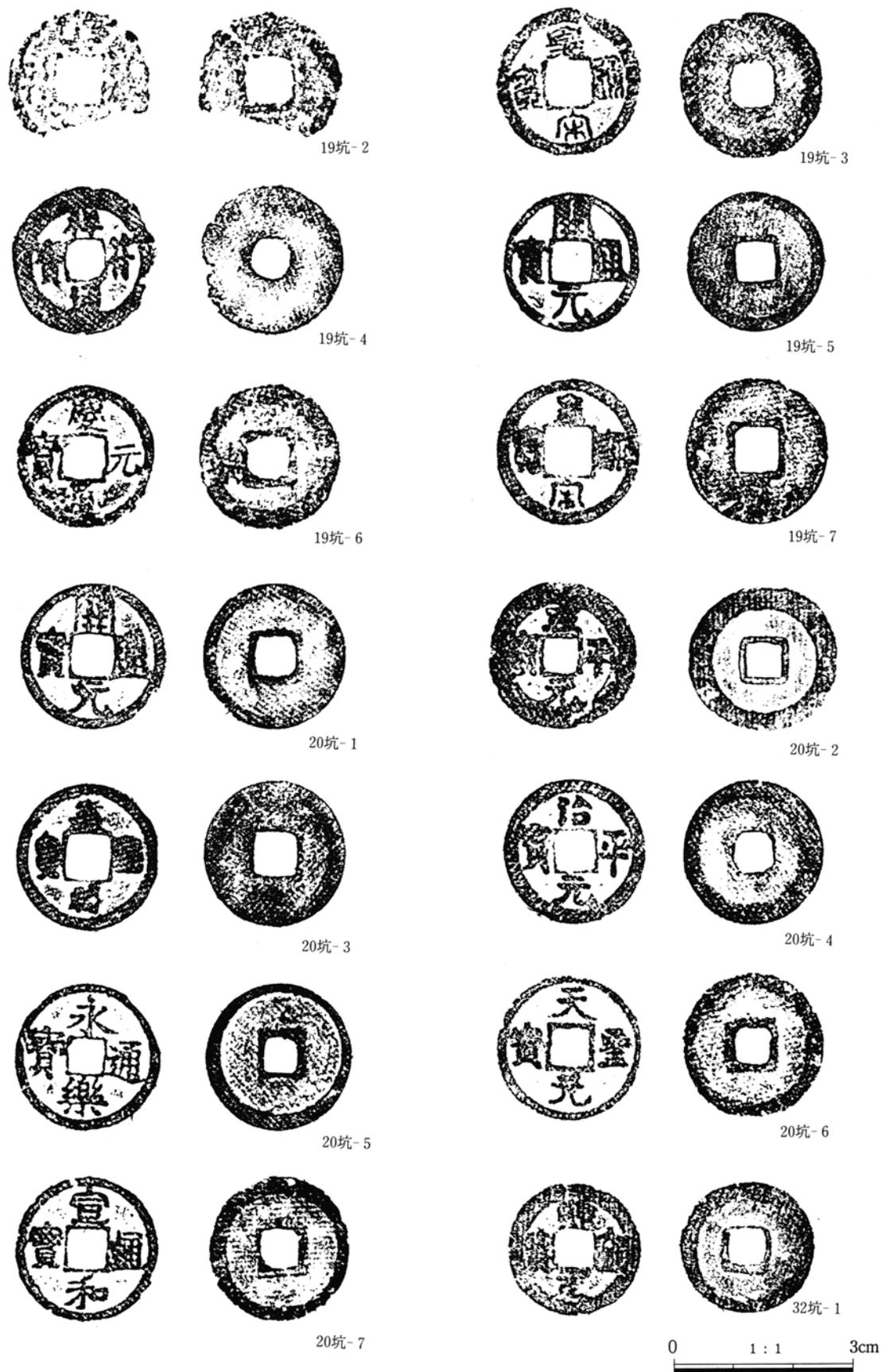
32号土坑 (D-D')

1 暗褐色土 白色粒子少含。総社砂層土僅含。やや砂質。

15・19・20・21号土坑 (A-A')

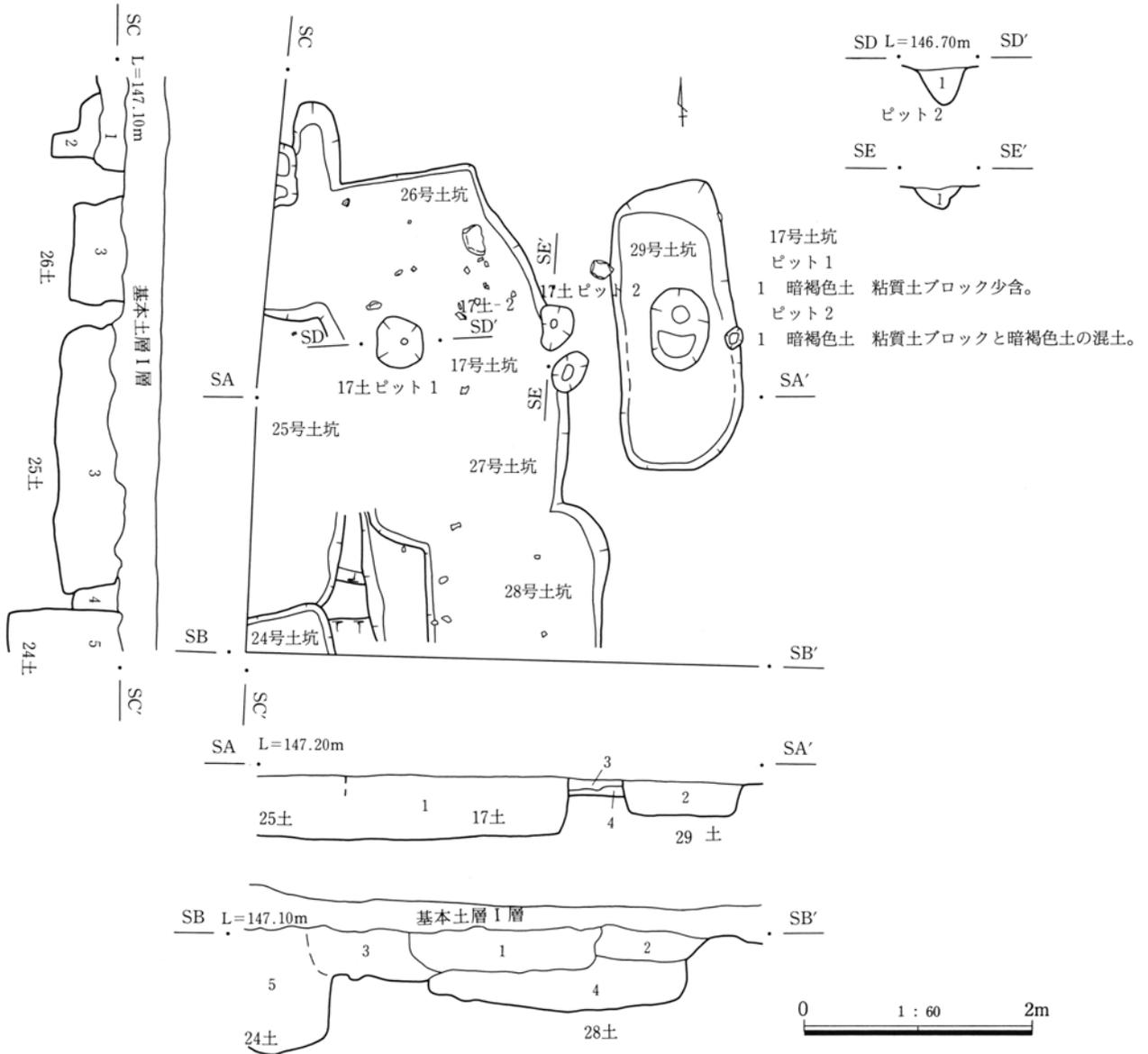
1 暗褐色土 明褐色土ブロック多含。
2 暗褐色土 褐色土ブロック・軽石少含。
3 暗褐色土 褐色土ブロック・軽石少含。(2層に比べて少なめ)
4 暗褐色土 褐色土ブロック・軽石少含。(2・3層に比べて少なめ)
5 褐色土 ローム土多含。
6 暗褐色土 褐色土ブロック少含(他の層より多い)。軽石少含。

第257図 10~15・18~21・32号土坑



第258図 19・20・32号土坑

17号土坑 ビット1



17・29号土坑 (A-A')

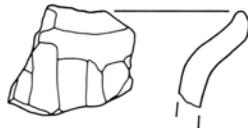
- 1 暗褐色土 砂礫・白色軽石僅含。総社砂層少含。
- 2 暗褐色土 白色粒子少含。総社砂層ブロック僅含。
- 3 暗褐色土 白色粒子少含。
- 4 暗褐色土 白色粒子僅含。

28号土坑 (B-B')

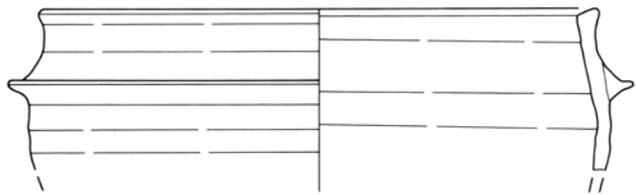
- 1 黒褐色土 白色粒子少含。炭化物僅含。
- 2 暗褐色土 総社砂層ブロック・白色粒子少含。
- 3 黒褐色土 総社砂層ブロック僅含。
- 4 暗褐色土 総社砂層ブロック少含。

24・25・26号土坑 (C-C')

- 1 暗褐色土 総社砂層ブロック僅含。
- 2 暗褐色土 総社砂層ブロック・砂礫少含。
- 3 暗褐色土 砂礫・総社砂層ブロック僅含。
- 4 暗褐色土 総社砂層ブロック僅含。やや締まりあり。
- 5 暗褐色土 総社砂層ブロック少含。



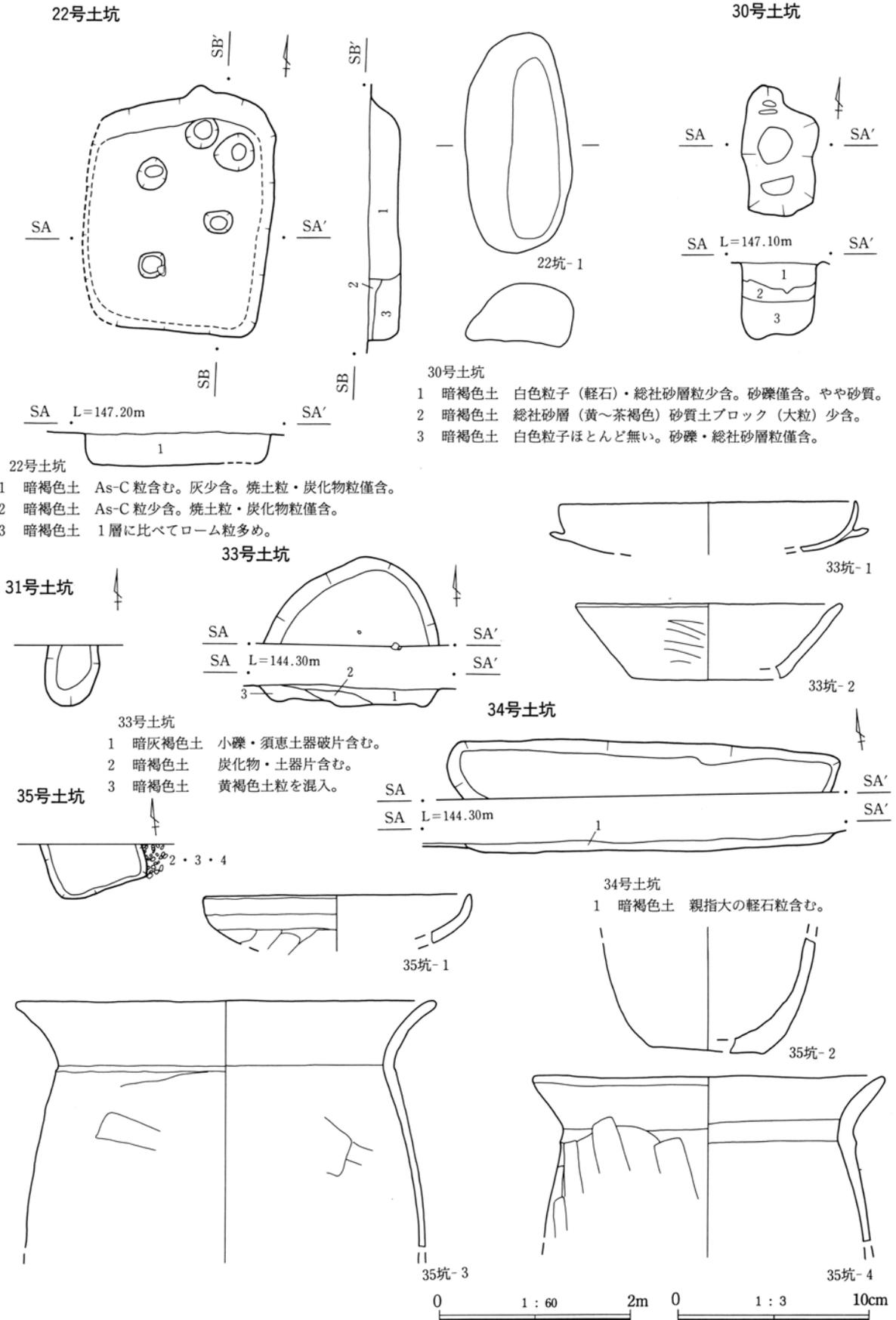
17坑-1



17坑-2

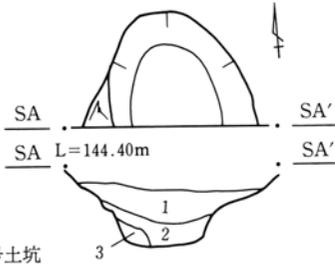
0 1 : 3 10cm

第259図 17・24～29号土坑



第260図 22、30、31、33~35号土坑

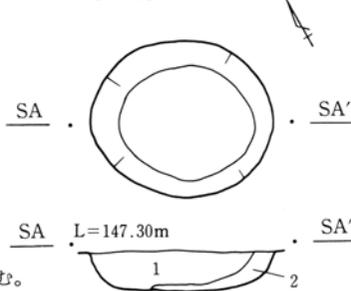
36号土坑



36号土坑

- 1 暗灰褐色土 淡黄褐色粘質土粒が混入。炭化物含む。
- 2 暗褐色土 淡黄褐色土ブロック多含。
- 3 黒褐色土 黒色粘質土ブロック

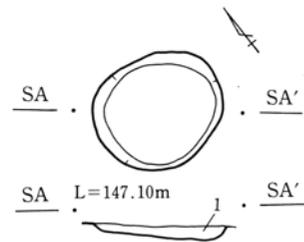
38号土坑



38号土坑

- 1 暗褐色土 総社砂層（礫を多く含む）とAs-B混土の混土。炭化物少含。As-B多含。
- 2 暗褐色土 黒色土と総社砂層の混土。As-Bを少含。

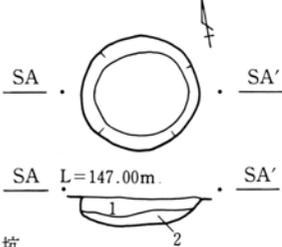
39号土坑



39号土坑

- 1 暗褐色土 黒色土と総社砂層の混土。As-Bを少含。

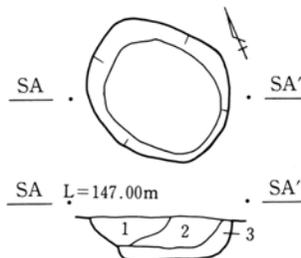
40号土坑



40号土坑

- 1 暗褐色土 黒色土と総社砂層の混土。As-Bを少含。
- 2 黄褐色土 総社砂層主体、黒色土少含。

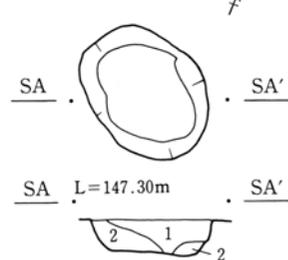
41号土坑



41号土坑

- 1 暗褐色土 総社砂層（礫を多く含む）とAs-B混土の埋土。炭化物少含。As-B多含。
- 2 暗褐色土 黒色土と総社砂層の混土。As-Bを少含。
- 3 黄褐色土 総社砂層主体、黒色土少含。

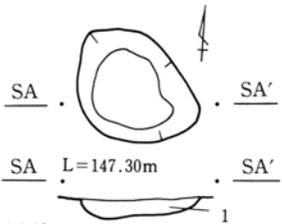
42号土坑



42号土坑

- 1 暗褐色土 総社砂層（礫を多く含む）とAs-B混土の埋土。炭化物少含。As-B多含。
- 2 黄褐色土 総社砂層主体、黒色土少含。

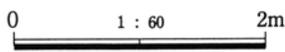
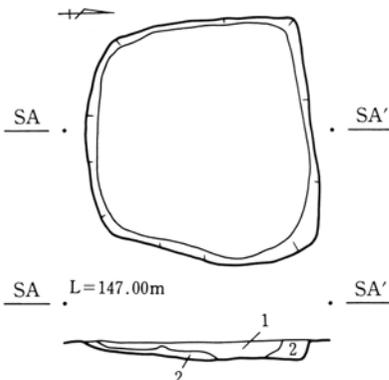
43号土坑



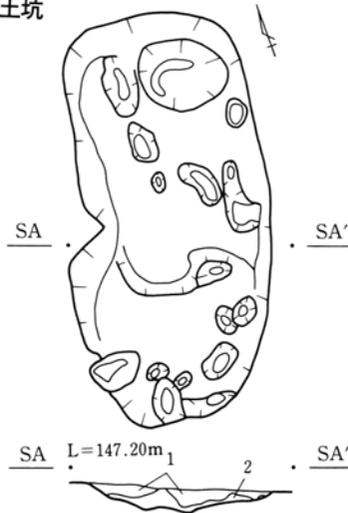
43号土坑

- 1 暗赤褐色土 砂礫・黄褐色土ブロック少含。（縄文土坑）

46号土坑



44号土坑



44号土坑

- 1 暗褐色土 黒色土と総社砂層の混土。As-C少含。
- 2 茶褐色土 総社砂層主体、黄褐色土をブロック状に含む。

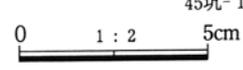
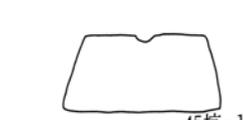
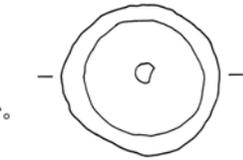
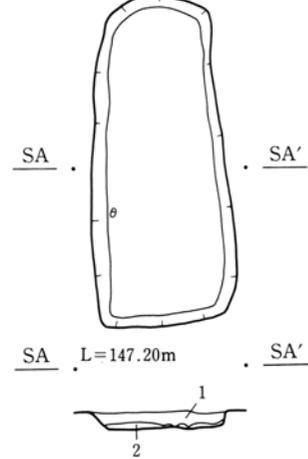
45号土坑

- 1 暗褐色土 総社砂層主体、黒色土ブロック含む。
- 2 黒褐色土 As-C多含。

46号土坑

- 1 暗褐色土 総社砂層主体、黒色土ブロック含む。
- 2 暗褐色土 黄褐色土ブロック多含。（中世以降か）

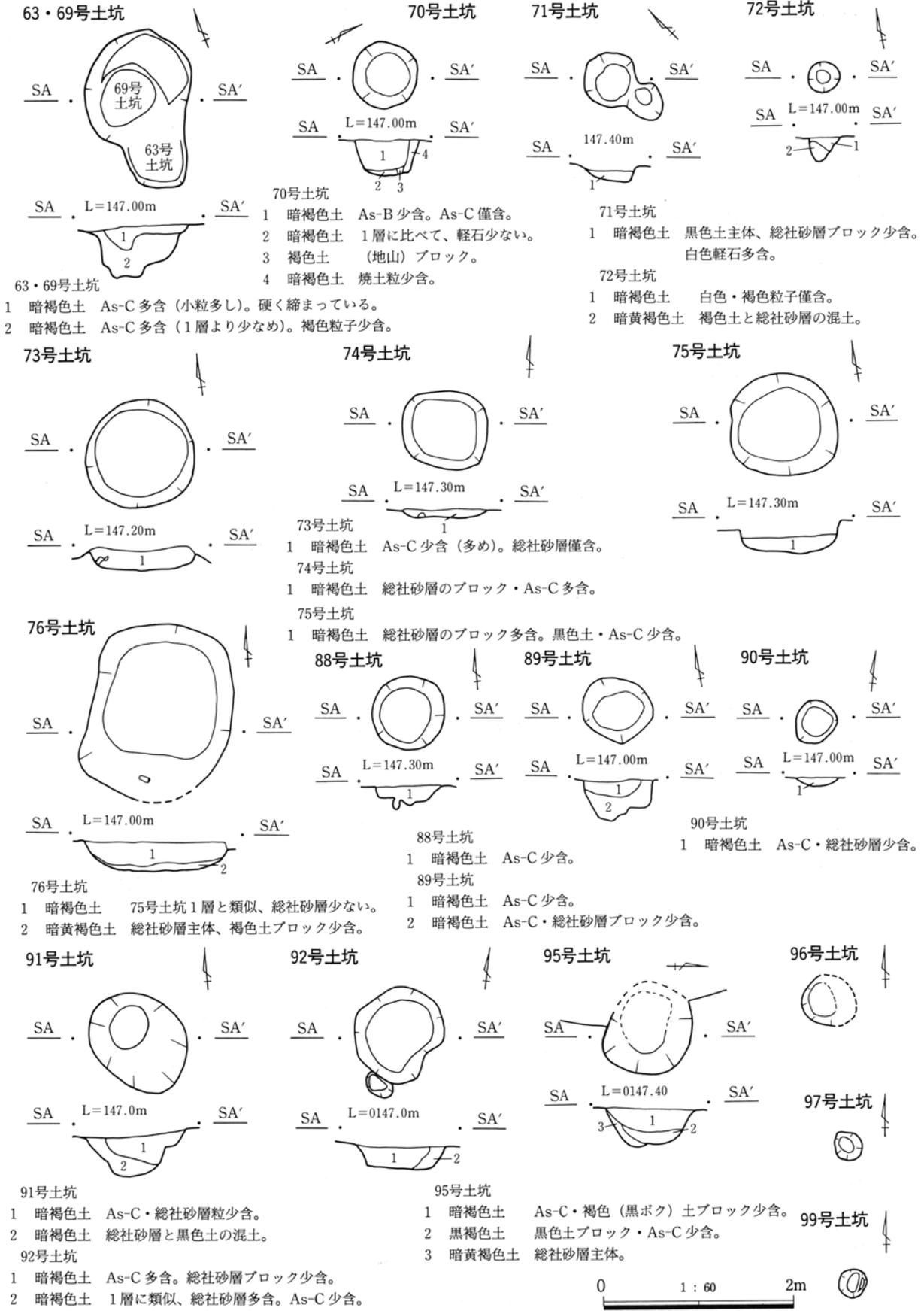
45号土坑



第261図 36、38～46号土坑

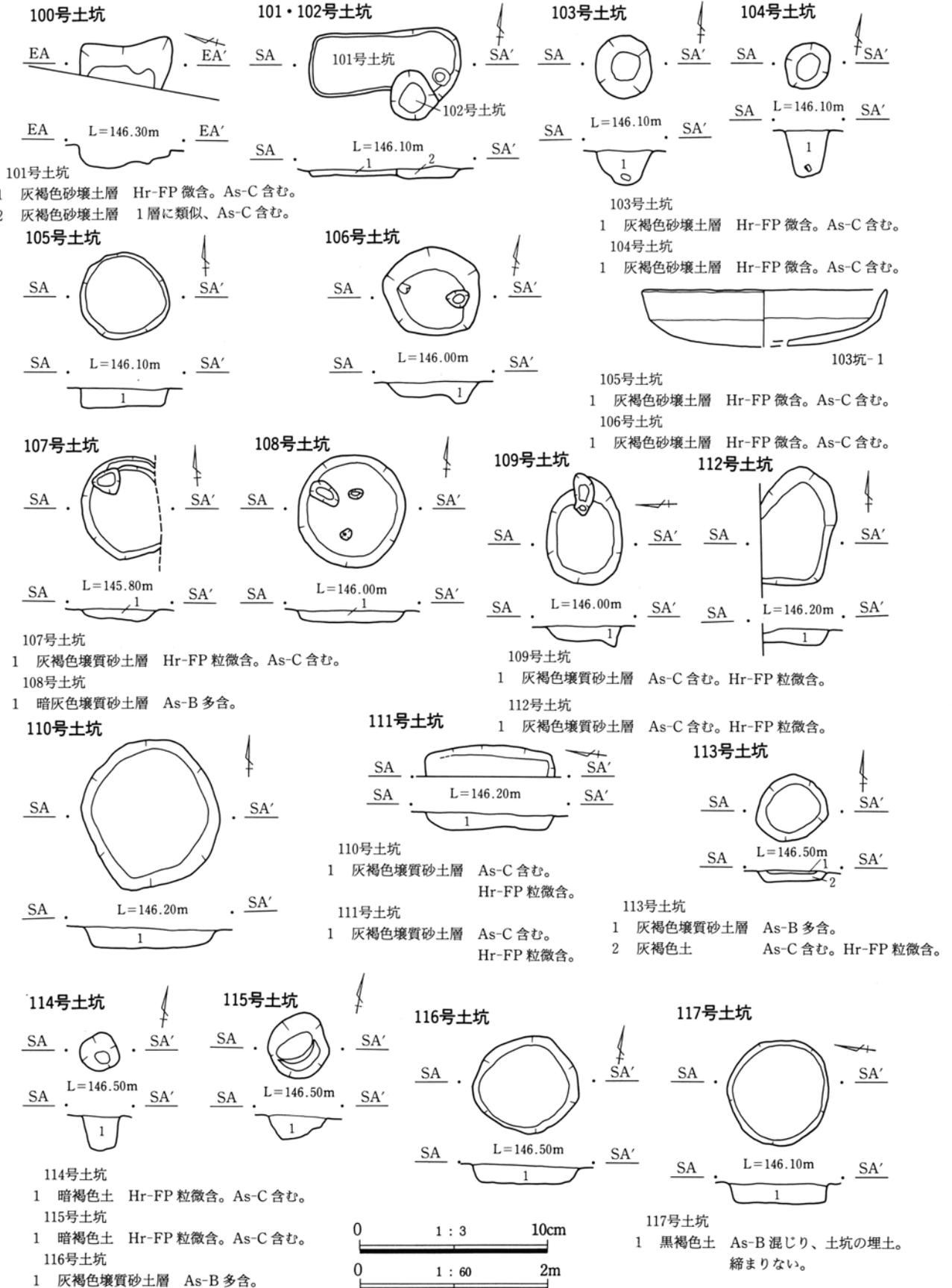


第262図 47、48、50~56、58~60、62、66~68号土坑

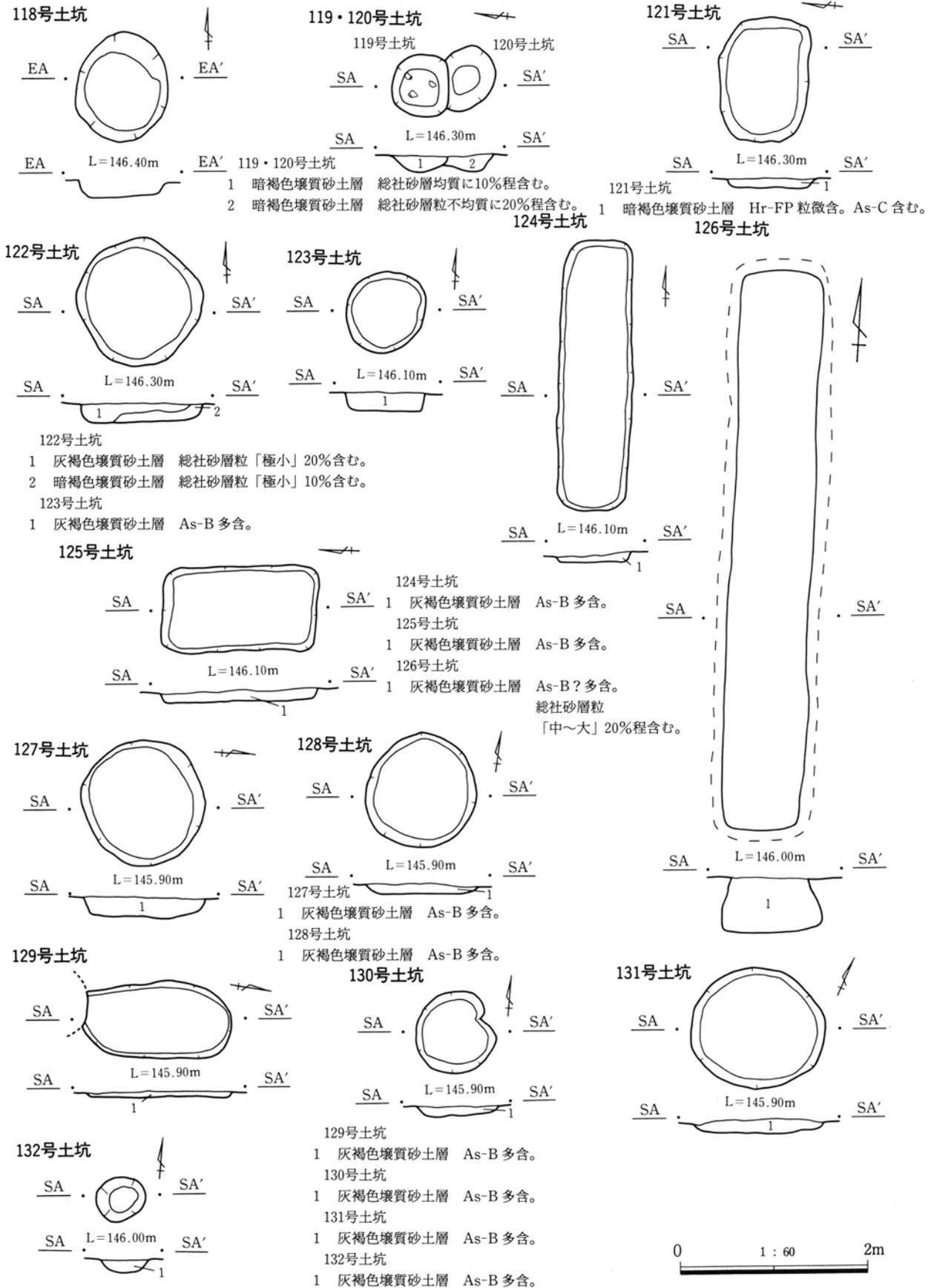


第263図 63、69～76、88～92、95～97、99号土坑

第3章 検出された遺構・遺物

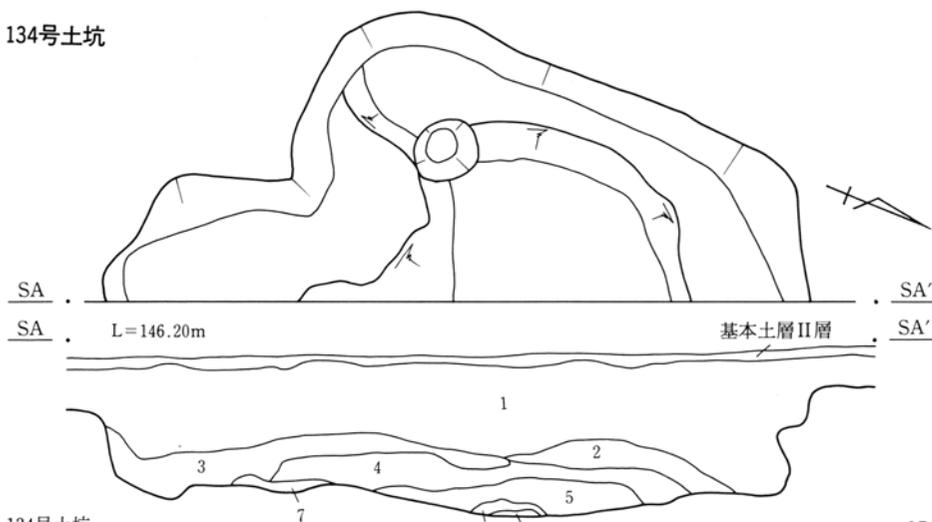


第264図 100~117号土坑



第265図 118~132号土坑

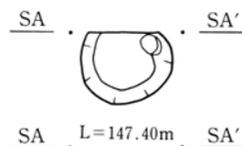
134号土坑



134号土坑

- 1 灰褐色壤質砂土層 Hr-FP 少含。As-C 含む。
- 2 灰褐色壤質砂土層 1層中に総社砂層粒「小～大」30%程含む。1層に比べ軽石少ない。
- 3 灰褐色壤質砂土層 1層中に総社砂層粒「小～大」を均質に20%程含む。1層に比べ軽石少ない。
- 4 暗褐色土 軽石少なく、総社砂層粒「小～中」10%程含む。
- 5 暗褐色土 総社砂層主体、4層少含。
- 6 暗褐色粘土層
- 7 暗褐色土 総社砂層主体、不均質に4層少含。

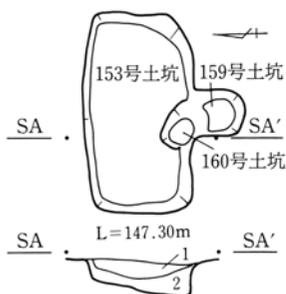
151号土坑



151号土坑

- 1 暗褐色土 As-C 多含。
- 2 暗褐色土 As-C 多含。
黒色土と総社砂層の混土。

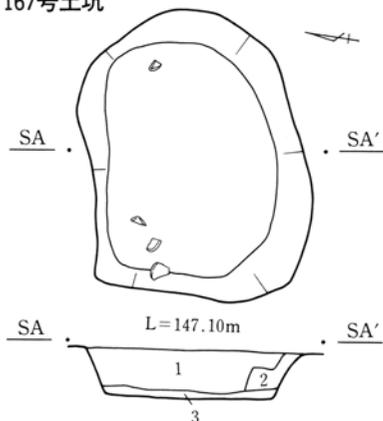
153・159・160号土坑



153・159・160号土坑

- 1 暗褐色土 As-B 多含。
- 2 暗褐色土 As-C 全体に多含。炭化物少含。

167号土坑



167号土坑

- 1 黒褐色土 As-C 少含。総社砂層ブロック・黒色土ブロック僅含。
- 2 暗褐色土 1層に比べて総社砂層ブロック多い。
- 3 暗褐色土 総社砂層ブロックと暗褐色土の混土。貼ったような版築状の堆積。

154号土坑



155号土坑



156号土坑



157・158号土坑



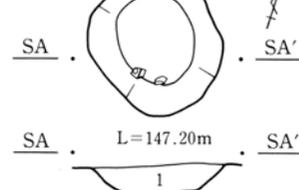
157号土坑



168号土坑



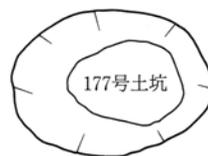
166号土坑



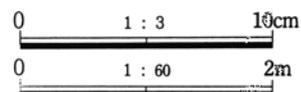
166号土坑

- 1 黒褐色土 As-C 少含。
黒ボク土ブロック・焼土粒僅含。

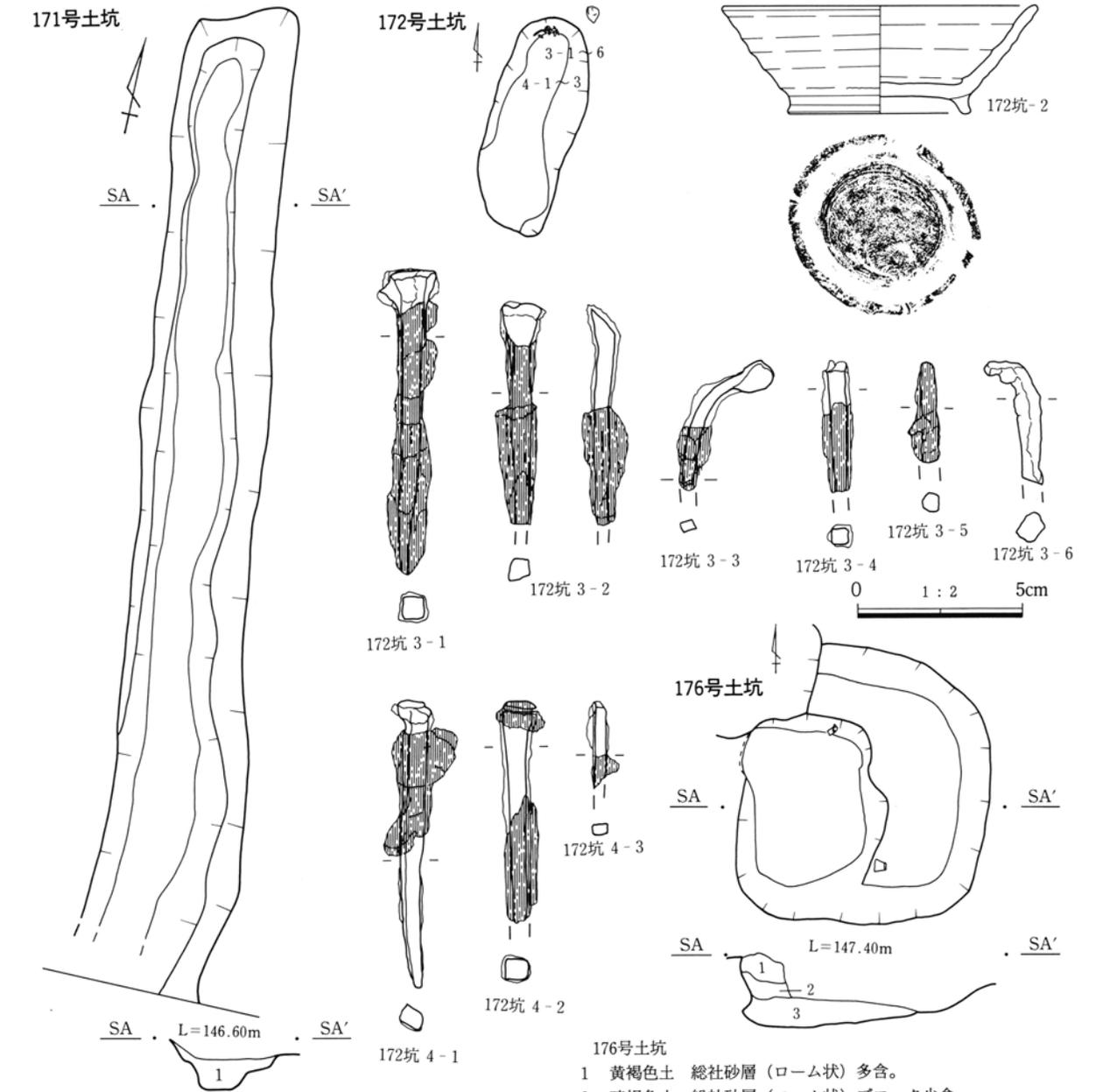
177・178号土坑



178号土坑



第266図 134、150、151、153～160、166～168、179、178号土坑



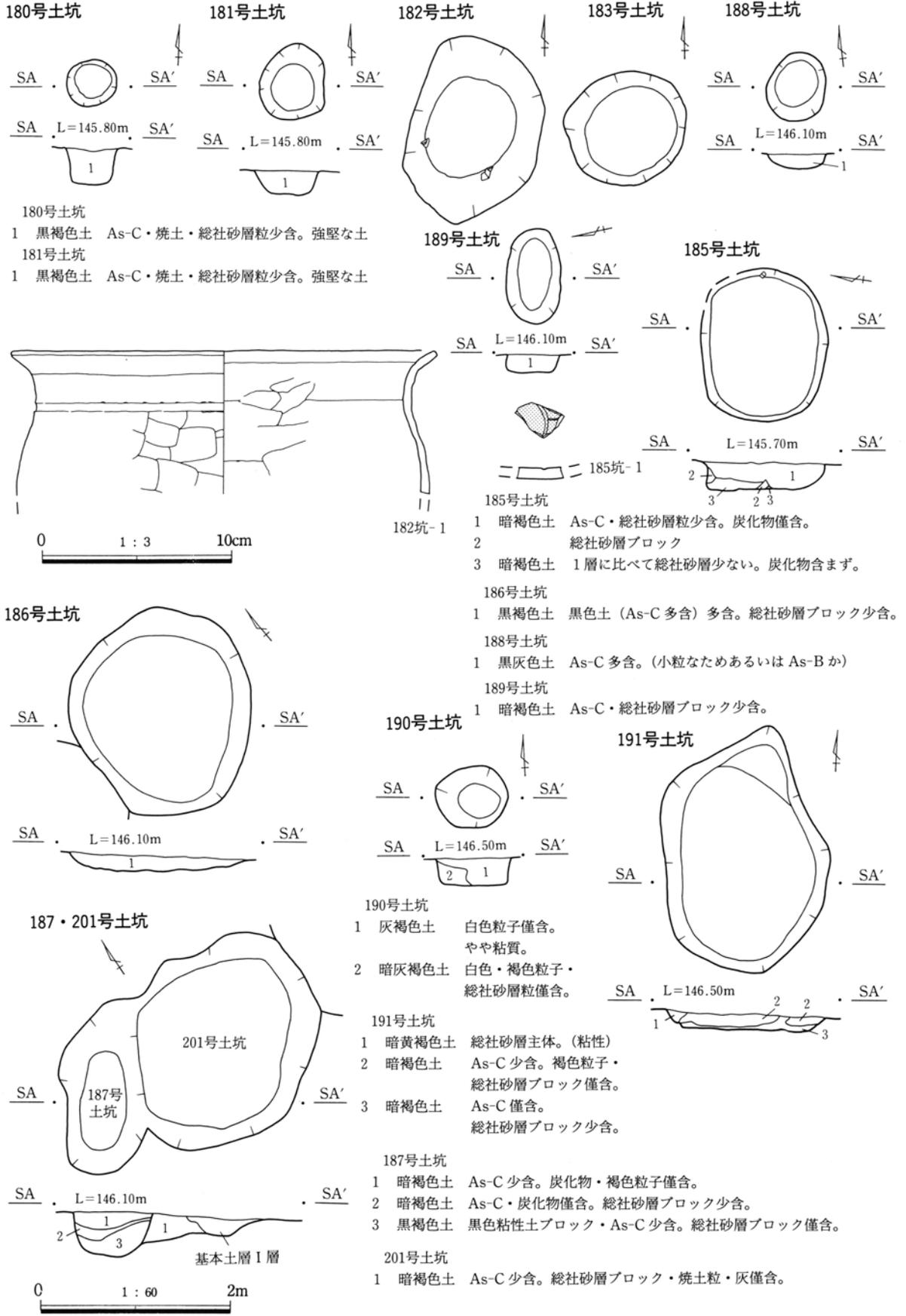
171号土坑
1 暗褐色土 As-C・総社砂層ブロック少含。鉄分附着。砂利僅含。

176号土坑
1 黄褐色土 総社砂層（ローム状）多含。
2 暗褐色土 総社砂層（ローム状）ブロック少含。
3 暗褐色土 総社砂層（ローム状）ブロック・黒色土ブロック僅含。

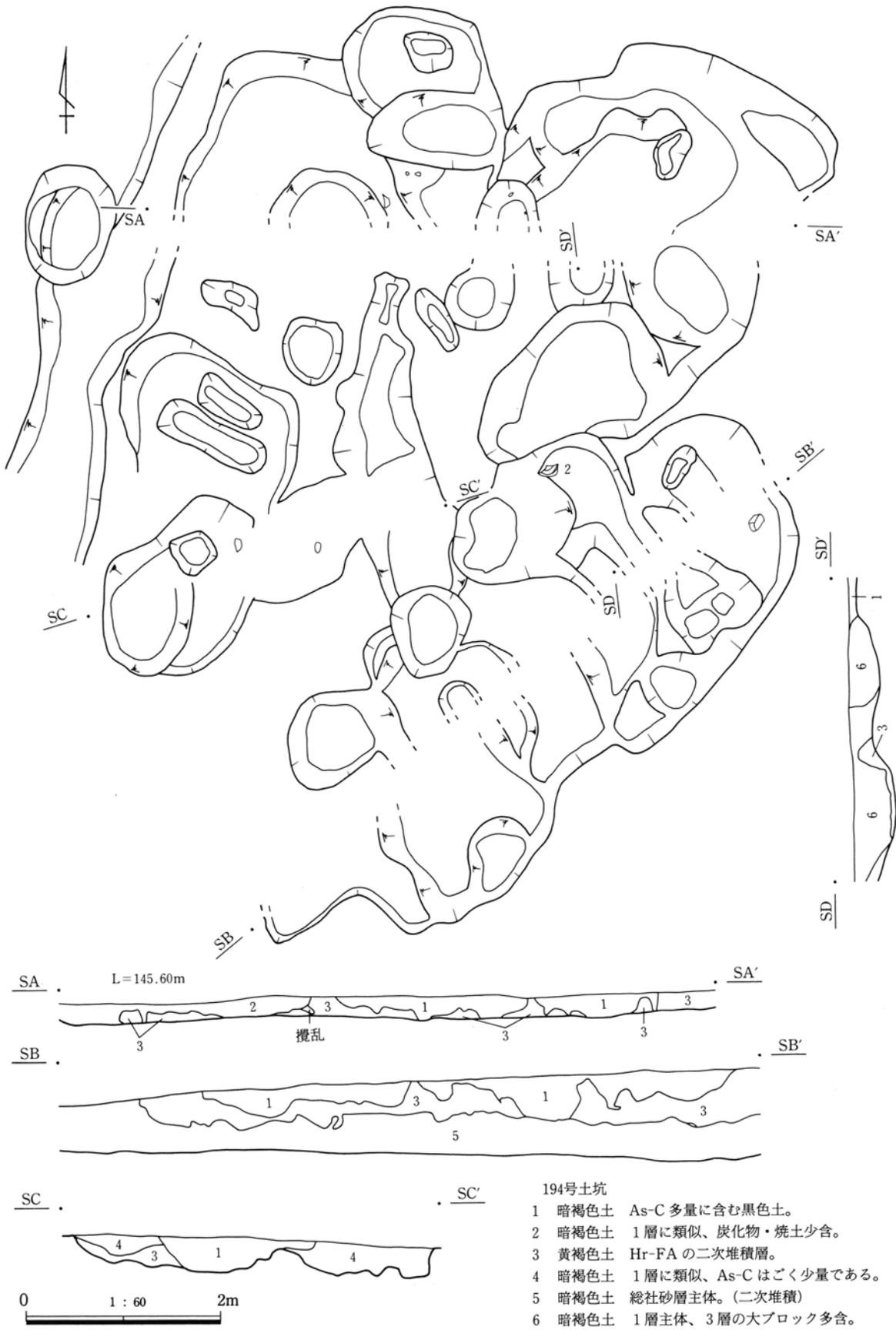
179号土坑
1 黒褐色土 As-C・総社砂層粒・焼土粒多含。
2 黒褐色土 総社砂層粒多含。

第267図 171、172、176、179号土坑

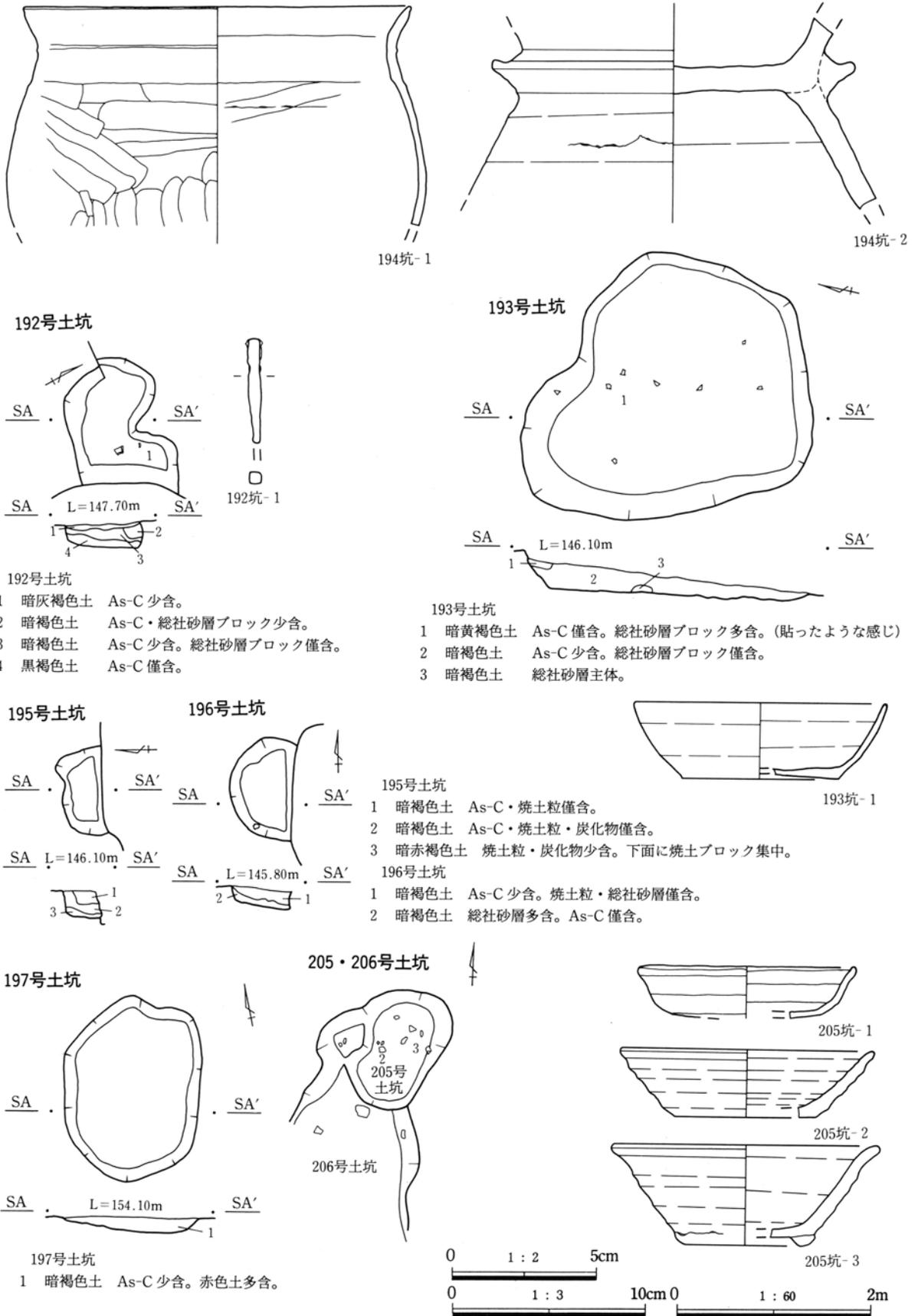
第3章 検出された遺構・遺物



第268図 180~183、185~191、201号土坑

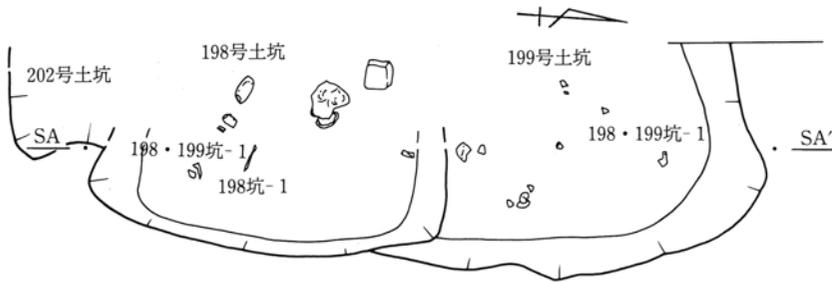


第269図 194号土坑



第270図 192～196、197、205、206号土坑

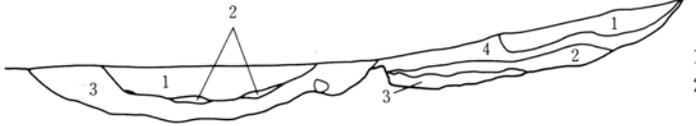
198・199・202号土坑



SA L=145.60m

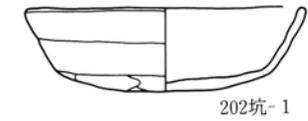


198・199坑-1



198・199号土坑

- 1 暗褐色土 As-C多含。
- 2 茶褐色土 FA二次堆積層ブロック多含。
As-C少含。
- 3 暗褐色土 As-C少含。総社砂層小ブロック少含。
- 4 暗褐色土 3層に類似、FA小ブロック多含。



202坑-1



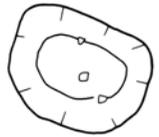
202坑-2



202坑-3



SA



SA'

SA

L=147.50m

SA'



2

1

207号土坑

- 1 黒褐色土 砂質。As-C・総社砂層ブロック僅含。
- 2 暗褐色土 総社砂層ブロック少含。黄褐色粒子僅含。

208号土坑



SA L=147.10m SA'

SA

SA'

1

2

3

208号土坑

- 1 暗褐色土 As-C・総社砂層粒僅含。
- 2 暗褐色土 総社砂層ブロック少含。
- 3 黄灰色土 総社砂層(砂質)多含。

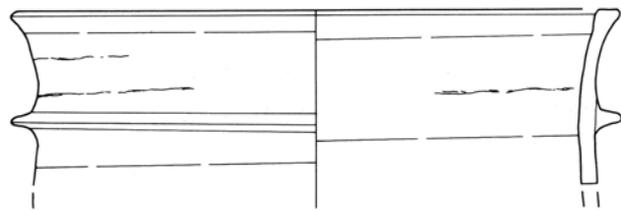


200坑-2

0 1 : 2 5cm

0 1 : 3 10cm

0 1 : 60 2m



200坑-1

第271図 198~200、202、207、208号土坑

第3章 検出された遺構・遺物

210号土坑



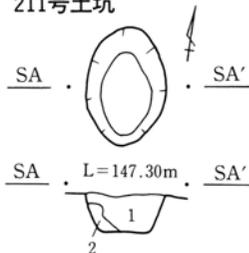
210号土坑

- 1 暗褐色土 総社砂層と褐色土の混土。
- 2 黒褐色土 灰色土ブロック・総社砂層粒僅含。

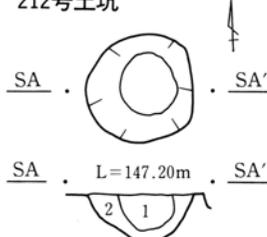
211号土坑

- 1 黒褐色土 砂質。白色軽石 (As-A?) 少含。
- 2 暗褐色土 総社砂層ブロック少含。

211号土坑



212号土坑



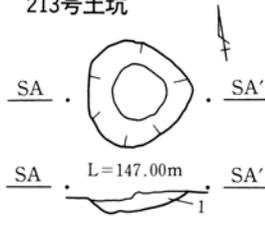
212号土坑

- 1 暗褐色土 As-C 少含。総社砂層ブロック僅含。
- 2 暗褐色土 As-C 僅含。総社砂層ブロック少含。

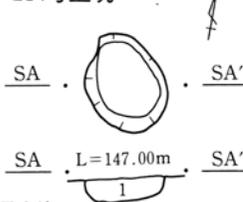
213号土坑

- 1 暗褐色土 As-C 僅含。総社砂層ブロック少含。

213号土坑



214号土坑



214号土坑

- 1 黒褐色土 黒色土ブロック・As-C 少含。

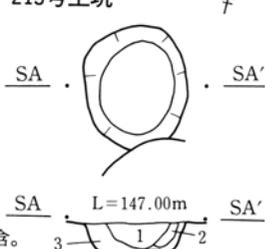
215号土坑

- 1 黒褐色土 黒色土ブロック・As-C 少含。総社砂層僅含。

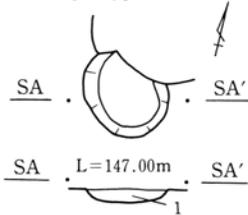
- 2 暗褐色土 総社砂層ブロック少含。As-C 僅含。

- 3 暗褐色土 総社砂層ブロック少含。

215号土坑



216号土坑



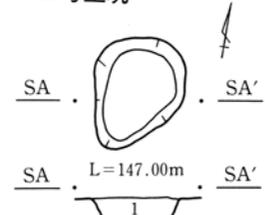
216号土坑

- 1 暗褐色土 As-C 少含。砂利僅含。

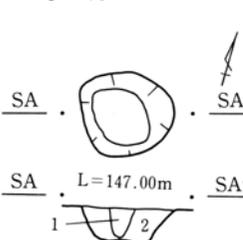
217号土坑

- 1 暗褐色土 As-C・総社砂層粒・炭化物・褐色粒子僅含。

217号土坑



218号土坑



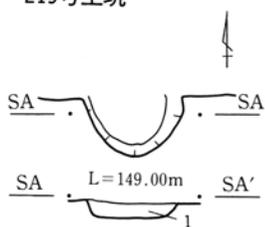
218号土坑

- 1 暗褐色土 総社砂層粒少含。炭化物僅含。
- 2 暗褐色土 As-C・黒色土ブロック少含。総社砂層粒僅含。

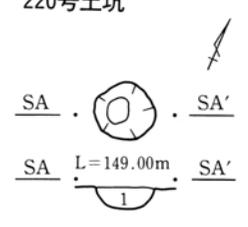
219号土坑

- 1 黒褐色土 As-C 少含。炭化物・総社砂層粒僅含。

219号土坑



220号土坑



220号土坑

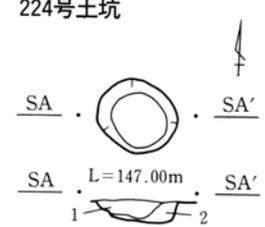
- 1 黒褐色土 黒色土少含。As-C 僅含。

224号土坑

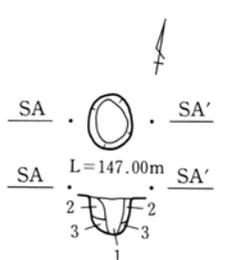
- 1 黒褐色土 As-C・総社砂層粒多含。

- 2 黒褐色土 As-C 多含。

224号土坑



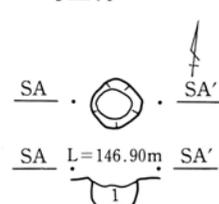
226号土坑



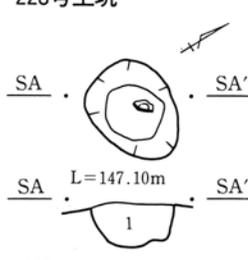
226号土坑

- 1 黒褐色土 As-C・総社砂層粒少含。
- 2 黒褐色土 As-C・焼土多含。
- 3 黒褐色土 As-C・総社砂層土多含。

227号土坑



228号土坑

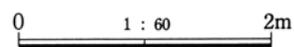


227号土坑

- 1 暗褐色土 As-C・褐色土粒僅含。

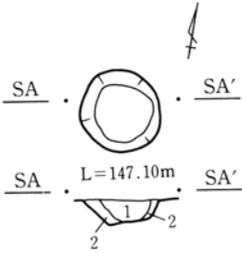
228号土坑

- 1 黒褐色土 As-C 多含。黒褐色土僅含。



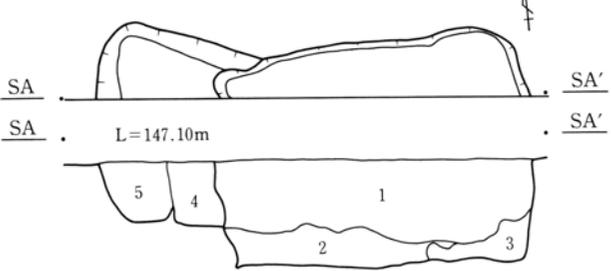
第272図 210~220、224、226~228号土坑

230号土坑



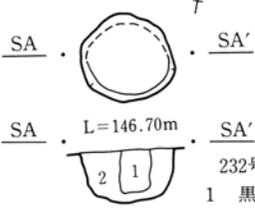
- 230号土坑
 1 黒褐色土 As-C・総社砂層粒多含。
 2 黒褐色土 総社砂層粒多含。

231号土坑



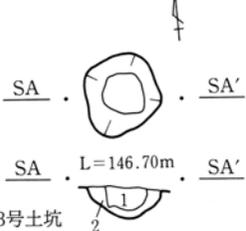
- 231号土坑
 1 暗褐色土 やや黒味がかっている。As-C・黒色土ブロック少含。下半部に総社砂層ブロック少含。
 2 暗褐色土 総社砂層多含。As-C及び暗褐色土ブロック僅含。
 3 黒褐色土 黒色土主体。As-Cほとんど無い。
 4 暗褐色土 総社砂層粒・ブロック少含。
 5 暗褐色土 総社砂層ブロック少含。

232号土坑



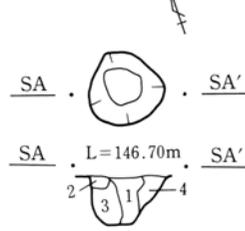
- 232号土坑
 1 黒褐色土 As-C・総社砂層多含。
 2 黒褐色土 As-C・総社砂層粒少含。

233号土坑



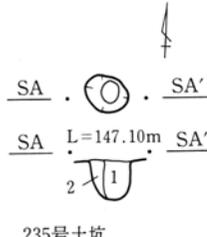
- 233号土坑
 1 黒褐色土 As-C多含。ローム土粒少含。
 2 黒褐色土 ローム土粒多含。

234号土坑



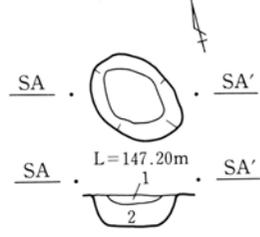
- 234号土坑
 1 黒褐色土 As-C・総社砂層ローム土多含。
 2 黒褐色土 総社砂層粒多含。
 3 黒褐色土 総社砂層粒極多含。
 4 黒褐色土 ローム土多含。

235号土坑



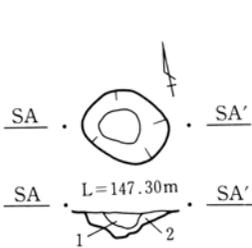
- 235号土坑
 1 暗褐色土 白色粒子 (As-A or B?) 僅含。やや砂質。
 2 暗褐色土 総社砂層ブロック僅含。

236号土坑



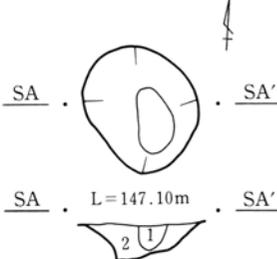
- 236号土坑
 1 暗灰褐色土 やや粘質。
 2 暗褐色土 1層をブロック状に少含。

237号土坑



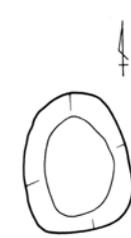
- 237号土坑
 1 黒褐色土 As-C・総社砂層ブロック多含。
 2 黒褐色土 As-C・総社砂層粒多含。

238号土坑

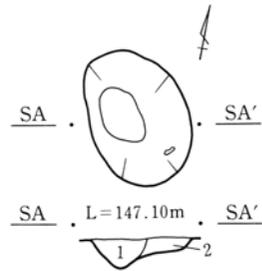


- 238号土坑
 1 黒褐色土 As-C・総社砂層粒多含。
 2 黒褐色土 As-C少含。

239号土坑

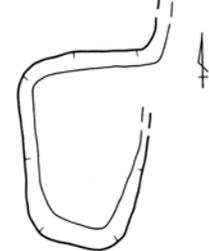


241号土坑



- 241号土坑
 1 黒褐色土 As-C・総社砂層粒少含。
 2 黒褐色土 As-C多含。

242号土坑

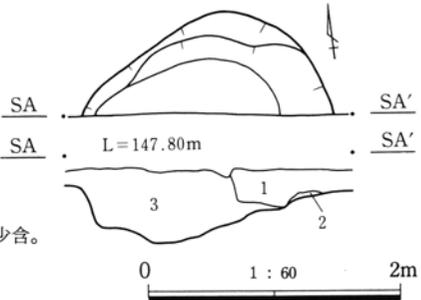


243号土坑



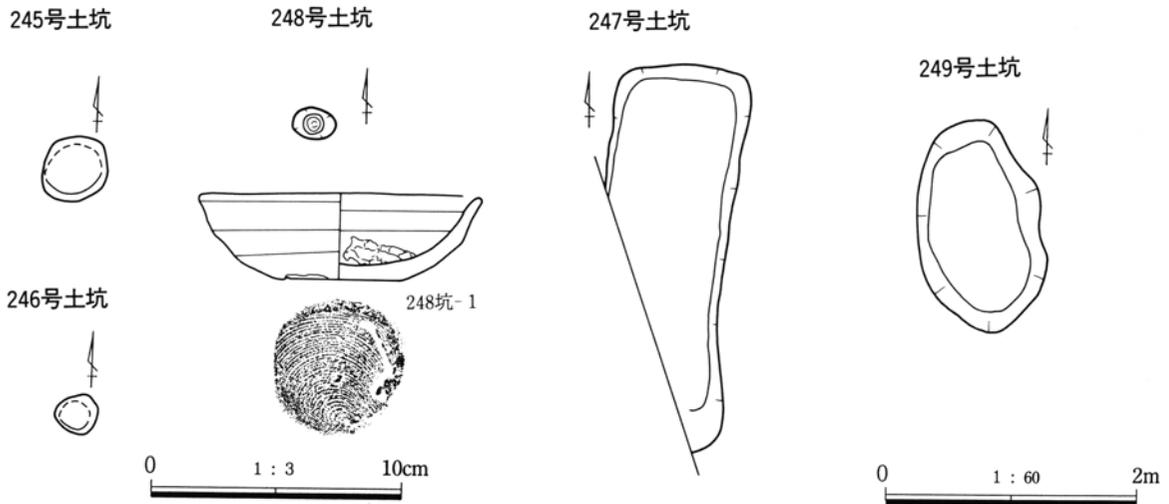
- 243号土坑
 1 暗褐色土 As-C少含。総社砂層粒僅含。
 2 暗褐色土 As-C少含。総社砂層ブロック少含。
 3 黒褐色土 As-C・黒色土少含。

244号土坑



0 1 : 60 2m

第273図 230~239、241~244号土坑



第274図 245～248号土坑

2号井戸（第277図、写真110）

2区に位置し、穴の形態はほぼ円形で、規模は開口部の直径約1.1m、深さ約2.5mである。

1号地下式土坑（第278図、写真111）

2区に位置し、重複関係では11号竪穴住居跡のカマド部分と床面中央部分、99号竪穴住居跡の南西隅部分を壊しているが、中世の21号溝との新旧関係は不明である。形状は凸形であり、おそらくは細い突出部分が床面よりやや高い位置で段状になっていた入り口と考えられる従来の形態と考えられる。床面は掘り込んだ遺物については、崩れ落ちた11号竪穴住居跡のカマド付近から床面中央部分にかけて存在したと考えられる10世紀後半を中心とする遺物以外はまったく認められなかった。

石垣（第279図、写真111）

2区に位置し、遺跡の存在する台地の南限を把握するための試掘トレンチにより部分的に検出された。石垣の表面の様子と積み上げた断面、それに底部の様子を見るために深く掘り下げたところ、約度の角度で積み上げた何段もの表面の大石と、裏込めされた多量の小石が確認された。現存する高さは約2mであるが、多数の大小の石が石垣底部から南側にかけて散在することから、本来はもっと高く積み重ねられていた旧崖面養生のための石垣の上部分が土地改良工事の際に崩し落とされたものと考えられる。

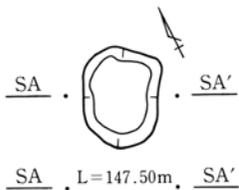
土地改良以前の状態については、本遺跡の東に隣接する下東西遺跡の発掘調査報告書の中で、不鮮明ながら遺跡空撮、及び遠景などの写真として記録されており、実際に確認されたと言える。

さらに、底面からはいくつものつながれた土管と、多量の湧水が認められたが、地元の話から、土地改良以前の旧崖面養生のための石垣の下から湧き出していた水を土管を利用することで、遺跡の存在する台地の南から東にかけて細長く広がる低地の水田の用水として引き込んでいたことが判明した。

だが、最初に構築された時期については、判断できる材料が少ないために不明である。

第5節 鎌倉時代以降
ピット4

ピット1



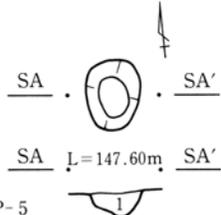
P-1

- 1 暗褐色土 基本土層III層とV層の混土。
- 2 淡黄褐色土 基本土層VI層とV層の混土。砂質で締まりない。

P-2

- 1 暗褐色土 基本土層VI層とV層の混土主体。白色軽石 (As-C?) 少含。

ピット5



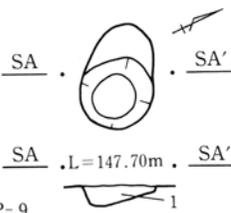
P-5

- 1 暗褐色土 基本土層III層とV層の混土。砂質で締まりない。

P-6

- 1 暗褐色土 基本土層VI層主体。As-C? 少含。

ピット9



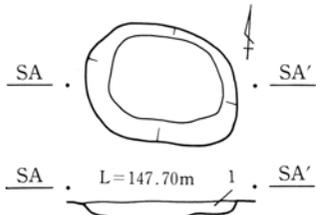
P-9

- 1 暗褐色土 基本土層III層とV層の混土。白色軽石 (As-C?) 多含。

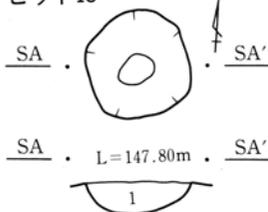
P-10

- 1 暗褐色土 基本土層VI層とV層の混土。
- 2 淡黄褐色土 基本土層VI層とV層の混土。V層を主体とする層。
- 3 暗褐色土 基本土層VI層主体。III層土少含。

ピット11



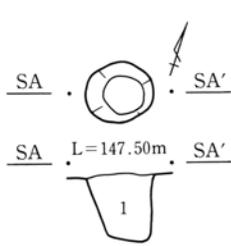
ピット13



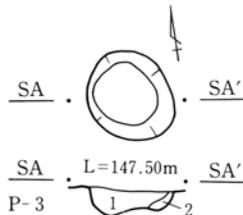
P-13~P-15

- 1 灰褐色土 2cm大の礫多含。近代の攪乱に伴うものと思われる。

ピット2



ピット3



P-3

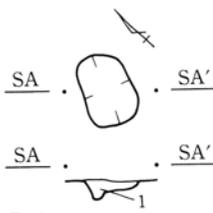
- 1 淡黄褐色土 基本土層V層土主体。1cm以上の礫多含。
- 2 暗褐色土 基本土層VI層とV層の混土。締まりのない土。

P-4

- 1 暗褐色土 基本土層VI層とV層の混土中に1cm以下の礫多含。

ピット7 現代所産か?

ピット8



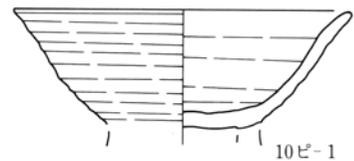
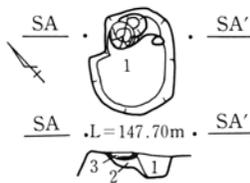
P-7

- 1 淡黄褐色土 基本土層V層主体。VI層土・白色軽石 (As-C?) 少含。

P-8

- 1 暗褐色土 基本土層VI層とV層の混土。As-C? 少含。

ピット10



10ピ-1



0 1:3 10cm

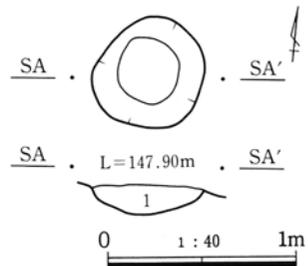
P-11

- 1 暗褐色土 基本土層III層とV層の混土。白色軽石 (As-C?) 多含。

P-12

- 1 暗褐色土 基本土層VI層とV層の混土主体。白色軽石 (As-C?) 少含。
- 2 暗褐色土 基本土層VI層とV層の混土。1cm以下の礫多含。
- 3 暗褐色土 基本土層V層主体。1cm以下の礫多含。

ピット15

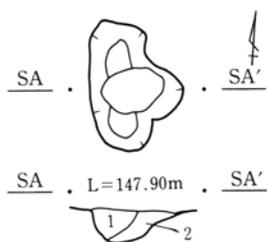


0 1:40 1m

第275図 1~15号ピット

第3章 検出された遺構・遺物

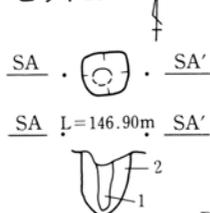
ピット16・17



P-16・17

- 1 暗褐色土 基本土層VI層とV層の混土。VI層主体。
- 2 淡黄褐色土 基本土層VI層主体。V層をブロック状に含む。

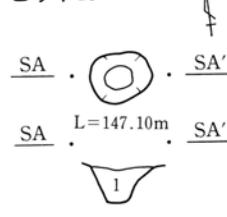
ピット18



P-18

- 1 暗褐色土 やや砂質。白色粒子少含。
- 2 暗灰褐色土 粘性。粘土ブロック（充てん土）と暗褐色土の混土。

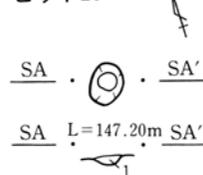
ピット19



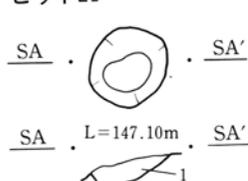
P-19~P-23

- 1 茶褐色土 粘質の黒色土と砂層の混土。

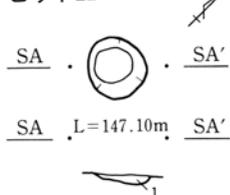
ピット20



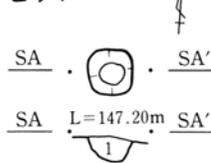
ピット21



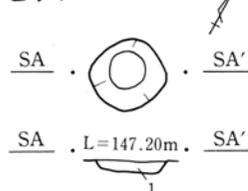
ピット22



ピット23

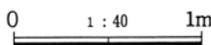


ピット24

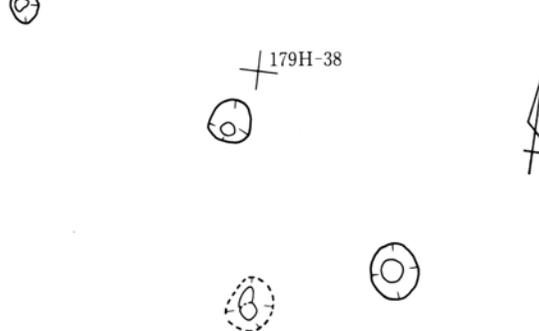


P-24

- 1 茶褐色土 砂質土主体。黒色粘土少含。



32号住居周辺ピット群



第276図 16~24号ピット、32号住居跡周辺ピット

暗渠（第280図、写真112）

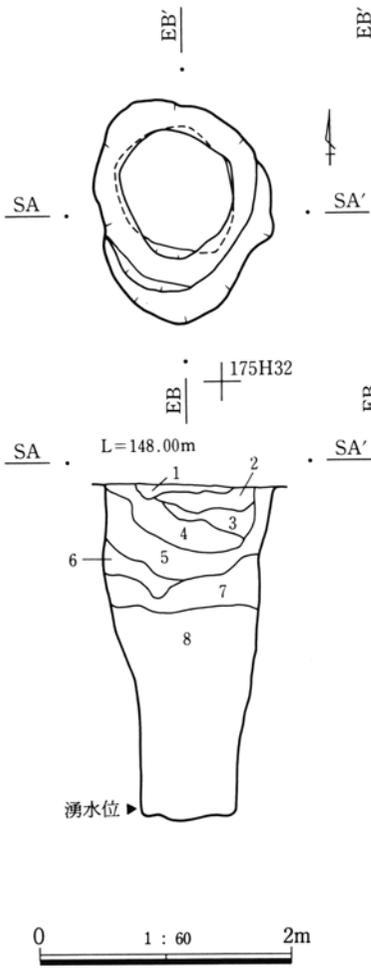
1区に位置し、重複関係では11号溝との新旧関係が不明だが、両側の壁に並んだ石列、つまり側石や天井に被せてある石が南端部分で途切れる様子や、11号溝の南側の暗渠の延長部分と考えられる部分に、暗渠の掘り込みや石の列が確認されないことから、おそらくは暗渠からの水が11号溝に流れ込むような形での同時存在であったと考えられる。そして、11号溝を南限とし、北に広がって存在したであろう環濠屋敷に関係する遺構と考えるのが妥当であろう。

畠跡（第281図、写真110・112）

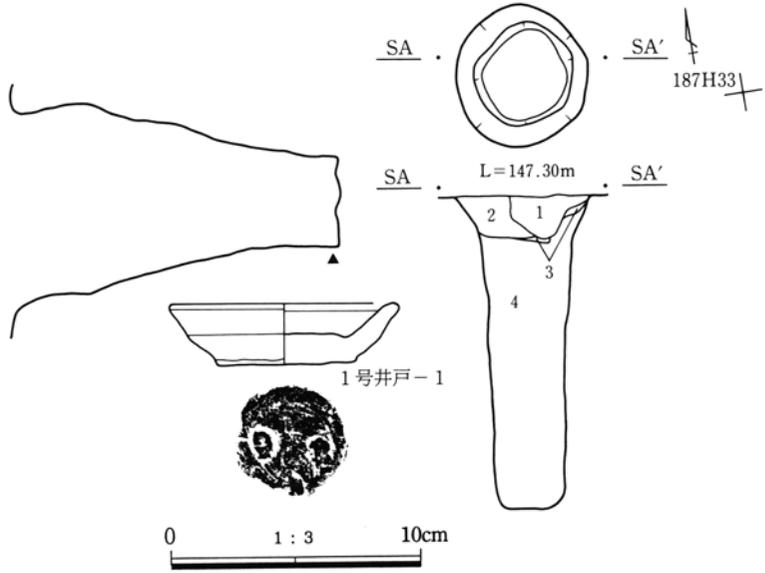
2区を中心に南北方向と東西方向の畝間が重なり合って検出されているが、個々の新旧関係は不明確である。大部分は発掘調査開始時点での遺構確認作業の際に検出されていることから、土地改良前後の時期のものと考えられる。

さらに、この周辺から群馬町東国分や西国分などの台地部分に広く確認されている Hr-FA により埋没した古墳時代後期の畠が部分的に検出されており、本遺跡でもその痕跡が僅かだが確認された。

1号井戸



2号井戸



1号井戸

- 1 灰褐色土 表土主体。
- 2 灰褐色土 表土主体。1cm以下の小礫を多含。
- 3 茶褐色土 基本土層V層主体。VI層土少含。
- 4 暗褐色土 基本土層VI層主体。V層土少含。
- 5 暗褐色土 基本土層VI層主体。III層土を小ブロック状に含む。締まりない。
- 6 暗褐色土 基本土層VI層とV層の混土。
- 7 暗褐色土 基本土層VI層主体。V層をブロック状に少含。
- 8 暗褐色土 7層に類似、ブロックが大きい。

2号井戸

- 1 暗褐色土 As-B少含。As-C?僅含。
- 2 暗褐色土 灰色土ブロック・総社砂層ブロック僅含。
- 3 淡褐色土 貼り付くように広がっている。
- 4 暗灰色土 灰色土ブロック少含。白色粒子少含(1・2層よりは少ない)。

第277図 1、2号井戸

1号倒木 (第281図、写真112・113)

3区に位置し、時期は不明である。楕円形の形態や断面土層の様子から西の方向に倒れたと考えられる。

2号倒木 (第281図、写真112・113)

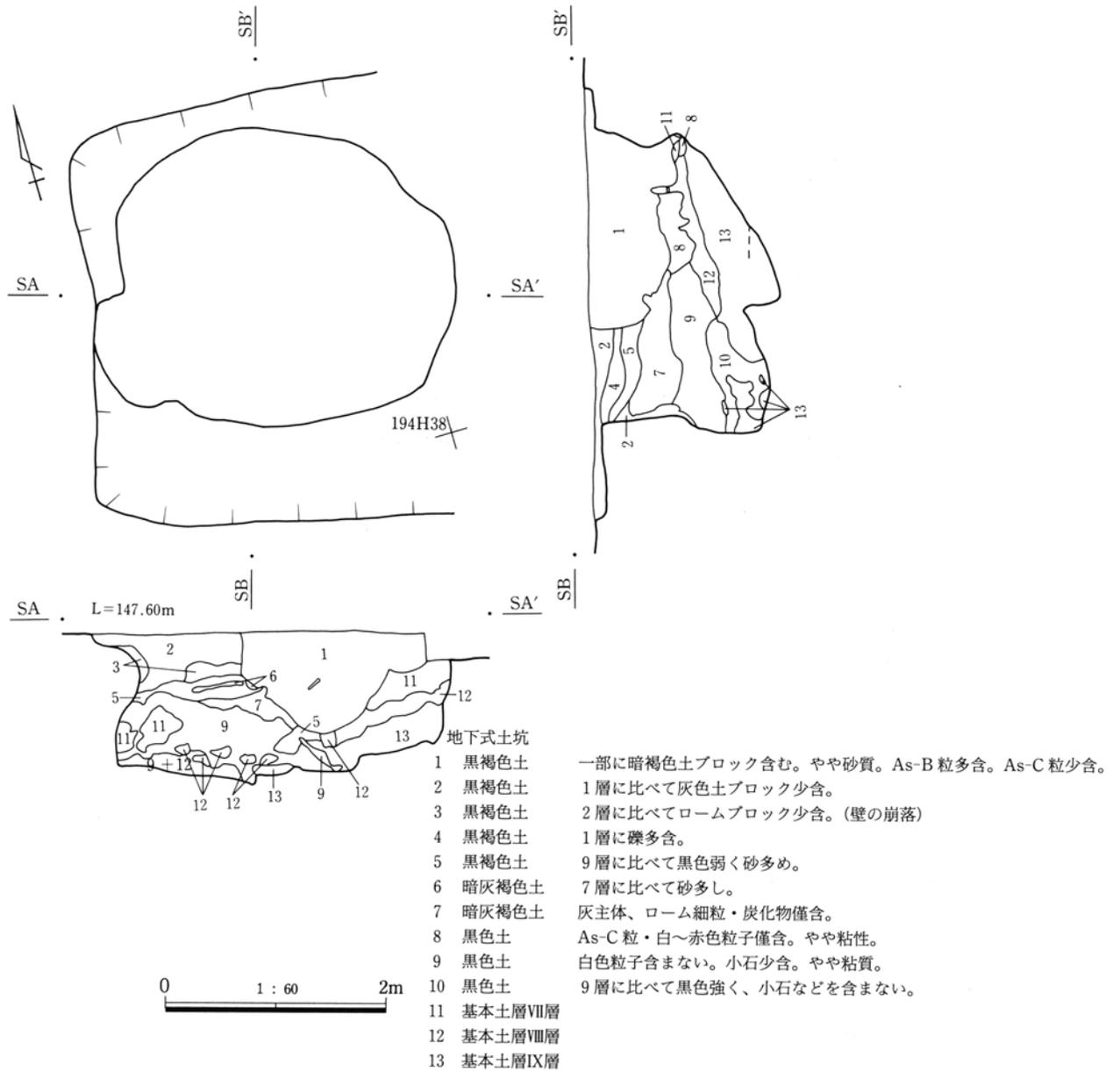
3区に位置し、時期は不明である。半円形の形態や断面土層の様子から南西の方向に倒れたと考えられる。

4号道跡 (第282図、写真112)

竪穴住居跡群の確認作業中に硬化面を検出したことから、土地改良以前の農道と考えられる。このほかにも、遺構確認作業中にいくつかの道跡と考えられる遺構が確認されたが、記録化はされていない。

グリッド一括遺物 (第283～288図、写真151～155)

数多く出土した遺物の中で、代表的な遺物として、緑 陶器の輪花皿・稜椀・椀・皿 (第4章第3節参照)、内面の放射状及び螺旋状の暗文土器、底部静止糸切りの土師器などがある。



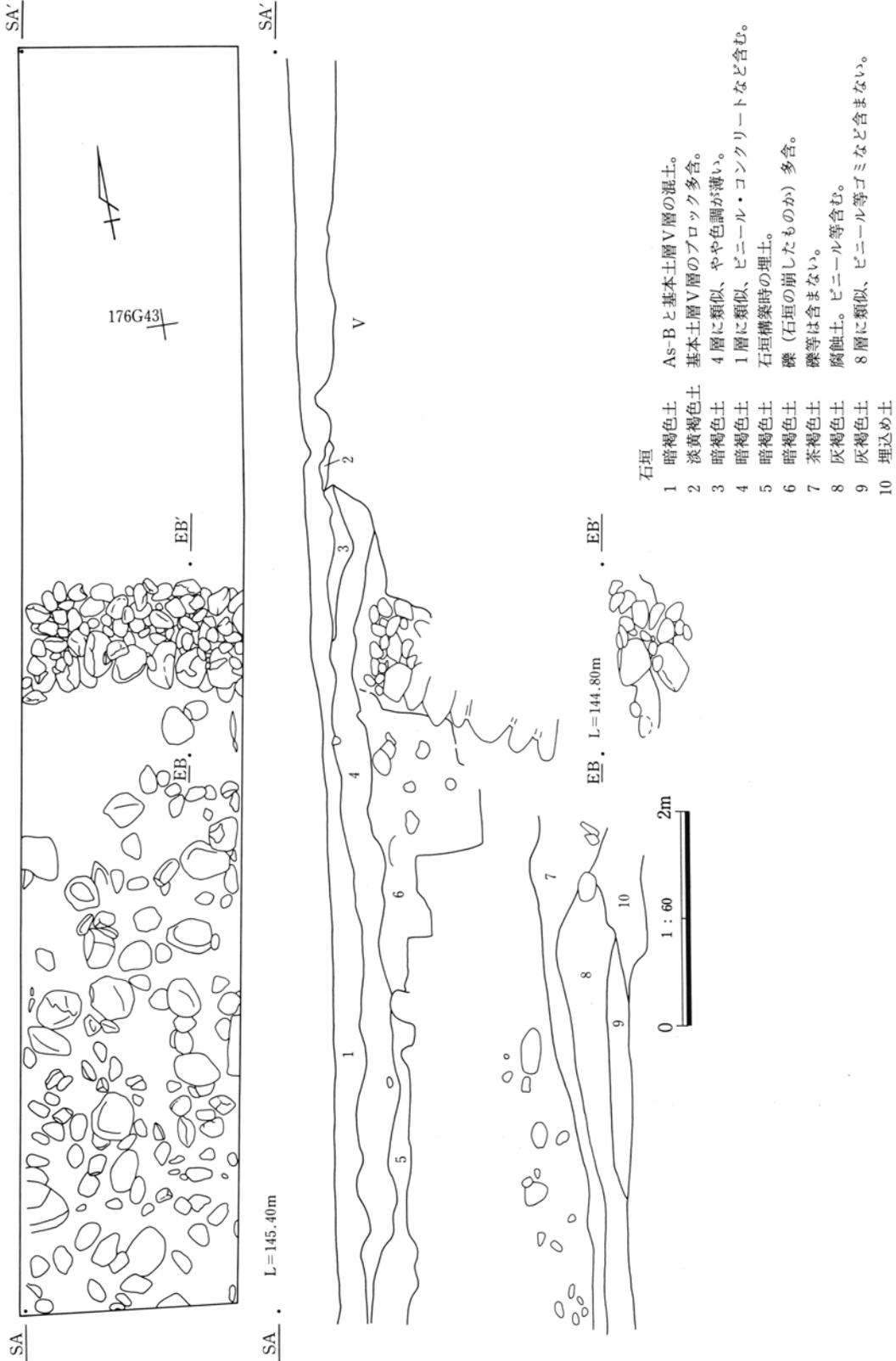
第278図 地下式土坑

1区・2区・3区一括遺物 (第289～291図、写真155・156)

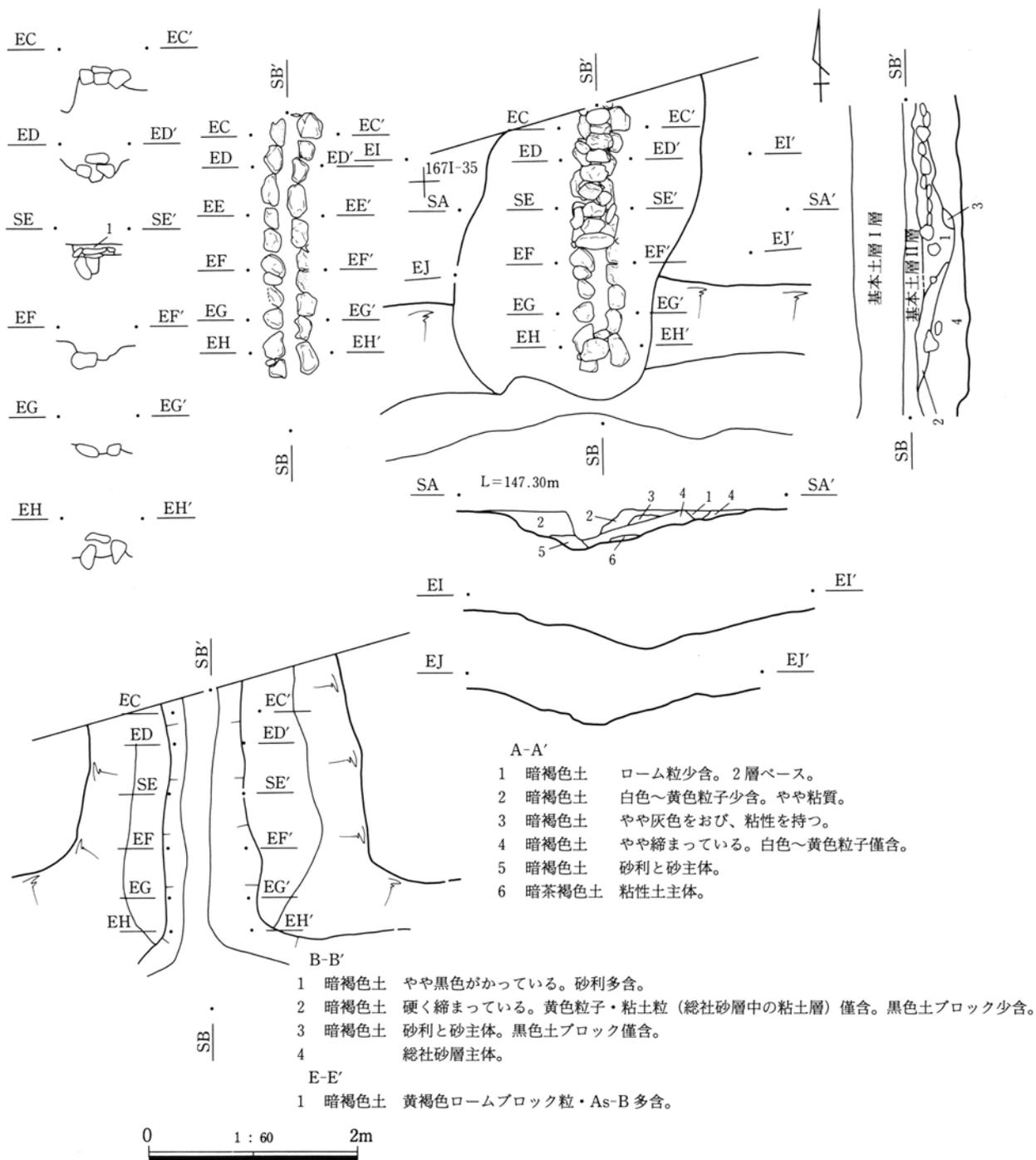
グリッドと同様に数多く出土した遺物の中で、脚付土器の脚部破片(2区)、体部内外面に2段の螺旋状暗文を施した県内でも出土例が少ない暗文土器(3区:第4章第2節参照)などが代表遺物である。

古代瓦 (第292～297・301図、写真162～164)

古代瓦は総数で77点出土しており、すべてについて観察した。(第13表参照)だが、整理作業開始当初は瓦に分類していたものの、観察の結果、瓦か須恵器のどちらか判別できない資料1点と、表面化粧がある塑像と考えられる塑物1点もここに含めておく。



第279図 石垣



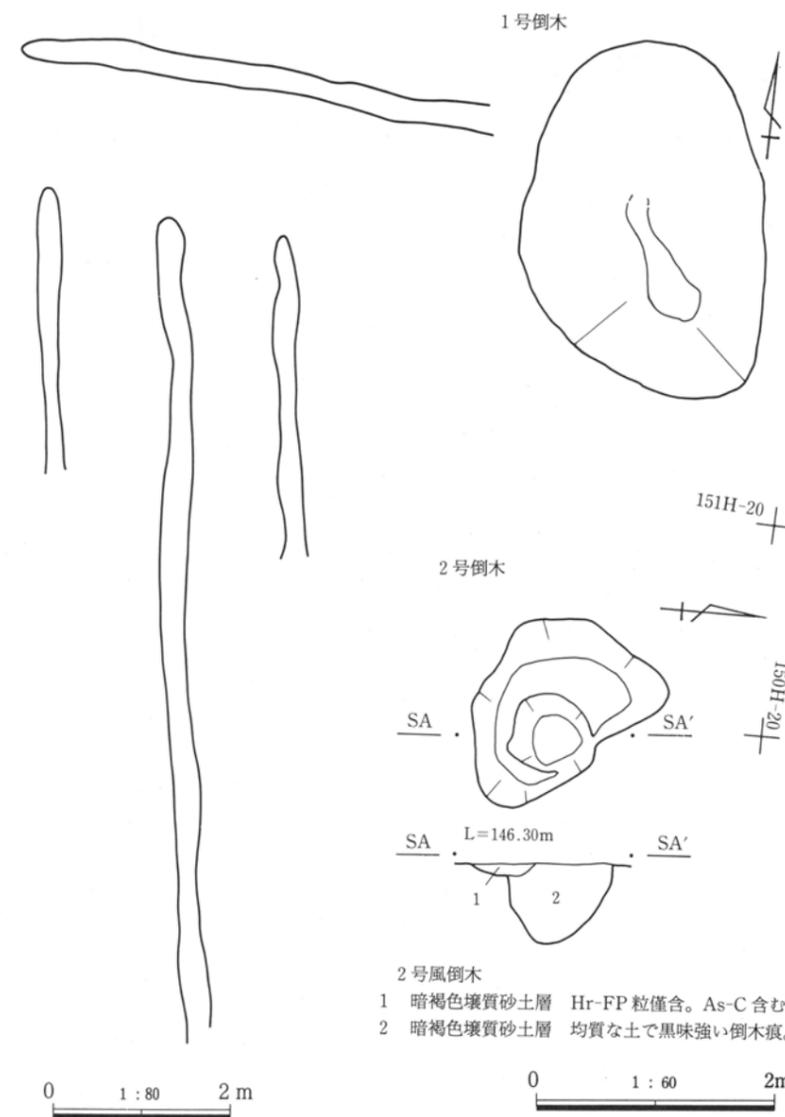
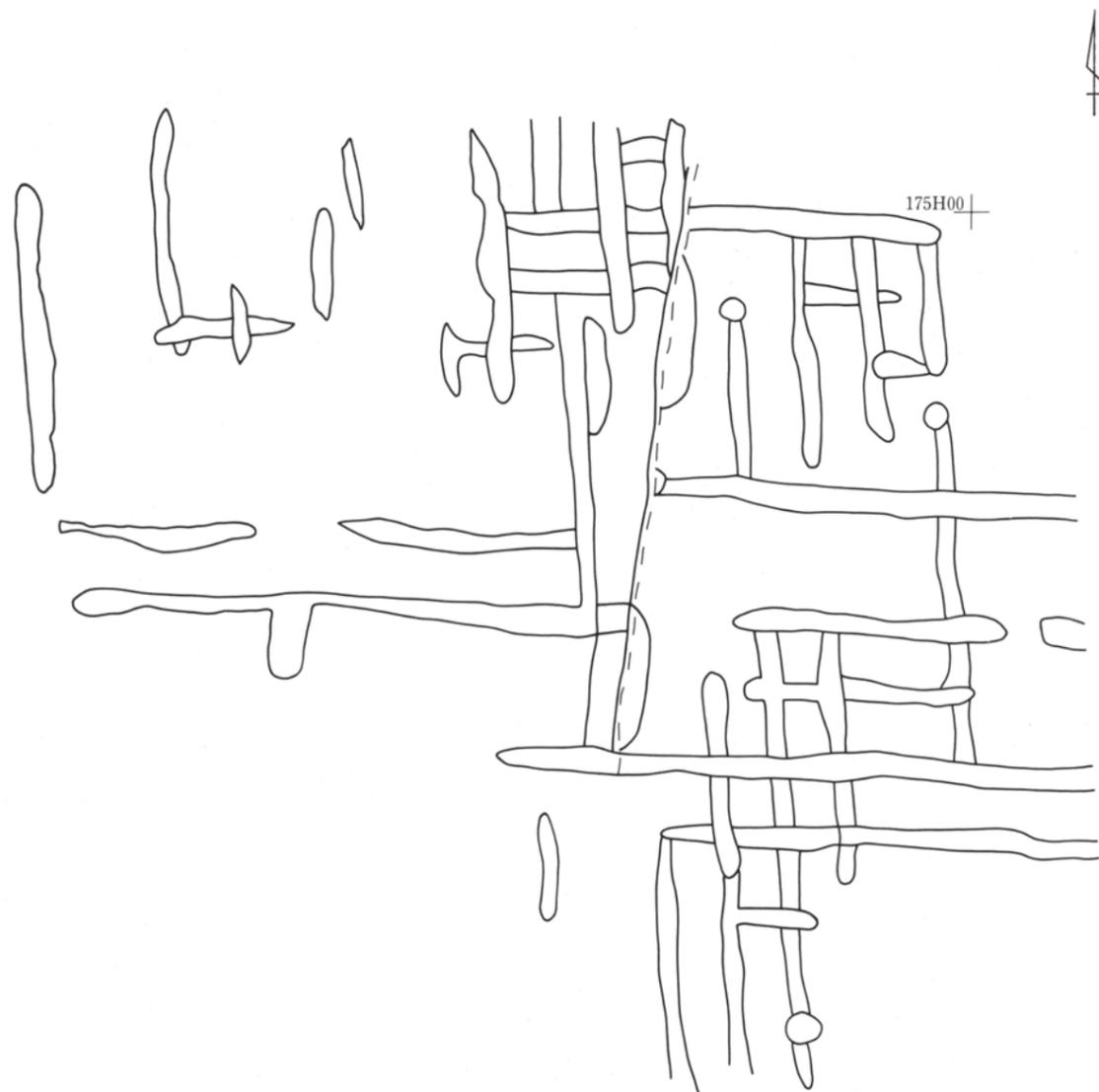
第280図 1号暗渠

中世・近世瓦 (第297・298図、写真164)

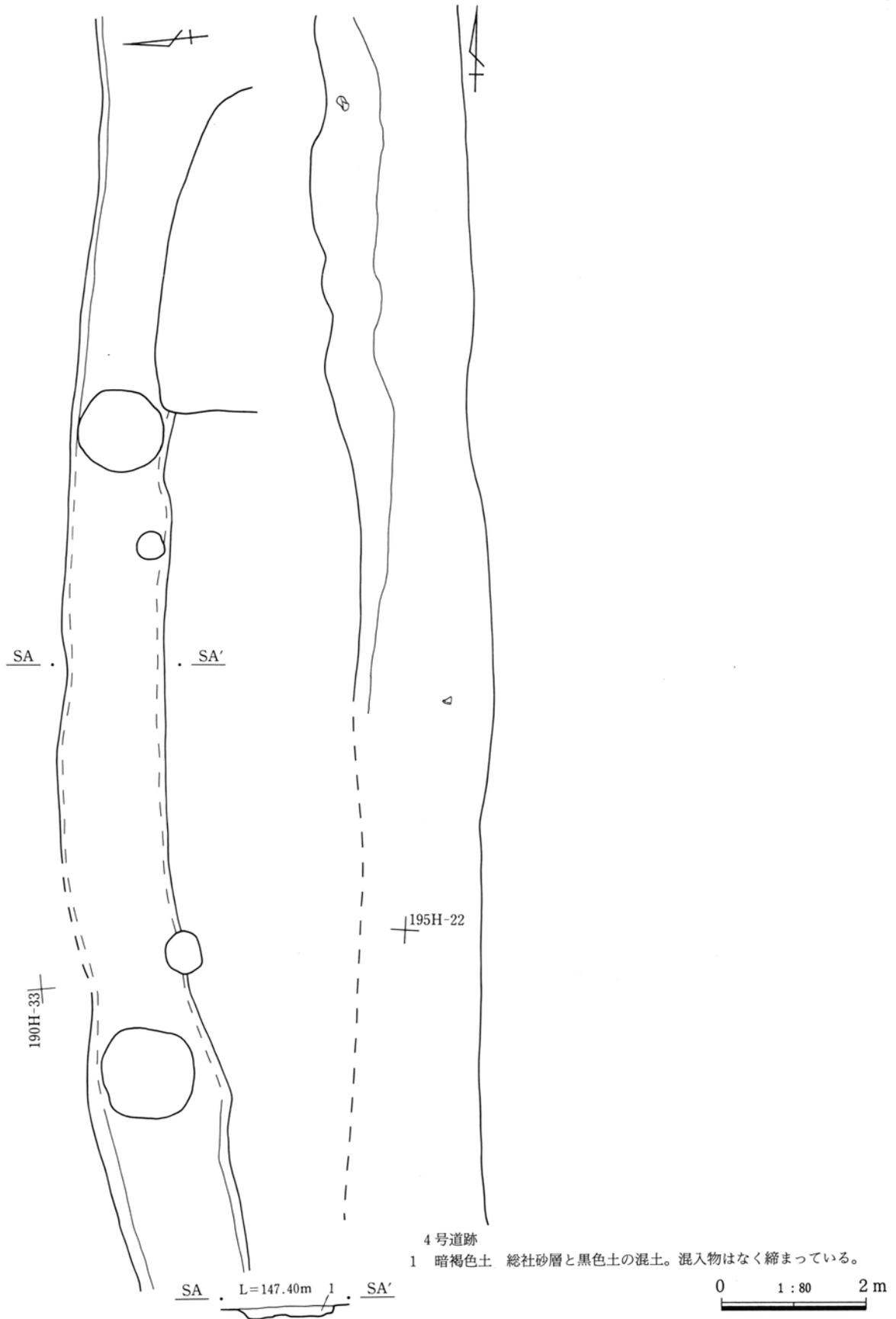
中世・近世瓦は総数7点と数が少ないが、古代瓦と同様にすべてについて観察した。(第13表参照) だが、時期判定が不可能なために、分類上では中世・近世瓦とあいまいな形で判別した。

中世・近世遺物 (第299図、写真165)

中世・近世の陶磁器と、板碑や石盤と考えられる資料を取り上げた。(第19表参照)

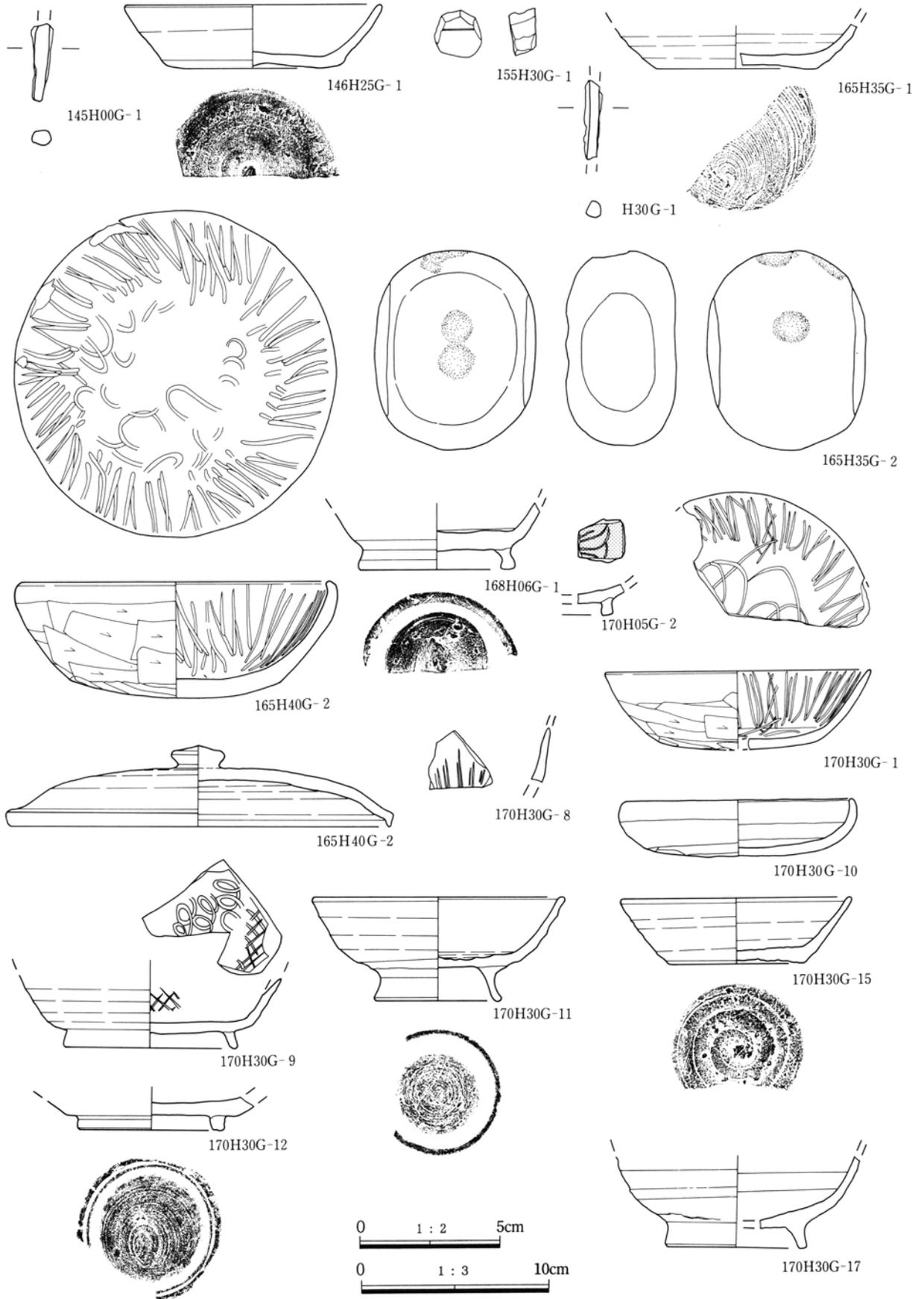


第281図 畠畝跡、1・2号倒木



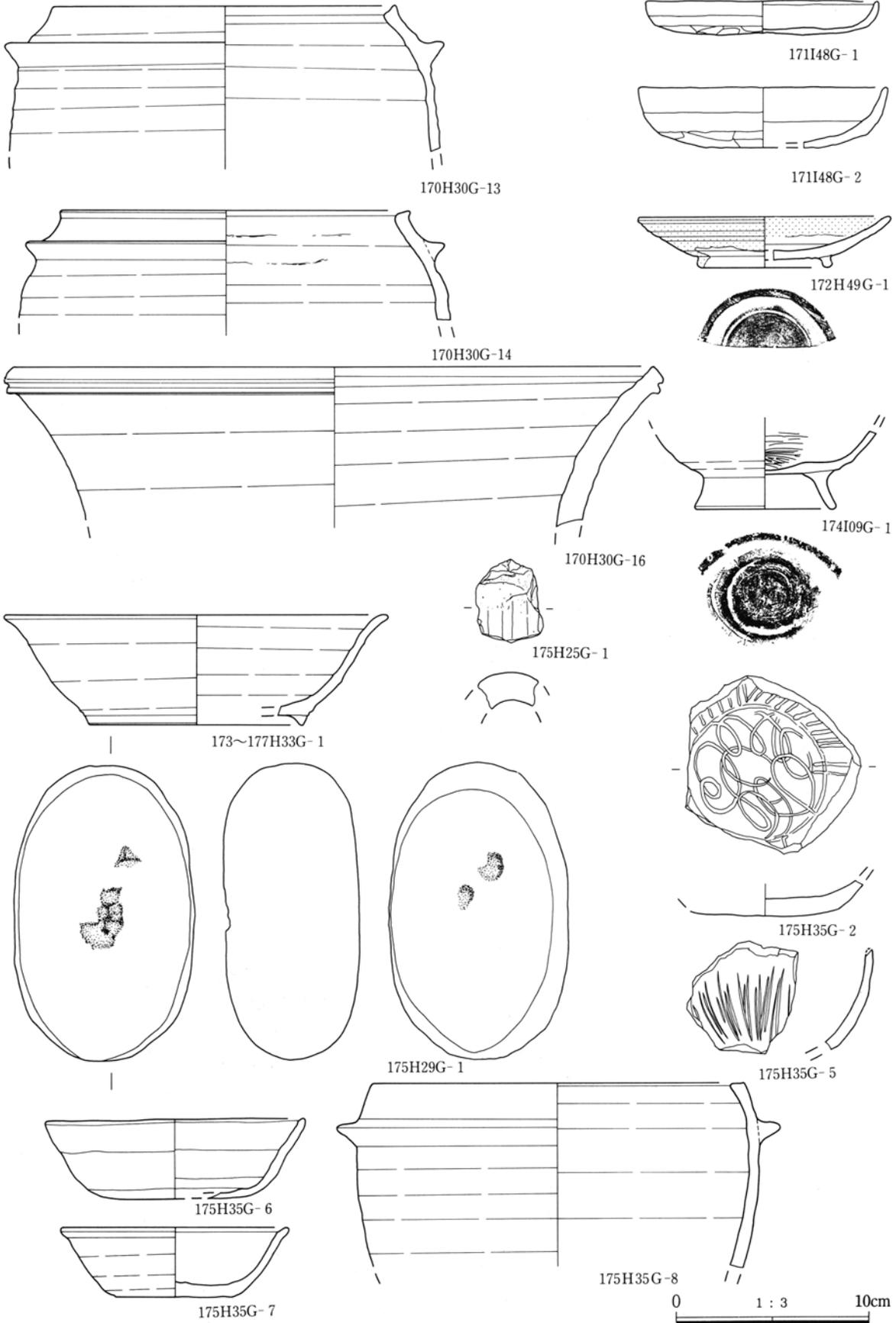
第282図 4号道跡

第3章 検出された遺構・遺物

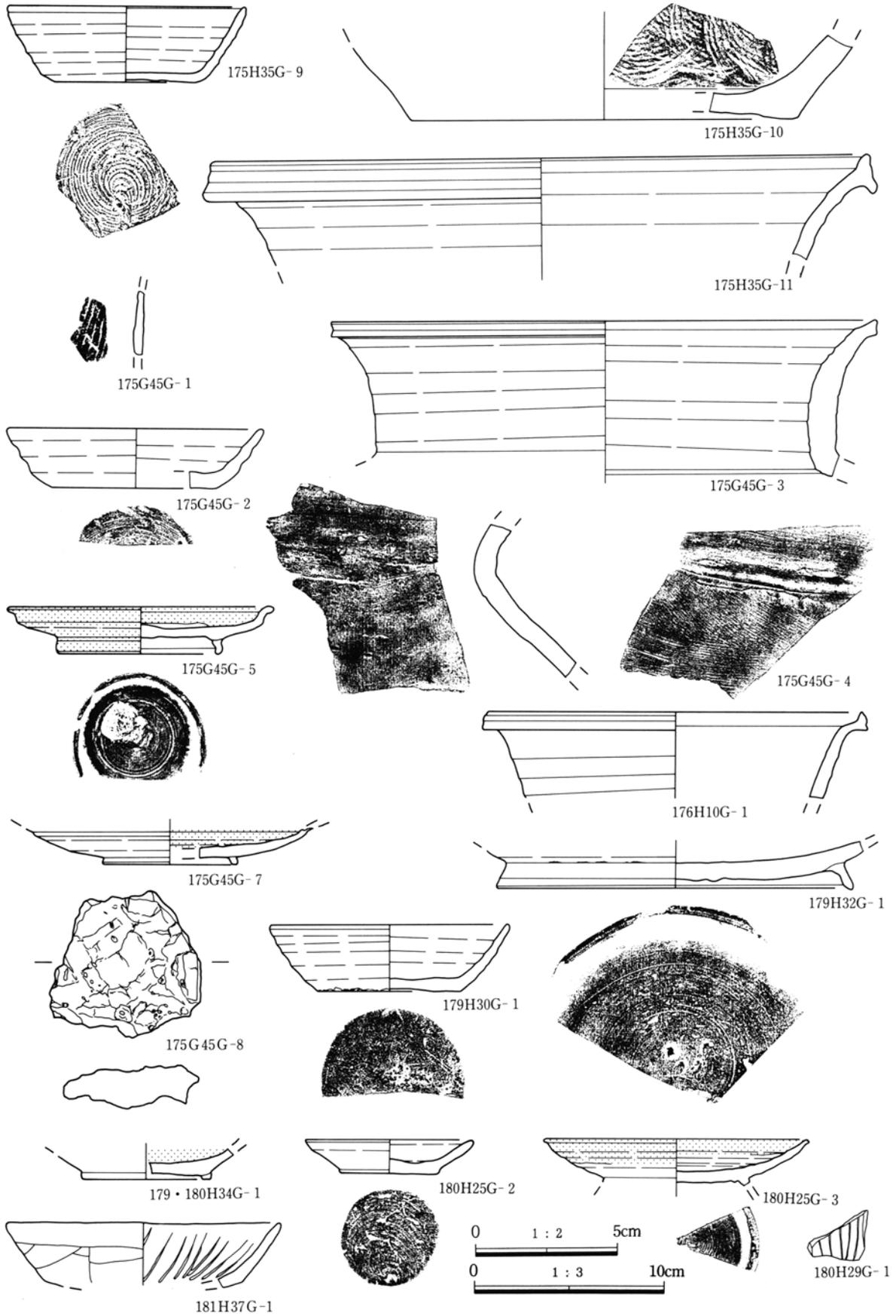


第283図 グリッド

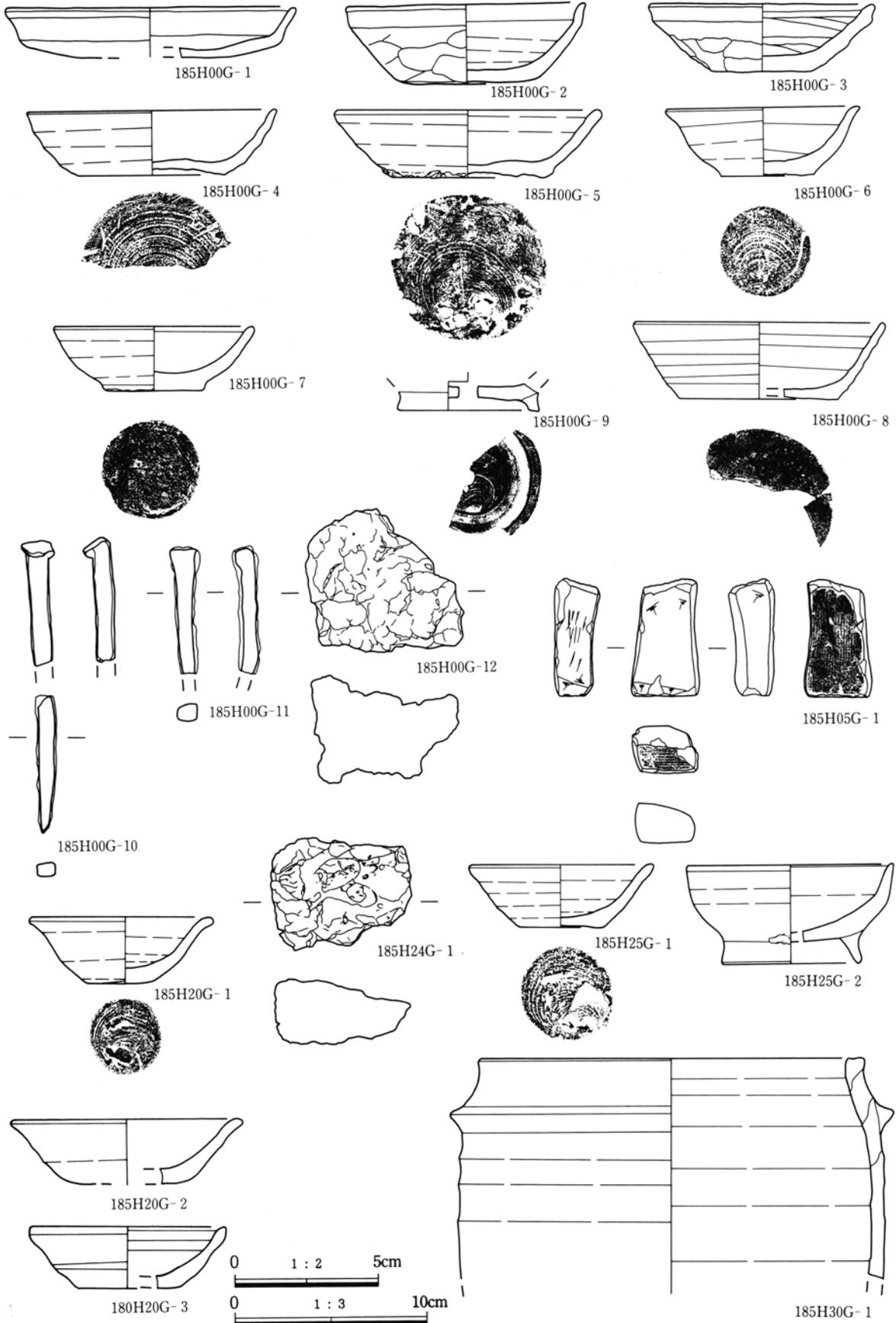
第5節 鎌倉時代以降



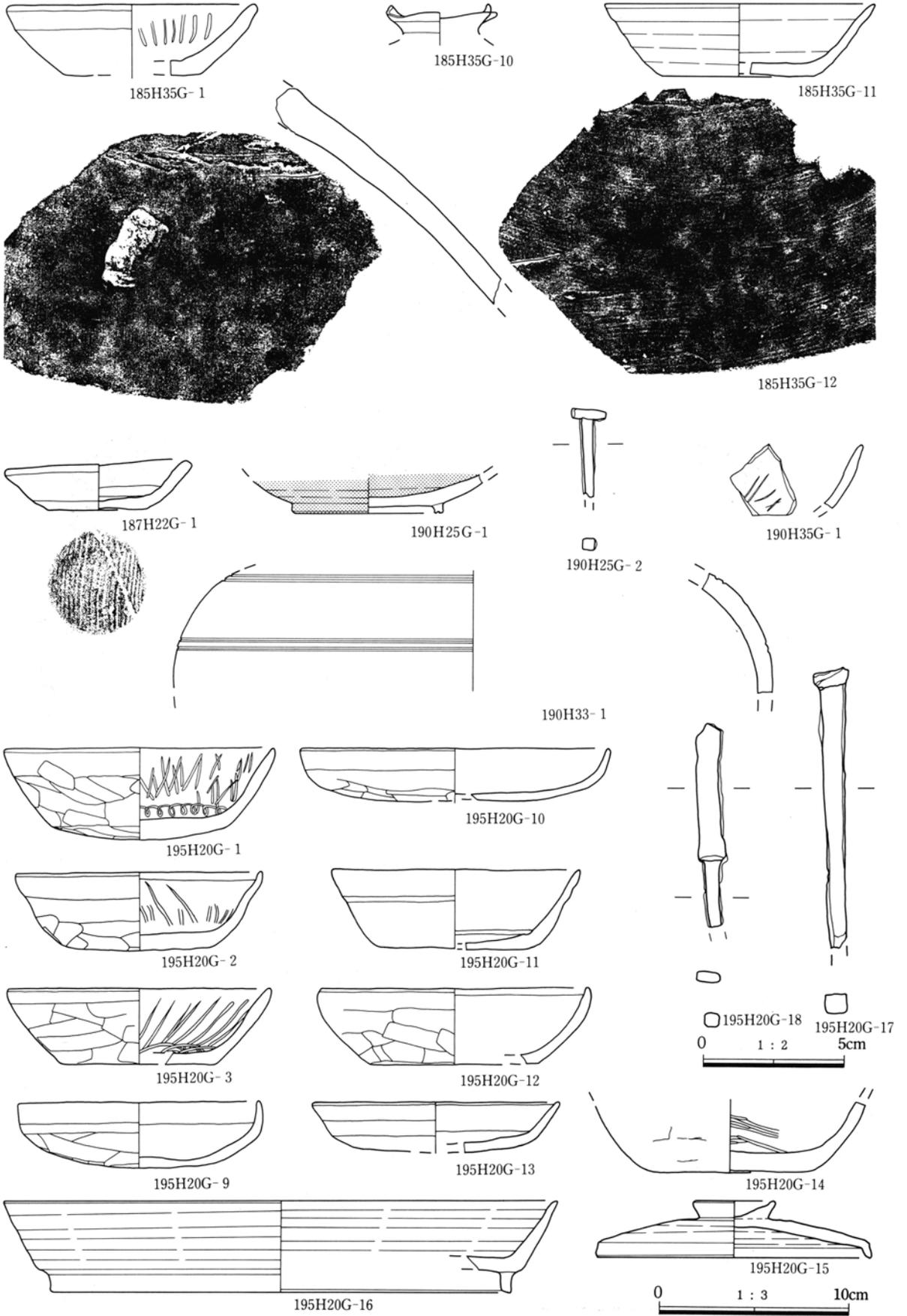
第284図 グリッド



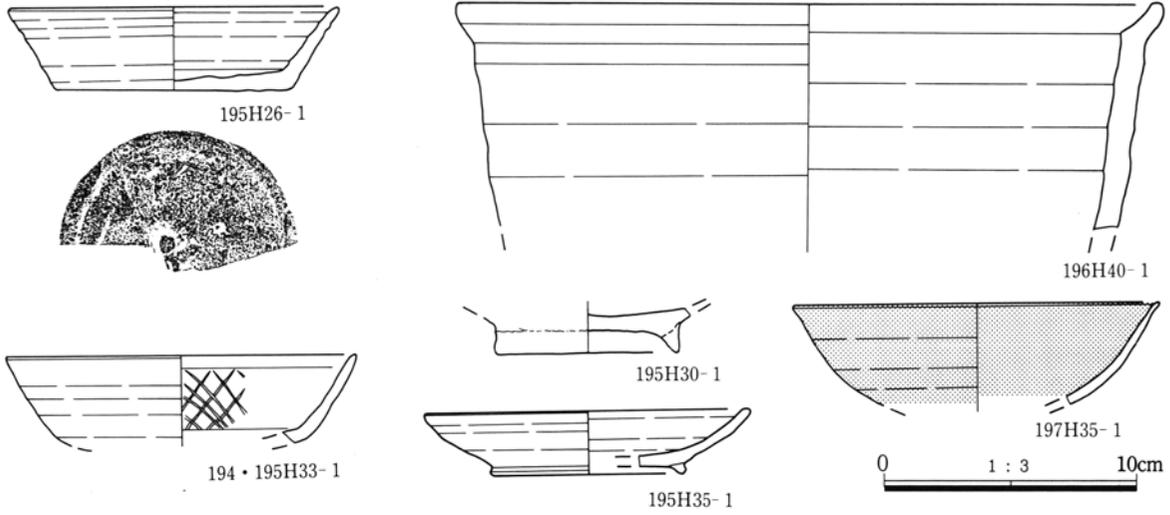
第285図 グリッド



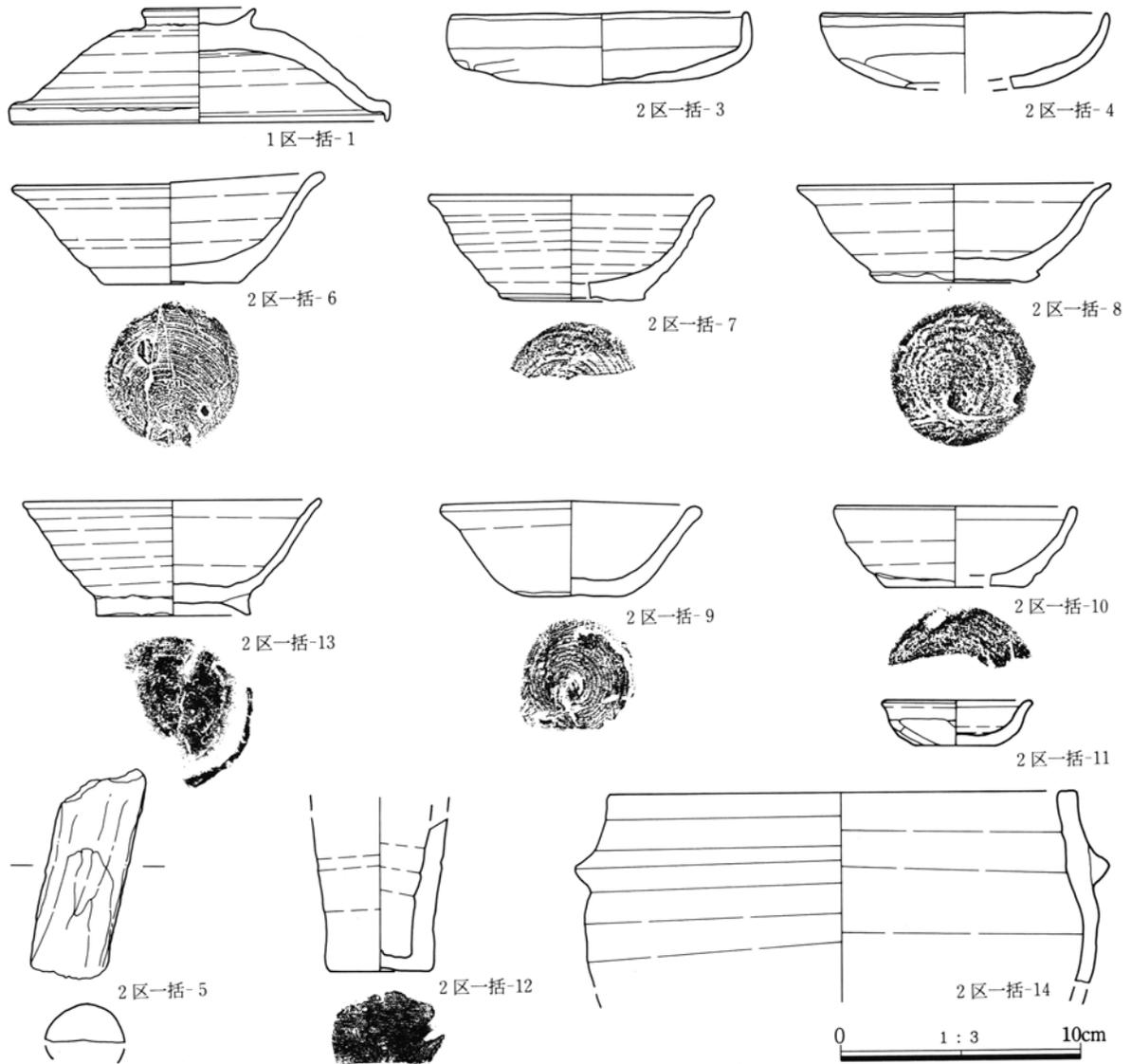
第286図 グリッド



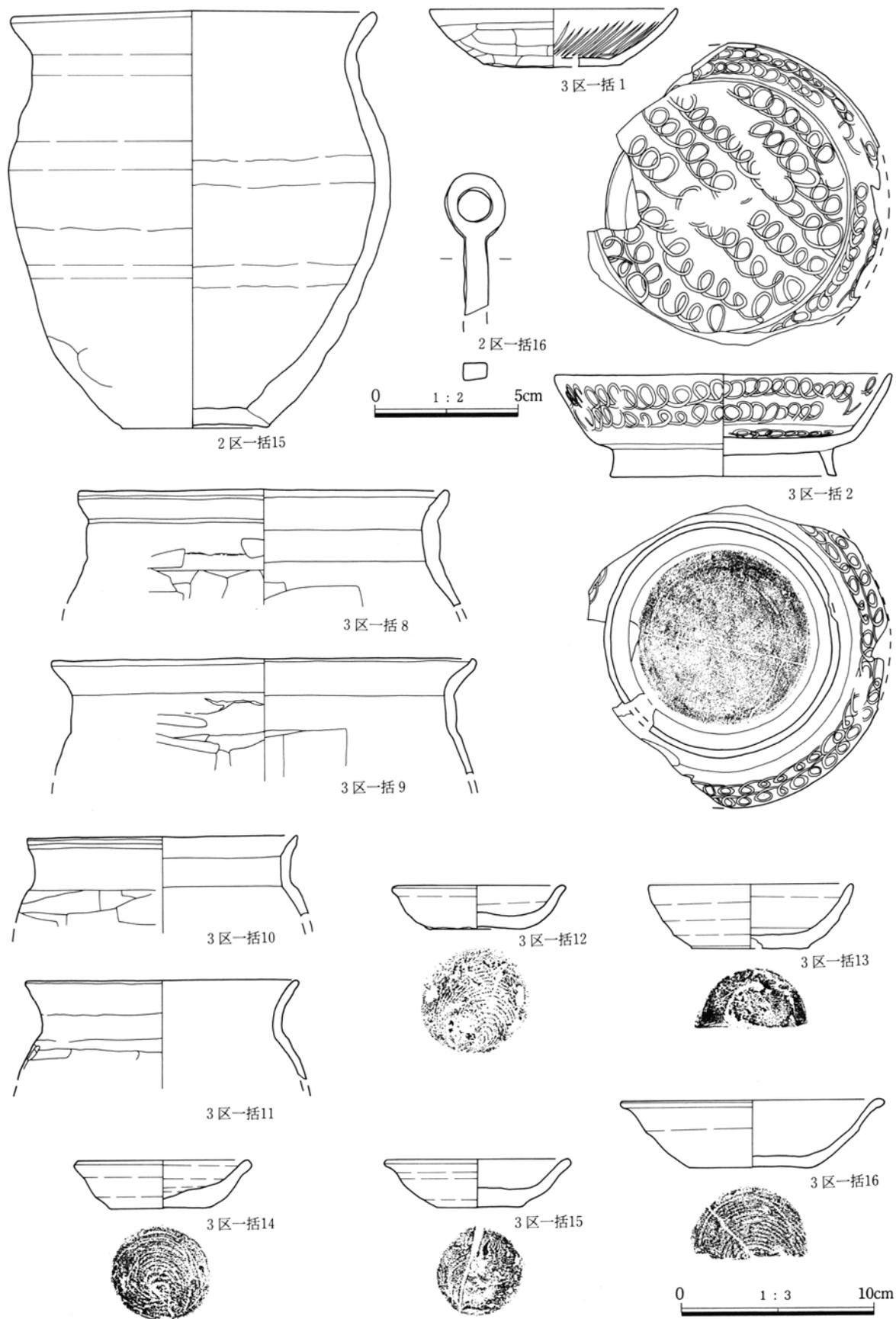
第287図 グリッド



第288図 グリッド

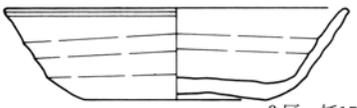


第289図 1、2区一括

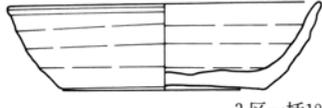


第290図 2、3区一括

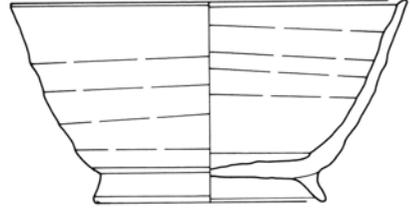
第5節 鎌倉時代以降



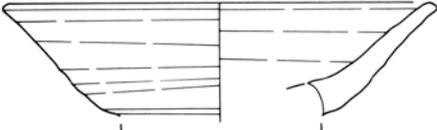
3区一括17



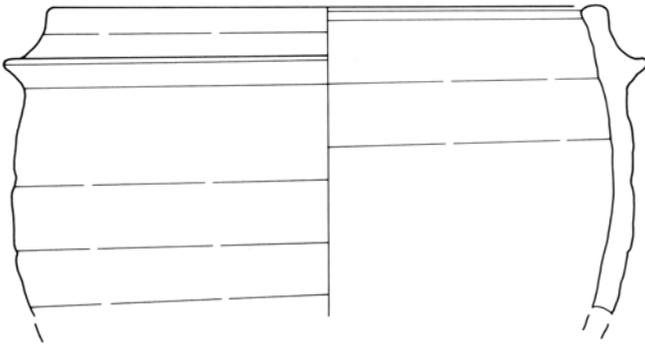
3区一括18



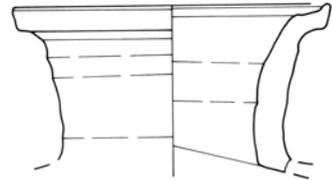
3区一括19



3区一括20



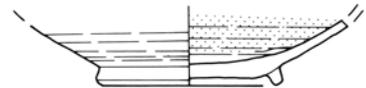
3区一括21



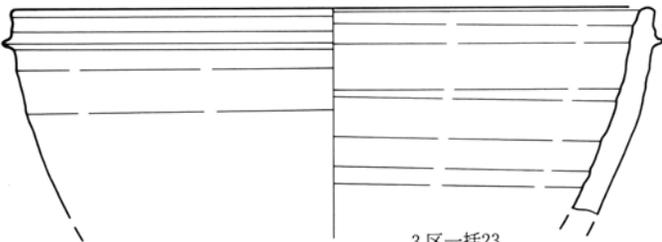
3区一括24



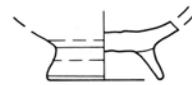
3区一括22



3区一括26



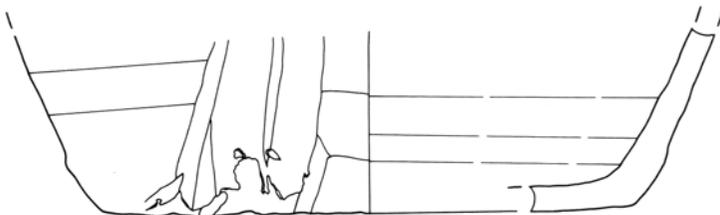
3区一括23



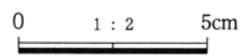
3区一括27



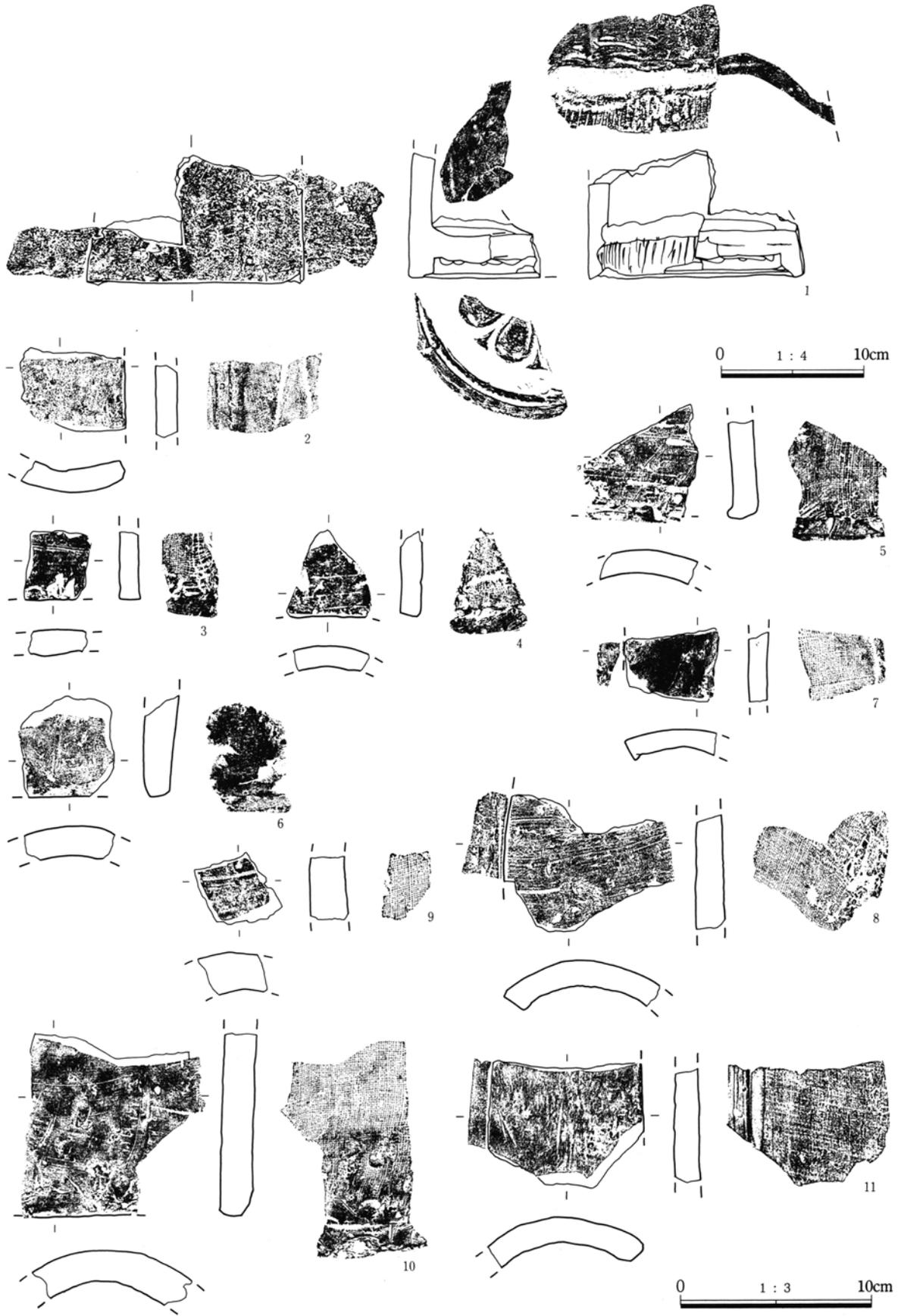
3区一括28



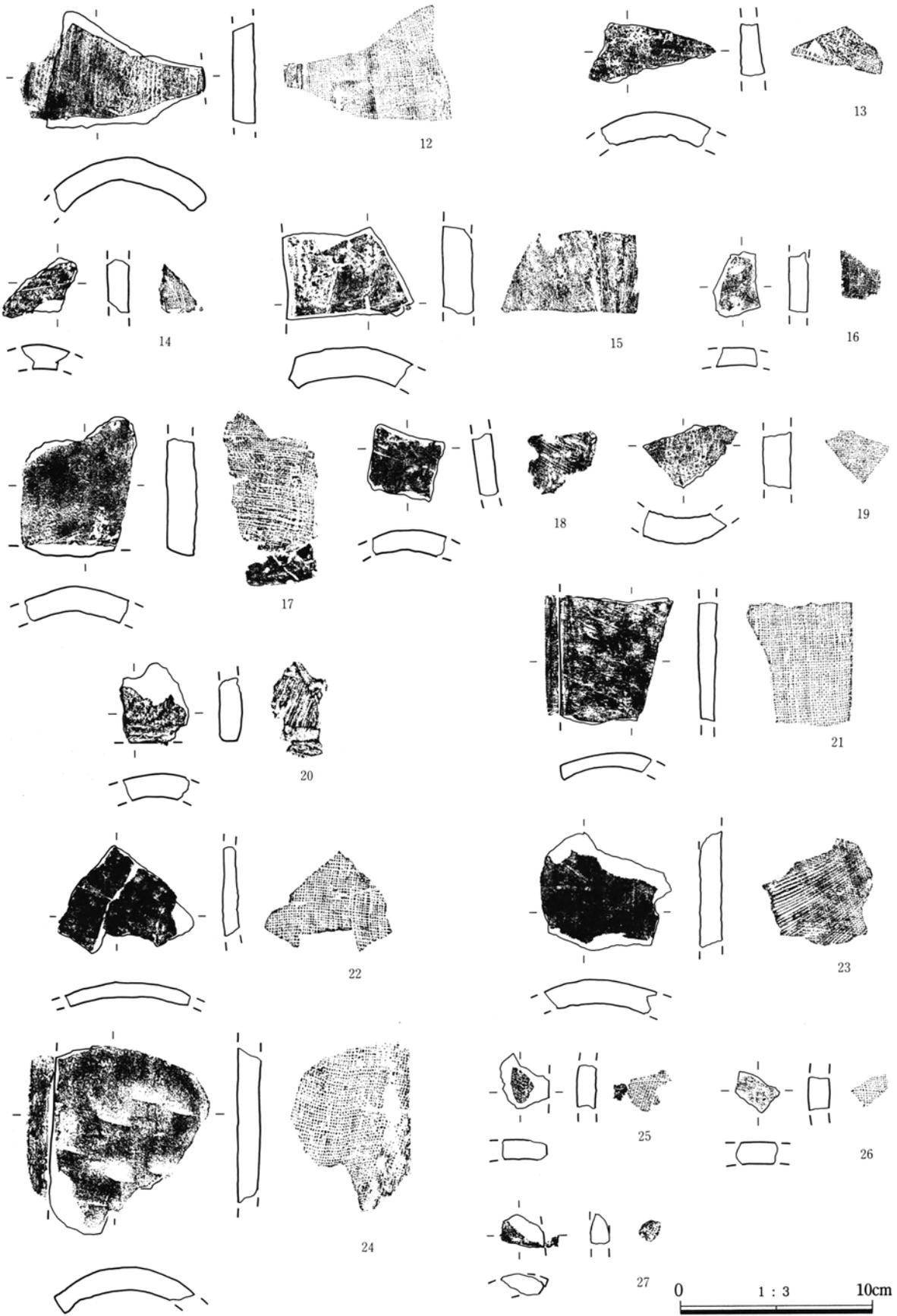
3区一括25



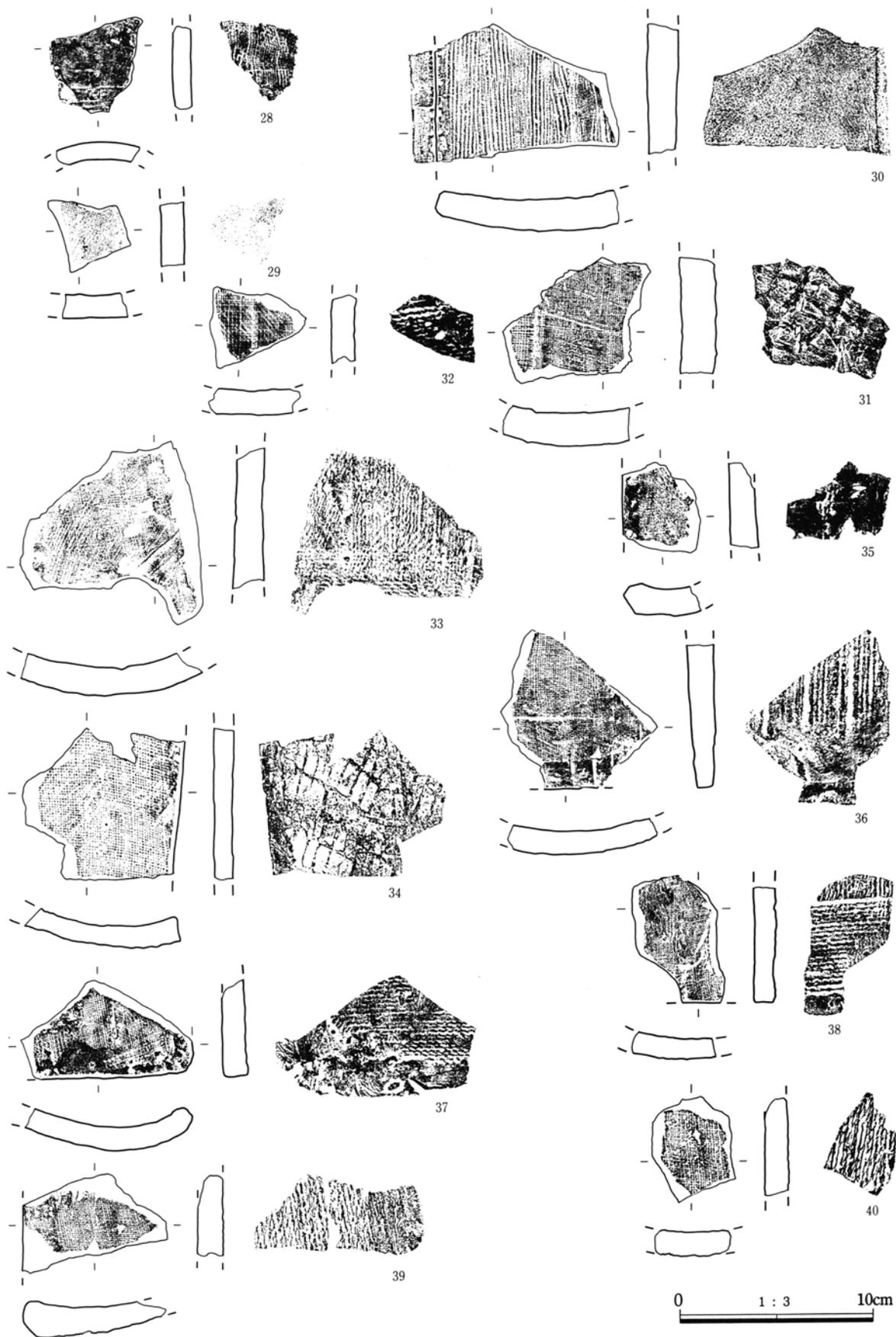
第291図 3区一括



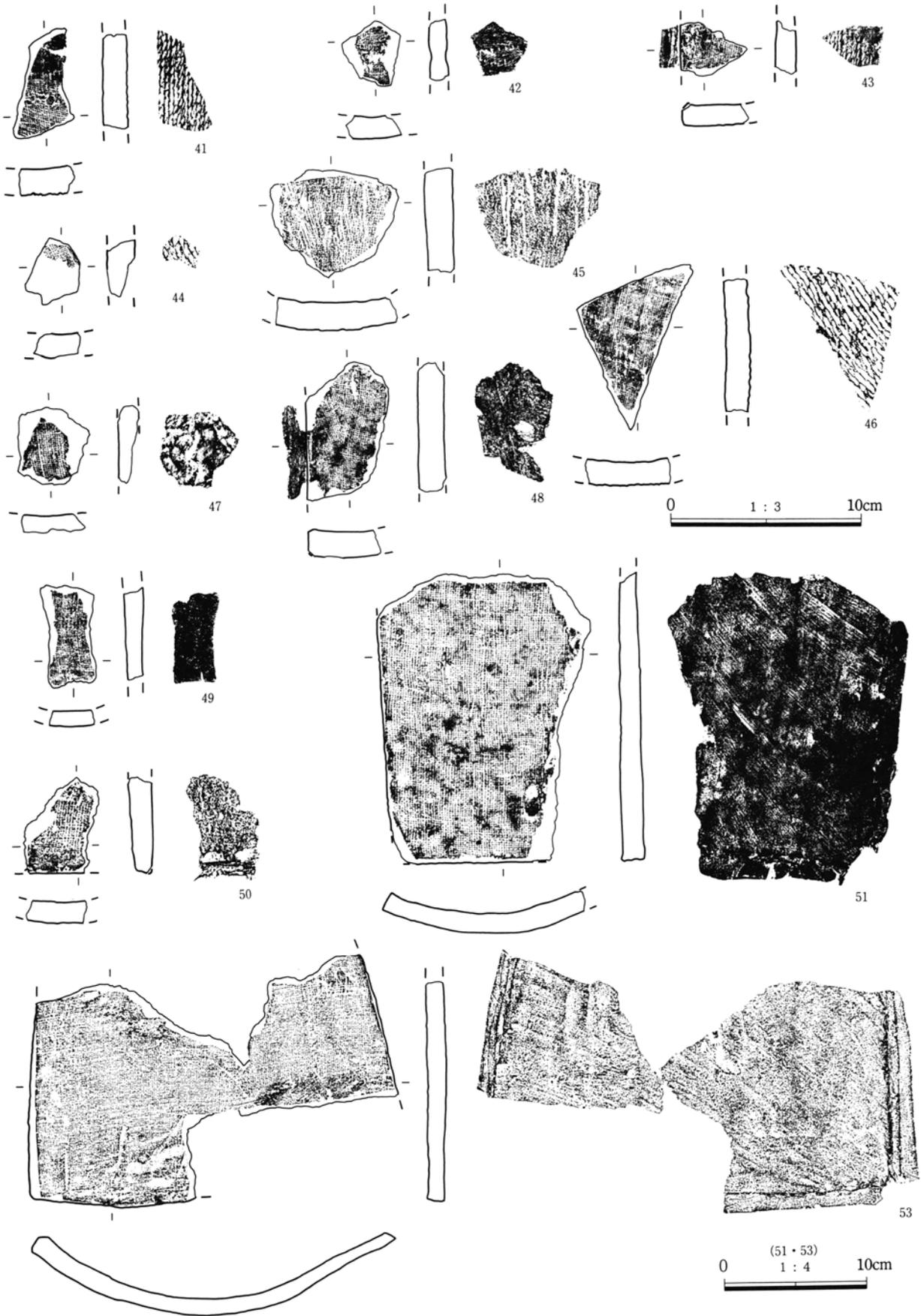
第292図 古代瓦



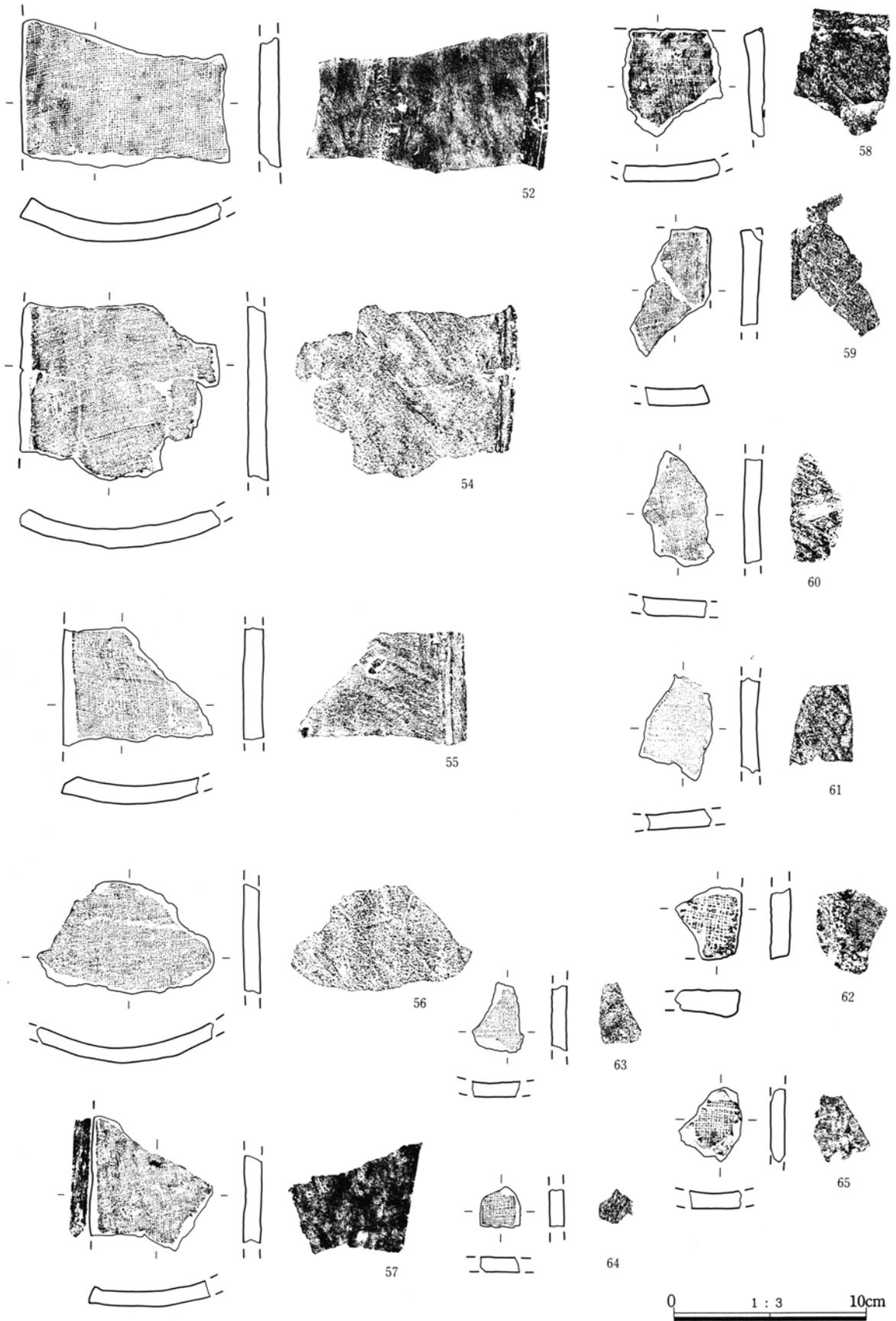
第293図 古代瓦



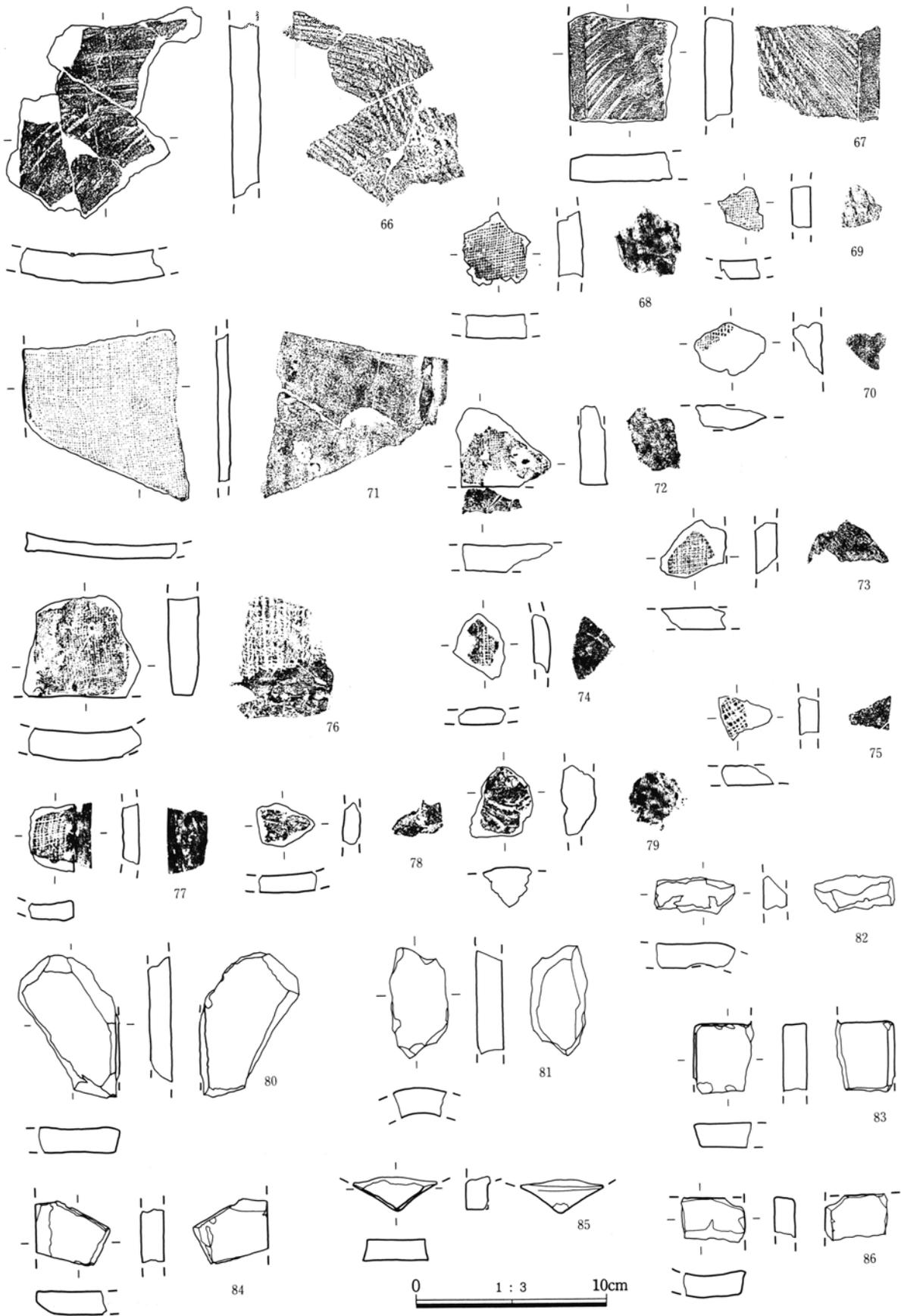
第294図 古代瓦



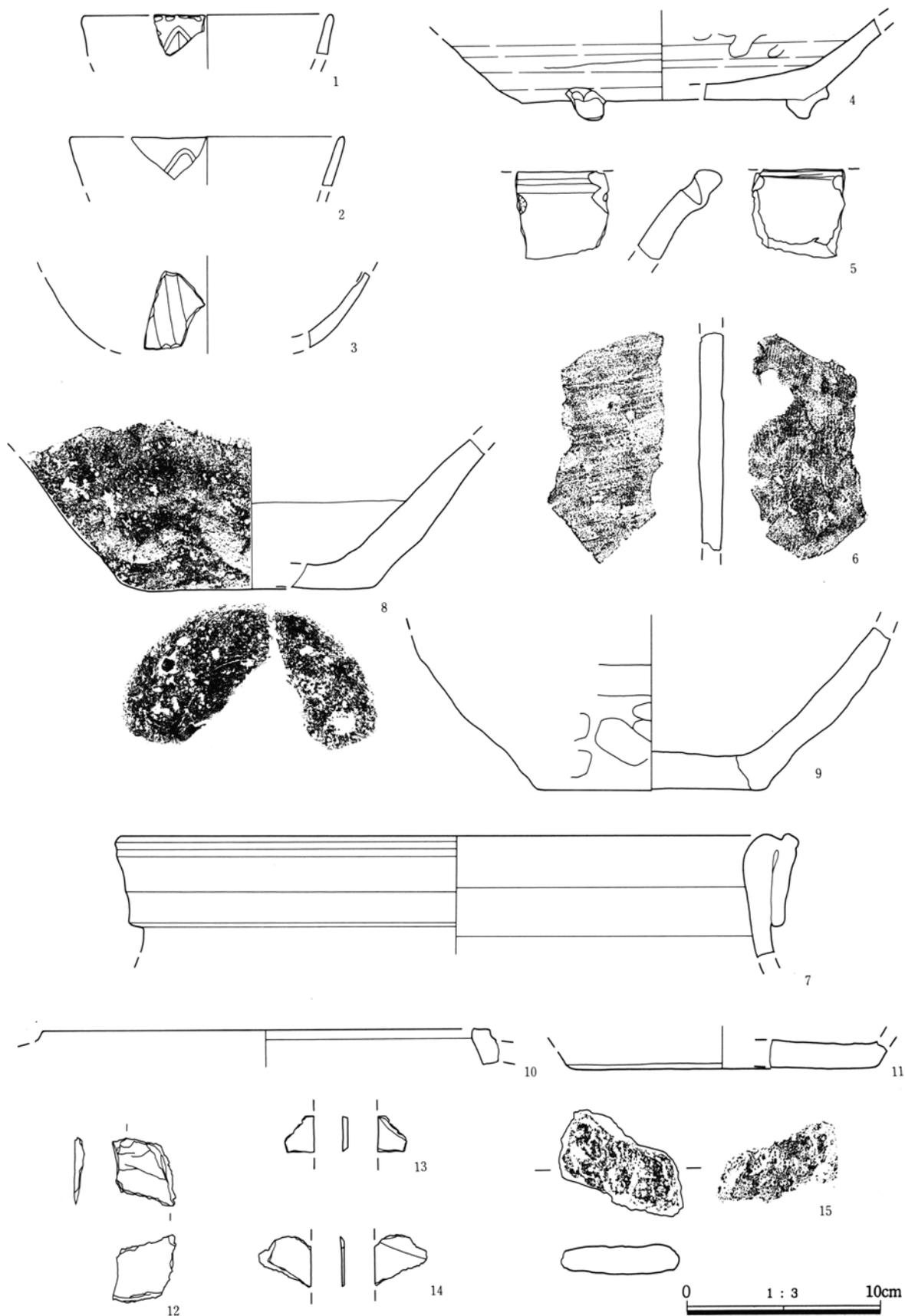
第295図 古代瓦



第296図 古代瓦



第297図 古代瓦・中世瓦



第298図 中近世

第4章 ま と め

第1節 遺構・遺跡

本遺跡からは多数の遺構や遺物が検出されている。それぞれの内容については、第3章の第1節から第5節にかけて記述していることから、ここでは遺跡全体の概要と特徴的な項目について述べることにする。

遺跡の変遷

本遺跡での確認されている最も古いものは縄文時代前期の遺物である。明確な遺構は存在しないが、東に隣接する下東西遺跡などの周辺の遺跡と同様に、活動の痕跡が縄文時代に遡るのは確実であり、周囲に集落の存在を暗示させる資料である。

弥生時代から古墳時代にかけては、僅かな資料しか存在しないことから、この時期の活動の拠点は、この近辺には無く、やや離れた青梨子地区や総社地区などに存在していたと考えられる。ただ、下東西遺跡で僅かながら竪穴住居跡が検出されていることから、遺跡の南東に広がる鹿角状に細く延びる低地部分が耕作地として多少は利用されていたと考えられる。

本遺跡周辺が本格的に利用されるのは、古墳時代中期の6世紀代である。まず、台地上のかなりの部分が畠として耕作されていたことが、Hr-FAで埋没した畝間の存在から確認されている。だが、遺跡内には集落の痕跡が認められないことから、周辺のどこかに存在していたと考えられ、その位置が今後の課題である。

次に、奈良時代の7世紀後半から徐々に住居が存在するようになり、次第に数が増して集落の形態がはっきりしてくるのが8世紀中葉から9世紀後半までの段階で、10世紀の前半になると大きく増加し、中葉から徐々に減少して衰退する傾向が認められる。これらのことは、検出された住居の存続時期から判明している。具体的な数値としては、7世紀後半が3軒、8世紀の前半が1軒と僅かであるのに対して、中葉が14軒、後半が8軒、9世紀前半が11軒、中葉が13軒、後半が8軒と増加傾向にある。10世紀代に入ると、前半だけで21軒もの数に急増するが、中葉には8軒、後半が7軒とやや落ち着き、11世紀前半には僅かに4軒と減少している。もちろん、大まかな時期しか判定できない住居や、時期判定ができない住居も多数存在することから、上記の数値が直ちに集落規模の様子を正確に伝えているとは必ずしも言えないが、ある程度の様相は物語っているとと言える。

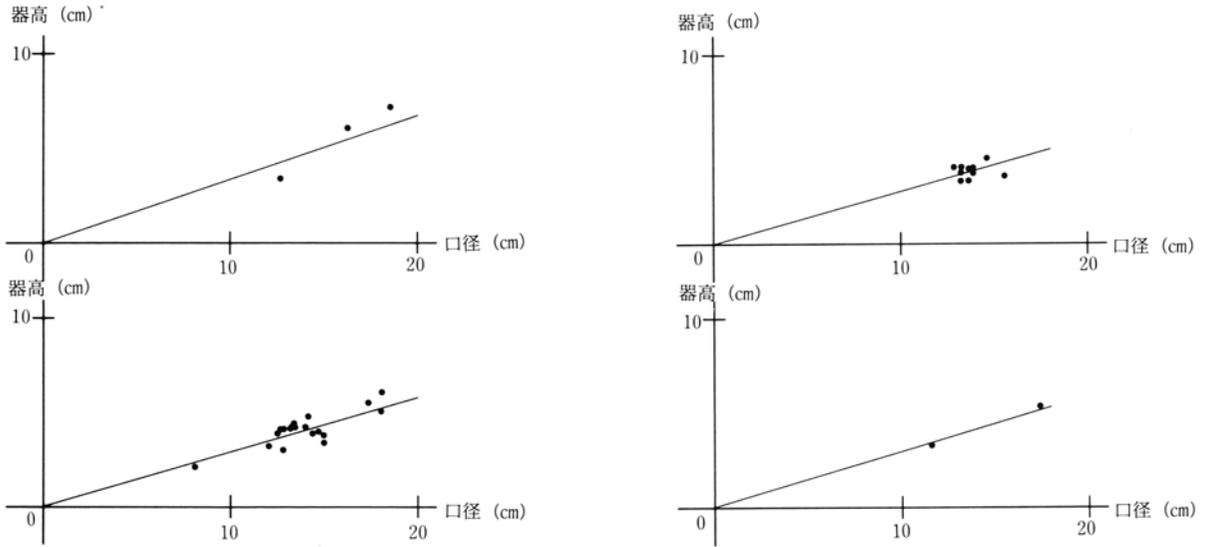
その後、中世から近世にかけては環濠を持つ屋敷の一角として利用されていたが、屋敷内の中枢部分はほとんど調査範囲外であることから詳細は不明である。さらに、課題の一つであった東覚寺の存在を示す資料は、本遺跡の発掘調査でも検出されなかった。

集落の変遷と性格

本遺跡の古代集落としての存続時期は、前述したように8世紀中頃から9世紀代、さらに10世紀後半にかけての約三百年に渡っていたことが分かったが、その中でも、8世紀中頃と9世紀中葉、それに10世紀前半の三つの時期にピークが認められた。

まず、最も古い段階としては、7世紀後半の3軒の住居(59号・75号・80号)が確認されているが、下東西遺跡と比較して集落の形成がやや遅い。これは、下東西遺跡のような官衙的な様相を呈する特殊な集落に対して、本遺跡がごく一般的な集落のあり方を呈している点にあらう。その性格の違いが何に起因するかは、

第4章 まとめ



第299図 土師器坏法量比較表

今後のさらなる本遺跡、並びに下東西遺跡周辺での発掘調査の成果に期待するところが大きい。

また、掘立柱建物跡の存在をみても、下東西遺跡では、7世紀終末から8世紀初頭という極めて短い期間に存続した溝と柵などで区画された範囲に存在する掘立柱建物跡や特殊な形態の竪穴住居などの遺構と律令の様相を示す遺物の存在から、官衙的な性格の施設を想定している。

だが、本遺跡では関連すると思われる溝が存在するものの、その時期の遺構や遺物はかなり少ないことから、やや性格が異なると考えられる。

逆に、最も新しい段階は、11世紀前半の4軒(48号・49号・100号・101号)が確認されているが、下東西遺跡よりも後の段階まで集落が衰退しながらも存続していたことを物語っている。そのほかにほぼ同時期と考えられる2軒(71号・94号)も存在することから、11世紀の半ばまではこの地に生活の拠点が存在していたことが判明している。

遺物や遺構からはこの時期を最後に、中世の12世紀からしばらくの間は空白に近い期間が生じている。下東西遺跡では、12世紀から16世紀にかけての遺構と遺物の出土があり、特に13世紀から15世紀の間が最も盛んな時期に相当する。この差が隣接する場所でありながら、どのような性格の違いによるものかは現段階では不明である。

遠隔地域との関連

出土した遺物の中には、周辺では調達できない資料が存在することが往々にしてある。本遺跡でも、かなりの遠隔地からの搬入品と考えられる特徴的な遺物が存在する。

まず、土師器では畿内産土師器や甲斐型土師器など、本来の在地系統とは異なる特徴的な遺物が認められるが、こうした種類の遺物は本遺跡を取り囲む環境の中で少量ながら混ざり込んだ可能性が高い。これらについては、第2節の桜岡正信氏の論考を参照に、灰釉陶器や緑釉陶器についても、第3節の神谷佳明氏の論考を参照していただきたい。

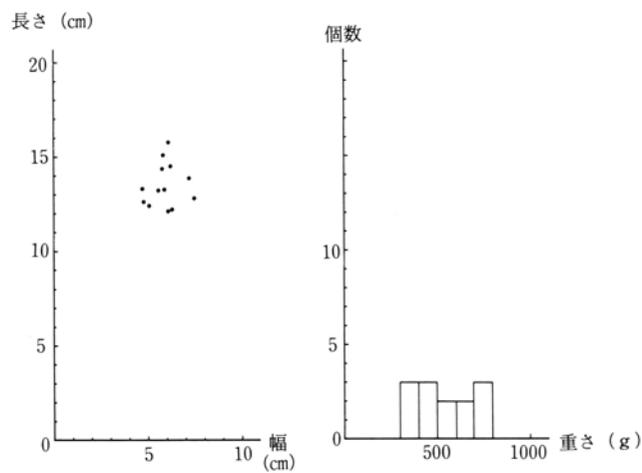
特に、破片ではあるが、銅椀の存在は本遺跡の性格の一部を示すものと考えられることから、第5章第1節の村上 隆(奈良国立文化財研究所)による詳細な分析をもとに、今後の課題の一部としたい。

その他

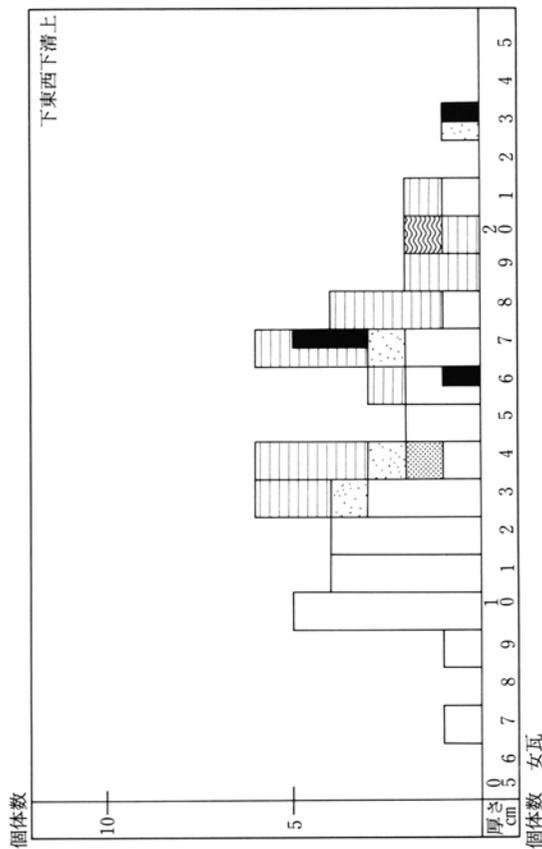
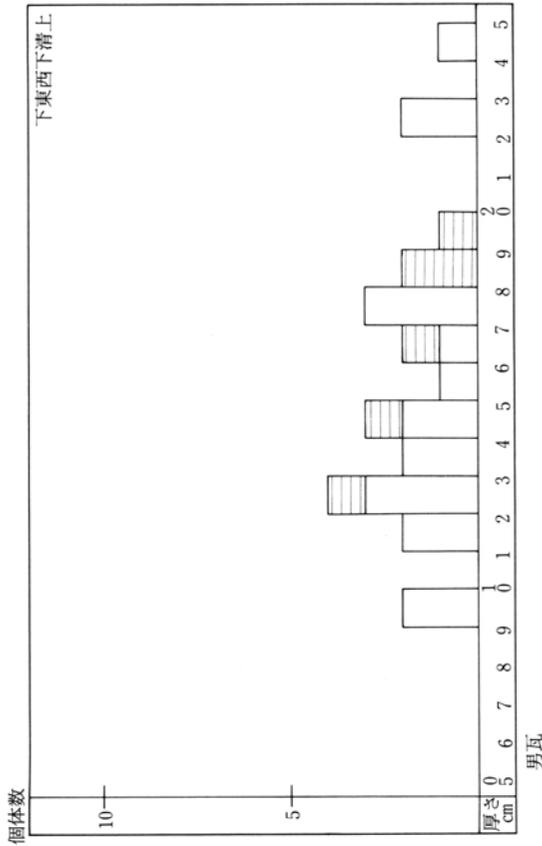
これまで記述してきた以外にも、様々な要素が取り上げられる。

瓦塔の存在は、当然ながら寺院との関連を想起させ、近接する古代の寺院としての「放光寺」（山王廃寺に比定）などとの関連がまず想定されるであろう。山王廃寺そのものがここ数年の新たな発掘調査による多大な成果をあげつつある段階であるので、それらとの対比の中から今後の課題を導き出していきたい。

以上のように、明らかになってきた部分もあるものの、未だ課題として今後の取り組みが大いに必要とされる部分も多く存在する。この報告書の成果をもとに、さらなる歴史の解明が進むことを期待する。



第300図 こも編み石長・幅・重量相関図



- 編み物条叩
- 細目条叩
- 変形格子・平行状叩
- 平行叩
- 素文およびへら仕上
- 紐痕

NO	銭名	時代	初鑄年代	西暦	出土数
1	開元通寶	唐	武德四年	621年	2
2	咸平元寶	北宋	咸平元年	998年	1
3	祥符通寶	北宋	大中祥符元年	1009年	1
4	天聖通寶	北宋	天聖元年	1023年	1
5	皇祐通寶	北宋	皇祐二年	1039年	2
6	嘉祐元寶	北宋	嘉祐元年	1056年	1
7	治平元寶	北宋	治平元年	1064年	1
8	熙寧元寶	北宋	熙寧元年	1068年	1
9	宣和通寶	北宋	宣和元年	1119年	1
10	慶元通寶	南宋	慶元元年	1195年	1
11	永業通寶	明	永業六年	1408年	1
12	判読不可能				2
計 11種類 (判読可能)					15枚

第301図 瓦観察統計図、古銭一覧表

第2節 轆轤成形の暗文土器について

これまで上野地域の暗文土器といえば土師器というイメージを持っていたが、下東西清水上遺跡出土の暗文土器約189点中に5点だけ、轆轤成形で酸化焰焼成した須恵器系とでも言うべき特異な暗文土器を抽出できた。そこでここでは県内資料を集成し轆轤成形の暗文土器の位置付けをしておきたい。

まず、第302図-1の坏は、底部周辺部及び体部外面を磨き状の丁寧な撫で調整をし、内面は見込み部中央から体部内面まで、密に正放射状の暗文(磨き9を施した資料である。胎土は緻密で夾雑物をほとんど含まず、均一で硬質な焼成が特徴である。この坏と類似するものは渋川市の半田中原遺跡27号住居の資料に1点(2)だけ見いだすことができた。器形や体部の調整技法、胎土の特徴などから、いわゆる「甲斐型坏」と呼ばれているものと考えられ、共伴する遺物から8世紀代のものと考えられる。整形技法もさることながら、胎土と焼成および色調は県内の土器には見られないものであり、搬入されたものであろう。

第302図-3～6は高台を付けた坏、いわゆる飛鳥・藤原分類の坏Bの範疇で捉えられるものである。器形は5が畿内の暗文土器坏Bに類似するが、他は須恵器の器形そのものであり、ほぼ8世紀中頃の時期のものと考えられる。これらの暗文土器は胎土と高台のつくり、および暗文の施文に共通する要素が見られる。高台のつくりでは、上野地域の当該時期の坏Bの高台が瓶類の高台のような形態となることに反して、シャープで設置面が若干窪み状になる特徴を持つ。この特徴は、県内の須恵器と比較すると、桐生市の上小友窯跡の製品に類似するが、上小友窯跡の資料中には同形態の坏Bは含まれていない。

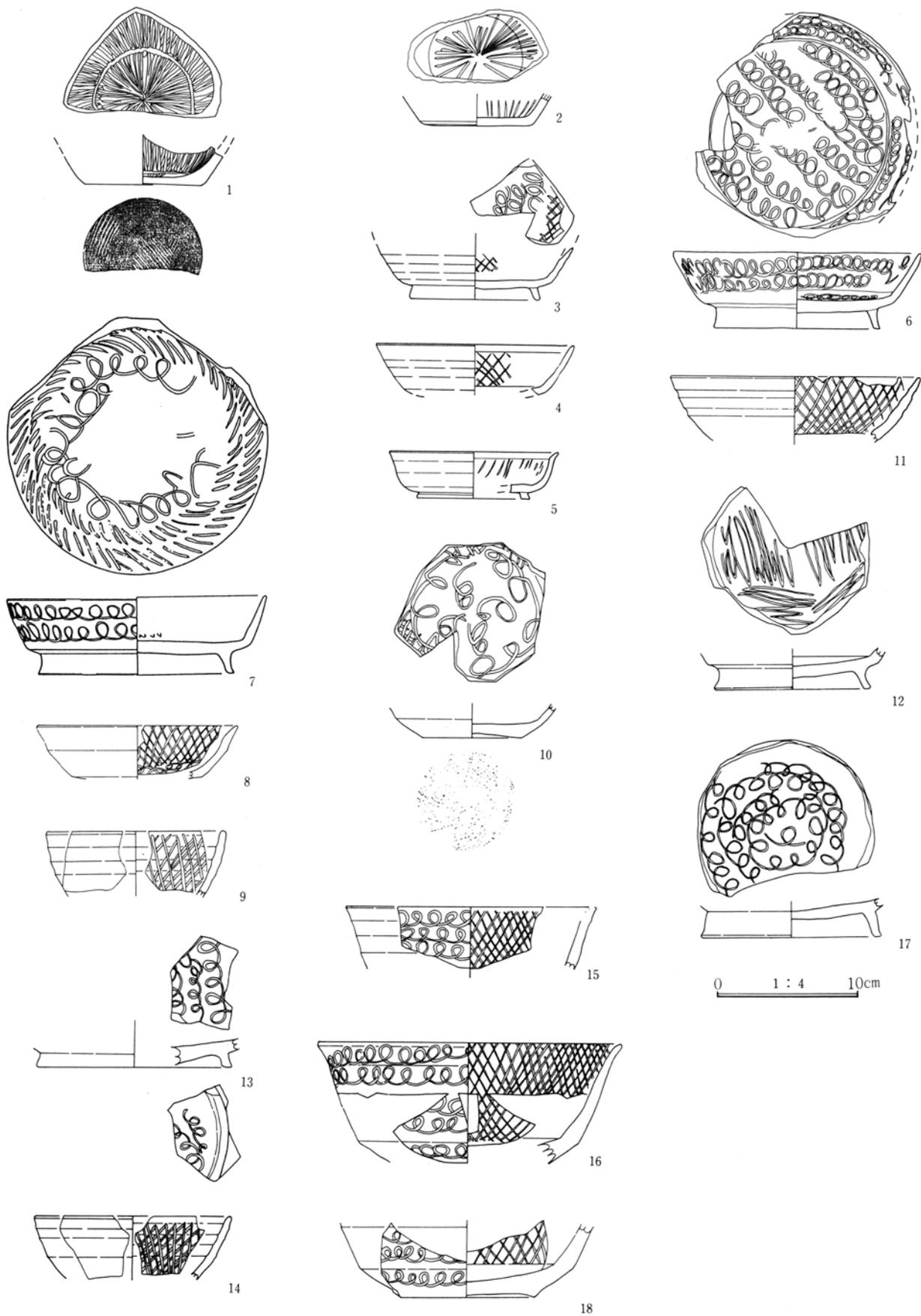
胎土では片岩粒と雲母微粒を含むことが特徴と言える。特に片岩粒の含有については、鎭川流域の土器に顕著な特徴であり、この地域に生産地域を求めることができるであろう。

つづいて、暗文の施文に関しては、一口に言えば土師器の暗文施文ルールを踏襲しないものが目立つことである。6のように体部内外面に2段の螺旋状暗文を施したものはその代表的なものである。この外面に螺旋状暗文を施すという行為は、白倉下原遺跡B区51号住居の資料(7)や境ヶ谷戸遺跡10・14号住居資料(10・15～17)にも共通するもので、轆轤成形の暗文土器特有の特徴である。その他、見込み部の螺旋状暗文が並行に施される例(6)や、白倉下原遺跡の資料に見られる見込み部から連続して施文した斜放射状暗文など、暗文施文ルールを無視しているかのようである。

こうした施文ルールを異にする暗文土器は、その生産が須恵器製作者によって行なわれたことで成立したのは明らかである。畿内地域と違って、上野地域では須恵器と土師器の間に器種の互換性が希薄で、それぞれが相互不可侵的な器種体系を確立していた。7世紀後半以来、坏A、坏C、鉢、高坏、皿などの暗文土器生産を担ってきたのは土師器製作者であったが、その器種バリエーションの中に坏Bは欠落している。そこで、それを必要とした階層が、坏Bを器種のバリエーションとして保有していた須恵器製作者に特別に発注したのではないだろうか。出土数の少なさはこうした状況を物語るものであろう。この特注された結果、土師器の暗文施文ルールが十分に周知されず、施文ルールからはずれた暗文土器が成立したと考えられる。

以上のように、轆轤成形し酸化焰焼成した暗文土器坏Bは、量産品ではなく特注品である。こうした特注品を作られた背景には、搬入品では充足されなかった宮都の土器セットに執着する階層の存在を窺うことができるのであり、下東西遺跡や境ヶ谷戸遺跡などはそうした階層の存在を推定させるに十分な遺構・遺物内容を有していると言えよう。

参考文献 【境ヶ谷戸・原宿・上野井II遺跡】新田町教育委員会 1994 【半田中原・南原遺跡】渋川市教育委員会 1994 【白倉下原遺跡・天引向原遺跡V】財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 1998 【下東西遺跡】財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 1987



第302図 轆轤成形暗文土器集成

第3節 下東西清水上遺跡出土の施釉陶器について

下東西清水上遺跡では、報告書掲載、未掲載の区別なく総数で1,214点の施釉陶器が出土している。その内訳は、奈良三彩陶1点、緑釉陶器51点、灰釉陶器1,162点である。

奈良三彩陶は、35号住居—4（第63図）の香炉口縁部小破片が1点ある。残存部分は、緑釉・白釉（透明釉）しか見られないことから二彩陶の可能性もみられる。県内出土の三彩陶は、約30例ほどの出土例が知られている。その器種は、新田町境ヶ谷戸遺跡の唐三彩陶枕、十三宝塚遺跡の奈良三彩陶火舎などの特異な器種の出土もあるが、その大部分は小壺であり下東西・清水上遺跡で出土した香炉などの器種は少数である。また、この近辺では、西に位置する中島遺跡、薬師前遺跡、南に位置する山王廃寺などで奈良三彩陶の出土が見られないなど奈良時代の中核的地域であったことはこれら奈良三彩陶の出土傾向からも窺える。なお、35号住居は、供伴する土師器甕、須恵器甕、灰釉陶器碗（光が丘1号窯式期）から10世紀前半代の年代が与えられることから伝世品と言うより後の混入が想定される。

緑釉陶器は、ほとんど小破片であるが51点出土している。器種は、碗・輪花碗・稜碗・皿・段皿・輪花皿・香炉と多器種に及び、3点には陰刻花文の施されている。各種ごとの点数は、碗37点、輪花碗1点、稜碗2点、皿3点、段皿1点、輪花皿1点、香炉1点、器種不明5点であり圧倒的に碗の割合が高い。

それぞれの個体については、国立歴史民俗博物館助手 高橋照彦氏に産地・時期同定についてご教授を受けたのでその一覧を第4表に掲載した。それによると下東西・清水上遺跡の緑釉陶器は、9世紀後半から10世紀後半までの時期のもので産地も畿内洛西、篠、近江、東海猿投、尾北、美濃の各地に及んでいることが解った。それぞれの個体数は、洛西4点、篠7点、洛西または篠2点、近江2点、東海猿投の9世紀後半20点、尾北4点、東海10世紀前半代5点、同後半代1点、10世紀代8点である。今回高橋氏には、県内出土の緑釉陶器について相当数の同定をお願いしたが、これらの中に下東西清水上遺跡で出土している東海尾北産と想定されるものは存在しておらず注目される点である。また、その他の産地・時期については、県内の出土状況と同様な傾向が見られる。

また、緑釉陶器の出土した遺構を見ると13号住居や91号住居のように製作年代と住居の存続年代が近い段階の製品より8号住居や11号住居のような伝世品や15号住居や17号住居のような製作年代より遺構の時期のほうが古い後の混入品のほうが多く存在している。

灰釉陶器は、すべての小破片を含めて1,162点出土している。そのうち図示したのは、37点でその他は10分の1にも満たない小破片が大部分を占めている。出土傾向を概観すると竪穴住居472点、土坑72点、溝29点、遺構外589点と遺構外からの出土が半数を占めているが、下東西・清水上遺跡では竪穴住居からの出土も遺構外出土の量に匹敵するものがある。また、住居からの出土は、多くあるが各住居の年代観を出土している土器から推定してみると灰釉陶器の年代と齟齬が見られる住居も相当数あり特に灰釉陶器の年代より古い段階もあり破片の廃棄場所や混入が相当あったと考えられる。

次に製作年代の判別可能な838点を見ると黒笹14号窯式期3点、黒笹90号窯式期～光が丘1号窯式期156点（第5表では黒笹90号窯式期の欄は空欄であるが数点該当すると思われるものもあるが明確でないため光が丘1号窯式期に含めてある）、大原2号窯式期652点、虎溪山1号窯式期27点、丸石2号窯式期0点と圧倒的に大原2号窯式期のものが占めている。これに対して県内の灰釉陶器の動向は明確な数字は現在のところ提示できないが概ね大原2号窯式期を頂点とする山形の傾向であることは解っている。これに対して下東西・清水上遺跡では、虎溪山1号窯式期の割合が少ない、これは緑釉陶器でも10世紀後半に比定できるものが1点し

第4章 まとめ

か出土しておらず同様な傾向が見られる。これは10世紀後半以降の住居が約1割しか存在しないことを考慮しても数的に少量であり集落の衰退傾向が顕著であったと考えられる。

器種は、椀（椀・皿の体部小破片で判別の不明確なものは椀に入れてある）1,007点、輪花椀1点、稜椀3点、小椀4点、皿40点、段皿4点、折縁皿1点、小皿2点、耳皿1点、長頸壺92点（同一個体と考えられる破片も接合しない場合は1点として数えてある）、小瓶5点、短頸壺2点、平瓶1点であるが、椀・皿等の食膳具が圧倒的な割合を占め長頸壺などの瓶類の割合は僅かである。また、上野国分僧寺・尼寺中間地域等で出土している大型の瓶類の出土は見られず器種構成としては群馬県内の出土傾向と大差はない。

下東西清水上遺跡から出土した施釉陶器の様相は、以上のとおりであるが、奈良三彩陶や黒笹90号窯式期の陰刻花文が施されたものが出土するなど遺跡の位置する地域的環境に当てはまるものや10世紀後半の虎渓山1号窯式期のものが数少ないなど遺跡の盛衰と同様な結果が見られた。

参考文献

- 古代の土器研究会「古代の土器研究—律令的土器様式の西・東3施釉陶器—」1994
 高橋照彦「緑釉陶器」『概説 中世の土器・陶磁器』中世土器研究会編 真陽社1995
 田中宏明「関東地方の施釉陶器の流通と古代の社会」『研究紀要』第11号（財）埼玉県埋蔵文化財調査事業団1995
 三浦京子「群馬県における平安時代後期の土器様相—灰釉陶器を中心として—」『群馬の考古学』（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団1998
 綿貫邦男・神谷佳明・桜岡正信「群馬における灰釉陶器の様相について（1）—消費地からのアプローチ—」『研究紀要』（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団1992
 神谷佳明「奈良三彩陶について」『上野国分僧寺・尼寺中間地域（2）—関越自動車道（新湯線）地域埋蔵文化財発掘調査報告書』第20集（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団1987
 新田町教育委員会「境ヶ谷戸・原宿・上野井II遺跡」1994
 （財）群馬県埋蔵文化財調査事業団「史跡 十三宝塚遺跡」1992

第4表 出土緑釉陶器一覧表

No.	遺構	挿図番号	遺構の時期	器種	洛北	洛西	9C末~10C初	10世紀代	近江	尾北窯9C代	黒笹14号窯式期	黒笹90号窯式期	10世紀前年代	10世紀後年代	10世紀代	11世紀代	備考
1	8号住居-8		10C.後半	椀			○										
2	8号住居-9	30		段皿			○										
3	8号住居-11			椀					○								京都産の可能性もある
4	8号住居-12			?							○						
5	13号住居-9		10C.前半	輪花椀				○									
6	13号住居-9			椀							○						
7	13号住居-10			椀											○		
8	13号住居-12			椀							○						
9	14号住居-20		10C.後半	皿							○						
10	15号住居-15		8世紀代	椀					○								京都産の可能性もある
11	17号住居-11		8世紀代	?							○						
12	34号住居-9		8世紀代	椀							○						
13	35号住居-3		10C.代	椀					○								
14	36号住居-3		10C.代	香炉									○				
15	48号住居-4		11C.前半	椀											○		
16	48号住居-5			椀											○		
17	52号住居-6		10C.前葉	椀									○				美濃産か
18	52号住居-7			椀								○					
19	53号住居-1			椀			○										
20	63号住居-3			椀			○										
21	64号住居-6		9C.中葉	椀				○									
22	68号住居-3			椀				○									
23	91号住居-4		10C.前半	稜椀								○					
24	121号住居-2			?								○					
25	127号住居-1			椀								○					
26	127号住居-2			椀											○		
27	127号住居-3			椀											○		
28	127号住居-4			椀								○					
29	15号土坑-1			椀								○					
30	17号土坑-3			椀					○								京都産の可能性もある
31	17号土坑-4			椀				○									
32	17号土坑-5			椀								○					
33	19号土坑-1			椀									○				
34	47号土坑-1			椀								○					

35	176号土坑-2		?								○						
36	185号土坑-1		皿								○						新段階 陰刻花文
37	16号溝-3		椀								○						新段階 陰刻花文
38	19号溝-2		椀									○					
39	145H35-2												○				
40	170G40-1						○										
41	170H05-2		輪花皿								○						新段階 陰刻花文
42	173H25-2		椀											○			
43	175H45-7		椀									○					
44	185H30-2		椀				○										
45	190H25-1		皿								○						
46	190H25		椀								○						
47	190H33-2		椀					○									京都産の可能性もある
48	197H35-1		椀				○										
49	194/195H33-2		椀				○										
50	200H25-1		椀								○						
51	205H25-1		稜 椀								○						
							4	7	2	4		20	5	1	8		

第5表 出土灰釉陶器一覧表

遺構 No.	遺構時期	K-14	K-90	光ヶ丘1	大原2	虎溪山1	丸石2	不明	計
2号住居	9C. 中葉				1				1
6号住居	10C. 後半			1				1	1
7号住居	10C. 前半			5	4			6	15
8号住居	10C. 前半			1	13			15	29
9号住居	?				3			1	4
10号住居	10C. 後半			1	10			7	18
11号住居	10C. 後半				4			3	7
12号住居	?							1	1
13号住居	10C. 前半			3	9			7	19
14号住居	10C. 後半				16			1	17
15号住居	8C. or 11C. 前半				6	1			7
16号住居	10C. 前半				4				4
17号住居	8C. 中葉			1				2	3
18号住居	9C. 中葉~10C.				3				3
19号住居	10C. 代			2					2
21号住居	8C. 代							1	1
33号住居	8C. or 10C.				1				1
34号住居	8C.				1				1
35号住居	10C. 代			9				2	11
36号住居	10C. 代				2				2
38号住居	10C. 中葉					1			1
40号住居	9C. 代							2	2
41号住居	?					2		2	4
43・44号住居	8C. 代							1	1
45号住居	8C. 代							1	1
46号住居	9C. 中葉				2				2
47~49号住居	9C. or 11C. 前半							1	1
51号住居	10C. 前葉				16				16
52号住居	10C. 前葉				15			2	17
53号住居	?				10				10
54号住居	10C. 中葉				5	3		2	10
56号住居	9C. 中 or 10C. 後				1			2	3
57号住居	9C. 前半							1	1
60号住居	?				2			2	4
63号住居	?				7				7
64号住居	9C. 中葉			11					11
65号住居	?			2	2				4
66号住居	?				2				2
67号住居	10C. 前葉			11		1		11	23
68号住居	?			5	7			5	17
69号住居	10C. 前葉			5				2	7
70号住居	?			3	3			3	9
71号住居	11C. 代			7					7
72号住居	8C. 代				2				2
73号住居	9C. 前葉							2	2
76号住居	10C. 前葉			1					1
81号住居	10C. 前葉			1					1
82号住居	9C. 中葉			4	7			7	18
84号住居	9C. 後葉				3				3
87号住居	10C. 前葉			5	1				6
89・90号住居					20				20
91号住居	10C. 前半			1	1			3	5
92号住居	9C. 前葉				6				6
93号住居	10C. 前半				2				2
94号住居	?			1				2	3
97号住居	10C. 中葉			1	7				8

第4章 まとめ

遺構 No	遺構時期	K-14	K-90	光ヶ丘1	大原2	虎溪山1	丸石2	不明	計
98号住居	10C. 中葉				2				2
99号住居	?				1				1
100号住居	11C. 前半				1				1
100~102号住居					5				5
106号住居	?					1			1
111号住居	10C. 前葉				1			1	2
117~119号住居				3					3
121号住居	?			2					2
127号住居	?				3				4
128号住居	?			1	1			1	2
129号住居	10C. 前葉				3				3
132・133号住居				1					1
138号住居	10C. 前半				1				1
140号住居	?					1			1
6号住居	10C. 後半			1				1	1
150号住居	9 C. 中葉			1					1
151号住居	9 C. 中葉							1	1
152号住居	10C. 代				1				1
157・158号住居					1				1
159号住居	10C. 後半							2	2
160号住居	9 C. 前半							1	1
161号住居	10C. 前半				6				6
162号住居	?				2				2
164号住居	10C. 後葉			1	2				3
165号住居	9 C. 後葉				1				1
167号住居	9 C. 前葉							1	1
168号住居	9 C. 中葉	1		2				1	3
169号住居	?							1	1
170号住居	8 C. or 9 C.			2	2			3	7
172号住居	9 C. 後半			1					1
173号住居	9 C. 後葉			3	2			3	8
175号住居	10C. 前葉			1		1		1	3
176号住居	10C. 前葉							2	2
178号住居	9 C. 中葉							3	3
180号住居	10C. 前半							1	1
181号住居	8 C. 代							1	1
183号住居	?				4				4
184号住居	?							1	1
185号住居	8 C. or 10C. 前半			1					1
4号土坑						1			1
15号土坑					4				4
17号土坑	10C. 代			3	21			1	25
19号土坑					9			1	9
24号土坑				1					1
38号土坑					2				2
47号土坑					2				2
60号土坑				6					6
82号土坑					2				2
96号土坑					1				1
127号土坑						1			1
166号土坑					1				1
167号土坑					2				2
171号土坑						1			1
172号土坑					1				1
176号土坑					2				2
194号土坑	9 C. 中葉				3				3
198・199号土坑	9 C. 中葉							1	1
219号土坑								2	2
231号土坑				1					1
244号土坑					1				1
247号土坑					2				2
228号土坑				1					1
1号溝					4				4
2号溝								1	1
3号溝					2			1	3
5号溝								1	1
7号溝								2	2
14号溝					2				2
16号溝				2					2
18号溝					4				4
19号溝				2					2
21号溝				3					3
30号溝					1				1
33号溝				4					4
遺構外		2		40	341	14		192	589
合計		3		156	652	27		324	1,162

第5章 自然化学分析

第1節 群馬県出土の銅製容器の材質について

奈良国立文化財研究所 村上 隆

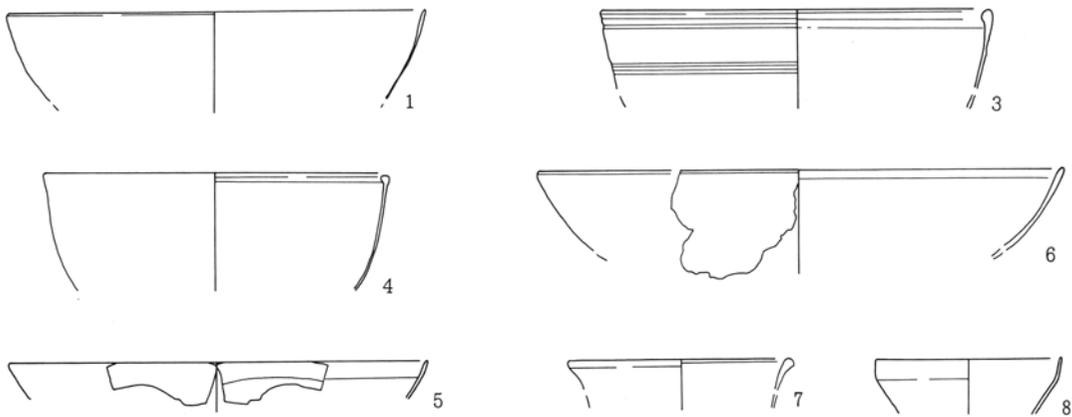
1 はじめに

下東西清水上遺跡を含めて、群馬県下ではこれまでに数点の銅鉢、あるいは銅製容器の資料が出土している。いずれも破片になっており、完形というわけではないが、当初の形を復元し得るだけの情報は遺存しているものがほとんどである。本稿では、これら出土銅製容器資料の材質調査について報告する。

2 調査資料について

調査した資料を以下に示す。いずれも、群馬県下において実施された発掘調査によって出土した銅製容器資料である。

- | | |
|-----------------|--------------------------------|
| 下東西清水上遺跡出土 | 銅鉢口縁部 (第303図-1、図版166-1) |
| 有馬遺跡 (渋川市) 出土 | 銅鉢底部 (図版166-2) |
| 荒砥洗橋遺跡 (前橋市) 出土 | 銅鉢口縁部 (第303図-3、図版166-3) |
| 鳥羽遺跡 (前橋市他) 出土 | 銅鉢口縁部 (第303図-4、5、図版166-4) |
| 融通寺遺跡 (高崎市) 出土 | 銅鉢口縁部、あるいは皿か (第303図-6、図版166-5) |
| 白倉下原遺跡 (甘楽町) 出土 | 銅鉢口縁部 (第303図-7、図版166-6) |
| 国分境遺跡 (群馬町) 出土 | 花瓶の口縁部か (第303図-8、図版166-7) |



第303図 群馬県出土銅製容器

3 調査方法

材質は、蛍光 X 線を用いた非破壊的手法により資料を直接分析する方法によった。用いた装置は、テクノス製エネルギー分散型非破壊蛍光 X 線分析装置 TREX640である。

分析条件は、主に電圧40kV、電流0.3mA、測定時間300秒。X 線照射面積 1mmφ。

装置は、青銅 (銅-錫合金) 標準資料を用いて、定量分析に備えている。しかし、出土遺物の場合、表面に土壌などの付着が見られたり、腐食によるさび層が形成されていたりするため、ここで得られた分析値は、

資料がオリジナルに有していた組成を反映するものでないことを理解し、分析値の取り扱いに注意しなければならない。

なお、資料内部の状態を把握するために、一部の資料に対して、X線ラジオグラフィーにより透過撮影を行った。

4 考察

分析結果を表に示す。3でも述べたが、この表中の分析値がそれぞれの資料のオリジナルな組成を示すものでないことを再認識しておきたい。

さて、これまでの古代の銅甕については、いくつかの分析の成果が出されている。その中で、奈良県法隆寺に伝世する銅甕に対する調査と正倉院宝物中の銅甕に対する調査が、今回の銅製容器の材質を検討するために役立つだろう。これらは、どちらも保存性のよい伝世品に対する調査であるため、蛍光X線分析にも関わらず、オリジナルの組成を反映した分析結果を得ている。一連の調査の中で明らかになったのは、古代に「佐波理」と呼ばれた薄手の青銅製品の組成が、銅80%、錫20%に近い数値をとることである。そして、鉛などの不純物が極端に少ないことも特徴である。

青銅製の出土遺物では土中埋蔵中に腐食が生じ、銅成分が表面から溶脱するため、表面の錫濃度がオリジナルな組成より高くなる現象が生じることがある。この現象を考慮に入れた上で、得られた分析値を検討すると、有馬遺跡から出土した銅甕資料がまさに「佐波理」に相当するものと思われる。また、鳥羽遺跡出土の資料も、「佐波理」と呼びたいが、鉛とひ素が少し高めであり、「佐波理」に準ずるものとしておく。荒砥洗橋遺跡出土資料は、錫は十分に入っているものの鉛も多く、明らかに別の組成を示す。また、白倉下原遺跡と国分境遺跡出土の資料は、逆に錫がほとんど含まれず、青銅（銅-錫合金）というより、銅-鉛-ひ素合金、あるいは鉛合金という方がふさわしい。

従って、今回分析した銅甕資料は、次の4つのタイプに分けられることが分かった。※

- | | |
|------------------------|--------|
| Iタイプ……銅-錫合金 | 「佐波理」 |
| IIタイプ……銅-錫-(鉛)-(ひ素)-合金 | 準「佐波理」 |
| IIIタイプ……銅-錫-鉛-(ひ素)合金 | |
| IVタイプ……銅-鉛-ひ素合金 | |

これらの特徴は、器胎の厚さにも顕著に現われている。例えば、Iタイプである有馬遺跡出土の「佐波理」甕の厚さは、底の一番薄い部分で約0.2mmという驚異的な薄さを示す。

また、IIタイプの下東西清水遺跡出土の準「佐波理」も、口縁部1.3mm、最も薄い部分で0.4mmとかなり薄手の部類である。しかし、IIIタイプである荒砥洗橋遺跡出土の資料では、口縁部4.0mm、最も薄い部分で1.0mmもあり、見るからにシャープさに欠ける。これは、鉛を多く含むため薄く作れないことに起因する。

なお、今回は組成の違いだけに触れ、個々の資料の時代性については詳しく論じないが、先に述べたように法隆寺に伝世資料の調査では、上の4タイプは、時代と共にI→IVと移っていく傾向があるようである。

最後に、X線ラジオグラフィーによる有馬遺跡出土の佐波理甕の調査について述べておく。高いエネルギーを持つX線は物質を透過することができる。X線ラジオグラフィーとは、資料に対するX線の透過度が資

料の材質や内部の構造によって異なることを利用し、資料内部の状態を探る手法である。今回のような銅製容器の資料であれば、資料の腐食状態はもとより製作技法まで明らかにすることができる場合がある。

写真図版166-2aは、Iタイプである有馬遺跡出土の銅甕資料の表面状態である。器壁をできるだけ薄くするために表面を同心円状に削った痕跡が残っているのが確認できる。おそらくこの部分は、銅甕の底に近い部分の破片であることがわかる。また、X線ラジオグラフィ（写真図版166-2b）から内部には巣などは存在せず硬くしまった状態を示すが、厚さに微妙な不均一性が斑に残っているのが認められる。これは、この部分が槌のようなもので叩き締められたことに起因すると考えられ、佐波理甕の製作技法を探る重要な知見を得たといえよう。

一方、写真図版166-3aは、IIIタイプである荒砥洗橋遺跡出土の資料の表面状態である。破損部の先端が少し曲がっており、材質自体が柔らかく粘った感触がある。また、X線ラジオグラフィの結果（写真図版166-3b）をみると、内部は腐食によりスポット的に薄くなったところが認められるが、鑄造欠陥としての巣などはないようである。鉛が多くなるという材質的特徴がX線ラジオグラフィによっても裏付けられたことがわかる。

その他の資料については、表面の状態を写真図版166-4～7Lに示しておく。例えば、Iタイプと考えられる鳥羽遺跡出土資料も、表面を硬い道具で削った痕跡が認められるなど、材質的な特徴が表面の仕上げにも反映されていることがわかる。

5 まとめ

群馬県下から出土した古代の銅甕をはじめとする銅製容器の資料を数点分析した。その結果から「佐波理」など、4つのタイプに分けられることがわかった。今後、さらに分析事例を増やし、これらの銅製容器の組成による違いが、時代や地域性に由来するのか、あるいは工人集団の特性に起因するのかなど、さらに、詳しい調査を行っていきたいと考えている。

【参考文献】

- 村上 隆：「法隆寺に伝世する銅製容器の科学的調査（I）～（III）」『奈良国立文化財研究所年報1993～1995』（1994～1996）
 成瀬正和：「年次報告」『正倉院紀要2～20』（1990～1998）
 ※永嶋正春氏も、古代銅甕の材質に対して、同様の分類を試みている。

第6表 群馬県出土銅製容器に対して行った非破壊的手法による蛍光X線分析の結果（％）

遺跡名	銅 (Cu)	錫 (Sn)	鉛 (Pb)	ひ素 (As)	銀 (Ag)	鉄 (Fe)
有馬	64.29	34.55	0.88		0.28	
鳥羽	58.65	39.45		0.24	0.56	1.11
下東西清水上	50.06	44.00	3.54	1.71	0.39	0.30
融通寺	59.99	31.37	3.83	3.61	0.42	0.22
荒砥洗橋	27.24	47.68	20.40	2.68	2.00	
白倉下原	73.70	0.09	16.27	8.22	0.05	1.68
国分境	16.10	0.58	70.04	11.09	1.12	1.07

第2節 下東西清水上遺跡の土層とテフラ

株式会社 古環境研究所

1. はじめに

群馬地域の完新世に形成された火山灰土中には、浅間火山や榛名火山をはじめとする関東地方とその周辺に分布する火山のほか、九州地方の鬼界カルデラなど遠方の火山に由来するテフラ（火山碎屑物、いわゆる火山灰）が多く認められる。テフラの中には、噴出年代が明らかにされている示標テフラがあり、これらとの層位関係を遺跡で求めることで、遺構の構築年代や遺物包含層の堆積年代を知ることができるようになっている。

そこで、形成年代の不明な土層が認められた下東西清水上遺跡において、地質調査とテフラ検出分析、屈折率測定を合わせて行って、土層の層序を記載するとともに、示標テフラの層位を把握して、土層の堆積年代に関する資料を収集することになった。調査の対象となった地点は、3区178H-38グリッド及び3区151G-34グリッド、2区171H-49グリッドの3地点である。

2. 土層の層序

(1) 3区178H-38グリッド

この地点では、下位より灰色シルト層（層厚3cm以上）、細礫混じり灰色砂層（層厚36cm、礫の最大径28mm）、暗灰色粘質土（層厚22cm）、黒色土（層厚23cm）、灰色砂層（層厚36cm）、下反部に黄色軽石が含まれる暗灰色土粘質土（層厚24cm、軽石の最大径4mm）、灰色粘質土（層厚18cm）、灰色砂層（層厚4cm）、黄色軽石に富む灰色シルト層（層厚5cm）、灰色粘土質シルト層（層厚6cm）、暗灰色土粘質土（層厚6cm）、灰色砂層（層厚5cm）、亜円礫混じり灰色砂礫層（層厚31cm、礫の最大径17mm）、灰色砂層（層厚5cm）、黄色軽石に富む灰色砂層（層厚5cm、軽石の最大径2mm）、褐色シルト層（層厚5cm）、灰色砂礫層（層厚28cm、礫の最大径38mm）、亜円礫混じり褐色土（層厚31cm、礫の最大径24mm）が認められる。なお後述する3区151G-34グリッドと合わせて作成した本遺跡の模式土層柱状図を第304図に示す。

(2) 3区151G-34グリッド

この地点では、本遺跡の土層のうち最上部の土層をよく観察することができた。この地点では、下位より灰色砂層（層厚5cm）、暗褐色砂質土（層厚18cm）、黒褐色土（層厚15cm）、灰白色軽石に富む黒褐色土（層厚9cm、軽石の最大径16mm）、灰褐色土（層厚19cm）、砂混じり暗灰褐色土（層厚21cm）、期灰色粗粒火山灰層（層厚2cm）、暗灰褐色砂質土（層厚10cm以上）が認められる。

これらのうち、灰白色軽石は岩相から4世紀中葉に浅間火山から噴出した浅間C軽石（As-C, 新井, 1979）に由来すると考えられる。また期灰色粗粒火山灰層は、層相から1108（天仁元）年に浅間火山から噴出した浅間Bテフラ（As-C, 新井, 1979）に同定される。

(3) 2区171H-49グリッド

この地点では、下位より灰色砂層（層厚30cm以上）、黄色軽石混じり黒泥層（層厚30cm、軽石の最大径8mm）、層理の発達した灰色砂層（層厚230cm）、暗褐色泥炭層（層厚1cm）、黄灰色シルト層（層厚15cm）、層理の発

達した灰色砂層（層厚65cm）、暗灰色、灰色、赤橙色岩片混じり灰色土石流堆積物（層厚118cm、礫の最大径290mm）、黄褐色土（層厚24cm）、暗褐色土（層厚10cm）、灰色や赤色の岩片混じり黒褐色土（層厚20cm、岩片の最大径3mm）、黄灰色土（層厚16cm）の連続が認められる（図1）。さらに、これらの地層を斬って発達した埋没谷が認められる。谷を埋めた地層は、下位より成層した灰褐色砂層（層厚57cm）、褐色砂礫層（層厚23cm）、灰色砂質土（層厚38cm）、暗灰褐色土（層厚25cm）からなる。

3. 屈折率測定

(1) 測定試料と測定方法

測定の対象となった試料は、黄色軽石の認められた3試料である。これらの試料について、位相差法（新井, 1972）により屈折率の測定が行われた。

(2) 測定結果

屈折率の測定結果を第7表に示す。試料番号3には、重鉱物として量の多い順に斜方輝石、単斜輝石が含まれている。また角閃石も少量認められる。火山ガラスの屈折率(n)は $1.527 \pm$ 、斜方輝石の屈折率(γ)は $1.708-1.712$ である。試料番号2には、重鉱物として斜方輝石のほか単斜輝石が認められる。火山ガラスの屈折率(n)は $1.510-1.532$ 、斜方輝石の屈折率(γ)は $1.707-1.712$ である。さらに試料番号1には、重鉱物として量の多い順に斜方輝石、単斜輝石が含まれている。また角閃石も少量認められる。斜方輝石の屈折率(γ)は $1.700-1.705$ である。また角閃石の屈折率(n_2)は、 $1.675 \pm$ である。

これらの特徴をもつ軽石の年代や起源については、現在までのところ不明な点が多い。さらに多くのテフラに関する試料の蓄積が待たれる。

4. テフラ検出分析

(1) 分析試料と分析方法

2区171H-49グリッドの土層のうち、テフラの含まれる可能性が考えられた土層から採取された試料4点についてテフラ検出分析を行い、示標テフラの降灰層準を検出することにした。テフラ検出分析の手順は、次の通りである。

- 1) 試料10gを秤量。
- 2) 超音波洗浄装置により泥分を除去。
- 3) 80°Cで恒温乾燥。
- 4) 実体顕微鏡下でテフラ粒子の特徴を観察。

(2) 分析結果

テフラ検出分析の結果を、第8表に示す。全体として、検出された軽石は少量であった。試料番号6には、スポンジ状によく発砲した軽石（最大径1.3mm）が少量認められた。この軽石については、岩層から完新世に浅間火山から噴出したテフラの可能性が考えられる。

試料番号5には、スポンジ状に比較的よく発砲した灰色軽石（最大径1.0mm）のほか、発砲のあまりよくない白色軽石（最大径0.3mm）がわずかに認められる。

前者は、その特徴から4世紀初頭に浅間火山から噴出した浅間C軽石(As-C, 新井, 1979)に由来すると考えられる。一方、後者はその特徴から6世紀初頭に榛名火山から噴出した榛名二ツ岳渋川テフラ層(Hr-FA,

新井, 1979, 坂口, 1986, 早田, 1989, 町田・新井, 1992) に由来すると思われる。

試料番号1には、比較的よく発砲した淡灰褐色の軽石(最大径2.1mm)が含まれている。この軽石は、その層相から1108(天仁元)年に浅間火山から噴出した浅間Bテフラ(As-B, 新井, 1979)に由来すると思われる。

なお、いずれの軽石も検出された量が少なく、同定の精度は決して高いものではない。さらに屈折率測定などを行って、同定精度を向上させる必要がある。現段階においては、埋没谷の基盤にあたる地層のうち、水成堆積物とその間に挟まれる泥炭層は、少なくとも4世紀中葉以前に堆積した可能性が考えられる。また埋没した谷については、As-B降灰後の新しい時期に形成された可能性がある。

4. まとめ

下東西清水上遺跡において、地質調査とテフラ検出分析、屈折率の測定を行った。その結果、浅間C軽石(As-C, 4世紀中葉)、榛名二ツ岳渋川テフラ(Hr-FA, 6世紀初頭)、浅間Bテフラ(As-B, 1108年)などに由来する可能性のある軽石粒子やテフラ層が検出された。さらに、As-Cの下位の3層準に軽石粒子の濃集層準が検出された。発掘調査で検出された埋没谷については、As-Bの降灰後にできた可能性が考えられた。

下東西清水上遺跡において地質調査と屈折率の測定を行った。その結果、浅間C軽石(As-C, 4世紀中葉)と浅間Bテフラ(As-B, 1108年)に由来するテフラ粒子やテフラ層が検出された。さらに、As-Cの下位の3層準に軽石粒子の濃集層準が検出された。

文献

新井房夫(1962)関東盆地北西部地域の第四紀編年。群馬大学紀要自然科学編, 10, p.1-79。

新井房夫(1972)斜方輝石・角閃石によるテフラの同定—テフクロロジーの基礎的研究。第四紀研究, 11, p.254-269。

新井房夫(1979)関東地方北西部の縄文時代以降の示標テフラ層。考古学ジャーナル, no.53, p.41-52。

町田 洋・新井房夫(1992)火山灰アトラス。東京大学出版会, 276p。

坂口 一(1986)榛名二ツ岳起源FA・FP層したの土師器と須恵器。群馬県教育委員会編「荒砥北原遺跡・今井神社古墳群・荒砥青柳遺跡」, p.103-119。

早田 勉(1989)6世紀における榛名火山の2回の噴火とその災害。第四紀研究, 27, p.297-312。

II. 下東西清水上遺跡における放射性炭素年代測定結果

1. 試料と方法

試料名	地点・層準	種類	前処理・調整	測定法
No.1	深掘トレンチ	土壌	酸洗浄 ベンゼン合成	β 線法
No.2	深掘トレンチ	土壌	酸洗浄 低濃度処理 ベンゼン合成	β 線法
No.3	深掘トレンチ	土壌	酸洗浄 低濃度処理 ベンゼン合成	β 線法

2. 測定結果

試料名	^{14}C 年代 (年 BP)	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	補正 ^{14}C 年代 (年 BP)	暦年代交点 (1 σ)	測定No. (Beta $^-$)
No.1	4,770 \pm 60	-20.7	4,830 \pm 60	BC3640 (BC3665~3620) (BC3575~3535)	92,774
No.2	5,120 \pm 60	-20.6	5,190 \pm 60	BC3980 (BC4035~3960)	92,775
No.3	6,320 \pm 60	-18.6	6,420 \pm 60	BC5330 (BC5425~5280)	92,776

1) ^{14}C 年代測定値

試料の $^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$ 比から、単純に現在 (1950年 AD) から何年前 (BP) かを計算した値。 ^{14}C の半減期は5,568年を用いた。

2) $\delta^{13}\text{C}$ 測定値

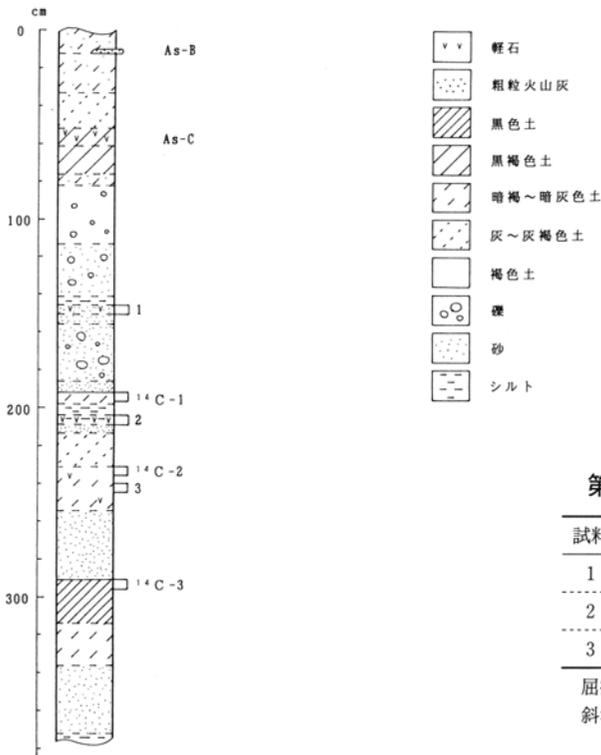
試料の測定 $^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$ 比を補正するための炭素安定同位体比 ($^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$)。この値は標準物質 (PDB) の同位体比からの千分偏差 (‰) で表す。

3) 補正 ^{14}C 年代値

$\delta^{13}\text{C}$ 測定値から試料の炭素の同位体分別を知り、 $^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$ の測定値に補正値を加えた上で算出した年代。

4) 暦年代

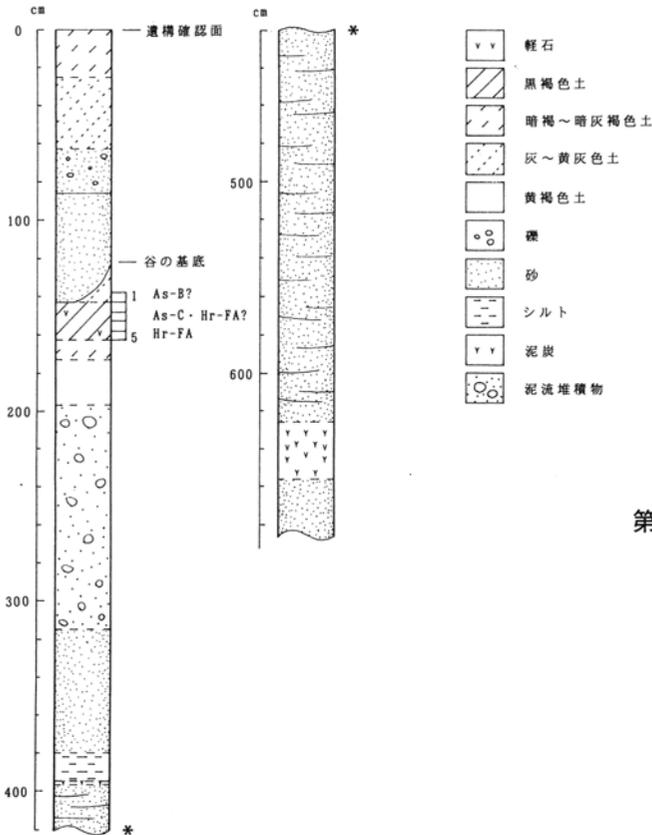
過去の宇宙線強度の変動による大気中 ^{14}C 濃度の変動を補正することにより算出した年代 (西暦)。補正には年代既知の樹木年輪の ^{14}C の詳細な測定値を使用した。この補正は10,000年 BP より古い試料には適用できない。暦年代の交点とは、補正 ^{14}C 年代値と暦年代補正曲線との交点の暦年代値を意味する。1 σ は補正 ^{14}C 年代値の偏差の幅を補正曲線に投影した暦年代の幅を示す。したがって、複数の交点が表記される場合や、複数の1 σ 値が表記される場合もある。



第7表 下東西清水上遺跡の屈折率測定結果

試料	重 鉱 物	火山ガラス (n)	斜法輝石 (γ)	角閃石 (n_2)
1	opx>cpx (ho)	—	1.700-1.705	1.675±
2	opx>cpx	1.510-1.532	1.707-1.712	—
3	opx>cpx (ho)	1.527±	1.708-1.712	—

屈折率の測定は位相差法(新井, 1972 9 による。gl: 火山ガラス, opx: 斜法輝石, cpx: 単斜軌跡, ho: 角閃石。



第8表 下東西清水上遺跡のテフラ検出分析結果

試料	軽石の量	軽石の色調	軽石の最大径
1	+	淡灰褐	2.1
3	—	—	—
5	+	灰>白	1.0, 0.3
6	+	灰白	1.3

++++: とくに多い, +++: 多い, ++: 中程度, +: 少ない, —: 認められない, 最大径の単位は, mm。

第304図 上層柱状図及び分析試粒採集位置

第3節 下東西清水上遺跡の焼失竪穴住居跡の炭化材樹種同定

植田弥生 (パレオ・ラボ)

1. はじめに

当遺跡は群馬県前橋市青梨子町字清水上に所在し、榛名山の裾野の相馬ヶ原扇状地と前橋台地とが交差する地域で標高約145~148mに立地する。縄文時代~中世・近世の遺物・遺構が発掘されている。

ここでは、平安時代の住居焼失家屋3軒から検出された炭化材の樹種同定を報告する。

2. 方法

樹種同定は炭化材の3方向の破断面の組織を走査電子顕微鏡で観察し行った。横断面(木口)は炭化材を手で割り新鮮な面を出し、接線断面(板目)と放射断面(柁目)は片刃の剃刀を方向に沿って軽くあてて弾くように割り面を出す。この3断面の試料を直径1cmの真鍮製試料台に両面テープで固定し、その周囲に導電性ペーストを塗る。試料を充分乾燥させた後、金蒸着を施し、走査電子顕微鏡(日本電子(株)製 JSM T-100型)で観察・写真撮影をした。

3. 結果

3軒の焼失住居跡から出土した炭化材は、針葉樹はモミ属(2点)とヒノキ科(2点)の2分類群、落葉広葉樹は8分類群でクリ4点、ヤマグワ・サクラ属各3点、ケヤキ2点、イヌシデ節・コナラ節・クリ・カエデ属・トネリコ属各1点であった(表1・2)。13号住からはケヤキ・サクラ属・カエデ属・トネリコ属、51号住からはモミ属・ヒノキ科・イヌシデ節・コナラ節・クリ、56号住からはクリ・ケヤキ・ヤマグワ・サクラ属が出土した。

同定された樹種の材組織記載

モミ属 *Abies* マツ科 図版1 1a.-1c. (51号住No12)

仮道管・放射柔細胞からなり樹脂細胞を持たない針葉樹材である。早材から晩材への移行はゆるやかで晩材量は多い。放射柔細胞の壁は厚く、放射断面において細胞壁に数珠状肥厚がみられ、上下端の細胞はときに山形になる。分野壁孔は小型、1分野に1~4個、炭化材では孔口の大きさと配置は不揃いに見える。放射組織の細胞高は比較的高い。

モミ属は常緑高木で、暖帯から温帯下部の山地に普通に見られるモミ、温帯上部の高山に生育するウラジロモミ・シラベ・アオモリトドマツ、北海道の山地に生育するトドマツの5種がある。いずれの材も組織は類似しており区別はできていない。材質はやや軽軟で加工は容易であるが保存性は低い。

ヒノキ科 *Cupressaceae* 図版1 2a.-2c. (51号住No18)

仮道管・放射組織・樹脂細胞からなる針葉樹材である。晩材部の量は少ない。分野壁孔は1分野に2~4個、壁孔の外形は丸いことからヒノキ科の材であることがわかる。No18の放射組織は5細胞高位かと低く分野壁孔も小さい点ではアスナロの可能性が考えられたが、年輪幅が非常に狭く仮道管の径も小さい点からは悪条件下で成長していたとも考えられるので、種または属の特定はひかえた。No19も年輪幅が狭く、放射組織は高いものがあり、分野壁孔はやや大きく水平に2個並ぶ形質からはヒノキ属の可能性が考えられたが断

第5章 自然化学分析

定はできなかった。

クマシデ属イヌシデ節 *Carpinus* sect. *Eucarpinus* カバノキ科 図版1 3a.-3c. (51号住No13)

放射組織が集合する部分と2～数個の小型の管孔が放射方向に複合し配列する部分とがある放射孔材である。道管の壁孔は小型で交互状に密在、穿孔は単一である。放射組織はほぼ同性、1～4細胞幅、道管との壁孔はやや大きく蜂の巣状である。集合放射組織が目立ち穿孔も単一であることから、クマシデ属のイヌシデ節と同定した。なおクマシデ節とは集合放射組織の出現頻度が低く、穿孔は横棒が10本以下の階段状のものが多いことで区別している。

クマシデ属は温暖および温帯の山地に生育する落葉高木または大形低木である。イヌシデ節には山野に津風のイヌシデとアカシデ、乾いた山稜に生育するイワシデがある。

コナラ属コナラ亜属コナラ節 *Quercus* subgen. *Quercus* sect. *Prinus* ブナ科 図版2 4a.-4c. (51号住No10)

年輪の始めに大型～中型の管孔が1～2層配列し、急に径を減じ薄壁で多角形の小型穿孔が放射状～火炎状に配列する環孔材である。接線状の木部柔組織が顕著である。道管の壁孔は交互状、穿孔は単一、内腔にチロースがある。放射組織は同性、単列のものと複合状のものがある。

コナラ節は暖帯から温帯に生息する落葉高木でカシワ・ミズナラ・コナラ・ナラガシワがある。材は加工はややしにくく乾燥すると割れや狂いが出やすい欠点があるが、人里近くの林に多くの利用頻度が高く、遺跡からよく出土する樹種である。堅果は食用となる。

クリ *Castanea crenata* Sieb. et Zucc. ブナ科 図版2 5a.-5c. (51号住No15)

年輪の始めに中型～大型の管孔が密に配列し徐々に径を減じてゆき、晩材では非常に小型の管孔が火炎状に配列する環孔材である。接線状の木部柔組織が顕著である。道管の壁孔は小型で交互状、穿孔は単一、内腔にはチロースがある。放射組織は単列同性、道管との壁孔は孔口が大きく交互状・柵状である。

北海道西南部以南の暖帯から温帯下部の山野に普通の落葉高木である。果実は食用になり、材の加工はやや困難であるが狂いは少なく粘りがあり耐朽性にすぐれている。

ケヤキ *Zelkova serrata* (Thunb.) Makino ニレ科 図版2 6a.-6c. (56号住No29)

年輪の始めに大型の管孔が1～2列配列し、その後小型の管孔が多数集合して接線状・斜状に配列する環孔材である。道管の壁孔は交互状、穿孔は単一、小道管にはらせん肥厚がある。放射組織は異性、1～7細胞幅の紡錘形、上下端や縁に結晶細胞があり、道管との壁孔は交互状である。

ケヤキは暖帯下部から温帯の山中や川岸に生育する落葉高木である。材質は堅いが狂い安いので十分な乾燥が必要な材である。用途は建築材や用器が多い。

ヤマグワ *Morus bombycis* Koidzumi クワ科 図版3 7a.-7c. (56号住No27)

年輪の始めに中型の管孔が配列し徐々に径を減じ、晩材部では孔径の大きさが不揃いな小型管孔が集合し斜状・波状に配列する環孔材である。道管の壁孔はやや大きくて交互状、穿孔は単一、小道管にはらせん肥厚があり、内腔にはチロースがある。放射組織は異性、1～5細胞幅の紡錘形で上下端に方形・直立細胞があ

り、道管との壁孔は大きくて交互状に配列している。

ヤマグワは落葉高木または低木で、温帯から亜熱帯の山中に広く分布する。果実は食用となり、材は重硬・強靱で心材は特に保存性が高い。

サクラ属 *Pernus* パラ科 図版3 8a.-8c. (56号住No.36)

小型の管孔が単独または様々な方向に複合し徐々に径を減しながら均一に散在する散孔材である。管孔の分布は多く年輪始めの管孔はやや大きい。No.36では障害樹脂腔が見られた。道管の壁孔は交互状、穿孔は単一、内腔にらせん肥厚がある。放射組織は同性、おもに4細胞幅で細胞高は高い。当遺跡のすべての試料(No.88、No.94、No.36)の管孔配列はヤマザクラに似るが、管孔分布数はヤマザクラに比べ多く密在していた。

サクラ属は暖帯から温帯の山地に生育する落葉広葉樹林の代表的な属で多くの種を含み、モモ・ウメ・スモモなどの栽培種も含まれる。ほとんどは落葉性の高木であるが常緑樹もあり、果実が食べられるものが多い。材は粘り気があり強く、保存性も高い。

カエデ属 *Acer* カエデ科 図版3 9a.-9c. (13号住No.78)

小型の管孔が単独または2～3個が放射方向に複合して散在し年輪界は不明瞭な散孔在である。道管の壁孔は交互状、穿孔は単一、内腔に細いらせん肥厚がある。放射組織は同性、1～3細胞幅で狭く細長い。

カエデ属は日本全土の暖帯から温帯の山地や谷間に生育し、落葉広葉樹林の主要構成樹で約26種と、多くの変種が知られている。在は堅く緻密で割れにくく、保存性は中程度である。

トネリコ属 *Fraxinus* モクセイ科 図版4 10a.-10c. (13号住No.82)

中型～大型の管孔が2～3層配列し、単独または2～3個が複合した小型で厚壁の管孔が散在する環孔在である。周囲状柔組織があり、晩在部では帯状柔組織が顕著である。道管の壁孔は小型で交互状、穿孔は単一である。放射組織は同性、1～5細胞幅である。

トネリコ属はおもに温帯に生育する落葉高木で、シオジ・ヤチダモ・トネリコ・アオダモなど約9種がある。在は重硬で弾力性があり折れ難く棒・柄などによく使われる。遺跡からは建築在・板・杭・柄・碗などの使用例が多い。

4. まとめ

各住居ごとの産出樹種にはかたよがりがあり(表2)、検討試料数は各住居とも5～8試料と少ないわりには4～5分類群が検出され種類数は多かったのが特徴である。

山田(1993)は、8～11世紀になると建築材の用材はコナラ節・クヌギ節・クリ・シイ属を使用していた前時期の傾向が強が残ってはいるが平地や湿地に生育する樹種の使用例が増え、用材拡大が認められると指摘している。関東地方では古墳時代になるとそれ以前のクリ中心使用に代わりクヌギ節が多用され(鈴木・能城、1995)、さらに発掘調査辞令が増えるに従い、標高が高くやや乾燥した地域ではコナラ節が(例：勝保沢中ノ山遺跡)、台地上ではアカガシ亜属が多用されていた(白倉下原・天引向原遺跡)例も発掘されてきた。このように立地環境により使用樹種に違いはあるものの、古墳時代では1軒の焼失家屋からはほとんど同じ樹種しか検出されないか、1～2種類が圧倒的に多く検出される。ところが、平安時代になると1軒の焼失家屋からは多様な樹種が検出される傾向がある。当遺跡もまさにその傾向を示していた。このような古墳時

代から平安時代の焼失住居跡出土材の変化要因として次のようなことが考えられる。古墳時代の単一樹種多用によりその樹種が枯渇した、周辺植生が変化した、住居地拡大により今まであまり利用していなかったタイプの森林から木材を調達するようになった、調度類の多様化や増加に伴い使用樹種が増えたため様々な樹種が検出されるようになるなどの要因とが考えられる。

当遺跡から検出された分類群はいずれも建築材や器具・家具・容器に適した材質のものである。

51号住のみから出土した針葉樹のモミ属・ヒノキ科そして落葉広葉樹のイヌシデ節・コナラ節は、13号住と56号住出土の広葉樹類よりやや標高の高い所まで生育範囲に広がりがある分類群であった。このように51号住から出土した樹種は、13号住と56号住とはやや異なる傾向が見られた。

参考文献

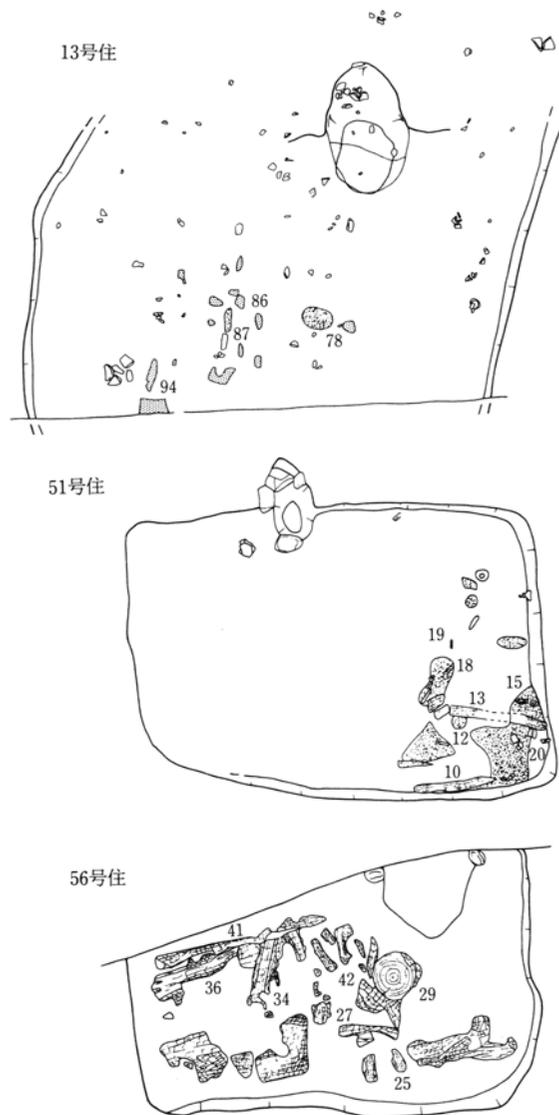
山田昌久、1993、日本列島における木質遺物出土遺跡文献集成—用材から見た人間・植物関係史、242pp. 植生史研究 特別第1号、植生史研究会。
 鈴木光男・能城修一、1988、群馬県勝保沢中ノ山遺跡出土炭化材の樹種、「勝保沢中ノ山遺跡 I」、群馬県教育委員会。
 鈴木光男・能城修一、1995、出土炭化材の樹種、「(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団発掘報告書第194集 中高瀬観音山遺跡」、p. 304-312、(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団。
 白倉下原・天引向原遺跡(群馬県甘楽郡)は未刊行。1996年9月末に(財)群馬埋文に御報告した資料です。

第9表 焼失竪穴住居跡の炭化材樹種

遺構	試料	樹種	時期
13号住	No.78	カエデ属	平安時代
13号住	No.82	トネリコ属	平安時代
13号住	No.86	ケヤキ	平安時代
13号住	No.88	サクラ属	平安時代
13号住	No.94	サクラ属	平安時代
51号住	No.10	コナラ属	平安時代
51号住	No.12	モミ属	平安時代
51号住	No.13	イヌシデ節	平安時代
51号住	No.15	クリ	平安時代
51号住	No.18	ヒノキ科	平安時代
51号住	No.19	ヒノキ科	平安時代
51号住	No.20	モミ属	平安時代
56号住	No.25	クリ	平安時代
56号住	No.27	ヤマグワ	平安時代
56号住	No.29	ケヤキ	平安時代
56号住	No.34	クリ	平安時代
56号住	No.36	サクラ属	平安時代
56号住	No.37	クリ	平安時代
56号住	No.41	ヤマグワ	平安時代
56号住	No.42	ヤマグワ	平安時代

第10表 竪穴住居ごとの検出樹種

検出樹種	13号住	51号住	56号住
モミ属		2	
ヒノキ科		2	
イヌシデ節		1	
コナラ節		1	
クリ		1	3
ケヤキ	1		1
ヤマグワ			3
サクラ属	2		1
カエデ属	1		
トネリコ属	1		
合計	5	7	8



第305図 各住居跡出土の炭化材位置とその樹種

第11表 土器観察表

出土位置	図版 写真	種類 器種	出土位置 残存状態	法 (cm)	量	胎 土	焼成	色調	成・整形技法等の特徴	備 考
1区2号 住居跡	第21図 - 1 第115図	須恵器 坏	埋土 完形	器高 3.5 口径 10.6 底径 4.7		赤色粒含む	酸化焰	浅黄橙	腰の張りが弱く、口縁部は僅かに外反する。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り。	1
	第21図 - 2 第115図	須恵器 坏	床直 3/4	器高 2.8 口径 10.4 底径 5.0			酸化焰	にぶい 黄褐	口縁部は僅かに内湾気味に立ち上がる。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り。	2
	第21図 - 3 第115図	須恵器 坏	埋土 1/4	器高 3.8 口径(11.6) 底径(6.2)			還元焰	オリ ブ黒	腰の張りが弱く、口縁部は僅かに外反する。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り。	3
	第21図 - 4 第115図	須恵器 坏	床直 1/5	器高 2.7 口径(10.4) 底径(4.8)		砂粒を含む	酸化焰	橙	腰の張りが弱く、口縁部は僅かに外反する。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り。	4
	第21図 - 5 第115図	灰釉 皿	埋土 2/3	器高 2.3 口径 12.0 底径 7.8		白色粒含む	還元焰	灰	轆轤整形、回転方向右回り。底部回転筥調整、高台貼付。内面見込み部と高台タタミ付部分に重ね焼き痕が残る。施釉は漬け掛け、釉調は透明感のない灰色。	5
1区3号 住居跡	第22図 - 5 第115図	須恵器 椀	床直 底部	器高(2.2) 口径 — 底径 5.9			還元焰	灰	器形は不明。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り後、高台は貼り付け。	1
1区4号 住居跡	第23図 - 1 第115図	土師器 甕	竈埋土 底部3/4	器高(5.7) 口径 — 底径 8.2			酸化焰	明褐	外面筥削り、紐作り。轆轤整形。	1
	第23図 - 2 第115図	須恵器 椀	? 底部	器高(3.8) 口径 — 底径 9.4		黒色粒含む	酸化焰	にぶい 黄橙	器形は不明。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り。いわゆる足高台である。	2
2区6号 住居跡	第25図 - 1 第115図	須恵器 椀	床下土坑 埋土 3/4	器高 5.3 口径 11.4 底径 6.4		赤色粒含む	酸火焰	にぶい 黄橙	腰の張りが弱く、口縁部は僅かに外反する。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り後、高台は貼り付け。	1
	第25図 - 2 第115図	須恵器 椀	掘り方埋 土 底部のみ	器高(3.6) 口径 — 底径 6.6			酸化焰	にぶい 黄橙	器形は不明。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り後、高台は貼り付け。	2
	第25図 - 3 第115図	灰釉 椀	掘り方埋 土 底部1/4	器高(2.8) 口径 — 底径(8.0)		黒色粒含む	還元焰	褐灰	轆轤整形、回転方向右回り。底部回転筥調整、高台貼付。施釉は内外面の口縁部に刷毛塗りか、釉調は不透明な灰黄色。三ヶ月高台。	3
2区7号 住居跡	第26図 - 1 第115図	須恵器 椀	掘り方埋 土 1/2	器高 5.1 口径(14.6) 底径 6.3		黒色粒含む	還元焰	灰白	腰の張りが弱く、口縁部は僅かに外反する。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り後、高台は貼り付け。	1
	第26図 - 2 第115図	須恵器 椀	掘り方埋 土 1/3	器高 5.2 口径(13.2) 底径(6.7)		黒色粒含む	還元焰	灰黄	腰の張りが弱く、口縁部は僅かに外反する。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り後、高台は貼り付け。	2
	第26図 - 3 第115図	須恵器 椀	掘り方埋 土 3/4	器高 5.7 口径 13.6 底径 6.0		黒色粒含む	還元焰	灰白	腰の張りが弱く、口縁部は僅かに外反する。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り後、高台は貼り付け。	3
	第26図 - 4 第115図	灰釉 皿	掘り方埋 土 1/2	器高 3.4 口径(13.4) 底径(7.4)		白色粒含む	還元焰	灰白	轆轤整形、回転方向右回り。底部回転筥調整、高台貼付。施釉は口縁部に刷毛塗り、釉調は不透明な灰白色。三ヶ月高台。	4
2区8号 住居跡	第30図 - 2 第115図	須恵器 坏	埋土 1/2	器高 4.5 口径(12.0) 底径 5.4		黒色粒含む	酸化焰	にぶい 黄橙	腰の張りが弱く、口縁部は僅かに外反する。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り。内面に黒色物付着。	2
	第30図 - 3 第115図	須恵器 坏	埋土 1/4弱	器高 4.8 口径(11.6) 底径(5.6)		赤色粒含む	還元焰	褐灰	底部から直線的に外傾する。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り。	3
	第30図 - 4 第115図	須恵器 椀	埋土 3/4	器高 5.6 口径 14.0 底径 6.8		黒色粒含む	還元焰	にぶい 黄	腰の張りが弱く、口縁部は僅かに外反する。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り後、高台は貼り付け。	4
	第30図 - 5 第115図	須恵器 椀	埋土 1/4	器高 5.1 口径(13.0) 底径(7.0)		黒色粒含む	酸化焰	にぶい 黄橙	口縁部は僅かに内湾気味に立ち上がる。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り。	5
	第30図 - 6 第115図	須恵器 椀	埋土 1/5	器高 4.7 口径(15.4) 底径(7.2)		雲母を含む	還元焰	暗灰黄	腰の張りが弱く、口縁部は僅かに外反する。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り後、高台は貼り付け。	6
2区8号 住居跡	第30図 - 7 第115図	須恵器 坏	埋土 1/2	器高 4.1 口径(12.4) 底径 8.1		黒色粒含む	酸化焰	灰	底部から直線的に外傾する。轆轤整形(右回転)。底部は回転筥削り。	7

出土位置	図版 写真	種類 器種	出土位置 残存状態	法 量 (cm)	胎 土	焼成	色調	成・整形技法等の特徴	備 考
	第30図 - 9	緑釉 段皿	埋土 底部1/4	器高 (1.7) 口径 — 底径 (14.6)		還元焰	オリ ブ灰	轆轤整形、回転方向不明。底部回転寛撫で、高台削り出し。釉調はやや深い緑色。	9
	第30図 - 10 第115図	灰釉 椀	埋土 底部1/2	器高 (3.3) 口径 — 底径 (6.0)		還元焰	灰白	轆轤整形、回転方向右回り。底部回転寛調整、高台貼付。施釉は刷毛塗り、釉調は不透明な緑灰色。三ヶ月高台。	10
2区9号 住居跡	第32図 - 1 第115図	土師器 甕	埋土 口縁~胴 部1/4弱	器高 (9.0) 口径 (25.0) 底径 —		酸化焰	にぶい 黄褐	口縁部は直線的に外傾する。口縁部・胴部内面は横撫で、胴部外面上半縦方向、下半斜方向の筥削り。	1
	第32図 - 2 第115図	須恵器 羽釜	埋土 口縁部1/ 弱	器高 (4.8) 口径 (12.8) 底径 —		還元焰	灰	底部から直線的に外傾する。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り。	2 最大径15.4
	第32図 - 3 第115図	須恵器 坏	埋土 2/3	器高 4.4 口径 (11.8) 底径 6.5	白色粒・礫含 む	還元焰	灰	口縁部は直線的に外反する。胴部上半の張りは弱く、罅部は水平、口縁部は直立する。紐作り。轆轤整形。	3
2区10号 住居跡	第34図 - 1 第115図	須恵器 坏	埋土 2/3	器高 3.1 口径 (9.5) 底径 5.1	白色・赤色・ 黒色粒含む	酸化焰	にぶい 黄橙	腰の張りが弱く、口縁部は僅かに外反する。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り。	1
	第34図 - 2 第115図	須恵器 椀	埋土 2/3	器高 5.2 口径 (10.8) 底径 6.6	赤色粒含む	酸化焰	黄褐	腰の張りが弱く、口縁部は僅かに外反する。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り。	2
	第34図 - 3 第115図	須恵器 椀	床下土坑 埋土 底部3/4	器高 2.0 口径 — 底径 (8.0)		還元焰	黄灰	器形は不明。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り後、高台は貼り付け。内面黒色処理。	3
	第34図 - 4 第116図	須恵器 羽釜	甕埋土 1/4	器高 (4.5) 口径 (21.2) 底径 —		還元焰	にぶい 橙	罅は断面翼状で、貼り付け。罅部は水平で最大径、口縁部は内傾する。紐作り。轆轤整形。	4 最大径23.7
	第34図 - 6 第116図	須恵器 羽釜	貯蔵穴埋 土	器高 (8.5) 口径 (22.0) 底径 —	小礫含む	還元焰	にぶい 黄褐	罅は断面三角形で、貼り付け。最大径罅部で、罅部は水平、口縁部は内傾する。紐作り。轆轤整形。	6 口縁~罅部 1/5残存 最大径27.0
	第34図 - 7 第116図	須恵器 羽釜	埋土 口縁~罅 部1/4	器高 (7.9) 口径 (17.2) 底径 —		還元焰	褐灰	罅は断面翼状で、貼り付け。最大径罅部で、罅部は水平、口縁部は内傾する。紐作り。轆轤整形。	7 最大径20.2
	第34図 - 8 第116図	須恵器 甕	甕埋土 底部	器高 (2.4) 口径 — 底径 (22.4)	小礫含む	還元焰	褐灰	紐作り。轆轤整形。	8
	第34図 - 9 第116図	須恵器 坏	掘り方埋 土 口縁破片	器高 (5.5) 口径 (21.0) 底径 —	白色粒含む	還元焰	灰	口縁部は「C」字状に内湾する。	9
	第34図 - 10 第116図	須恵器 蓋	埋土 1/4弱	器高 (3.0) 口径 — 摘径 —		還元焰	褐灰	蓋の天井部端部に凸帯及び罅を有する。紐作り。轆轤整形。摘は不明。	10
	第34図 - 11 第116図	灰釉 椀	甕掘り方 埋土 3/4	器高 4.1 口径 12.8 底径 7.0		還元焰	灰黄	轆轤整形、回転方向右回り。底部回転寛調整、高台貼付。施釉方法は漬け掛け。釉調はやや透明感のある緑灰色。	11
	第35図 - 12 第116図	灰釉 広口壺	埋土 底部破片	器高 (7.7) 口径 — 底径 —	白色粒含む	還元焰	オリ ブ灰	轆轤整形、回転方向不明。頸部での接合は二段接合頸部接合部に釉薬の付着が見られることから焼成時に頸部欠損か破損したと思われる。施釉方法降灰により釉薬が厚く付着しているため不明。釉調はやや透明感のある緑灰色。	12
2区11号 住居跡	第36図 - 1 第116図	土師器 甕	埋土 口縁1/8	器高 (6.2) 口径 (22.6) 底径 —		酸化焰	黒褐	口縁部は「く」字状に強く外反する。口縁部・胴部内面は横撫で、胴部外面は横方向の筥削り。	1
	第36図 - 2 第116図	須恵器 椀	貯蔵穴埋 土 1/4	器高 4.4 口径 (10.6) 底径 5.6		酸化焰	にぶい 橙	腰の張りが弱く、口縁部は僅かに外反する。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り後、高台は貼り付け。内面横方向の筥研磨。内面黒色処理。	2
2区11号 住居跡	第36図 - 3 第116図	須恵器 羽釜	地下式土 坑	器高 (12.3) 口径 (26.6) 底径 —		酸化焰	にぶい 赤褐	罅は断面台形状で貼り付け。最大径胴部上半、罅部は下方を向き口縁部は内湾する。胴部外面斜方向、内面の一部に横方向の筥削り。紐作り。轆轤整形。	3 口縁~胴部 1/6残存 最大径 (29.4)
2区13号 住居跡	第38図 - 1 第116図	土師器 坏	埋土 1/4	器高 3.6 口径 (15.6) 底径 (9.5)		酸化焰	明赤褐	平底で、口縁部は強く外傾する。体部は筥削り、口縁部・器内面は横撫で。内面底部は螺旋状暗文、体部は放射状暗文。	1
	第38図 - 2 第116図	須恵器 椀	埋土 1/4	器高 (5.0) 口径 (15.4) 底径 —		酸化焰	明黄褐	腰の張りが弱く、口縁部は僅かに外反する。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り後、高台は貼り付け。外面体部に漆付着。	2

出土位置	図版写真	種類器種	出土位置 残存状態	法量 (cm)	胎土	焼成	色調	成・整形技法等の特徴	備考
2区14号 住居跡	第38図 - 3 第116図	須恵器 羽釜	埋土 口縁~鈿部1/5	器高 (4.1) 口径 (18.6) 底径 —	小礫多い	還元焰	灰	鈿は断面翼状で、貼り付け。最大径は胴部上半、鈿部は上方を向き、口縁部は内湾する紐作り。轆轤整形。	3 最大径 (22.2)
	第38図 - 4 第116図	灰釉 椀	埋土 1/4弱	器高 (4.1) 口径 — 底径 (6.4)		還元焰	にぶい 黄橙	轆轤整形、回転方向不明。底部回転調整。高台貼付。施釉は刷毛塗りか。釉調は不透明な灰白色。	4
	第38図 - 5 第116図	灰釉 皿	埋土 3/4弱	器高 2.3 口径 11.4 底径 6.0		還元焰	灰白	轆轤整形、回転方向右回り。底部回転糸切り無調整高貼付。施釉方法不明。釉調は不透明な灰白色。	5
	第38図 - 6 第116図	灰釉 皿	埋土 1/2弱	器高 2.6 口径 (12.2) 底径 6.2		還元焰	浅黄	轆轤整形、回転方向右回り。底部回転調整、高台貼り付け。施釉方法不明。釉調は不透明な灰白色。	6
	第38図 - 7 第116図	須恵器 甕	埋土 底部1/2	器高 (7.8) 口径 — 底径 14.6		還元焰	灰	ほぼ平底。紐作り。轆轤整形。	7
	第38図 - 8 第116図	須恵器 甕	埋土 底部1/8	器高 (3.6) 口径 — 底径 (11.4)		還元焰	灰	外面横方向の笥削り。平底。紐作り。轆轤整形。	8
	第38図 - 9	緑釉 輪花椀	埋土 口縁~体部1/5	器高 (4.9) 口径 (15.0) 底径 —		還元焰	オリ ブ灰	轆轤整形、回転方向右回り、口縁部下半は回転笥削り。釉調は深緑色。	9
	第41図 - 1 第117図	須恵器 坏	土坑埋土 1/2	器高 3.6 口径 (9.2) 底径 (5.4)		酸化焰	浅黄橙	口縁部は僅かに内湾気味に立ち上がる。轆轤整形 (右回転)。底部は回転糸切り。	1
	第41図 - 14 第117図	須恵器 椀	埋土 3/4弱	器高 4.8 口径 (17.2) 底径 (10.0)		酸化焰	にぶい 黄橙	腰の張りが弱く、口縁部は僅かに外反する。轆轤整形 (右回転)。底部は回転糸切り後、高台は貼り付け。	14
第41図 - 15 第117図	須恵器 椀	埋土 1/2強	器高 (2.9) 口径 — 底径 —		酸化焰	橙	器形は不明。轆轤整形 (右回転)。底部は回転糸切り後、高台は貼り付け。	15	
第41図 - 16 第117図	土師器 甕	竈掘り方 埋土 口縁1/4	器高 (8.4) 口径 (20.6) 底径 —		酸化焰	にぶい 褐	口縁部は「コ」字状が崩れている。口縁部・胴部内面は横撫で、胴部外面は縦方向の笥削り。	16	
第41図 - 17 第117図	須恵器 羽釜	床直 口縁破片	器高 (7.0) 口径 (29.2) 底径 —	白色粒含む	還元焰	黄灰	鈿は断面翼状で、貼り付け。鈿部は水平で最大径。口縁部は内傾する。紐作り。轆轤整形。	17 最大径 (33.6)	
第41図 - 18 第117図	土師器 甕	竈埋土 底~胴部 下1/6	器高 (11.1) 口径 — 底径 (15.8)	黒色粒含む	酸化焰	にぶい 黄褐	平底で、紐作り。轆轤整形。斜方向の笥削り。	18	
第42図 - 19 第117図	須恵器 羽釜	埋土 口縁1/8	器高 (7.5) 口径 (23.4) 底径 —	小礫含む	還元焰	にぶい 黄褐	鈿は断面翼状で、貼り付け。鈿部は水平で最大径。口縁部は内傾する。紐作り。轆轤整形。	19 最大径 (25.8)	
第41図 - 20 第117図	須恵器 羽釜	埋土 体部破片	器高 — 口径 — 底径 —		還元焰	灰白	平底で紐作り。轆轤整形。斜方向の笥削り。	20	
第41図 - 21 第117図	須恵器 椀	埋土 1/2弱	器高 5.1 口径 (10.8) 底径 (6.2)		還元焰	灰 オリ ブ	口縁部は僅かに内湾気味に立ち上がる。轆轤整形 (右回転)。底部は回転糸切り後、高台は貼り付け。外面に自然釉付着。	21	
第42図 - 23 第117図	灰釉 椀	竈埋土 1/2	器高 (2.6) 口径 — 底径 7.3		還元焰	灰黄	轆轤成形、回転方向右回り。底部回転調整、高台貼付。施釉は漬け掛け。釉調は不透明な灰色。	23	
2区14号 住居跡	第42図 - 24 第117図	灰釉 椀	床直 1/4	器高 (2.6) 口径 — 底径 (6.8)		還元焰	灰白	轆轤整形、回転方向不明。底部回転調整、高台貼付。施釉は漬け掛け、釉調は不透明な灰色。	24
第42図 - 25 第117図	灰釉 椀	床直 1/2弱	器高 6.1 口径 (16.4) 底径 (8.0)		還元焰	灰白	轆轤整形、回転方向右回り。底部回転糸切り切放し後周囲のみ回転無で。高台貼付、内面見込みに重ね焼き痕が残る。施釉刷毛塗り。釉調透明感のある緑灰色。	25	
2区15号 住居跡	第42図 - 1 第117図	土師器 皿	埋土 ほぼ完形	器高 1.5 口径 9.5 底径 5.6	白色・赤褐色 粒含む	酸化焰	にぶい 橙	底部から直線的に外傾する。轆轤整形 (右回転)。底部は回転糸切り。底部穿孔あり。	1
第42図 - 2 第117図	土師器 坏	掘り方埋 土	器高 5.0 口径 (18.0) 底径 (12.4)	細砂粒白色 粒・褐色鉱物 粒含む	酸化焰	橙	平底で、口縁部は強く外傾する。先端部は横撫でにより直立する。内面底部は螺旋状暗文。体部は放射状暗文。	2 口縁~体部 1/2残存	

出土位置	図版写真	種類器種	出土位置 残存状態	法量 (cm)	胎土	焼成	色調	成・整形技法等の特徴	備考	
2区16号 住居跡	第42図 - 3 第117図	土師器 坏	掘り方埋 土 口縁1/6	器高 (3.5) 口径(16.0)		酸化焰	にぶい 橙	器形は不明。内面体部は放射状暗文。	3	
	第42図 - 4 第117図	土師器 坏	埋土 底～体部 破片	器高 (2.2) 口径 — 底径(10.0)		酸化焰	橙	平底で体部は篋削り。内面体部は放射状暗文。	4	
	第42図 - 6 第117図	土師器 甕	竈掘り方 埋土	器高(12.1) 口径 — 底径 10.6		酸化焰	にぶい 黄褐	ほぼ平底で、紐作り。轆轤整形。	6 胴～底部1/4 残存	
	第42図 - 7 第117図	土師器 甕	埋土 口縁～胴 部1/4	器高(15.0) 口径(29.4) 底径 —	赤色粒含む	酸化焰	にぶい 黄橙	口縁部は直線的に外傾する。口縁部・胴部内面は横撫で、 胴部外面は縦方向の篋削り。	7	
	第42図 - 8 第117図	須恵器 蓋	埋土 3/4	器高 (3.1) 口径 — 摘径 3.2		還元焰	褐灰	薄手で天井部から口縁部まで僅かに弓状に開く。整形は 天井部回転篋削り、内面は回転撫で。摘はボタン状で、 貼り付け。	8	
	第42図 - 9 第117図	須恵器 蓋	埋土 1/4弱	器高 (2.1) 口径 — 摘径 3.4		還元焰	灰	器形は不明。整形は天井部回転篋削り、内面は回転撫で。 摘は輪状で、貼り付け。	9	
	第42図 - 10 第117図	須恵器 椀	埋土 体部～底 部破片	器高 (3.3) 口径 — 底径 (8.6)		還元焰	灰白	平底で、轆轤整形 (右回転)。底部は回転篋削り。	10	
	第43図 - 11 第117図	須恵器 椀	埋土 底部1/4	器高 (1.9) 口径 — 底径 (8.4)		還元焰	灰	器形は不明。轆轤整形 (右回転)。底部は回転篋削り後、 高台は貼り付け。	11	
	第42図 - 12 第117図	須恵器 甕	埋土 底部1/8	器高 (6.0) 口径 — 底径(16.0)		還元焰	灰	平底で、紐作り。轆轤整形。	12	
	2区16号 住居跡	第45図 - 1 第118図	須恵器 羽釜	竈埋土 口縁～胴 部1/8	器高 (6.8) 口径(19.6) 底径 —		酸化焰	にぶい 橙	鏝は断面台形状で、貼り付け。胴部上半の張りは弱く、 鏝部は水平、口縁部は直立する。紐作り。轆轤整形。	1 最大径(21.8)
		第45図 - 2 第118図	須恵器 耳皿	掘り方埋 土 3/4	器高 (2.8) 口径 (9.0) 底径 —		還元焰	黒	内外面細かい篋研磨。	2
		第45図 - 3 第118図	須恵器 坏	掘り方埋 土 1/4強	器高 (3.7) 口径(14.0) 底径 (7.8)		還元焰	黄灰	腰の張りが弱く、口縁部は僅かに外反する。轆轤整形(右 回転)。底部は回転糸切り。内面の一部に漆付着。	3
第45図 - 4 第118図		須恵器 坏	床直 底部1/8	器高 (3.6) 口径 — 底径(12.0)		還元焰	灰	平底。	4	
第45図 - 5 第118図		灰釉 段皿	埋土 1/2	器高 3.3 口径 13.4 底径 6.4		還元焰	灰白	轆轤整形、回転方向右回り。底部回転篋調整、高台貼付。 施釉は刷毛塗りか、釉調は不透明な灰白色。	5	
2区17号 住居跡	第47図 - 1 第118図	土師器 坏	床直 1/3	器高 3.2 口径 12.0 底径 8.6		酸化焰	にぶい 橙	平底で、口縁部は強く外傾する。体部は篋削り、口縁部・ 器内面は横撫で。内面体部は放射状暗文。	1	
	第47図 - 2 第118図	土師器 坏	埋土 体～底部 1/6	器高 (2.1) 口径 — 底径 13.8	砂粒含む	酸化焰	橙	器形は不明。平底で、体部は篋削り、口縁部・器内面は 横撫で。内面底部は螺旋状暗文、体部は放射状暗文。	2	
2区17号 住居跡	第47図 - 3 第118図	土師器 坏	床直 1/4	器高 (2.9) 口径(12.6)	白色粒含む	酸化焰	赤褐	丸底で、口縁部は「C」字状に内湾する。体部は篋削り、 口縁部・器内面は横撫で。	3	
	第47図 - 4 第118図	土師器 坏	床直 1/6	器高 (3.3) 口径(12.8)		酸化焰	橙	丸底で、口縁部は強い横撫でで直立する。体部は篋削り、 口縁部・器内面は横撫で。	4	
	第47図 - 5 第118図	土師器 坏	埋土 1/4弱	器高 (2.8) 口径 — 底径 (7.0)		酸化焰	にぶい 橙	平底で、口縁部は強い横撫でで直立する。体部は篋削り、 口縁部・器内面は横撫で。内面は横方向の細かい篋研磨。 内面黒色処理。	5	
	第47図 - 6 第118図	土師器 坏	掘り方埋 土 1/4弱	器高 (3.9) 口径(14.6)	赤色粒含む	酸化焰	橙	丸底で、口縁部は直線的に外反する。器面は摩滅。	6	
	第47図 - 7 第118図	土師器 坏	竈埋土 1/5	器高 (2.5) 口径(14.6)	白色粒含む	酸化焰	橙	丸底で外腹を有し、口縁部は外反する。体部は篋削り、 口縁部・器内面は横撫で。	7	

出土位置	図版 写真	種類 器種	出土位置 残存状態	法 量 (cm)	胎 土	焼成	色調	成・整形技法等の特徴	備 考
	第47図 - 8 第118図	土師器 甕	埋土 口縁～頸 部1/6	器高 (4.3) 口径 (19.0) 底径 ー		酸化焰	黒	口縁部は外反、口唇部は強く内湾する。口縁部・胴部内 面は横撫で、胴部外面は縦方向の篔削り。	8
	第47図 - 9 第118図	須恵器 蓋	埋土 3/4弱	器高 3.4 口径 (9.1) 摘径 4.2		還元焰	灰白	薄手で天井部から口縁部まで直線的に開く。整形は天井 部回転篔削り、内面は回転撫で。摘は輪状で、貼り付け。	9
	第47図 - 10 第118図	須恵器 坏	ー 1/4	器高 (4.2) 口径 ー 底径 (8.0)		還元焰	灰	器形は不明。轆轤整形 (右回転)。底部は回転糸切り。	10
2区18号 住居跡	第49図 - 1 第118図	土師器 坏	埋土 1/4	器高 3.3 口径 (11.8) 底径 (6.0)	角閃石・白色 粒含む	酸化焰	橙	口縁部は僅かに内湾気味に立ち上がる。轆轤整形 (右回 転)。底部は回転糸切り。	1
	第49図 - 2 第118図	土師器 甕	埋土 口縁～胴 部1/4	器高 (14.1) 口径 (17.8) 底径 ー		酸化焰	灰黄褐	典型的な「コ」字状口縁である。口縁部・胴部内面は横 撫で、胴部外面上半斜方向、下半縦方向の篔削り。	2
	第49図 - 3 第118図	須恵器 羽釜	床直 口縁1/8	器高 (5.2) 口径 (16.6) 底径 ー	石英?含む	酸化焰	にぶい 褐	鏝は断面翼状で、貼り付け。最大径は胴部上半、鏝部は 上方を向き、口縁部は内湾する。紐作り。轆轤整形。	3 最大径 (22.4)
	第49図 - 4 第118図	須恵器 坏	掘り方埋 土 3/4	器高 4.2 口径 11.7 底径 7.0		還元焰	灰	口縁部は僅かに内湾気味に立ち上がる。轆轤整形 (右回 転)。底部は回転糸切り。	4
	第49図 - 5 第118図	須恵器 坏	埋土 1/6	器高 (3.7) 口径 (12.0) 底径 (8.2)	白色粒多含	還元焰	灰	底部から直線的に外傾する。轆轤整形 (右回転)。底部は 回転篔削り。外面に自然釉付着。	5
	第49図 - 6 第118図	土製品 瓦塔	埋土 隅降棟分 分片	長さ (5.1) 厚さ 2.3		酸化焰	にぶい 黄褐	屋根の隅降棟部分、あるいは軸部の壁の部分と考えられ る。	6
2区19号 住居跡	第50図 - 1 第118図	土師器 坏	埋土 底部	器高 ー 口径 ー		酸化焰	にぶい 褐	丸底で、内面体部は螺旋状暗文。	1
	第50図 - 4 第118図	須恵器 椀	埋土 4/5	器高 4.3 口径 12.2 底径 7.0	砂粒含む	還元焰	橙	腰の張りが弱く、口縁部は僅かに外反する。轆轤整形 (右 回転)。底部は回転糸切り後、高台は貼り付け。	4
	第50図 - 5 第118図	須恵器 坏	埋土 ほぼ完形	器高 3.1 口径 10.8 底径 5.6	黒色粒含む	還元焰	灰白	腰の張りが弱く、口縁部は僅かに外反する。轆轤整形 (右 回転)。底部は回転糸切り。	5
	第50図 - 6 第118図	須恵器 坏	埋土 ほぼ完形	器高 3.2 口径 9.6 底径 5.0	黒色粒含む	還元焰	灰白	腰の張りが弱く、口縁部は僅かに外反する。轆轤整形 (右 回転)。底部は回転糸切り。	6
	第50図 - 7 第118図	須恵器 坏	埋土 4/5	器高 3.7 口径 9.9 底径 5.6		還元焰	淡黄	腰の張りが弱く、口縁部は僅かに外反する。轆轤整形 (右 回転)。底部は回転糸切り。	7
	第50図 - 8 第119図	須恵器 坏	埋土 1/4弱	器高 3.3 口径 (11.0) 底径 (5.2)	白色・黒色粒 含む	還元焰	にぶい 黄褐	腰の張りが弱く、口縁部は僅かに外反する。轆轤整形 (右 回転)。底部は回転糸切り。	8
2区19号 住居跡	第50図 - 9 第119図	須恵器 甕	埋土 底～胴下 部1/8弱	器高 (6.1) 口径 ー 底径 (25.4)		還元焰	灰	平底。紐作り。轆轤整形。	9
2区21号 住居跡	第52図 - 1 第119図	土師器 坏	床直 1/6	器高 (2.5) 口径 (15.8)	白色粒含む	酸化焰	赤褐	丸底で、外陵を有し、口縁部は外反する。体部は篔削り、 口縁部・器内面は横撫で。	1
2区22号 住居跡	第49図 - 1 第119図	土師器 坏	竈埋土 1/8	器高 3.0 口径 (12.8) 底径 (8.4)	白色粒含む	酸化焰	にぶい 黄橙	平底で、口縁部は強く外傾する。体部は篔削り、口縁部・ 器内面は横撫で。	1
	第49図 - 2 第119図	土師器 坏	竈埋土 1/2	器高 3.0 口径 (13.0)		酸化焰	にぶい 橙	丸底で、口縁部は僅かに内湾する。体部は篔削り、口縁 部・器内面は横撫で。	2
2区26号 住居跡	第56図 - 1 第119図	土師器 坏	竈埋土 1/3	器高 (3.7) 口径 18.8		酸化焰	にぶい 赤褐	丸底で、外陵を有し、口縁部は外反する。体部は篔削り、 口縁部・器内面は横撫で。	1
2区27号 住居跡	第32図 - 1 第119図	土師器 坏	床直 1/3	器高 (4.5) 口径 (14.8)	白色粒含む	酸化焰	橙	丸底で、口縁部は僅かに内湾する。体部は篔削り、口縁 部・器内面は横撫で。	1

出土位置	図版 写真	種類 器種	出土位置 残存状態	法 量 (cm)	胎 土	焼成	色調	成・整形技法等の特徴	備 考
	第32図 - 2 第119図	土師器 甕	竈埋土 口縁1/4	器高 (2.9) 口径 (11.4) 底径 —	赤色粒含む	酸化焰	灰褐	口縁部は「く」字状に強く外反する。口縁部・胴部内面は横撫で、胴部外面は縦方向の笥削り。	2
	第32図 - 3 第119図	須恵器 坏	床直 1/8弱	器高 3.6 口径 (13.0) 底径 (8.0)		還元焰	灰黄褐	底部から直線的に外傾する。轆轤整形(右回転)。底部は回転笥切り。	3
	第32図 - 4 第119図	須恵器 坏	竈埋土 1/8	器高 3.8 口径 (11.8) 底径 (8.0)	黒色粒多含	還元焰	灰	腰の張りが弱く、口縁部は僅かに外反する。轆轤整形(右回転)。底部は回転笥切り。	4
	第32図 - 5 第119図	須恵器 蓋	竈埋土 1/4	器高 (3.2) 口径 (20.4) 摘径 —	黒色粒多含	還元焰	灰	薄手で天井部から口縁部まで僅かに弓状に開く。カエリを持たず、口縁部を折り曲げている。	5
	3区29号 住居跡	第57図 - 1 第119図	須恵器 甕	埋土 底部1/4	器高 (8.6) 口径 — 底径 (13.4)		還元焰	灰	平底。紐作り。轆轤整形。
3区30号 住居跡	第58図 - 1 第119図	土師器 甕	柱穴埋土 口縁1/2	器高 (8.0) 口径 (21.2) 底径 —		酸化焰	橙	口縁部は「く」字状に強く外反する。口縁部・胴部内面は横撫で、胴部外面は縦方向の笥削り。	1
2区33号 住居跡	第61図 - 1 第119図	土師器 小型台 付甕	埋土 台下～脚 部1/2	器高 (6.0) 口径 — 底径 (8.0)	白色粒含む	酸化焰	にぶい 赤褐	胴部外面笥削り、内面横方向の笥撫で。台部内外面横撫で。	1
	第61図 - 2 第119図	須恵器 羽釜	竈埋土 口縁1/8 弱	器高 (5.8) 口径 (21.0) 底径 —		酸化焰	橙	鐙は断面台形状で貼り付け。鐙部は水平で最大径。口縁部は僅かに内傾する。紐作り。轆轤整形。	2 最大径(23.2)
	第61図 - 3 第119図	須恵器 蓋	床直 ほぼ完形	器高 3.5 口径 16.0 摘径 4.2	白色・黒色粒 含む	還元焰	灰黄	天井部から口縁部まで僅かに弓状に開く。整形は天井部回転笥削り、内面回転撫で。カエリを持たず、口縁部を折り曲げている。摘は輪状で、貼り付け。	3
2区34号 住居跡	第61図 - 1 第119図	土師器 坏	床直 ほぼ完形	器高 2.9 口径 12.4		酸化焰	橙	丸底で、口縁部は僅かに内湾する。体部は笥削り、口縁部・器内面は横撫で。	1
	第61図 - 2 第119図	土師器 坏	埋土 2/3	器高 3.3 口径 12.2	白色粒含む	酸化焰	橙	丸底で、口縁部は「C」字状に内湾する。体部は笥削り、口縁部・器内面は横撫で。	2
	第61図 - 3 第119図	土師器 坏	埋土 1/4弱	器高 (3.3) 口径 (12.8)		酸化焰	にぶい 橙	丸底で、口縁部は強い横撫でで直立する。体部は笥削り、口縁部・器内面は横撫で。	3
	第61図 - 4 第119図	須恵器 坏	埋土 2/3	器高 4.3 口径 (13.8) 底径 8.0		酸化焰	にぶい 橙	平底で、口縁部は強く外傾する。体部は笥削り、口縁部・器内面は横撫で。	4
	第61図 - 5 第119図	須恵器 蓋	埋土 完形	器高 3.3 口径 14.1 摘径 3.2	小礫多い	還元焰	灰	薄手で天井部から口縁部まで直線的に開く。整形は天井部回転笥削り、内面回転撫で。カエリを持たず口縁部を折り曲げている。摘は輪状で、貼り付け。	5
	第61図 - 6 第119図	須恵器 蓋	床直 ほぼ完形	器高 3.6 口径 14.6 摘径 4.5	黒色(酸化鉄) 混入	還元焰	灰白	薄手で天井部から口縁部まで直線的に開く。整形は天井部回転笥削り、内面回転撫で。カエリを持たず口縁部を折り曲げている。摘は輪状で、貼り付け。	6
2区35号 住居跡	第61図 - 7 第119図	須恵器 坏	埋土 1/3	器高 3.6 口径 (12.2) 底径 8.0	酸化鉄含む、 小礫多含	還元焰	灰	腰の張りが弱く、口縁部は僅かに外反する。轆轤整形(右回転)。底部は回転笥切り。体部外面に自然軸付着。	7
	第61図 - 8 第119図	須恵器 盤	埋土 口縁～底 部1/4	器高 5.9 口径 (22.8) 底径 (15.7)	酸化鉄含む	還元焰	灰	丸底で、底部から体部にかけて外傾し、口縁部は直立気味である。紐作り。轆轤整形後、高台は貼り付け。	8
	第63図 - 1 第120図	土師器 甕	埋土 口縁部 1/8	器高 (9.9) 口径 (20.0) 底径 —	角閃石(?) 含む	酸化焰	にぶい 褐	口縁部は「コ」字状が崩れている。口縁部・胴部内面は横撫で、胴部外面上半斜方向、下半縦方向の笥削り。	1
	第63図 - 2 第119図	須恵器 甕	竈埋土 口縁部 1/8	器高 (6.9) 口径 (40.0) 底径 —	白色粒含む	還元焰	灰	口縁部は外反する。紐作り。轆轤整形。	2
第63図 - 3	緑釉 椀	掘り方埋 土 底部破片	器高 (1.5) 口径 — 底径 (7.2)		還元焰	暗 オ リーブ 灰	轆轤整形、回転方向不明。高台貼付。内面は笥磨整形、釉調は深緑色。	3	
第63図 - 4	奈良三 彩陶 香炉	床直 口縁破片	器高 — 口径 — 底径 —		還元焰	白 色 (胎 土)	口唇部端部は平坦面をつくる。残存部分では緑釉、白釉(透明釉)しか見られないが、三彩と思われる。	4	

出土位置	図版 写真	種類 器種	出土位置 残存状態	法 量 (cm)	胎 土	焼成	色調	成・整形技法等の特徴	備 考
	第63図 - 5 第120図	灰釉 椀	埋土 底部	器高 (2.0) 口径 — 底径 7.1	小礫混入	還元焰	灰	轆轤整形、回転方向右回り。底部は回転筥調整。高台貼付。施釉は刷毛塗りか。釉調はやや黄色味かった緑灰色。	5
2区36号 住居跡	第64図 - 1 第120図	須恵器 羽釜	掘り方埋 土口縁 1/4弱	器高 (7.9) 口径 (17.2) 底径 —	砂礫含む	酸化焰 黄	にぶい	罎は断面台形状で、貼り付け。最大径胴部上半、罎部は上方を向き、口縁部は内湾する。紐作り。轆轤整形。	1 最大径(22.0)
	第64図 - 2 第120図	須恵器 羽釜	竈埋土 口縁1/8	器高 (7.8) 口径 (23.0) 底径 —	角閃石?を含む	酸化焰	にぶい 黄褐	罎は断面翼状で、貼り付け。最大径胴部上半、罎部は上方を向き、口縁部は内湾する。紐作り。轆轤整形。	2 最大径(27.0)
	第64図 - 3 香炉	緑釉 香炉	埋土	器高 口径 — 底径 (13.0)	微細粒含む	還元焰	灰	轆轤整形、脚部貼付。	4 四足壺または花瓶
2区38号 住居跡	第65図 - 1 第120図	須恵器 坏	掘り方埋 土 ほぼ完形	器高 3.9 口径 10.0 底径 4.5	赤色粒含む	還元焰	にぶい 黄	腰の張りが弱く、口縁部は僅かに外反する。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り。	1
	第65図 - 2 第120図	須恵器 坏	掘り方埋 土 1/4	器高 3.6 口径 (9.8) 底径 (4.8)		還元焰	にぶい 黄橙	腰の張りが弱く、口縁部は僅かに外反する。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り。	2
	第65図 - 3 第120図	須恵器 坏	掘り方埋 土 1/4弱	器高 3.9 口径 (10.2) 底径 (5.6)	赤色粒含む	還元焰	にぶい 黄橙	口縁部は僅かに内湾気味に立ち上がる。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り。体部外面に漆付着。	3
2区39号 住居跡	第66図 - 1 第120図	須恵器 羽釜	掘り方埋 土口縁~ 底部1/12	器高(10.6) 口径(23.6) 底径 —	角閃石?含む	酸化焰	橙	罎は断面翼状で、貼り付け。罎部は水平で最大径、口縁部は内傾する。紐作り。轆轤整形。	1 最大径(26.8)
2区40号 住居跡	第68図 - 1 第120図	須恵器 椀	掘り方埋 土 底部1/2	器高 (3.9) 口径 — 底径 (8.9)	酸化鉄含む	還元焰	灰	器形は不明。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り後、高台は貼り付け。	1
2区43・ 44号住居 跡	第69図 - 1 第120図	須恵器 椀	埋土 1/2弱	器高 3.3 口径 (11.6) 底径 (8.0)		酸化焰	にぶい 橙	腰の張りが弱く、口縁部は僅かに外反する。内面体部は放射状暗文。	1
2区44号 住居跡	第70図 - 1 第120図	土師器 甲斐型 坏	埋土 底部1/2	器高 (3.6) 口径 — 底径 3.4		酸化焰	橙	平底で、口縁部は強く外傾する。体部は磨き、内面底部・体部放射状暗文。	1
	第70図 - 2 第120図	土師器 坏	埋土 口縁~底 部1/4	器高 5.5 口径 (17.4) 底径 (8.4)	細砂粒白色粒 礫含む	酸化焰	橙	平底で、口縁部は強く外傾する。先端部は横撫でにより直立する。体部は筥削り、口縁部・器内面は横撫で。内面底部は螺旋状暗文、体部は放射状暗文。	2
	第70図 - 3 第120図	須恵器 蓋	埋土 1/4	器高 3.1 口径 (14.0) 摘径 3.4	白色粒含む	還元焰	灰	天井部から口縁部まで僅かに弓状に開く。整形は天井部回転筥削り、内面回転無で。カエリを持たず、口縁部を折り曲げている。摘は輪状で、貼り付け。	3
2区44号 住居跡	第70図 - 4 第120図	須恵器 坏	埋土 1/2弱	器高 3.6 口径 (12.6) 底径 (7.0)	黒色粒含む	還元焰	灰	口縁部は僅かに内湾気味に立ち上がる。轆轤整形(右回転)。底部は回転筥削り。外面体部自然釉付着。	4
	第70図 - 5 第120図	須恵器 盤	埋土 2/3	器高 4.0 口径 (23.0) 底径 15.2		還元焰	灰	腰の張りが弱く、口縁部は僅かに外反する。轆轤整形(右回転)。底部は回転筥削り後、高台は貼り付け。	5
2区45号 住居跡	第71図 - 1 第120図	土師器 坏	床直 1/2	器高 4.4 口径 (13.9) 底径 (8.3)		酸化焰	橙	平底で、口縁部は強く外傾する。体部は筥削り、口縁部・器内面は横撫で。内面底部は放射状暗文。	1
	第71図 - 2 第120図	須恵器 椀	埋土 1/5弱	器高 (4.2) 口径 (12.2) 底径 —	角閃石・雲母 白色粒含む	中間焰	黄灰	腰の張りが弱く、口縁部は僅かに外反する。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り後、高台は貼り付け。	2
2区46号 住居跡	第74図 - 1 第120図	土師器 坏	埋土 1/4	器高 3.4 口径 (11.6) 底径 (7.5)		酸化焰	橙	平底で、口縁部は強く外傾する。体部は筥削り、口縁部・器内面は横撫で。	1
	第74図 - 2 第120図	土師器 坏	埋土 1/8	器高 (3.5) 口径 (11.2)	角閃石含む	酸化焰	にぶい 黄橙	丸底で、口縁部は僅かに内湾する。体部は筥削り、口縁部・器内面は横撫で。	2
	第74図 - 3 第120図	土師器 坏	埋土 1/8	器高 2.6 口径 (10.6) 底径 (6.8)		酸化焰	橙	平底で、口縁部は強く外傾する。先端部は横撫でにより直立する。体部は筥削り、口縁部・器内面は横撫で。	3
	第75図 - 4 第120図	土師器 甕	埋土 口縁部 1/4弱	器高 (6.1) 口径 (20.5) 底径 —	角閃石?含む	酸化焰	橙	典型的な「コ」字状口縁である。口縁部・胴部内面は横撫で、胴部外面は横方向の筥削り。	4

出土位置	図版 写真	種類 器種	出土位置 残存状態	法 量 (cm)	胎 土	焼成	色調	成・整形技法等の特徴	備 考
	第75図 - 5 第121図	土師器 甕	埋土 口縁～頸 部1/8	器高 (6.1) 口径 (20.0) 底径 —	白色粒含む	酸化焰	にぶい 黄橙	典型的な「コ」字状口縁である。口縁部・胴部内面は横撫で、胴部外面は横方向の篋削り。	5
	第75図 - 6 第121図	須恵器 坏	埋土 3/4	器高 3.2 口径 (14.8) 底径 7.8		還元焰	灰白	口縁部は僅かに内湾気味に立ち上がる。轆轤整形 (右回転)。底部は回転糸切り。	6
	第75図 - 7 第121図	須恵器 碗	床直 1/4	器高 5.0 口径 (13.8) 底径 (5.6)		還元焰	灰白	腰の張りが弱く、口縁部は僅かに外反する。轆轤整形 (右回転)。底部は回転糸切り後、高台は貼り付け。	7
	第75図 - 8 第121図	須恵器 坏	埋土 3/4	器高 4.0 口径 11.9 底径 6.4		還元焰	灰	腰の張りが弱く、口縁部は僅かに外反する。轆轤整形 (右回転)。底部は回転糸切り。	8
	第75図 - 9 第121図	須恵器 坏	埋土 2/3	器高 4.0 口径 (12.9) 底径 7.8		還元焰	灰	底部から直線的に外傾する。轆轤整形 (右回転)。底部は回転篋削り。	9
	第75図 - 10 第121図	須恵器 坏	埋土 1/3	器高 3.5 口径 (12.5) 底径 (8.0)	黒色粒含む	還元焰	灰	口縁部は僅かに内湾気味に立ち上がる。轆轤整形 (右回転)。底部は回転糸切り。内面底部に墨書「久」	10
	2区47号 住居跡	第78図 - 1 第121図	須恵器 高台付 碗	埋土 1/8	器高 (2.5) 口径 — 底径 (7.6)		還元焰	灰白	器形は不明。轆轤整形 (右回転)。底部は回転篋削り後、高台は貼り付け。
2区48号 住居跡	第80図 - 1 第121図	土師器 坏	竈埋土 1/6	器高 4.1 口径 (13.2) 底径 (6.0)	黒色・白色・ 赤褐色粒含む	酸化焰	橙	腰の張りが弱く、口縁部は僅かに外反する。轆轤整形 (右回転)。底部は回転糸切り後、篋撫で。	1
	第80図 - 2 第121図	土師器 坏	掘り方埋 土 1/6	器高 (4.1) 口径 (14.4)	白色粒含む	酸化焰	橙	丸底で口縁部は直線的に外反する。体部は篋削り、口縁部・器内面は横撫で。内面体部は放射状暗文。	2
	第80図 - 3 第121図	須恵器 皿	竈埋土 ほぼ完形	器高 2.3 口径 8.6 底径 5.6	赤褐色粒含む	酸化焰	明黄褐	口縁部は直線的に外反する。轆轤整形 (右回転)。底部は回転糸切り。	3
	第80図 - 4 第121図	須恵器 羽釜	埋土 口縁部 1/12	器高 (5.3) 口径 (26.8) 底径 —	砂粒含む	酸化焰	にぶい 褐	銕は断面翼状で、貼り付け。最大径胴部上半、銕部は下方を向き、口縁部は内湾する。紐作り。轆轤整形。	4 最大径 (30.8)
2区49号 住居跡	第80図 - 1 第121図	土師器 皿	掘り方埋 土 ほぼ完形	器高 2.2 口径 9.7 底径 5.0	砂粒・酸化鉄 含む	酸化焰	淡橙	口縁部は直線的に外反する。轆轤整形 (右回転)。底部は回転糸切り。	1
2区51号 住居跡	第83図 - 1 第121図	須恵器 羽釜	掘り方埋 土 口縁1/4	器高 (9.1) 口径 (20.0) 底径 —	石英・砂粒含 む	酸化焰	にぶい 黄褐	銕は断面翼状で、貼り付け。最大径胴部上半、銕部は上方を向き、口縁部は内湾する。紐作り。轆轤整形。	1 最大径 (24.2)
	第83図 - 2 第121図	須恵器 羽釜	床直 口縁1/8	器高 (6.8) 口径 (21.6) 底径 —		酸化焰	暗灰黄	銕は断面翼状で、貼り付け。最大径は胴部上半、銕部は上方を向き、口縁部は内湾する。紐作り。轆轤整形。	2 最大径 (26.0)
	第84図 - 3 第121図	須恵器 羽釜	掘り方埋 土 口縁1/8	器高 (6.3) 口径 (19.3) 底径 —	角閃石?含む	酸化焰	にぶい 黄橙	銕は断面翼状で、貼り付け。最大径胴部上半、銕部は上方を向き、口縁部は内湾する。紐作り。轆轤整形。	3 最大径 (25.0)
	第84図 - 4 第121図	須恵器 坏 (片 口有)	埋土 ほぼ完形	器高 3.2 口径 10.2 底径 5.8	白色粒含む	還元焰	灰白	腰の張りが弱く、口縁部は僅かに外反する。轆轤整形 (右回転)。底部は回転糸切り後、高台は貼り付け。片口を有す。	4
	第84図 - 5 第121図	須恵器 碗	掘り方埋 土 1/3	器高 4.3 口径 (11.2) 底径 5.8	白色・黒色・ 赤褐色粒含む	還元焰	灰白	腰の張りが弱く、口縁部は僅かに外反する。轆轤整形 (右回転)。底部は回転糸切り後、高台は貼り付け。	5
	第84図 - 6 第121図	灰釉 皿	埋土 完形	器高 2.4 口径 12.2 底径 6.7		還元焰	灰白	轆轤整形、回転方向右回り。底部は回転糸切り後高台を貼付し、周囲を撫で。施釉は刷毛塗り。釉調はやや透明感のある灰色。	6
2区52号 住居跡	第85図 - 1 第121図	須恵器 坏	竈埋土 2/3	器高 3.5 口径 (11.4) 底径 4.7		還元焰	灰	腰の張りが弱く、口縁部は僅かに外反する。轆轤整形 (右回転)。底部は回転糸切り。	1
	第85図 - 2 第121図	須恵器 坏	埋土 3/8	器高 4.6 口径 (13.2) 底径 (6.0)	黒色・白色粒 含む	中間焰	にぶい 黄橙	口縁部は僅かに内湾気味に立ち上がる。轆轤整形 (右回転)。底部は回転糸切り。	2
	第85図 - 3 第122図	土師器 甕	竈埋土 口縁～底 部1/3	器高 29.0 口径 (29.6) 底径 12.0		酸化焰	にぶい 橙	口縁部は短く僅かに外傾する。胴部は緩い丸みを持つ。上半斜方向、下半縦方向の篋削り。	3

出土位置	図版 写真	種類 器種	出土位置 残存状態	法 量 (cm)	胎 土	焼成	色調	成・整形技法等の特徴	備 考
	第85図 - 4 第122図	須恵器 甕	掘り方埋 土類~胴 部1/4	器高(16.7) 口径 — 底径 —		還元焰	褐灰	口縁部は外反する。紐作り。轆轤整形。	4
	第85図 - 5 第121図	須恵器 甕	掘り方埋 土	器高 5.0 口径 — 底径(17.0)	赤色粒含む	還元焰	黒褐	器形は不明。紐作り。轆轤成形。底部は貼付整形。	5 底~胴部下 1/8残存
	第85図 - 6	緑釉 碗	埋土 底部破片	器高(1.3) 口径 — 底径(6.4)		還元焰	オリ ー ブ 灰	轆轤整形、回転方向不明。底部は丁寧な撫で、高台貼付、 釉調は深緑色。	6
	第85図 - 8 第122図	灰釉 長頸壺	埋土 口縁破片	器高(2.2) 口径(10.8) 底径 —	黒色粒含む	還元焰	灰白	轆轤整形、回転方向不明。内面のみ施釉、施釉方法不明、 釉調は半透明な緑灰色。	8
2区54号 住居跡	第86図 - 1 第122図	須恵器 碗	竈埋土 1/2	器高 6.0 口径(13.8) 底径(7.7)	黒色粒含む	酸化焰	にぶい 黄橙	腰の張りが弱く、口縁部は僅かに外反する。轆轤整形(右 回転)。底部は回転糸切り。いわゆる足高高台である。	1
	第86図 - 2 第122図	須恵器 羽釜	埋土 底部欠	器高(26.5) 口径 21.0 底径 —		還元焰	褐灰黒 褐	鏝は断面翼状で、貼り付け。最大径は胴部上半、鏝部は 上方を向き、口縁部は内湾する。紐作り。轆轤整形。	2 最大径24.4
	第86図 - 3 第122図	須恵器 羽釜	埋土 口縁1/8	器高(6.3) 口径(20.4) 底径 —		還元焰	灰	鏝は断面翼状で、貼り付け。最大径は胴部上半、鏝部は 上方を向き、口縁部は内湾する。紐作り。轆轤整形。	3 最大径(23.6)
	第86図 - 4 第122図	須恵器 甕	竈埋土 底部1/3 弱	器高(4.3) 口径 — 底径(18.6)	白色・黒色粒 雲母含む	中間焰	暗灰黄	紐作り。轆轤整形。内部外面に自然釉付着。	4
	第86図 - 6 第122図	須恵器 甕 (提瓶)	竈埋土 体部破片	器高(9.7) 口径 — 底径 —	小石含む	還元焰	灰黄褐	器形は不明。紐作り。轆轤整形。自然釉付着。	6
	2区56号 住居跡	第76図 - 5 第122図	土師器 坏	床直 1/4	器高 4.3 口径(10.4) 底径(4.8)		酸化焰	暗褐	平底で口縁部は僅かに内湾する。内面と外面の一部に漆 付着。
第76図 - 6 第122図		土師器 甕	埋土 口縁~胴 部1/4	器高(8.2) 口径(19.2) 底径 —	黒色粒含む	酸化焰	橙	典型的な「コ」字状口縁である。口縁部・胴部内面は横 撫で、胴部外面は横方向の篋削り。	6
2区56号 住居跡	第76図 - 8 第122図	須恵器 坏	埋土 1/4	器高 2.7 口径(8.6) 底径 4.7	白色粒・酸化 鉄含む	還元焰	橙/灰	口縁部は僅かに内湾気味に立ち上がる。轆轤整形(右回 転)。底部は回転糸切り。	8
	第76図 - 9 第122図	須恵器 坏	竈埋土 口縁~体 部1/5弱	器高(4.4) 口径(13.8) 底径 —	角閃石・雲母 白色粒含む	還元焰	灰	腰の張りが弱く、口縁部は僅かに外反する。轆轤整形(右 回転)。底部は回転糸切り後、高台は貼り付け。内面細か い篋研磨。内面内黒色処理。	9
	第76図 - 10 第122図	須恵器 碗	埋土 底部1/2	器高(4.0) 口径 — 底径 9.5		還元焰	灰白	器形は不明。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り。い わゆる足高高台である。	10
	第76図 - 11 第122図	土師器 羽釜	埋土 口縁~底 部4/5	器高(15.3) 口径 18.7 底径 —	砂粒含む	酸化焰	灰黄褐	鏝は断面翼状で、貼り付け。最大径は胴部上半、鏝部は 上方を向き、口縁部は内湾する。紐作り。轆轤整形。鏝 部直下から縦方向に篋削り。	11 最大径25.4
	第76図 - 12 第123図	須恵器 蓋	床直 1/4	器高(3.1) 口径(13.6)	黒色・白色粒 含む	還元焰	灰白	轆轤整形(右回転)。蓋の形状は不明。天井部はほぼ平坦 で口縁部は僅かに外反する。天井部から口縁部まで回転 篋削り。	12
	第76図 - 13 第123図	灰釉 耳皿	床直 1/3強	器高(3.1) 口径 — 底径(5.8)		還元焰	灰白	轆轤整形、回転方向不明。底部回転篋調整、高台貼付、 高台タタミ付部分に重焼きの痕跡。施釉方法不明、釉調 は透明感のある緑灰色。	13
	2区57号 住居跡	第65図 - 1	土師器 坏	掘り方埋 土 1/6	器高 3.0 口径(10.4) 底径(6.8)	黒色・白色粒 含む	酸化焰	明赤褐	平底で、口縁部は強く外傾する。
第65図 - 3 第123図		土師器 甕	掘り方埋 土体~底 部破片	器高(4.7) 口径 — 底径(7.0)		酸化焰	にぶい 褐	器形は不明。	3
第65図 - 4 第123図		須恵器 坏	埋土 1/2弱	器高 4.2 口径(11.0) 底径(6.0)	褐色粒含む	酸化焰	浅黄橙	腰の張りが弱く、口縁部は僅かに外反する。轆轤整形(右 回転)。底部は回転糸切り。	4
第65図 - 5 第123図		須恵器 碗	掘り方埋 土 底部破片	器高(1.9) 口径 — 底径(7.6)		還元焰	灰白	器形は不明。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り後、高 台は貼り付け。	5

出土位置	図版写真	種類器種	出土位置残存状態	法量 (cm)	胎土	焼成	色調	成・整形技法等の特徴	備考
	第65図 - 6 第123図	須恵器 羽釜	埋土 口縁1/8	器高 (9.2) 口径 (17.6) 底径 —	石英?角閃石 含む	酸化焰	灰黄	鈔は断面台形状で、貼り付け。最大径は胴部上半、鈔部は上方を向き、口縁部は内湾する。紐作り。轆轤整形。	6 最大径 (22.2)
2区58号 住居跡	第76図 - 3 第123図	土師器 坏	掘り方埋 土 1/8	器高 (2.4) 口径 (13.8)	黒色粒含む	酸化焰	橙	丸底で、口縁部は僅かに内湾する。体部は寛削り、口縁部・器内面は横撫で。	3
	第76図 - 4 第123図	須恵器 坏	床直 1/2強	器高 3.7 口径 (12.8) 底径 7.8	黒色粒含む	還元焰	灰	底部から直線的に外傾する。轆轤整形 (右回転)。底部は回転寛切り。	4
2区59号 住居跡	第77図 - 1 第123図	土師器 坏	埋土 1/8	器高 (2.6) 口径 (13.0)		酸化焰	橙	丸底で、口縁部は強い横撫でで直立する。器面は磨減。	1
	第77図 - 2 第123図	土師器 甕	埋土 口縁~胴 部1/6	器高 (13.0) 口径 (28.5) 底径 —		酸化焰	にぶい 橙	口縁部は直線的に外傾する。口縁部・胴部内面は横撫で、胴部外面は縦方向の寛削り。	2
	第77図 - 3 第123図	土師器 甕	埋土 体~底部 破片	器高 (5.4) 口径 — 底径 (8.0)		酸化焰	にぶい 橙	胴部は張りは弱く、口縁部は強く外傾し口唇部は強い横撫でで直立する。紐作り。轆轤整形。	3
	第77図 - 4 第123図	土師器 甕	埋土 口縁1/4	器高 (6.3) 口径 (6.3) 底径 —		酸化焰	暗褐	口縁部は直線的に外傾する。口縁部・胴部内面は横撫で、胴部外面上半斜方向、下半斜方向の寛削り。	4
	第77図 - 5 第123図	土師器 鉢	埋土 口縁1/5	器高 (4.9) 口径 (23.0)	白色粒・小石 含む	酸化焰	にぶい 赤褐	胴部の張りは弱く、口縁部は強く外反し、口唇部は強い横撫でで直立する。	5
	第77図 - 6 第123図	須恵器 坏	埋土 1/2弱	器高 4.7 口径 (12.7) 底径 —	黒色・白色粒 含む	還元焰	灰	底部から直線的に外傾する。轆轤整形 (右回転)。底部は回転寛削り。	6
	第77図 - 7 第123図	須恵器 坏	埋土 1/2	器高 3.5 口径 (12.2) 底径 (7.4)		還元焰	灰白	口縁部は僅かに内湾気味に立ち上がる。轆轤整形 (右回転)。底部は回転寛削り。	7
2区59号 住居跡	第77図 - 8 第123図	須恵器 坏	掘り方埋 土 1/6	器高 3.7 口径 (11.8) 底径 (8.0)	黒色粒含む	還元焰	灰	底部から直線的に外傾する。轆轤整形 (右回転)。底部は回転寛削り。	8
2区64号 住居跡	第93図 - 1 第123図	土師器 甕	竈埋土 底~胴部 下2/3	器高 (9.2) 口径 — 底径 (4.6)		酸化焰	にぶい 橙	胴部内面は横撫で、胴部外面は縦方向の寛削り。	1
	第93図 - 2 第123図	土師器 小型台 付甕	竈埋土 脚部2/3	器高 (4.2) 口径 — 底径 (9.8)		酸化焰	橙	器形は不明。台部は横撫で。	2
	第93図 - 3 第123図	須恵器 坏	掘り方埋 土 1/2	器高 3.4 口径 (12.2) 底径 6.6	砂粒・酸化鉄 含む	還元焰	灰白	腰の張りが弱く、口縁部は僅かに外反する。轆轤整形 (右回転)。底部は回転系切り。	3
	第93図 - 4 第123図	須恵器 羽釜	掘り方埋 土 口縁1/8	器高 (7.4) 口径 (20.6) 底径 —		還元焰	灰	鈔は断面三角形で、貼り付け。最大径は胴部上半、鈔部は上方を向き、口縁部は内湾する。紐作り。轆轤整形。	4 最大径 (25.0)
	第93図 - 5 第123図	須恵器 蓋	掘り方埋 土 1/8弱	器高 3.0 口径 (12.8) 口径 4.4	黒色粒含む	還元焰	灰	天井部から口縁部まで直線的に開く。整形は天井部回転寛削り、内面は回転撫で。カエリを持たず、口縁部を折り曲げている。摘は輪状で、貼り付け。	5
	第93図 - 6 第123図	緑釉 碗	埋土 底部1/2 弱	器高 (2.1) 口径 — 底径 6.4		還元焰		轆轤整形、回転方向右回り。底部回転系切り無調整、高台貼付。内面見込み部に一条の凹先による陰刻花文とトチン痕が残る。釉調は深緑色で底部には施釉されていない。	6
	第93図 - 7 第123図	土師器 坏	埋土 口縁破片	器高 — 口径 — 底径 —		酸化焰	にぶい 橙	器形は不明。内面体部に放射状暗文。	7
2区67号 住居跡	第97図 - 1 第123図	須恵器 甕	竈埋土 底部1/2 強	器高 (3.6) 口径 — 底径 (14.0)	白色粒・砂粒 含む	酸化焰	にぶい 橙 灰褐	横方向の寛削り。	1
	第97図 - 2 第124図	須恵器 甕	埋土 頸~胴部 1/3	器高 (11.8) 口径 — 底径 —		還元焰	にぶい 黄	紐作り。轆轤整形。	2
	第98図 - 3 第124図	須恵器 羽釜	竈埋土 口縁1/4	器高 (23.3) 口径 (20.0) 底径 —		還元焰	灰黄褐	鈔は断面翼状で、貼り付け。最大径は胴部上半、鈔部は上方を向き、口縁部は内湾する。紐作り。轆轤整形。	3 最大径 (25.0)

出土位置	図版 写真	種類 器種	出土位置 残存状態	法 量 (cm)	胎 土	焼成 色調	成・整形技法等の特徴	備 考
	第98図 - 4 第123図	須恵器 羽釜	甕埋土 口縁1/4	器高(14.0) 口径(18.6) 底径 —		還元焰 灰	鈔は断面翼状で貼り付け。胴部上半の張りは弱く、鈔部は水平、口縁部は直立する。紐作り。轆轤整形。鈔部直下から縦方向に笥削り。	4 最大径(22.2)
	第98図 - 5 第124図	須恵器 甕	埋土 1/4	器高(25.0) 口径(16.0) 底径 —		還元焰 灰	口縁部は外反する。紐作り。轆轤整形。	5
	第98図 - 6 第124図	須恵器 甕	甕埋土 底部1/4	器高(8.9) 口径 — 底径(13.8)		還元焰 灰	紐作り。轆轤整形。	6
	第98図 - 7 第123図	灰釉 椀	甕埋土 1/2弱	器高 5.2 口径(12.0) 底径(7.0)		還元焰 灰白	轆轤整形、回転方向右回り。底部回転糸切後高台貼付による周囲撫で、内面見込み部と高台タタミ付部分に重焼きの痕跡。施釉は漬け掛け、釉調はやや透明感のある黄灰色。	7
	第98図 - 10	須恵器 坏	埋土 口縁～底 部破片	器高 — 口径(15.6) 底径(5.0)	白色粒含む	還元焰 褐灰	腰の張りが弱く、口縁部は僅かに外反する。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り。青銅加工、内面青銅附着。	10
2区67・ 81・82号 住居跡	第98図 - 1 第124図	須恵器 坏	埋土 1/4	器高 4.9 口径(16.8) 底径 6.8	赤褐色粒含む	酸化焰 橙	腰の張りが弱く、口縁部は僅かに外反する。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り。内・外面に漆附着。	1
	第98図 - 2 第124図	須恵器 蓋	埋土 体部破片	器高 2.7 口径(14.4) 摘径 —		還元焰 灰白	短頸壺蓋。蓋の天井端部に鈔を有する。外面自然釉附着。上野型。	2
	第98図 - 3 第124図	須恵器 耳皿	埋土 1/2弱	器高(1.6) 口径 — 底径(4.0)	黒色・白色粒 含む	還元焰 灰白	轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り。底部穿孔有り。	3
2区67・ 81・82号 住居跡	第98図 - 4 第124図	灰釉 皿	埋土 1/8弱	器高 2.7 口径(13.1) 底径(7.1)		還元焰 灰白	轆轤整形、回転方向不明。高台貼付。施釉は漬け掛け、釉調は透明感のある緑灰色。	4
2区68号 住居跡	第101図 - 1 第124図	須恵器 坏	掘り方埋 土 1/3	器高 4.4 口径(13.9) 底径(7.2)		還元焰 淡黄	底部から直線的に外傾する。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り。	1
2区69号 住居跡	第103図 - 1 第124図	須恵器 椀	掘り方埋 土 1/4	器高 4.7 口径(13.1) 底径(5.7)		還元焰 浅黄	腰の張りが弱く、口縁部は僅かに外反する。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り後、高台は貼り付け。	1
	第103図 - 2 第124図	須恵器 羽釜	掘り方埋 土 口縁1/6	器高(8.4) 口径(24.0) 底径 —	赤褐色粒含む	酸化焰 橙	鈔は断面台形状で貼り付け。鈔部は水平で最大径、口縁部は内傾する。紐作り。轆轤整形。	2 最大径(27.3)
	第103図 - 3 第124図	須恵器 甕	掘り方埋 土 底部1/6	器高(7.9) 口径 — 底径(7.0)	赤褐色粒含む	酸化焰 におい 黄褐	器形は不明。紐作り。轆轤成形(右回転)。胴部外面は縦～斜方向のへら削り。	3
	第103図 - 4 第124図	須恵器 甕	掘り方埋 土 底部1/4	器高(5.4) 口径 — 底径(17.0)	黒色・白色粒 含む	還元焰 灰	紐作り。轆轤整形。	4
2区71号 住居跡	第107図 - 1 第124図	須恵器 坏	埋土 1/2弱	器高 4.5 口径(14.0) 底径(6.4)	砂礫・角閃石 石英・赤褐色 粒含む	酸化焰 におい 橙	腰の張りが弱く、口縁部は僅かに外反する。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り。	1
	第107図 - 2 第124図	須恵器 皿	甕埋土 完形	器高 1.8 口径 8.8 底径 4.2	黒色粒含む	酸化焰 におい 橙	口縁部は僅かに内湾気味に立ち上がる。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り。	2
	第107図 - 3 第124図	須恵器 甕	甕埋土 体～胴部 破片	器高(5.3) 口径 — 底径(24.0)		還元焰 灰	紐作り。轆轤整形。	3
2区72号 住居跡	第109図 - 1 第125図	土師器 坏	掘り方埋 土 1/8弱	器高 4.0 口径(19.8)	砂粒・黒色粒 含む	酸化焰 明赤褐	丸底で外稜を有し、口縁部は湾曲気味に立ち上がる。体部は笥削り、口縁部・器内面は横撫で。	1
	第109図 - 2 第125図	土師器 甕	掘り方埋 土 口縁1/4	器高(4.7) 口径 17.4 底径 —		酸化焰 におい 褐	口縁部は僅かに外反する。	2
	第109図 - 3 第125図	須恵器 蓋	掘り方埋 土 2/3	器高(3.4) 口径 — 摘径 4.6		還元焰 灰	薄手で天井部から口縁部まで僅かに弓状に開く。整形は天井部回転笥削り、内面は回転撫で。摘は輪状で、貼り付け。	3
2区73号 住居跡	第109図 - 1	土師器 坏	埋土 1/2	器高 3.2 口径(16.0)		酸化焰 におい 赤褐	丸底で、口縁部は僅かに内湾する。体部は笥削り、口縁部・器内面は横撫で。	2

出土位置	図版写真	種類器種	出土位置 残存状態	法量 (cm)	胎土	焼成	色調	成・整形技法等の特徴	備考
	第109図 - 2	須恵器 碗	埋土 高台部 欠	器高 (5.9) 口径 17.2	赤色粒含む	還元焰	にぶい 橙	丸底で、口縁部は僅かに内湾する。底部・体内・外面に横方向に笥研磨後、高台は貼り付け。内黒。	3
	第125図								
	第109図 - 3	須恵器 碗	埋土 1/6	器高 4.9 口径 (11.5) 底径 (6.4)	黒色粒含む	還元焰	灰白	口縁部は僅かに内湾気味に立ち上がる。轆轤整形 (右回転)。底部は回転笥削り後、高台は貼り付け。	4
	第125図								
2区74号 住居跡	第109図 - 1	須恵器 皿	床直 1/2弱	器高 1.8 口径 (7.8) 底径 (6.0)		還元焰	灰	底部から直線的に外傾する。轆轤整形 (右回転)。底部は回転糸切り後、高台は貼り付け。	1
2区76号 住居跡	第88図 - 2	土師器 坏	掘り方埋 土 1/8	器高 4.0 口径 (12.6)	砂粒・褐色粒 角閃石含む	酸化焰	橙	丸底で、口縁部は「く」字状に内傾する。体部は笥削り、口縁部・器内面は横撫で。	2
	第125図								
	第88図 - 3	土師器 甕	埋土 口縁~胴 部1/4弱	器高 (7.0) 口径 (26.6) 底径 —		酸化焰	にぶい 赤褐	口縁部は強く外反する。口縁部・胴部内面は横撫で、胴部外面は縦方向の笥削り。	3
	第125図								
	第88図 - 4	土師器 小型甕	掘り方埋 土	器高 (4.0) 口径 (10.2) 底径 —		酸化焰	にぶい 赤褐	典型的な「コ」字状口縁である。口縁部・胴部内面は横撫で、胴部外面は斜め方向の笥削り。	4 口縁~頸部 1/4残存
	第125図								
	第88図 - 5	須恵器 碗	埋土 ほぼ完形	器高 5.8 口径 14.8 底径 5.8	砂粒含む	還元焰	灰白	底部から直線的に外傾する。轆轤整形 (右回転)。底部は回転糸切り後、高台は貼り付け。	5
	第125図								
2区76号 住居跡	第88図 - 6	須恵器 碗	掘り方埋 土 1/2弱	器高 4.7 口径 (13.4) 底径 5.4		還元焰	灰	腰の張りが弱く、口縁部は僅かに外反する。轆轤整形 (右回転)。底部は回転糸切り後、高台は貼り付け。	6
	第125図								
	第88図 - 7	須恵器 碗	掘り方埋 土 1/8	器高 5.3 口径 (14.2) 底径 (6.0)	白色粒含む	酸化焰	灰黄	腰の張りが弱く、口縁部は僅かに外反する。轆轤整形 (右回転)。底部は回転糸切り後、高台は貼り付け。	7
	第125図								
2区79号 住居跡	第87図 - 1	須恵器 碗	床直 ほぼ完形	器高 6.2 口径 13.9 底径 5.7	白色・黒色粒 多含	還元焰	灰	腰の張りが弱く、口縁部は僅かに外反する。轆轤整形 (右回転)。底部は回転糸切り後、高台は貼り付け。	1
2区81号 住居跡	第99図 - 1	須恵器 碗	埋土 1/3強	器高 5.1 口径 (13.5) 底径 6.0	黒色粒多含	還元焰	灰	腰の張りが弱く、口縁部は僅かに外反する。轆轤整形 (右回転)。底部は回転糸切り後、高台は貼り付け。	1
	第125図								
2区82号 住居跡	第99図 - 1	須恵器 坏	床下土坑 埋土 ほぼ完形	器高 4.3 口径 12.7 底径 6.5		還元焰	灰	底部から直線的に外傾する。轆轤整形 (右回転)。底部は回転糸切り。	1
	第125図								
	第99図 - 2	須恵器 坏	床下土坑 埋土 ほぼ完形	器高 3.8 口径 11.1 底径 5.2	白色粒含む	還元焰	灰	腰の張りが弱く、口縁部は僅かに外反する。轆轤整形 (右回転)。底部は回転糸切り。	2
	第99図 - 3	灰釉 碗	掘り方埋 土 1/3	器高 3.7 口径 (13.2) 底径 (7.6)		還元焰	灰白	轆轤整形、回転右回り。底部回転笥調整、高台貼付、口縁部下位回転笥削り。施釉方法は刷毛塗り。釉調は不透明な灰白色。	3
	第125図								
2区83号 住居跡	第111図 - 1	土師器 坏	埋土 5/8	器高 4.5 口径 (15.0)	砂粒・雲母・ 黒色粒含む	酸化焰	橙	丸底で、口縁部は「C」字状に内湾する。体部は笥削り、口縁部・器内面は横撫で。	1
2区84号 住居跡	第72図 - 1	土師器 坏	埋土 口縁破片	器高 (3.9) 口径 (9.9)	白色・赤褐色 粒含む	酸化焰	にぶい 赤褐	腰の張りが弱く。口縁部は外反する。内面体部は刻線。	1
	第125図								
	第72図 - 3	土師器 坏	床直 1/2	器高 (3.9) 口径 (11.4) 底径 (8.8)		酸化焰	橙	平底で、口縁部は強く外傾する。体部は横撫で、底部は笥削り。	3
	第125図								
	第72図 - 4	土師器 坏	埋土 1/2弱	器高 3.8 口径 (11.1) 底径 (6.3)		酸化焰	橙	平底で、口縁部は強く外傾する。体部は横撫で、底部は笥削り。	4
	第125図								
	第72図 - 5	須恵器 坏	埋土 3/4	器高 3.8 口径 12.3 底径 6.4		酸化焰	橙	腰の張りが弱く、口縁部は僅かに外反する。轆轤整形 (右回転)。底部は回転糸切り。	5
第125図									
	第72図 - 6	土師器 甕	埋土 1/3	器高 24.6 口径 (18.5) 底径 4.0	白色粒含む	酸化焰	明赤褐	口縁部は「コ」字状が崩れている。上半横方向、下半斜方向の笥削り。	6
	第126図								
	第72図 - 7	土師器 甕	埋土 1/2強	器高 (22.3) 口径 18.0 底径 —		酸化焰	褐	口縁部は「コ」字状が崩れている。口縁部・胴部内面は横撫で、胴部外面上半斜方向、下半縦方向の笥削り。	7
	第126図								

出土位置	図版 写真	種類 器種	出土位置 残存状態	法 量 (cm)	胎 土	焼成	色調	成・整形技法等の特徴	備 考
	第72図 - 8 第125図	土師器 甕	埋土 口縁~胴 部1/2	器高(14.5) 口径(18.8) 底径 —	黒色・白色粒 含む	酸化焰	赤褐	口縁部は「コ」字状が僅かに崩れている。口縁部・胴部内面は横撫で、胴部外面は斜方向の笥削り。	8
	第72図 - 9 第125図	須恵器 椀	埋土 1/2	器高 4.8 口径 13.4 底径 6.2		還元焰	灰	腰の張りが弱く、口縁部は僅かに外反する。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り後、高台は貼り付け。	9
	第72図 - 10 第125図	須恵器 蓋	埋土 体部破片	器高 (1.6) 口径 —	白色粒含む	還元焰	灰	蓋の天井部に凸帯及び、鏝を有する上野型有蓋短頸蓋である。	10
2区85号 住居跡	第112図 - 1 第126図	須恵器 坏	掘り方埋 土 1/3	器高 3.8 口径(12.0) 底径 (7.8)		還元焰	灰白	底部から直線的に外傾する。轆轤整形(右回転)。底部は回転笥削り。	1
2区86号 住居跡	第113図 - 1 第126図	土師器 坏	床下土坑 埋土 1/8弱	器高 3.1 口径(16.0)	黒色粒含む	酸化焰	にぶい 褐	丸底で、口縁部は外反気味に立ち上がる。体部は笥削り、口縁部・器内面は横撫で。	1
	第113図 - 2 第126図	須恵器 椀	埋土 脚部1/2	器高 (6.4) 口径 — 底径(12.4)	白色・黒色粒 含む	酸化焰	にぶい 黄橙	器形は不明。轆轤成形(右回転)。台部は横撫で。いわゆる足高台である。	2
2区86号 住居跡	第113図 - 3 第126図	須恵器 甕	床下土坑 埋土	器高(15.5) 口径 — 底径 —		還元焰	灰	口縁部外面に2段の波状文腰の張りが強く、口縁部は強く外反する。	3 口縁下~頸部 1/4残存
2区87号 住居跡	第114図 - 1 第126図	土師器 坏	埋土 1/8	器高 3.3 口径(13.6) 底径 (8.0)	白色粒含む	酸化焰	橙	平底で、口縁部は強く外傾する。体部は笥削り、口縁部・器内面は横撫で。内面体部は放射状暗文。	1
	第114図 - 2 第126図	土師器 甕	埋土 底部1/2 弱	器高 (2.5) 口径 — 底径(11.6)	白色粒含む	酸化焰	橙	平底。器形は不明。胴部外面は縦方向の笥削り。	2
	第114図 - 3 第126図	須恵器 甕	床下土坑 埋土	器高(25.6) 口径(20.6) 底径 —		酸化焰	にぶい 褐	口縁部は外反し、口唇端部は下方に引き出されている紐作り。轆轤整形。	3 口縁~胴部 1/4残存
	第114図 - 4 第126図	須恵器 羽釜	— 口~胴部 1/4	器高(11.1) 口径(20.6) 底径 —		還元焰	褐灰	鏝は断面翼状で、貼り付け。最大径は胴部上半、鏝部は上方を向き、口縁部は内湾する。紐作り。轆轤整形。	4 最大径(23.5)
	第114図 - 5 第126図	須恵器 羽釜	埋土 口縁~胴 部1/5	器高 (9.0) 口径(19.6) 底径 —		還元焰	にぶい 黄橙	鏝は断面翼状で、貼り付け。最大径は胴部上半、鏝部は上方を向き、口縁部は内湾する。紐作り。轆轤整形。	5 最大径(23.7)
	第114図 - 6 第126図	須恵器 羽釜	埋土 口縁~胴 部1/5	器高 (9.0) 口径(19.6) 底径 —		還元焰	にぶい 黄橙	鏝は断面翼状で、貼り付け。最大径は胴部上半、鏝部は上方を向き、口縁部は内湾する。紐作り。轆轤整形。	5 最大径(23.7)
2区88号 住居跡	第115図 - 1 第126図	土師器 坏	竈埋土 1/4	器高(3.9) 口径(18.0)	石英?角閃石? 含む	酸化焰	橙	丸底で外陵を有し、口縁部は外反する。体部は笥削り、口縁部・器内面は横撫で。	1
	第115図 - 2 第126図	土師器 坏	竈埋土 1/4	器高 3.5 口径(13.4)	雲母含む	酸化焰	橙	丸底で、口縁部は強い横撫で直立する。体部は笥削り、口縁部・器内面は横撫で。	2
	第115図 - 3 第126図	土師器 甕	竈埋土 底部	器高(11.0) 口径 — 底径 4.2		酸化焰	にぶい 褐	器形は不明。口縁部・胴部内面は横撫で、胴部外面の上半は縦方向、下半は不斜方向の笥削り。	3
2区89・ 90号住居 跡	第119図 - 1 第127図	土師器 坏	トレンチ 埋土 ほぼ完形	器高 3.3 口径 13.1		酸化焰	にぶい 橙	丸底で、口縁部は僅かに内湾する。体部は笥削り、口縁部・器内面は横撫で。	1
	第119図 - 2 第127図	土師器 坏	埋土 ほぼ完形	器高 3.3 口径 13.0		酸化焰	橙	丸底で、口縁部は「C」字状に内湾する。体部は笥削り、口縁部・器内面は横撫で。	2
	第119図 - 3 第127図	土師器 坏	埋土 ほぼ完形	器高 (3.7) 口径 13.3	白色粒含む	酸化焰	橙	丸底で、口縁部は「C」字状に内湾する。体部は笥削り、口縁部・器内面は横撫で。	3
	第119図 - 4 第127図	土師器 坏	掘り方埋 土 2/3	器高 3.8 口径 11.4		酸化焰	橙	丸底で、口縁部は「C」字状に内湾する。体部は笥削り、口縁部・器内面は横撫で。	4
	第119図 - 5 第127図	土師器 坏	貯蔵穴埋 土 4/5	器高 3.4 口径 13.2		酸化焰	にぶい 橙	丸底で、口縁部は僅かに内湾する。体部は笥削り、口縁部・器内面は横撫で。	5
	第119図 - 6 第127図	土師器 坏	埋土 1/2	器高 3.5 口径 12.5		酸化焰	にぶい 黄橙	丸底で、口縁部は「C」字状に内湾する。体部は笥削り、口縁部・器内面は横撫で。	6

出土位置	図版写真	種類器種	出土位置 残存状態	法 量 (cm)	胎 土	焼成	色調	成・整形技法等の特徴	備 考
2区89・ 90号住居 跡	第119図 - 7 第127図	土師器 坏	埋土 ほぼ完形	器高 2.9 口径 13.2	砂粒・黒色粒 含む	酸化焰	橙	丸底で、口縁部は僅かに内湾する。体部は篋削り、口縁部・器内面は横撫で。	7
	第119図 - 8 第127図	土師器 坏	埋土 2/3	器高 3.3 口径 12.4	角閃石含む	酸化焰	橙	丸底で、口縁部は強い横撫でで直立する。体部は篋削り、口縁部・器内面は横撫で。	8
	第119図 - 9 第127図	土師器 坏	埋土 1/2	器高 3.2 口径(12.6)		酸化焰	橙	丸底で、口縁部は僅かに内湾する。体部は篋削り、口縁部・器内面は横撫で。	9
	第119図 - 10 第127図	土師器 坏	埋土 1/2弱	器高 3.5 口径 12.4	白色粒含む	酸化焰	明赤褐	丸底で、口縁部は強い横撫でで直立する。体部は篋削り、口縁部・器内面は横撫で。	10
	第119図 - 11 第127図	土師器 坏	埋土 1/2	器高 2.8 口径 13.0		酸化焰	にぶい 赤褐	丸底で、口縁部は僅かに内湾する。体部は篋削り、口縁部・器内面は横撫で。	11
	第119図 - 12 第127図	土師器 坏	埋土 1/4	器高 (4.0) 口径(13.0)		酸化焰	にぶい 褐	丸底で、口縁部は「C」字状に内湾する。体部は篋削り、口縁部・器内面は横撫で。	12
	第119図 - 13 第127図	土師器 坏	埋土 1/4強	器高 (3.0) 口径(13.2)	黒色粒含む	酸化焰	橙	丸底で、口縁部は僅かに内湾する。体部は篋削り、口縁部・器内面は横撫で。	13
	第119図 - 14 第127図	土師器 坏	埋土 1/4	器高 2.9 口径(13.2)		酸化焰	にぶい 橙	丸底で、口縁部は僅かに内湾する。体部は篋削り、口縁部・器内面は横撫で。	14
	第119図 - 15 第127図	土師器 坏	埋土 1/2	器高 (3.5) 口径(12.6)	黒色粒含む	酸化焰	橙	丸底で、口縁部は僅かに内湾する。体部は篋削り、口縁部・器内面は横撫で。	15
	第119図 - 16 第127図	土師器 坏	埋土 1/2	器高 (3.5) 口径(12.6)		酸化焰	にぶい 橙	丸底で、口縁部は僅かに内湾する。体部は篋削り、口縁部・器内面は横撫で。	16
	第119図 - 17 第127図	土師器 坏	埋土 1/2弱	器高 3.2 口径 12.8	赤褐色粒含む	酸化焰	橙	丸底で、口縁部は強い横撫でで直立する。体部は篋削り、口縁部・器内面は横撫で。	17
第119図 - 18 第127図	土師器 坏	埋土 1/3弱	器高 (3.1) 口径(13.4)	白色粒含む	酸化焰	赤褐	丸底で、口縁部は「C」字状に内湾する。体部は篋削り、口縁部・器内面は横撫で。	18	
第119図 - 19 第127図	土師器 坏	埋土 1/4弱	器高 (4.5) 口径(18.6)	角閃石含む	酸化焰	にぶい 橙	丸底で、口縁部は強い横撫でで直立する。体部は篋削り、口縁部・器内面は横撫で。	19	
第119図 - 20 第127図	土師器 坏	埋土 1/4	器高 (2.9) 口径(13.4)		酸化焰	橙	丸底で、口縁部は「C」字状に内湾する。体部は篋削り、口縁部・器内面は横撫で。	20	
第119図 - 21 第127図	土師器 坏	埋土 1/4弱	器高 (4.3) 口径(12.5)		酸化焰	にぶい 褐	丸底で、口縁部は僅かに内湾する。体部は篋削り、口縁部・器内面は横撫で。	21	
第119図 - 22 第127図	土師器 坏	埋土 1/5	器高 (2.5) 口径(13.4)	角閃石少含	酸化焰	橙	丸底で、口縁部は僅かに内湾する。体部は篋削り、口縁部・器内面は横撫で。	22	
第119図 - 23 第127図	土師器 坏	埋土 1/4弱	器高 (3.2) 口径(12.6)	角閃石少含、 雲母含む	酸化焰	橙	丸底で、口縁部は僅かに内湾する。体部は篋削り、口縁部・器内面は横撫で。	23	
第119図 - 24 第128図	土師器 坏	埋土 1/3弱	器高 (2.7) 口径(12.6)	白色粒・角閃 石含む	酸化焰	にぶい 橙	丸底で、口縁部は僅かに内湾する。体部は篋削り、口縁部・器内面は横撫で。	24	
第119図 - 25 第128図	土師器 坏	埋土 1/4	器高 (3.2) 口径(16.9)	黒色・赤色粒 含む	酸化焰	明褐	丸底で、口縁部は僅かに内湾する。体部は篋削り、口縁部・器内面は横撫で。	25	
第119図 - 26 第128図	土師器 坏	埋土 1/4	器高 (3.0) 口径(13.6)		酸化焰	橙	丸底で、口縁部は強い横撫でで直立する。体部は篋削り、口縁部・器内面は横撫で。	26	
第119図 - 27 第128図	土師器 坏	埋土 1/6	器高 (3.5) 口径(13.6)		酸化焰	橙	丸底で、口縁部は強い横撫でで直立する。体部は篋削り、口縁部・器内面は横撫で。	27	

出土位置	図版写真	種類器種	出土位置残存状態	法量 (cm)	胎土	焼成	色調	成・整形技法等の特徴	備考
	第119図 - 28 第128図	土師器 坏	埋土 1/4弱	器高 (3.5) 口径 (12.5)		酸化焰	橙	丸底で、口縁部は強い横撫でで直立する。体部は篋削り、口縁部・器内面は横撫で。	28
	第119図 - 29 第128図	土師器 坏	埋土 1/2強	器高 4.1 口径 16.6		酸化焰	橙	丸底で、口縁部は僅かに外反する。体部は篋削り、口縁部・器内面は横撫で。	29
	第119図 - 30 第128図	土師器 坏	埋土 1/2	器高 (4.7) 口径 (14.8)	黒色粒含む	酸化焰	橙	丸底で、口縁部は僅かに内湾する。体部は篋削り、口縁部・器内面は横撫で。	30
	第119図 - 31 第128図	土師器 坏	埋土 1/2	器高 3.2 口径 (14.6)	黒色粒含む	酸化焰	橙	丸底で、口縁部は強い横撫でで直立する。体部は篋削り、口縁部・器内面は横撫で。	31
2区89・ 90号住居 跡	第119図 - 32 第128図	土師器 坏	掘り方埋 土 1/8弱	器高 (3.4) 口径 (21.2)	砂粒・黒色粒 含む	酸化焰	橙	丸底で、口縁部は僅かに内湾する。体部は篋削り、口縁部・器内面は横撫で。	32
	第119図 - 33 第128図	土師器 坏	埋土 ほぼ完形	器高 3.9 口径 12.5 底径 8.7	細砂粒・白色 粒含む	酸化焰	にぶい 橙	平底で口縁部は湾曲気味に立ち上がる。体部は篋削り、口縁部・器内面は横撫で。	33
	第119図 - 34 第128図	土師器 坏	埋土 ほぼ完形	器高 4.4 口径 13.4 底径 9.1	細砂粒・白色 粒・褐色粒含 む	酸化焰	にぶい 黄橙	平底気味で口縁部は湾曲気味に立ち上がる。体部は篋削り、口縁部・器内面は横撫で。	34
	第120図 - 35 第128図	土師器 坏	埋土 3/4	器高 4.5 口径 14.6 底径 8.3	細砂粒・白色 粒・褐色粒含 む	酸化焰	にぶい 赤褐	平底で口縁部は直線的に外傾する。体部は篋削り、口縁部・器内面は横撫で。内面底部螺旋状暗文、体部放射状暗文。	35
	第120図 - 36 第128図	土師器 坏	埋土 4/5	器高 3.8 口径 13.8 底径 8.6	細砂粒・白色 粒含む	酸化焰	にぶい 褐	平底で口縁部は直線的に外傾する。体部は篋削り、口縁部・器内面は横撫で。内面底部螺旋状暗文、体部斜格子状暗文。	36
	第120図 - 37 第128図	土師器 坏	埋土 2/3	器高 4.2 口径 13.4	細砂粒・白色 粒含む	酸化焰	にぶい 黄橙	丸底で口縁部は直線的に外傾する。体部は篋削り、口縁部・器内面は横撫で。内面底部螺旋状暗文、体部放射状暗文。	37
	第120図 - 38 第128図	土師器 坏	埋土 口縁～底 部3/4	器高 4.1 口径 (13.2) 底径 9.4	細砂粒・白色 粒・礫・褐色 鉱物粒含む	酸化焰	橙	平底で口縁部は湾曲気味に立ち上がる。体部は篋削り、口縁部・器内面は横撫で。	38
	第120図 - 39 第128図	土師器 坏	埋土 1/4	器高 4.0 口径 (12.8)		酸化焰	橙	丸底で口縁部は直線的に外傾する。体部は篋削り、口縁部・器内面は横撫で。内面底部螺旋状暗文、体部放射状暗文。	39
	第120図 - 40 第128図	土師器 坏	埋土 口縁～底 部1/4	器高 4.0 口径 (13.8) 底径 (8.4)	細砂粒・白色 粒・礫含む	酸化焰	橙	平底で口縁部は直線的に外傾する。体部は篋削り、口縁部・器内面は横撫で。内面底部螺旋状暗文、体部放射状暗文。	40
	第120図 - 41 第129図	土師器 坏	埋土 2/5	器高 4.0 口径 (13.2) 底径 8.1	細砂粒・白色 粒含む	酸化焰	橙	平底で口縁部は直線的に外傾する。体部は篋削り、口縁部・器内面は横撫で。内面底部螺旋状暗文、体部放射状暗文。	41
	第120図 - 42 第129図	土師器 坏	埋土 口縁～底 部1/3	器高 (4.3) 口径 (13.2)	細砂粒・白色 粒・褐色鉱物 粒・小礫含む	酸化焰	橙	丸底で、口縁部は僅かに内湾する。体部は篋削り、口縁部・器内面は横撫で。	42
	第120図 - 43 第129図	土師器 坏	埋土 1/5	器高 (4.2) 口径 (13.3)	細砂粒・白色 粒・褐色粒含 む	酸化焰	にぶい 黄褐	丸底で口縁部は直線的に外傾する。体部は篋削り、口縁部・器内面は横撫で。内面底部螺旋状暗文、体部放射状暗文。	43
	第120図 - 44 第129図	土師器 坏	埋土 1/2	器高 3.3 口径 (13.2) 底径 (7.6)	細砂粒・白色 粒・石英・礫 含む	酸化焰	橙	平底で口縁部は直線的に外傾する。体部は篋削り、口縁部・器内面は横撫で。内面体部放射状暗文。	44
	第120図 - 45 第129図	土師器 坏	埋土 1/2	器高 (5.5) 口径 (15.1)	黒色粒含む	酸化焰	にぶい 赤褐	丸底で、口縁部は「C」字状に内湾する。体部は篋削り、口縁部・器内面は横撫で。内面体部放射状暗文。	45
	第120図 - 46 第129図	土師器 坏	埋土 1/4強	器高 3.4 口径 (15.0) 底径 (10.2)		酸化焰	橙	平底で口縁部は直線的に外傾する。体部は篋削り、口縁部・器内面は横撫で。内面底部螺旋状暗文、体部放射状暗文。	46
	第121図 - 47 第129図	土師器 坏	埋土 1/4	器高 4.1 口径 (12.6) 底径 5.4	細砂粒・白色 粒・褐色鉱物 粒含む	酸化焰	橙	平底気味で、口縁部は直線的に外傾する。体部は篋削り、口縁部・器内面は横撫で。内面底部螺旋状暗文、体部放射状暗文。	47
第121図 - 48 第129図	土師器 坏	埋土 1/4	器高 (4.0) 口径 (13.6)	砂粒含む	酸化焰	にぶい 褐	丸底で、口縁部は僅かに内湾する。体部は篋削り、口縁部・器内面は横撫で。内面体部放射状暗文。	48	

出土位置	図版写真	種類器種	出土位置 残存状態	法量 (cm)	胎土	焼成	色調	成・整形技法等の特徴	備考
	第121図 - 49 第129図	土師器 坏	埋土 1/4弱	器高 (3.9) 口径(17.5)	白色粒含む	酸化焰	明赤褐	丸底で、口縁部は「C」字状に内湾する。体部は篋削り、口縁部・器内面は横撫で。内面体部斜格子状暗文。	49
	第121図 - 50 第129図	土師器 坏	埋土 1/2	器高 2.1 口径 (8.1) 底径 4.4	細砂粒・白色 粒含む	酸化焰	橙	平底で、口縁部は僅かに内湾する。体部は篋削り、口縁部・器内面は横撫で。内面底部螺旋状暗文、体部斜格子状暗文。	50
	第121図 - 51 第129図	土師器 坏	埋土 1/4	器高 (3.5) 口径(12.8)	白色粒含む	酸化焰	橙	丸底で口縁部は直線的に外反する。体部は篋削り、口縁部・器内面は横撫で。	51
2区89・ 90号住居 跡	第121図 - 52 第129図	土師器 坏	埋土 1/6弱	器高 4.0 口径(12.8)		酸化焰	橙	丸底で、口縁部は僅かに内湾する。体部は篋削り、口縁部・器内面は横撫で。内面体部斜格子状暗文。	52
	第121図 - 53 第129図	土師器 坏	埋土 底部1/4	器高 (2.5) 口径 — 底径 (6.0)	赤褐色粒・黒 色粒含む	酸化焰	橙	器形は不明。内面体部放射状暗文。	53
	第121図 - 54 第129図	土師器 坏	埋土 1/8	器高 (3.8) 口径(16.2)	白色粒含む	酸化焰	橙	丸底で、口縁部は僅かに内湾する。体部は篋削り、口縁部・器内面は横撫で。内面体部放射状暗文。	54
	第121図 - 55 第129図	土師器 坏	埋土 1/2	器高 6.1 口径 18.1 底径 10.7	細砂粒・白色 粒含む	酸化焰	明赤褐	平底気味で、口縁部は「C」字状に内湾する。体部は篋削り、口縁部・器内面は横撫で。内面底部螺旋状暗文、体部放射状暗文。	55
	第121図 - 56 第129図	土師器 坏	埋土 1/3	器高 (6.0) 口径(17.8)	細砂粒・白色 粒・褐色鉱物 粒・小礫含む	酸化焰	にぶい 橙	丸底で、口縁部は直線的に外傾する。体部は篋削り、口縁部・器内面は横撫で。内面底部螺旋状暗文、体部斜格子状暗文。	56
	第121図 - 57 第130図	土師器 坏	埋土 1/3	器高 5.4 口径(18.7)	細砂粒・白色 粒・小礫含む	酸化焰	橙	丸底で、口縁部は「C」字状に内湾する。体部は篋削り、口縁部・器内面は横撫で。内面体部放射状暗文。	57
	第121図 - 58 第130図	土師器 坏	埋土 1/8	器高 3.9 口径(14.4)	雲母含む	酸化焰	にぶい 赤褐	丸底で、口縁部は僅かに内湾する。体部は篋削り、口縁部・器内面は横撫で。内面底部螺旋状暗文、体部放射状暗文。	58
	第121図 - 59 第130図	土師器 坏	埋土 1/3	器高 4.0 口径(14.7) 底径 (9.2)	細砂粒・白色 粒含む	酸化焰	灰褐	平底で口縁部は湾曲気味に立ち上がる。体部は篋削り、口縁部・器内面は横撫で。	59
	第121図 - 61 第130図	土師器 坏	埋土 1/8	器高 (3.2) 口径(14.0)		酸化焰	橙	丸底気味で、口縁部は直線的に外傾する。体部は篋削り、口縁部・器内面は横撫で。内面体部放射状暗文。	61
	第122図 -119 第130図	須恵器 坏	埋土 口縁～体 部1/4	器高 (4.8) 口径(18.3) 底径 —	赤色・白色粒 含む	酸化焰	暗赤褐	丸底で、口縁部は僅かに内湾する。体部は篋削り、口縁部・器内面は横撫で。内黒。	119
	第122図 -120 第130図	土師器 甕	埋土 口縁～胴 部3/4	器高(12.7) 口径(22.4) 底径 —		酸化焰	橙	口縁部は直線的に外傾する。口縁部・胴部内面は横撫で、胴部外面は横～斜方向の篋削り。	120
	第122図 -121 第130図	土師器 甕	埋土 口縁～胴 部上1/3	器高 (9.7) 口径(15.9) 底径 —		酸化焰	褐	口縁部は直線的に外傾する。口縁部・胴部内面は横撫で、胴部外面は横～斜方向の篋削り。	121
	第122図 -122 第130図	土師器 甕	埋土 口縁～胴 部1/4	器高(13.0) 口径 17.1 底径 —		酸化焰	にぶい 褐	口縁部は直線的に外傾する。口縁部・胴部内面は横撫で、胴部外面は斜方向の篋削り。	122
	第122図 -123 第130図	土師器 甕	埋土 口縁～胴 部2/3	器高 (8.7) 口径(15.2) 底径 —	石英含む	酸化焰	橙	口縁部は僅かに外傾する。口縁部・胴部内面は横撫で、胴部外面は横～斜方向の篋削り。	123
	第122図 -124 第130図	土師器 甕	埋土 口縁～胴 部1/4	器高 (8.5) 口径(12.2) 底径 —		酸化焰	橙	口縁部は直立し、肉厚である。口縁部・胴部内面は横撫で、胴部外面は横～斜方向の篋削り。	124
第122図 -125 第130図	土師器 甕	埋土 口縁～頸 部1/8	器高(11.8) 口径(23.2) 底径 —		酸化焰	橙	口縁部は外傾する。口縁部・胴部内面は横撫で、胴部外面は横～斜方向の篋削り。	125	
第122図 -126 第130図	土師器 甕	埋土 口縁1/5	器高 (9.7) 口径(23.1) 底径 —		酸化焰	明赤褐	口縁部は直線的に外傾する。	126	
第122図 -127 第130図	土師器 甕	埋土 口縁1/5	器高 (7.9) 口径(20.1) 底径 —		酸化焰	にぶい 黄褐	口縁部は直立し、肉厚である。	127	

出土位置	図版 写真	種類 器種	出土位置 残存状態	法 量 (cm)	胎 土	焼成	色調	成・整形技法等の特徴	備 考
	第122図 -128 第130図	土師器 甕	埋土 口縁1/2	器高 (5.5) 口径 (23.6) 底径 —	白色・黒色粒 含む	酸化焰	明赤褐	口縁部は直線的に外傾する。口縁部・胴部内面は横撫で、 胴部外面は横方向の篋削り。	128
	第122図 -129 第130図	土師器 甕	埋土 口縁1/4	器高 (5.2) 口径 (19.2) 底径 —	赤色粒含む	酸化焰	にぶい 褐	口縁部は直立し、肉厚である。口縁部・胴部内面は横撫 で、胴部外面は横～斜方向の篋削り。	129
2区89・ 90号住居 跡	第122図 -130 第130図	土師器 甕	埋土 口縁1/4	器高 (6.1) 口径 (21.4) 底径 —		酸化焰	にぶい 黄褐	口縁部・胴部内面は横撫で、胴部外面は縦方向の篋削り。	130
	第123図 -131 第131図	土師器 甕	埋土 口縁～頸 部1/5	器高 (6.9) 口径 (25.9) 底径 —	赤色粒含む	酸化焰	にぶい 黄橙	口縁部は「く」字状に強く外反する。口縁部・胴部内面 は横撫で、胴部外面は縦方向の篋削り。	131
	第123図 -132 第131図	土師器 甕	埋土 底部2/3	器高 (7.0) 口径 — 底径 10.0		酸化焰	にぶい 黄橙	器形は不明。胴部外面は斜～横方向の篋削り、内面は横 撫で。	132
	第123図 -133 第131図	土師器 甕	埋土 底部	器高 (5.0) 口径 — 底径 5.5		酸化焰	灰黄褐	器形は不明。胴部内面は横撫で、胴部外面は斜方向の篋 削り。	133
	第123図 -135 第131図	土師器 甕	埋土 体～底部	器高 (8.4) 口径 — 底径 5.2		酸化焰	明赤褐	器形は不明。胴部外面上半は横方向の篋削り、下半は横 撫で、内面は横撫で。	135
	第123図 -136 第131図	土師器 小型甕	埋土 2/3	器高 9.4 口径 10.0 底径 5.2	白色・赤色・ 黒色粒含む	酸化焰	暗褐	口縁部は僅かに外傾する。口縁部・胴部内面は横撫で、 胴部外面は横～斜方向の篋削り。	136
	第123図 -137 第131図	土師器 小型甕	埋土 1/2	器高 (10.0) 口径 (10.2) 底径 —		酸化焰	明褐	口縁部は僅かに外傾する。口縁部・胴部内面は横撫で、 胴部外面は斜方向の篋削り。	137
	第123図 -138 第131図	土師器 小型甕	埋土 口縁1/2	器高 (6.0) 口径 (13.8) 底径 —	白色・黒色粒 含む	酸化焰	赤褐	器形は不明。口縁部は僅かに外傾する。口縁部・胴部内 外面は横撫で。	138
	第123図 -142 第131図	須恵器 蓋	埋土 1/2	器高 (3.3) 口径 (14.2) 摘径 1.5		還元焰	灰白	天井部から口縁部まで僅かに弓状に開く。整形は天井部 回転篋削り、内面回転撫で。カエリを持たず、口縁部を 折り曲げている。摘は疑宝珠状で、貼り付け	142
	第123図 -143 第131図	須恵器 蓋	埋土 ほぼ完形	器高 3.1 口径 16.1 摘径 4.0		還元焰	灰白	天井部から口縁部まで僅かに弓状に開く。整形は天井部 回転篋削り、内面回転撫で。カエリを持たず、口縁部を 折り曲げている。摘は輪状で、貼り付け。	143
	第123図 -144 第131図	須恵器 蓋	埋土 完形	器高 3.3 口径 14.0 摘径 2.9		還元焰	黒褐	天井部から口縁部まで僅かに弓状に開く。整形は天井部 回転篋削り、内面回転撫で。カエリを持たず、口縁部を 折り曲げている。摘は輪状で、貼り付け。	144
	第123図 -145 第131図	須恵器 蓋	埋土 ほぼ完形	器高 3.4 口径 15.7 摘径 4.2		還元焰	褐灰	天井部から口縁部まで僅かに弓状に開く。整形は天井部 回転篋削り、内面回転撫で。カエリを持たず、口縁部を 折り曲げている。摘は輪状で、貼り付け。	145
	第123図 -146 第131図	須恵器 蓋	埋土 ほぼ完形	器高 3.2 口径 13.8 摘径 4.3		還元焰	灰	天井部から口縁部まで僅かに弓状に開く。整形は天井部 回転篋削り、内面回転撫で。カエリを持たず、口縁部を 折り曲げている。摘は輪状で、貼り付け。	146
	第123図 -147 第131図	須恵器 蓋	埋土 3/4	器高 3.5 口径 15.2 摘径 4.5		還元焰	灰	天井部から口縁部まで僅かに弓状に開く。整形は天井部 回転篋削り、内面回転撫で。カエリを持たず、口縁部を 折り曲げている。摘は輪状で、貼り付け。	147
第123図 -148 第131図	須恵器 蓋	埋土 3/4	器高 3.0 口径 15.3 摘径 3.6		還元焰	灰褐	天井部から口縁部まで僅かに弓状に開く。整形は天井部 回転篋削り、内面回転撫で。カエリを持たず、口縁部を 折り曲げている。摘は輪状で、貼り付け。	148	
第123図 -149 第131図	須恵器 蓋	埋土 2/3	器高 2.9 口径 14.1 摘径 3.4		還元焰	灰	天井部から口縁部まで僅かに弓状に開く。整形は天井部 回転篋削り、内面回転撫で。カエリを持たず、口縁部を 折り曲げている。摘は輪状で、貼り付け。	149	
第123図 -150 第131図	須恵器 蓋	埋土 2/3弱	器高 3.4 口径 14.6 摘径 2.8		還元焰	灰	天井部から口縁部まで僅かに弓状に開く。整形は天井部 回転篋削り、内面回転撫で。カエリを持たず、口縁部を 折り曲げている。摘は輪状で、貼り付け。	150	
第123図 -151 第131図	須恵器 蓋	埋土 1/2弱	器高 3.4 口径 (14.2) 摘径 4.8		還元焰	灰	天井部から口縁部まで僅かに弓状に開く。整形は天井部 回転篋削り、内面回転撫で。カエリを持たず、口縁部を 折り曲げている。摘は輪状で、貼り付け。	151	
第123図 -152 第131図	須恵器 蓋	埋土 1/2	器高 2.9 口径 (14.4) 摘径 4.0		還元焰	灰	天井部から口縁部まで直線的に開く。整形は天井部回転 篋削り、内面回転撫で。カエリを持たず、口縁部を折り 曲げている。摘は輪状で、貼り付け。	152	

出土位置	図版 写真	種類 器種	出土位置 残存状態	法 量 (cm)	胎 土	焼成	色調	成・整形技法等の特徴	備 考
	第123図 -153 第131図	須恵器 蓋	埋土 2/3	器高 3.3 口径(14.8) 摘径 2.5		還元焰	灰黄褐	薄手で天井部から口縁部まで直線的に開く。整形は天井部回転削り、内面は回転撫で。カエリを持たず、口縁部を折り曲げている。	153
2区89・ 90号住居 跡	第123図 -154 第131図	須恵器 蓋	埋土 2/3	器高 3.2 口径(14.7) 摘径 3.7		還元焰	灰	天井部から口縁部まで直線的に開く。整形は天井部回転削り、内面回転撫で。カエリを持たず、口縁部を折り曲げている。摘は輪状で、貼り付け。	154
	第123図 -155 第132図	須恵器 蓋	埋土 1/4強	器高 3.4 口径(15.3) 摘径 3.6		還元焰	灰	天井部から口縁部まで直線的に開く。整形は天井部回転削り、内面回転撫で。カエリを持たず、口縁部を折り曲げている。摘は輪状で、貼り付け。	155
	第123図 -156 第132図	須恵器 蓋	埋土 1/4	器高 3.0 口径(13.5) 摘径 4.0		還元焰	灰	天井部から口縁部まで直線的に開く。整形は天井部回転削り、内面回転撫で。カエリを持たず、口縁部を折り曲げている。摘は輪状で、貼り付け。	156
	第123図 -157 第132図	須恵器 蓋	埋土 1/4強	器高 2.6 口径(13.8) 摘径 (4.0)		還元焰	灰	天井部から口縁部まで直線的に開く。整形は天井部回転削り、内面回転撫で。カエリを持たず、口縁部を折り曲げている。摘は輪状で、貼り付け。	157
	第123図 -158 第132図	須恵器 椀	埋土 底部1/3	器高 (2.9) 口径 — 底径 (9.7)		還元焰	褐灰	器形は不明。底部は削り後、高台は貼り付け。	158
	第123図 -160 第132図	須恵器 坏	埋土 ほぼ完形	器高 3.5 口径 13.2 底径 8.7		還元焰	灰白	底部から直線的に外傾する。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り。	160
	第123図 -161 第132図	須恵器 坏	埋土 完形	器高 3.8 口径 13.8 底径 7.8		還元焰	灰白	底部から直線的に外傾する。轆轤整形(右回転)。底部は回転削り。	161
	第123図 -162 第132図	須恵器 坏	埋土 ほぼ完形	器高 4.2 口径 14.2 底径 7.8		還元焰	灰	底部から直線的に外傾する。轆轤整形(右回転)。底部は回転削り。	162
	第124図 -163 第132図	須恵器 坏	埋土 2/3	器高 4.0 口径 12.8 底径 7.2		還元焰	灰	底部から直線的に外傾する。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り。	163
	第124図 -164 第132図	須恵器 坏	埋土 4/5	器高 3.7 口径 12.2 底径 7.0	白色・赤色粒 含む	還元焰	にぶい 橙 灰白	底部から直線的に外傾する。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り。	164
	第124図 -165 第132図	須恵器 坏	埋土 2/3	器高 3.1 口径 13.3 底径 9.5	白色粒含む	還元焰	灰	底部から直線的に外傾する。轆轤整形(右回転)。底部は回転削り。	165
	第124図 -166 第132図	須恵器 坏	埋土 2/3	器高 3.8 口径 13.4 底径 8.7	黒色粒含む、 白色粒僅含	還元焰	灰	底部から直線的に外傾する。	166
	第124図 -167 第132図	須恵器 坏	埋土 2/3	器高 3.4 口径 13.2 底径 8.0	白色粒多含	還元焰	灰	底部から直線的に外傾する。轆轤整形(右回転)。底部は回転削り。	167
	第124図 -168 第132図	須恵器 坏	埋土 2/3	器高 4.0 口径 13.1 底径 7.8	白色粒含む	還元焰	黒褐	口縁部は僅かに内湾気味に立ち上がる。轆轤整形(右回転)。底部は回転削り。	168
	第124図 -169 第132図	須恵器 坏	埋土 3/5	器高 3.6 口径(13.2) 底径 9.0	黒色粒含む	還元焰	灰白	底部から直線的に外傾する。轆轤整形(右回転)。底部は回転削り。	169
	第124図 -170 第132図	須恵器 坏	埋土 1/2	器高 4.0 口径(13.4) 底径 6.7	黒色粒含む	還元焰	灰	口縁部は僅かに内湾気味に立ち上がる。轆轤整形(右回転)。底部は回転削り。内外面に自然釉付着	170
第124図 -171 第132図	須恵器 坏	埋土 1/2	器高 3.8 口径(14.0) 底径(8.4)	黒色粒含む	還元焰	灰	底部から直線的に外傾する。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り。	171	
第124図 -172 第132図	須恵器 坏	埋土 1/2	器高 3.7 口径(13.4) 底径(7.6)	白色粒多含	還元焰	黄灰	底部から直線的に外傾する。轆轤整形(右回転)。底部は回転削り。口縁部・器内面は横撫で、体部外面下半は削り。	172	
第124図 -173 第132図	須恵器 坏	埋土 1/4	器高 3.8 口径(13.2) 底径(8.0)	白色粒含む	還元焰	灰	底部から直線的に外傾する。轆轤整形(右回転)。底部は回転削り。口縁部・器内面は横撫で、体部外面下半は削り。	173	
第124図 -174 第132図	須恵器 坏	埋土 1/2	器高 3.9 口径(13.8) 底径 8.2	白色粒含む、 黒色粒極少含	還元焰	灰白	底部から直線的に外傾する。轆轤整形(右回転)。底部は回転削り。	174	

出土位置	図版 写真	種類 器種	出土位置 残存状態	法 量 (cm)	胎 土	焼成	色調	成・整形技法等の特徴	備 考
2区89・ 90号住居 跡	第124図 -175 第132図	須恵器 坏	埋土 1/2	器高 4.0 口径(12.2) 底径 7.2	白色粒含む	還元焰	灰	口縁部は僅かに内湾気味に立ち上がる。轆轤整形(右回転)。底部は回転篋削り。口縁部・器内面は横撫で、体部外面下半は篋削り。	175
	第124図 -176 第132図	須恵器 坏	埋土 1/2	器高(3.8) 口径(14.2) 底径(10.2)		還元焰	灰白	底部から直線的に外傾する。轆轤整形(右回転)。底部は回転篋削り。	176
	第124図 -177 第132図	須恵器 坏	埋土 1/8	器高 3.7 口径(13.2) 底径(9.0)	黒色粒含む	還元焰	灰	底部から直線的に外傾する。轆轤整形(右回転)。底部は回転篋削り。	177
	第124図 -178 第132図	須恵器 坏	埋土 1/4	器高(4.0) 口径 14.6 底径(11.0)		還元焰	灰白	底部から直線的に外傾する。轆轤整形(右回転)。底部は回転篋削り。	178
	第124図 -179 第132図	須恵器 坏	埋土 1/5	器高(4.0) 口径 11.8 底径(7.8)	黒色・白色粒 含む	還元焰	灰	口縁部は僅かに内湾気味に立ち上がる。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り。	179
	第124図 -180 第133図	須恵器 坏	掘り方埋 土 1/4	器高 3.9 口径(13.8) 底径(8.8)	黒色粒含む、 白色粒少含	還元焰	灰	口縁部は僅かに内湾気味に立ち上がる。轆轤整形(右回転)。底部は回転篋削り。	180
	第124図 -181 第133図	須恵器 坏	埋土 底部1/2	器高(2.6) 口径 — 底径(10.0)	黒色粒多含	還元焰	灰	器形は不明。	181
	第124図 -182 第133図	須恵器 高台付 坏	埋土 1/8	器高 3.7 口径(14.6) 底径(10.6)	酸化鉄含む	還元焰	灰	底部から直線的に外傾する。轆轤整形(右回転)。底部は回転篋削り後、高台は貼り付け。	182
	第125図 -183 第133図	須恵器 高台付 坏	埋土 1/8	器高 4.1 口径(19.4) 底径(14.4)	白色粒含む	還元焰	灰	底部から直線的に外傾する。轆轤整形(右回転)。底部は回転篋削り後、高台は貼り付け。	183
	第125図 -184 第133図	須恵器 高台付 坏	埋土 1/2	器高 4.3 口径(18.0) 底径(13.1)	色粒含む	還元焰	黄灰	底部から直線的に外傾する。轆轤整形(右回転)。底部は回転篋削り後、高台は貼り付け。	184
	第125図 -185 第133図	須恵器 高台付 坏	埋土 1/6	器高 5.0 口径(26.0) 底径(11.2)		還元焰	灰白	底部から直線的に外傾する。轆轤整形(右回転)。底部は回転篋削り後、高台は貼り付け。	185
	第125図 -186 第133図	須恵器 高台付 坏	埋土 1/2弱	器高 5.2 口径(15.0) 底径(11.0)	黒色・赤褐色 粒含む	還元焰	灰白	底部から直線的に外傾する。轆轤整形(右回転)。底部は回転篋削り後、高台は貼り付け。	186
	第125図 -187 第133図	須恵器 碗	埋土 1/3	器高 8.4 口径(19.3) 底径 9.9	白色粒含む	還元焰	黄灰	腰の張りが弱く、口縁部は僅かに外反する。轆轤整形(右回転)。底部は回転篋削り後、高台は貼り付け。	187
	第125図 -188 第133図	須恵器 碗	埋土 1/4強	器高 5.7 口径(14.6) 底径 9.0	黒色・白色粒 含む	還元焰	灰	口縁部は僅かに内湾気味に立ち上がる。轆轤整形(右回転)。底部は回転篋削り後、高台は貼り付け。高台外面に自然袖付着。	188
	第125図 -189 第133図	須恵器 碗	埋土 1/2	器高 4.0 口径 11.2 底径 7.0	白色粒含む	還元焰	灰	口縁部は僅かに内湾気味に立ち上がる。外面に厚く自然袖付着のため、底部調整は不明。高台は貼り付け。	189
	第125図 -190 第133図	須恵器 高坏	埋土 1/4	器高(5.9) 口径(18.4) 底径 —		還元焰	黒	腰の張りが強く口縁部は外反する。	190
	第125図 -191 第133図	須恵器 盤	埋土 底部2/3	器高(2.2) 口径 — 底径 14.9		還元焰	灰	器形は不明。轆轤整形(右回転)。底部は回転篋削り後、高台は貼り付け。	191
	第125図 -192 第133図	須恵器 高坏	埋土 1/2弱	器高 10.3 口径 18.5 底径 12.8		還元焰	灰	口縁部は直立する。紐作り。轆轤整形。	192
	第125図 -193 第133図	須恵器 高坏	埋土 2/3	器高 10.3 口径(20.1) 底径(14.2)		還元焰	灰白	口縁部は直線的に外傾する。紐作り。轆轤整形。	193
	第125図 -194 第133図	須恵器 高坏	埋土 3/4	器高 12.4 口径 23.6 底径(13.0)		還元焰	灰	口縁部は直線的に外傾する。紐作り。轆轤整形。	194
2区89・ 90号住居 跡	第126図 -195 第133図	須恵器 高坏	埋土 1/2	器高(7.8) 口径(22.2) 底径 —		還元焰	灰	口縁部は僅かに内湾気味に立ち上がり、口唇部は外傾する。紐作り。轆轤整形。	195

出土位置	図版写真	種類器種	出土位置 残存状態	量 (cm)	胎土	焼成	色調	成・整形技法等の特徴	備考
	第126図 -196	須恵器 高坏	埋土 1/2	器高 (6.0) 口径 14.6 底径 —		還元焰	灰	口縁部は僅かに内湾気味に立ち上がる。紐作り。轆轤整形。	196
	第126図 -197	須恵器 高坏	埋土 脚部	器高 (9.0) 口径 — 底径 13.3		還元焰	灰	紐作り。轆轤整形。	197
	第126図 -198	須恵器 長頸壺	埋土 胴部1/4	器高 (8.6) 口径 — 底径 —		還元焰	灰	紐作り。轆轤整形。肩部に櫛目の刺突を施す。自然釉付着。	198
	第126図 -199	須恵器 四足火 舎	埋土 獣足部分	器高 (12.5) 口径 — 底径 —		還元焰	灰	器形は不明。獣足部分は篋削り調整。	199
2区91号 住居跡	第127図 - 1	土師器 坏	埋土 体部破片	器高 — 口径 — 底径 —		酸化焰	にぶい 橙	器形は不明。内面体部は放射状暗文。	1
	第127図 - 2	須恵器 羽釜	埋土 口縁~胴 部1/4	器高 (13.0) 口径 (18.2) 底径 —	粒子粗い	酸化焰	褐	鈔は断面翼状で、貼り付け。最大径は胴部上半。鈔部はやや下方を向き、口縁部はほぼ直立する。紐作り。轆轤整形。	2 最大径 (21.5)
	第127図 - 3	須恵器 甕	埋土 体~底部 破片	器高 (2.9) 口径 — 底径 (17.0)	白色粒含む	還元焰	灰	平底。紐作り。轆轤整形。	3
	第127図 - 5	灰釉 段皿	埋土 1/2弱	器高 2.2 口径 (13.0) 底径 (6.4)	白色・黒色粒 含む	還元焰	灰	轆轤整形、回転は右回りか。底部回転篋調整、高台貼付。施釉は漬け掛けか、釉調は不透明な灰白色。	5
	第134図								
2区92号 住居跡	第128図 - 1	須恵器 坏	埋土 1/6	器高 (3.2) 口径 (11.8) 底径 —	白色・黒色粒 含む	還元焰	灰	口縁部は僅かに内湾気味に立ち上がる。轆轤整形 (右回転)。底部は回転篋削り。	1
	第128図 - 2	須恵器 碗	埋土 1/2弱	器高 (5.8) 口径 (16.5) 底径 —	白色粒含む、 黒色粒多含	還元焰	灰	底部から直線的に外傾する。轆轤整形 (右回転)。底部欠損のため調整不明。	2
	第128図 - 3	須恵器 甕	掘り方埋 土	器高 — 口径 — 底径 —		還元焰	灰	口縁部は外反し、口唇部はほぼ平坦である。有段で7本1単位の波状文がまわる。	3
第134図									
2区93号 住居跡	第130図 - 1	須恵器 羽釜	埋土 口縁破片	器高 (6.1) 口径 (18.2) 底径 —		還元焰	暗灰黄	鈔は断面三角形で貼り付け。鈔部は水平で最大径。口縁部は内傾する。紐作り。轆轤整形。	1 最大径 (22.5)
2区94号 住居跡	第131図 - 1	土師器 甕	埋土 底部1/8	器高 (8.2) 口径 — 底径 (8.6)	黒色・白色・ 褐色粒子含む	酸化焰	灰黄褐	器形は不明。胴部内面は横撫で、外面は縦~斜方向の篋撫で。	
2区97号 住居跡	第134図 - 1	須恵器 坏	掘り方埋 土	器高 3.5 口径 (10.0) 底径 4.8	赤色・黒色 粒・砂粒含む	酸化焰	橙	腰の張りが弱く、口縁部は僅かに外反する。轆轤整形 (右回転)。底部は回転糸切り。片口を持つ。	1
	第134図 - 2	須恵器 坏	埋土 1/2弱	器高 3.2 口径 (10.0) 底径 (5.5)	砂粒含む	酸化焰	にぶい 黄橙	腰の張りが弱く、口縁部は僅かに外反する。轆轤整形 (右回転)。底部は回転糸切り。内外面漆付着。	2
	第134図 - 3	須恵器 甕	掘り方埋 土	器高 (7.3) 口径 (18.5) 底径 —	赤色粒含む	還元焰	にぶい 黄橙	口縁部は外反する。轆轤整形 (右回転)。	3 口縁~胴部上 1/8残存
	第134図 - 4	須恵器 羽釜	埋土 口縁1/6	器高 (6.6) 口径 (18.6) 底径 —	赤褐色粒含む	酸化焰	にぶい 黄橙	鈔は断面翼状で、貼り付け。最大径は胴部上半、鈔部は上方を向き、口縁部は内湾する。紐作り。轆轤整形。	4 最大径 (22.8)
	第134図 - 5	須恵器 蓋	? 体部破片	器高 3.1 口径 (15.0) 摘径 (3.4)	白色粒含む	還元焰	灰	天井部から口縁部まで僅かに弓状に開く。整形は天井部回転篋削り、内面回転撫で。カエリを持たず、口縁部を折り曲げている。摘は輪状で、貼り付け。	5 自然釉付着
	第134図 - 6	灰釉 碗	埋土 1/8	器高 5.4 口径 (16.1) 底径 (8.2)	砂粒、黒色粒 含む	還元焰	灰黄	轆轤整形、回転方向不明、底部回転篋調整、高台貼付。施釉は漬け掛けか、釉調は不透明な灰白色。	6
	第134図								
	第134図 - 7	灰釉 段皿	埋土 1/4	器高 (2.0) 口径 — 底径 (6.8)	白色粒含む	還元焰	灰白	轆轤整形、回転方向右回り、底部回転篋調整、高台貼付。施釉?、釉調は半透明な緑灰色。	7
2区98号 住居跡	第135図 - 1	須恵器 碗	掘り方埋 土	器高 4.5 口径 (12.3) 底径 5.5	砂粒含む	還元焰	灰黄	腰の張りが弱く、口縁部は僅かに外反する。轆轤整形 (右回転)。底部は回転糸切り後、高台は貼り付け。内外面黒色処理。	1

出土位置	図版 写真	種類 器種	出土位置 残存状態	法 量 (cm)	胎 土	焼成	色調	成・整形技法等の特徴	備 考
	第135図 - 2	須恵器 碗	掘り方埋 土	器高 4.0 口径(10.6) 底径 —	角閃石?含む	酸化焰	橙	口縁部は僅かに内湾気味に立ち上がる。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り後、高台は貼り付け。	2
	第135図 - 3	須恵器 羽釜	床直 口縁1/8	器高(5.5) 口径(21.2) 底径 —	白色粒含む	還元焰	にぶい 赤褐	鈔は断面台形状で、貼り付け。最大径は胴部上半、鈔部は上方を向き、口縁部は内湾する。紐作り。轆轤整形。	3 最大径(26.4)
	第135図								
3区100 号住居跡	第139図 - 1	土師器 甕	床直 口縁~胴 部	器高(11.8) 口径(18.7) 底径 —		還元焰	橙	口縁部は直立し、肉厚である。口縁部・胴部内面は横撫で、胴部外面は縦方向の笕削り。	1
	第139図 - 2	須恵器 坏	掘り方埋 土	器高 3.6 口径(11.4) 底径 5.2	黒色・赤色 粒・砂粒含む	還元焰	浅黄橙	口縁部は僅かに内湾気味に立ち上がる。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り。	2
	第139図 - 3	須恵器 坏	掘り方埋 土	器高 3.3 口径(11.0) 底径 4.8	黒色粒多含、 白色粒・砂粒 含む	還元焰	浅黄	腰の張りが弱く、口縁部は僅かに外反する。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り。	3
	第139図 - 4	須恵器 坏	床直 1/2弱	器高 2.4 口径(9.2) 底径(5.3)	砂粒含む	還元焰	にぶい 黄橙	腰の張りが弱く、口縁部は僅かに外反する。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り。	4
3区101 号住居跡	第139図 - 1	須恵器 坏	埋土 完形	器高 2.3 口径 8.3 底径 4.8	砂粒含む	還元焰	にぶい 橙	底部から直線的に外傾する。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り。	1
	第139図 - 2	須恵器 坏	床下土坑 埋土	器高 2.9 口径(9.2) 底径 5.5	黒色粒・砂粒 含む	還元焰	にぶい 黄橙	底部から直線的に外傾する。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り。	2
3区102 号住居跡	第139図 - 1	須恵器 坏	床直 1/2	器高 4.0 口径(11.8) 底径(6.3)	白色粒多含	還元焰	灰	口縁部は僅かに内湾気味に立ち上がる。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り。	1
3区108 号住居跡	第143図 - 1	土師器 坏	埋土 完形	器高 4.5 口径 13.0 底径 6.5		還元焰	にぶい 橙	平底で口縁部は僅かに外反する。	1
	第143図 - 2	土師器 甕	床直 口縁~胴 部1/4	器高(9.8) 口径(18.4) 底径 —	赤色粒含む	還元焰	にぶい 褐	口縁部は「コ」字状が崩れている。口縁部・胴部内面は横撫で、胴部外面は斜方向の笕削り。	2
	第143図 - 3	須恵器 坏	埋土 1/8強	器高 3.8 口径(13.2) 底径(6.9)	白色・黒色粒 含む	還元焰	黄灰	口縁部は僅かに内湾気味に立ち上がる。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り。	3
	第143図 - 4	須恵器 碗	埋土 1/4弱	器高 7.0 口径(16.6) 底径(7.2)	砂粒含む	還元焰	灰黄	底部から直線的に外傾する。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り後、高台は貼り付け。	4
3区111 号住居跡	第146図 - 1	須恵器 碗	埋土 1/4弱	器高(6.6) 口径(15.6) 底径(7.4)	黒色粒含む	還元焰	浅黄	腰の張りが弱く、口縁部は僅かに外反する。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り後、高台は貼り付け。	1
	第146図 - 2	須恵器 羽釜	床直 口縁~胴 部上1/8	器高(10.3) 口径(26.4) 底径 —		還元焰	にぶい 黄	鈔は断面台形状で、貼り付け。最大径は胴部上半、鈔部は上方を向き、口縁部は内湾する。紐作り。轆轤整形。	2 最大径(30.6)
3区112 号住居跡	第147図 - 1	土師器 坏	埋土 底部	器高 — 口径 — 底径 —		還元焰	にぶい 黄橙	器形は不明。内面底部は螺旋状暗文。	1
	第147図 - 2	土師器 甕	竈埋土 口縁~胴 部上1/2	器高(9.0) 口径(20.2) 底径 —		還元焰	橙	典型的な「コ」字状口縁である。口縁部・胴部内面は横撫で、胴部外面は横~斜方向の笕削り。	2
	第147図 - 3	土師器 甕	竈埋土 底部1/2	器高(9.9) 口径 — 底径(4.1)	黒色・赤褐色 粒・角閃石含 む	還元焰	明赤褐	器形は不明。胴部内面は横撫で、外面は斜方向の笕削り。	3
3区116 号住居跡	第152図 - 1	土師器 坏	埋土 1/3	器高 3.8 口径(15.0) 底径 11.0	細砂粒・白色 粒・角閃石含 む	還元焰	明赤褐	平底で口縁部は強く外傾する。体部は笕削り、口縁部・器内面は横撫で。内面底部は「十」字の刻文、体部は放射状暗文。	1
	第152図 - 3	土師器 坏	埋土 1/8	器高(3.4) 口径(12.4) 底径 —	白色粒・角閃 石含む	還元焰	にぶい 赤褐	平底で、口縁部は強く外傾する。体部は笕削り、口縁部・器内面は横撫で。内面体部は放射状暗文。	3
	第152図 - 5	土師器 坏	埋土 1/4	器高(3.1) 口径(11.6) 底径(9.2)	角閃石含む	還元焰	にぶい 橙	平底気味で、口縁部は直線的に外反する。体部は笕削り、口縁部・器内面は横撫で。	5

出土位置	図版写真	種類器種	出土位置 残存状態	法 量 (cm)	胎 土	焼成	色調	成・整形技法等の特徴	備 考
	第152図 - 6	土師器 坏	埋土 体~底部 破片	器高 (2.9) 口径 — 底径 —	白色粒・角閃 石含む	酸化焰	橙	器形は不明。内面に布圧痕。	6
	第152図 - 7 第136図	土師器 甕	埋土 口縁~胴 部1/4	器高 (13.5) 口径 18.0 底径 —		酸化焰	にぶい 褐	典型的な「コ」字状口縁である。口縁部・胴部内面は横撫で、胴部外面は斜方向の笥削り。	7
3区119 号住居跡	第155図 - 1 第136図	土師器 坏	掘り方埋 土 2/3	器高 3.9 口径 12.2		酸化焰	橙	丸底で、口縁部は強い横撫でで直立する。体部は笥削り、口縁部・器内面は横撫で。	1
	第155図 - 2 第136図	土師器 坏	埋土 1/4	器高 (3.9) 口径 (12.0)		酸化焰	にぶい 橙	丸底で、口縁部は強い横撫でで直立する。体部は笥削り、口縁部・器内面は横撫で。	2
3区121 号住居跡	第156図 - 1 第136図	土師器 甕	掘り方埋 土	器高 (8.5) 口径 (24.8) 底径 —		酸化焰	にぶい 黄橙	口縁部は外形し、口唇部はやや内湾する。口縁部・胴部内面は横撫で、胴部外面は斜方向の笥削り。	1 口縁~頸部 1/6残存
3区127 号住居跡	第159図 - 1 第136図	緑釉 碗	埋土 底部破片	器高 (1.9) 口径 — 底径 (7.4)		還元焰	灰白	轆轤整形、回転方向不明。底部は丁寧な笥撫で、高台は貼付。内面に笥磨きが施されている。釉調は淡緑色。	1
3区129 号住居跡	第161図 - 1 第136図	須恵器 羽釜	床下土坑 埋土 口縁1/8	器高 (5.3) 口径 (22.8) 底径 —	白色粒含む	還元焰	にぶい 黄	鏝は断面翼状で、貼り付け。最大径は胴部上半、鏝部は上方を向き、口縁部は内湾する。紐作り。轆轤整形。	1 最大径 (26.8)
	第161図 - 2 第136図	灰釉 碗	床下土坑 埋土 1/4弱	器高 4.0 口径 (12.5) 底径 (6.3)	黒色・白色粒 含む	還元焰	灰白	轆轤整形、回転方向不明。高台貼付。施釉は漬け掛け、釉調は不透明な灰色。	2
3区130 号住居跡	第163図 - 1 第136図	土師器 坏	埋土 口縁破片	器高 (3.7) 口径 (19.6)		酸化焰	黄橙	丸底で、口縁部は僅かに内湾する。体部は笥削り、口縁部・器内面は横撫で。内面体部は放射状暗文。	1
	第163図 - 2 第136図	土師器 坏	床直 4/5	器高 4.1 口径 13.0 底径 7.0		酸化焰	にぶい 赤褐	口縁部は僅かに内湾する。体部は笥削り、口縁部・器内面は横撫で。	2
	第163図 - 3 第136図	須恵器 碗	埋土 ほぼ完形	器高 5.6 口径 14.3 底径 6.3	砂粒 (長石) 含む	還元焰	灰黄	腰の張りが弱く、口縁部は僅かに外反する。轆轤整形 (右回転)。底部は回転糸切り後、高台は貼り付け。	3
	第163図 - 4 第136図	須恵器 碗	竈埋土 1/2	器高 (5.4) 口径 (14.0) 底径 6.0	雲母・赤褐色 粒少含	還元焰	淡黄	底部から直線的に外傾する。轆轤整形 (右回転)。底部は回転糸切り後、高台は貼り付け。外面体部に「★」の墨書。	4
	第164図 - 5 第137図	土師器 甕	竈埋土 底部1/2	器高 — 口径 19.6 底径 3.3		酸化焰	にぶい 赤褐	典型的な「コ」字状口縁である。口縁部・胴部内面は横撫で、胴部外面上半斜方向、下半縦方向の笥削り。	5
	第163図 - 6 第137図	須恵器 甕	埋土 1/3	器高 (27.3) 口径 (28.5) 底径 —		還元焰	灰白	鏝は断面翼状で、貼り付け。最大径は口縁部、鏝部はやや下方を向き、口縁部は僅かに外反する。紐作り。轆轤整形。	6
	第163図 - 7 第137図	灰釉 碗	埋土 1/4	器高 3.5 口径 (14.8) 底径 6.8	白色・黒色粒 含む	還元焰	灰白	轆轤整形、回転方向右回り。底部回転笥調整、高台貼付。施釉は刷毛塗り、釉調は不透明な灰色。	7
3区131 号住居跡	第165図 - 1 第137図	土師器 坏	床直 完形	器高 3.6 口径 12.3		酸化焰	橙	丸底で外陵を有し、口縁部は外反する。体部は笥削り、口縁部・器内面は横撫で。	1
	第165図 - 2 第137図	土師器 坏	埋土 1/4	器高 (4.3) 口径 (11.1)		酸化焰	橙	丸底で、口縁部は「C」字状に内湾する。体部は笥削り、口縁部・器内面は横撫で。	2
3区131 号住居跡	第165図 - 3 第137図	土師器 坏	埋土 1/4	器高 (2.6) 口径 (12.1) 底径 (9.4)	白色粒含む	酸化焰	橙	平底で、口縁部は「く」字状に内湾する。体部は笥削り、口縁部・器内面は横撫で。	3
	第165図 - 4 第137図	土師器 甕	竈埋土 口縁~胴 部上1/2	器高 (14.7) 口径 (21.2) 底径 —		酸化焰	橙	口縁部は直線的に外反する。口縁部・胴部内面は横撫で、胴部外面の上半は横方向、下半は斜方向の笥削り。	4
	第165図 - 5 第137図	土師器 甕	床直 1/6弱	器高 (13.3) 口径 (21.2) 底径 —		酸化焰	にぶい 褐	口縁部は強く外反する。口縁部・胴部内面は横撫で、胴部外面は斜方向の笥削り。	5
	第165図 - 6 第137図	土師器 甕	床直 1/6弱	器高 (15.5) 口径 (21.8) 底径 —		酸化焰	赤褐	口縁部は外反する。口縁部・胴部内面は横撫で、胴部外面の上半は斜方向、下半は縦方向の笥削り。	6

出土位置	図版写真	種類器種	出土位置 残存状態	法 量 (cm)	胎 土	焼成	色調	成・整形技法等の特徴	備 考	
	第165図 - 7 第137図	土師器 甕	床直 口縁~胴 部1/8	器高(14.9) 口径(20.6) 底径 -	角閃石・雲母 白色粒・砂粒 含む	酸化焰	明赤褐	口縁部は僅かに外反する。口縁部・胴部内面は横撫で、 胴部外面の上半は斜方向、下半は縦方向の篋削り。	7	
	第166図 - 8 第137図	須恵器 坏	床直 ほぼ完形	器高 3.8 口径 12.2 底径 7.0	黒色粒多含	還元焰	灰	底部から直線的に外傾する。轆轤整形(右回転)。底部は 回転篋削り。	8	
	第166図 - 9 第137図	須恵器 坏	床直 3/4	器高 3.2 口径(12.1) 底径 6.8	黒色・白色粒 含む	還元焰	灰	口縁部は僅かに内湾気味に立ち上がる。轆轤整形(右回 転)。底部は回転糸切り。	9	
	3区132 号住居跡	第168図 - 1 第138図	須恵器 鍋	竈埋土 口縁~胴 部上1/6	器高(13.7) 口径(27.0) 底径 -	白色粒多含	還元焰	にぶい 黄橙	口縁部は僅かに内湾気味に立ち上がる。口唇部は横撫で、 体部は縦方向の篋削り後、横撫で。取手を持つ。	1
3区132 ・133号 住居跡	第168図 - 1 第138図	須恵器 椀	埋土 1/2	器高 6.2 口径(16.9) 底径 7.8	砂粒・黒色・ 白色・赤色粒 含む	酸化焰	明黄褐	底部から直線的に外傾する。轆轤整形(右回転)。底部は 回転糸切り。いわゆる足高台である。	1	
3区133 号住居跡	第169図 - 1 第138図	土師器 坏	床直 ほぼ完形	器高 3.2 口径 11.7	白色粒含む	酸化焰	橙	丸底で、口縁部は「C」字状に内湾する。体部は篋削り、 口縁部・器内面は横撫で。	1	
	第169図 - 2 第138図	須恵器 羽釜	埋土 口縁1/4	器高(8.4) 口径(19.4) 底径 -	砂粒含む	還元焰	灰黄	鈔は断面翼状で、貼り付け。最大径は胴部上半、鈔部は 上方を向き、口縁部は内湾する。紐作り。轆轤整形。	2 最大径(25.0)	
	第169図 - 3 第138図	須恵器 羽釜	埋土 口縁1/6	器高(11.7) 口径(20.0) 底径 -		還元焰	にぶい 赤褐	鈔は断面三角形で、貼り付け。最大径は胴部上半、鈔部 は上方を向き、口縁部は内湾する。紐作り。轆轤整形。	3 最大径(24.4)	
	第169図 - 4 第138図	須恵器 羽釜	床直 口縁1/6	器高(11.0) 口径(20.8) 底径 -	黒色・白色・ 角閃石含む	還元焰	にぶい 黄褐	鈔は断面台形状で、貼り付け。最大径は胴部上半、鈔部 は上方を向き、口縁部は内湾する。紐作り。轆轤整形。	4 最大径(23.5)	
	第169図 - 5 第138図	須恵器 甕	埋土 体~底部 破片	器高(4.6) 口径 - 底径(10.5)		還元焰	灰白	平底。紐作り。轆轤整形。	5	
	3区134 号住居跡	第169図 - 1 第138図	須恵器 坏	掘り方埋 土 3/4	器高 3.5 口径(12.6) 底径(6.6)	白色粒含む	中間焰	にぶい 黄橙	平底で、口縁部は強く外傾する。体部は篋削り、口縁部・ 器内面は横撫で。内面底部は螺旋状暗文。体部横方向の 細かい篋研磨。内面黒色処理。	1
		第169図 - 2 第138図	土師器 坏	埋土 1/4	器高(4.2) 口径(12.6) 底径(7.5)		酸化焰	褐	平底気味で、口縁部は湾曲気味に立ち上がる。体部は篋 削り、口縁部・器内面は横撫で。	2
		第169図 - 3 第138図	土師器 甕	埋土 口縁~胴 部上1/2	器高(15.5) 口径(19.0) 底径 -	砂粒含む	酸化焰	にぶい 黄橙	口縁部は「コ」字状が崩れている。口縁部・胴部内面は 横撫で、胴部外面上半斜方向、下半縦方向の篋削り。	3
第169図 - 4 第138図		土師器 甕	埋土 口縁1/2	器高(6.6) 口径(19.0) 底径 -		酸化焰	橙	典型的な「コ」字状口縁である。口縁部・胴部内面は横 撫で、胴部外面は斜方向の篋削り。	4	
第169図 - 5 第138図		土師器 台付甕	竈埋土 1/6	器高(11.9) 口径(13.4) 底径 -	角閃石含む	酸化焰	褐	口縁部は「コ」字状が崩れている。口縁部・胴部内面は 横撫で、胴部外面の上半は横~斜方向、下半は縦方向の 篋削り。	5	
第169図 - 6 第138図		土師器 台付甕	埋土 口縁~胴 部上1/4	器高(4.9) 口径(9.0) 底径 -		酸化焰	にぶい 橙	口縁部は「コ」字状が崩れている。口縁部・胴部内面は 横撫で。器面は磨滅。	6	
第169図 - 7 第138図		土師器 小型甕	埋土 1/2	器高 10.3 口径 - 底径 -		酸化焰	にぶい 褐	平底。口縁部・胴部内面は横撫で、胴部外面は縦方向の 篋削り。	7	
3区134 号住居跡	第169図 - 8 第138図	須恵器 皿	埋土 1/4弱	器高 3.0 口径(13.6) 底径(5.2)	石英・角閃 石?・黒色・ 白色粒含む	還元焰	灰白	腰の張りが弱く、口縁部は僅かに外反する。轆轤整形(右 回転)。底部は回転糸切り後、高台は貼り付け。	8	
	第169図 - 9 第138図	須恵器 坏	埋土 3/4	器高 3.9 口径(13.2) 底径 7.3	黒色粒含む	還元焰	灰白	口縁部は僅かに内湾気味に立ち上がる。轆轤整形(右回 転)。底部は回転糸切り。	9	
	第169図 - 10 第138図	須恵器 坏	竈埋土 3/4	器高 6.2 口径 14.4 底径 5.6		還元焰	灰白	腰の張りが弱く、口縁部は僅かに外反する。轆轤整形(右 回転)。底部は回転糸切り後、高台は貼り付け。	10	
	第169図 - 11 第138図	須恵器 皿	埋土 1/4弱	器高 2.8 口径(13.8) 底径(6.0)	石英・角閃石 赤色粒含む	酸化焰	橙	腰の張りが弱く、口縁部は僅かに外反する。轆轤整形(右 回転)。底部は回転糸切り後、高台は貼り付け。	11	

出土位置	図版 写真	種類 器種	出土位置 残存状態	法 量 (cm)	胎 土	焼成	色調	成・整形技法等の特徴	備 考
	第169図 - 12 第138図	須恵器 羽釜	埋土 底部～胴 部下1/4	器高 (6.8) 口径 — 底径 (6.8)	白色粒含む	酸化焰	暗灰黄	平底。紐作り。轆轤整形。	12
3 区136 号住居跡	第170図 - 2 第138図	土師器 坏	埋土 1/4強	器高 3.0 口径(12.3)		酸化焰	にぶい 褐	丸底で、口縁部は強い横撫でで直立する。体部は篋削り、口縁部・器内面は横撫で。	2
	第171図 - 3 第139図	土師器 甕	埋土 ほぼ完形	器高 26.6 口径 20.8 底径 4.0	白色粒含む	酸化焰	橙	口縁部は「コ」字状が崩れている。口縁部・胴部内面は横撫で、胴部外面の上半は横～斜方向、下半は縦方向の篋削り。	3
	第171図 - 4 第139図	土師器 甕	床直 底部欠損	器高(19.9) 口径 19.2 底径 —	白色・赤褐色 粒・角閃石含 む	酸化焰	にぶい 赤褐	典型的な「コ」字状口縁である。口縁部・胴部内面は横撫で、胴部外面の上半は横～斜方向、下半は縦方向の篋削り。	4
	第171図 - 5 第139図	土師器 甕	竈埋土 口縁～胴 部2/3	器高(22.0) 口径 21.6 底径 —	砂粒含む	酸化焰	にぶい 橙	口縁部は「コ」字状が崩れている。口縁部・胴部内面は横撫で、胴部外面の上半は横～斜方向、下半は縦方向の篋削り。	5
	第171図 - 6 第139図	土師器 甕	竈埋土 口縁～胴 部1/2	器高(10.4) 口径 19.8 底径 —		酸化焰	橙	口縁部は「コ」字状が崩れている。口縁部・胴部内面は横撫で、胴部外面は横方向の篋削り。	6
	第171図 - 7 第139図	土師器 甕	埋土 口縁1/3	器高 (9.9) 口径(21.0) 底径 —	角閃石含む	酸化焰	橙	口縁部は「コ」字状が崩れている。口縁部・胴部内面は横撫で、胴部外面の上半は横～斜方向、下半は縦方向の篋削り。	7
	第171図 - 9 第139図	土師器 台坏甕	竈埋土 3/4	器高 12.5 口径 11.4 底径 (4.8)	黒色粒含む	酸化焰	明褐	口縁部は「コ」字状が崩れている。口縁部・胴部内面は横撫で、胴部外面の上半は横～斜方向、下半は縦方向の篋削り。台部は横撫で。	9
	第171図 - 10 第139図	須恵器 皿	埋土 ほぼ完形	器高 4.3 口径 16.2 口径 4.0		還元焰	灰白	天井部から口縁部まで僅かに弓状に開く。整形は天井部回転篋削り、内面回転撫で。カエリを持たず、口縁部を折り曲げている。摘は輪状で、貼り付け。	10
	第171図 - 11 第139図	須恵器 坏	埋土 完形	器高 3.9 口径 12.6 底径 7.4		還元焰	灰	底部から直線的に外傾する。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り。	11
	第171図 - 12 第139図	須恵器 坏	埋土 ほぼ完形	器高 3.7 口径 11.6 底径 6.0		還元焰	灰	底部から直線的に外傾する。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り。	12
	第172図 - 13 第139図	須恵器 坏	床直 1/2	器高 3.7 口径 11.8 底径 6.8		還元焰	灰	底部から直線的に外傾する。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り。	13
	第172図 - 14 第139図	須恵器 坏	埋土 1/2	器高 3.8 口径(11.9) 底径 3.2		還元焰	灰	底部から直線的に外傾する。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り。	14
	第172図 - 15 第139図	須恵器 坏	埋土 1/2	器高 3.8 口径(11.6) 底径 (6.4)		還元焰	灰	口縁部は僅かに内湾気味に立ち上がる。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り。	15
	第172図 - 16 第139図	須恵器 坏	竈埋土 1/4	器高 4.1 口径(12.4) 底径 6.6		還元焰	灰	底部から直線的に外傾する。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り。	16
3 区136 号住居跡	第172図 - 17 第140図	須恵器 甕	竈埋土 口縁1/3	器高 (8.0) 口径(27.8) 底径 —	黒色粒含む	還元焰	灰	口唇部は折り返し。内外面自然袖付着。	17
2 区137 号住居跡	第174図 - 1 第140図	土師器 坏	埋土 1/4弱	器高 (2.8) 口径(11.8)	白色粒含む	酸化焰	明赤褐	丸底で、口縁部は僅かに内湾する。体部は篋削り、口縁部・器内面は横撫で。	1
2 区138 号住居跡	第174図 - 1 第140図	須恵器 羽釜	埋土 口縁～胴 部1/6	器高 (9.9) 口径(18.0) 底径 —	白色粒含む	還元焰	灰黄	鈔は断面翼状で、貼り付け。最大径は胴部上半、鈔部は上方を向き、口縁部は内湾する。紐作り。轆轤整形。	1 最大径(23.0)
	第174図 - 2 第140図	須恵器 把手付 椀	埋土 把手のみ	器高 — 口径 — 底径 —		還元焰	灰	椀(コップ形?)の把手と考えられる。	2
2 区139 号住居跡	第174図 - 1 第140図	須恵器 羽釜	埋土 口縁1/8	器高 (5.5) 口径(23.3) 底径 —	砂粒含む	還元焰	灰	鈔は断面翼状で、貼り付け。最大径は胴部上半、鈔部は上方を向き、口縁部は内湾する。紐作り。轆轤整形。	1 最大径(27.0)
2 区140 号住居跡	第176図 - 1 第140図	土師器 甕	床直 体～底部 破片	器高 (6.3) 口径 — 底径(15.9)	片岩含む	酸化焰	明赤褐	平底。紐作り。轆轤整形。	1

出土位置	図版 写真	種類 器種	出土位置 残存状態	法 量 (cm)	胎 土	焼成	色調	成・整形技法等の特徴	備 考
2区141 号住居跡	第176図 - 1 第140図	須恵器 椀	埋土 高台部	器高 (2.0) 口径 — 底径 6.4	白色粒・砂粒 含む	酸化焰	にぶい 橙	器形は不明。内面底部細かい寛研磨。轆轤整形(右回転)。 底部は回転糸切り後、高台は貼り付け。	1
	第176図 - 2 第140図	須恵器 坏	埋土 1/2	器高 4.0 口径(11.6) 底径 7.0		還元焰	灰	口縁部は僅かに内湾気味に立ち上がる。轆轤整形(右回 転)。底部は回転糸切り。	2
	第176図 - 3 第140図	灰釉 手付瓶	埋土 把手下部 のみ	器高 — 口径 — 底径 —		還元焰	灰白	手付瓶の把手。寛削り、施釉方法不明。	3
2区145 号住居跡	第178図 - 1 第140図	須恵器 甕	床直 口縁1/6	器高 (6.0) 口径(17.0) 底径 —	白色粒含む	還元焰	灰黄褐	口縁部は直線的に外傾する。紐作り。轆轤整形。	1
2区146 号住居跡	第179図 - 1 第140図	須恵器 坏	床直 1/4	器高 3.4 口径(13.6) 底径 (7.0)		還元焰	灰	腰の張りが弱く、口縁部は僅かに外反する。轆轤整形(右 回転)。底部は回転糸切り。	1
2区148 号住居跡	第182図 - 1 第140図	須恵器 蓋	埋土 ほぼ完形	器高 4.0 口径 7.0 摘径 2.2		還元焰	灰	蓋の天井部端部に凸帯及び、罫を有する上野型短頸壺蓋。 自然釉付着。	1
2区149 号住居跡	第183図 - 1 第140図	土師器 坏	竈埋土 1/4弱	器高 (3.7) 口径(11.7)	角閃石・雲母 少含	酸化焰	橙	丸底で、口縁部は僅かに外反する。体部は寛削り、口縁 部・器内面は横撫で。	1
	第183図 - 2 第140図	土師器 甕	竈埋土 口縁1/4	器高 (5.9) 口径(19.4) 底径 —	白色粒含む	酸化焰	橙	口縁部は「コ」字状が崩れている。口縁部・胴部内面は 横撫で、胴部外面は横方向の寛削り。	2
2区150 号住居跡	第184図 - 1 第140図	土師器 甕	掘り方埋 土 口縁1/6	器高 (5.0) 口径(20.7) 底径 —	赤色・黒色粒 含む	酸化焰	橙	典型的な「コ」字状口縁である。口縁部・胴部内面は横 撫で、胴部外面は横方向の寛削り。	1
	第184図 - 2 第140図	須恵器 甕	埋土 口縁破片	器高 (3.0) 口径(35.0) 底径 —		還元焰	灰	口縁部は外反し、口唇部は直立する。	2
2区151 号住居跡	第185図 - 1 第140図	土師器 坏	柱穴埋土 1/2強	器高 2.9 口径(11.4) 底径 —	角閃石・雲母 黒色粒含む	酸化焰	にぶい 橙	平底で、口縁部は強く外傾する。体部は寛削り、口縁部・ 器内面は横撫で。	1
	第185図 - 2 第140図	土師器 甕	掘り方埋 土 口縁 1/8弱	器高 (7.0) 口径(16.2) 底径 —	白色粒含む	酸化焰	にぶい 橙	典型的な「コ」字状口縁である。口縁部・胴部内面は横 撫で、胴部外面は横方向の寛削り。	2
	第185図 - 3 第140図	須恵器 甕	掘り方埋 土 口縁1/2	器高 (4.2) 口径 (9.0) 底径 —	白色粒含む	酸化焰	黒褐	口縁部は直線的に外傾する。口縁部・胴部内外面は寛撫 で。	3
	第185図 - 4 第140図	須恵器 坏	掘り方埋 土 1/2	器高 3.7 口径(13.0) 底径 (5.8)		還元焰	灰白	口縁部は僅かに内湾気味に立ち上がる。轆轤整形(右回 転)。底部は回転糸切り。口縁部に漆付着。	4
2区151 号住居跡	第185図 - 5 第140図	須恵器 坏	埋土 1/4	器高 4.1 口径(14.6) 底径 (8.0)		還元焰	灰白	腰の張りが弱く、口縁部は僅かに外反する。轆轤整形(右 回転)。底部は回転糸切り。	5
	第185図 - 6 第140図	須恵器 坏	掘り方埋 土 1/4弱	器高 5.6 口径(14.6) 底径 (8.0)		還元焰	灰白	腰の張りが弱く、口縁部は僅かに外反する。轆轤整形(右 回転)。底部は回転糸切り後、高台は貼り付け。	6
	第185図 - 7 第140図	須恵器 皿	掘り方埋 土 完形	器高 2.8 口径 12.0 底径 7.2		還元焰	灰	口縁部は直線的に外反する。轆轤整形(右回転)。底部は 回転糸切り後、高台は貼り付け。	7
2区152 号住居跡	第186図 - 1 第141図	土師器 甕	貯蔵穴埋 土	器高 (7.3) 口径(24.2) 底径 —	角閃石・雲母 白色・黒色粒 含む	酸化焰	明赤褐	口縁部は直立し、肉厚である。口縁部・胴部内面は横撫 で。	1 口縁～胴部上 1/8弱
	第186図 - 2 第141図	土師器 甕	貯蔵穴埋 土 底部1/2	器高 (4.9) 口径 — 底径(11.8)	砂粒含む	酸化焰	赤褐	平底。外面は斜方向の寛削り。	2
2区153 号住居跡	第187図 - 1 第141図	土師器 坏	掘り方埋 土 1/4	器高 (2.8) 口径(11.6)		酸化焰	橙	丸底で、口縁部は強い横撫でで直立する。体部は寛削り、 口縁部・器内面は横撫で。	1
	第187図 - 2 第141図	土師器 坏	掘り方埋 土 1/4弱	器高 (3.3) 口径(12.6)	角閃石含む	酸化焰	にぶい 橙	丸底で、口縁部は強い横撫でで直立する。体部は寛削り、 口縁部・器内面は横撫で。	2

出土位置	図版 写真	種類 器種	出土位置 残存状態	法 量 (cm)	胎 土	焼成	色調	成・整形技法等の特徴	備 考
	第187図 - 3 第141図	須恵器 蓋	掘り方埋 土 完形	器高 1.9 口径 9.8 底径 —		還元焰	灰白	天井部から口縁部まで直線的に開く。整形は天井部回転 削り、内面回転撫で。カエリを持たず、口縁部を折り 曲げている。摘は疑宝珠状で、貼り付け。	3
2区156 号住居跡	第189図 - 1 第141図	須恵器 坏	埋土 口縁~底 部1/2	器高 1.8 口径 (9.4) 底径 5.1	小粒子含む	還元焰	褐灰	口縁部は僅かに内湾気味に立ち上がる。轆轤整形 (右回 転)。底部は静止糸切り。	1
	第189図 - 2 第141図	須恵器 甕 頸~体部 破片	埋土 口径 — 底径 —	器高 (7.1)	白色粒含む	還元焰	灰	紐作り。轆轤整形。	2
2区157 号住居跡	第191図 - 1 第141図	土師器 甕	埋土 口縁1/4	器高 (6.2) 口径 (19.7) 底径 —	白色・赤褐色 粒・角閃石含 む	酸化焰	橙	口縁部は僅かに外傾する。口縁部・胴部内面は横撫で、 胴部外面は横方向の笥削り。	1
	第191図 - 2 第141図	土師器 甕	床直 口縁~胴 部1/4	器高 (12.6) 口径 (21.5) 底径 —	角閃石含む	酸化焰	明赤褐	口縁部は直線的に外傾する。口縁部・胴部内面は横撫で、 胴部外面は横~斜方向の笥削り。	2
	第191図 - 3 第141図	須恵器 坏	埋土 ほぼ完形	器高 3.3 口径 12.3 底径 7.1	粒子含む	還元焰	灰	底部から直線的に外傾する。轆轤整形 (右回転)。底部は 回転糸切り。	3
2区158 号住居跡	第191図 - 1 第141図	須恵器 羽釜	掘り方埋 土 口縁1/8	器高 (7.5) 口径 (17.8) 底径 —	白色粒含む	還元焰	暗灰黄	銜は断面翼状で、貼り付け。最大径は胴部上半、銜部は 上方を向き、口縁部は内湾する。紐作り。轆轤整形。	1 最大径 (24.0)
2区159 号住居跡	第193図 - 1 第141図	土師器 蓋	掘り方埋 土 1/2強	器高 (1.6) 口径 (10.6) 摘径 —	赤褐色・白色 黒色粒含む	酸化焰	明黄褐	天井部から口縁部まで僅かに弓状に開く。整形は天井部 回転削り、内面回転撫で。カエリを持たず、口縁部を 折り曲げている。摘は不明。	1
	第193図 - 2 第141図	須恵器 坏	掘り方埋 土 完形	器高 3.1 口径 10.2 底径 5.5	小石含む	酸化焰	にぶい 橙	腰の張りが弱く、口縁部は僅かに外反する。轆轤整形 (右 回転)。底部は回転糸切り。	2
	第193図 - 3 第141図	須恵器 坏	床直 3/4	器高 2.4 口径 9.7 底径 5.0	黒色粒含む	酸化焰	浅黄	口縁部は僅かに内湾気味に立ち上がる。轆轤整形 (右回 転)。底部は静止糸切り。	3
	第193図 - 4 第141図	須恵器 碗	竈埋土 3/4	器高 4.9 口径 10.0 底径 5.7	赤色粒含む	酸化焰	にぶい 黄橙	口縁部はやや内湾気味に直立する。轆轤整形 (右回転)。4 底部は回転糸切り後、高台は貼り付け。	4
	第193図 - 5 第141図	須恵器 碗	竈埋土 1/4	器高 6.4 口径 15.1 底径 7.9	赤色粒含む	酸化焰	橙	腰の張りが弱く、口縁部は僅かに外反する。轆轤整形 (右 回転)。底部は回転糸切り後、高台は貼り付け。	5
	第193図 - 6 第141図	須恵器 碗	掘り方埋 土 2/3	器高 (5.0) 口径 — 底径 8.7	白色粒含む	還元焰	黄褐	器形は不明。轆轤整形 (右回転)。底部は回転糸切り後、 高台は貼り付け。内面黒色処理。	6
2区159 号住居跡	第193図 - 7 第141図	須恵器 小皿	掘り方埋 土 3/4	器高 2.5 口径 9.1 底径 5.0	白色粒含む	酸化焰	灰白	口縁部は僅かに内湾気味に立ち上がる。轆轤整形 (右回 転)。底部は回転糸切り後、高台は貼り付け。内面黒色処 理。	7
	第193図 - 8 第141図	須恵器 碗	掘り方埋 土	器高 (5.8) 口径 — 底径 (12.1)	黒色粒含む	還元焰	灰	器形は不明。轆轤整形 (右回転)。底部は回転削り後、 高台は貼り付け。	8 底~胴部下 1/2残存
	第194図 - 10 第141図	土製品 羽口	掘り方埋 土 一端欠損	長さ (7.0) 外径 7.5 内径 2.3				先端部に溶解物が付着している。外面は縦方向の強い笥 撫でで整形。酸化・中性・還元の様子が認められる。	10
2区160 号住居跡	第196図 - 1 第141図	土師器 坏	床直 3/4強	器高 (3.4) 口径 12.5 底径 9.0		酸化焰	橙	平底で、口縁部は強く外傾する。体部に型の痕跡。底部 は笥削り、口縁部・器内面は横撫で。	1
	第196図 - 2 第141図	土師器 坏	埋土 1/4	器高 (4.3) 口径 (13.6)		酸化焰	橙	丸底で、口縁部は僅かに内湾する。体部は笥削り、口縁 部・器内面は横撫で。	2
	第196図 - 3 第141図	須恵器 坏	埋土 1/2	器高 3.5 口径 9.9 底径 4.3	黒色粒含む	酸化焰	にぶい 黄	腰の張りが弱く、口縁部は僅かに外反する。轆轤整形 (右 回転)。底部は回転糸切り。	3
	第196図 - 4 第141図	須恵器 碗	埋土 3/4強	器高 5.6 口径 13.7 底径 (5.6)		還元焰	灰黄褐	腰の張りが弱く、口縁部は僅かに外反する。轆轤整形 (右 回転)。底部は回転糸切り後、高台は貼り付け。	4
	第196図 - 5 第142図	須恵器 坏	埋土 ほぼ完形	器高 2.9 口径 13.2 底径 7.2	黒色粒含む	還元焰	灰	底部から直線的に外傾する。轆轤整形 (右回転)。底部は 回転糸切り。	5

出土位置	図版写真	種類 器種	出土位置 残存状態	法 量 (cm)	胎 土	焼成	色調	成・整形技法等の特徴	備 考
	第196図 - 6	須恵器 坏	掘り方埋 土 ほぼ完形	器高 3.2 口径 12.0 底径 7.3	黒色粒多含、 白色粒微含	還元焰	灰	口縁部は僅かに内湾気味に立ち上がる。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り。	6
	第196図 - 7	須恵器 皿	埋土 ほぼ完形	器高 3.0 口径 13.5 底径 8.0	黒色粒含む	還元焰	灰	口縁部は直線的に外反する。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り後、高台は貼り付け。	7
2区161 号住居跡	第199図 - 1	土師器 坏	掘り方埋 土 3/4弱	器高 3.6 口径 12.4	角閃石・雲母 白色・黒色粒 含む	酸化焰	橙	丸底で、口縁部は強い横撫でで直立する。体部は篋削り、口縁部・器内面は横撫で。	1
	第199図 - 2	土師器 坏	埋土 1/5強	器高 4.1 口径(12.8)	角閃石・雲母 白色粒含む	酸化焰	橙	丸底で口縁部は湾曲気味に立ち上がる。体部は篋削り、口縁部・器内面は横撫で。	2
	第199図 - 3	須恵器 坏	床下土坑 埋土 3/4	器高 3.4 口径 11.3 底径 4.6		酸化焰	橙	口縁部は僅かに内湾気味に立ち上がる。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り。	3
	第199図 - 4	須恵器 坏	貯蔵穴埋 土 完形	器高 3.5 口径 10.0 底径 5.6		還元焰	灰黄	口縁部は僅かに内湾気味に立ち上がる。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り。	4
	第199図 - 5	須恵器 坏	埋土 ほぼ完形	器高 3.8 口径 10.5 底径 5.0	黒色粒含む	還元焰	灰黄	口縁部は僅かに内湾気味に立ち上がる。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り。	5
	第199図 - 6	須恵器 坏	貯蔵穴埋 土 1/2	器高 3.9 口径(11.0) 底径(5.6)		還元焰	灰黄黒	口縁部は僅かに内湾気味に立ち上がる。轆轤整形(右回転)。底部は回転篋削り。	6
	第199図 - 7	須恵器 坏	床直 1/2弱	器高 3.5 口径(10.4) 底径(6.6)		還元焰	灰黄	口縁部は僅かに内湾気味に立ち上がる。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り。	7
	第199図 - 8	須恵器 坏	掘り方埋 土 1/3	器高 2.9 口径(9.9) 底径(5.2)		還元焰	灰白	口縁部は僅かに内湾気味に立ち上がる。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り。	8
	第199図 - 9	須恵器 碗	貯蔵穴埋 土 1/4弱	器高 5.8 口径(13.7) 底径(6.9)		還元焰	にぶい 黄橙	口縁部は僅かに内湾気味に立ち上がる。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り後、高台は貼り付け。	9
	第199図 - 10	須恵器 羽釜	床直 口縁へ胴 部1/4	器高(23.4) 口径 19.8 底径 —	赤色粒含む	還元焰	にぶい 黄橙	鏝は断面翼状で、貼り付け。最大径は胴部上半、鏝部は上方を向き、口縁部は内湾する。紐作り。轆轤整形。鏝部直下から縦方向に篋削り。	10 最大径(23.8)
2区161 号住居跡	第199図 - 11	須恵器 坏	床下土坑 埋土 1/4	器高 3.6 口径(10.7) 底径(5.3)		還元焰	灰白	底部から直線的に外傾する。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り。口縁部に漆付着。	11
	第199図 - 12	須恵器 壺(瓶)	貯蔵穴埋 土 底部	器高 4.0 口径 — 底径 6.0		還元焰	灰白	器形は不明。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り後、高台は貼り付け。外面体部、内面底部に自然釉付着。	12
	第199図 - 13	須恵器 把手付 碗	柱穴埋土 把手のみ	器高 — 口径 — 底径 —		還元焰	灰	器形は不明。把手の一部。	13
	第199図 - 14	灰釉 碗	床下土坑 埋土 1/8強	器高 5.0 口径(14.3) 底径(6.8)		還元焰	灰白	轆轤整形、回転方向右回りか、高台貼付。内面見込み部に重ね焼き痕。施釉は漬け掛け、釉調は不透明な灰白色。	14
	第199図 - 15	灰釉 皿	掘り方埋 土 1/2弱	器高 2.7 口径(12.9) 底径(6.6)		還元焰	灰黄	轆轤整形、回転方向右回り、底部回転篋調整。高台貼付。施釉は漬け掛け、釉調は不透明な灰白色。	15
2区162 号住居跡	第201図 - 1	須恵器 羽釜	埋土 口縁1/8	器高(7.1) 口径(18.7) 底径 —		還元焰		鏝は断面翼状で、貼り付け。最大径は胴部上半、鏝部は上方を向き、口縁部は内湾する。紐作り。轆轤整形。	1 最大径(23.0)
2区163 号住居跡	第202図 - 1	須恵器 坏	掘り方埋 土 1/4強	器高 4.2 口径(10.5) 底径(5.8)		還元焰	灰白	口縁部は僅かに内湾気味に立ち上がる。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り。	1
2区164 号住居跡	第203図 - 1	須恵器 坏	竈埋土 完形	器高 2.8 口径 9.7 底径 5.0		還元焰	にぶい 黄橙	底部から直線的に外傾する。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り。口縁部と内面に漆付着。	1
	第203図 - 2	須恵器 坏	貯蔵穴埋 土 完形	器高 3.4 口径 9.2 底径 5.0		還元焰	灰黄	口縁部は僅かに内湾気味に立ち上がる。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り。	2

出土位置	図版 写真	種類 器種	出土位置 残存状態	法 量 (cm)	胎 土	焼成	色調	成・整形技法等の特徴	備 考
2区165 号住居跡	第203図 - 3 第142図	須恵器 坏	埋土 1/4	器高 3.4 口径(12.7) 底径(6.7)		還元焰	黄灰	口縁部は僅かに内湾気味に立ち上がる。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り。	3
	第203図 - 4 第142図	須恵器 坏	床直 底部1/4	器高 4.2 口径(10.0) 底径(4.0)		還元焰	オリーブ 黒	口縁部は僅かに内湾気味に立ち上がる。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り。	4
	第203図 - 5 第142図	須恵器 椀	竈埋土 1/2	器高(5.2) 口径(14.2) 底径 —		酸化焰	橙	腰の張りが弱く、口縁部は僅かに外反する。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り後、高台は貼り付け。	5
	第204図 - 6 第143図	須恵器	掘り方埋 土 高台部	器高(4.7) 口径 — 底径(11.8)		酸化焰	にぶい 橙	器形は不明。轆轤成形。台部内外面横撫で。いわゆる足高台である。	6
	第204図 - 7 第143図	須恵器 甕	竈埋土 体~底部 破片	器高(9.0) 口径 — 底径(8.0)	白色粒含む	還元焰	暗灰黄	平底。紐作り。轆轤整形。	7
	第204図 - 8 第143図	須恵器 羽釜	竈埋土 口縁部~ 1/4	器高 22.3 口径(26.2) 底径 —	黒色粒含む	還元焰	浅黄橙	鈹は断面翼状で、貼り付け。鈹部は水平で最大径、口縁部は内傾する。紐作り。轆轤整形。	8 最大径(31.4)
2区165 号住居跡	第208図 - 1 第143図	須恵器 坏	床直 完形	器高 4.0 口径 12.7 底径 5.8	粗砂粒	還元焰	灰	腰の張りが弱く、口縁部は僅かに外反する。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り。内面口縁部に漆付着。	1
	第208図 - 2 第143図	須恵器 坏	床直 完形	器高 4.0 口径 11.6 底径 5.3	小礫多含	還元焰	黒	口縁部は僅かに内湾気味に立ち上がる。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り。	2
	第208図 - 3 第143図	須恵器 坏	竈周辺埋 土 ほぼ完形	器高 3.9 口径 11.8 底径 5.7		還元焰	にぶい 黄橙	腰の張りが弱く、口縁部は僅かに外反する。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り。内面に漆付着。	3
	第208図 - 4 第143図	須恵器 坏	床直 3/4	器高 3.5 口径 10.9 底径 6.1	小礫多含	還元焰	灰 オ リーブ 黒	底部から直線的に外傾する。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り。	4
	第208図 - 5 第143図	須恵器 坏	床直 1/4	器高 3.8 口径(11.1) 底径(6.1)	赤色粒含む	還元焰	灰黄褐	底部から直線的に外傾する。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り。	5
2区165 号住居跡	第208図 - 6 第143図	須恵器 椀	竈埋土 3/4	器高 5.7 口径 13.0 底径 5.8		還元焰	灰黄	底部から直線的に外傾する。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り後、高台は貼り付け。内面底部中央に漆付着。	6
	第208図 - 7 第143図	須恵器 椀	埋土 1/2	器高 5.2 口径(9.8) 底径 6.3		還元焰	褐灰	口縁部はやや内湾気味に直立する。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り後、高台は貼り付け。内面に漆付着。	7
	第208図 - 8 第143図	須恵器 椀	床直 1/4	器高 4.6 口径(14.0) 底径(7.0)	小礫多含	還元焰	灰	腰の張りが弱く、口縁部は僅かに外反する。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り後、高台は貼り付け。	8
	第208図 - 9 第143図	須恵器 椀	埋土 1/4	器高 5.2 口径(13.0) 底径 6.0	小礫多含	還元焰	にぶい 黄橙	腰の張りが弱く、口縁部は僅かに外反する。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り後、高台は貼り付け。	9
	第208図 - 10 第143図	須恵器 椀	埋土 1/4	器高 5.9 口径(12.5) 底径(5.9)	黒色粒含む	還元焰	灰白	腰の張りが弱く、口縁部は僅かに外反する。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り後、高台は貼り付け。	10
	第208図 - 11 第143図	須恵器 長頸壺	床直 底部~胴 部1/4	器高(10.4) 口径 — 底径(7.6)	白色・赤褐色 粒含む	酸化焰	橙	紐作り。轆轤整形。	11
	第208図 - 12 第143図	須恵器 羽釜	埋土 底部1/4	器高(6.6) 口径 — 底径(7.6)		還元焰	褐灰	平底。外面は縦方向の笥削り。	12
	第208図 - 13 第143図	須恵器 坏	埋土 3/4弱	器高 3.0 口径(12.0) 底径 6.4		還元焰	灰	底部から直線的に外傾する。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り。	13
	第208図 - 14 第143図	須恵器 甕	床直 底~胴部 下1/3弱	器高(9.2) 口径 — 底径(14.7)	小礫多含	還元焰	灰	平底。紐作り。轆轤整形。	14
	第208図 - 15 第143図	灰釉 輪花段 皿	埋土 1/8	器高 3.0 口径(15.8) 底径(7.3)		還元焰	灰白	轆轤整形、回転方向不明。高台貼付。施釉は刷毛塗りか。釉調は不透明な灰色。	15

出土位置	図版 写真	種類 器種	出土位置 残存状態	法 量 (cm)	胎 土	焼成	色調	成・整形技法等の特徴	備 考	
2区167 号住居跡	第211図 - 1 第144図	土師器 坏	床直 6/7	器高 3.4 口径 12.6	細砂粒、白色 粒含む	酸化焰	橙	丸底で、口縁部は僅かに内湾する。体部は篋削り、口縁部・器内面は横撫で。内面底部は螺旋状暗文、体部は放射状暗文。	1	
	第211図 - 2 第144図	須恵器 坏	埋土 1/4	器高 4.8 口径(13.4) 底径 6.7	赤色粒含む	還元焰	にぶい 橙	底部から直線的に外傾する。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り。	2	
	第211図 - 3 第144図	須恵器 坏	埋土 1/4	器高 3.1 口径(10.1) 底径 (5.3)	赤色粒含む	還元焰	にぶい 黄橙	腰の張りが弱く、口縁部は僅かに外反する。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り。	3	
	第211図 - 4 第144図	土師器 坏	床直 1/6	器高 (2.5) 口径(12.8)		酸化焰	橙	丸底で、口縁部は強い横撫でで直立する。体部は篋削り、口縁部・器内面は横撫で。	4	
	第211図 - 5 第144図	土師器 坏	埋土 1/8	器高 3.2 口径(11.8)		酸化焰	橙	丸底で口縁部は湾曲気味に立ち上がる。体部は篋削り、口縁部・器内面は横撫で。	5	
	第211図 - 7 第144図	須恵器 坏	埋土 1/4	器高 (4.8) 口径(12.9) 底径 (7.6)	黒色粒含む	還元焰	灰	口縁部は僅かに内湾気味に立ち上がる。轆轤整形(右回転)。底部は回転篋削り。	7	
	第211図 - 8 第144図	須恵器 坏	埋土 1/8	器高 3.5 口径(10.4) 底径 (6.6)		還元焰	灰 褐灰	口縁部は僅かに内湾気味に立ち上がる。轆轤整形(右回転)。底部は回転篋削り。	8	
	第211図 - 9 第144図	須恵器 坏	埋土 1/4強	器高 3.8 口径(12.0) 底径 (7.7)	黒色粒含む	還元焰	灰	口縁部は僅かに内湾気味に立ち上がる。轆轤整形(右回転)。底部は回転篋削り。口縁部に漆付着。	9	
	2区168 号住居跡	第209図 - 1 第144図	土師器 坏	竈内埋土 完形	器高 3.6 口径 12.0 底径 6.4	白色粒含む 赤色粒少含	酸化焰	橙	平底で、口縁部は強く外傾する。体部は篋削り、口縁部・器内面は横撫で。	1
第209図 - 2 第144図		土師器 坏	埋土 4/5	器高 3.3 口径 12.0 底径 8.5		酸化焰	橙	平底で、口縁部は強く外傾する。体部は篋削り、口縁部・器内面は横撫で。	2	
2区168 号住居跡	第209図 - 3 第144図	土師器 坏	竈内埋土 1/4	器高 3.0 口径(12.0) 底径 (8.0)	白色粒含む	酸化焰	にぶい 橙	平底で、口縁部は強く外傾する。体部は篋削り、口縁部・器内面は横撫で。	3	
	第209図 - 4 第144図	土師器 坏	埋土 1/4弱	器高 (2.8) 口径(14.0) 底径(10.7)	白色粒少含	酸化焰	にぶい 橙	平底で口縁部は湾曲気味に立ち上がる。体部は篋削り、口縁部・器内面は横撫で。	4	
	第209図 - 5 第144図	土師器 坏	埋土 1/4	器高 2.7 口径(12.0) 底径 (8.0)	黒色粒含む	酸化焰	にぶい 橙	平底で口縁部は湾曲気味に立ち上がる。体部は篋削り、口縁部・器内面は横撫で。	5	
	第209図 - 6 第144図	土師器 小型甕	床直 口縁~頸部 1/4	器高 (5.1) 口径(12.8) 底径 —	赤色粒含む	酸化焰	にぶい 赤褐	典型的な「コ」字状口縁である。口縁部・胴部内面は横撫で、胴部外面は横方向の篋削り。	6	
	第209図 - 7 第144図	須恵器 坏	埋土 3/4	器高 4.3 口径 10.9 底径 5.4	赤褐色・白色 粒少含	中間焰	にぶい 黄橙	腰の張りが弱く、口縁部は僅かに外反する。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り。内面底部に漆付着。	7	
	第209図 - 8 第144図	須恵器 坏	床直 1/2	器高 3.3 口径(12.4) 底径 7.2	白色粒含む	還元焰	灰	底部から直線的に外傾する。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り。	8	
	第209図 - 9 第144図	須恵器 坏	竈埋土 1/2弱	器高 3.4 口径(13.0) 底径 (7.0)	白色粒多含	還元焰	灰	底部から直線的に外傾する。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り。	9	
	第209図 - 10 第144図	須恵器 坏	床直 1/8	器高 3.7 口径(13.9) 底径 (8.6)		還元焰	灰	底部から直線的に外傾する。轆轤整形(右回転)。底部は回転篋削り。	10	
	2区170 号住居跡	第215図 - 1 第144図	土師器 坏	竈付近埋 土 2/3	器高 4.9 口径 14.9	砂粒含む	酸化焰	橙	丸底で、口縁部は「C」字状に内湾する。体部は篋削り、口縁部・器内面は横撫で。	1
		第215図 - 2 第144図	土師器 坏	竈付近埋 土 1/3	器高 5.1 口径(14.0)		酸化焰	にぶい 橙	丸底で、口縁部は「C」字状に内湾する。体部は篋削り、口縁部・器内面は横撫で。	2
第215図 - 3 第144図		土師器 甕	埋土 口縁1/4	器高 (5.4) 口径(19.7) 底径 —	白色・黒色・ 赤褐色粒・角 閃石含む	酸化焰	橙	口縁部は「く」字状に強く外反する。口縁部・胴部内面は横撫で、胴部外面は斜方向の篋削り。	3	

出土位置	図版 写真	種類 器種	出土位置 残存状態	法 量 (cm)	胎 土	焼成	色調	成・整形技法等の特徴	備 考
	第215図 - 4 第144図	土師器 甕	埋土 底部1/3	器高 (6.3) 口径 — 底径 (6.0)		酸化焰	橙	器形は不明。胴部内面は横撫で、外面は斜方向の笥削り。	4
	第215図 - 5 第145図	須恵器 椀	埋土 (住居外) 1/4	器高 5.9 口径 (14.6) 底径 6.5	白色粒含む	還元焰	浅黄	腰の張りが強く、口縁部は強く外反する。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り後、高台は貼付け。	5
	第215図 - 6 第145図	須恵器 甕	埋土 頸~体部 破片	器高 — 口径 — 底径 —	白色粒含む	還元焰	灰	器形は不明。	6
	第216図 - 7 第145図	土製品 埴塼	埋土 破片	器高 (4.9) 口径 2.3	赤褐色粒含む	酸化焰	にぶい 黄橙	器形は不明。内面に金属の付着物。	7
	2区171 号住居跡	第217図 - 1 第145図	土師器 坏	掘り方埋 土 2/3	器高 3.8 口径 13.2 底径 8.6	細砂粒白色 粒・礫含む	酸化焰	橙	平底で、口縁部は強く外傾する。体部は笥削り、口縁部・器内面は横撫で。
第217図 - 2 第145図		土師器 坏	床直 3/4	器高 3.3 口径 11.4 底径 7.8	砂粒含む	酸化焰	にぶい 褐	平底で、口縁部は強く外傾する。体部は笥削り、口縁部・器内面は横撫で。	2
第217図 - 3 第145図		土師器 坏	埋土 1/5	器高 2.9 口径 (12.1) 底径 (9.0)	砂粒含む	酸化焰	橙	平底で、口縁部は強く外傾する。体部は笥削り、口縁部・器内面は横撫で。内面底部は「+」字の刻文体部は放射状刻み暗文。	3
2区172 号住居跡	第197図 - 1 第145図	須恵器 坏	埋土 1/2強	器高 3.7 口径 12.3 底径 6.4	白色粒含む	還元焰	灰	腰の張りが弱く、口縁部は僅かに外反する。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り。片口を持つ。	1
	第197図 - 2 第145図	須恵器 高台付 坏	埋土 1/3	器高 4.9 口径 (14.0) 底径 (6.4)	白色粒含む	還元焰	灰	腰の張りが弱く、口縁部は僅かに外反する。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り後、高台は貼り付け。外面に刻文。	2
2区173 号住居跡	第219図 - 1 第145図	須恵器 椀	埋土 7/8	器高 4.1 口径 14.2 底径 —	白色粒含む	還元焰	にぶい 橙	腰の張りが弱く、口縁部は僅かに外反する。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り後、高台は貼り付け。	1
	第219図 - 2 第145図	須恵器 坏	貯蔵穴内 埋土 1/4	器高 3.6 口径 (10.8) 底径 (5.2)		還元焰	灰白	腰の張りが弱く、口縁部は僅かに外反する。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り。内面に漆付着。	2
	第219図 - 3 第145図	須恵器 椀	埋土 1/4	器高 4.3 口径 (12.1) 底径 6.0	白色粒含む 赤色粒僅含	酸化焰	にぶい 橙	腰の張りが弱く、口縁部は僅かに外反する。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り後、高台は貼り付け。	3
	第219図 - 4 第145図	須恵器 椀	埋土 1/4	器高 4.5 口径 (13.2) 底径 5.8	白色粒含む	還元焰	にぶい 黄橙	底部から直線的に外傾する。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り後、高台は貼り付け。	4
	第219図 - 5 第145図	須恵器 椀	埋土 2/3	器高 5.2 口径 11.6 底径 6.2	赤褐色粒含む	還元焰	にぶい 黄	口縁部はやや内湾気味に直立する。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り後、高台は貼り付け。	5
	第219図 - 6 第145図	須恵器 椀	埋土 1/3	器高 4.6 口径 (12.8) 底径 (5.0)	白色粒含む	還元焰	黒褐	腰の張りが弱く、口縁部は僅かに外反する。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り後、高台は貼り付け。	6
	2区175 号住居跡	第216図 - 1 第145図	土師器 甕	埋土 底部	器高 (3.4) 口径 — 底径 6.0	白色・黒色粒 雲母含む	酸化焰	褐	器形は不明。胴部外面は横方向の笥削り、内面は横撫で。
第216図 - 2 第145図		須恵器 椀	埋土 1/4	器高 5.8 口径 (13.4) 底径 (6.4)	白色粒含む	還元焰	暗灰黄	底部から直線的に外傾する。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り後、高台は貼り付け。	2
第216図 - 3 第145図		須恵器 椀	埋土 1/4	器高 (4.8) 口径 — 底径 5.8	白色粒含む	還元焰	にぶい 黄橙	轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り後、高台は貼り付け。	3
第216図 - 4 第145図		須恵器 椀	埋土 3/4	器高 (3.4) 口径 12.4 底径 —	黒色粒含む	還元焰	灰白	底部から直線的に外傾する。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り後、高台は貼り付け。内面に漆付着。	4
第216図 - 5 第145図		須恵器 羽釜	埋土 口縁1/8	器高 (4.7) 口径 (16.4) 底径 —		酸化焰	橙	鏝は断面翼状で、貼り付け。最大径は胴部上半、鏝部は上方を向き、口縁部は内湾する。紐作り。轆轤整形。	5 最大径(23.4)
第216図 - 6 第145図		須恵器 甕	埋土 頸~体部 破片	器高 (5.1) 口径 — 底径 —	酸化鉄含む	還元焰	灰	器形は不明。紐作り轆轤成形。胴部外面平行叩き。内面当て具は不明瞭。	6

出土位置	図版 写真	種類 器種	出土位置 残存状態	法 量 (cm)	胎 土	焼成 色調	成・整形技法等の特徴	備 考
	第216図 - 7 第145図	須恵器	埋土 把手のみ	器高 — 口径 — 底径 —		還元焰 灰	器形は不明。把手の一部。	7
	第216図 - 8 第145図	灰釉 皿	埋土 1/4弱	器高 3.7 口径(16.4) 底径 (8.0)		還元焰 灰白	轆轤整形、回転方向右回り、高台貼付。施釉は口縁部と底部の一部に刷毛塗り。釉調は半透明な緑灰色	8
2区176 号住居跡	第220図 - 1 第145図	須恵器 椀	床直 1/5	器高 5.3 口径(14.4) 底径 7.2	白色粒含む	還元焰 灰	底部から直線的に外傾する。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り後、高台は貼り付け。	1
2区177 号住居跡	第221図 - 1 第145図	土師器 甕	掘り方埋 土 口縁1/4	器高(4.6) 口径(18.2) 底径 —	白色粒含む	酸化焰 橙	典型的な「コ」字状口縁である。典型的な「コ」字状口縁である。口縁部・胴部内面は横撫で、胴部外面は縦方向の筥削り。	1
	第221図 - 2 第146図	須恵器 皿	掘り方埋 土 2/3	器高 3.2 口径(14.0) 底径 (7.0)		還元焰 灰白	口縁部は僅かに内湾気味に立ち上がる。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り後、高台は貼り付け。	2
	第221図 - 3 第146図	須恵器 高台付 椀	埋土 1/5	器高(5.2) 口径(18.0) 底径 —	白色粒含む	還元焰 灰	腰の張りが弱く、口縁部は僅かに外反する。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り後、高台は貼り付け。	3
2区178 号住居跡	第223図 - 1 第146図	土師器 坏	埋土 完形	器高 3.5 口径 11.9 底径 8.1	白色粒少含	酸化焰 橙	平底で口縁部は湾曲気味に立ち上がる。体部は筥削り、口縁部・器内面は横撫で。口縁部漆付着。	1
	第223図 - 2 第146図	土師器 坏	埋土 3/4	器高 3.7 口径 12.0 底径 8.2		酸化焰 明褐	平底で口縁部は湾曲気味に立ち上がる。体部は横撫で、口縁部・器内面は横撫で。	2
2区178 号住居跡	第223図 - 3 第146図	土師器 坏	埋土 1/5	器高 3.0 口径(12.6)		酸化焰 におい 橙	丸底で、口縁部は強い横撫でで直立する。体部は筥削り、口縁部・器内面は横撫で。	3
	第223図 - 4 第146図	土師器 坏	掘り方埋 土 1/4強	器高 2.8 口径(11.2) 底径 (6.2)		酸化焰 褐	平底で、口縁部は僅かに内湾する。体部は筥削り、口縁部・器内面は横撫で。	4
	第223図 - 5 第146図	土師器 坏	埋土 1/4	器高 2.9 口径(13.7) 底径 (8.8)		酸化焰 褐	平底で口縁部は湾曲気味に立ち上がる。体部は横撫で、口縁部・器内面は横撫で。	5
	第223図 - 6 第146図	土師器 坏	埋土 1/4	器高 3.3 口径(11.8)		酸化焰 明褐	丸底で、口縁部は僅かに内湾する。体部は筥削り、口縁部・器内面は横撫で。	6
	第223図 - 7 第146図	土師器 坏	埋土 1/4	器高 2.5 口径(10.8)		酸化焰 におい 赤褐	丸底で、口縁部は僅かに内湾する。体部は筥削り、口縁部・器内面は横撫で。	7
	第223図 - 8 第146図	土師器 坏	埋土 1/6	器高(2.7) 口径(13.0) 底径 (9.2)		酸化焰 橙	平底気味で、口縁部は僅かに内湾する。内面に漆付着。	8
	第223図 - 9 第146図	土師器 坏	掘り方埋 土 口縁1/6	器高(2.6) 口径(12.6)	黒色粒含む	酸化焰 におい 黄褐	丸底で口縁部は湾曲気味に立ち上がる。体部は横撫で、口縁部・器内面は横撫で。	9
	第223図 - 10 第146図	土師器 甕	埋土 口縁1/8	器高(7.1) 口径(21.0) 底径 —	磁鉄鉱含む	酸化焰 におい 橙	典型的な「コ」字状口縁である。口縁部・胴部内面は横撫で、胴部外面は横方向の筥削り。	10
	第223図 - 11 第146図	土師器 甕	埋土 口縁1/6	器高(7.1) 口径(22.3) 底径 —	砂粒含む	酸化焰 黄橙	典型的な「コ」字状口縁である。口縁部・胴部内面は横撫で、胴部外面は斜方向の筥削り。	11
	第223図 - 12 第146図	須恵器 蓋	埋土 1/2	器高 3.4 口径 16.7 摘径 4.2	黒色粒多含	還元焰 灰	天井部から口縁部まで直線的に開く。整形は天井部回転筥削り、内面回転撫で。カエリを持たず、口縁部を折り曲げている。摘は輪状で、貼り付け。	12
第223図 - 13 第146図	須恵器 坏	埋土 口縁~胴 部1/2	器高(3.5) 口径(12.7) 底径 (7.9)		還元焰 灰	腰の張りが弱く、口縁部は僅かに外反する。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り。	13	
第223図 - 14 第146図	須恵器 坏	埋土 2/3	器高 3.4 口径(13.0) 底径 7.0	砂礫多含	還元焰 灰	腰の張りが弱く、口縁部は僅かに外反する。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り。口縁部に漆付着	14	
第223図 - 15 第146図	須恵器 坏	埋土 2/3	器高 3.4 口径(12.0) 底径 6.8		還元焰 褐灰	腰の張りが弱く、口縁部は僅かに外反する。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り。	15	

出土位置	図版写真	種類器種	出土位置 残存状態	法量 (cm)	胎土	焼成	色調	成・整形技法等の特徴	備考
2区179号住居跡	第223図 - 16 第146図	須恵器 坏	埋土 1/2弱	器高 3.4 口径(13.0) 底径(7.0)	黒色粒多含	還元焰	灰	腰の張りが弱く、口縁部は僅かに外反する。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り。	16
	第223図 - 17 第146図	須恵器 碗	埋土 2/3	器高 6.6 口径(16.0) 底径 8.4		還元焰	灰	腰の張りが弱く、口縁部は僅かに外反する。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り後、高台は貼り付け。	17
	第223図 - 18 第146図	須恵器 碗	埋土 1/2	器高 6.7 口径(17.5) 底径 9.6		還元焰	灰白	腰の張りが弱く、口縁部は僅かに外反する。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り後、高台は貼り付け。	18
	第223図 - 19 第146図	須恵器 碗	埋土 1/2	器高 6.9 口径(14.4) 底径 8.2	白色粒多含	還元焰	黄灰	腰の張りが弱く、口縁部は僅かに外反する。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り後、高台は貼り付け。	19
	第224図 - 20 第146図	須恵器 碗	埋土 1/3	器高 5.8 口径(14.0) 底径(7.1)		還元焰	灰	腰の張りが弱く、口縁部は僅かに外反する。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り後、高台は貼り付け。	20
	第224図 - 21 第146図	須恵器 皿	埋土 1/3	器高 3.6 口径(13.6) 底径 6.8		還元焰	灰	腰の張りが弱く、口縁部は僅かに外反する。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り後、高台は貼り付け。	21
	第224図 - 22 第146図	須恵器 皿	埋土 1/3	器高 2.9 口径(13.2) 底径(7.0)		還元焰	灰	腰の張りが弱く、口縁部は僅かに外反する。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り後、高台は貼り付け。	22
2区180号住居跡	第201図 - 1 第147図	須恵器 甕	竈埋土 底部1/3	器高(11.9) 口径 — 底径(20.2)		還元焰	灰 白 ～にぶ い橙	紐作り。轆轤整形。	1
2区181号住居跡	第205図 - 1 第146図	須恵器 羽釜	掘り方貯 蔵穴内埋 土	器高(23.3) 口径(27.8) 底径 —		還元焰	灰	鈿は断面三角形で貼り付け。鈿部は水平で最大径、口縁部は僅かに外傾する。紐作り。轆轤整形。	1 口縁～胴部 上1/3残存 最大径(29.8)
	第205図 - 2 第147図	須恵器 羽釜	掘り方貯 蔵穴内埋 土	器高(11.4) 口径(30.8) 底径 —		還元焰	灰黄	鈿は断面三角形で貼り付け。鈿部は水平で最大径、口縁部は僅かに外傾する。紐作り。轆轤整形。	2 口縁～胴部 上1/4弱残存 最大径(31.0)
	第205図 - 3 第147図	須恵器 碗	掘り方埋 土 口縁1/3	器高(3.0) 口径(12.0) 底径 —	黒色粒含む	還元焰	灰	腰の張りが弱く、口縁部は僅かに外反する。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り?。	3
2区183号住居跡	第225図 - 1 第147図	土師器 坏	床直 1/6	器高 4.0 口径(14.5)		酸化焰	にぶ い橙	丸底で、口縁部は僅かに内湾する。体部は篋削り、口縁部・器内面は横撫で。	1
	第225図 - 2 第147図	土師器 坏	埋土 1/2強	器高 3.8 口径(11.6) 底径(4.4)		酸化焰	橙	平底で、口縁部は僅かに内湾する。体部は篋削り、口縁部・器内面は横撫で。	2
	第225図 - 3 第147図	土師器 坏	掘り方埋 土 1/4	器高 3.8 口径(11.4) 底径 5.0	白色粒・砂粒 含む	酸化焰	にぶ い橙	平底で、口縁部は僅かに内湾する。体部は篋削り、口縁部・器内面は横撫で。	3
	第225図 - 4 第147図	須恵器 坏	床直 3/4	器高 3.5 口径 12.8 底径 7.0	白色粒含む	還元焰	灰	底部から直線的に外傾する。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り。	4
	第225図 - 5 第147図	須恵器 坏	埋土 3/4	器高 3.0 口径 12.6 底径 8.0		還元焰	灰	口縁部は僅かに内湾気味に立ち上がる。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り。	5
2区183号住居跡	第228図 - 1 第147図	土師器 坏	床直 4/5	器高 7.2 口径 18.5	細砂粒 白色・褐色粒 含む	酸化焰	にぶ い橙	大型で、丸底で、口縁部は僅かに内湾する。体部は篋削り、口縁部・器内面は横撫で。内面底部は螺旋状暗文、体部は斜格子状暗文。	1
	第228図 - 2 第147図	土師器 坏	埋土 1/4弱	器高(2.3) 口径(14.9)	黒色粒含む	酸化焰	にぶ い橙	丸底で、口縁部は強い横撫でで直立する。体部は篋削り、口縁部・器内面は横撫で。	2
	第228図 - 3 第147図	土師器 坏	埋土 1/4	器高 2.3 口径(15.8)		酸化焰	にぶ い橙	丸底で、口縁部は強い横撫でで直立する。体部は篋削り、口縁部・器内面は横撫で。	3
	第228図 - 4 第147図	土師器 甕	埋土 口縁～頸 部1/4	器高(6.0) 口径(15.6) 底径 —		酸化焰	にぶ い褐	口縁部は「く」字状に強く外反する。口縁部・胴部内面は横撫で、胴部外面は縦方向の篋削り	4
	第228図 - 5 第147図	須恵器 坏	埋土 ほぼ完形	器高 3.6 口径 12.7 底径 9.8	黒色・白色粒 含む	還元焰	灰白	平底ぎみで、口縁部は外反する。体部は篋削り、口縁部・器内面は横撫で。	5

出土位置	図版 写真	種類 器種	出土位置 残存状態	法 量 (cm)	胎 土	焼成	色調	成・整形技法等の特徴	備 考
2区185 号住居跡	第231図 - 1 第148図	土師器 坏	埋土 1/3	器高 (4.8) 口径 (14.8)	細砂粒・白色 粒・小礫・褐色 鉄物粒含む	酸化焰	橙	丸底で口縁部は直線的に外傾する。体部は篋削り、口縁部・器内面は横撫で。内面底部に螺旋状暗文、体部に放射状暗文。	1
	第231図 - 2 第148図	須恵器 羽釜	埋土 底～胴部 上1/2	器高 (7.9) 口径 (21.0) 底径 —	白色粒含む	酸化焰	橙	鑊は断面台形状で、貼り付け。最大径は胴部上半、鑊部は上方を向き、口縁部は内湾する紐作り。轆轤整形。	2 最大径 (24.8)
	第231図 - 3 第148図	須恵器 坏	埋土 1/4	器高 3.8 口径 (15.8) 底径 (10.9)	黒色粒含む	還元焰	灰白	腰の張りが弱く、口縁部は僅かに外反する。轆轤整形 (右回転)。底部は回転篋削り。削り出し高台。	3
2区187 号住居跡	第234図 - 1 第148図	土師器 坏	竈埋土 3/4	器高 3.7 口径 12.6	砂粒含む	酸化焰	橙	丸底で、口縁部は「C」字状に内湾する。体部は篋削り、口縁部・器内面は横撫で。	1
	第234図 - 2 第148図	土師器 坏	埋土 1/4	器高 (3.5) 口径 (12.7)	黒色粒含む	酸化焰	にぶい 橙	丸底で、口縁部は「C」字状に内湾する。体部は篋削り、口縁部・器内面は横撫で。	2
	第234図 - 3 第148図	須恵器 坏	埋土 1/4	器高 2.2 口径 (9.6) 底径 (5.0)		中間焰	淡黄	口縁部は僅かに内湾気味に立ち上がる。轆轤整形 (右回転)。底部は回転糸切り。	3
2区187 号住居跡	第234図 - 4 第148図	須恵器 椀	埋土 1/4	器高 6.5 口径 (14.0) 底径 8.0	白色粒含む	還元焰	灰白	底部から直線的に外傾する。轆轤整形 (右回転)。底部は回転糸切り後、高台は貼り付け。	4
	第234図 - 5 第148図	須恵器 甕	埋土 底部1/2	器高 (11.0) 口径 — 底径 13.0		還元焰	灰	平底。紐作り。轆轤整形。	5
2区188 号住居跡	第234図 - 1 第148図	土師器 坏	埋土 口縁1/8	器高 (2.6) 口径 (11.8)		酸化焰	にぶい 黄褐	丸底で、口縁部は僅かに内湾する。体部は篋削り、口縁部・器内面は横撫で。	1
	第234図 - 2 第148図	須恵器 蓋	埋土 4/5	器高 3.5 口径 (13.8) 摘径 3.9	黒色粒含む	還元焰	灰白	天井部から口縁部まで僅かに弓状に開く。整形は天井部回転篋削り、内面回転撫で。カエリを持たず、口縁部を折り曲げている。摘は輪状で、貼り付け。	2
2区190 号住居跡	第235図 - 1 第148図	須恵器 羽釜	埋土 口縁1/8	器高 (5.8) 口径 (20.0) 底径 —	黒色・赤色粒 含む	酸化焰	明黄褐	鑊は断面翼状で、貼り付け。鑊部は水平で最大径、口縁部は内傾する。紐作り。轆轤整形。	1 最大径 (22.8)
2区2号 掘立柱建 物	第239図 - 1 第148図	土師器 坏	埋土 1/4強	器高 (3.1) 口径 (13.2)	白色粒・角閃 石含む	酸化焰	橙	丸底で、口縁部は強い横撫で直立する。体部は篋削り、口縁部・器内面は横撫で。	1
	第239図 - 2 第148図	須恵器 蓋	埋土 1/5	器高 3.5 口径 (15.8) 摘径 2.8		還元焰	灰白	整形は天井部回転篋削り、内面は回転撫で。カエリを持たず、口縁部を折り曲げている。摘は疑宝珠状で、貼り付け。	2
	第239図 - 3 第148図	須恵器 坏	埋土 1/2	器高 3.7 口径 (13.2) 底径 (7.6)	黒色粒含む	還元焰	灰	口縁部は僅かに内湾気味に立ち上がる。轆轤整形 (右回転)。底部は回転篋削り。	3
2区4号 掘立柱建 物	第241図 - 1 第148図	土師器 坏	埋土 1/6	器高 3.0 口径 (12.5)	白色粒・砂粒 含む	酸化焰	橙	丸底で、口縁部は僅かに内湾する。体部は篋削り、口縁部・器内面は横撫で。	1
2区6号 掘立柱建 物	第243図 - 1 第148図	須恵器 椀	埋土 1/2	器高 4.7 口径 11.8 底径 6.8	白色・赤褐色 粒含む	中間焰	にぶい 黄橙灰	口縁部は僅かに内湾気味に立ち上がる。轆轤整形 (右回転)。底部は回転糸切り後、高台は貼り付け。	1
1区1号 溝	第249図 - 1 第148図	土師器 坏	埋土 口縁～体 部破片	器高 (5.5) 口径 (17.6)		酸化焰	にぶい 橙	丸底で、口縁部は僅かに内湾する。体部は篋削り、口縁部・器内面は横撫で。	1
1区3号 溝	第249図 - 1 第148図	須恵器 羽釜	埋土 口縁部 1/10	器高 (7.0) 口径 (21.4) 底径 —	白色粒含む	還元焰	灰黄	鑊は断面翼状で、貼り付け。最大径は胴部上半、鑊部は上方を向き、口縁部は内湾する。紐作り。轆轤整形。	1 最大径 (25.0)
1区7号 溝	第253図 - 1 第148図	須恵器 坏	埋土 2/3	器高 3.1 口径 (9.8) 底径 5.2	黒色粒・砂粒 含む	酸化焰	にぶい 黄橙	腰の張りが弱く、口縁部は僅かに外反する。轆轤整形 (右回転)。底部は回転糸切り。	1
2・3区 16号溝	第255図 - 1 第148図	須恵器 坏	埋土 1/4	器高 3.7 口径 (12.0) 底径 (6.7)		還元焰	灰黄	口縁部は僅かに内湾気味に立ち上がる。体部は篋削り、口縁部・器内面は横撫で。	1
	第255図 - 2 第148図	須恵器 坏	埋土 1/4	器高 (2.7) 口径 (13.2) 底径 (8.6)	磁鉄鉱含む	還元焰	灰	腰の張りが弱く、口縁部は僅かに外反する。轆轤整形 (右回転)。底部は回転糸切り。	2

出土位置	図版 写真	種類 器種	出土位置 残存状態	法 量 (cm)	胎 土	焼成	色調	成・整形技法等の特徴	備 考
	第255図 - 3	緑釉 椀	埋土 口縁破片	器高 — 口径 — 底径 —		還元焰	緑灰	内面に陰刻花文。	3
2区19号 溝	第255図 - 1 第149図	須恵器 高台付 椀	埋土 1/3弱	器高 (4.4) 口径 (12.8) 底径 —	雲母・黒色・ 白色粒含む	還元焰	灰白	口縁部は直線的に外反する。轆轤整形(右回転)。底部は 回転糸切り後、高台は貼り付け。	1
2区21号 溝	第255図 - 1 第149図	土師器 坏	埋土 1/4	器高 3.5 口径 (14.0) 底径 (7.6)	石英含む	酸化焰	褐	平底で、口縁部は強く外傾する。体部は篋削り、口縁部・ 器内面は横撫で。内面底部螺旋状暗文、体部放射状暗文。	1
	第255図 - 2 第149図	土師器 甕	埋土 口縁~体 部破片	器高 (8.3) 口径 (24.9) 底径 —	石英含む	酸化焰	赤褐	口縁部は僅かに外傾する。口縁部・胴部内面は横撫で、 胴部外面は縦方向の篋削り。	2
	第255図 - 3 第149図	須恵器 坏	埋土 1/4	器高 3.2 口径 (12.1) 底径 (7.0)	砂粒含む	還元焰	灰	平底で、口縁部は強く外傾する。体部は篋削り、口縁部・ 器内面は横撫で。	3
2区32号 溝	第252図 - 1 第149図	土師器 甕	埋土 1/6	器高 (3.2) 口径 (14.0) 底径 —	赤色・白色粒 含む	酸化焰	明赤褐	口縁部は直線的に外傾する。体部は篋削り、口縁部・器 内面は横撫で。	1
2区33号 溝	第254図 - 1 第149図	須恵器 坏	埋土 1/8弱	器高 4.0 口径 (12.4) 底径 (7.6)	白色粒含む	還元焰	灰	腰の張りが弱く、口縁部は僅かに外反する。轆轤整形(右 回転)。底部は回転糸切り。	1
	第254図 - 2 第149図	須恵器 椀	埋土 1/8	器高 5.3 口径 (12.4) 底径 (6.4)		還元焰	オリ ブ黒	腰の張りが弱く、口縁部は僅かに外反する。轆轤整形(右 回転)。高台は貼付け。	2
	第254図 - 3 第149図	須恵器 甕	埋土 体~底部 破片	器高 (6.3) 口径 — 底径 (9.2)		還元焰	灰	平底。胴部外面平行叩き。内面は横撫で。	3
3区25号 溝	第251図 - 1 第149図	須恵器 蓋	埋土 1/2	器高 3.6 口径 18.2 摘径 3.6	白色粒含む	還元焰	灰	薄手で天井部から口縁部まで僅かに弓状に開く。整形は 天井部回転篋削り、内面は回転撫で。カエリを下方に折 り返す。摘はボタン状で貼付け。	1
3区53号 溝	第255図 - 1 第149図	土師器 甕	埋土 口縁~体 部破片	器高 (7.0) 口径 (17.0) 底径 —	黒色・赤褐色 粒含む	酸化焰	明黄褐	折り返し口縁。隆帯上に指による指圧後横撫で。胴部外 面は横方向の篋削り後撫で、内面は横方向の篋撫で。	1 縄文か?
3区54号 溝	第255図 - 1 第149図	須恵器 鉢	埋土 口縁~体 部破片	器高 (9.2) 口径 (34.0) 底径 —	砂粒含む	還元焰	灰	紐作り。轆轤整形(右回転)。口縁部は内湾気味に立ち上 がる。口唇部は平坦で、端部下に断面三角形の凸帯が一 条まわる。	1
3区55号 溝	第255図 - 1 第149図	須恵器 坏	埋土 1/8弱	器高 (2.0) 口径 (10.3) 底径 (7.0)	黒色・赤色粒 含む	酸化焰	にふい 黄橙	底部から直線的に外傾する。轆轤整形(右回転)。底部は 回転糸切り。	1
	第255図 - 2 第149図	須恵器 椀	埋土 1/3強	器高 3.3 口径 (9.4) 底径 4.2	黒色・白色粒 雲母含む	中間焰	浅黄橙	口縁部は僅かに内湾気味に立ち上がる。轆轤整形 (右回 転)。底部は回転糸切り後、高台は貼り付け。内面は細か い篋研磨。	2
	第255図 - 3 第149図	須恵器 坏	埋土 1/4弱	器高 (4.0) 口径 (12.5) 底径 (8.0)	白色粒少含 (磁鉄鉱?)	還元焰	灰	底部から直線的に外傾する。轆轤整形(右回転)。底部は 回転糸切り。	3
	第255図 - 4 第149図	土師器 脚付土 器	埋土 脚部のみ	器高 — 口径 — 底径 —		酸化焰	にふい 橙	篋削りにより八角形を作り出している。土器の器形は不 明だが、おそらくは罌付か。	4
1区3号 土坑	第256図 - 1 第149図	須恵器 羽釜	埋土 口縁1/8	器高 (6.4) 口径 (18.3) 底径 —	黒色粒含む	酸化	にふい 橙	罌は断面翼状で、貼り付け。最大径は胴部上半、罌部は 上方を向き、口縁部は内湾する紐作り。轆轤整形。	1 最大径(23.2)
1区7号 土坑	第256図 - 1 第149図	須恵器 甕	埋土 頸~体部 破片	器高 (7.5) 口径 — 底径 —	黒色粒含む	還元焰	灰	紐作り。轆轤整形。胴部外面は工具による調整。内面は 横撫で。	1
2区17号 土坑	第259図 - 1 第149図	土師器 鉢?	埋土 片口部	器高 — 口径 — 底径 —		酸化焰	橙	器形は不明。胴部外面は縦方向の篋削り。	1
	第259図 - 2 第150図	須恵器 羽釜	埋土 口縁破片	器高 (6.5) 口径 (22.6) 底径 —	砂粒含む	還元焰	黄灰	罌は断面台形状で、貼り付け。最大径は胴部上半、罌部 は上方を向き、口縁部は内湾する。紐作り。轆轤整形。	2 最大径(24.6)
2区33号 土坑	第260図 - 1 第150図	土師器 坏	埋土 1/8弱	器高 (1.7) 口径 (5.2)				丸底で、体部から口縁部まで丸く内湾する。体部は浅く 器肉は非常に薄手である。底部は一方向の体部~口唇部 までは横方向の細かい篋研磨。内面は丁寧な横撫で。	1 畿内産土器 把手付き

出土位置	図版写真	種類器種	出土位置残存状態	法量 (cm)	胎土	焼成	色調	成・整形技法等の特徴	備考
	第260図 - 2 第150図	土師器 - 2 坏	埋土 口縁~体 部破片	器高 (3.9) 口径 (13.6) 底径 (7.6)	白色粒含む	酸化焰	橙	平底で、口縁部は強く外傾する。体部は篋削り、口縁部・器内面は横撫で。	2
3区35号 土坑	第260図 - 1 第150図	土師器 - 1 坏	埋土 1/8弱	器高 (2.5) 口径 (13.7)	砂粒含む	酸化焰	橙	丸底で、口縁部は強い横撫で直立する。体部は篋削り、口縁部・器内面は横撫で。	1
	第260図 - 2 第150図	土師器 - 2 小型甕	埋土 底部1/2	器高 (5.6) 口径 — 底径 6.0		酸化焰	橙	器形は不明。	2
	第260図 - 3 第150図	土師器 - 3 甕	埋土 口縁~胴 部1/6	器高 (12.9) 口径 (21.6) 底径 —	黒色粒・角閃 石含む	酸化焰	橙	口縁部は「く」字状に強く外反する。口縁部・胴部内面は横撫で、胴部外面は斜方向の篋削り。	3
3区35号 土坑	第260図 - 4 第150図	土師器 - 4 甕	埋土 口縁1/3	器高 (8.6) 口径 (18.0) 底径 —	白色・黒色粒 含む	酸化焰	橙	口縁部は直線的に外傾する。口縁部・胴部内面は横撫で、胴部外面は縦方向の篋削り	4
2区103 号土坑	第264図 - 1 第150図	土師器 - 1 坏	埋土 1/6	器高 (3.0) 口径 (12.8)		酸化焰	橙	丸底で、口縁部は強い横撫で直立する。体部は篋削り、口縁部・器内面は横撫で。	1
2区157 号土坑	第266図 - 1 第150図	須恵器 - 1 坏	埋土 1/2	器高 3.8 口径 10.7 底径 4.9	砂粒含む	還元焰	明黄褐	腰の張りが弱く、口縁部は僅かに外反する。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り。	1
2区172 号土坑	第267図 - 2 第150図	須恵器 - 2 椀	埋土 1/2	器高 4.9 口径 (13.8) 底径 7.8	黒色粒含む	還元焰	灰黄	底部から直線的に外傾する。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り後、高台は貼り付け。	2
2区176 号土坑	第267図 - 1 第150図	須恵器 - 1 甕	埋土 口縁1/10	器高 (10.9) 口径 (27.8) 底径 —	赤褐色粒含む	還元焰	黒 灰黄褐	有段口縁。紐作り。轆轤整形。	1
3区182 号土坑	第268図 - 1 第150図	土師器 - 1 甕	埋土 口縁~体 部破片	器高 (7.5) 口径 (22.1) 底径 —	砂粒含む	酸化焰	にぶい 褐	典型的な「コ」字状口縁である。口縁部・胴部内面は横撫で、胴部外面は斜方向の篋削り。	1
2区185 号土坑	第268図 - 1	緑釉 - 1 皿	埋土 体部破片	器高 — 口径 — 底径 —		還元焰		内面に陰刻花文。	1
2区193 号土坑	第270図 - 1 第150図	須恵器 - 1 坏	埋土 1/4	器高 3.9 口径 (12.8) 底径 (8.0)	黒色粒含む	還元焰	灰	口縁部は僅かに内湾気味に立ち上がる。轆轤整形(右回転)。底部は回転篋削り。	1
2区194 号土坑	第270図 - 1 第150図	土師器 - 1 甕	埋土 口縁~体 部1/8	器高 (11.0) 口径 (19.8) 底径 —		酸化焰	にぶい 赤褐	典型的な「コ」字状口縁である。上半斜方向、下半縦方向の篋削り。	1
	第270図 - 2 第150図	須恵器 - 2 不明	埋土 底部	器高 (9.6) 口径 — 底径 —	石英・白色粒 含む	還元焰	灰白	器形は不明。紐作り。轆轤整形。	2
2区198 ・199号 土坑	第271図 - 1 第150図	須恵器 - 1 坏	埋土 ほぼ完形	器高 3.4 口径 11.8 底径 6.1	白色粒含む	還元焰	灰	口縁部は僅かに内湾気味に立ち上がる。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り。	1
2区200 号土坑	第271図 - 1 第151図	須恵器 - 1 羽釜	埋土 口縁1/8	器高 (6.9) 口径 (22.8) 底径 —	砂粒含む	還元焰	にぶい 橙	鐙は断面台形状で、貼り付け。最大径は口縁部で鐙部は水平。口縁部は外反する。紐作り。轆轤整形。	1 最大径 (24.0)
	第271図 - 2 第151図	須恵器 - 2 瓦塔	埋土 屋蓋部分	長さ (4.9) 高さ (2.6)				隅降棟と飛檐垂木、地垂木は削り出し、丸瓦は工具による刻みなどで表現している。	2
2区202 号土坑	第271図 - 1 第151図	土師器 - 1 坏	埋土 1/2弱	器高 3.3 口径 (10.7)	角閃石含む	酸化焰	橙	丸底で口縁部は直線的に外傾する。体部は篋削り、口縁部・器内面は横撫で。	1
	第271図 - 2 第151図	須恵器 - 2 坏	埋土 1/4	器高 (3.7) 口径 12.4 底径 (6.0)		中間焰	にぶい 黄橙	口縁部は僅かに内湾気味に立ち上がる。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り。	2
	第271図 - 3 第151図	灰釉 - 3 手付水 注	埋土 注口部	長さ 4.3		還元焰		水注瓶、注口片。篋削りによる面が残る。施釉方法不明。釉調は透明感のある緑灰色。	3
2区205 号土坑	第270図 - 1 第151図	須恵器 - 1 坏	埋土 1/4弱	器高 (2.7) 口径 11.0		酸化焰	にぶい 褐	丸底で口縁部は湾曲気味に立ち上がる。体部は篋削り、口縁部・器内面は横撫で。	1

出土位置	図版写真	種類器種	出土位置 残存状態	法量 (cm)	胎土	焼成	色調	成・整形技法等の特徴	備考
	第270図 - 2 第151図	須恵器 坏	埋土 1/6弱	器高 (3.5) 口径 (12.8) 底径 (7.3)	白色粒含む	還元焰	灰黄	底部から直線的に外傾する。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り。	2
	第270図 - 3 第151図	須恵器 椀	埋土 1/4	器高 5.2 口径 (13.2) 底径 (7.2)		還元焰	明赤褐	腰の張りが弱く、口縁部は僅かに外反する。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り後、高台は貼り付け。	3
2区248号土坑	第274図 - 1 第151図	須恵器 坏	埋土 完形	器高 3.5 口径 11.1 底径 5.0		酸化焰	橙	腰の張りが強く、口縁部は強く外反する。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り。	1
1区10号ピット	第275図 - 1 第151図	土師器 椀	埋土 ほぼ完形	器高 (4.7) 口径 13.0 底径 —		還元焰	灰白	腰の張りが弱く、口縁部は僅かに外反する。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り後、高台は貼り付け。	1
1区1号井戸	第277図 - 1 第151図	須恵器 坏	埋土 2/3強	器高 2.4 口径 (8.4) 底径 5.6		中間焰	浅黄橙	底部から直線的に外傾する。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り。	1
2区146H-25	第283図 - 1 第151図	須恵器 坏	埋土 1/4	器高 3.4 口径 (13.4) 底径 (9.4)	白色粒含む	還元焰	灰	口縁部は僅かに内湾気味に立ち上がる。轆轤整形(右回転)。底部は回転寛切り。	1
2区155H-30	第283図 - 1 第151図	土師器 蓋摘み ?	埋土 摘み部分	器高 — 口径 — 底径 —		酸化焰	橙	器形は不明。寛削りによる八角形。	1 あるいは把手
3区165H-35	第283図 - 1 第151図	須恵器 坏	埋土 底部1/2	器高 (2.4) 口径 — 底径 (8.4)		還元焰	灰白	器形は不明。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り。	1
2区165H-40	第283図 - 1 第151図	土師器 坏	埋土 完形	器高 6.1 口径 16.3	細砂粒・白色粒含む	酸化焰	明赤褐	丸底で、口縁部は「C」字状に内湾する。体部は寛削り、口縁部・器内面は横撫で。内面底部は螺旋状暗文、体部は放射状暗文。	1
	第283図 - 2 第151図	須恵器 蓋	埋土 ほぼ完形	器高 4.3 口径 20.0 摘径 2.7		中間焰	にぶい 黄橙	天井部から口縁部まで僅かに弓状に開く。整形は天井部回転寛削り、内面回転撫で。カエリを持たず、縁部を折り曲げている。摘は疑宝珠状で、貼り付け	2
2区168H-06	第283図 - 1 第151図	須恵器 椀	埋土 底部1/2	器高 (3.5) 口径 — 底径 (7.0)		還元焰	灰	器形は不明。轆轤整形(右回転)。底部は回転寛切り後、高台は貼り付け。	1
2区170H-05	第283図 - 1	緑釉 皿	埋土 底部破片	器高 — 口径 — 底径 —		還元焰	灰 オ リーブ	高台は貼り付け、内面に陰刻花文。釉調は深緑色。	2
2区170H-30	第283図 - 1 第152図	土師器 坏	埋土 1/5	器高 (4.2) 口径 (14.0)	細砂粒・白色粒含む	酸化焰	橙	丸底で、口縁部は僅かに内湾する。体部は寛削り、口縁部・器内面は横撫で。内面底部に螺旋状暗文、体部は放射状暗文。	1
	第283図 - 8 第152図	土師器 坏	埋土 口縁破片	器高 — 口径 — 底径 —		酸化焰	にぶい 赤褐	器形は不明。内面に放射状の刻み暗文。	8
	第283図 - 9 第152図	土師器 椀	埋土 底部～体 部破片	器高 (3.8) 口径 — 底径 (9.0)	白色粒含む	酸化焰	橙	轆轤整形。外面に轆轤目を残す。内面斜格子状暗文見込みは螺旋状暗文。高台は貼り付け。	9
	第283図 - 10 第152図	土師器 坏	埋土 1/4弱	器高 (3.0) 口径 (12.0)		酸化焰	にぶい 橙	丸底で、口縁部は僅かに内湾する。体部は寛削り、口縁部・器内面は横撫で。	10
	第283図 - 11 第152図	須恵器 椀	埋土 1/3	器高 5.5 口径 (13.0) 底径 6.2	白色粒含む	還元焰	浅黄	口縁部は僅かに内湾気味に立ち上がる。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り。いわゆる足高高台である。	11
	第283図 - 12 第152図	須恵器 椀	埋土 底部3/4	器高 (1.8) 口径 — 底径 7.0	白色粒・角閃 石含む	酸化焰	にぶい 褐	器形は不明。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り後、高台は貼り付け。	12
	第284図 - 13 第152図	須恵器 羽釜	埋土 口縁1/6	器高 (7.6) 口径 (17.4) 底径 —	白色粒含む	還元焰	灰黄	鏝は断面翼状で、貼り付け。最大径は胴部上半、鏝部は上方を向き、口縁部は内湾する。紐作り。轆轤整形。	13 最大径 (22.6)
	第284図 - 14 第152図	須恵器 羽釜	埋土 口縁1/6	器高 (5.5) 口径 (18.8) 底径 —	白色粒少含	還元焰	暗灰黄	鏝は断面三角形で、貼り付け。最大径は胴部上半、鏝部は上方を向き、口縁部は内湾する。紐作り。轆轤整形。	14 最大径 (20.6)
	第283図 - 15 第152図	須恵器 坏	埋土 1/2	器高 3.5 口径 12.0 底径 7.2	黒色粒含む	還元焰	灰	底部から直線的に外傾する。轆轤整形(右回転)。底部は回転寛切り。	15

出土位置	図版 写真	種類 器種	出土位置 残存状態	法 量 (cm)	胎 土	焼成	色調	成・整形技法等の特徴	備 考
	第284図 - 16 第152図	須恵器 甕	埋土 口縁破片	器高 (8.3) 口径(33.2) 底径 —	黒色粒含む	還元焰	灰	口縁部は外反し、口唇端部はほぼ平坦で外傾し、端部下に断面三角形の凸帯が1状まわる。	16
	第283図 - 17 第152図	須恵器 椀	埋土 体～底部 破片	器高 (4.9) 口径 — 底径 (7.0)	砂粒含む	還元焰	灰白	器形は不明だが腰の張りは強い。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り後、高台は貼り付け。	17
2区 171I-48	第284図 - 1 第152図	土師器 坏	埋土 2/3	器高 1.6 口径 11.9	角閃石含む	酸化焰	にぶい 橙	丸底で、口縁部は僅かに内湾する。体部は篋削り、口縁部・器内面は横撫で。	1
	第284図 - 2 第152図	土師器 坏	埋土 3/4	器高 3.1 口径 12.7	角閃石含む	酸化焰	にぶい 褐	丸底で、口縁部は僅かに内湾する。体部は篋削り、口縁部・器内面は横撫で。	2
2区 172H-49	第284図 - 1 第152図	灰釉 皿	埋土 1/3	器高 2.6 口径(12.8) 底径 (6.5)		還元焰	灰黄	轆轤整形、回転右回り。内面見込みに重ね焼き痕、底部切り離し技法は高台貼付後の撫でのため不明。施釉方法は漬け掛け。	1
2区173 ・177H -33	第284図 - 1 第152図	須恵器 椀	埋土 1/8弱	器高 5.7 口径 19.5 底径 10.6	白色・黒色粒 含む	還元焰	灰	腰の張りが弱く、口縁部は僅かに外反する。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り後、高台は貼り付け。	1
2区 174I-09	第284図 - 1 第152図	須恵器 椀	埋土 底部	器高 (4.0) 口径 — 底径 (7.0)	白色・黒色粒 含む	還元焰	にぶい 黄橙	器形は不明。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り。いわゆる足高高台である。内黒。	1
2区 175G-45	第285図 - 1 第152図	土師器 坏	埋土 体部破片	器高 — 口径 — 底径 —		酸化焰	にぶい 黄橙	器形は不明。内面は放射状の刻み暗文。	1
	第285図 - 2 第153図	須恵器 坏	埋土 1/2弱	器高 3.1 口径(13.2) 底径 (8.6)	磁鉄鉱含む	還元焰	灰	底部から直線的に外傾する。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り。	2
	第285図 - 3 第153図	須恵器 甕	埋土 口縁破片	器高 (8.2) 口径(28.2) 底径 —	黒・白色粒含 む	還元焰	灰	口縁部は外反し、口唇部はほぼ平坦で直立する。	3
	第285図 - 4 第153図	須恵器 甕	埋土 頸～体部 破片	器高 (8.0) 口径 — 底径 —	白色粒含む	還元焰	灰	口縁部は外反し、口唇端部下に断面三角形の凸帯が1条まわる。	4
	第285図 - 5 第153図	灰釉 折縁皿	埋土 1/2	器高 2.5 口径(13.6) 底径 8.2		還元焰	灰白	轆轤整形、回転右回り、底部は回転篋調整。高台は貼付。施釉は漬け掛けか？釉調は不透明な灰色。	5
	第285図 - 7 第153図	灰釉 皿	埋土 体～底部 破片	器高 (1.9) 口径 — 底径 (7.0)		還元焰	灰 オ リー ブ 灰	轆轤整形、回転方向右回か、底部は回転篋調整。高台は貼付。施釉は内面の全面。釉調はやや透明感があり緑色を帯びている。角高台。	7
2区 175H-25	第284図 - 1 第152図	土製品 羽口	埋土 破片	長さ (4.3) 厚さ 1.5		酸化焰		外面は篋削り。酸化・中性・還元の様子が認められる。	1
2区 175H-35	第284図 - 2 第152図	土師器 坏	埋土 底部	器高 — 口径 — 底径 —		酸化焰	にぶい 橙	器形は不明。内面底部は螺旋状暗文、体部は放射状暗文。	2
	第284図 - 5 第152図	土師器 坏	埋土 口縁破片	器高 — 口径 — 底径 —		酸化焰	にぶい 赤褐	器形は不明。内面底部は放射状の刻み暗文。	5
	第284図 - 6 第152図	土師器 坏	埋土 1/8	器高 (4.1) 口径(13.0) 底径 (6.3)		酸化焰	橙	平底で口縁部は湾曲気味に立ち上がる。体部は篋削り、口縁部・器内面は横撫で。	6
	第284図 - 7 第152図	須恵器 坏	埋土 1/2	器高 3.6 口径(11.4) 底径 6.2	赤色粒含む	酸化焰	橙	腰の張りが弱く、口縁部は僅かに外反する。轆轤整形(右回転)。底部は回転篋削り。	7
	第284図 - 8 第152図	須恵器 羽釜	埋土 口縁～体 部破片	器高 (9.5) 口径(18.0) 底径 —		還元焰	橙	鈿は断面三角形で、貼り付け。最大径胴部上半、鈿部は上方を向き、口縁部は内湾する。紐作り。轆轤整形。	8 最大径(22.8)
	第285図 - 9 第152図	須恵器 坏	埋土 1/4	器高 4.0 口径(12.4) 底径 (7.4)		還元焰	灰白	口縁部は僅かに内湾気味に立ち上がる。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り。いわゆる足高高台である。	9
	第285図 - 10 第152図	須恵器 甕	埋土 体～底部 破片	器高 (4.4) 口径 — 底径(20.0)	黒色粒含む	還元焰	灰	胴部内面当て具の青海波文。紐作り。轆轤整形。	10

出土位置	図版 写真	種類 器種	出土位置 残存状態	法 量 (cm)	胎 土	焼成	色調	成・整形技法等の特徴	備 考
	第285図 - 11 第152図	須恵器 甕	埋土 口縁破片	器高 (5.5) 口径 (34.0) 底径 —	白色粒含む	還元焰	灰	口唇部は折り返し。口縁部は外反する。	11
2区 176H-10	第285図 - 1 第153図	須恵器 壺	埋土 口縁破片	器高 (4.6) 口径 (19.6) 底径 —	白色粒含む	還元焰	灰白	口縁部は僅かに外傾し口縁端部は有段状に直立する。	1
2区 179H-30	第285図 - 1 第153図	須恵器 坏	埋土 1/4	器高 3.5 口径 (12.2) 底径 7.4		還元焰	灰	口縁部は僅かに内湾気味に立ち上がる。轆轤整形 (右回転)。底部は回転篋切り後篋撫で。	1
2区 179-32	第285図 - 1 第153図	須恵器 盤	埋土 底部1/4	器高 2.5 口径 — 底径 (18.4)	黒色粒含む	還元焰	灰白	器形は不明。轆轤整形 (右回転)。底部は回転篋削り後、高台は貼り付け。	1
2区179 ・180H -34	第285図 - 1 第153図	灰釉 皿	埋土 体~底部 破片	器高 (1.6) 口径 — 底径 (6.8)		還元焰	灰	轆轤整形、回転方向右回りか。高台貼付、内面全面に施釉。	1
2区 180H-25	第285図 - 2 第153図	須恵器 坏	埋土 1/2	器高 1.8 口径 8.6 底径 4.9	白色粒含む	中間焰	にぶい 黄橙	底部から直線的に外傾する。轆轤整形 (右回転)。底部は回転糸切り。	2
	第285図 - 3 第153図	灰釉 皿	埋土 1/8弱	器高 (2.5) 口径 13.6 底径 —	白色粒含む	還元焰	灰白	轆轤整形、回転方向は右回りか、底部中心部に回転糸切り痕残る。高台貼付。施釉方法漬け掛けか、釉調は半透明な緑灰色。	3
2区 180H-29	第285図 - 1 第153図	土師器 坏	埋土 体部破片	器高 — 口径 — 底径 —		酸化焰	にぶい 橙	器形は不明。内面は放射状の刻み暗文。	1
2区 181H-37	第285図 - 1 第153図	土師器 坏	埋土 1/4弱	器高 (3.3) 口径 (14.0)		酸化焰	黄橙	丸底で口縁部は直線的に外傾する。体部は篋削り、口縁部・器内面は横撫で。内面体部放射状暗文。	1
2区 185H-00	第286図 - 1 第153図	土師器 坏	埋土 1/3弱	器高 (2.6) 口径 (14.8)	白色・黒色粒 含む、角閃石 少含	酸化焰	橙	丸底で、外陵を有し、口縁部は外反する。体部は篋削り、口縁部・器内面は横撫で。	1
	第286図 - 2 第153図	土師器 坏	埋土 1/2弱	器高 4.1 口径 (12.0) 底径 7.4	白色粒含む	酸化焰	橙	平底で、口縁部は強い横撫でで直立する。体部は篋削り、口縁部・器内面は横撫で。	2
	第286図 - 3 第153図	土師器 坏	埋土 1/2弱	器高 (3.5) 口径 (11.4) 底径 (5.0)	白色・黒色・ 赤褐色粒・雲 母含む	酸化焰	明赤褐	平底で、口縁部は強い横撫でで直立する。体部は篋削り、口縁部・器内面は横撫で。	3
	第286図 - 4 第153図	須恵器 坏	埋土 1/2	器高 (3.8) 口径 (12.7) 底径 (7.6)	白色粒含む	還元焰	灰白	口縁部は僅かに内湾気味に立ち上がる。轆轤整形 (右回転)。底部は回転糸切り。	4
	第286図 - 5 第153図	須恵器 坏	埋土 2/3	器高 3.5 口径 (13.5) 底径 8.0	黒色粒含む	還元焰	灰白	口縁部は僅かに内湾気味に立ち上がる。轆轤整形 (右回転)。底部は回転糸切り。	5
	第286図 - 6 第153図	須恵器 坏	埋土 2/3	器高 3.6 口径 9.8 底径 4.8	砂粒含む	還元焰	灰白	腰の張りが弱く、口縁部は僅かに外反する。轆轤整形 (右回転)。底部は回転糸切り。	6
	第286図 - 7 第153図	須恵器 坏	埋土 ほぼ完形	器高 3.3 口径 10.1 底径 5.0	黒色粒含む、 赤褐色粒少含	酸化焰	浅黄橙 橙	口縁部は僅かに内湾気味に立ち上がる。轆轤整形 (右回転)。底部は回転糸切り。	7
	第286図 - 8 第153図	須恵器 坏	埋土 1/2	器高 4.0 口径 (12.6) 底径 (8.2)	白色粒含む	還元焰	灰	底部から直線的に外傾する。轆轤整形 (右回転)。底部は回転糸切り後、篋撫で。	8
	第286図 - 9 第153図	須恵器 椀	埋土 底部1/2	器高 (1.5) 口径 — 底径 (7.4)		還元焰	灰	器形は不明。轆轤整形 (右回転)。底部は回転糸切り後、高台は貼り付け。底部に穿孔有り。	9
2区 185H-20	第286図 - 1 第153図	須恵器 坏	埋土 1/2	器高 3.5 口径 (8.4) 底径 3.5	赤褐色粒含む	中間焰	にぶい 黄橙	腰の張りが弱く、口縁部は僅かに外反する。轆轤整形 (右回転)。底部は回転糸切り。	1
	第286図 - 2 第153図	須恵器 坏	埋土 1/4弱	器高 (3.4) 口径 (11.2) 底径 (7.0)		還元焰	黄灰	轆轤整形 (右回転)。底部は回転糸切り。	2
	第286図 - 3 第153図	須恵器 坏	埋土 1/3弱	器高 (3.2) 口径 (9.8) 底径 (5.0)		酸化焰	にぶい 黄橙	腰の張りが弱く、口縁部は僅かに外反する。轆轤整形 (右回転)。底部は回転糸切り。	3

出土位置	図版写真	種類器種	出土位置 残存状態	法量 (cm)	胎土	焼成	色調	成・整形技法等の特徴	備考
2区 185H-25	第286図 - 1 第153図	須恵器 環	埋土 1/2	器高 3.3 口径 (9.4) 底径 4.4	白色粒、角閃石含む	還元焰	灰黄	腰の張りが弱く、口縁部は僅かに外反する。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り。	1
	第286図 - 2 第153図	須恵器 椀	埋土 1/2	器高 5.1 口径(10.4) 底径 7.0	砂粒含む	中間焰	浅黄	口縁部はやや内湾気味に直立する。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り後、高台は貼り付け。	2
2区 185H-30	第286図 - 1 第153図	須恵器 羽釜	埋土 口縁~体 部破片	器高(11.5) 口径(18.0) 底径 —		還元焰	にぶい 黄橙	鈿は断面三角形で、貼り付け。最大径は胴部上半、鈿部は上方を向き、口縁部は内湾する。紐作り。轆轤整形。	1 最大径(22.8)
2区 185H-35	第287図 - 1 第154図	土師器 環	埋土 1/6	器高 (3.4) 口径(12.6) 底径 (7.0)	白色粒含む	酸化焰	橙	平底で、口縁部は強く外傾する。内面体部に放射状暗文。	1
	第287図 - 10 第154図	土師器 蓋	埋土 摘み部分	器高 (2.3) 口径 — 摘径 (6.0)	黒色粒含む	酸化焰	浅黄橙	一部が内側に折れ曲がっている。	10
	第287図 - 11 第154図	須恵器 環	埋土 1/4弱	器高 (3.9) 口径(14.0) 底径 (8.0)	黒色粒含む	還元焰	灰	腰の張りが弱く、口縁部は僅かに外反する。轆轤整形(右回転)。底部は回転寛削り。	11
	第287図 - 12 第154図	須恵器 甕	埋土 体部破片	器高 — 口径 — 底径 —	白色粒含む	還元焰	灰	紐作り。轆轤成形。胴部外面平行叩き、内面は無でのため不明。	12
2区 187H-22	第287図 - 1 第154図	須恵器 環	埋土 ほぼ完形	器高 2.4 口径 9.5 底径 5.4	黒色・白色・ 粒・角閃石・ 雲母含む	酸化焰	にぶい 橙	底部から直線的に外傾する。轆轤整形(右回転)。底部は静止糸切り。	1
2区 190H-25	第287図 - 1 第154図	緑釉 皿	埋土 底部1/2	器高 (2.0) 口径 — 底径 8.0				轆轤整形、回転右回りか。高台貼付、底部は寛撫で。高台は段を有し、中間が凹線になる。釉調は淡緑色。	1
2区 190H-33	第287図 - 1 第154図	須恵器 壺	埋土 体部破片	器高 (6.2) 口径 — 底径 —		還元焰	黒	紐作り。轆轤成形。体部上半に2本ずつの沈線がまわる。	1
2区 190H-35	第287図 - 1 第154図	土師器 環	埋土 口縁破片	器高 — 口径 — 底径 —		酸化焰	にぶい 褐	器形は不明。内面底部は放射状暗文。	1
2区 195H-20	第287図 - 1 第154図	土師器 環	埋土 2/3	器高 4.8 口径(14.1) 底径 9.3	チャート含む	酸化焰	にぶい 橙	丸底気味で口縁部は僅かに内湾気味に立ち上がる。体部は寛削り、口縁部・器内面は横撫で。内面底部螺旋状暗文、体部は斜格子状暗文。	1
	第287図 - 2 第154図	土師器 環	埋土 1/2弱	器高 4.1 口径(12.8) 底径 (7.2)	白色粒・雲母 含む	酸化焰	にぶい 橙	平底で口縁部は僅かに内湾気味に立ち上がる。体部は寛削り、口縁部・器内面は横撫で。	2
	第287図 - 3 第154図	土師器 環	埋土 1/4	器高 (4.0) 口径(13.6) 底径 (8.0)	白色粒含む	酸化焰	橙	平底で、口縁部は強く外傾する。体部は寛削り、口縁部・器内面は横撫で。内面底部螺旋状暗文、体部放射状暗文。	3
	第287図 - 9 第154図	土師器 環	埋土 4/5	器高 3.5 口径 12.4	白色粒・角閃石含む	酸化焰	にぶい 橙	丸底で、口縁部は強い横撫でで直立する。体部は寛削り、口縁部・器内面は横撫で。	9
	第287図 - 10 第154図	土師器 環	埋土 1/5	器高 2.8 口径(16.0)		酸化焰	にぶい 褐	丸底で、口縁部は僅かに内湾する。体部は寛削り、口縁部・器内面は横撫で。	10
	第287図 - 11 第154図	土師器 環	埋土 1/4	器高 4.2 口径(12.8) 底径 (7.5)	白色・黒色粒 含む	酸化焰	橙	口縁部は直線的に外反する。轆轤整形(右回転)。底部は回転寛削り。	11
	第287図 - 12 第154図	土師器 環	埋土 1/4	器高 (4.0) 口径(14.0) 底径 (8.9)	砂粒含む	酸化焰	橙	平底で、口縁部は僅かに内湾する。体部は寛削り、口縁部・器内面は横撫で。	12
	第287図 - 13 第154図	土師器 環	埋土 1/8弱	器高 (2.6) 口径(12.7)	白色粒少含	酸化焰	橙	丸底で、口縁部は外傾する。	13
	第287図 - 14 第154図	土師器 環	埋土 底部	器高 (3.8) 口径 — 底径 (8.3)	砂粒含む	中間焰	にぶい 黄橙	内外面は細かい磨。内面黒色処理。	14
	2区 195H-20	第287図 - 15 第154図	須恵器 蓋	埋土 1/2	器高 3.0 口径(14.2) 摘径 4.3	白色粒含む	還元焰	灰	天井部から口縁部まで僅かに弓状に開く。整形は天井部回転寛削り、内面回転撫で。カエリを持たず、口縁部を折り曲げている。摘は輪状で、貼り付け。

出土位置	図版写真	種類器種	出土位置 残存状態	法量 (cm)	胎土	焼成	色調	成・整形技法等の特徴	備考
	第287図 - 16 第154図	須恵器 盤?	埋土 口縁～底 部破片	器高 (4.8) 口径 (28.6) 底径 (24.2)		還元焰	灰白	底部から直線的に外傾する。轆轤整形(右回転)。底部は回転篋削り後、高台は貼り付け。	16
2区 195H-26	第288図 - 1 第154図	須恵器 坏	埋土 1/3	器高 3.4 口径 (13.0) 底径 (9.0)	白色粒含む	還元焰	灰黄	底部から直線的に外傾する。轆轤整形(右回転)。底部は回転篋削り。	1
2区 195H-30	第288図 - 1 第154図	土師器 椀	埋土 底部1/2	器高 (1.7) 口径 — 底径 (7.0)	赤白粒含む	中間焰	にぶい 黄橙	器形は不明。内黒。	1
2区194 ・195H -33	第288図 - 1 第154図	土師器 椀	埋土 口縁部 1/8	器高 (3.5) 口径 (13.8) 底径 —	微砂粒・金雲 母微粒・片岩 細粒含む	酸化焰	橙	轆轤整形、回転方向不明。外面に轆轤目を明瞭に残す。内面体部に斜格子状暗文。見込み部に螺旋状暗文か。器形から高台部が存在か。	1
2区 195H-35	第288図 - 1 第154図	灰釉 坏	埋土 1/5	器高 2.5 口径 (12.6) 底径 (7.8)		還元焰	灰白	轆轤整形、回転方向右回りか、高台貼付。釉不明。	1
2区 196H-40	第288図 - 1 第154図	須恵器 甕	埋土 口縁～体 部破片	器高 (8.9) 口径 (27.4) 底径 —	白色・赤色粒 含む	酸化焰	明赤褐 灰 オ リーブ	紐作り。轆轤整形。口縁部は僅かに外反する。	1
2区 197H-35	第288図 - 1 第154図	緑釉 椀	埋土 口縁～体 部破片	器高 (4.0) 口径 (14.3) 底径 —		還元焰		轆轤整形、回転方向不明。口縁部下半は回転篋削り。釉調は深緑色。	1
1区一括	第289図 - 1 第155図	須恵器 蓋	埋土 3/4	器高 4.8 口径 15.5 底径 4.6	酸化鉄含む	還元焰	灰	天井部から口縁部まで直線的に開く。整形は天井部回転篋削り、内面回転撫で。カエリを持たず、口縁部を折り曲げている。摘は輪状で、貼り付け。	1
2区一括	第289図 - 3 第155図	土師器 坏	埋土 完形	器高 3.0 口径 12.4	黒色粒含む	酸化焰	にぶい 橙	丸底で、口縁部は強い横撫でで直立する。体部は篋削り、口縁部・器内面は横撫で。	3
	第289図 - 4 第155図	土師器 坏	埋土 1/4	器高 (3.1) 口径 (11.8)	角閃石含む	酸化焰	黄褐	丸底で、口縁部は僅かに内湾する。体部は篋削り、口縁部・器内面は横撫で。	4
	第289図 - 5 第155図	土師器 脚付土 器	埋土 脚部片	長さ (9.0) 口径 (1.7)	白色粒・角閃 石含む	酸化焰	明赤褐	脚部の上半を欠損している。整形は篋削り。脚付き羽釜か。	5
	第289図 - 6 第155図	須恵器 坏	埋土 ほぼ完形	器高 4.6 口径 12.4 底径 5.8		還元焰	灰白	腰の張りが弱く、口縁部は僅かに外反する。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り。	6
	第289図 - 7 第155図	須恵器 坏	埋土 1/3	器高 (4.5) 口径 (11.6) 底径 (6.0)	白色粒含む	酸化焰	橙	腰の張りが弱く、口縁部は僅かに外反する。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り。	7
	第289図 - 8 第155図	須恵器 坏	埋土 1/2	器高 4.1 口径 (12.6) 底径 6.0		還元焰	灰白 灰オリ ーブ	腰の張りが強く、口縁部は強く外反する。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り。	8
	第289図 - 9 第155図	須恵器 坏	埋土 1/4	器高 4.0 口径 (10.0) 底径 4.0		還元焰	にぶい 黄橙	腰の張りが弱く、口縁部は僅かに外反する。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り。	9
	第289図 - 10 第155図	須恵器 坏	埋土 1/4	器高 3.4 口径 (9.6) 底径 (5.8)	砂粒・酸化鉄 含む	還元焰	橙	口縁部は僅かに内湾気味に立ち上がる。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り。	10
	第289図 - 11 第155図	須恵器 坏	埋土 1/3	器高 1.9 口径 (5.7) 底径 (3.4)		還元焰	灰	腰の張りが弱く、口縁部は僅かに外反する。轆轤整形(右回転)。底部は回転篋削り。体部は篋削り。	11
	第289図 - 12 第155図	須恵器 壺	埋土 底～胴部 下1/2	器高 (6.5) 口径 — 底径 4.2	白色・赤色粒 含む	還元焰	灰	直立する胴部に細い口頸部を持つ徳利形の器形。轆轤整形(右回転)。底部は回転篋削り。	12 壺G
	第289図 - 13 第155図	須恵器 椀	埋土 1/2	器高 4.8 口径 12.2 底径 6.2	白色粒含む	還元焰	灰白	腰の張りが弱く、口縁部は僅かに外反する。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り後、高台は貼り付け。	13
	第289図 - 14 第155図	須恵器 羽釜	埋土 口縁1/6	器高 (8.1) 口径 (18.0) 底径 —		酸化焰	にぶい 橙	鈔は断面三角形で、貼り付け。最大径は胴部上半、鈔部は上方を向き、口縁部は内湾する。紐作り。轆轤整形。	14 最大径(22.2)
	第290図 - 15 第155図	須恵器 甕	埋土 2/3	器高 21.7 口径 (18.8) 底径 (8.0)		還元焰	灰黄	口縁部は「コ」字状が崩れている。口縁部・胴部内面・外面状半は横撫で、下半は斜め方向の篋削り。	15

出土位置	図版 写真	種類 器種	出土位置 残存状態	法 量 (cm)	胎 土	焼成	色調	成・整形技法等の特徴	備 考
3区一括	第290図 - 1 第155図	土師器 坏	埋土 1/4	器高 3.0 口径(12.8) 底径(7.0)	砂粒含む	酸化焰	橙	平底で、口縁部は僅かに内湾する。体部は笥削り、口縁部・器内面は横撫で。内面底部は螺旋状暗文、体部は放射状暗文。	1
	第290図 - 2 第156図	須恵器 高台付 坏	埋土 3/4	器高 5.3 口径 8.7 底径 5.8		酸化焰	橙	外面体部、内面底・体部は螺旋状暗文。	2
	第290図 - 8 第155図	土師器 甕	埋土 口縁1/4 弱	器高 6.0 口径(19.0) 底径 —	砂粒含む	酸化焰	明赤褐	典型的な「コ」字状口縁である。口縁部・胴部内面は横撫で、胴部外面は横方向の笥削り。	8
	第290図 - 9 第155図	土師器 甕	埋土 口縁1/8	器高(6.0) 口径(21.6) 底径 —	黒色粒・雲母 少含	酸化焰	にぶい 黄橙	典型的な「コ」字状口縁である。口縁部・胴部内面は横撫で、胴部外面は縦方向の笥削り。	9
	第290図 - 10 第155図	土師器 甕	埋土 口縁1/4 弱	器高(4.3) 口径(13.8) 底径 —		酸化焰	褐	典型的な「コ」字状口縁である。口縁部・胴部内面は横撫で、胴部外面は横方向の笥削り。	10
	第290図 - 11 第155図	土師器 甕	埋土 口縁1/3	器高(5.2) 口径(13.8) 底径 —	角閃石・雲母 白色粒含む	酸化焰	褐	口縁部は直線的に外傾する。口縁部・胴部内面は横撫で、胴部外面は横方向の笥削り。	11
	第290図 - 12 第156図	須恵器 坏	埋土 完形	器高 2.5 口径 8.6 底径 5.0	黒色・赤褐色 粒・角閃石含 む	酸化焰	橙	轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り。	12
	第290図 - 13 第156図	須恵器 坏	埋土 1/2	器高(3.4) 口径(10.4) 底径(6.0)		中間焰	にぶい 黄橙	口縁部は僅かに内湾気味に立ち上がる。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り。	13
	第290図 - 14 第156図	須恵器 坏	埋土 ほぼ完形	器高 2.5 口径 8.6 底径 5.2	赤褐色・黒色 粒・角閃石含 む	中間焰	浅黄橙	腰の張りが弱く、口縁部は僅かに外反する。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り。	14
	第290図 - 15 第156図	須恵器 坏	埋土 1/2	器高 2.5 口径 9.2 底径 4.2	白色粒含む	還元焰	灰	腰の張りが弱く、口縁部は僅かに外反する。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り。	15
	第290図 - 16 第156図	須恵器 坏	埋土 1/2	器高 3.5 口径(13.2) 底径(6.2)	角閃石含む	還元焰	淡黄	腰の張りが弱く、口縁部は僅かに外反する。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り。	16
	第291図 - 17 第156図	須恵器 坏	埋土 1/2	器高(3.6) 口径(13.2) 底径(7.2)		還元焰	灰	底部から直線的に外傾する。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り。	17
	第291図 - 18 第156図	須恵器 坏	埋土 3/4	器高 3.4 口径(12.2) 底径 8.0		還元焰	灰	底部から直線的に外傾する。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り。	18
	第291図 - 19 第156図	須恵器 碗	埋土 1/3	器高 7.9 口径(15.4) 底径 8.9	黒色・白色粒 含む	還元焰	灰	腰の張りが弱く、口縁部は僅かに内湾気味に立ち上がる。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り後、高台は貼り付け。外面に自然釉付着。	19
	第291図 - 20 第156図	須恵器 碗	埋土 1/5	器高(4.5) 口径(16.4) 底径 —	白色・赤褐色 粒含む	酸化焰	にぶい 黄橙	底部から直線的に外傾する。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り後、高台は貼り付け。	20
	第291図 - 21 第156図	須恵器 羽釜	埋土 口縁~体 部1/6	器高(12.3) 口径(21.0) 底径 —		還元焰	灰黄褐	鈔は断面翼状で、貼り付け。最大径は胴部上半、鈔部は上方を向き、口縁部は内湾する。紐作り。轆轤整形。	21 最大径(25.2)
	第291図 - 22 第156図	須恵器 甕	埋土 口縁1/6	器高(12.2) 口径(25.6) 底径 —		酸化焰	にぶい 黄橙	鈔は断面三角形で、貼り付け。最大径は口縁部で鈔下はやや下方を向き、口縁部は外傾する。紐作り。轆轤整形。甕か？	22
	第291図 - 23 第156図	須恵器 短頸壺	埋土 口縁~体 部破片	器高(8.3) 口径(25.0) 底径 —	白色粒含む	還元焰	灰	最大径は口縁部で、鈔部はやや下方を向き、口縁部はやや内湾気味に立ち上がる。紐作り。轆轤整形。	23
	第291図 - 24 第156図	須恵器 鉢	埋土 口縁破片	器高(6.7) 口径(12.2) 底径 —	白色粒含む	還元焰	灰	口縁部は僅かに外反し、口唇端部はほぼ平坦で直立する。紐作り。轆轤整形。	24
	第291図 - 25 第156図	須恵器 甕	埋土 体~底部 破片	器高(7.0) 口径 — 底径(21.3)	砂粒含む	還元焰	灰	器形は不明。紐作り。轆轤整形。	25
	第291図 - 26 第156図	灰釉 碗	埋土 底部	器高(2.6) 口径 — 底径 6.8	白色粒含む	還元焰	灰	轆轤整形、回転方向右回り。底部回転糸切り痕を残す。高台貼付。内面見込み部に重ね焼き痕。施釉・釉調共に不明。	26

出土位置	図版写真	種類器種	出土位置 残存状態	法 量 (cm)	胎土	焼成	色調	成・整形技法等の特徴	備考
	第291図 - 27 第156図	灰釉 耳皿	埋土 底部破片	器高 (2.3) 口径 一 底径 4.4	白色粒含む	還元焰	灰白	器形は不明。	27
2区48号 住居跡	第80図 - 7 第159図	土師器 置き甕	床直 庇破片	長さ (5.9) 幅 (8.2) 厚さ (3.5)	赤色粒・片岩 粒含む	酸化焰	にぶい 褐	庇部分、貼付。庇上面は刷毛目、下面は無で。	7 藤岡?
2区56号 住居跡	第76図 - 14 第159図	土師器 置き甕	床直 釜口破片	長さ (6.3) 幅 (12.4) 厚さ (3.2)	赤色粒含む	酸化焰	にぶい 褐	荒砥北原遺跡から出土している釜口を2口有する形態と同様のものと推定される。釜口端部は篋削りを施し平坦面を作っている。その他は内外面とも無で	14
2区68号 住居跡	第101図 - 2 第159図	土師器 置き甕	床直 庇破片	長さ (6.1) 幅 (9.8) 厚さ (1.7)	赤色粒含む	酸化焰	橙	庇部分、貼付か。上下面とも無で。	2
2区167 号住居跡	第212図 - 11 第144図	土師器 置き甕	埋土 底～体部 破片	長さ(20.4) 幅 (21.1) 厚さ (3.0)	赤色粒・砂粒 含む	酸化焰	にぶい 橙	底部から体部下半の破片。体部外面は縦方向、内面は縦～横方向の刷毛目を施す。	11
	第212図 - 12 第144図	土師器 置き甕	埋土 庇破片	長さ (6.4) 幅 (5.8) 厚さ (2.4)		酸化焰	橙	庇部分、貼付。上下面とも無で。	12
	第212図 - 13 第144図	土師器 置き甕	埋土 耳付体部 破片	器高 一 口径 一 底径 一		酸化焰	橙	体部外面は篋削り、内面は当て具痕?九角形の把手	13

第12表 縄文石器観察表

	図版番号	写真図版	器種	出土位置	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	石 材	素材形状 調整加工等の特徴	類
1	第13図-1	第158図	打製石鏃	一括	2.4	1.6	0.5	1.0	黒曜石		
2	第13図-2	第158図	打製石鏃	表採	2.6	1.8	0.4	0.9	黒曜石		I
3	第13図-3	第158図	打製石鏃	2区171住覆土	2.6	1.8	0.4	1.0	黒色安山岩		I
4	第13図-4	第158図	打製石鏃	2区171住覆土	2.0	1.9	0.4	0.9	チャート	先端部欠損	I
5	第13図-5	第158図	石錘	2区道跡表採	4.8	0.8	0.7	1.9	珪質頁岩		I
6	第13図-6	第158図	打製石斧	185H-00G一括	11.2	4.3	1.5	99	黒色頁岩		I
7	第13図-7	第158図	打製石斧	1区12溝No7	11.3	5.7	1.6	127	黒色頁岩	礫面残存	I
8	第13図-8	第158図	打製石斧	3区54溝覆土	10.0	7.7	1.4	119	頁岩		I
9	第13図-9	第158図	打製石斧	2区37住No2	11.4	5.5	2.1	151	黒色頁岩	礫面残存	I
10	第13図-10	第158図	打製石斧	170H-30G	8.5	4.5	1.5	84	細粒輝石安山岩	刃部欠損、礫面残存	I
11	第13図-11	第158図	打製石斧	2区南トレンチ	7.0	5.3	1.3	126	灰色安山岩	刃部欠損、礫面残存	I
12	第13図-12	第158図	打製石斧	2区193住No2	5.1	4.0	1.2	35	灰色安山岩	刃部欠損、礫面残存	I
13	第13図-13	第158図	打製石斧	190H-25G一括	5.7	4.0	0.9	34	頁岩	頭部・刃部欠損	
14	第14図-14	第158図	打製石斧	3区134住No7	11.2	8.3	1.8	170	細粒輝石安山岩		II
15	第14図-15	第158図	打製石斧	13住掘り方No110	9.0	7.1	1.7	117	黒色頁岩		III
16	第14図-16	第158図	打製石斧	1区2溝埋土	11.1	5.8	1.2	105	珪質頁岩	刃部欠損	
17	第14図-17	第158図	打製石斧	2区南トレンチ	13.0	4.5	2.3	233	黒色頁岩	礫面残存	
18	第14図-18	第158図	打製石斧	2区24土坑No1	9.4	6.8	1.1	105	黒色頁岩	礫面残存	
19	第14図-19	第158図	打製石斧	171H-26G表採	15.9	7.3	2.9	441	黒色頁岩	刃部擦れ	
20	第14図-20	第158図	打製石斧	2区道跡No2	14.1	7.1	2.4	324	粗粒輝石安山岩		
21	第14図-21	第158図	打製石斧	3区101住No23	15.6	7.0	3.0	347	黒色頁岩	礫面残存	
22	第15図-22	第158図	打製石斧	2区137住No1	11.9	6.7	1.3	144	黒色頁岩	礫面残存	
23	第15図-23	第158図	打製石斧	165H-35G	12.9	7.1	1.8	247	頁岩	礫面残存	
24	第15図-24	第158図	打製石斧	197H-30G	8.9	5.5	1.8	104	黒色頁岩	礫面残存	
25	第15図-25	第158図	打製石斧	2区9住No1	12.5	8.1	1.4	184	黒色頁岩	刃部欠損	
26	第15図-26	第158図	打製石斧	185H-00G一括	9.4	6.3	1.3	99	黒色頁岩	頭部欠損	
27	第15図-27	第158図	打製石斧	1区1井戸覆土	8.4	6.5	2.4	124	黒色頁岩	刃部欠損、礫面残存	
28	第15図-28	第158図	打製石斧	187H-02G	13.5	7.8	2.6	306	粗粒輝石安山岩		
29	第15図-29	第158図	打製石斧	190H-30G	3.0	4.4	1.1	14	黒色頁岩	頭部のみ欠損	
30	第15図-30	第158図	削器	185H-00G一括	5.6	10.0	1.7	111	黒色頁岩	横長剥片素材	
31	第15図-31	第158図	削器	1区7溝覆土	2.9	2.6	1.1	6.3	玉髓	ノッチ状	
32	第16図-32	第157図	多孔石	3区155住No1	14.6	9.7	7.2	952	粗粒輝石安山岩		
33	第16図-33	第157図	多孔石	1区14溝No4	15.5	16.2	8.5	2,050	粗粒輝石安山岩		
34	第16図-34	第157図	多孔石	2区93土坑	31.6	21.8	19.5	16,600	粗粒輝石安山岩		

第13表 瓦観察表 古代瓦

番号	出土位置	図版番号	種別	厚さ	胎土		焼色	成形技法								整形技法		摘要		
					素地	夾雑物		粘土板糸切		寄木	一枚	粘土合目	布合目	叩	轆	布擦消			側面取	
						上調		凹面	凸面							凹面	凸面	凹面		凸面
1	SS表採	292-1	鏡	1.4	密	含	締	黒灰	なし	なし	△	なし	なし	なし	素文	なし	なし	／	欠	乗附、7C後
2	表採	292-2	鏡	1.5	密	含	締	黒灰	なし	なし	なし	なし	なし	○	素文	△	なし	／	3	1の男瓦部か
3	1区埋土	292-3	男	1.5	密	微	締	灰	なし	なし	なし	なし	なし	なし	繩撫	○	なし	／	欠	乗附、8・9C
4	192H-16埋土	292-4	男	1.4	密	含	締	灰	なし	なし	なし	△	なし	なし	横撫	○	なし	／	欠	乗附、8・9C
5	101号住	292-5	男	1.7	密	含	締	青灰	△	なし	なし	△	なし	なし	へら削	○	なし	／	欠	秋乗、8C
6	1区埋土	292-6	男	2.2	密	含	並	淡褐	なし	なし	なし	？	なし	なし	削	○	削	／	欠	秋乗、8・9C
7	127号住	292-7	男	1.3	密	含	締	暗灰	なし	なし	なし	なし	なし	○	縦撫	なし	なし	／	2	秋乗、8・9C
8	127号住No5	292-8	男	1.8	密	含	硬	淡灰	なし	なし	なし	なし	なし	なし	へら削	○	なし	／	2	秋間、7・8C
9	3区101号住No21	292-9	男	2.5	密	微	締	灰	なし	なし	なし	なし	なし	なし	横撫	○	なし	／	欠	秋間、7・8C
10	140号住No11	292-10	男	2.2	密	含	硬	淡灰	なし	なし	なし	？	なし	なし	横撫	○	なし	／	欠	秋間、8C
11	175号住埋土	292-11	男	1.7	密	少	並	淡灰	○	なし	なし	なし	なし	なし	繩撫	△	なし	／	3	秋間、8C
12	101号住No6	293-12	男	1.5	密	含	締	淡灰	○	なし	なし	なし	なし	なし	繩撫	○	なし	／	3	秋間、8C
13	127号住掘り方	293-13	男	1.7	密	微	締	灰褐	なし	なし	なし	△	なし	なし	削	○	なし	／	欠	秋間、8C
14	表土	293-14	男	1.5	密	含	軟	灰	なし	なし	なし	なし	なし	なし	素文	○	なし	／	欠	秋間、8C
15	127号住	293-15	男	2.0	密	含	硬	淡灰	なし	なし	なし	なし	なし	なし	繩削	△	なし	／	2	秋間、8・9C
16	127号住	293-16	男	1.3	密	含	締	黒灰	なし	なし	なし	なし	なし	なし	撫	△	なし	／	欠	秋間、8・9C
17	19号溝埋土	293-17	男	1.7	粗	含	並	淡褐	なし	なし	なし	△	なし	なし	撫	○	なし	／	欠	秋間か、9C
18	17号溝埋土	293-18	男	1.4	密	微	締	灰	なし	なし	なし	なし	なし	なし	横撫	○	なし	／	欠	秋間、9C
19	表採	293-19	男	1.9	密	微	硬	淡灰	なし	なし	なし	なし	なし	なし	繩消	○	なし	／	欠	秋間、9C
20	185H-35	293-20	男	1.6	密	微	軟	灰	○	なし	なし	なし	△	なし	素文	△	部分	／	欠	秋間、9C
21	190号住No7	293-21	男	1.1	密	含	並	黄褐	なし	なし	なし	△	なし	なし	素叩	なし	なし	／	3	吉井、9C後
22	19号溝埋土	293-22	男	1.0	密	含	並	赤褐	なし	なし	なし	△	なし	なし	素叩	なし	なし	／	欠	吉井、9C後
23	101・102号住埋土	293-23	男	1.6	密	含	並	灰	○	なし	なし	△	なし	なし	撫	なし	なし	／	欠	笠懸か、8C
24	3区表採	293-24	男	1.5	粗	微	並	淡褐	なし	なし	なし	なし	なし	なし	素叩	なし	なし	／	1	不明、9C
25	2区一括	293-25	男	1.3	密	微	硬	暗褐	なし	なし	なし	△	なし	なし	素文	なし	なし	／	欠	不明、9C
26	16号溝埋土	293-26	男	1.5	密	微	軟	赤褐	なし	なし	なし	なし	なし	なし	撫	なし	なし	／	欠	不明、9C
27	23号溝埋土	293-27	男	1.3	密	微	軟	赤褐	なし	なし	なし	なし	なし	なし	撫	なし	なし	／	欠	不明、9C
28	表採	294-28	男	1.2	密	微	軟	淡褐	なし	なし	なし	△	なし	なし	素叩	なし	なし	／	欠	不明、9C後
29	95号土坑埋土	294-29	女	1.7	密	微	締	黒灰	なし	なし	○	なし	なし	なし	撫	○	なし	／	欠	乗附、7C
30	青梨試掘トレンチ北～18m	294-30	女	2.1	密	微	硬	淡灰	なし	なし	？	なし	なし	なし	横撫	○	櫛目	／	3	秋間、7C後
31	185H-35	294-31	女	2.3	密	微	硬	灰	○	なし	○	なし	なし	○	大格子	なし	なし	／	欠	秋間、8C
32	180H-25一括	294-32	女	1.7	密	含	硬	灰	○	なし	○	なし	なし	なし	横繩	△	なし	／	欠	秋間、8C中
33	52号住竈No6	294-33	女	2.1	密	含	硬	灰	○	なし	なし	？	なし	なし	繩T	なし	なし	／	欠	秋間、8C末
34	101号住No13	294-34	女	1.6	密	含	締	暗灰	○	なし	なし	？	なし	なし	格子	なし	なし	／	1	秋間、8C末
35	表採	294-35	女	1.9	密	含	硬	灰褐	なし	なし	なし	△	なし	なし	繩消	○	なし	／	3	秋間、8・9C
36	3区表土	294-36	女	1.8	粗	微	硬	灰	○	なし	△	？	なし	なし	繩	なし	なし	／	欠	秋間、9C初
37	2区一括	294-37	女	1.6	密	少	並	灰	△	なし	△	？	なし	なし	横繩	なし	なし	／	3	秋間、9C前
38	3区表土	294-38	女	1.3	密	微	軟	淡黄	○	なし	△	？	なし	なし	繩T	なし	部分	／	欠	秋間、9C前
39	1区埋土	294-39	女	1.8	密	微	並	淡黄	なし	なし	なし	○	なし	なし	繩	なし	なし	／	丸	秋間、9C前
40	1区埋土	294-40	女	1.6	密	微	硬	灰	なし	なし	なし	△	なし	なし	繩	なし	なし	／	欠	秋間、9C前
41	3区表土	295-41	女	1.8	密	含	並	淡灰	なし	なし	なし	△	なし	なし	繩	なし	なし	／	欠	秋間、9C前
42	3区表採	295-42	女	1.5	密	含	並	灰	なし	なし	なし	△	なし	なし	繩消	なし	なし	／	欠	秋間、9C前
43	表土	295-43	女	1.5	密	微	硬	暗灰	なし	なし	なし	△	なし	なし	繩	なし	なし	／	2	秋間、9C前
44	180H-25	295-44	女	1.9	密	含	軟	淡褐	なし	なし	なし	△	なし	なし	繩叩	なし	なし	／	欠	秋間、9C前
45	3区表土	295-45	女	2.0	粗	含	並	淡灰	○	なし	なし	？	なし	なし	繩叩	なし	部分	／	欠	秋間、9C
46	3区表採	295-46	女	1.6	密	微	硬	淡黄	なし	なし	○	なし	なし	なし	繩	なし	なし	／	欠	秋間、9C
47	185H-25一括	295-47	女	1.4	密	微	軟	赤褐	なし	なし	なし	△	なし	なし	繩叩	なし	なし	／	欠	秋間、9C
48	197H-35トレンチ一括	295-48	女	1.8	密	多	並	褐	なし	？	なし	△	なし	なし	撫	なし	なし	／	2	吉井、8・9C
49	186H-20表土	295-49	女	1.1	密	含	硬	灰	なし	なし	なし	△	なし	なし	素叩	なし	なし	／	欠	吉井、8・9C
50	2区一括	295-50	女	1.5	密	含	硬	灰	なし	なし	なし	△	なし	なし	撫	なし	部分	／	欠	吉井、9C
51	11号住竈No11	295-51	女	1.4	密	多	硬	淡灰	なし	なし	なし	？	なし	なし	細平行	なし	なし	／	1	吉井、9C前
52	11号住No24	296-52	女	1.3	密	含	硬	黒灰	○	なし	なし	？	なし	なし	縦撫	なし	なし	／	1	吉井、9C前
53	67号住竈No1	295-53	女	1.3	密	多	硬	灰	○	なし	なし	△	なし	なし	素叩	なし	部分	／	2	吉井、9C後
54	67号住竈No6・15	296-54	女	1.2	密	含	並	灰	なし	なし	なし	△	なし	なし	素叩	なし	なし	／	2	吉井、9C後
55	67号住竈No16	296-55	女	1.3	密	含	並	灰	なし	なし	なし	△	なし	なし	素叩	なし	なし	／	2	吉井、9C後
56	67号住竈No3	296-56	女	1.0	密	含	並	灰	なし	なし	なし	△	なし	なし	素叩	なし	なし	／	欠	吉井、9C後
57	185H-20	296-57	女	1.1	密	含	並	灰	なし	なし	なし	△	なし	なし	素叩	なし	なし	／	1	吉井、9C後

番号	出土位置	図版番号	種別	厚さ	胎土		焼成	成形技法										整形技法		摘要
					素地	夾雑物		焼色	粘土板糸切		寄木	一枚	粘土合目	布合目	叩	轆轤	布擦消		側面取	
									凹面	凸面							凹面	凸面		
58	67号住竈No.5	296-58	女	1.1	密含	並	灰	なし	なし	なし	△	なし	なし	素叩	なし	なし	／	欠	吉井、9C後	
59	67号住竈No.16他	296-59	女	1.1	密含	並	淡黄	なし	なし	なし	△	なし	なし	素叩	なし	なし	／	1	吉井、9C後	
60	185H-25一括	296-60	女	1.1	密含	締	黒灰	なし	なし	なし	△	なし	なし	素叩	なし	なし	／	欠	吉井か、9C後	
61	67号住竈No.15	296-61	女	1.1	密含	並	灰	なし	なし	なし	△	なし	なし	素叩	なし	なし	／	欠	吉井、9C後	
62	表土	296-62	女	1.4	密含	並	灰	なし	なし	なし	△	なし	なし	素文	なし	なし	／	欠	吉井、9C後	
63	2区51号土坑埋土	296-63	女	1.1	密含	締	灰	なし	なし	なし	△	なし	なし	素文	なし	なし	／	欠	吉井、9C後	
64	67号住埋土	296-64	女	1.0	密含	並	灰	なし	なし	なし	△	なし	なし	素叩	なし	なし	／	欠	吉井、9C後	
65	表土	296-65	女	1.0	密微	軟	赤褐	なし	なし	なし	△	なし	なし	素文	なし	なし	／	欠	吉・藤、9C	
66	127号住No.2・4	297-66	女	2.0	密微	軟	赤褐	○	○	なし	△	なし	なし	縄単	なし	○	／	欠	笠懸、8C後	
67	127号住No.2	297-67	女	1.9	密微	軟	赤褐	○	○	なし	△	なし	なし	縄単	なし	○	／	2	笠懸、8C後	
68	100・101号住埋土	297-68	女	1.6	粗含	締	灰	なし	なし	なし	△	なし	なし	格子	なし	なし	／	欠	不明、8C	
69	101号住	297-69	女	1.3	粗含	締	灰	なし	なし	?	△	なし	なし	格子	なし	なし	／	欠	不明、8C	
70	125H-00	297-70	女	1.9	密微	軟	灰褐	なし	なし	なし	△	なし	なし	撫	なし	なし	／	欠	不明、8・9C	
71	11号住No.28・33	297-71	女	0.8	粗含	並	黒灰	なし	なし	なし	なし	なし	なし	撫	なし	なし	／	1	不明、9C中	
72	58号住埋土	297-72	女	1.8	密含	軟	赤褐	なし	なし	なし	△	なし	なし	素文	なし	なし	／	欠	不明、9C	
73	98号住掘り方	297-73	女	1.5	密微	軟	赤褐	なし	なし	なし	△	なし	なし	素文	なし	なし	／	欠	不明、9C	
74	表土	297-74	女	1.2	密微	軟	赤褐	なし	なし	なし	△	なし	なし	素文	なし	なし	／	欠	不明、9C	
75	表土	297-75	女	1.4	密微	軟	褐	なし	なし	なし	△	なし	なし	撫	なし	なし	／	欠	不明、9C	
76	191号住No.1	297-76	女	2.0	密含	並	黄灰	なし	なし	なし	△	なし	なし	編物	なし	なし	／	欠	不明、9C後	
77	100号住床下	297-77	女	1.3	粗含	並	淡灰	なし	なし	なし	△	なし	なし	素文	なし	なし	／	欠	不明、9C後	
78	127号住	297-78	女	1.2															瓦・須恵器不明	
番号	出土位置	図版番号	摘要																	
79	33号溝	297-79	塑物 胎土は瓦類とは異なり、表面化粧があり、塑像、棧型などに関連か。																	

中世瓦

番号	出土位置	図版番号	種別	厚さ	胎土		焼成	成形技法										整形技法		摘要
					素地	夾雑物		焼色	粘土板糸切		寄木	一枚	粘土合目	布合目	叩	轆轤	布擦消		側面取	
									凹面	凸面							凹面	凸面		
80	SS表採	297-80	棧瓦	1.6	粗	なし	硬	黒												黒色燻瓦
81	185H-20一括	297-81	棧瓦	1.8	粗	なし	硬	黒												
82	2区6号溝埋土	297-82	棧瓦	1.6	粗	なし	硬	黒												
83	185H-20一括	297-83	棧瓦	1.6	粗	なし	硬	黒												
84	195H-25No.2	297-84	棧瓦	1.6	粗	なし	硬	黒												
85	160H-35埋土	297-85	棧瓦	1.5	粗	なし	硬	黒												
86	190H-20	297-86	棧瓦	1.5	粗	なし	硬	黒												銀瓦光沢有り

第14表 石製品観察表

出土位置	図版番号	種別器種	長さ・幅 厚さ (cm)	石 材 重さ (g)	特 徴	登録 番号
1区2号 住居跡	第21図6 第115図	砥石	6.3 4.5 2.0	砥沢石 68.9	一端を欠損している。四面を研ぎ面として使用している。	6
2区10号 住居跡	第34図13 第116図	こも編み石	(12.1) 6.1 3.7	砂岩 376.0	一端を欠損している。棒状の楕円礫。	13
2区11号 住居跡	第36図4 第116図	凹石	15.2 12.7 9.3	粗粒輝石安山岩 1,930.0	一面に直径約8.0cmに穴を5.1cm程深く穿孔している。	4
2区13号 住居跡	第38図11 第116図	砥石	1.8 6.1 2.0	砥沢石 29.3	両端を欠損している。少なくとも二面を研ぎ面として使用している。	11
2区14号 住居跡	第42図26 第117図	こも編み石	12.6 4.8 3.9	溶結凝灰岩 379.0	棒状の楕円礫。	26
2区15号 住居跡	第44図14 第118図	凹石	14.4 11.9 8.8	二ヶ岳軽石 1,310.0	一面に直径約3.0cmの穴を0.5cm程深く穿孔している。	14
2区32号 住居跡	第59図1 第119図	凹石	(11.6) (7.9) 7.9	二ヶ岳軽石 350.0	半分ほど欠損しているが、直径5.0cmの穴をすり鉢状に3.9cm以上深く穿孔している。	1
2区35号 住居跡	第63図6 第120図	擦石	9.8 9.2 4.9	石英閃緑岩 558.0	扁平な円礫。二面を擦り面としている。	6

出土位置	図版番号	種別器種	長さ・幅 厚さ (cm)	石 材 重さ (g)	特 徴	登録 番号
	第63図7 第120図	擦石	8.4 9.4 3.5	粗粒輝石安山岩 415.0	扁平な円礫。二面を擦り面としている。	7
2区36号 住居跡	第64図4 第120図	竈石(支脚)	26.8 9.4 8.9	未固結凝灰岩 2,200.0	六角形の切り出し面を持つ。	4
2区40号 住居跡	第68図2 第120図	敲石	11.5 9.2 2.6	粗粒輝石安山岩 399.0	一端を欠損している。一面に敲打によるはがれ痕が残されている。	2
2区44号 住居跡	第70図6 第120図	砥石	(7.3) 3.2 2.3	砥沢石 72.0	一端を欠損している。三面を研ぎ面として使用しており、多数の線状痕が残されている。	6
2区52号 住居跡	第85図9 第122図	砥石	10.5 3.6 1.4	砥沢石 56.8	四面を研ぎ面としている。多数の線状痕が認められる。	9
2区54号 住居跡	第86図7 第122図	竈石	(12.0) 14.2 10.0	二ッ岳軽石 120.0	立方形に切り出されている。	7
2区56号 住居跡	第76図15 第123図	砥石	6.3 3.3 1.1	流紋岩 35.5	四面を研ぎ面として使用しており、多数の線状痕が残されている。頭部付近に両側から穿孔しているが、突き抜けていない。	15
	第76図16 第123図	擦り石	(8.8) 8.7 3.9	粗粒輝石安山岩 454.0	扁平な円礫。	16
	第76図17 第123図	擦り石	12.1 19.8 5.9	粗粒輝石安山岩 3,617.0	扁平な円礫。	17
2区67・81・ 82号住居跡	第98図5 第124図	紡錘車	5.1 — 2.3	二ッ岳軽石 23.2	半分を欠損している。	5
2区71号 住居跡	第107図4 第124図	砥石	(5.3) 6.1 2.2	砥沢石 74.9	一端を欠損している。四面を研ぎ面としている。	4
2区82号 住居跡	第99図4 第125図	こも編み石	12.6 5.8 4.1	砂岩 440.0	棒状の楕円礫。	4
2区89・90号 住居跡	第126図201 第134図	竈石	28.2 16.5 15.0	未固結凝灰岩 9,300.0	四角形の切り出し面を持つ。	201
2区97号 住居跡	第134図8 第134図	砥石	7.3 3.6 1.3	砥沢石 62.2	一端を欠損している。四面を研ぎ面としている。	8
3区111号 住居跡	第146図3 第135図	砥石	11.0 5.6 4.3	砥沢石 350.0	五面を研ぎ面としている。	3
3区127号 住居跡	第159図5 第136図	砥石	(6.7) 2.3 1.9	砥沢石 55.1	一端を欠損している。四面を研ぎ面としている。	5
	第159図6 第136図	砥石	(17.8) (18.4) 8.1	粗粒輝石安山岩 2,093.0	多数の線状痕が残されている。	6
3区128号 住居跡	第160図1 第136図	砥石	(13.2) 5.2 3.6	砥沢石 300.0	一端を欠損している。三面を研ぎ面としており、多数の線状痕が残されている。	1
	第160図2 第136図	凹石・敲石	(8.3) 7.8 3.6	石英閃緑岩 366.0	両端に敲打痕、両面のほぼ中央に凹痕が残されている。	2
3区130号 住居跡	第164図8 第136図	砥石	5.9 3.6 3.0	砥沢石 89.3	あるいは転用による分銅(おもり)なのかもしれない。	8
3区136号 住居跡	第172図18 第139図	紡錘車	5.1 — 1.4	砥沢石 23.3	半分を欠損している。	18
2区159号住 居跡	第193図9 第141図	敲石・擦石	13.3 12.2 3.5	粗粒輝石安山岩 870.0	扁平な円礫。周縁に敲打痕が残されている。	9
2区161号住 居跡	第199図16 第142図	こも編み石	8.6 7.2 3.1	粗粒輝石安山岩 291.0	扁平な楕円礫。	16
2区165号住 居跡	第208図16 第143図	敲石?	13.3 11.0 5.0	粗粒輝石安山岩 1,096.0	扁平な楕円礫。一端に敲打痕が残されている。	16
2区170号住 居跡	第216図8 第145図	凹石	(10.8) (5.6) 4.3	粗粒輝石安山岩 237.0	一端を欠損している。両面のほぼ中央に敲打による凹み痕が残されている。	8
2区178号住 居跡	第224図23 第146図	敲石	(16.5) 8.8 6.2	石英閃緑石 1,131.0	棒状の楕円礫。一端に敲打痕を持つ。一端を欠損している。	23
2区183号住 居跡	第228図6 第147図	こも編み石	13.3 5.9 4.1	粗粒輝石安山岩 510.0	棒状の楕円礫。	6
	第228図7 第147図	こも編み石	12.8 7.5 4.0	粗粒輝石安山岩 673.0	扁平な角礫。	7
	第228図8 第147図	こも編み石	12.4 5.1 4.2	変玄武岩 439.0	棒状の楕円礫。	8

出土位置	図版番号	種別器種	長さ・幅 厚さ (cm)	石 材 重さ (g)	特 徴	登録 番号
	第228図9 第147図	こも編み石	14.5 6.2 4.6	粗粒輝石安山岩 708.0	棒状の楕円礫。	9
	第228図10 第147図	こも編み石	15.1 5.8 4.3	変玄武岩 500.0	棒状の楕円礫。	10
	第228図11 第147図	こも編み石	14.4 5.8 4.0	黒色頁岩 720.0	棒状の角柱礫。	11
	第228図12 第147図	こも編み石	12.2 6.3 4.5	黒色頁岩 497.0	棒状の楕円礫。	12
	第229図13 第147図	こも編み石	15.8 6.1 4.4	変質安山岩 612.0	棒状の楕円礫。	13
	第229図14 第147図	こも編み石	13.3 4.7 4.1	変質安山岩 360.0	棒状の楕円礫。	14
	第229図15 第147図	こも編み石	13.2 5.6 3.5	ひん岩 407.0	棒状の楕円礫。	15
	第229図16 第147図	こも編み石	13.9 7.2 4.5	溶結凝灰岩 721.0	棒状の楕円礫。	16
2区187号 住居跡	第234図6 第148図	敲石?	13.6 4.7 4.3	ひん岩 421.0	棒状の楕円礫。一端を欠損している。	6
1区6号 土坑	第256図1 第149図	砥石	4.6 2.4 1.8	砥沢石 28.0	一端を欠損している。四面を研ぎ面としている。	1
2区22号 土坑	第260図1 第150図	こも編み 石?	11.6 5.6 3.3	粗粒輝石安山岩 328.0	一面に敲打痕?が残されている。	1
2区45号 土坑	第261図1 第150図	紡錘車	4.2 2.0 —	砥沢石 45.1	形状は整っているいるが、一方から穿孔しかけてい るが、突き抜けていない。	1
1区2号溝	第249図1 第148図	砥石?	16.2 11.9 5.6	粗粒輝石安山岩 902.0	二面に線状痕が残されている。	1
1区3号溝	第248図 第148図	石鍋	2.1 径 約25cm	滑石 24.3	削りが粗い。特に内面の突出部の存在が従来の石鍋の 器形と異なる。在地系の石材であり九州からの搬入で はなく、地元産か	1
1区12号溝	第250図1 第149図	凹石	19.6 15.3 11.5	粗粒輝石安山岩 2,683.0	一面に直径約7.0cmの穴を1.2cm程深くさく孔してい る。	1
	第250図2 第149図	凹石	25.5 17.5 15.6	二ッ岳軽石 3,940.0	一面に直径約8.5cmの穴を5.5cm程深くさく孔してい る。	2
2区165H-35	第283図2 第151図	凹石	10.6 8.4 5.8	粗粒輝石安山岩 953.0	両端に敲打痕、両面のほぼ中央に凹痕が残されている。	2
2区175H-29	第284図1 第152図	凹石・敲石	15.4 9.3 7.0	粗粒輝石安山岩 1,631.0	両端に敲打痕、両面のほぼ中央に凹痕が残されている。	1
2区185H-05	第286図1 第153図	砥石	2.0 3.5 67.5	砥沢石 67.4	一端を欠損している。三面を擦面とし、二面に削りだ しのタガネ痕が認められる。	1

第15表 金属製品観察表

出土位置	挿図番号 写真図版	種別 器種	長さ 幅 (cm) 厚さ 重さ (g)	特 徴	備 考 登録番号
2区13号 住居跡	第38図14-1 第116図	鉄 鍬	6.9 (4.7) 0.6 14.1	雁股型。先端の一方を欠損している。	14-1
	第38図14-2 第116図	鉄 不明	3.9 0.6 0.7 5.9	「コ」字状に折り曲げている。(用途不明)	14-2
2区15号 住居跡	第43図 第118図	銅 椀		第5章第1節参照	15
2区19号 住居跡	第50図10 第119図	鉄 紡錘車	(5.7) 3.4 3.3 8.5	両端を欠損している。	10
	2区33号 住居跡	第61図8-1 第119図	鉄 不明	(9.5) 1.2 0.5 18.4	途中で折り曲げている。一端を欠損している。
第61図8-2 第119図		鉄 釘	(7.5) 0.8 0.6 11.6	おそらくは一端を欠損している。	8-2
第61図8-3 第119図		鉄 釘	(6.5) 1.2 0.5 8.4	頭部をつぶしている。先端部を欠損している。	8-3
2区46号 住居跡	第75図11-1 第121図	鉄 釘	(3.8) 1.6 0.5 8.1	叩きつぶして頭部を作り出している。先端部を欠損している。	11-1

出土位置	挿図番号 写真図版	種別 器種	長さ 幅 (cm) 厚さ 重さ (g)	特 徴	備 考 登録番号
	第75図11-2 第121図	鉄 釘	(3.3) 0.6 0.6 3.5	途中で折り曲げている。両端を欠損している。	11-2
2区47・48 号住居跡	第78図1 第121図	鉄 刀子	(6.3) 1.4 0.5 6.0	刃部及び茎の一部を欠損している。	1
2区51号 住居跡	第84図7 第121図	鉄 鎌	(25.1) 8.7 1.6 143.9	U字形鎌。右側半分を欠損している。	7
	第84図8-1 第121図	鉄 刀子	(4.2) 1.5 3.5 6.7	刃部と茎を欠損している。	8-1
	第84図8-2 第121図	鉄 刀子?	(2.5) 0.9 0.3 3.2	断面の形状から刃部と考えられる。	8-2
2区52号 住居跡	第85図10-1 第122図	鉄 釘	(5.5) 0.6 0.6 3.6	頭部を欠損している。	10-1
	第85図10-2 第122図	鉄 刀子?	(5.1) 1.9 0.5 4.8	刃部の先端部(切先)と考えられる。あるいは鎌か?	10-2
2区60号 住居跡	第87図1 第123図	鉄 不明	(31.1) 1.1 0.5 100.0	「L」字状に折れ曲がっている。あるいは鋸か?	1
2区67号 住居跡	第98図8 第124図	鉄 刀子	(7.5) 1.3 0.5 8.0	切先を欠損している。	8
2区68号 住居跡	第101図4 第124図	鉄 釘	(3.8) 1.1 0.5 2.4	一端を叩きつぶして折り曲げ、頭部としている。先端部を欠損している。	4
	第101図5 第124図	鉄 釘	3.4 0.8 0.4 1.9	先端部を欠損している。一端を叩きつぶして折り曲げ、頭部としている。	5
	第101図6 第124図	鉄 釘	(6.2) 1.6 0.4 7.9	先端部を欠損している。一端を叩きつぶして折り曲げ、頭部としている。	6
	第101図7 第124図	鉄 刀子	(5.7) 1.2 0.4 4.2	茎を欠損している。	7
	第101図8 第124図	鉄 釘?	(4.2) 0.6 0.5 2.6	頭部を欠損している。	8
2区69号 住居跡	第103図5 第124図	鉄 刀子	(7.0) 0.7 0.5 4.9	切先を欠損している。	5
2区82号 住居跡	第99図5 第125図	鉄 刀子	(9.6) 1.2 0.5 7.4	茎を欠損している。	5
2区89・90 号住居跡	第126図200 第134図	鉄 直刀	(25.5) 2.3 0.7 57.3	切先を欠損している。身の一部に木質が残っており、鞘と考えられる。	200
2区94号 住居跡	第131図2 第134図	鉄 刀子	(5.5) 0.9 0.4 4.9	刃部と茎の一部を欠損している。	2
3区111号 住居跡	第146図4 第135図	鉄 刀子?	(8.3) 0.8 0.5 4.6	刃部を欠損している。茎に木質が残っており、鞘と考えられる。	4
	第146図5-1 第135図	鉄 刀子	(4.5) 1.1 0.5 2.6	刃部と茎の一部を欠損している。	5-1
	第146図5-2 第135図	鉄 刀子	(3.8) 0.8 0.4 2.8	刃部と茎の一部を欠損している。	5-2
3区116号 住居跡	第152図8 第136図	鉄 斧	15.9 5.5 3.4 444.1	ほぼ完形である。	8
3区118号 住居跡	第154図1 第136図	鉄 刀子	10.4 1.6 0.5 14.0	切先と茎の一部を欠損している。	1
3区127号 住居跡	第159図7 第136図	鉄 不明	7.4 2.2 1.4 74.9	頭部と基部の間にくびれを持つ。	7
	第159図8 第136図	鉄 釘	8.2 1.4 0.8 12.9	一端を折り曲げて頭部を作り出している。	8
3区134号 住居跡	第169図13 第138図	鉄 鎌	11.5 2.1 0.8 15.6	鑿型。ほぼ完形である。	13
3区136号 住居跡	第172図19 第140図	鉄 刀子	(12.2) 2.1 0.5 22.7	茎を欠損している。	19
2区138号 住居跡	第174図3 第140図	鉄 釘	(9.1) 1.4 0.6 22.5	先端を欠損している。	3
	第174図4 第140図	鉄 釘	(3.9) 0.6 0.6 2.5	両端を欠損している。	4
	第174図5 第140図	鉄 釘	(5.4) 0.8 0.7 7.9	両端を欠損している。	5

出土位置	挿図番号 写真図版	種別 器種	長さ 厚さ	幅 (cm) 重さ (g)	特 徴	備 考 登録番号
2区150号 住居跡	第184図3 第140図	鉄 刀子	(12.7) 0.4	1.5 12.6	切先と茎の一部を欠損している。	3
2区151号 住居跡	第185図8 第140図	鉄 釘	4.0 0.7	0.8 6.1	一端を折り曲げて頭部を作り出している。先端部を欠損している。	8
2区159号 住居跡	第194図11 第141図	鉄 釘	11.2 0.6	0.8 12.8	やや湾曲している。	11
2区164号 住居跡	第204図9 第143図	銅 ?	5.5 0.6	8.3 64.3	未製品とも考えられる。	9
2区165号 住居跡	第209図17 第143図	鉄 紡錘車	5.1 1.0	7.2 35.5	軸の両端を欠損している。	17
2区172号 住居跡	第197図3 第145図	銅 金具	2.0 0.4	3.3 6.5	飾り金具と考えられる。	3
	第197図4 第145図	鉄 釘	(4.5) 0.4	0.7 4.1	両端を欠損している。	4
2区173号 住居跡	第219図7 第145図	鉄 釘	(5.9) 0.6	1.2 7.6	一端を折り曲げて頭部を作り出している。先端部を欠損している。	7
2区172号 土坑	第267図3-1 第150図	鉄 釘	9.2 0.9	0.9 16.5	一端を叩きつぶして頭部を作り出している。木質が付着している。ほぼ完形である。	3-1
	第267図3-2 第150図	鉄 釘	6.7 0.7	0.8 9.5	一端を叩きつぶして頭部を作り出している。木質が付着している。先端を欠損している。	3-2
	第267図3-3 第150図	鉄 釘	(4.0) 0.3	0.5 5.3	一端を軽く叩きつぶしている。やや湾曲している。木質が付着している。先端を欠損している。	3-3
	第267図3-4 第150図	鉄 釘	(4.0) 0.6	0.8 4.2	木質が付着している。両端を欠損している。	3-4
	第267図3-5 第150図	鉄 釘	(3.0) 0.6	0.5 2.1	木質が付着している。両端を欠損している。	3-5
	第267図3-6 第150図	鉄 釘	(3.6) 0.9	0.9 5.0	一端を叩きつぶして頭部を作り出している。先端を欠損している。	3-6
	第267図4-1 第150図	鉄 釘	8.7 0.7	1.2 13.6	一端を叩きつぶして頭部を作り出している。木質が付着している。ほぼ完形である。	4-1
	第267図4-2 第150図	鉄 釘	(6.7) 0.8	0.9 9.0	一端を叩きつぶして頭部を作り出している。木質が付着している。	4-2
	第267図4-3 第150図	鉄 釘	(2.6) 0.3	0.5 1.4	木質が付着している。両端を欠損している。	4-3
2区192号 土坑	第270図1 第150図	鉄 釘	(3.6) 0.4	0.4 1.5	先端を欠損している。	1
2区198号 土坑	第271図1 第150図	鉄 刀子	(19.6) 0.7	1.4 30.6	切先を欠損している。	1
2区 145H-00	第283図1 第151図	鉄 釘	(2.8) 0.5	0.8 1.3	一端を欠損している。	1
2区 165H-30	第283図1 第151図	鉄 釘	(2.8) 0.6	0.7 1.3	両端を欠損している。	1
2区 185H-00	第286図10 第153図	鉄 釘	(9.2) 0.6	1.1 8.6	一端を叩きつぶして頭部としている。	10
	第286図11 第153図	鉄 釘	(4.4) 0.6	1.1 2.8	一端を叩きつぶして頭部としている。	11
2区 195H-20	第287図17 第154図	鉄 釘	(9.8) 0.6	1.2 17.3	一端を叩きつぶして頭部としている。	17
	第287図18 第154図	鉄 鎌	(7.0) 0.5	1.0 6.8	柳葉型。先端と茎の一部を欠損している。	18
2区 190H-25	第287図2 第154図	鉄 不明	(3.0) 0.4	0.7 3.5	「T」字状で、一端を欠損している。	2
2区一括	第290図16 第155図	鉄 不明	(5.0) 0.7	2.0 10.1	一端が輪状になっている。一端を欠損している。錆化が進んでおらず、比較的新しい時期のものと考えられる。	16
3区一括	第291図28 第156図	鉄 釘	(4.1) 0.4	0.6 1.7	一端を欠損している。	28

第16表 鉄滓・鉄塊系遺物観察表 写真図版 第161図

出土位置	挿図番号	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	特 徴	備考 登録番号
1区8号住居跡	第30図-13	6.0	4.1	2.3	74.6	赤黒色。不純物の付着が多い。	13
	第30図-14	7.0	5.0	1.9	93.8	磁石への反応が強い。あるいは鉄製品の破片か。	14
	第30図-15	3.1	4.0	1.3	19.2	黒～黒灰色。あるいは溶融物か。	15
2区67号住居跡	第98図-9	4.4	2.7	1.1	22.0	赤褐～赤黒色。あるいは溶融物か。	9
2区69号住居跡	第103図-6	5.9	4.4	3.2	76.1	赤褐色。大小の気泡がある。	6
2区84号住居跡	第72図-11	1.7	3.3	1.1	8.6	磁石に反応する。竈内出土のためか、熱により破砕されてる。	11
3区129号住居跡	第161図-3	2.5	3.7	1.8	20.0	磁石への反応がとて強い。あるいは鉄製品の破片か。	3
2区145号住居跡	第178図-2	5.2	6.0	3.0	95.2	赤褐～赤黒色。大小の気泡がある。	2
2区161号住居跡	第199図-17	3.9	4.6	2.8	55.0	赤褐～赤黒色。大小の気泡があり、椀形である。	17
2区162号住居跡	第201図-2	3.4	3.7	1.5	23.8	赤褐色。大小の気泡がある。	2
2区175G-45	第285図-8	5.2	5.3	1.5	52.9	赤褐～赤黒色。気泡があり椀形である。	9
2区185H-00	第286図-12	5.0	5.5	3.7	103.0	磁石に反応する。	12
2区185H-24	第286図-1	3.9	4.9	2.3	59.5	磁石に反応する。	1

第17表 古銭観察表

出土位置	図版番号	写真図版	出土位置	残存状態	銭 名	書 体	外輪径 (cm)	内輪径 (cm)	重 さ (g)
2区10号住-14	第35図	第116図	—	完形	熙寧元寶	真 書	2.4	1.7	2.8
2区19号土坑-2	第258図	第161図	床直	2/3	嘉祐元寶	真 書	2.4	2.0	1.4
	第258図	第161図	床直	完形	皇宋通寶	篆 書	2.5	2.0	2.9
	第258図	第161図	床直	完形	祥符通寶	真 書	2.5	1.8	2.0
	第258図	第161図	床直	完形	開元通寶	真 書	2.3	2.0	3.0
	第258図	第161図	床直	完形	慶元通寶	真 書	2.4	2.1	2.5
	第258図	第161図	床直	完形	皇宋通寶	篆 書	2.5	2.0	3.1
	第258図	第161図	床直	完形	開元通寶	真 書	2.5	2.1	2.6
	第258図	第161図	床直	完形	咸平元寶	真 書	2.5	1.8	3.4
2区20号土坑-1	第258図	第161図	床直	完形	不明		2.5	2.0	3.3
	第258図	第161図	床直	完形	治平元寶	真 書	2.4	1.9	3.6
	第258図	第161図	床直	完形	永樂通寶	真 書	2.5	2.2	3.7
	第258図	第161図	床直	完形	天聖元寶	真 書	2.4	2.2	3.0
	第258図	第161図	床直	完形	宣和通寶	分 楷	2.4	2.1	2.8
	第258図	第161図	床直	完形	不明		2.3	1.7	3.2
	第258図	第161図	床直	完形	不明		2.3	1.7	3.2

第18表 住居構造一覽表

住居形態：正方形 A、長方形（南北長 B・東西長 C）、台形 D、不定形 E、不明—

住居 番号	住 居 の 構 造				カ マ ド の 構 造								
	形態	長辺長	短辺長	面 積	全 長	屋内長	屋外長	燃焼部長	煙道長	袖間隔	燃焼部幅	煙道部幅	主軸方向
1	—												E107°
2	B	4.17	3.06	10.45	0.60	0.16	0.44			0.89	0.65		E132°
3	A	2.82	2.73	6.23	0.75	0.06	0.69			0.89	0.70		E134°
4	B	2.96	2.70	5.91	(0.78)	(0.53)	(0.25)	(0.50)	(0.28)	(0.74)	(0.50)	(0.30)	E 92°
5	B												E112°
6	A	(2.52)											E 89°
7	—				0.84	0.44	0.40			1.04	0.72		E 73°
8	B	5.28	4.76	18.93									E121°
9	—												E 84°
10	B	4.00	2.64	7.35	0.77	0.35	0.42			0.57	0.36		E123°
11	C		(3.98)										E 99°
12	C	4.76	(4.06)	14.43									E120°
13	B				1.46	0.86	0.60			0.97			E 98°
14	B				0.96	0.52	0.44			0.53	0.23		E 86°
15	B				(1.77)	(0.86)	(0.91)			(0.97)	(0.62)		E100°
16	B	4.06	3.32	10.61	(0.48)	(0.23)	(0.25)			(0.48)			E106°
17	D	5.10	4.60	17.83	0.85	0.30	0.55			1.09	0.61		E 95°
18	A	3.81	3.78	11.95	0.91	0.43	0.48			0.57	0.30		E 88°
19	A	3.30	3.20	7.87									E 80°
20	A	(2.98)	(2.44)	(5.70)									E 90°
21	D	4.13	4.01	14.33	0.80	0.40	0.40			0.70	0.43		E 90°
22	—												E115°

住居 番号	住居の構造				カマドの構造								
	形態	長辺長	短辺長	面積	全長	屋内長	屋外長	燃焼部長	煙道長	袖間隔	燃焼部幅	煙道部幅	主軸方向
23	B	(2.62)			1.20			0.56	0.64	(1.18)	(0.89)	0.40	E 91°
24	—												
25	—												
26	B	(4.82)			0.49	0.13	0.36			0.84	0.53		E 84°
27	B		(3.08)				0.78			0.77	0.32		E 90°
28	—												E123°
29	—												E115°
30	—												
31	—		(2.54)										E 87°
32	B												E272°
33	B	2.99	5.76	14.61	0.99	0.37	0.62	0.69	0.30	0.68	0.35		E 79°
34	C	(3.80)	(3.24)	9.83									E 77°
35	B	4.83	4.58	17.14	1.30	0.34	0.96	0.83	0.47	0.98	0.62	0.20	E 90°
36	C		(4.51)	12.08	1.30	0.46	0.84			0.73	0.35		E 73°
37	—		(2.92)										E 20°
38	B												E 89°
39	B		(3.41)		0.32	0.24	0.08			0.52	0.27		E 95°
40	B		(3.86)		(0.57)	(0.16)	(0.41)			(0.47)	(0.26)		E111°
41	A	6.41	6.13	31.42									E 94°
42	B		(2.23)										E 92°
43	B	5.49	3.34	13.56	0.69	0.28	0.41			0.93	0.60		E 91°
44	C	(4.48)	3.45	13.46									E 83°
45	—	(2.06)											E 92°
46	C		(3.26)		(0.97)								E 98°
47	—												E 63°
48	A	3.70	3.65	10.76	0.69	0.17	0.52			1.20	0.95		E108°
49	B	5.73	(3.80)	(17.70)									E 97°
50	B	(4.24)											E 91°
51	C	4.72	3.42	12.81	0.69	0.41	0.28			0.79	0.42		E184°
52	B	(4.42)	3.05	10.76	0.89	0.19	0.70			0.64	0.34		E270°
53	B												E 90°
54	B	(3.44)			0.73	0.39	0.34			0.84	0.50		E133°
55	B		(3.13)										E 90°
56	B		(4.52)		0.93	0.22	0.71			1.36	0.96		E105°
57	B	(3.53)	(2.81)	8.36									E 78°
58	—	(6.31)											E101°
59	—												E 97°
60	—												E 97°
61	—		(3.48)										
62	—				1.35	0.45	0.90			0.99	0.59		E 68°
63	B	3.41	2.28	6.05	0.49	0.17	0.32			0.77	0.48		E104°
64	B	4.59	3.94	14.10	(0.49)	(0.11)	(0.38)			(0.87)	(0.72)		E116°
65	B			(5.81)	0.49	0.19	0.30			0.75	0.46		E113°
66	—	(3.04)											
67	—				0.72	0.18	0.54			0.87	0.53		E203°
68	B	(5.96)	4.65	(20.25)	1.79	0.32	1.47	0.85	0.94	0.92	0.52		E117°
69	B	3.98	3.10	9.46									E124°
70	B				0.58	0.27	0.31			0.77	0.44		E123°
71	B		(3.55)	(15.21)	0.98	0.23	0.75						E 88°
72	—												E 95°
73	C		(3.63)										E 87°
74	B	5.44	4.30	20.29	0.75	0.39	0.36			1.11	0.67		E 78°
75	—	(4.30)											E104°
76	B												E 80°
77	C												E 81°
78	—	(4.87)											E 90°
79	—												
80	—												
81	—												E 96°
82	—		(4.06)										E 88°

住居 番号	住居の構造				カマドの構造								
	形態	長辺長	短辺長	面積	全長	屋内長	屋外長	燃焼部長	煙道長	袖間隔	燃焼部幅	煙道部幅	主軸方向
83	—		(3.23)										E 89°
84	B	(3.93)											E 84°
85	B	(4.97)											E 89°
86	A	(3.12)											E110°
87	B	(5.26)											
88	A	3.76	3.65	11.29	1.06	0.34	0.73			0.92	0.34		E 83°
89	B		(6.70)										
90	C		(4.00)		0.90	0.20	0.70			0.86	0.62		E 67°
91	—	(3.71)											
92	—	(5.11)											E110°
93	—	(4.33)											
94	—	(4.81)											
95	—		(3.87)										E 16°
96	—												E102°
97	—	(4.67)											E 88°
98	B	3.53	(2.19)	(6.07)									E 94°
99	B												E115°
100	C	(5.26)			0.38	0.15	0.23			0.53	0.27		E 86°
101	C	5.20	(4.44)	17.92	0.58	0.22	0.36			0.39	0.23		E103°
102	—												E 85°
103	欠番												
104	—												
105	—												
106	—	(4.61)		(14.32)	1.69	0.66	1.03	0.86	0.83	0.71	0.57	0.24	E 98°
107	—				0.50					0.63			E 88°
108	D	3.36	2.92	7.67									
109	B	(3.82)			0.69	0.20	0.49			0.81	0.51		E 58°
110	—												
111	B	(3.14)	2.66	7.02									E 90°
112	B		(3.16)		0.81	0.34	0.47			0.96	0.88		E 90°
113	—	(3.59)			0.66	0.23	0.43			0.73	0.50		E 87°
114	—												E 83°
115	—	(4.06)											E100°
116	A	3.06	2.74	6.15	(0.59)								
117	B	(5.16)	(3.86)	(16.81)	0.89	0.16	0.73			0.84	0.54		E282°
118	C	(4.90)	(4.66)	(19.44)	0.53	0.18	0.35			1.13	(0.97)		E 85°
119	B	(4.61)	(3.34)	13.49	(0.80)					(0.66)			E 79°
120	—												
121	B	3.77	3.13	9.85	0.48	0.32	0.16			0.68	0.46		E 86°
122	—	3.73			(0.68)					(1.11)			E 82°
123	—				(0.37)					(0.77)			E 81°
124	B		(2.68)		(0.52)					(0.65)			E 91°
125	B	2.52	1.98	4.30									
126	欠番												
127	B	4.42	3.83	11.27	1.17	0.63	0.54			0.68	0.35		E 90°
128	—												E 90°
129	—	(3.76)											E 80°
130	B	3.42	3.10	(8.01)	(0.45)					(0.55)			E 73°
131	B	4.64	4.27	(15.77)	(0.70)					(1.33)			E 76°
132	D	4.74	4.61	17.75	1.46	0.19	1.27	0.97	0.49	0.67	0.46	0.14	E 90°
133	B				0.69	0.18	0.51			0.74	0.44		E 93°
134	B	(5.24)			(0.78)	(0.19)	(0.59)			0.98	0.65		E 88°
135	欠番												
136	B	4.17	3.25	9.87	0.83	0.32	0.51			(0.94)	(0.60)		E 92°
137	C		(3.24)										
138	B												
139	B												
140	B		(4.28)		0.79	0.12	0.67			0.83	0.55		E 96°
141	B	3.86	3.18	10.50	0.49	0.07	0.42			0.64	0.54		E 88°
142	B	(3.59)	(3.30)										E 90°

住居 番号	住居の構造				カマドの構造								
	形態	長辺長	短辺長	面積	全長	屋内長	屋外長	燃焼部長	煙道長	袖間隔	燃焼部幅	煙道部幅	主軸方向
143	B	(4.32)											E 98°
144	C												E121°
145	—												
146	—												E 83°
147	—	3.83	3.15	10.21	(0.95)								E 98°
148	B	3.60	2.70	8.39									E 87°
149	B	(3.97)	3.10	10.21	0.69	0.21	0.48			0.75			E 87°
150	B		(3.70)		0.73	0.06	0.67			0.61	0.32		E 95°
151	C	4.77	3.88	14.41	(0.50)					(0.58)			E185°
152	C	4.62											E 80°
153	E		(3.94)										
154	B	5.61	3.98	20.01									E 79°
155	B	3.98	3.18	9.04									E 87°
156	—												E 92°
157	—												
158	—												
159	B	6.41	4.44	23.47	1.05	0.49	0.56	0.64	0.41	0.77	0.37	0.16	E 92°
160	B												E100°
161	B	(4.50)	3.45	(12.64)									E 93°
162	B	4.49	3.20	11.83	0.65	0.18	0.47			0.77	0.53		E100°
163	—	(4.26)											E 88°
164	C	(4.78)	3.42	14.41	0.46	0.08	0.38			0.93	0.46		E 94°
165	B	4.45	3.53	11.11	0.73	0.20	0.53			0.60	0.26		E104°
166	A	3.60	3.49	8.89									
167	E	—											
168	B	(4.82)	(3.35)	13.54	1.53	1.02	0.51			0.99	0.83		E 93°
169	B												
170	B	5.50	5.23	24.65	0.93	0.30	0.63			(1.12)	0.51		E 64°
171	—		3.31		0.71	0.36	0.35			0.62	0.39		E142°
172	B				0.66	0.20	0.46			0.86	0.68		E 99°
173	B	4.98	3.32	13.85	0.66	0.26	0.40			0.62	0.43		E 90°
174	—												
175	—												
176	C	(3.54)	(2.75)	8.01									E179°
177	B		3.86		0.56					1.81	1.47		E101°
178	B												
179	C	3.29	2.90	7.27									E111°
180	B	4.50	(3.34)	13.17	0.78	0.32	0.46			1.02			E 95°
181	—												E178°
182	B	4.26	2.68	8.59									
183	—	(4.01)											E 68°
184	B	(7.06)											E 80°
185	B	9.16	7.95		(1.18)					(0.88)	(0.52)		E190°
186	—												
187	B		(6.50)		0.77	0.27	0.50			0.88	0.42		E 93°
188	B		(4.12)		(0.70)	(0.22)	(0.48)						E110°
189	—		(2.46)										E103°
190	—		(2.50)										E 84°
191	—												E 92°
192	—		2.15										E 90°
193	—												E 73°
194	—		2.40		0.64					0.82			E100°

第19表 中近世陶遺物観察表

挿図番号 写真図版	出土位置	種別 器種	残存状態	特 徴	備 考 登 録 番 号
第298図-1 第165図	?	青磁 椀	口縁部片	龍泉窯系青磁 I 5 b 類。	1
第298図-2 第165図	3 区145H30 一括	青磁 椀	口縁部片	龍泉窯系青磁 I 5 b 類。	2
第298図-3 第165図	2 区195H10 一括	青磁 椀	体部下位片	龍泉窯系青磁 I 5 b 類。	3
第298図-4 第165図	2・3 区16溝 一括	陶器 大皿	底部片	瀬戸・美濃系陶器。折縁深皿か大皿の底部片。体部中位まで灰釉。外面のロクロ目顕著。三足であろう。古瀬戸後期。	4
第298図-5 第165図	1 区1 号井戸 覆土	中世土器 盤	口縁部片	在地。内面に2ヶ所深い刺突。1方は貫通していた可能性高い。中世。	5
第298図-6 第165図	3 区表採	陶器 甕	体部片	知多窯。焼締陶器甕の体部片。中世。	6
第298図-7 第165図	2 区19溝覆土	陶器 甕	口縁部片	知多窯。焼締陶器甕の口縁部片。15世紀後半。	7
第298図-8 第165図	2 区19溝覆土 97住No15	軟質陶器 鉢	底～体部 1/2	在地。底部外面回転糸切り無調整。内面体部下端と底部周縁使用により摩滅。底部外面も周縁が摩滅する。中世。還元焰。	8
第298図-9 第165図	2 区21溝一括 94住覆土	軟質陶器 鉢	底～体部 1/2	在地。底部外面砂底か。使用により内面底部周縁と体部下位磨滅する。中世。還元焰。	9
第298図-10 第165図	175G45 一括	陶器 不詳	口縁部片	製作地不詳。器種不詳。焼成から近代以降の可能性高い。	10
第298図-11 第165図	2 区1 号道跡 No1	陶器 徳利	底部片	瀬戸・美濃系か。器質に焼き締まり、外面には鉄泥を施す。備前を意識したものであろう。18～19世紀。	11
第298図-12 第165図	2 区185H-20 表土	石盤	周縁小片	13、14は周縁の小片。罫線は認められない。12は長く、石盤ではない可能性もある。	12
第298図-13 第165図	2 区190H-10 一括	石盤	周縁小片	13、14は周縁の小片。罫線は認められない。12は長く、石盤ではない可能性もある。	13
第298図-14 第165図	2 区195G-35 一括	石盤	周縁小片	13、14は周縁の小片。罫線は認められない。12は長く、石盤ではない可能性もある。	14
第298図-15 第165図	2 区172G-47 表採	板碑?	小片	小片であるが、石質から板碑片の可能性はある。	15

写真図版



下東西清水上遺跡
全景（南から）
左側に榛名山、
右側に関越自動車道を望む。



下東西清水上遺跡
全景（北から）
左側に関越自動車道、
南側には関東平野が広がる。



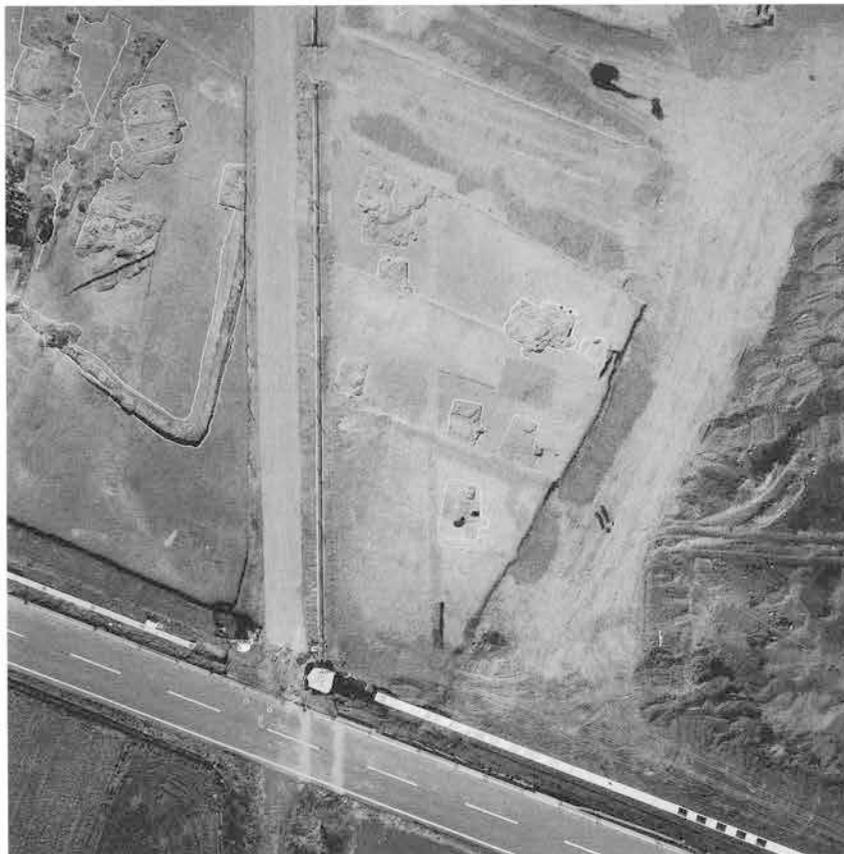
下東西清水上遺跡
1区・2区・3区（上空から）
右側に関越自動車道を望む。



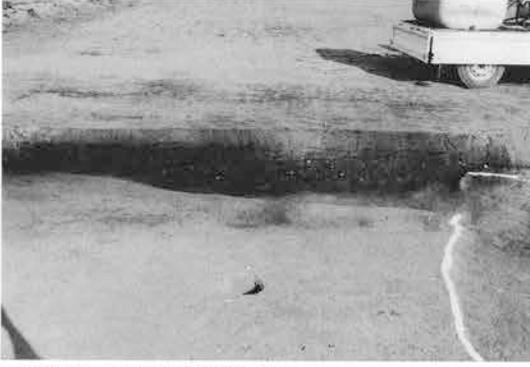
下東西清水上遺跡
2区（上空から）
密集する竪穴住居跡群、
掘立柱建物跡群、
中世の大溝などが見える。



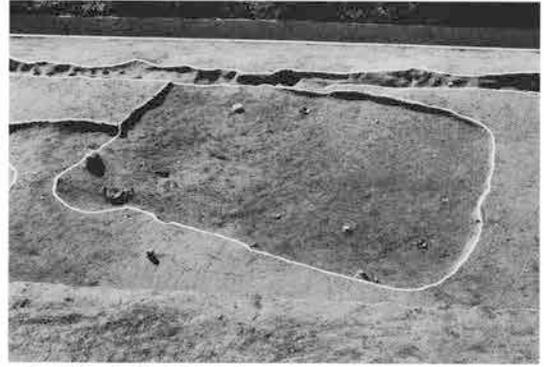
下東西清水上遺跡
3区北側（上空から）



下東西清水上遺跡
3区南側（上空から）



1号住 土層断面 (西から)



2号住 全景 (東から)



2号住 土層断面A-A' (東から)



2号住 掘り方全景 (西から)



2号住 掘り方土層断面A-A' (東から)



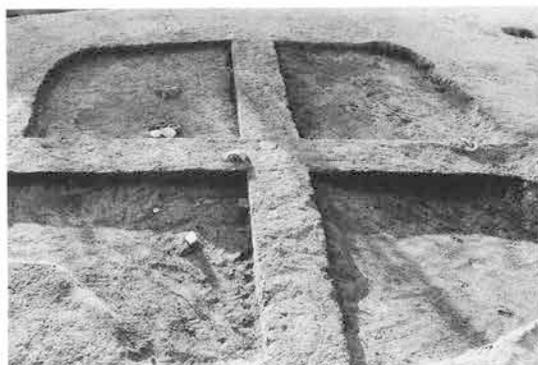
2号住 掘り方土層断面B-B' (南から)



2号住 竈全景 (西から)



3号住 全景 (東から)



3号住 土層断面A-A'(東から)



3号住 掘り方全景(西から)



3号住 掘り方土層断面A-A'(東から)



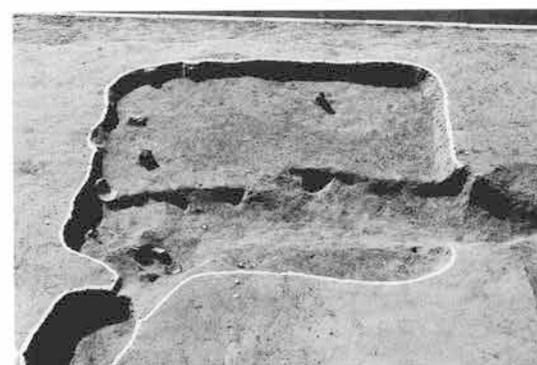
3号住 竈全景(西から)



3号住 竈土層断面(西から)



3号住 竈掘り方土層断面(西から)



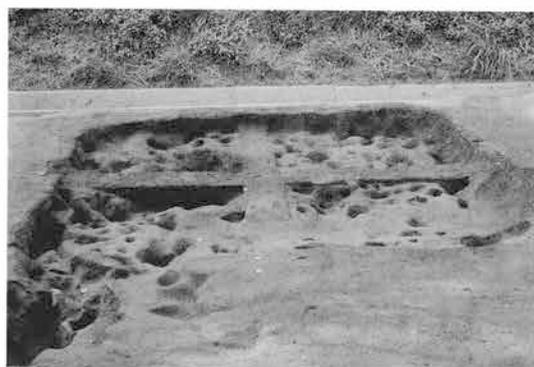
4号住 遺物出土状態・全景(東から)



4号住 土層断面A-A'(東から)



4号住 掘り方全景（東から）



4号住 掘り方土層断面A-A'（東から）



4号住 竈全景・遺物出土状態（西から）



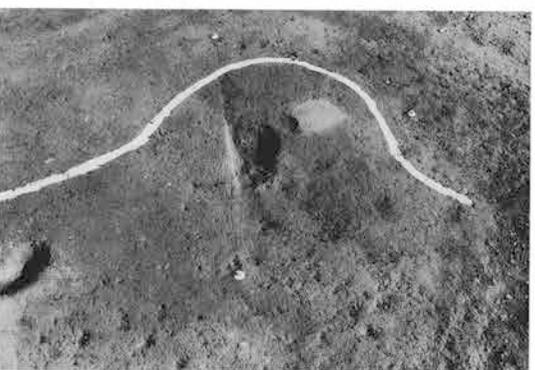
4号住 竈土層断面（西から）



5号住 掘り方全景（西から）



5号住 掘り方土層断面（東から）



5号住 竈全景（西から）



5号住 竈掘り方全景（西から）



6号住 全景 (西から)



6号住 土層断面 (西から)



6号住 土層断面 (南西から)



6号住 掘り方全景 (西から)



6号住 竈全景・遺物出土状態 (西から)



6号住 竈土層断面 (南西から)



6号住 竈掘り方土層断面 (北西から)



7号住 全景 (南から)



7号住 土層断面（南から）



7号住 掘り方全景（西から）



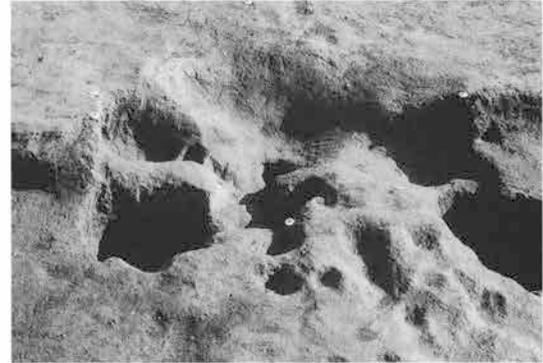
7号住 床下土坑土層断面（西から）



7号住 竈全景（西から）



7号住 竈土層断面（南から）



7号住 竈掘り方全景（西から）



8号住 遺物出土状態・全景（西から）



8号住 土層断面（南から）



8号住 掘り方全景 (西から)



8号住 掘り方土層断面A-A'(西から)



9号住 全景 (西から)



27号住 全景 (西から)



27号住 遺物出土状態・全景 (西から)



9号住 土層断面 (南から)



27号住 土層断面 (南から)



9号住 掘り方全景 (西から)



27号住 掘り方全景 (西から)



27号住 竈全景・遺物出土状態 (西から)



27号住 竈土層断面 (西から)



27号住 竈掘り方全景 (西から)



27号住 竈掘り方土層断面 (西から)



10・12号住 遺物出土状態・全景 (西から)



10号住 全景 (西から)



10号住 土層断面 (東から)



10号住 貯蔵穴土層断面及び遺物出土状態 (東から)



10・12号 住掘り方全景 (西から)



10号住 掘り方全景 (西から)



10号住 掘り方土層断面B-B'(南から)



10号住 竈全景 (西から)



10号住 竈土層断面B-B'(南から)



10号住 竈掘り方土層断面B-B'(南から)



11号住 掘り方全景・遺物出土状態 (西から)



11号住 竈崩落状況 (西から)



13号住 全景 (西から)



13号住 遺物出土状態・全景 (西から)



13号住 土層断面 (南から)



13号住 土層断面 (東から)



13号住 掘り方全景 (西から)



13号住 床下土坑土層断面 (南から)



13号住 竈全景・遺物出土状態 (西から)



13号住 竈掘り方全景 (西から)



13号住 竈掘り方土層断面 (南から)



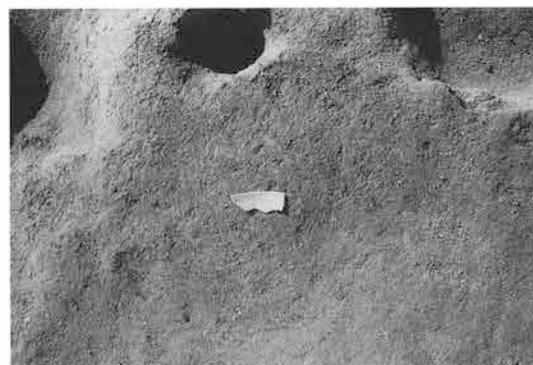
14・15号住 遺物出土状態・全景 (西から)



14号住 全景 (西から)



14・15号住 土層断面A-A'(東から)



15号住 銅椀出土状態 (北から)



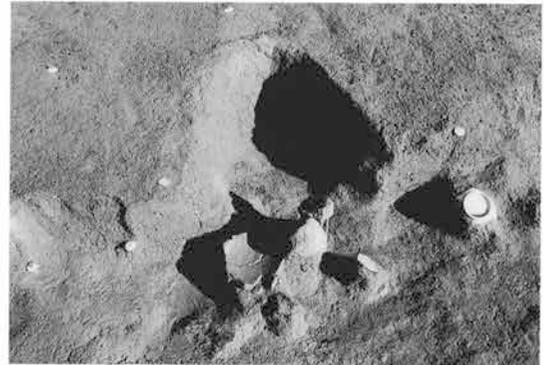
14号住 掘り方全景 (西から)



15号住 掘り方全景 (西から)



14号住 掘り方土層断面 (南東から)



14号住 竈全景・遺物出土状態 (西から)



14号住 竈土層断面 (南から)



14号住 竈掘り方全景 (西から)



15号住 竈全景・遺物出土状態・全景 (西から)



15号住 竈土層断面B-B (南から)



15号住 竈掘り方全景 (西から)



16号住 全景 (西から)



16号住 遺物出土状態・全景（西から）



16号住 土層断面A-A'（西から）



16号住 貯蔵穴遺物出土状態（西から）



16号住 掘り方全景（西から）



16号住 竈全景・遺物出土状態（西から）



16号住 竈掘り方全景（西から）



17号住 全景（西から）



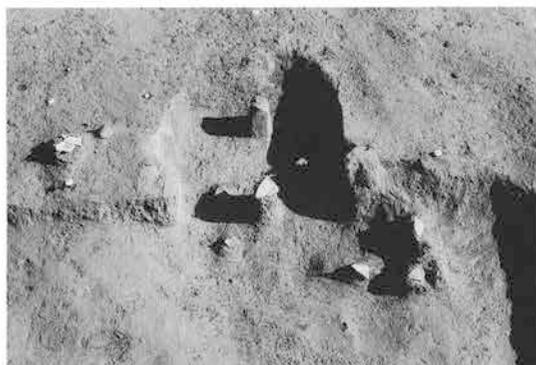
17号住 遺物出土状態・全景（西から）



17号住 土層断面B-B'(南から)



17号住 掘り方全景(西から)



17号住 竈全景・遺物出土状態(西から)



17号住 竈土層断面(南西から)



17号住 竈掘り方全景(西から)



18号住 全景(西から)



18号住 遺物出土状態・全景(西から)



18号住 土層断面A-A'(西から)



18号住 掘り方全景・22号住竈（西から）



18号住 竈全景・遺物出土状態（西から）



18号住 竈土層断面・煙道部（西から）



18号住 竈土層断面（西から）



18号住 竈掘り方全景（西から）



22号住 竈全景（西から）



22号住 竈土層断面（南から）



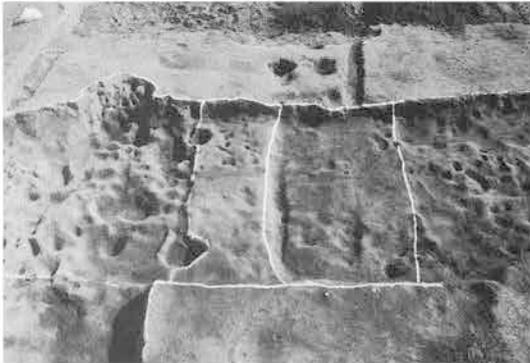
22号住 竈掘り方土層断面（南から）



19号住 遺物出土状態・全景（西から）



19号住 土層断面 A-A'（西から）



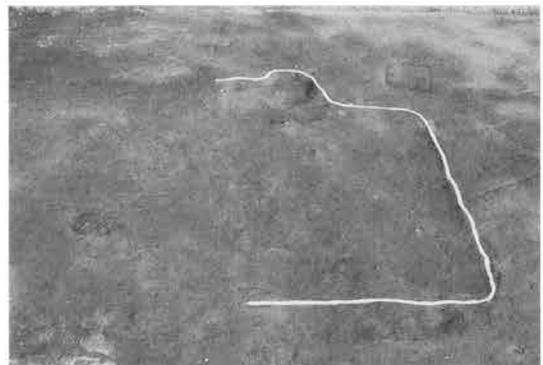
20号住 掘り方全景（西から）



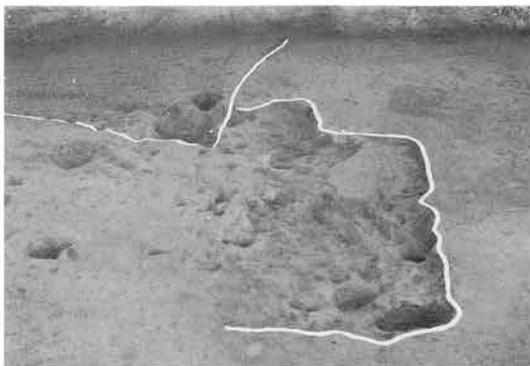
20号住 掘り方全景（北西から）



21号住 掘り方全景（西から）



23号住 全景（西から）



23号住 掘り方全景（西から）



24号住 掘り方全景（南西から）



25号住 掘り方全景 (西から)



26号住 全景 (西から)



26号住 土層断面 (西から)



26号住 掘り方土層断面 (南から)



26号住 竈全景・遺物出土状態 (西から)



26号住 竈土層断面 (南から)



28号住 全景 (南西から)



29号住 全景 (北西から)



30号住 全景（東から）



30号住 遺物集中地点（南から）



30号住 ピット1 遺物（東から）



30号住 ピット2 遺物（南西から）



30号住 ピット3 遺物（南東から）



30号住 掘り方全景（東から）



30号住 掘り方土層断面（北から）



32号住 全景（東から）



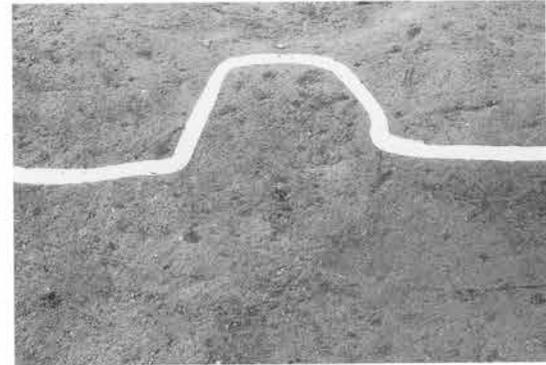
31・32号住 土層断面（東から）



31号住 掘り方全景（東から）



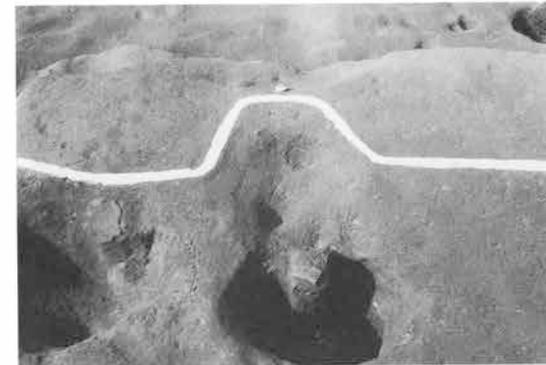
32号住 掘り方全景（東から）



32号住 竈全景（東から）



32号住 竈土層断面（南から）



32号住 竈掘り方全景（東から）



33・34号住 全景（西から）



34号住 遺物出土状態・全景（西から）



33・34号住 土層断面B-B'(南から)



33・34号住 土層断面(北西から)



33・34号住 掘り方全景(西から)



33号住 竈全景・遺物出土状態(西から)



33号住 竈土層断面(南から)



35号住 遺物出土状態・全景(西から)



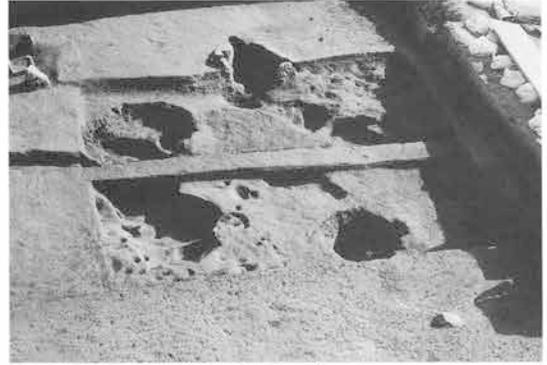
36号住 全景(西から)



37号住 全景(西から)



35~37号住 土層断面 (南東から)



35号住 掘り方全景 (北西から)



36号住 掘り方全景 (西から)



37号住 石斧出土状態 (南から)



35号住 竈全景 (西から)



35号住 竈土層断面 (南から)



35号住 竈掘り方全景 (東から)



35号住 竈掘り方土層断面B-B' (南から)



36号住 竈全景・遺物出土状態 (西から)



36号住 竈土層断面 (南西から)



36号住 竈掘り方土層断面 (西から)



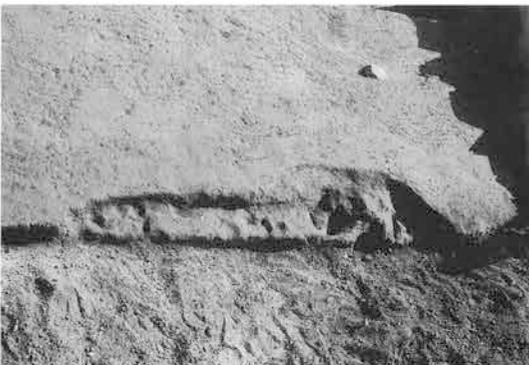
38号住 全景 (西から)



57号住 掘り方全景 (南西から)



39号住 全景 (西から)



39号住 掘り方全景 (西から)



39号住 竈全景 (西から)



39号住 竈土層断面（西から）



40・41号住 土層断面B・C（南から）



40～42号住 掘り方全景（西から）



40号住 掘り方全景（西から）



40号住 竈全景（西から）



40号住 竈掘り方全景（西から）



41・42号住 竈掘り方全景（西から）



43号住 全景（西から）



44号住 遺物出土状態・全景（西から）



43・44号住 土層断面（北から）



43号住 掘り方全景（西から）



43号住 竈全景・遺物出土状態（西から）



43号住 竈土層断面A-A'（西から）



43号住 竈掘り方全景（西から）



43号住 竈掘り方土層断面（南から）



45・84号住 遺物出土状態・全景（西から）



45号住 全景 (西から)



84号住 遺物出土状態 (東から)



45・84号住 掘り方全景 (西から)



84号住 竈全景 (西から)



84号住 竈土層断面 (西から)



46・58・59・75・80号住 遺物出土状態・全景 (西から)



56号住 遺物出土状態・全景 (西から)



58・59・80号住 遺物出土状態・全景 (西から)



56号住 土層断面C-C'(南から)



46・58号住 土層断面B-B'(南から)



58・59号住 土層断面C-C'(南から)



56号住 炭化物出土状態(南から)



56号住 骨出土状態(西から)



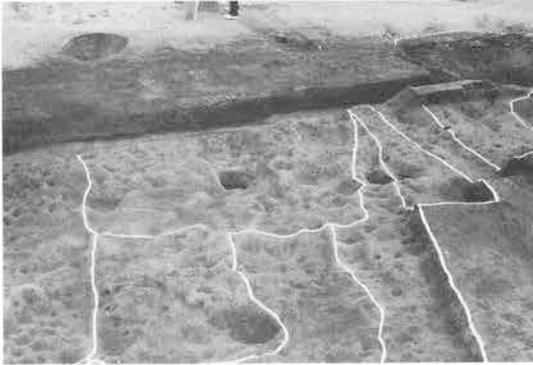
56号住 骨・炭化物出土状態(西から)



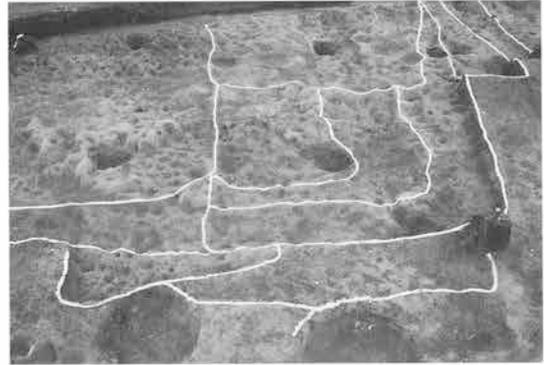
46号住 遺物出土状態・全景(西から)



46・56・58・59・75・80号住 掘り方全景(西から)



56・58・59号住 掘り方全景（西から）



58・59・75・80号住 掘り方全景（西から）



46号住 竈全景・遺物出土状態（西から）



46号住 竈土層断面（南西から）



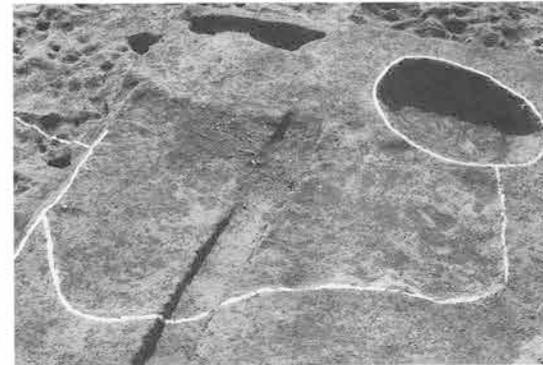
46号住 竈掘り方土層断面（南から）



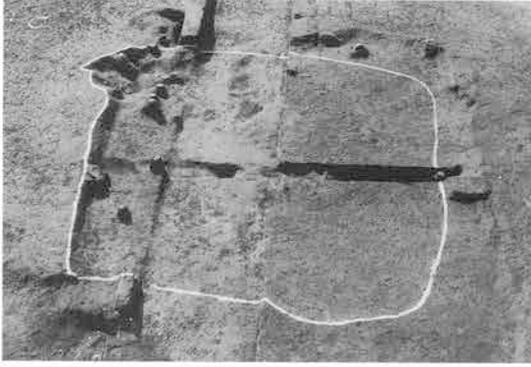
56号住 竈土層断面（西から）



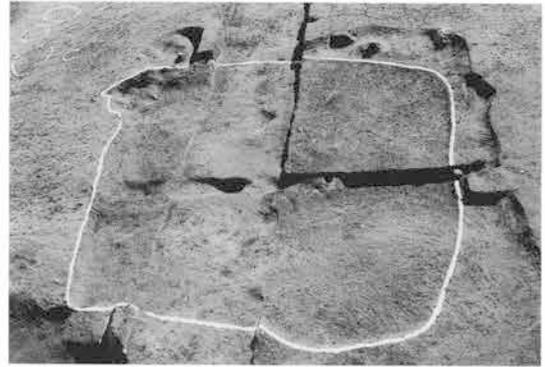
56号住 竈付近掘り方全景（西から）



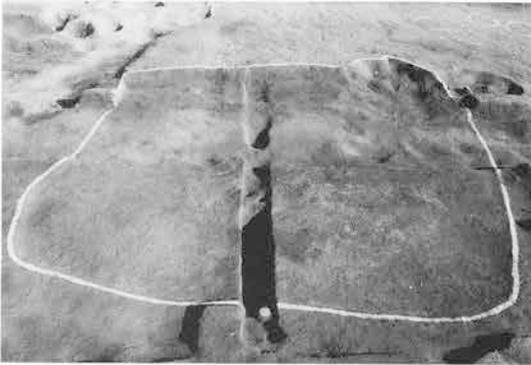
47号住 全景（北西から）



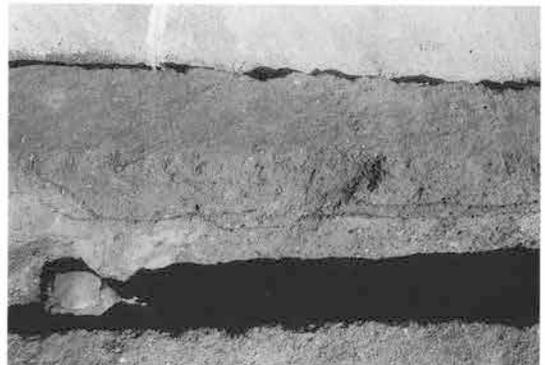
48号住 遺物出土状態・全景（北から）



48号住 全景・焼土分布範囲（北から）



48号住 貼り床状態全景（西から）



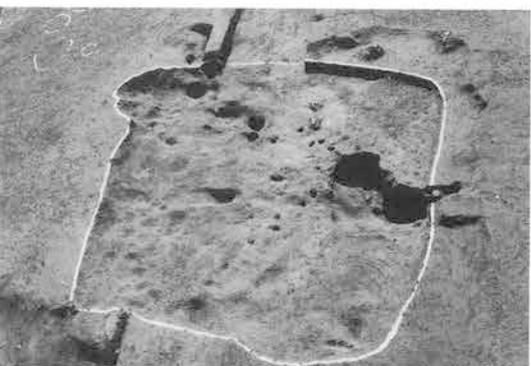
48号住 土層断面（南から）



48号住 土層断面（西から）



48・49号住 掘り方全景（北から）



48号住 掘り方全景（北から）



49号住 掘り方全景（西から）



49号住 ビット2土層断面 (南西から)



48号住 竈全景・遺物出土状態 (西から)



48号住 竈全景 (西から)



48号住 竈掘り方全景 (西から)



49号住 竈掘り方土層断面 (南から)



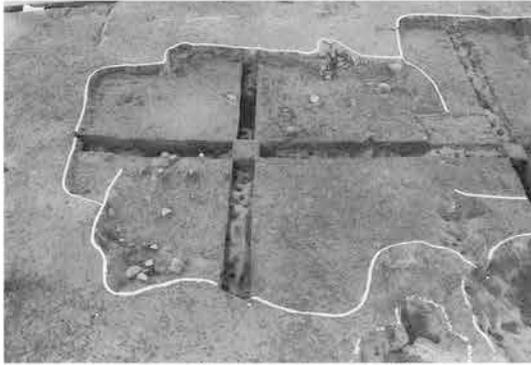
50号住 全景 (西から)



50号住 竈全景 (西から)



51号住 遺物出土状態・全景 (北から)



52・54・55号住 遺物出土状態・全景（東から）



51号住 土層断面（東から）



52号住 土層断面（南から）



54号住 貯蔵穴遺物出土状況（北から）



51・53号住 掘り方全景・遺物出土状態（北から）



52・54・55号住 掘り方全景・遺物出土状態（東から）



53号住 掘り方全景（東から）



52・54・55号住 掘り方全景（東から）



51号住 竈全景・遺物出土状態（北から）



51号住 竈土層断面B-B'（東から）



51号住 竈掘り方土層断面（西から）



52号住 竈全景・遺物出土状態（東から）



52号住 竈土層断面（南から）



52号住 竈掘り方全景（東から）



52号住 竈掘り方土層断面（東から）



53号住 竈掘り方土層断面（南から）



54号住 竈全景・遺物出土状態（北西から）



54号住 竈土層断面（西から）



54号住 竈掘り方土層断面（南から）



60・76・77号住 全景（西から）



76・77号住 土層断面（南から）



60号住 鉄器出土状態（西から）



60・76・77・79号住 掘り方全景（西から）



76号住 竈土層断面（南から）



76号住 竈掘り方全景 (西から)



61号住 掘り方全景 (西から)



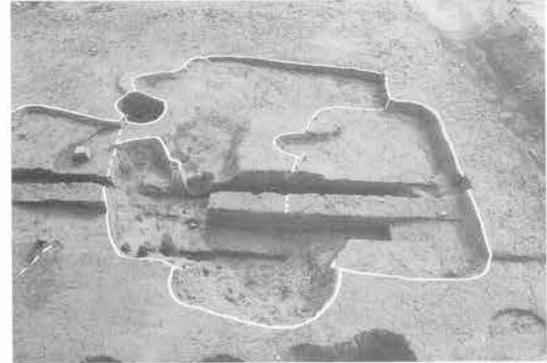
62号住 竈全景・遺物出土状態 (西から)



62号住 竈土層断面 (北から)



62号住 竈掘り方全景 (西から)



63・64号住 全景 (北から)



64・65号住 全景 (北から)



63・64号住 掘り方全景 (西から)



63~65号住 掘り方全景 (西から)



63号住 竈全景 (西から)



63号住 竈土層断面B-B' (南から)



63号住 竈袖土層断面A-A' (西から)



63号住 竈掘り方土層断面 (西から)



64号住 竈全景・70号土坑 (西から)



64号住 竈土層断面 (南から)



64号住 竈掘り方全景・遺物出土状態 (西から)



64号住 竈掘り方全景（西から）



64号住 竈掘り方土層断面B-B'（南から）



65号住 竈全景・遺物出土状態（西から）



65号住 竈土層断面（南から）



65号住 竈掘り方土層断面（南から）



66号住 全景（西から）



66号住 掘り方全景（西から）



67・81・82号住 遺物出土状態・全景（西から）



67・81・82号住 土層断面 (南から)



67・81・82号住 掘り方全景 (北から)



82号住 床下面灰出土状態 (南から)



82号住 床下土坑全景 (南から)



67号住 竈全景・遺物出土状態 (北から)



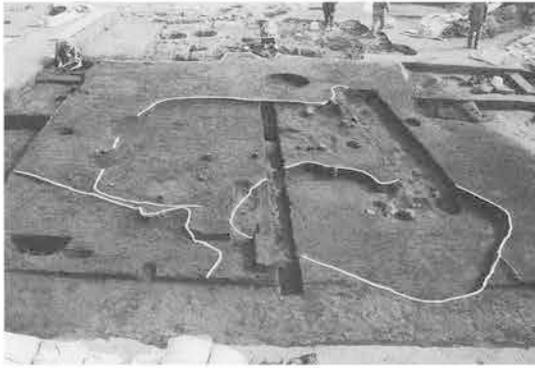
67号住 竈土層断面 (北から)



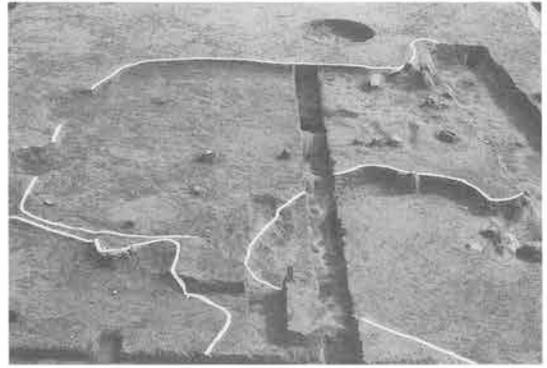
67号住 竈掘り方土層断面 (北から)



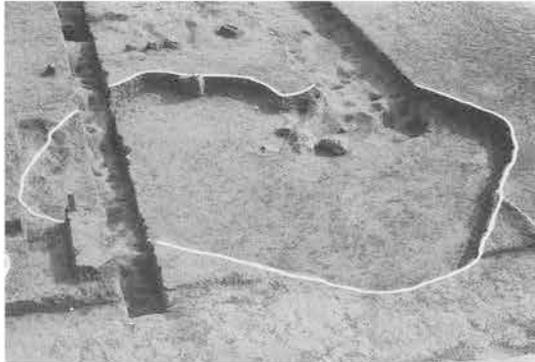
81号住 竈土層断面 (北から)



68～70号住 遺物出土状態・全景（西から）



68号住 遺物出土状態・全景（西から）



69号住 遺物出土状態・全景（西から）



70号住 土層断面（西から）



68～70号住 掘り方全景（西から）



70号住 掘り方全景（西から）



69号住 床下土坑土層断面（西から）



70号住 床下土坑土層断面（西から）



68号住 竈全景・遺物出土状態 (西から)



68号住 竈全景 (南から)



68号住 竈土層断面B-B' (南から)



68号住 竈掘り方全景 (西から)



68号住 竈掘り方土層断面B-B' (南から)



69号住 竈遺物出土状態・全景 (西から)



69号住 竈土層断面 (南から)



69号住 竈掘り方土層断面 (南から)



70号住 竈全景・遺物出土状態 (西から)



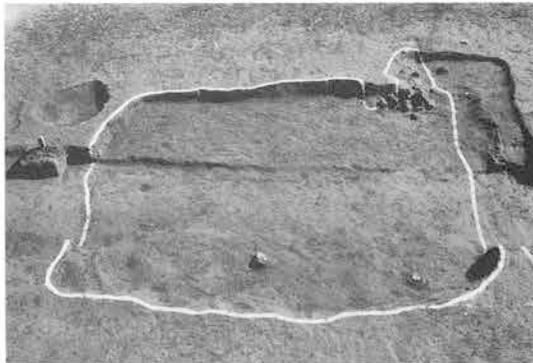
70号住 竈土層断面 (西から)



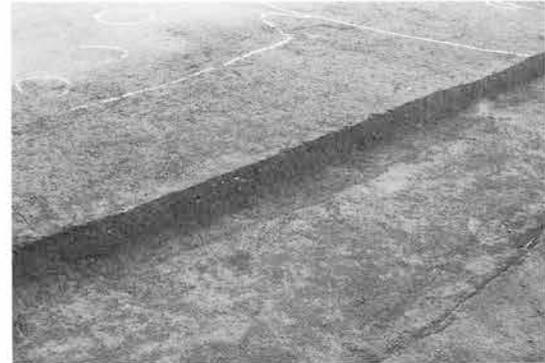
70号住 竈掘り方全景 (北西から)



70号住 竈掘り方土層断面 (西から)



71号住 全景 (西から)



71号住 土層断面 (西から)



71号住 掘り方全景 (西から)



71号住 掘り方土層断面 (西から)



71号住 竈全景 (西から)



71号住 竈全景・遺物出土状態 (西から)



71号住 竈掘り方全景 (西から)



71号住 竈掘り方土層断面 (西から)



72・73・78・85号住 遺物出土状態・全景 (西から)



72号住 全景 (西から)



74・78号住 全景 (西から)



73・78号住 土層断面 (南から)



74号住 遺物出土状態 (西から)



72・73・74・78・85号住 掘り方全景 (西から)



72号住 掘り方全景 (西から)



73・78号住 掘り方全景 (西から)



74号住 掘り方全景 (西から)



72号住 竈全景 (西から)



74号住 竈全景・遺物出土状態 (西から)



74号住 竈掘り方全景 (西から)



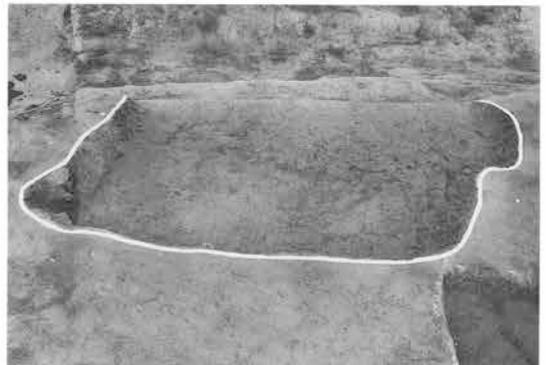
74号住 竈掘り方土層断面 (南から)



83号住 土層断面 (南から)



83号住 掘り方全景 (南から)



86号住 全景 (西から)



86号住 土層断面 (東から)



86号住 掘り方全景・遺物出土状態 (東から)



87号住 遺物出土状態・全景 (西から)



87号住 掘り方全景 (西から)



87号住 竈土層断面 (南から)



88号住 掘り方全景 (西から)



88号住 竈全景・遺物出土状態 (西から)



88号住 竈掘り方全景 (西から)



88号住 竈掘り方土層断面 (北から)



89・90号住 遺物出土状態・全景 (西から)



89・90号住 全景 (西から)



89・90号住 土層断面A-A' (東から)



89・90号住 掘り方全景（西から）



89号住 竈全景（西から）



89号住 竈掘り方全景・遺物出土状態（西から）



89号住 竈掘り方土層断面B-B'（南から）



91号住 遺物出土状態・全景（西から）



91号住 土層断面（西から）



91号住 掘り方全景（西から）



92号住 全景（西から）



92号住 掘り方全景 (西から)



92号住 ビット1土層断面 (東から)



92号住 ビット3・4土層断面 (東から)



93号住 全景 (西から)



93号住 掘り方全景 (西から)



93号住 ビット1土層断面 (西から)



94号住 遺物出土状態・全景 (西から)



94号住 掘り方全景 (西から)



94号住 掘り方土層断面（東から）



95号住 掘り方全景（東から）



96号住 掘り方全景（西から）



97号住 遺物出土状態・全景（西から）



97号住 掘り方全景（西から）



98号住 全景（西から）



98号住 掘り方全景・遺物出土状態（西から）



98号住 貼り床確認掘り方土層断面A-A'（西から）



99号住 掘り方全景 (西から)



99号住 竈掘り方全景 (西から)



99号住 竈掘り方土層断面 (南から)



100・101・102号住 全景 (西から)



100号住 全景 (西から)



101号住 全景 (西から)



100号住 遺物出土状態 (西から)



101号住 遺物出土状態 (南から)



102号住 遺物出土状態 (南から)



100・101・102号住 掘り方全景 (西から)



100号住 掘り方 (東から)



101号住 掘り方遺物出土状態 (西から)



100号住 竈遺物状態 (南から)



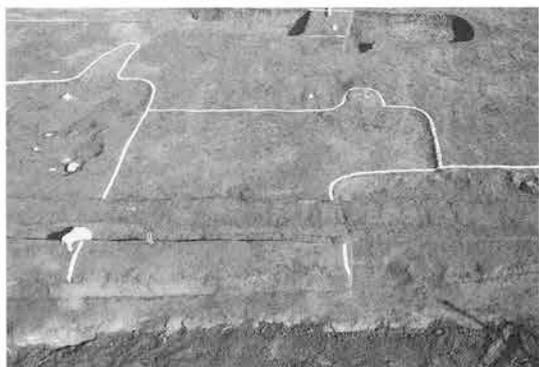
101号住 竈 (西から)



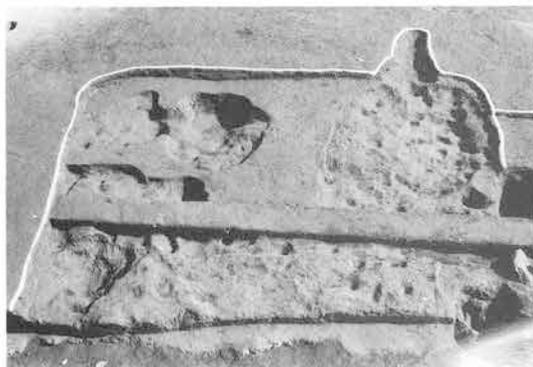
106・107号住 全景 (南西から)



106号住 遺物出土状態 (西から)



107号住 全景 (西から)



106号住 掘り方全景 (西から)



107号住 掘り方全景 (南西から)



108号住 遺物出土状態 (西から)



108号住 掘り方全景 (西から)



109号住 全景 (西から)



109号住 掘り方全景 (北西から)



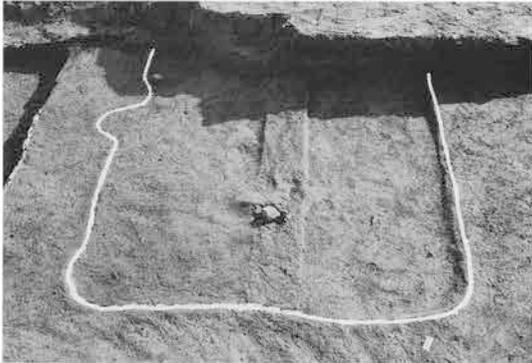
110号住 全景 (南東から)



110号住 掘り方全景 (南東から)



110号住 竈全景 (東から)



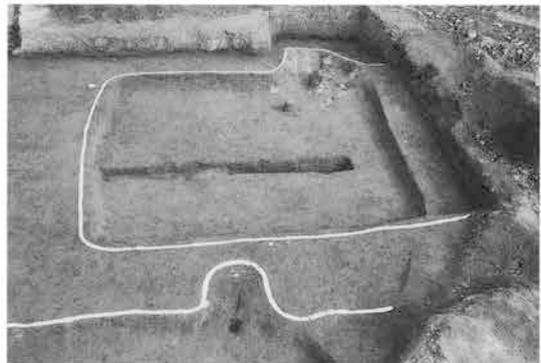
111号住 全景 (北から)



111号住 遺物出土状態 (北から)



111号住 掘り方全景 (西から)



112号住 全景 (西から)



112号住 土層断面 (北西から)



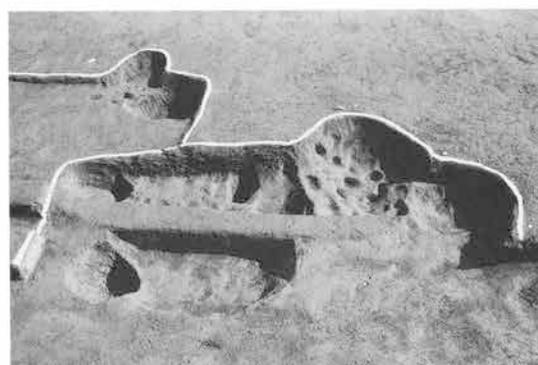
112号住 掘り方全景 (西から)



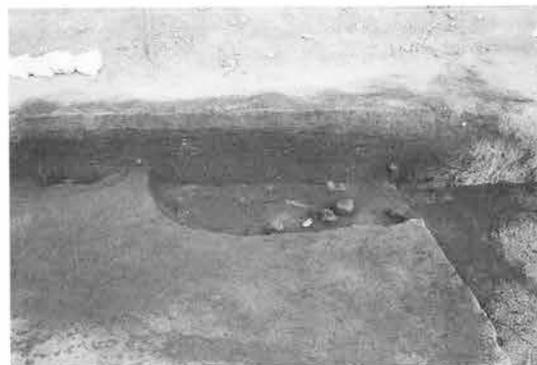
112号住 竈遺物出土状態 (西から)



113号住 全景 (西から)



113号住 掘り方全景 (西から)



114号住 全景 (南から)



114号住 遺物出土状態 (西から)



115号住 全景 (南から)



116号住 全景 (西から)



125号住 全景 (西から)



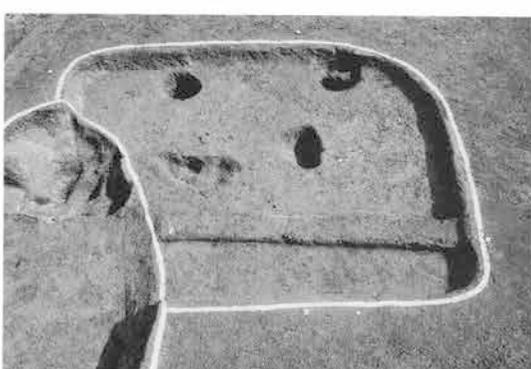
116号住 遺物出土状態 (西から)



116号住 掘り方全景 (西から)



116号住 竈遺物出土状態 (西から)



125号住 掘り方全景 (西から)



117号住 全景 (東から)



117号住 遺物出土状態 (南から)



117号住 遺物出土状態 (西から)



117号住 竈全景 (東から)



118号住 全景 (西から)



118号住 遺物出土状態 (東から)



118号住 掘り方全景 (西から)



118号住 竈遺物出土状態 (南東から)



119号住 全景 (西から)



119号住 掘り方全景 (西から)



119号住 掘り方土層断面 (北から)



119号住 竈全景 (西から)



120号住 全景 (西から)



121号住 全景 (西から)



121号住 掘り方全景 (西から)



121号住 竈遺物出土状態 (西から)



122号住 全景 (西から)



122号住 土層断面 (西から)



122号住 掘り方全景 (西から)



123号住 全景 (西から)



123号住 掘り方全景 (西から)



124号住 掘り方全景 (西から)



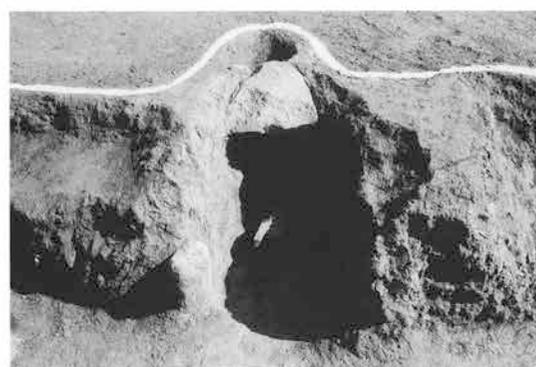
127号住 全景 (西から)



127号住 遺物出土状態 (北から)



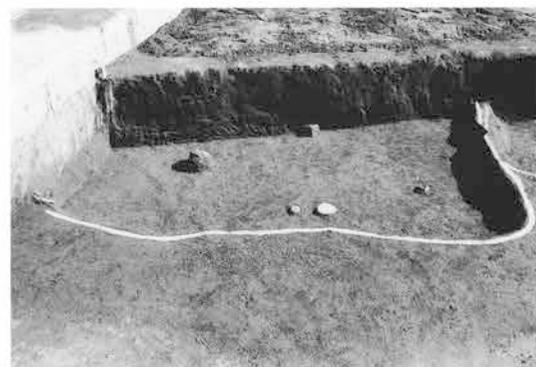
127号住 掘り方全景 (西から)



127号住 竈遺物出土状態 (西から)



127号住 竈遺物出土状態 (西から)



128号住 全景 (西から)



128号住 遺物出土状態 (北東から)



128号住 掘り方全景 (西から)



129号住 全景 (西から)



129号住 遺物出土状態 (南から)



129号住 遺物出土状態 (北から)



129号住 掘り方全景 (西から)



130号住 全景 (西から)



130号住 遺物出土状態 (西から)



130号住 遺物出土状態（北から）



130号住 竈遺物出土状態（西から）



131号住 全景（西から）



131号住 遺物出土状態（東から）



131号住 遺物出土状態（北から）



131号住 土層断面（西から）



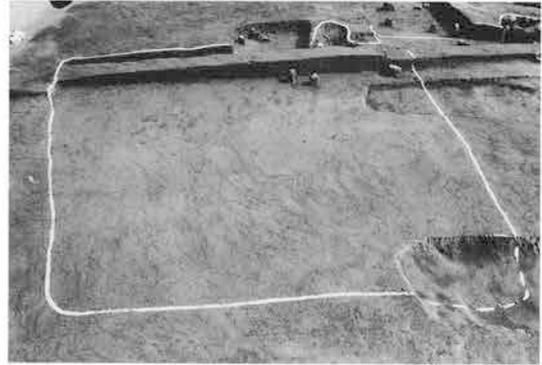
131号住 掘り方全景（西から）



131号住 竈左袖付近遺物出土状態（西から）



131号住 竈遺物出土状態 (西から)



132号住 全景 (西から)



132号住 掘り方全景 (西から)



132号住 竈全景 (西から)



132号住 竈遺物出土状態 (西から)



133号住 全景 (西から)



133号住 掘り方全景 (西から)



133号住 竈全景 (西から)



134号住 全景 (西から)



134号住 遺物出土状態 (西から)



134号住 遺物出土状態 (西から)



134号住 掘り方全景 (西から)



134号住 竈遺物出土状態 (西から)



136号住 全景 (西から)



136号住 遺物出土状態 (西から)



136号住 遺物出土状態 (北から)



136号住 遺物出土状態 (西から)



136号住 掘り方全景 (西から)



136号住 竈遺物出土状態 (西から)



137・138・139号住 全景 (西から)



140・141号住 全景 (西から)



140・141号住 土層断面 (南西から)



140・141号住 掘り方全景 (西から)



140・141号住 掘り方土層断面 (南西から)



142号住 全景 (西から)



142号住 土層断面 (西から)



142号住 掘り方全景 (西から)



143号住 全景 (西から)



143号住 掘り方全景 (西から)



144号住 全景 (西から)



144号住 掘り方全景 (西から)



145号住 全景 (北から)



146号住 全景 (南から)



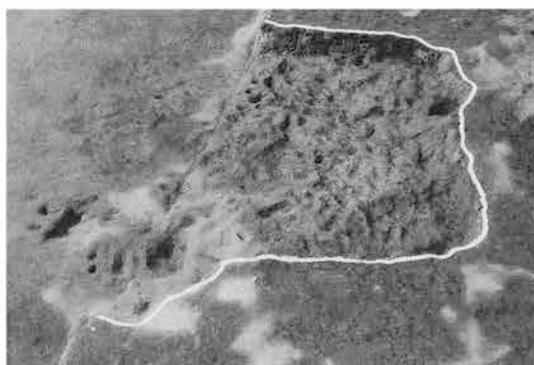
146号住 掘り方全景 (南から)



147号住 全景 (西から)



147号住 土層断面 (南から)



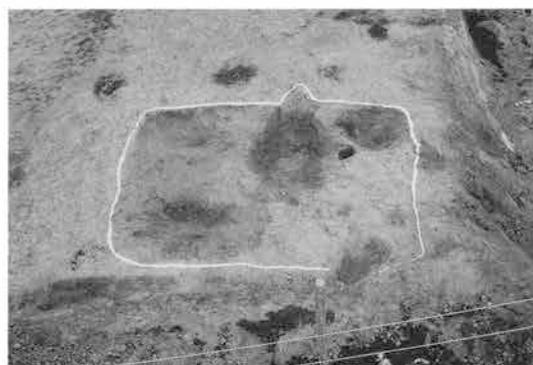
147号住 掘り方全景 (西から)



147号住 竈全景 (西から)



147号住 竈土層断面 (南から)



148号住 掘り方全景 (西から)



149号住 全景 (西から)



149号住 土層断面 (北西から)



149号住 掘り方全景 (西から)



149号住 掘り方土層断面 (南から)



149号住 竈全景 (西から)



149号住 竈遺物出土状態 (西から)



149号住 竈土層断面 (南から)



149号住 竈掘り方土層断面 (南から)



150号住 全景 (西から)



151号住 全景 (西から)



150・151号住 土層断面 (南東から)



150・151号住 掘り方全景 (西から)



150号住 竈全景 (西から)



150号住 竈土層断面 (南から)



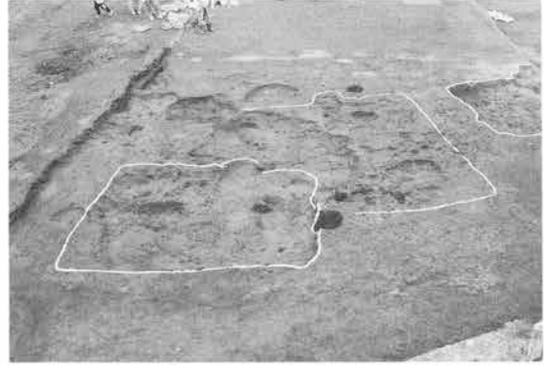
150号住 竈掘り方全景 (西から)



152・155号住 全景 (東から)



152・155号住 土層断面（西から）



152・155号住 掘り方全景（西から）



153号住 土層断面（南西から）



153号住 掘り方全景（西から）



154号住 全景（西から）



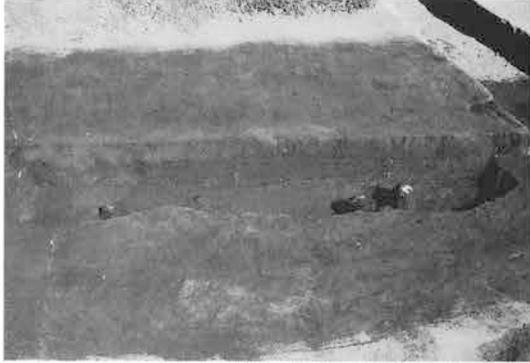
154号住 竈土層断面（南から）



156号住 土層断面（南東から）



156号住 掘り方全景（東から）



157・158号住 遺物出土状態・全景及び土層断面（南から）



157・158号住 掘り方全景（東から）



157・158号住 掘り方全景・遺物出土状態（西から）



157・158号住 掘り方遺物出土状態（南から）



159号住 遺物出土状態・全景（西から）



159号住 土層断面（南東から）



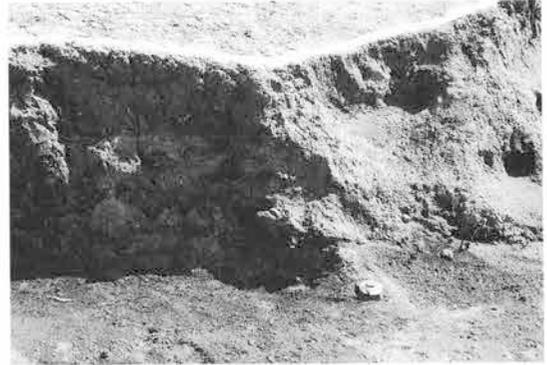
159号住 掘り方全景・遺物出土状態（西から）



159号住 掘り方全景・遺物出土状態（西から）



159号住 羽口出土状態 (西から)



159号住 鉄器出土状態 (西から)



159号住 竈全景 (西から)



159号住 竈掘り方全景 (西から)



159号住 竈掘り方土層断面B-B' (南から)



160・172号住 全景 (西から)



160号住 遺物出土状態・全景 (西から)



160号住 土層断面 (西から)



160・172号住 掘り方全景（西から）



160号住 竈掘り方土層断面（南から）



172号住 竈全景（西から）



172号住 竈全景（西から）



172号住 竈土層断面（南から）



172号住 竈掘り方土層断面（南から）



161号住 遺物出土状態・全景（西から）



161号住 土層断面（西から）



161号住 掘り方全景 (西から)



161号住 竈全景・遺物出土状態 (西から)



161号住 竈掘り方全景 (西から)



162・179号住 全景 (西から)



162・179号住 土層断面 (南から)



162・179号住 掘り方全景 (西から)



162・179号住 掘り方土層断面 (南から)



162・179号住 掘り方土層断面 (西から)



162号住 竈全景 (西から)



162号住 竈掘り方全景 (西から)



162号住 竈掘り方土層断面B-B' (南から)



179号住 竈土層断面 (南から)



163号住 全景 (西から)



163号住 土層断面 (南から)



163号住 掘り方全景 (西から)



163号住 掘り方土層断面 (南から)



164・180号住 全景 (西から)



164号住 全景 (西から)



180号住 全景 (西から)



164号住 銅・炭化物出土状態 (西から)



180号住 貯蔵穴遺物出土状態 (南西から)



164・180号住 掘り方遺物出土状態 (西から)



164・180号住 掘り方全景 (西から)



164号住 竈全景・遺物出土状態 (西から)



164号住 竈土層断面 (南から)



164号住 竈掘り方全景・遺物出土状態 (西から)



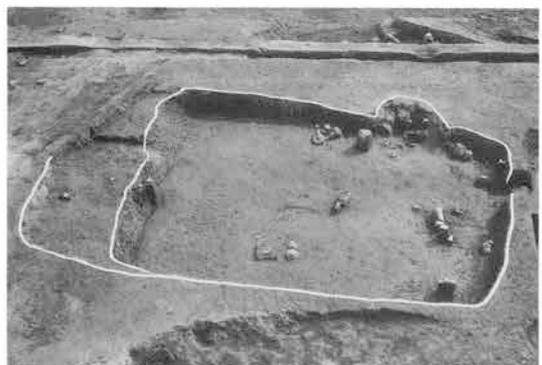
164号住 竈掘り方土層断面 (南から)



180号住 竈全景 (西から)



180号住 竈掘り方全景 (南西から)



165・169号住 遺物出土状態・全景 (西から)



168号住 遺物出土状態・全景 (西から)



165号住 遺物出土状態 (南西から)



165・168・169号住 掘り方全景（西から）



165号住 竈周辺遺物出土状態（西から）



165号住 竈全景・遺物出土状態（西から）



165号住 焼土検出状態（西から）



165号住 竈土層断面（西から）



165号住 竈掘り方全景（西から）



165号住 竈掘り方土層断面（西から）



168号住 竈全景・遺物出土状態（西から）



168号住 竈土層断面 (南から)



168号住 竈掘り方全景 (西から)



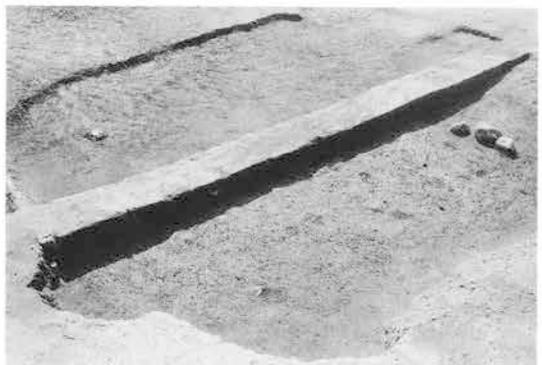
168号住 竈掘り方全景 (西から)



168号住 竈掘り方土層断面 (西から)



166号住 遺物出土状態・全景 (西から)



166号住 土層断面 (北から)



167号住 全景 (南から)



167号住 土層断面 (東から)



170号住 遺物出土状態・全景（西から）



174・175号住 遺物出土状態・全景（西から）



170号住 土層断面B-B'(南から)



170号住 掘り方全景（西から）



174・175号住 掘り方全景（西から）



170号住 竈全景・遺物出土状態（西から）



170号住 竈土層断面（南から）



170号住 竈掘り方土層断面（南から）



171号住 全景 (南から)



171号住 土層断面 (南から)



171号住 掘り方全景・遺物出土状態 (西から)



171号住 掘り方土層断面 (南から)



171号住 竈全景 (西から)



171号住 竈掘り方・遺物出土状態 (西から)



171号住 竈掘り方土層断面 (南から)



173号住 全景 (西から)



173号住 土層断面 (西から)



173号住 掘り方全景 (西から)



173号住 竈全景 (西から)



173号住 竈土層断面 (北から)



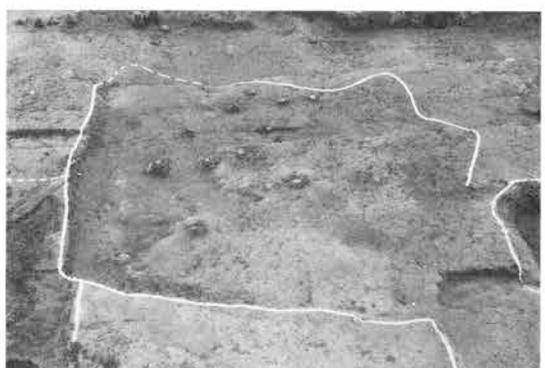
176号住 全景 (西から)



176号住 土層断面 (北から)



176号住 竈土層断面 (南から)



177号住 全景 (西から)



177号住 掘り方全景（西から）



177号住 竈掘り方土層断面（南から）



178号住 全景（西から）



178号住 土層断面（西から）



178号住 掘り方全景（西から）



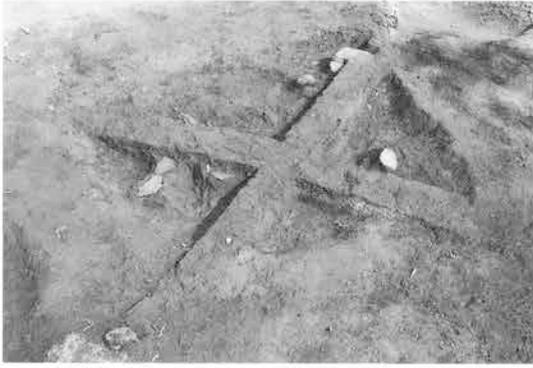
181号住 掘り方全景（西から）



181号住 掘り方遺物出土状態（西から）



181号住 掘り方遺物出土状態（西から）



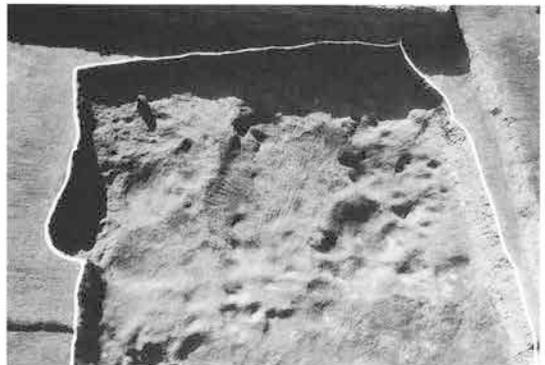
181号住 竈掘り方土層断面 (南から)



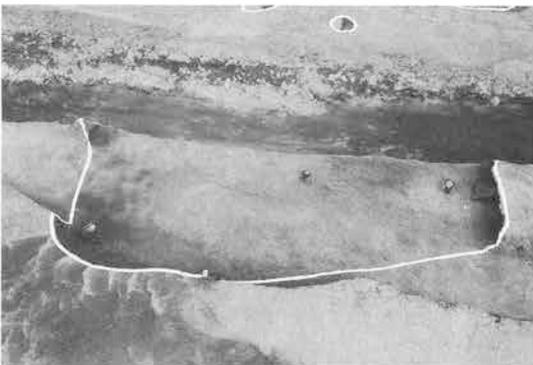
182号住 全景 (東から)



182号住 土層断面 (北から)



182号住 掘り方全景 (東から)



183号住 全景 (西から)



183号住 土層断面 (南から)



183号住 遺物出土状態近撮 (東から)



183号住 掘り方全景 (西から)



184号住 全景(東から)



185号住 全景(南から)



185号住 掘り方全景(西から)



186号住 全景・土層断面(南から)



187・188号住 全景(西から)



187・188号住 土層断面(南西から)



187・188号住 掘り方全景(西から)



187号住 竈全景・遺物出土状態(西から)



187号住 竈土層断面 (南から)



187号住 竈掘り方全景 (西から)



187号住 竈掘り方土層断面 (南から)



188号住 竈全景・遺物出土状態 (西から)



188号住 竈掘り方全景 (西から)



189・190号住 全景・土層断面 (南から)



192号住 全景 (南から)



193号住 全景 (南から)



194号住竈掘り方土層断面 (西から)



1号堀立柱建物跡 全景 (西から)



2号堀立柱建物跡 全景 (南から)



2号堀立柱建物跡 ビット1 遺物出土状態 (西から)



2号堀立柱建物跡 ビット3 遺物出土状態 (西から)



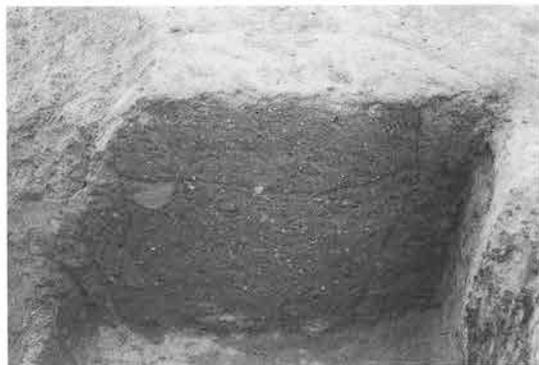
3号堀立柱建物跡 全景 (南から)



3号堀立柱建物跡 近撮 (南から)



3号堀立柱建物跡 ビット1 土層断面 (東から)



3号堀立柱建物跡 ピット2土層断面(東から)



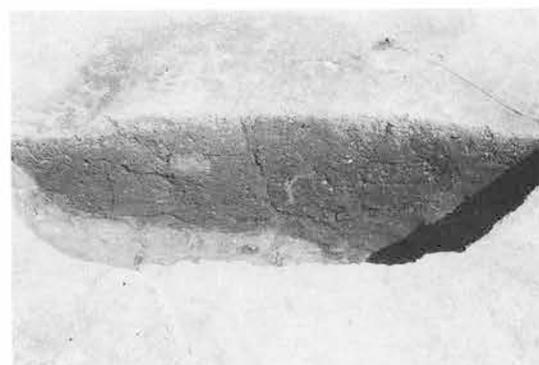
3号堀立柱建物跡 ピット3土層断面(南から)



4号堀立柱建物跡 全景(北から)



4号堀立柱建物跡 遺物出土状態(東から)



4号堀立柱建物跡 ピット1土層断面(南から)



4号堀立柱建物跡 ピット3-2土層断面(西から)



4号堀立柱建物跡 ピット5遺物出土状態(西から)



4号堀立柱建物跡 ピット5土層断面(北から)



4号堀立柱建物跡 ピット6 遺物出土状態 (東から)



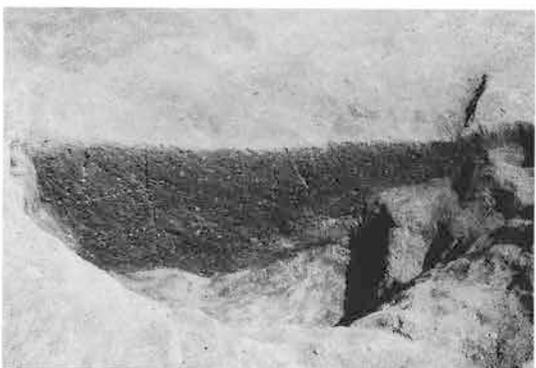
4号堀立柱建物跡 ピット6 土層断面 (南から)



4号堀立柱建物跡 ピット7 土層断面 (南から)



4号堀立柱建物跡 ピット9 土層断面 (南から)



4号堀立柱建物跡 ピット13土層断面 (南から)



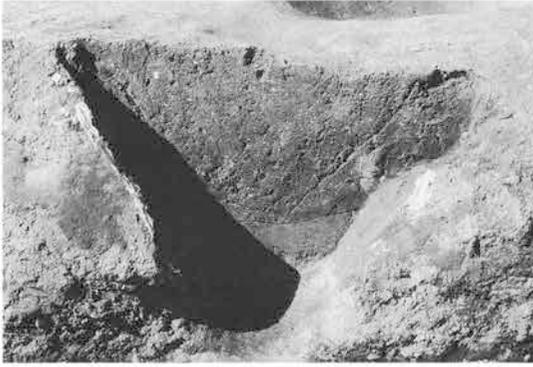
4号堀立柱建物跡 ピット14遺物出土状態 (西から)



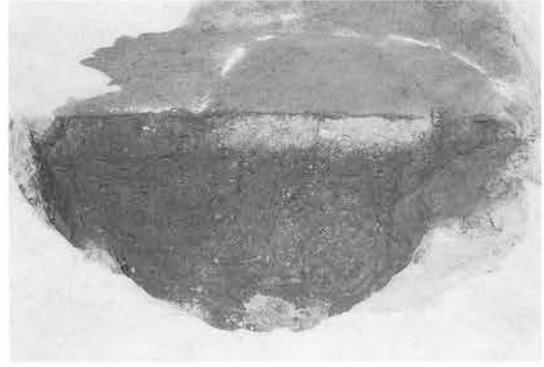
5・6号堀立柱建物跡 全景 (北から)



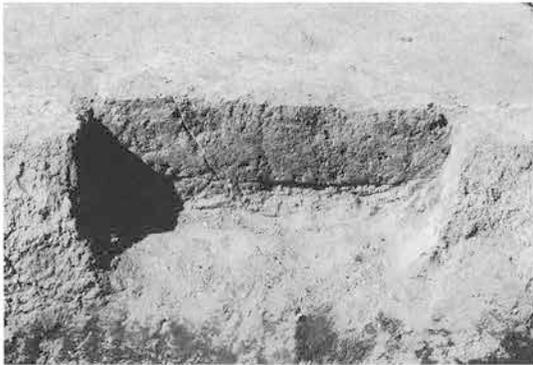
5・6号堀立柱建物跡 全景 (南から)



5号堀立柱建物跡 ビット1土層断面(東から)



5号堀立柱建物跡 ビット5土層断面(南から)



5号堀立柱建物跡 ビット7土層断面(東から)



6号堀立柱建物跡 ビット3(南から)



6号堀立柱建物跡 ビット3土層断面(南から)



6号堀立柱建物跡 ビット4(南から)



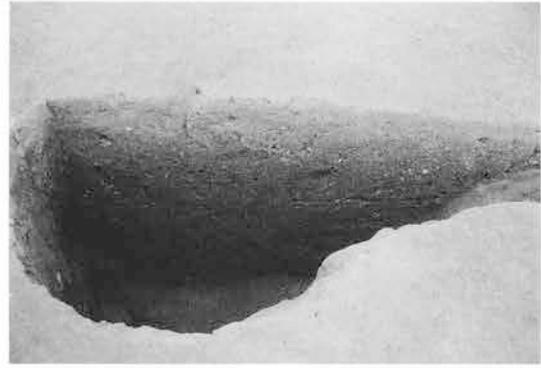
6号堀立柱建物跡 ビット4土層断面(南から)



6号堀立柱建物跡 ビット5土層断面(南から)



6号堀立柱建物跡 ビット6土層断面(南から)



6号堀立柱建物跡 ビット7土層断面(南から)



6号堀立柱建物跡 ビット8土層断面(西から)



8号堀立柱建物跡 ビット2(北から)



8号堀立柱建物跡 ビット2土層断面(南から)



8号堀立柱建物跡 ビット4(北から)



8号堀立柱建物跡 ビット4土層断面(南から)



8号堀立柱建物跡 ビット5(北から)



8号掘立柱建物跡 ピット5土層断面(西から)



1号竪穴状遺構 土層断面(南西から)



1号竪穴状遺構 掘り方全景(北から)



2・3号竪穴状遺構 全景(西から)



1号溝 全景(北から)



1号溝 土層断面(西から)



2号溝 全景及び土層断面(西から)



2号溝 土層断面及び遺物出土状態(東から)



3号溝 全景 (南から)



3号溝 土層断面 (南から)



4号溝 全景及び6・7号土坑全景 (西から)



5号溝 土層断面 (南から)



6号溝 土断面 (南から)



11・12号溝 全景 (西から)



12号溝 全景 (南から)



12号溝 全景 (南西から)



12号溝 全景近撮 (南西から)



11号溝 土層断面 (西から)



13号溝 土層断面 (南から)



14号溝 遺物出土状態・全景 (南から)



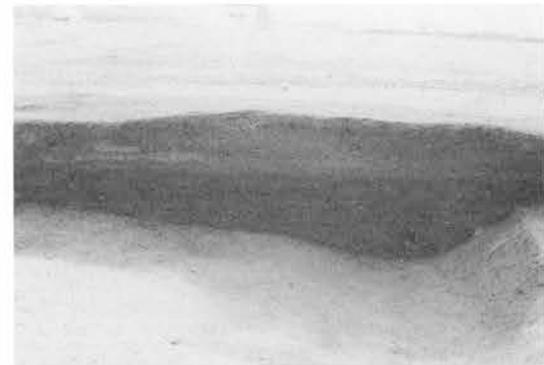
14号溝 土層断面 (南から)



14号溝 土層断面 (南から)



15号溝 全景 (南から)



15号溝 土層断面 (北から)



16号溝 2区全景 (西から)



16号溝 2区南東部分 (南から)



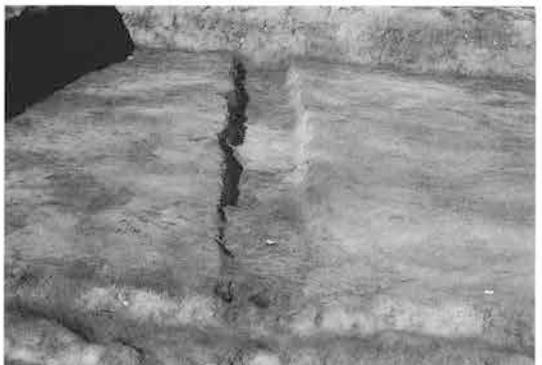
16号溝 3区全景 (南から)



17号溝 全景 (北から)



17号溝 全景 (南から)



18号溝 全景 (南から)



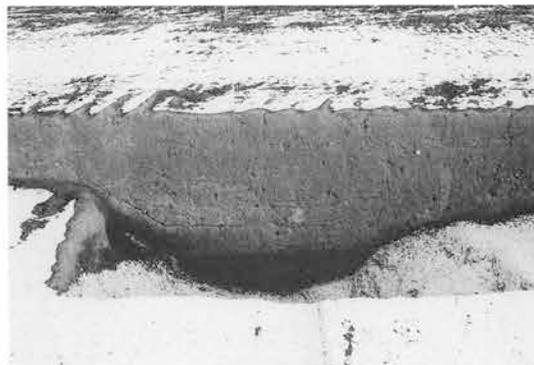
18号溝 土層断面 (南から)



19・21号溝 全景 (北から)



19・21号溝 全景（南西から）



19号溝 北壁土層断面（南から）



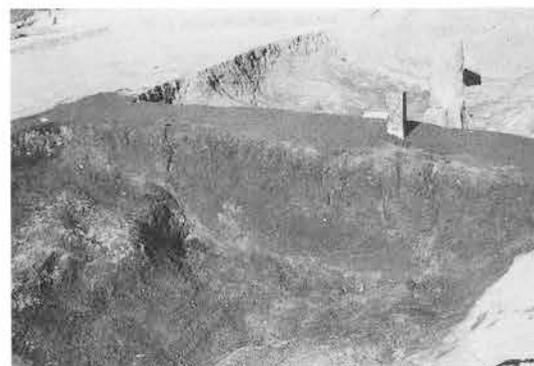
21号溝 土層断面B-B'（西から）



22号溝 全景（北から）



22号溝 遺物出土状態（南から）



22号溝 土層断面（南から）



23号溝 全景（西から）



23号溝 土層断面（南から）



24号溝 土層断面 (南東から)



25号溝 土層断面 (南東から)



31号溝 全景 (北から)



32号溝 全景 (北から)



33号溝 全景 (北から)



33号溝 土層断面B-B' (南から)



50号溝 全景 (西から)



53・54号溝 全景 (西から)



53号溝 土層断面 (西から)



54号溝 土層断面 (西から)



55号溝 全景 (西から)



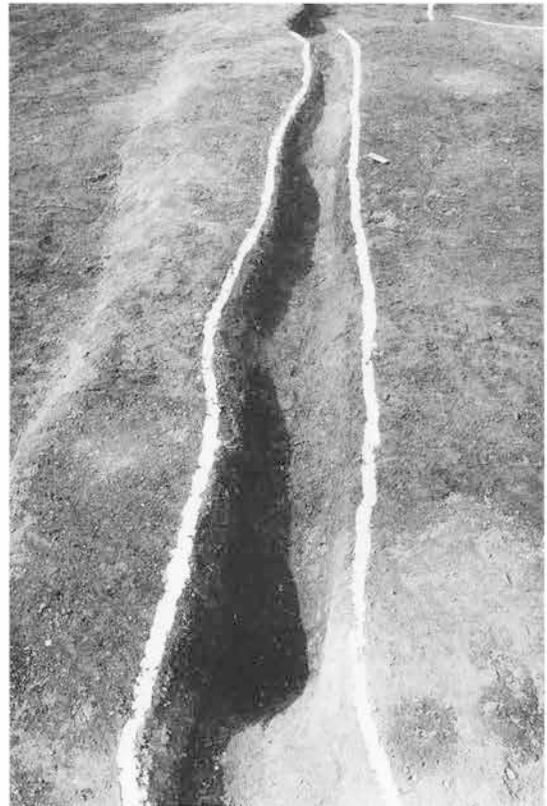
55号溝 土層断面 (西から)



55号溝 遺物出土状態 (西から)



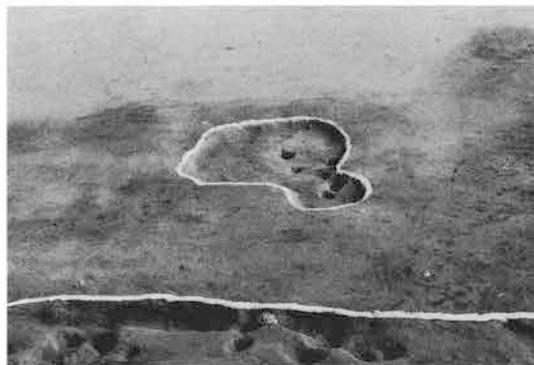
5号土坑 全景 (東から)



56号溝 全景 (東から)



6・7号土坑 全景（西から）



8号土坑 全景（西から）



12号土坑 全景（北から）



12号土坑 土層断面（西から）



13号土坑 土層断面（南から）



15・17～30号土坑 全景（北から）



15・17～21・26・29号土坑 遺物出土状態・全景（西から）



15・18～22号土坑 遺物出土状態・全景（西から）



17・24～29号土坑 遺物出土状態・全景（西から）



19・20号土坑 古銭出土状態（西から）



17号土坑 西壁土層断面（東から）



19・20号土坑 土層断面（南東から）



21号土坑 土層断面（西から）



22号土坑 土層断面（北から）



30号土坑 土層断面（南から）



31号土坑 土層断面（南から）



32号土坑 遺物出土状態・全景（東から）



33号土坑 土層断面（北から）



34号土坑 土層断面（北東から）



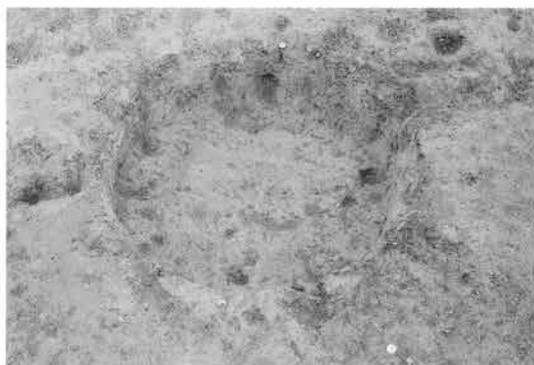
38号土坑 全景（南から）



39・40号土坑 全景（西から）



40・41号土坑 全景（西から）



40号土坑 全景（東から）



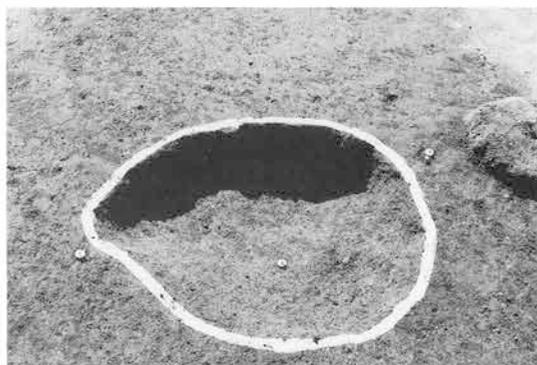
41号土坑 全景（東から）



41号土坑 土層断面 (南から)



42号土坑 全景 (東から)



43号土坑 全景 (北から)



45号土坑 全景 (北から)



45号土坑 紡錘車出土状態 (東から)



46号土坑 全景 (南から)



47号土坑 土層断面 (東から)



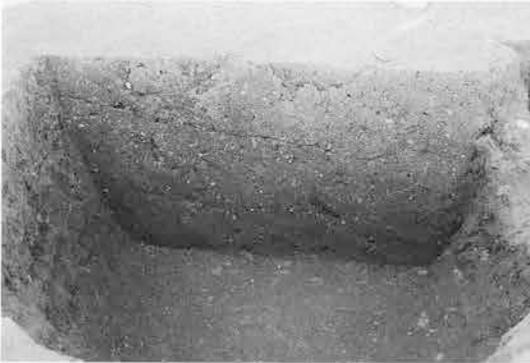
51号土坑 全景 (西から)



51号土坑 遺物出土状態 (西から)



56号土坑 全景 (北から)



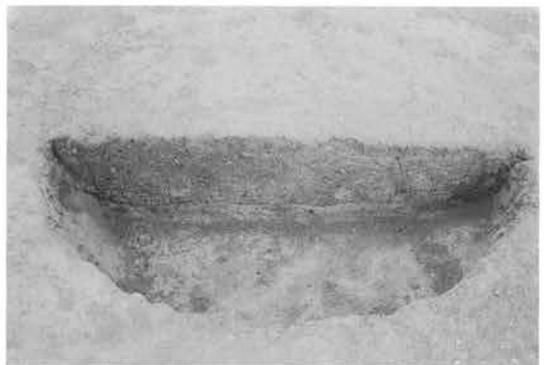
59号土坑 土層断面 (南から)



63・69号土坑 全景 (東から)



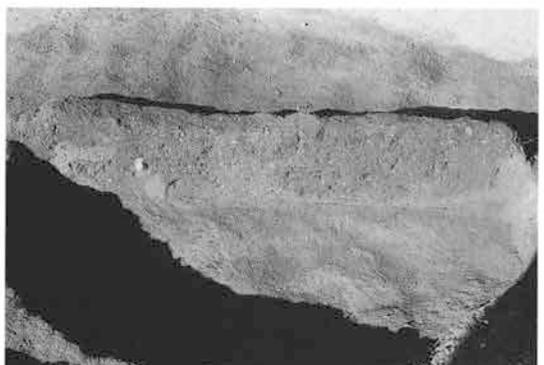
66号土坑 全景 (西から)



66号土坑 土層断面 (南から)



70号土坑 全景・64号住竈掘り方全景 (西から)



73号土坑 土層断面 (南から)



76号土坑 全景67・81・82号住掘り方全景（北から）



76号土坑 土層断面（南から）



89号土坑 土層断面（南から）



91号土坑 全景（北から）



91号土坑 土層断面（南から）



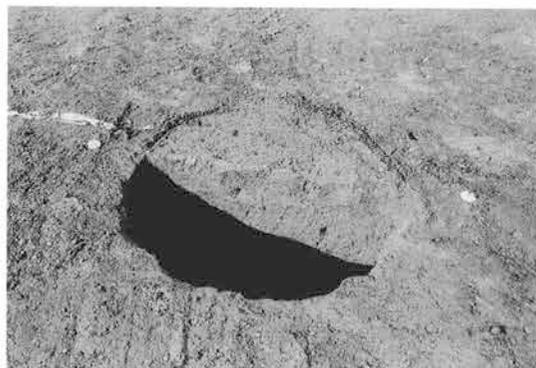
100号土坑 土層断面（西から）



101・102号土坑 全景（南から）



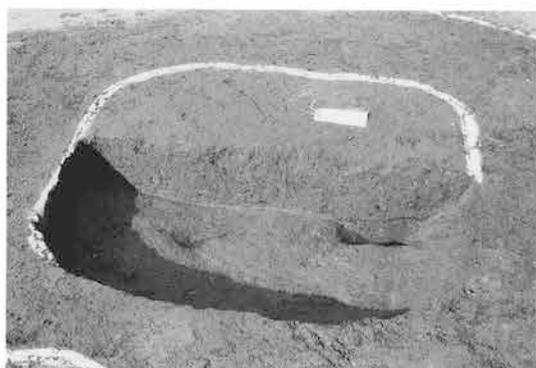
103号土坑 全景（南から）



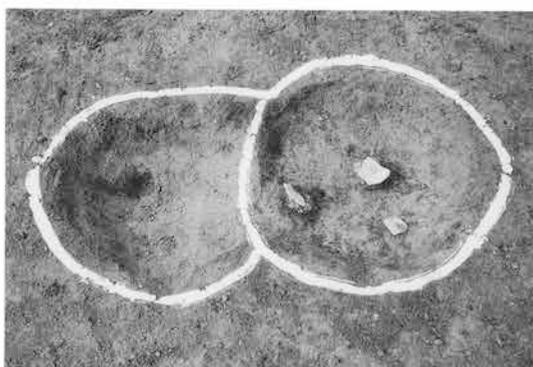
104号土坑 全景 (南から)



105号土坑 全景 (南から)



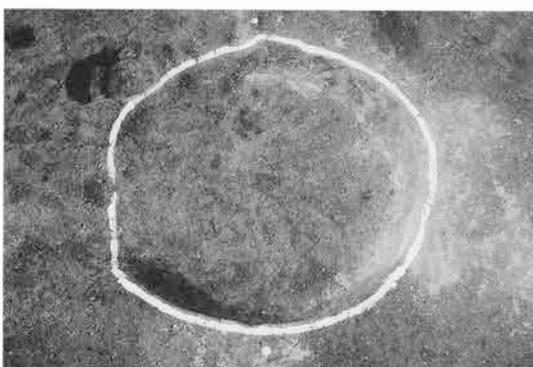
106号土坑 全景 (南から)



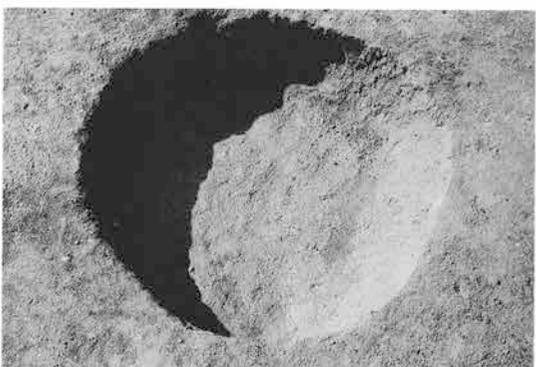
119・120号土坑 遺物出土状態・全景 (東から)



121号土坑 全景 (東から)



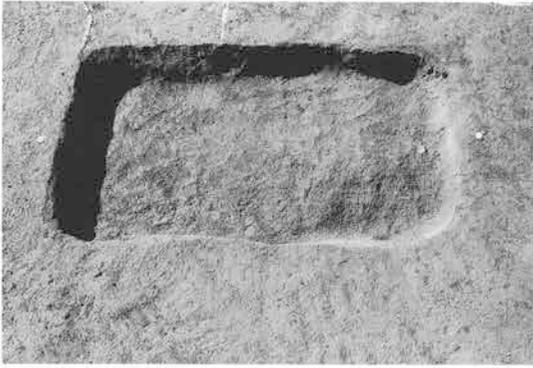
122号土坑 全景 (東から)



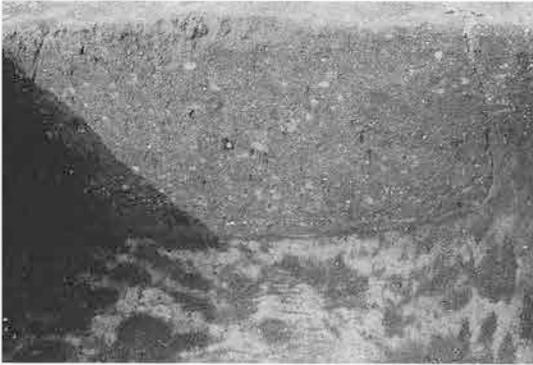
123号土坑 全景 (東から)



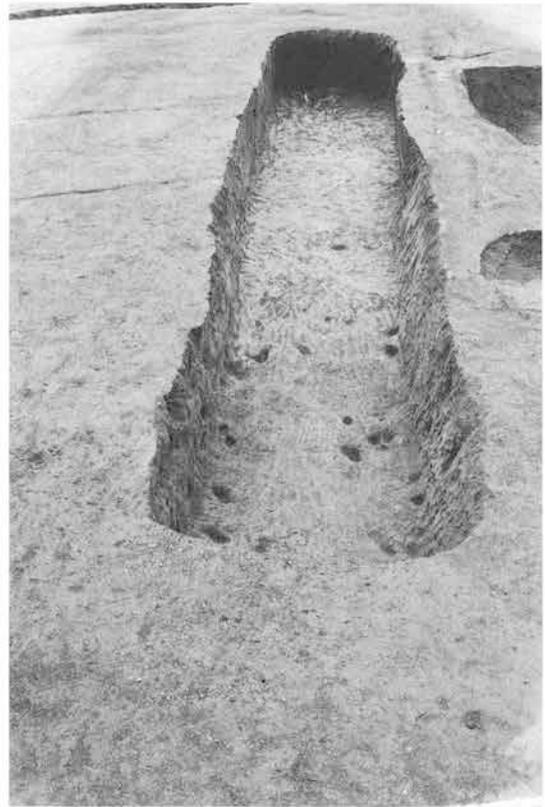
124号土坑 全景 (西から)



125号土坑 全景 (東から)



126号土坑 土層断面 (東から)



126号土坑 全景 (北から)



127号土坑 全景 (東から)



128号土坑 全景 (東から)



129号土坑 全景 (東から)



130号土坑 全景 (東から)



131号土坑 全景 (東から)



132号土坑 土層断面 (南から)



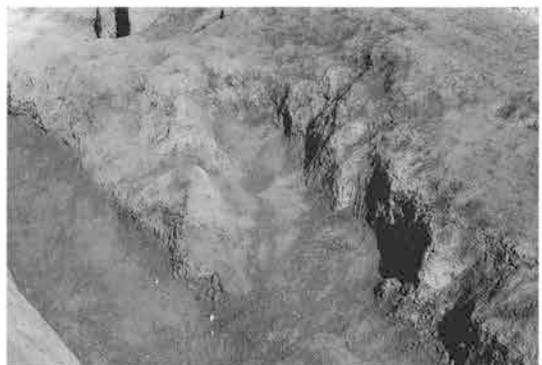
134号土坑 全景 (西から)



157・158号土坑 全景 (西から)



167号土坑 土層断面 (東から)



172号土坑 全景 (南から)



173号土坑 土層断面 (西から)



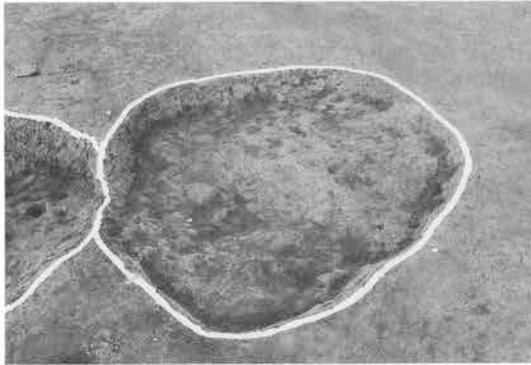
176号土坑 全景 (北から)



176号土坑 土層断面（南から）



177号土坑 土層断面（南から）



186号土坑 全景（南から）



187号土坑 土層断面（南から）



187・201号土坑 全景（南から）



188・189・190号土坑 全景（南から）



188号土坑 土層断面（南から）



189号土坑 土層断面（西から）



190号土坑 土層断面 (南から)



191・193号土坑 全景 (南から)



191号土坑 土層断面 (南から)



193号土坑 全景 (南から)



193号土坑 土層断面 (西から)



194号土坑 全景 (北西から)



194号土坑 土層断面 (西から)



195号土坑 土層断面 (西から)



197号土坑 全景 (南から)



198・199号土坑 全景 (南から)



198号土坑 遺物出土状態 (西から)



198号土坑 土層断面 (東から)



199号土坑 遺物出土状態 (西から)



199号土坑 土層断面 (西から)



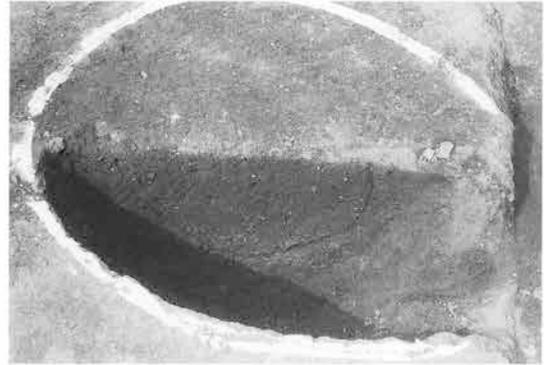
200号土坑 土層断面 (南から)



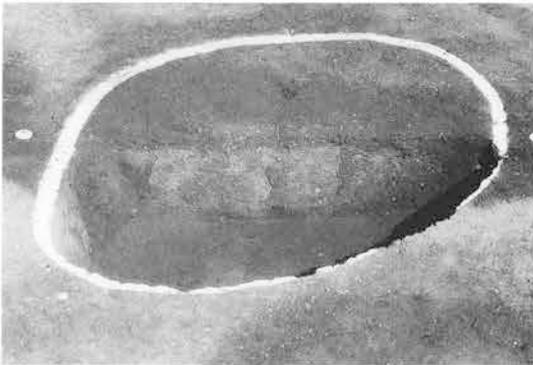
207号土坑 土層断面 (南から)



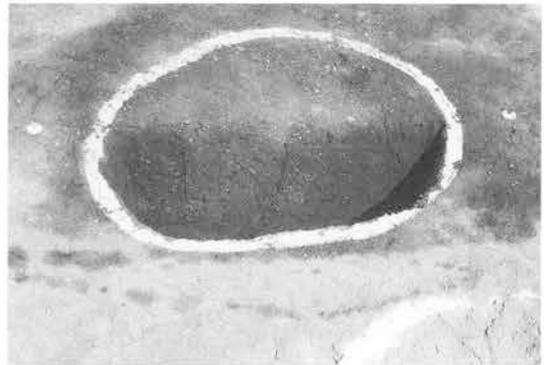
208号土坑 土層断面 (南から)



210号土坑 土層断面 (南から)



217号土坑 土層断面 (南から)



218号土坑 土層断面 (南から)



230号土坑 土層断面 (南から)



232号土坑 土層断面 (南から)



233号土坑 土層断面 (東から)



233・234号土坑 土層断面 (南から)



235・236号土坑 土層断面 (南から)



238号土坑 土層断面 (南から)



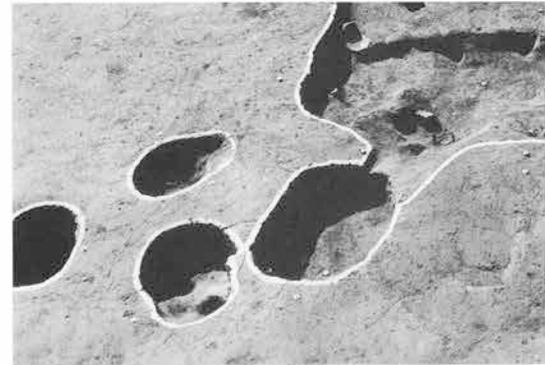
241号土坑 土層断面 (南から)



248号土坑 遺物出土状態 (西から)



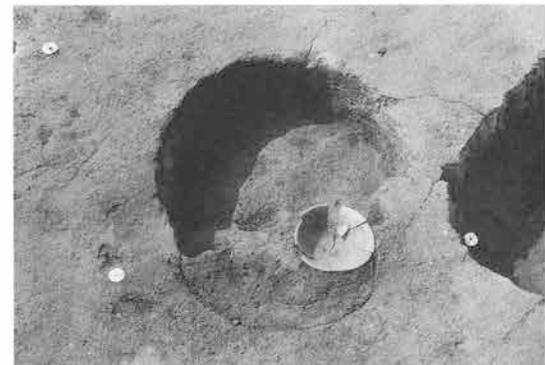
249号土坑 土層断面 (南から)



8・9・10・11号ピット 全景 (東から)



10号ピット 土層断面 (南から)



10号ピット 遺物出土状態 (北から)



18号ピット 土層断面 (南から)



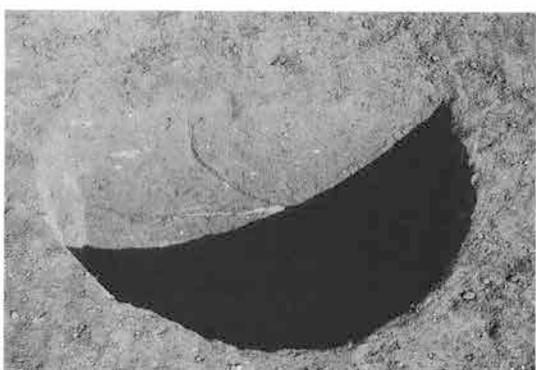
1号井戸 全景 (南から)



1号井戸 土層断面 (南から)



2号井戸 全景 (南から)



2号井戸 土層断面 (南から)



H r - F A 下畠跡 検出状態 (東から)



H r - F A 下畠跡 全景 (南から)



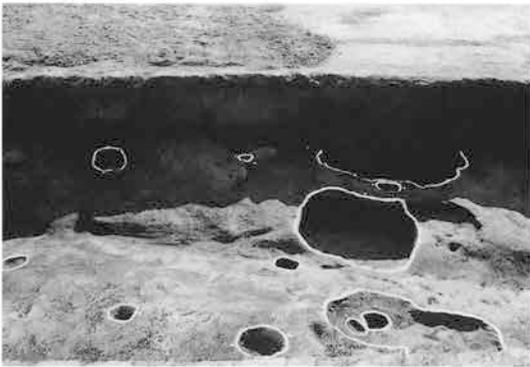
H r - F A 下畠跡 全景 (東から)



1号地下式土坑 全景 (西から)



1号地下式土坑 全景 (西から)



中世土坑群 全景 (北から)



中世土坑群 土層断面 (南から)



石垣 出土状態 (北から)



石垣 出土状態 (西から)



石垣 出土状態 (南から)



石垣 土層断面 (東から)



1号暗渠 全景・天井石出土状態 (南から)



1号暗渠 全景・天井石出土状態 (南から)



1号暗渠 全景・天井石出土状態 (東から)



1号暗渠 掘り方全景 (南から)



1号暗渠 掘り方土層断面 (南から)



4号道状遺構 全景 (西から)



畠跡確認面 全景 (南から)



倒木痕 (西から)



倒木痕 土層断面 (西から)



1区西側調査区 全景 (北から)



3区東側溝 立ち合い調査 (北西から)



3区東側溝 立ち合い調査 (北西から)



3区南側 調査状況 (東から)



192H-16 遺物出土状態 (東から)



空中写真撮影風景 (東から)



現地説明会風景



拡張区 全景 (西から)



51号住 作業風景 (南西から)



89・90号住 作業風景 (北から)



作業風景 (西から)



作業風景 (東から)



作業風景 (西から)



箕郷中生徒体験学習風景



前橋高等養護学校



2号住-1



2号住-2



2号住-3



2号住-4



2号住-5



2号住-6



3号住-1



4号住-1



4号住-2



6号住-1



6号住-2



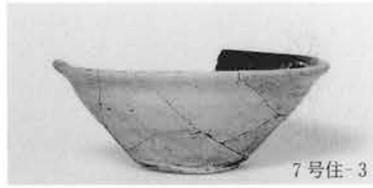
6号住-3



7号住-1



7号住-2



7号住-3



7号住-4



8号住-2



8号住-4



8号住-3



8号住-5



8号住-6



8号住-7



8号住-10



9号住-1



9号住-2



9号住-3



10号住-1



10号住-2



10号住-3



10号住-4



10号住-6



10号住-7



10号住-8



10号住-9



10号住-10



10号住-11



10号住-12



10号住-13



10号住-14



11号住-2



11号住-3



11号住-4



11号住-1



(内面)



13号住-3



13号住-4



13号住-2



13号住-5



13号住-1



13号住-6



13号住-8



13号住-11



13号住-7



13号住-14①



13号住-14②



14号住-1



14号住-14



14号住-15



14号住-17



14号住-16



14号住-19



14号住-20



14号住-21



14号住-18



14号住-26



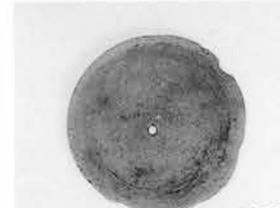
14号住-23



14号住-24



14号住-25



(内面)



(内面)



15号住-3



15号住-1



15号住-2



15号住-4



15号住-6



15号住-7



15号住-8



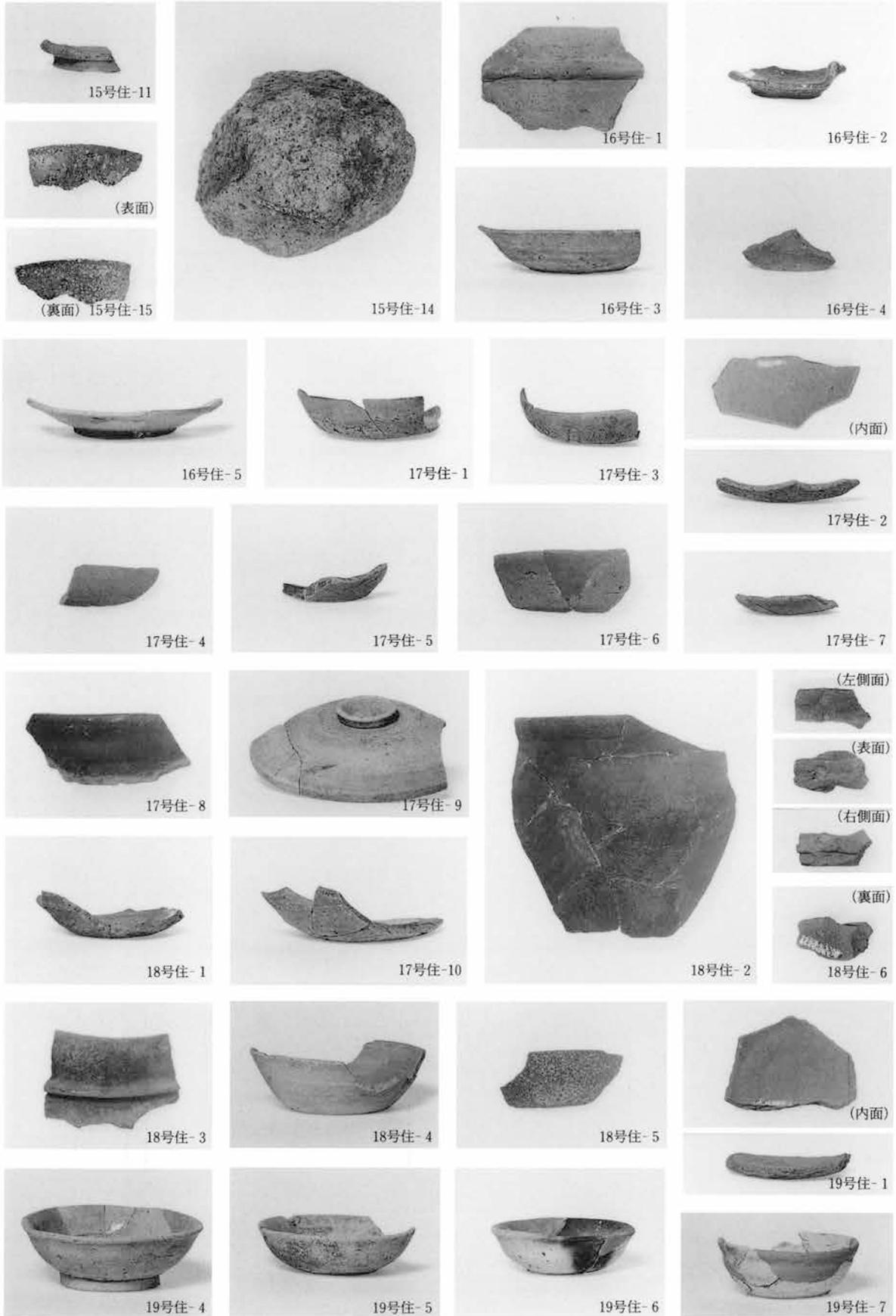
15号住-9

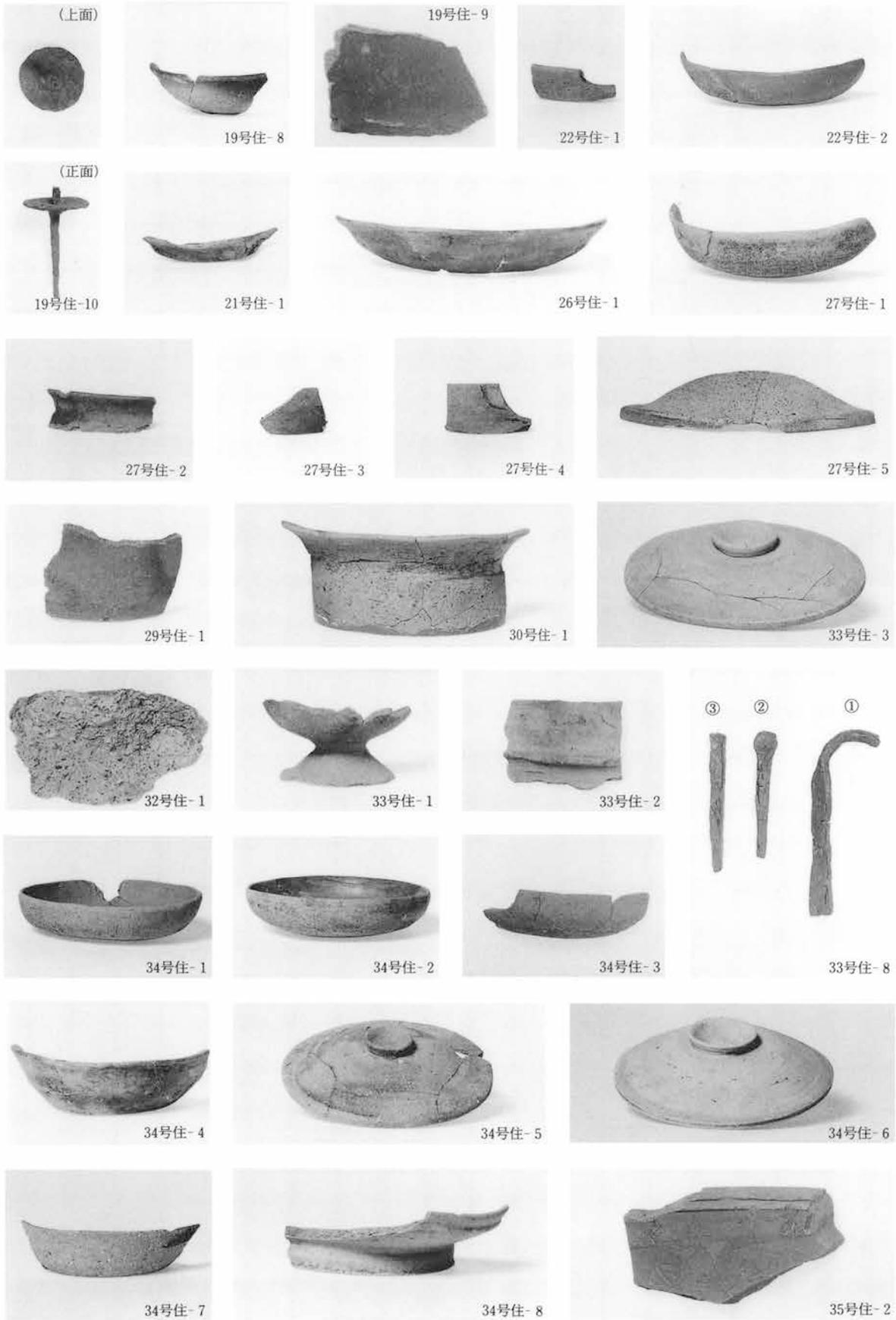


15号住-10



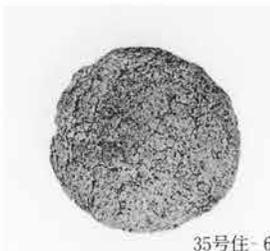
15号住-12







35号住-1



35号住-6



35号住-7



36号住-1



35号住-5



36号住-4



36号住-2



38号住-1



39号住-1



40号住-2



38号住-3



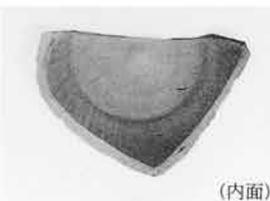
38号住-2



40号住-1



(内面)



(内面)



(内面)



44号住-3



43・44号住-1



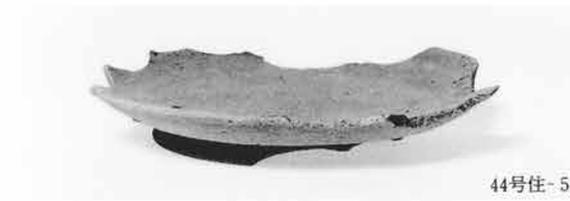
44号住-1



44号住-2



44号住-4



44号住-5



44号住-6



45号住-1



45号住-2



46号住-1



46号住-3



46号住-2



46号住-4



46号住-5



46号住-6



46号住-7



46号住-8



46号住-9



47・48号住-1



46号住-10
(拡大)



(拡大)



47号住-1



48号住-1



46号住-11

48号住-2



48号住-3



48号住-4



48号住-7



49号住-1



51号住-1



51号住-2



51号住-3



51号住-4



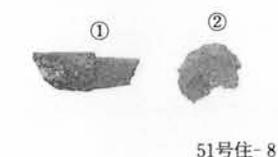
51号住-5



51号住-6



51号住-7



①



②

51号住-8



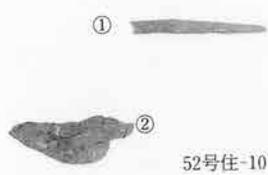
52号住-1



52号住-2



52号住-5





56号住-12



56号住-13



56号住-14



57号住-3



56号住-17



56号住-16



57号住-1



57号住-4



57号住-5



58号住-3



56号住-15



57号住-6



58号住-4



59号住-1



59号住-3



59号住-4



59号住-5



59号住-2



59号住-6



59号住-7



59号住-8



60号住-1



64号住-1



64号住-2



64号住-5



67号住-1



64号住-3



64号住-4



67号住-7



64号住-6



67号住-4



67号住-3



67号住-5



67号住-8



67・81・82号住-1



67・81・82号住-2



67号住-6



67号住-2



(内面)



67・81・82号住-3



67・81・82号住-4



67・81・82号住-5



68号住-1



68号住-2



68号住-4



68号住-5



68号住-6



68号住-8



68号住-7



69号住-1



69号住-2



69号住-3



71号住-1



71号住-2



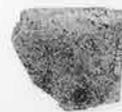
69号住-5



69号住-4



71号住-3



71号住-4



72号住-1



72号住-2



72号住-3



73号住-4



73号住-2



73号住-3



76号住-5



74号住-1



76号住-2



76号住-3



76号住-4



76号住-6



76号住-7



79号住-1



81号住-1



82号住-1



82号住-2



82号住-3



82号住-4



83号住-1



84号住-1



84号住-3



82号住-5



84号住-4



84号住-5



84号住-9



84号住-10



84号住-8



84号住-6



84号住-7



85号住-1



86号住-1



86号住-2



86号住-3



87号住-3



87号住-2



87号住-1



87号住-5



87号住-4



88号住-3



88号住-1



88号住-2



89・90号住-25



89・90号住-26



89・90号住-27



89・90号住-28



89・90号住-29



89・90号住-30



89・90号住-31



(内面)



(内面)



89・90号住-32



89・90号住-33



89・90号住-34



(内面)



(内面)



(内面)



89・90号住-35



89・90号住-36



89・90号住-37



(内面)



(内面)



(内面)



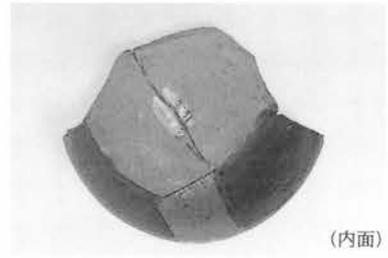
89・90号住-38

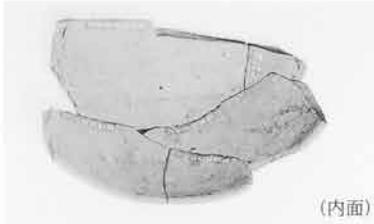


89・90号住-39



89・90号住-40





(内面)



89・90号住-57



89・90号住-58



(内面)



89・90号住-61



(内面)



89・90号住-59



89・90号住-119



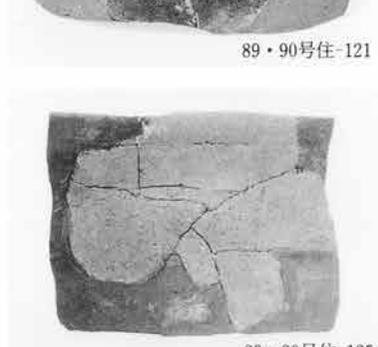
89・90号住-121



89・90号住-123



89・90号住-122



89・90号住-125



89・90号住-126



89・90号住-120



89・90号住-127



89・90号住-128



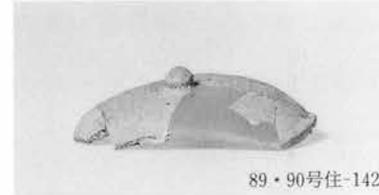
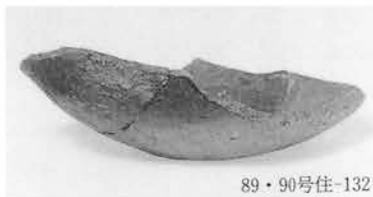
89・90号住-124



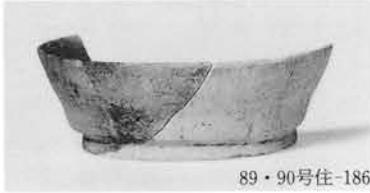
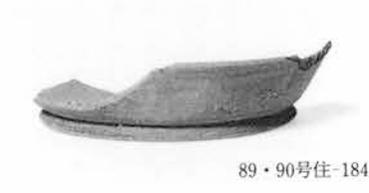
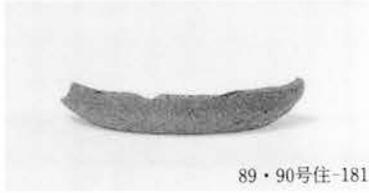
89・90号住-129

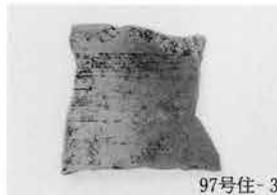
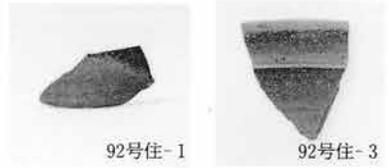


89・90号住-130











98号住-1



98号住-2



98号住-3



100号住-1



100号住-2



100号住-3



100号住-4



101号住-1



101号住-2



102号住-1



108号住-1



108号住-2



108号住-3



108号住-4



111号住-1



111号住-2



111号住-3



111号住-4



111号住-5



112号住-1



116号住-3



112号住-2



112号住-3



(内面)



116号住-1



116号住-5



116号住-7



116号住-8



119号住-1



119号住-2



127号住-1



121号住-1



118号住-1



127号住-6



127号住-5



127号住-7



127号住-8



128号住-1



128号住-2



129号住-1



129号住-2



130号住-1



130号住-4

(拡大)



130号住-2



(上面)



130号住-3



130号住-8





130号住-5

130号住-6



130号住-7



131号住-1



131号住-2



131号住-3



131号住-4



131号住-5



131号住-6



131号住-7



131号住-8



131号住-9



132号住-1



133号住-2



133号住-5



132・133号住-1



133号住-3



133号住-4



(内面)



133号住-1



134号住-1



134号住-3



134号住-5



134号住-2



134号住-6



134号住-4



134号住-7



134号住-8



134号住-9



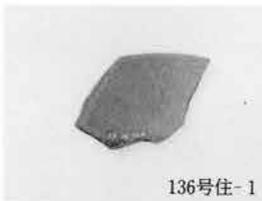
134号住-11



134号住-10



134号住-12



136号住-1



136号住-2



134号住-13



136号住- 3



136号住- 5



136号住- 4



136号住- 6



136号住- 7



136号住- 8



136号住- 9



136号住-10



136号住-11



136号住-12



136号住-13



136号住-14



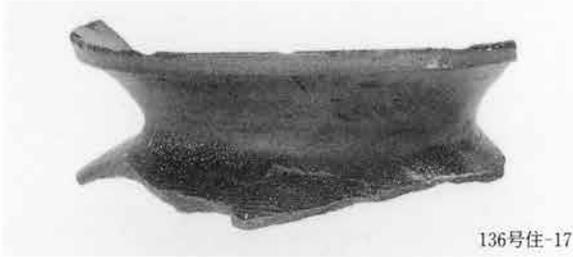
136号住-15



136号住-16



136号住-18





152号住-1



152号住-2



153号住-1



153号住-2



153号住-3



156号住-1



156号住-2



158号住-1



157号住-1



157号住-2



(内面)



157号住-3



159号住-6



159号住-1



159号住-2



159号住-3



159号住-4



159号住-5



159号住-7



159号住-9



159号住-10



159号住-11



159号住-8



160号住-1



160号住-2



160号住-3





164号住-6



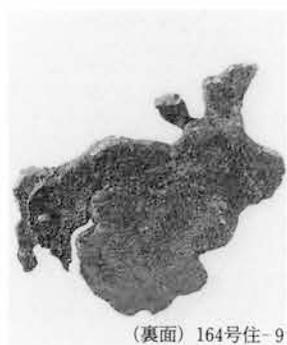
164号住-7



164号住-8



(表面)



(裏面) 164号住-9



165号住-1



165号住-2



165号住-3



165号住-4



165号住-5



165号住-6



165号住-7



165号住-8



165号住-9



165号住-10



165号住-11



165号住-12



165号住-13



165号住-15



165号住-14



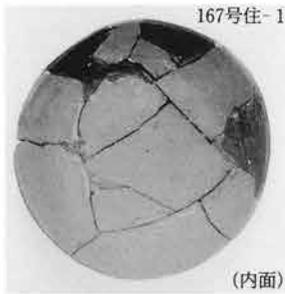
165号住-16



(上面)



(正面) 165号住-17



(内面)



167号住-2



167号住-3



167号住-4



167号住-5



167号住-7



167号住-8



167号住-9



167号住-11



167号住-12



167号住-13



168号住-1



168号住-2



168号住-3



168号住-4



168号住-5



168号住-6



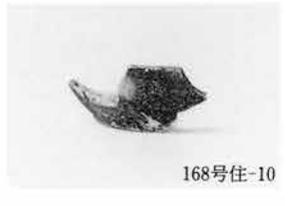
168号住-7



168号住-8



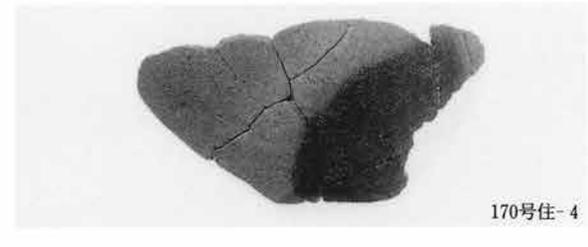
168号住-9



168号住-10



168号住-7



170号住-4



170号住-1



170号住-2



170号住-3



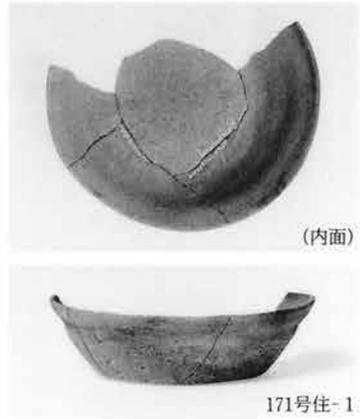
170号住-5



170号住-6



170号住-8



(内面)

171号住-1



170号住-7



171号住-2



171号住-3



172号住-1



172号住-2



(上面)



172号住-4



173号住-1



173号住-2



(正面) 172号住-3



173号住-7



173号住-4



173号住-3



173号住-5



173号住-6



175号住-1



175号住-2



175号住-3



175号住-4



175号住-5



175号住-6



175号住-7



175号住-8



176号住-1



177号住-1





179号住-1



180号住-2



181号住-1



181号住-2



180号住-3



(内面)



181号住-3



181号住-4



181号住-5



183号住-2



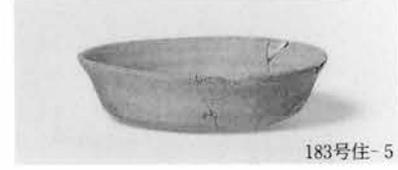
183号住-1



183号住-3



183号住-4



183号住-5



183号住-6



183号住-7



183号住-8



183号住-9



183号住-10



183号住-11



183号住-12



183号住-13



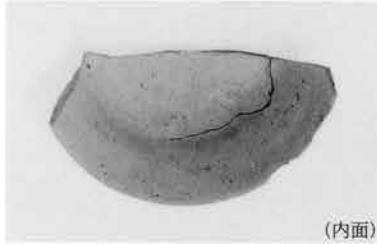
183号住-14



183号住-15

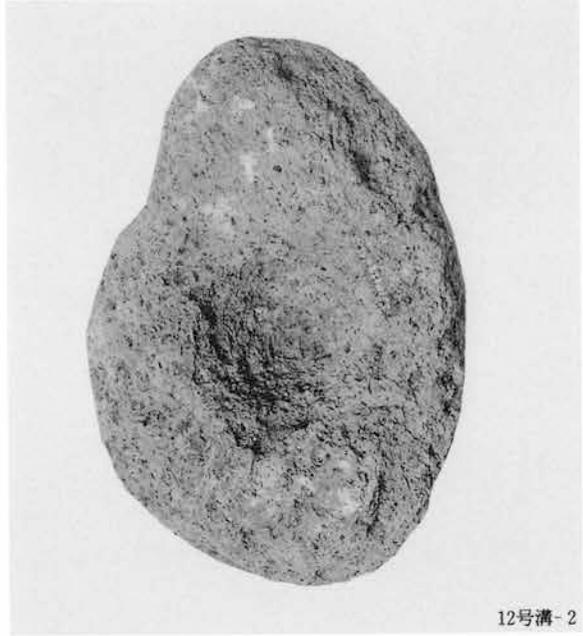


183号住-16





12号溝-1



12号溝-2



(内面)



19号溝-1



21号溝-1



21号溝-2



21号溝-3



32号溝-1



25号溝-1



33号溝-1



33号溝-2



33号溝-3



53号溝-1



54号溝-1



(内面)



55号溝-1



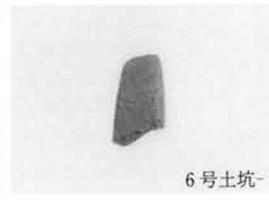
55号溝-3



55号溝-2



3号土坑-1



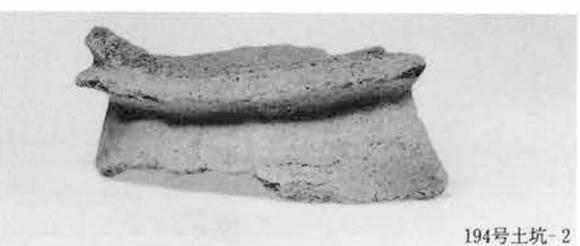
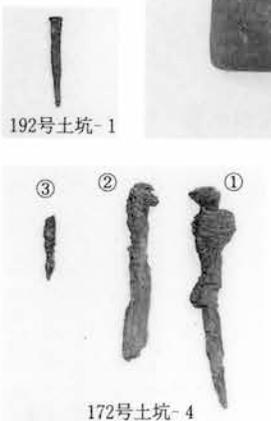
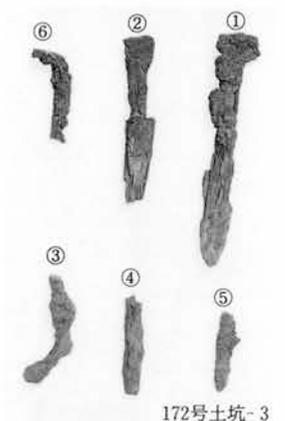
6号土坑-1



7号土坑-1



17号土坑-1





200号土坑-1



(側面)



200号土坑-2



202号土坑-1



202号土坑-2



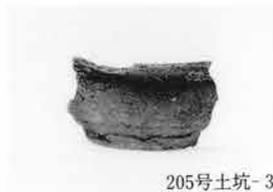
202号土坑-3



205号土坑-1



205号土坑-2



205号土坑-3



248号土坑-1



(左側面)



(表面)



(右側面)



(裏面) 55号溝-4



10号ピット-1



1号井戸-1



145H-00G-1



146H-25G-1



155H-30G-1



(内面)



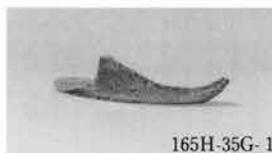
165H-35G-2



165H-40G-2



168H-6G-1



165H-35G-1



165H-30G-1



165H-40G-1

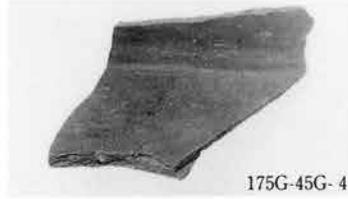




175G-45G-2



175G-45G-3



175G-45G-4



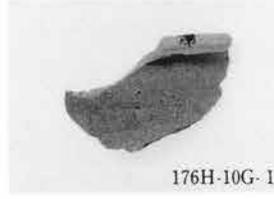
180H-25G-3



175G-45G-5



175G-45G-7



176H-10G-1



179H-30G-1



179H-32G-1



179-180H-34G-1



180H-25G-2



180H-29G-1



181H-37G-1



185H-00G-1



185H-00G-2



185H-00G-3



185H-00G-4



185H-00G-5



185H-00G-6



185H-00G-7



185H-00G-8



(内面)

185H-00G-9



185H-05G-1



185H-20G-1



185H-00G-10



185H-00G-11



185H-20G-2



185H-20G-3



185H-25G-1



185H-25G-2



185H-30G-1



185H-35G-1



185H-35G-10



185H-35G-11



187H-22G-1



185H-35G-12



190H-25G-2



(内面)



190H-25G-1



190H-33G-1



190H-35G-1



195H-20G-1



(内面)



195H-20G-3



195H-20G-10



195H-20G-11



195H-20G-2



195H-20G-9



195H-20G-12



195H-20G-13



195H-20G-15



195H-20G-16



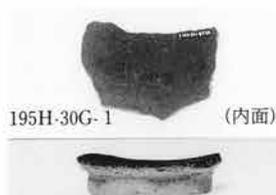
(内面)



195H-20G-17



195H-20G-18



195H-30G-1 (内面)



195H-35G-1



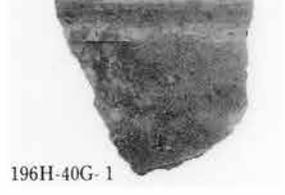
195H-20G-14



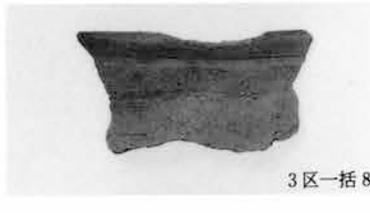
197H-35G-1



195H-26G-1



196H-40G-1





(内面)



3区一括12



3区一括13



3区一括14



3区一括15



3区一括2



3区一括16



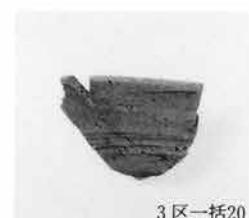
3区一括17



3区一括18



3区一括19



3区一括20



3区一括23



3区一括21



3区一括22



3区一括25



3区一括26



3区一括24



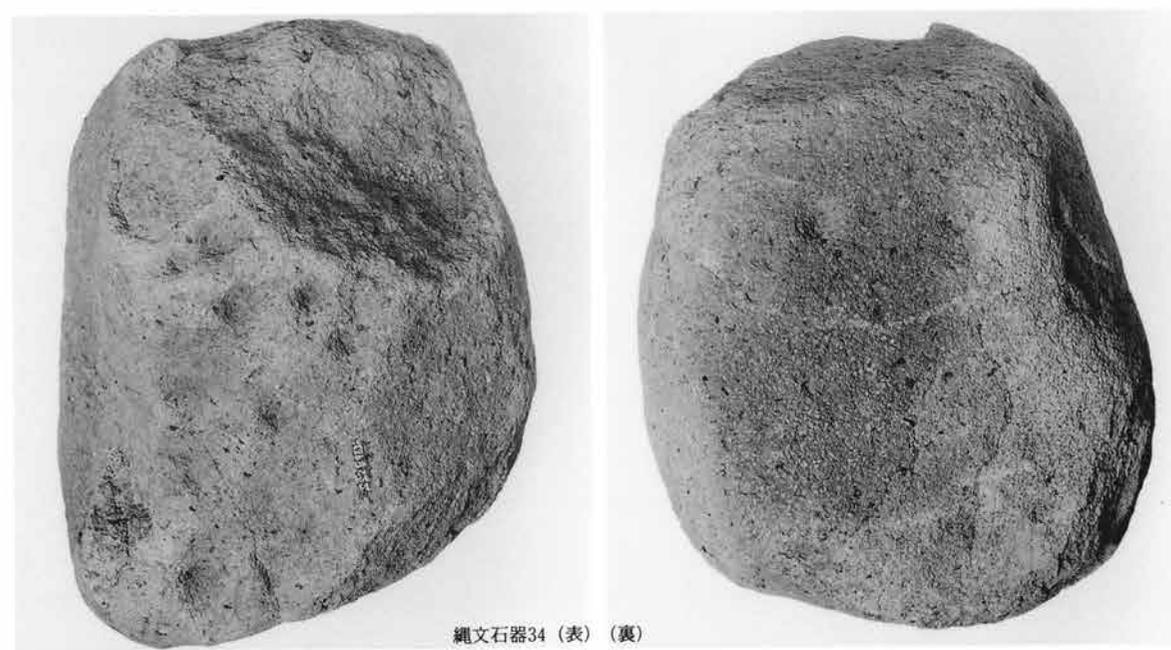
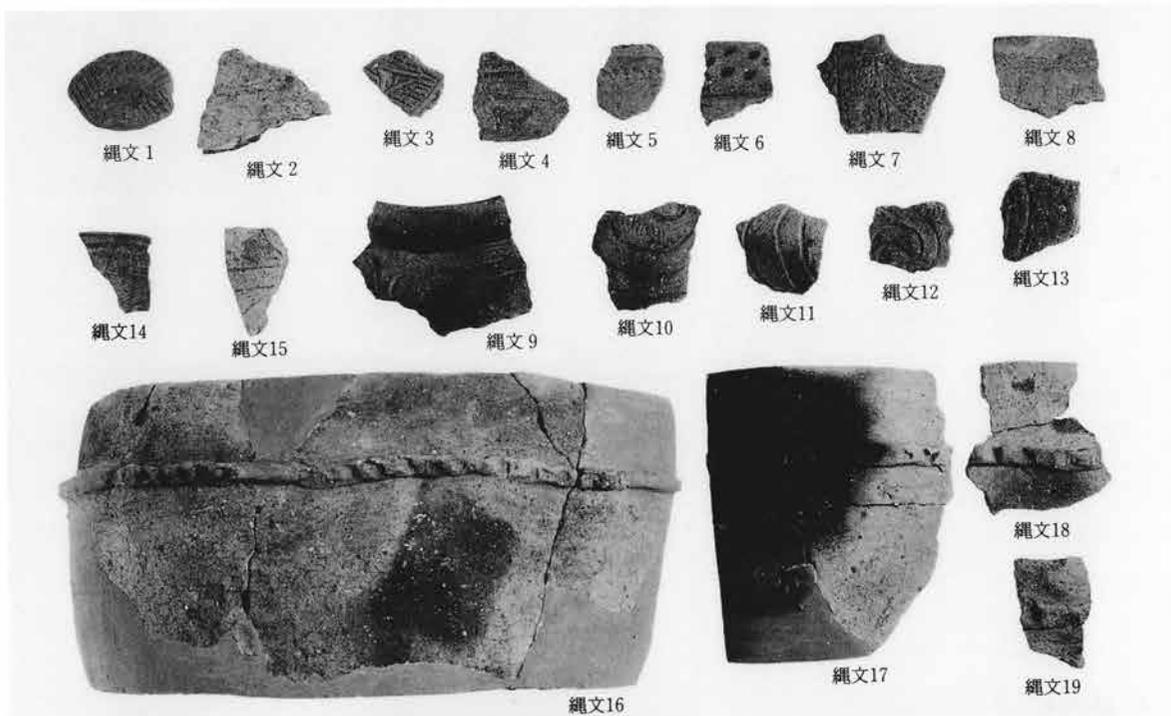
3区一括27

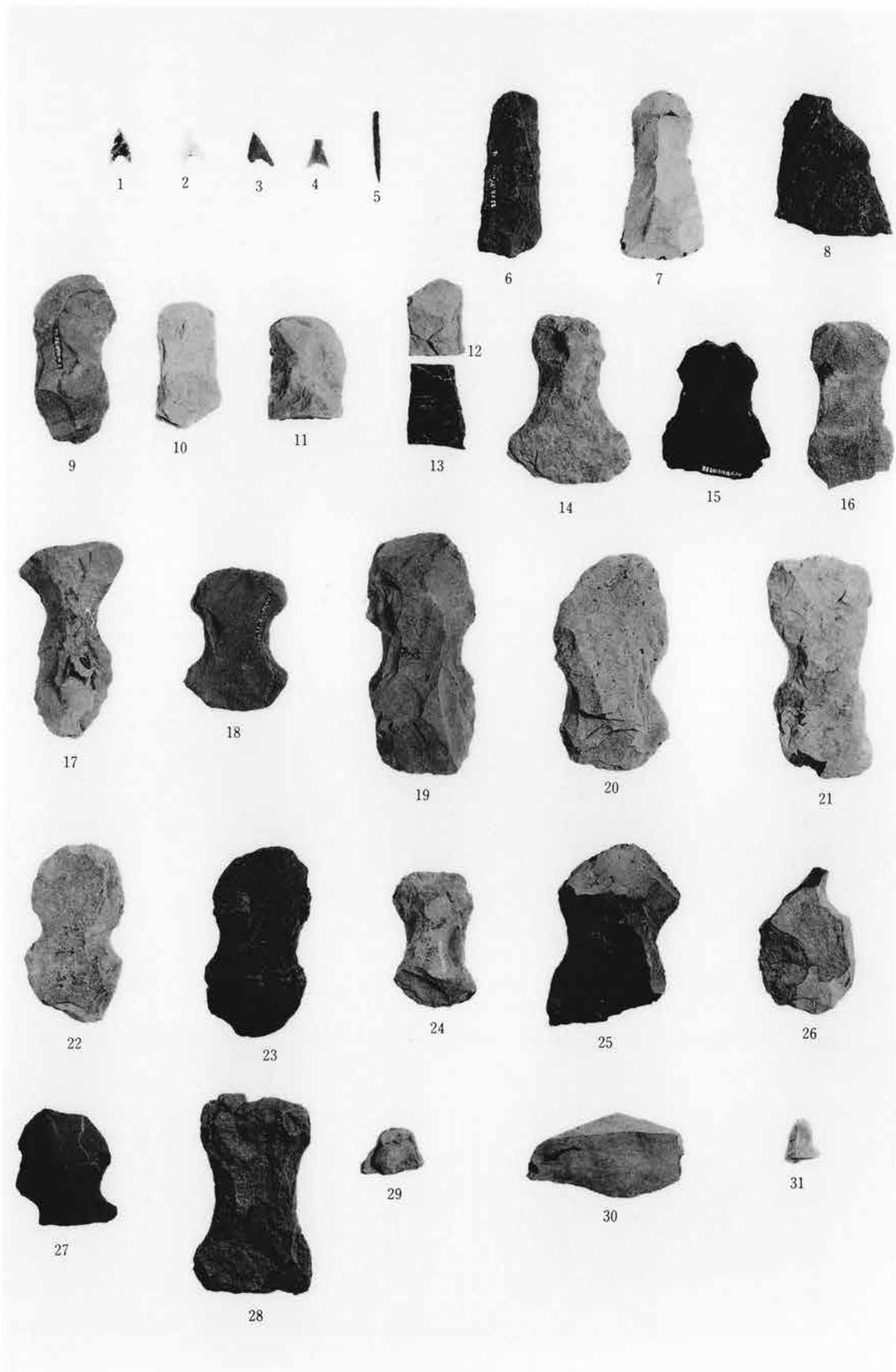


3区一括28

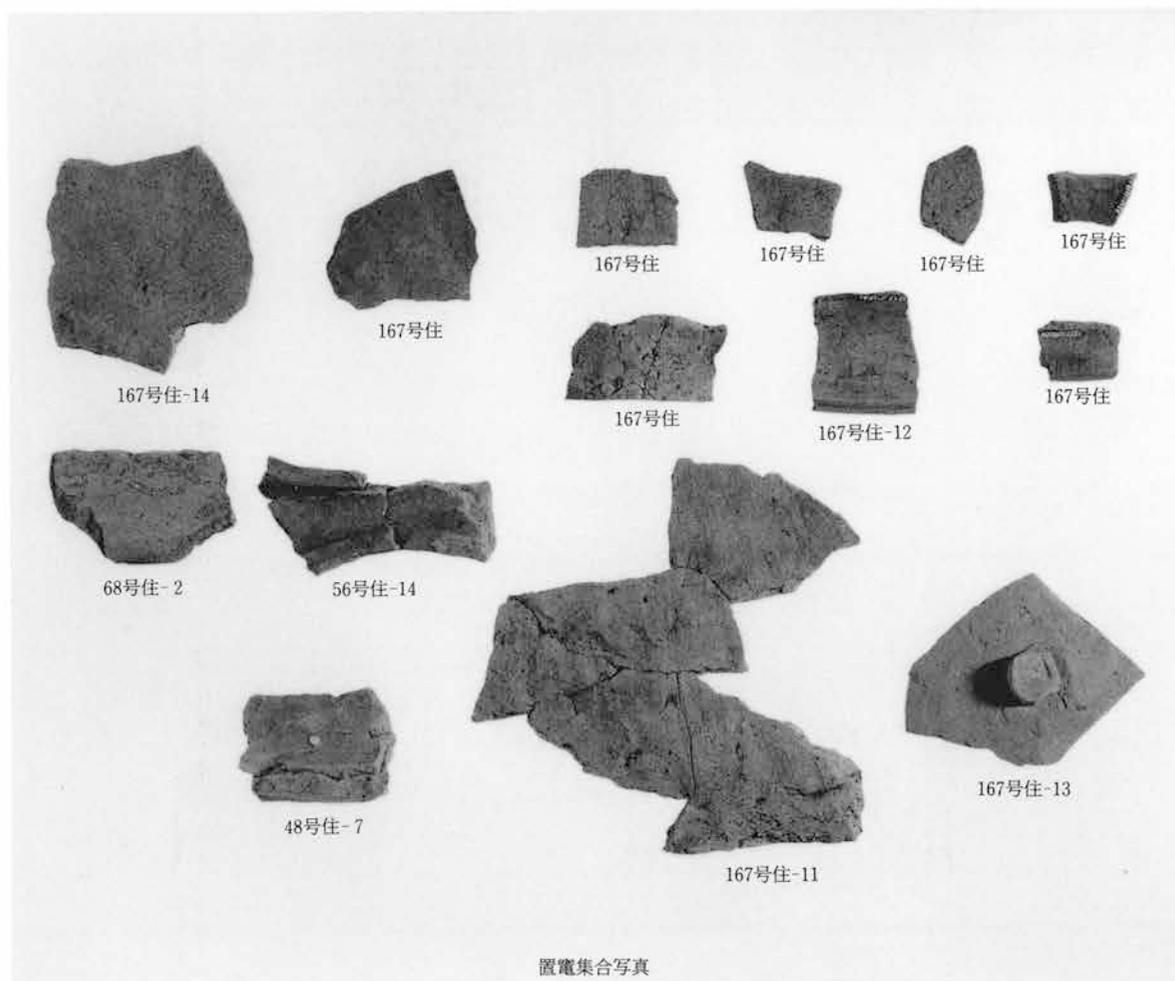
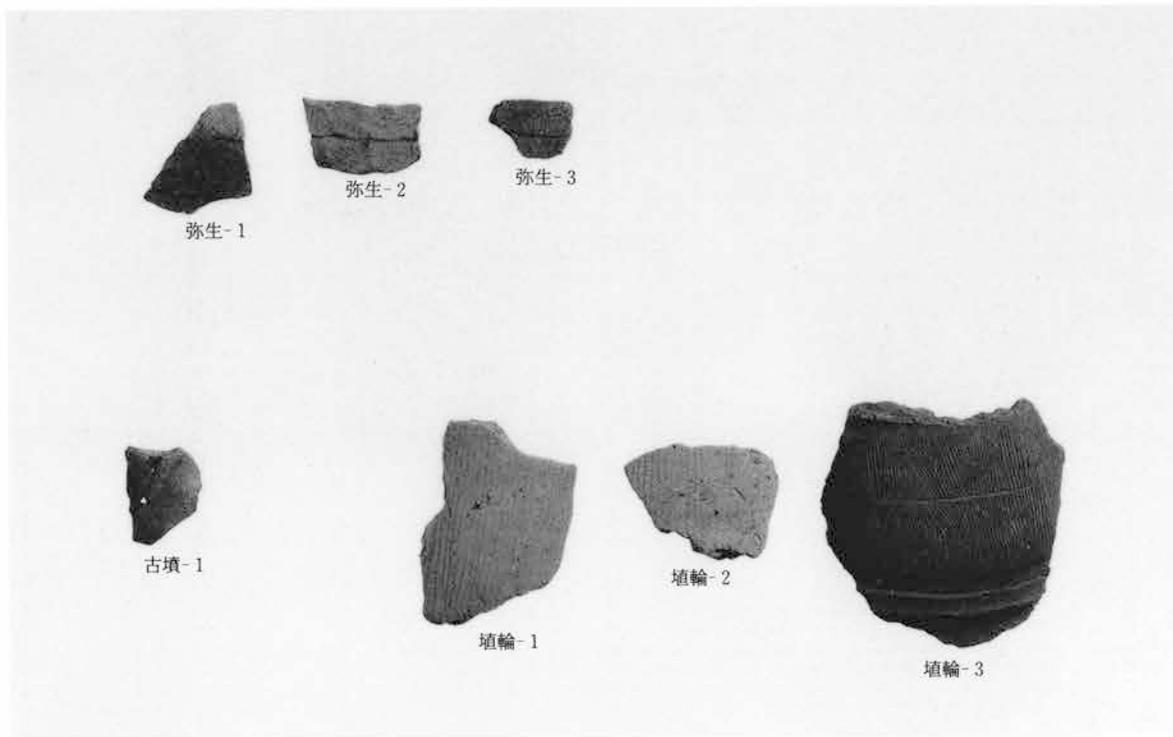


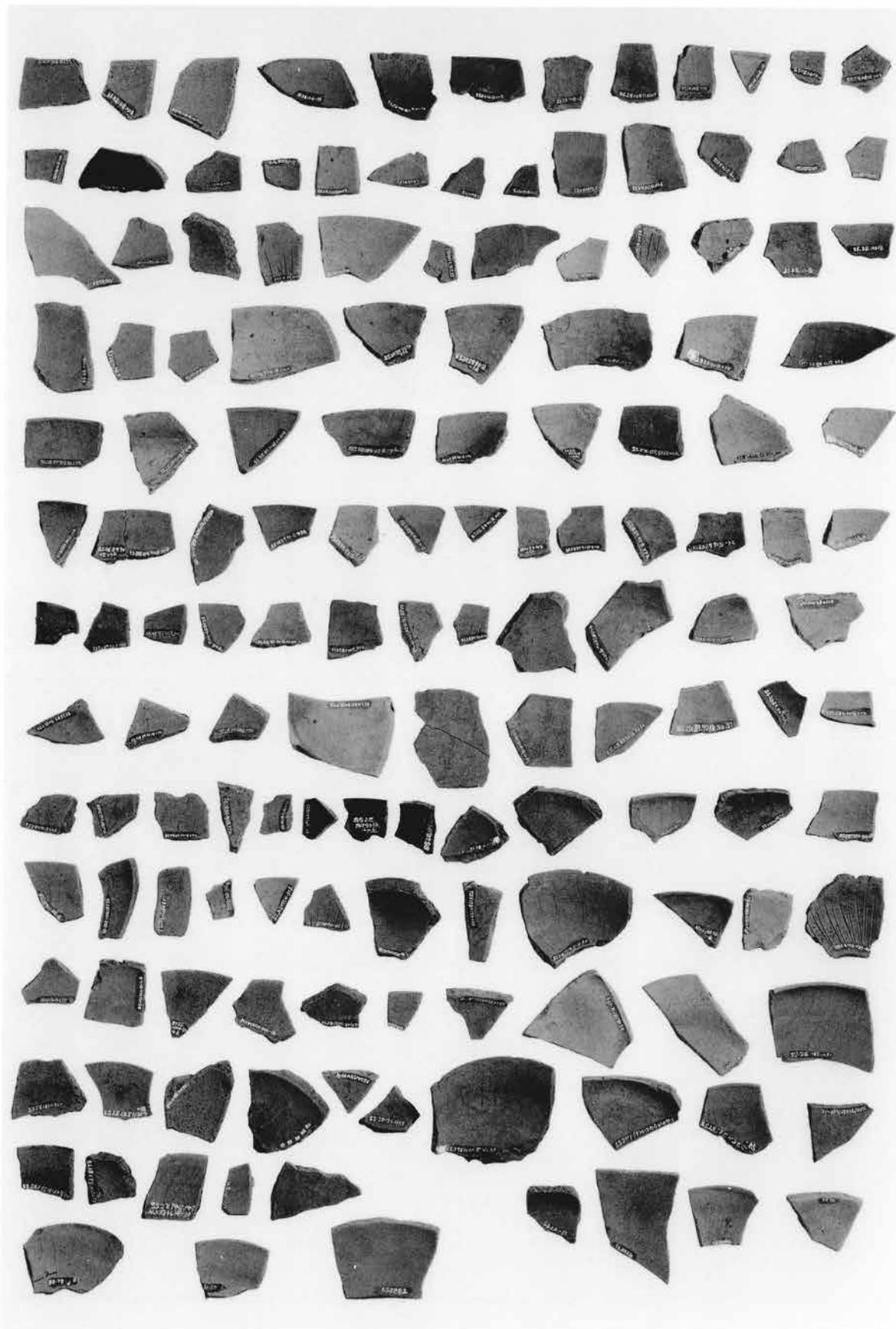
不明



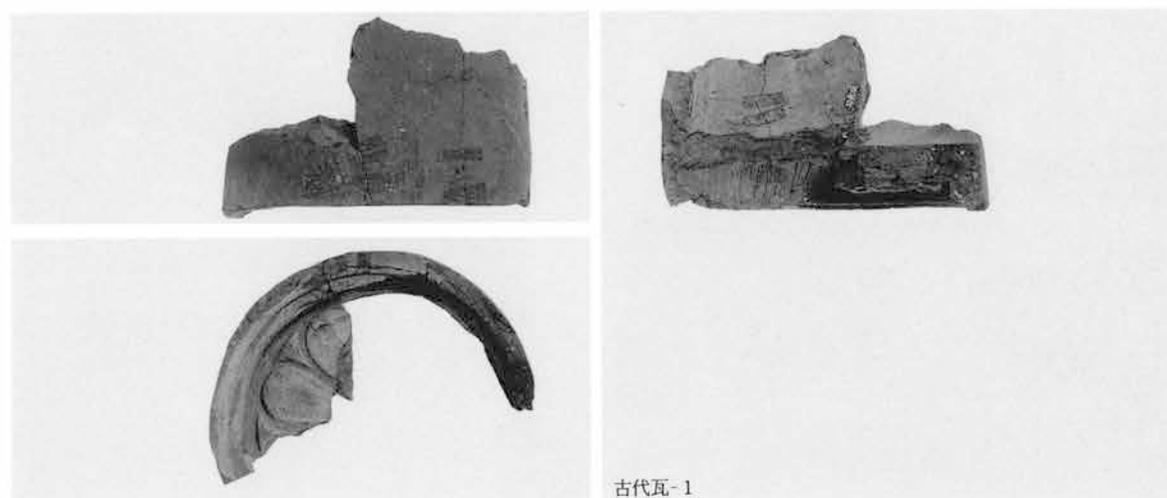
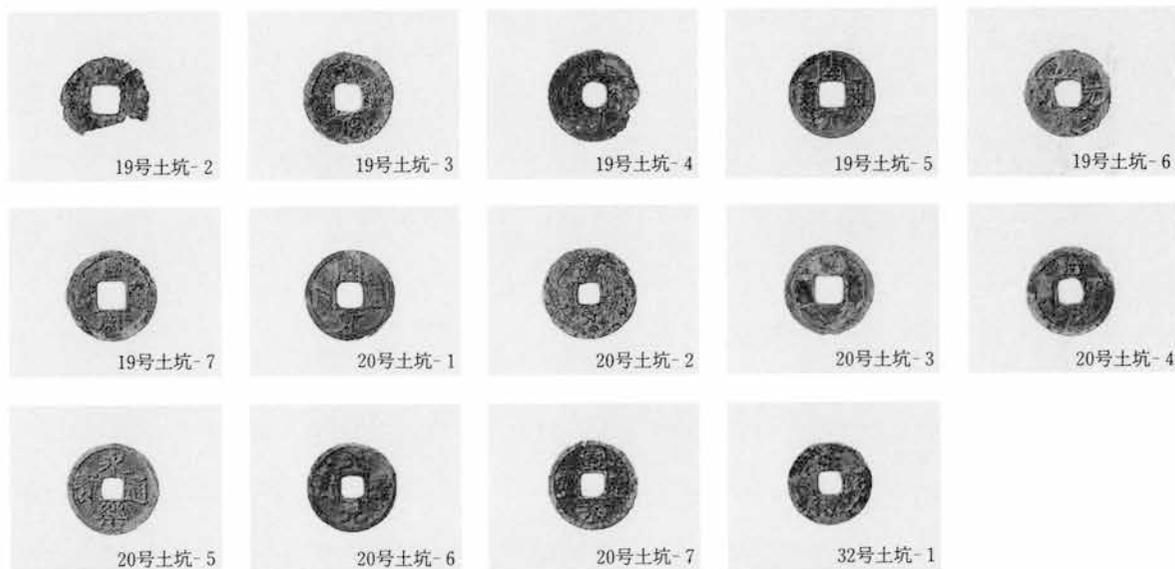
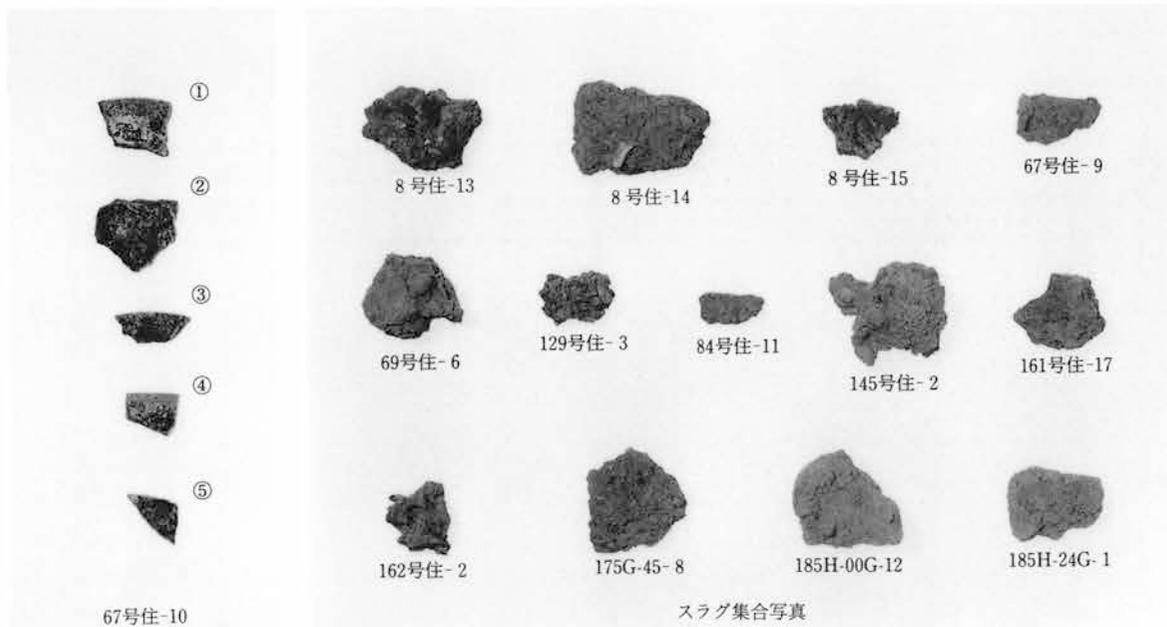


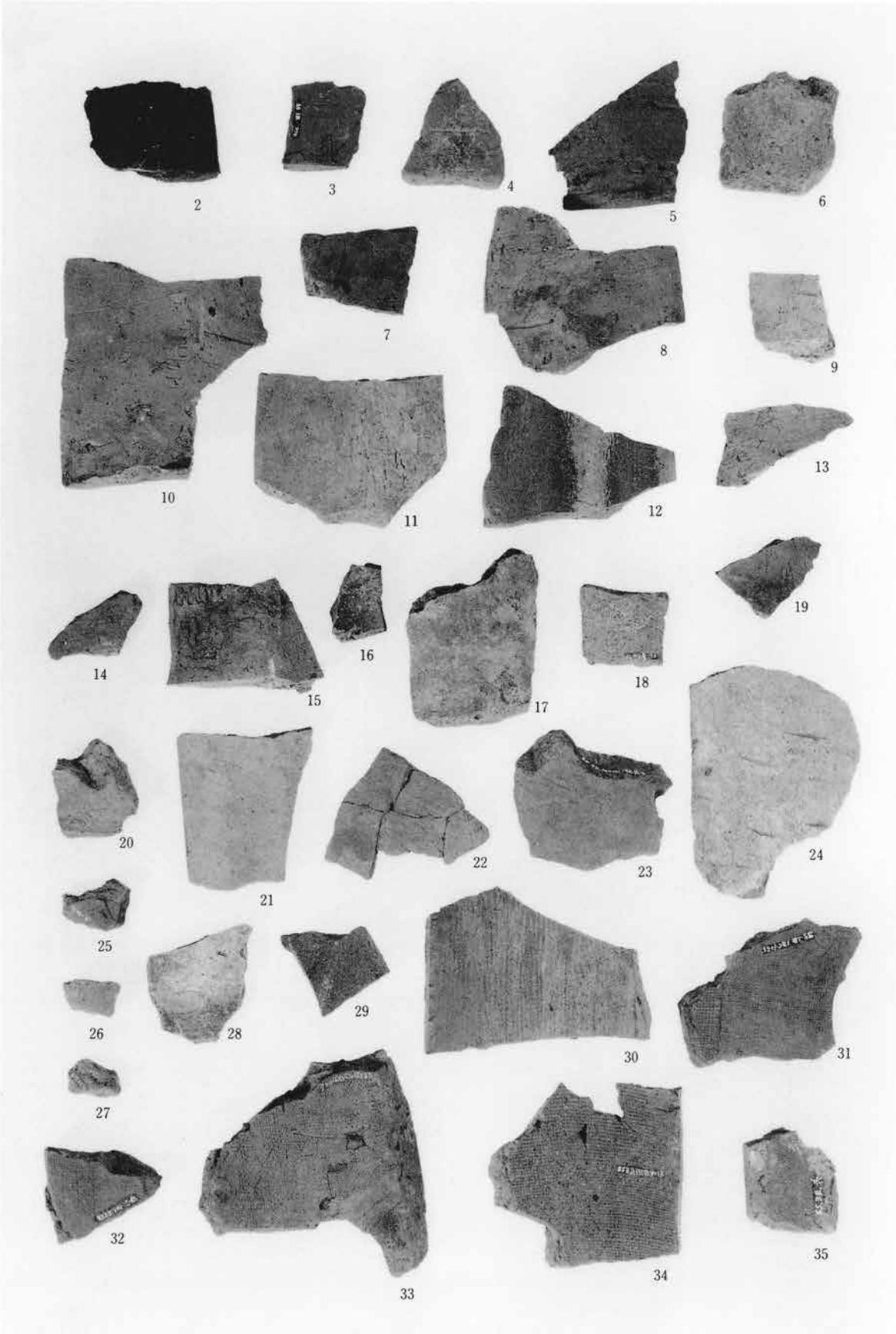
縄文石器集合写真 1~31



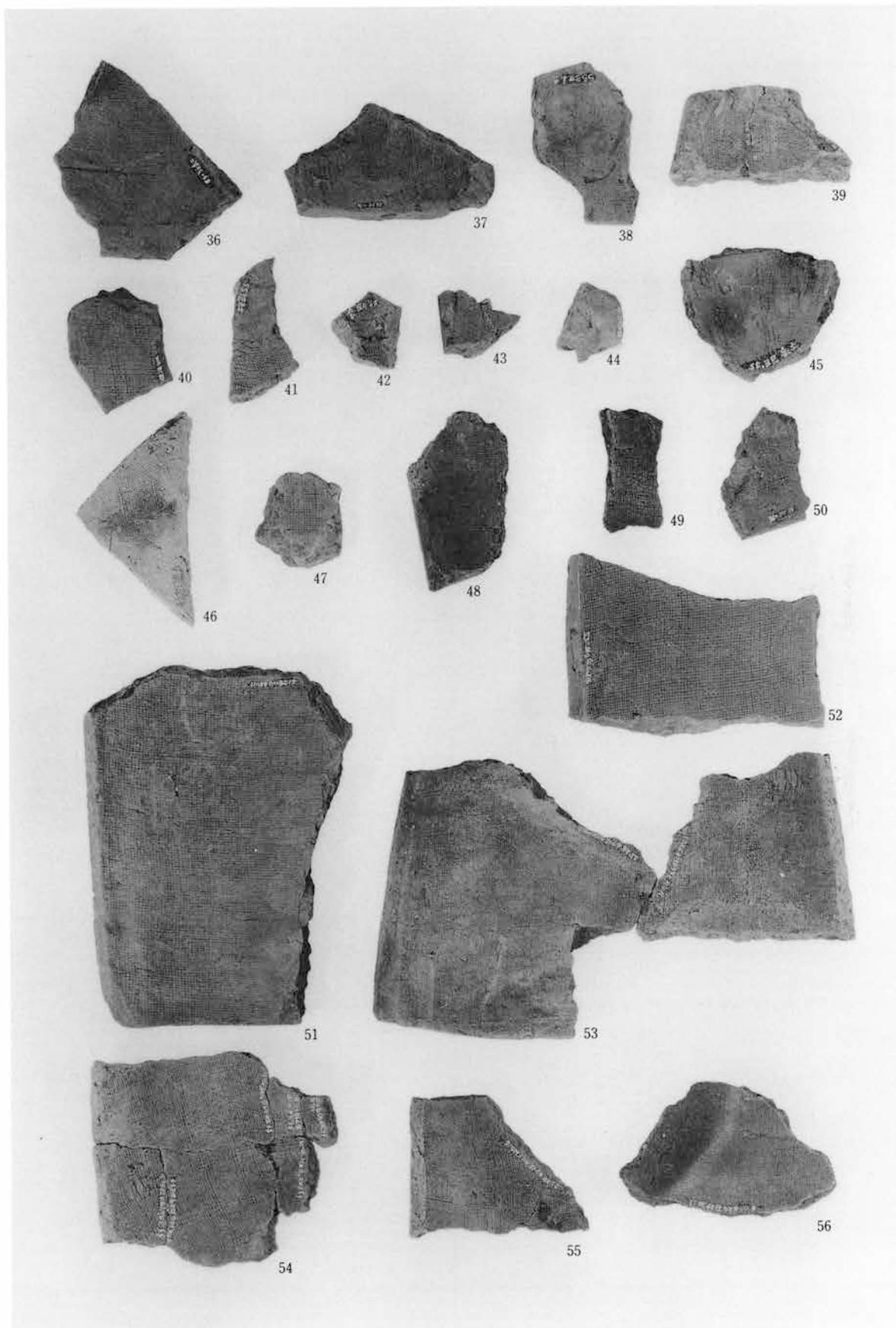


出土暗文破片集合写真

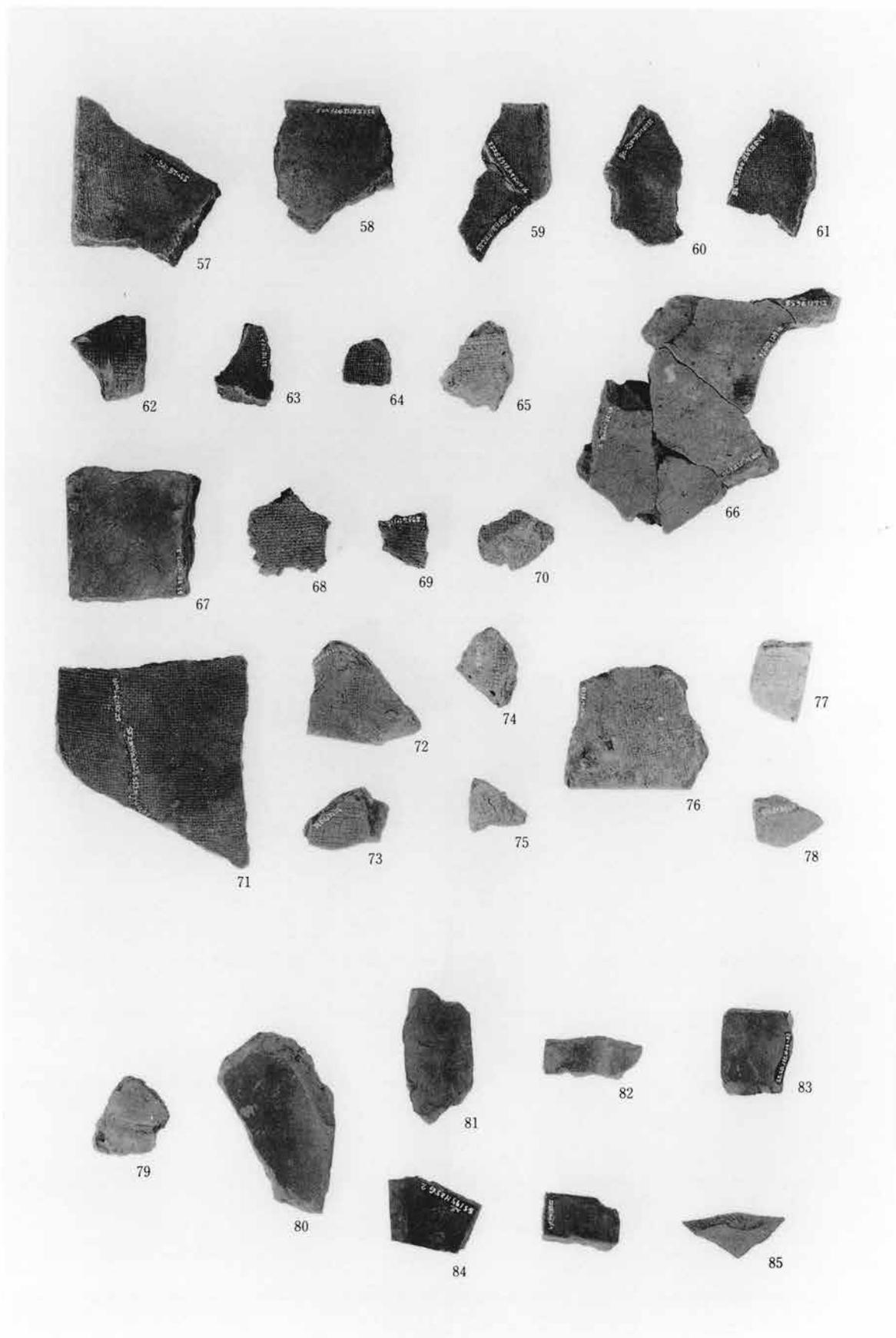




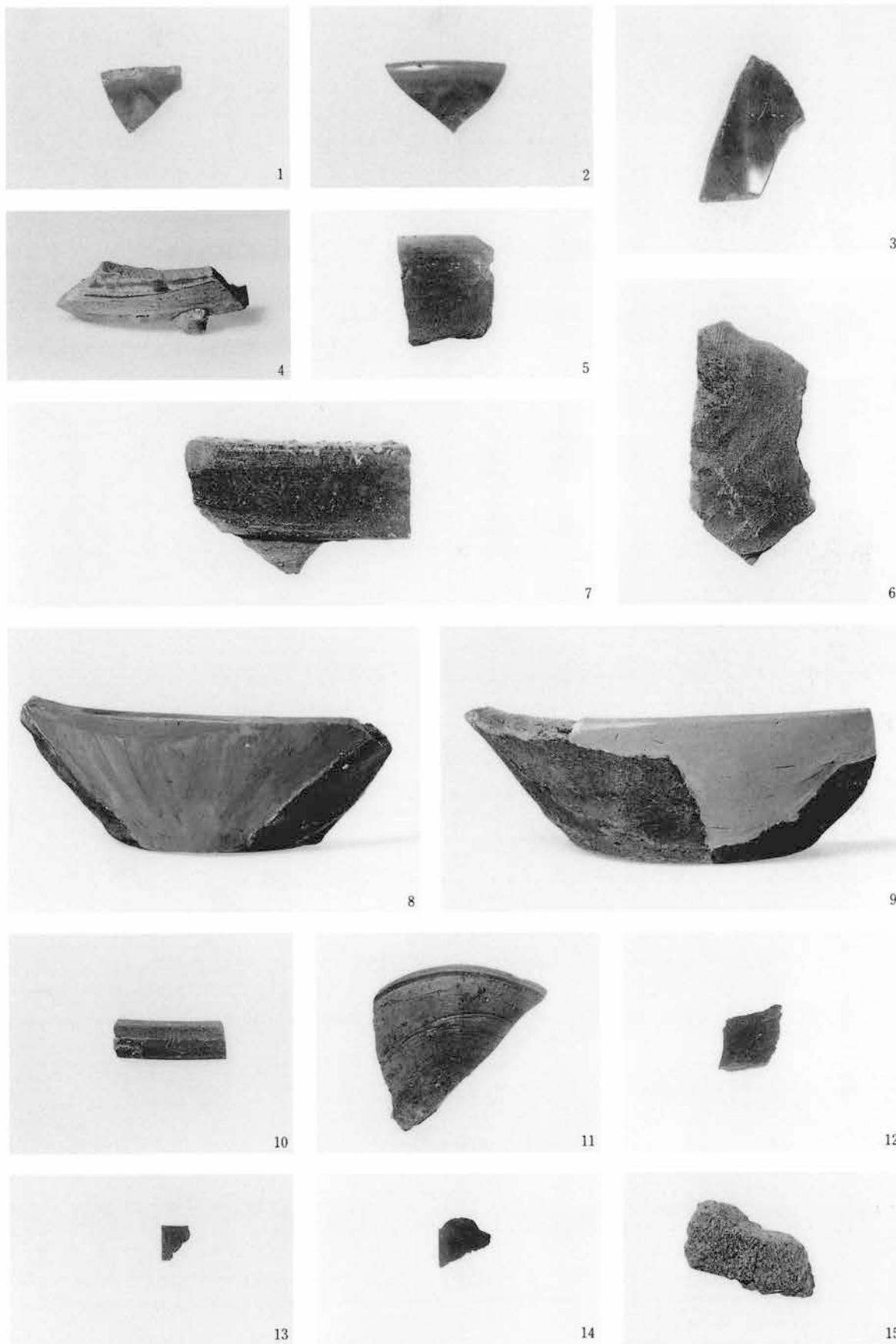
古代瓦集合写真 2～35



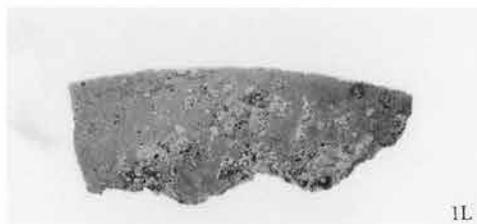
古代瓦集合写真36~56



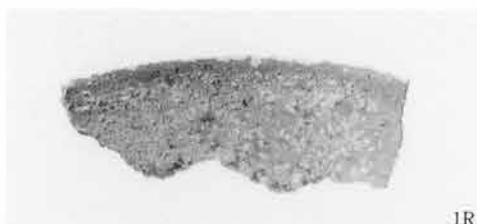
古代瓦集合写真57~85



中世近世遺物写真 1~15



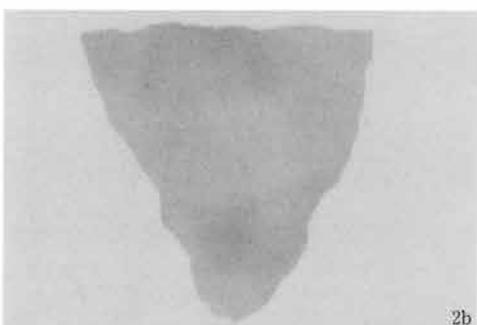
1L



1R



2a



2b



3a



3b



4L



4R



5L



5R



6L



6R

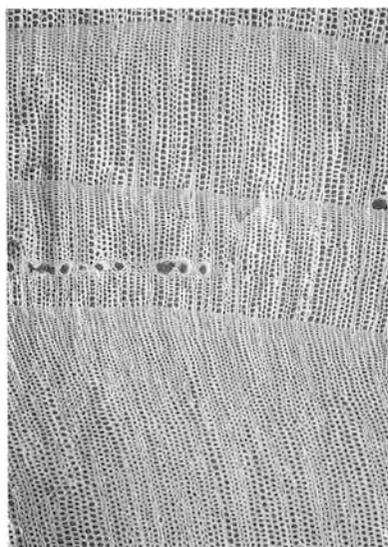


7L

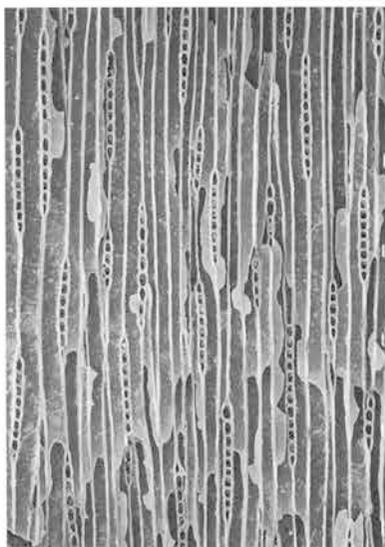


7R

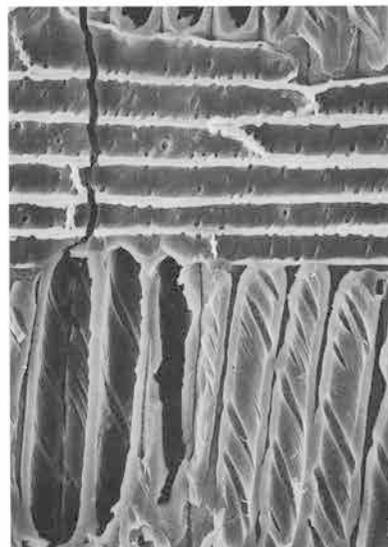
- 1L 下東西清水上遺跡銅碗表面
- 1R 下東西清水上遺跡銅碗内面
- 2a 有馬遺跡出土銅碗表面状態
- 2b 同 X線ジオグラフィー
- 3a 荒砥洗橋遺跡出土銅碗表面状態
- 3b 同 X線ジオグラフィー
- 4L 鳥羽遺跡出土銅碗表面
- 4R 鳥羽遺跡出土銅碗内面
- 5L 融通寺遺跡出土銅碗表面
- 5R 融通寺遺跡出土銅碗内面
- 6L 白倉下原遺跡出土銅碗表面
- 6R 白倉下原遺跡出土銅碗内面
- 7L 国分境遺跡出土銅碗表面
- 7R 国分境遺跡出土銅碗内面



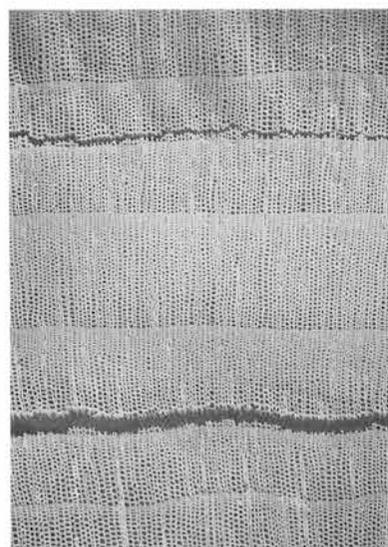
1a.モミ属 (横断面)
51号住 No.12 bar : 0.5mm



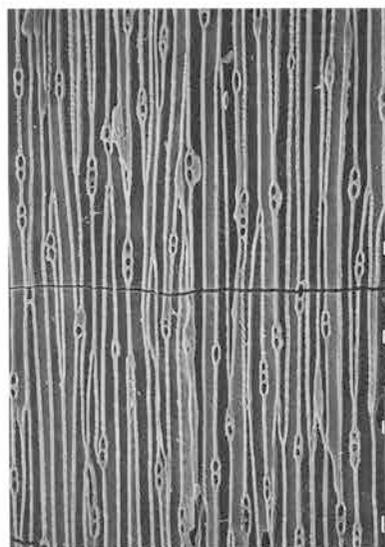
1b.同 (接線断面) bar : 0.1mm



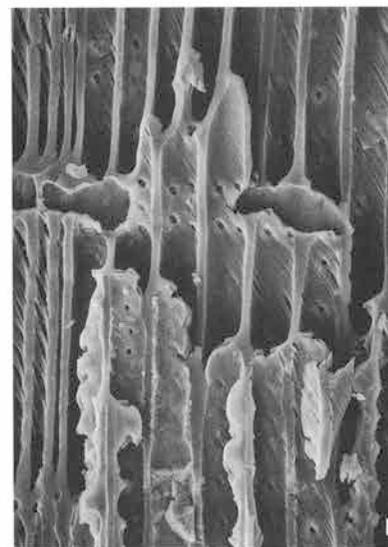
1c.同 (放射断面) bar : 0.05mm



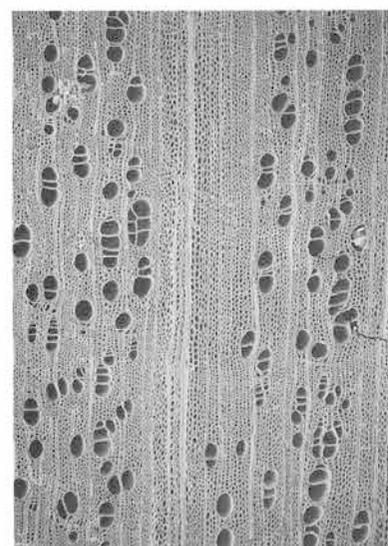
2a.ヒノキ科 (横断面)
51号住 No.18 bar : 0.5mm



2b.同 (接線断面) bar : 0.1mm



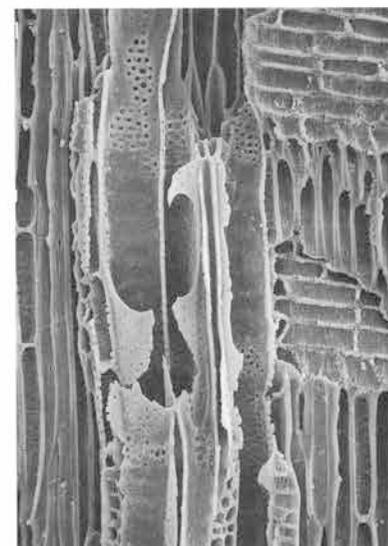
2c.同 (放射断面) bar : 0.05mm



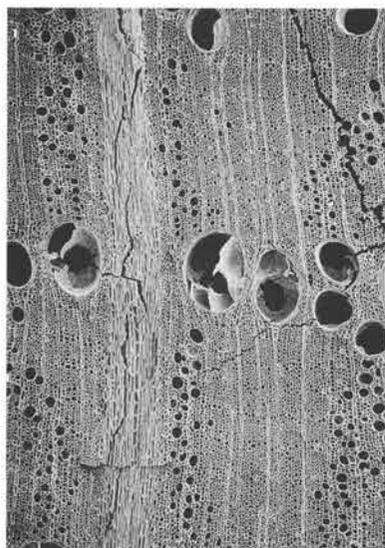
3a.イヌシデ節 (横断面)
51号住 No.13 bar : 0.5mm



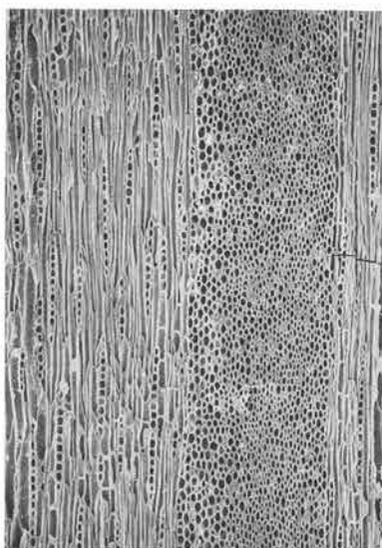
3b.同 (接線断面) bar : 0.1mm



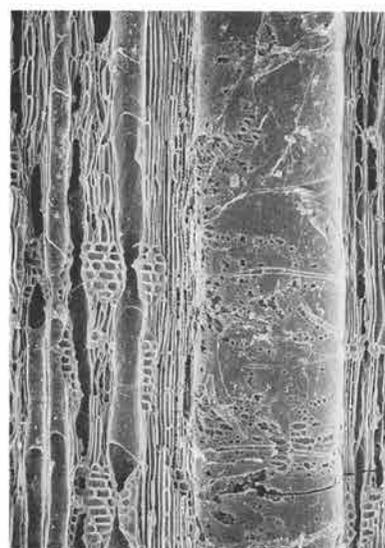
3c.同 (放射断面) bar : 0.1mm



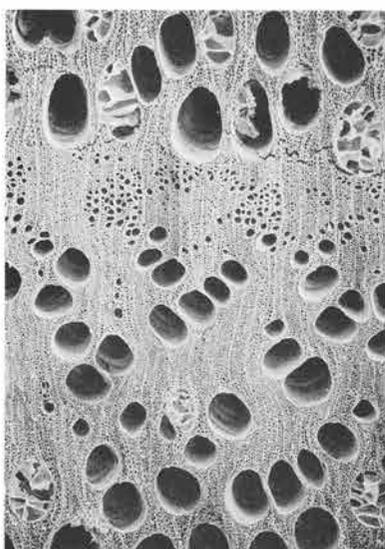
4a.コナラ節 (横断面)
51号住 No.10 bar : 0.5mm



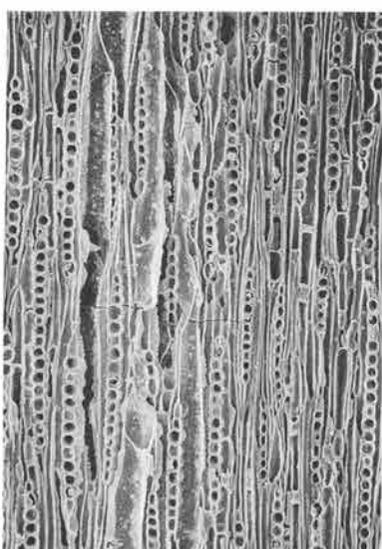
4b.同 (接線断面) bar : 0.1mm



4c.同 (放射断面) bar : 0.1mm



5a.クリ (横断面)
51号住 No.15 bar : 1.0mm



5b.同 (接線断面) bar : 0.1mm



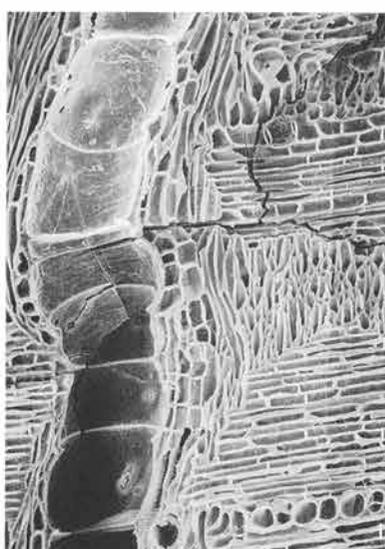
5c.同 (放射断面) bar : 0.1mm



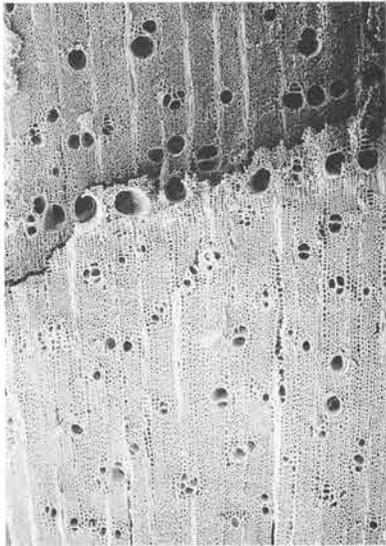
6a.ケヤキ (横断面)
56号住 No.29 bar : 0.5mm



6b.同 (接線断面) bar : 0.1mm



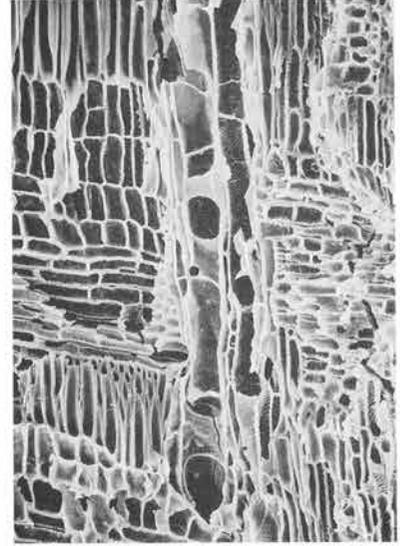
6c.同 (放射断面) bar : 0.1mm



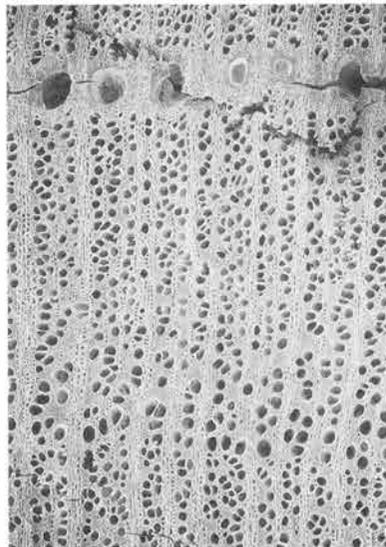
7a.ヤマグチ (横断面)
56号住 No.27 bar : 0.5mm



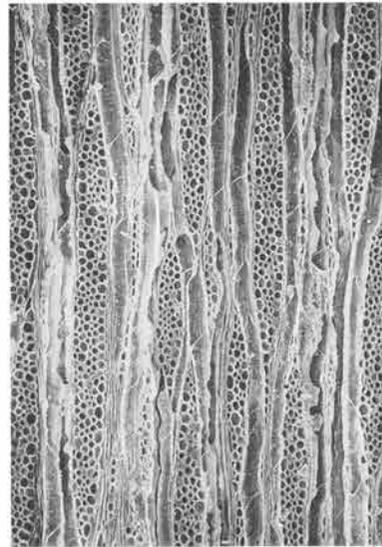
7b.同 (接線断面) bar : 0.1mm



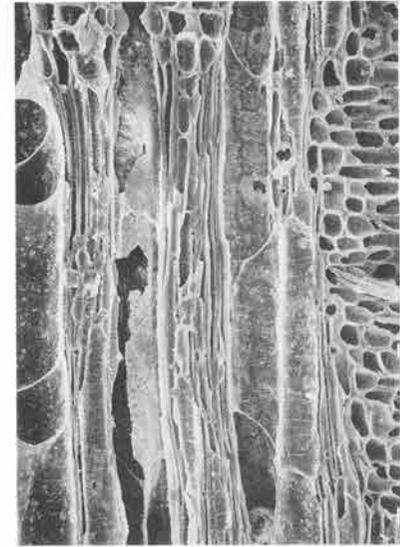
7c.同 (放射断面) bar : 0.1mm



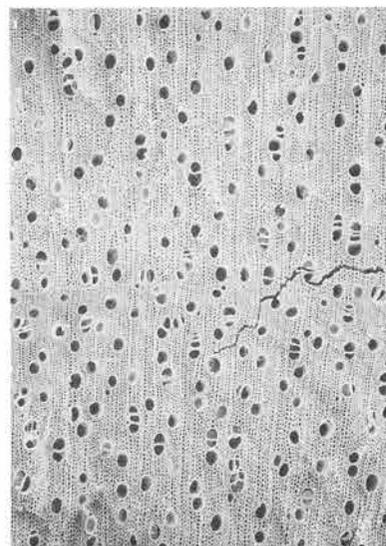
8a.サクラ属 (横断面)
56号住 No.36 bar : 0.5mm



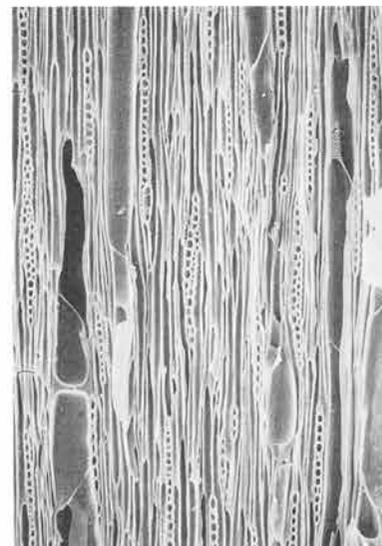
8b.同 (接線断面) bar : 0.1mm



8c.同 (放射断面) bar : 0.1mm



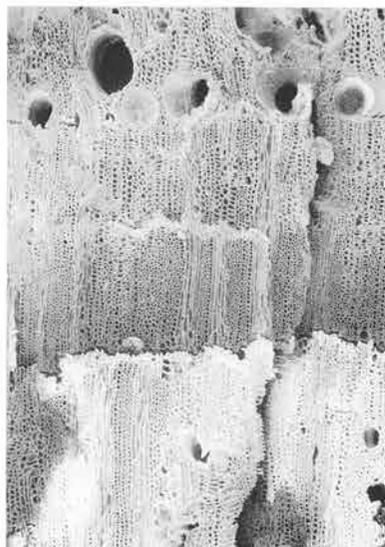
9a.カエデ属 (横断面)
13号住 No.78 bar : 0.5mm



9b.同 (接線断面) bar : 0.1mm



9c.同 (放射断面) bar : 0.1mm



10a. トネリコ属 (横断面)
13号住 No.82 bar : 0.5mm



10b. 同 (接線断面) bar : 0.1mm



10c. 同 (放射断面) bar : 0.1mm

群馬県埋蔵文化財調査事業団
調査報告第239集

下東西清水上遺跡

平成10年3月20日 印刷
平成10年3月25日 発行

編集・発行／群馬県埋蔵文化財調査事業団
勢多郡北橋村大字下箱田784-2
電話 (0279) 52-2511(代表)

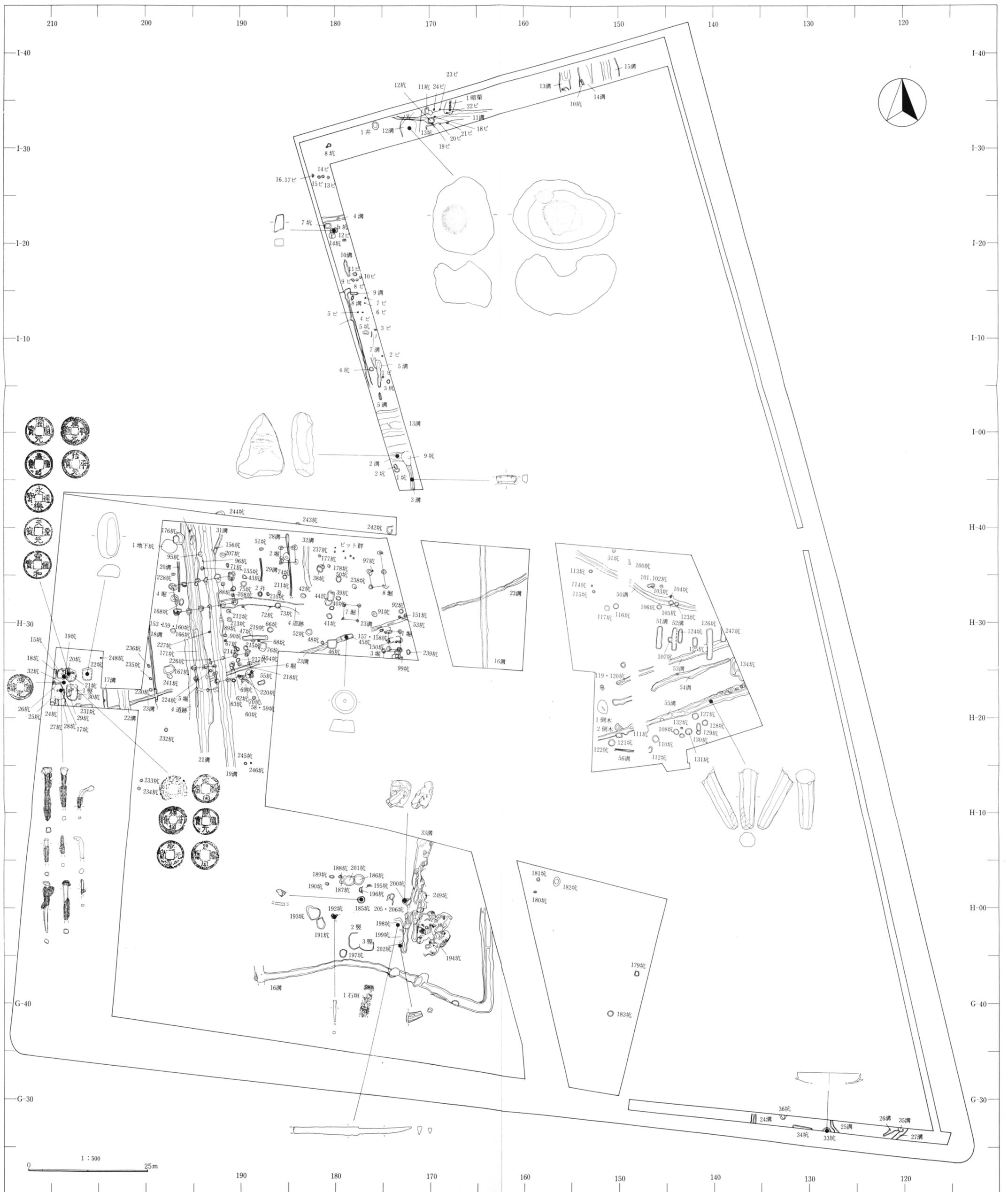
印刷／朝日印刷工業株式会社



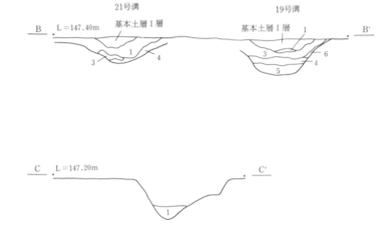
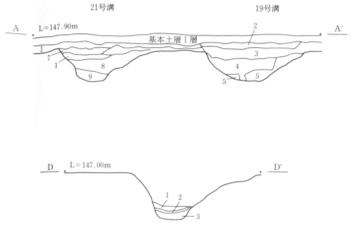
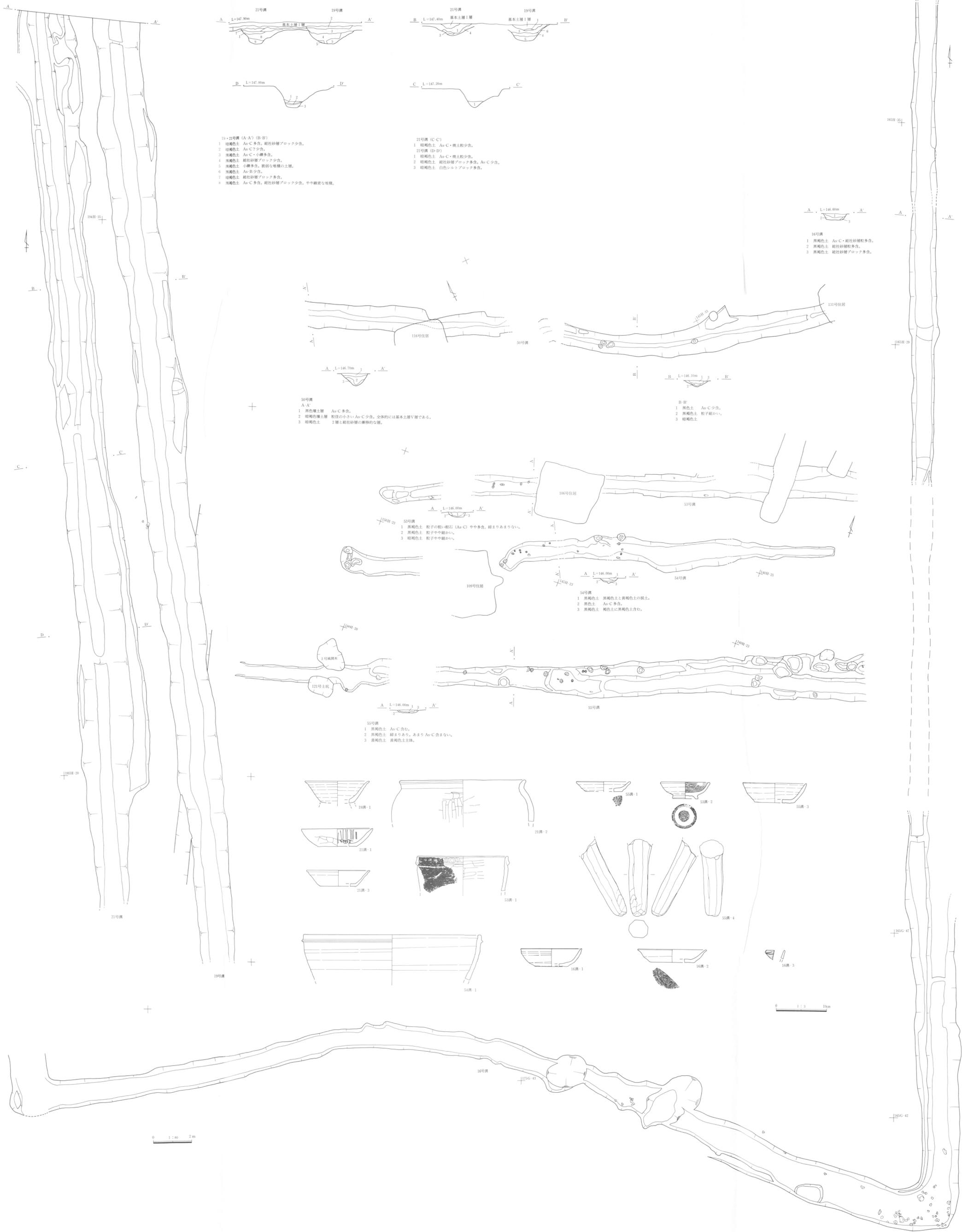
附図1 下東西清水上遺跡全体図



附図2 下東西清水上遺跡遺構・特殊遺物分布図（その1：竪穴住居）



附図3 下東西清水上遺跡遺構・特殊遺物分布図（その2：溝、土坑、その他）

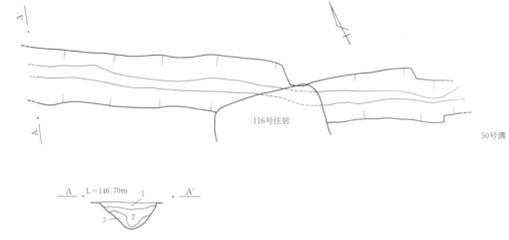


- 19・21号溝 (A-A') (B-B')
- 1 暗褐色土 As-C多量。総土砂層ブロック多量。
 - 2 暗褐色土 As-C少量。
 - 3 暗褐色土 As-C・小礫多量。
 - 4 暗褐色土 総土砂層ブロック多量。
 - 5 暗褐色土 小礫多量。散在な堆積の土層。
 - 6 暗褐色土 As-B少量。
 - 7 暗褐色土 総土砂層ブロック多量。
 - 8 暗褐色土 As-C多量。総土砂層ブロック少量。やや緻密な堆積。

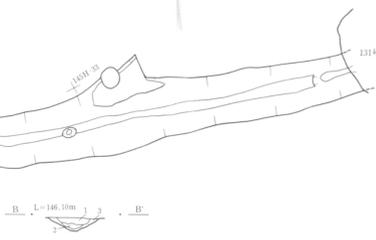
- 21号溝 (C-C')
- 1 暗褐色土 As-C・塵土粒少量。
- 21号溝 (D-D')
- 1 暗褐色土 As-C・塵土粒少量。
 - 2 暗褐色土 総土砂層ブロック多量。As-C少量。
 - 3 暗褐色土 白色シルトブロック多量。



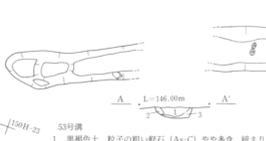
- 16号溝
- 1 暗褐色土 As-C・総土砂層粒多量。
 - 2 暗褐色土 総土砂層粒多量。
 - 3 暗褐色土 総土砂層ブロック多量。



- 50号溝 A-A'
- 1 黒色壤土層 As-C多量。
 - 2 暗褐色壤土層 粒径の小さいAs-C少量。全体的には基本土層V層である。
 - 3 暗褐色土 2層と総土砂層の漸移的な層。



- B-B'
- 1 黒色土 As-C少量。
 - 2 暗褐色土 粒子細かい。
 - 3 暗褐色土



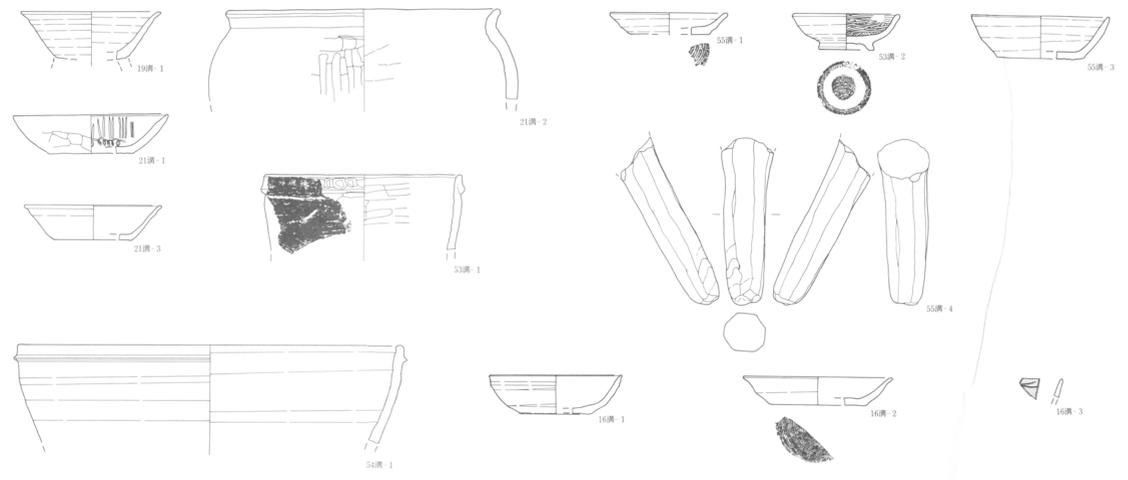
- 53号溝
- 1 暗褐色土 粒子の粗い軽石 (As-C) やや多量。締まりあまりない。
 - 2 暗褐色土 粒子やや細かい。
 - 3 暗褐色土 粒子やや細かい。



- 54号溝
- 1 暗褐色土 黄褐色土と黄褐色土の硬土。
 - 2 黒色土 As-C多量。
 - 3 暗褐色土 褐色土に黒褐色土含む。



- 55号溝
- 1 暗褐色土 As-C含む。
 - 2 暗褐色土 締まりあり。あまりAs-C含まない。
 - 3 黄褐色土 黄褐色土主体。



附图4 16・19・21・50・53~55号溝 (第255図)